

仙台市  
子どもの生活に関する実態調査  
調査結果報告書

令和4年3月

仙台市子供未来局子供育成部子供家庭支援課





# 目 次

<b>I</b>	<b>本調査の概要</b>	<b>1</b>
1	統計データの整理・比較分析	1
2	アンケート調査	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査期間	1
(3)	調査対象・調査方法	1
(4)	選定方法	2
(5)	回収状況	2
(6)	調査結果の表示方法	3
3	支援者ヒアリング調査	4
(1)	調査の目的	4
(2)	調査対象	4
(3)	調査期間	4
(4)	調査項目	4
<b>II</b>	<b>調査結果（概要）</b>	<b>5</b>
1	保護者の生活状況	5
(1)	世帯状況	5
(2)	世帯全体の年間総収入	6
(3)	現在の暮らし状況	8
(4)	食料／衣服／公共料金	9
(5)	学歴と収入水準	11
(6)	働いていない理由	13
(7)	子どもとの関わり方／学校との関わり	14
(8)	子どもの進学希望・展望	17
(9)	子どもの不登校経験	19
(10)	頼れる人（相談相手）	19
(11)	新型コロナウイルス感染症の影響（暮らしの変化）	20
(12)	支援の利用状況等	21
(13)	子どもの家族の世話の状況	21
2	子ども調査	23
(1)	学校の授業以外での勉強状況	23
(2)	成績状況	24
(3)	進学希望・展望	25
(4)	食事状況	25
(5)	就寝時間	27

(6) 放課後の過ごし方 .....	28
(7) 相談相手 .....	29
(8) 生活満足度 .....	30
(9) 新型コロナウイルス感染症の影響 .....	31
(10) 支援の利用状況等 .....	31
(11) 家族の世話の状況 .....	33
<b>Ⅲ 支援者ヒアリング調査結果（概要） .....</b>	<b>34</b>
<b>Ⅳ 調査結果 .....</b>	<b>36</b>
1 保護者調査 .....	36
2 子ども調査 .....	154
<b>Ⅴ 支援者ヒアリング調査結果 .....</b>	<b>208</b>
1 民生委員児童委員 .....	208
2 弁護士 .....	210
3 仙台市 母子家庭相談支援センター .....	212
4 認定特定非営利活動法人キッズドア .....	214
5 特定非営利活動法人FORYOUにこにこの家 .....	216
6 社会福祉法人仙台市社会事業協会 仙台つばさ荘 .....	219
7 仙台市 スクールソーシャルワーカー .....	221
8 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家乳幼児ホーム .....	224
9 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家子どもホーム .....	226
10 仙台市 児童相談所 .....	228
11 認定特定非営利活動法人 STORIA .....	230
12 仙台市 高校教育課 .....	233
13 仙台市 スクールカウンセラー .....	235
14 市立保育所 .....	238
15 仙台市 区役所保護課 .....	240
16 仙台市 区役所家庭健康課 .....	242
<b>Ⅵ 統計データの整理・比較分析結果 .....</b>	<b>245</b>
1 年少人口等の推移 .....	245
2 生活保護世帯数の推移 .....	246
(1) 生活保護被保護人員 .....	246
(2) 生活保護世帯における子どもの進学状況 .....	247
3 ひとり親世帯 .....	248
(1) ひとり親世帯数 .....	248
(2) ひとり親世帯年収 .....	249
(3) ひとり親世帯就業形態 .....	250

(4) ひとり親世帯に対する各種支援（本市事業実績） .....	250
4 児童養護施設入所児童等 .....	252
(1) 児童養護施設等入所委託児童数の推移 .....	252
(2) 児童養護施設の子どもの進路の状況 .....	252
5 就学支援等 .....	253
(1) 要保護児童生徒数・準要保護児童生徒数 .....	253
(2) 児童生徒の就学・学習支援状況（本市事業実績） .....	254
(3) スクールソーシャルワーカーの配置状況等 .....	255
(4) スクールカウンセラーの配置状況等 .....	255
6 子どもの貧困 .....	256
(1) 子どもの貧困率 .....	256
(2) 子どもの貧困に関する指標 .....	257
<b>参考資料      使用した調査票 .....</b>	<b>259</b>

# I 本調査の概要

令和4年度から実施する「仙台市子どもの貧困対策計画」の策定の基礎資料として、本市における家庭の状況やニーズ等の現状の把握と分析、課題等を整理することを目的とし、「1. 統計データの整理・比較分析」「2. アンケート調査」「3. 支援者ヒアリング調査」の3調査を実施した。

## 1 統計データの整理・比較分析

本市が有する子どもの貧困対策に関連する事業実績データや関連資料、本市の子どもの貧困対策に関連する施策の取り組み内容及び実績等の過去10年程度の経年変化、関連調査の再分析を含めた相互分析、他都市・国ホームページ等からの情報収集と整理及び本市との比較分析を行い、その結果について整理した。

## 2 アンケート調査

### (1) 調査の目的

本市における家庭の状況・ニーズ、課題等を整理するとともに、より効果的な取り組みを推進するための基礎資料として活用することを目的とし、アンケート調査を実施した。

### (2) 調査期間

令和3年11月1日から令和3年12月17日

### (3) 調査対象・調査方法

調査種類	対象者属性	調査方法
① 一般アンケート (保護者用)	本市居住者の0～18歳未満の子どもがいる世帯の保護者	郵送配付-郵送回収またはオンライン回答
② 一般アンケート (子ども用)	①保護者の子ども(9～18歳未満)	①保護者向け調査の調査票に同封-郵送回収またはオンライン回答
③ 対象者アンケート (保護者用)	生活保護受給世帯又は児童扶養手当受給世帯のうち0～18歳未満の子どもがいる世帯の保護者	郵送配付-郵送回収またはオンライン回答
④ 対象者アンケート (子ども用)	③保護者の子ども(9～18歳未満)	③保護者向け調査の調査票に同封-郵送回収またはオンライン回答
⑤ 対象者アンケート (児童養護施設入所者用)	本市の児童養護施設に入所している子ども(9～18歳未満)	利用施設を通じて配布・回収

## (4) 選定方法

### ①一般アンケート（保護者用）・②一般アンケート（子ども用）

令和3年8月1日時点の本市住民基本台帳より、無作為に子どもを抽出し、当該子ども及びその保護者を対象とした。

区分	人数
0～18 歳未満の子どもがいる世帯の保護者	2,700 人
9～18 歳未満の子ども	1,350 人

### ③対象者アンケート（保護者用）・④対象者アンケート（子ども用）

令和3年8月1日時点の本市生活保護受給者台帳、本市児童扶養手当受給者台帳より、下記人数を無作為に抽出し、保護者及びその子どもを対象とした。また、本市学習・生活サポート事業（生活保護受給世帯または児童扶養手当全部受給世帯の中学生が対象）の利用者及びその保護者全員を対象とした。

保護者区分	人数
生活保護受給世帯	500 人
児童扶養手当受給世帯	2,300 人
本市学習・生活サポート事業利用者全員	198 人

子ども区分	人数
生活保護受給世帯(9～18 歳未満)	250 人
児童扶養手当受給世帯(9～18 歳未満)	1,150 人
本市学習・生活サポート事業利用者全員(中学生)	198 人

### ⑤対象者アンケート（児童養護施設入所者用）


児童養護施設に入所している9～18歳未満全員を対象とした。

区分	人数
児童養護施設入所者(9～18 歳未満)	70 人

## (5) 回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
一般アンケート (保護者用)	2,700 通	1,108 通 (内オンライン回答 246)	41.0%
一般アンケート (子ども用)	1,350 通	435 通 (内オンライン回答 84)	32.2%
対象者アンケート (保護者用)	2,998 通	965 通 (内オンライン回答 179)	32.2%
対象者アンケート (子ども用)	1,598 通	370 通 (内オンライン回答 55)	23.2%
対象者アンケート (児童養護施設入所者用)	70 通	64 通	91.4%

## (6) 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してある。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
- ・調査結果を図表にて表示してるが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしている。（無回答を除く）
- ・原則として、所得区分に関する記載は、（2019）と記載がない限り、2020 年分として回答された所得を基にしている。
- ・回答者数が少数の場合は、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、本文中の分析結果や図表において言及していない。
- ・問番号は、一般アンケートの問番号を表記しており、一般アンケートに該当しない調査項目については、各対象のアンケート調査の問番号を記載しています。

### 貧困線の設定について

- ・アンケート調査票で世帯の可処分所得額について世帯員人数別に3段階の選択肢を設定し、いずれに該当するかを回答していただいた（保護者用調査票問59）。世帯員人数にかかわらず、1つ目の選択肢を回答した世帯を「所得区分1」（貧困線未満）、2つ目の選択肢を回答した世帯を「所得区分2」（貧困線以上中央値未満）、3つ目の選択肢を回答した世帯を「所得区分3」（中央値以上）と表している。

世帯員人数	所得区分1	所得区分2		所得区分3
	貧困線未満	貧困線以上	～ 中央値未満	中央値以上
2	175 万円未満	175 万円	～ 351 万円未満	351 万円以上
3	215 万円未満	215 万円	～ 430 万円未満	430 万円以上
4	248 万円未満	248 万円	～ 496 万円未満	496 万円以上
5	277 万円未満	277 万円	～ 555 万円未満	555 万円以上
6	304 万円未満	304 万円	～ 607 万円未満	607 万円以上
7	328 万円未満	328 万円	～ 656 万円未満	656 万円以上
8	351 万円未満	351 万円	～ 701 万円未満	701 万円以上
9	372 万円未満	372 万円	～ 744 万円未満	744 万円以上

※令和元年国民生活基礎調査における貧困線の基準

### 3 支援者ヒアリング調査

#### (1) 調査の目的

令和5年度から実施する「仙台市子どもの貧困対策計画」の策定の基礎資料として、本市において生活に困窮していると想定される子どもや家庭の様子を把握することを目的に、日頃から困難を抱える子どもや家庭への支援に関わっている団体等に対してヒアリング調査を実施した。

#### (2) 調査対象

- 民生委員児童委員
- 弁護士
- 仙台市 母子家庭相談支援センター
- 認定特定非営利活動法人キッズドア
- 特定非営利活動法人FORYOUにこにこの家
- 社会福祉法人仙台市社会事業協会 仙台つばさ荘
- 仙台市 スクールソーシャルワーカー
- 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家乳幼児ホーム
- 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家子どもホーム
- 仙台市 児童相談所
- 認定特定非営利活動法人 STORIA
- 仙台市 高校教育課
- 仙台市 スクールカウンセラー
- 市立保育所
- 仙台市 区役所保護課
- 仙台市 区役所家庭健康課

#### (3) 調査期間

令和3年11月16日から令和3年12月17日

#### (4) 調査項目

ヒアリングシートを配付後、記入いただいた内容に基づき、聞き取り調査を実施した。

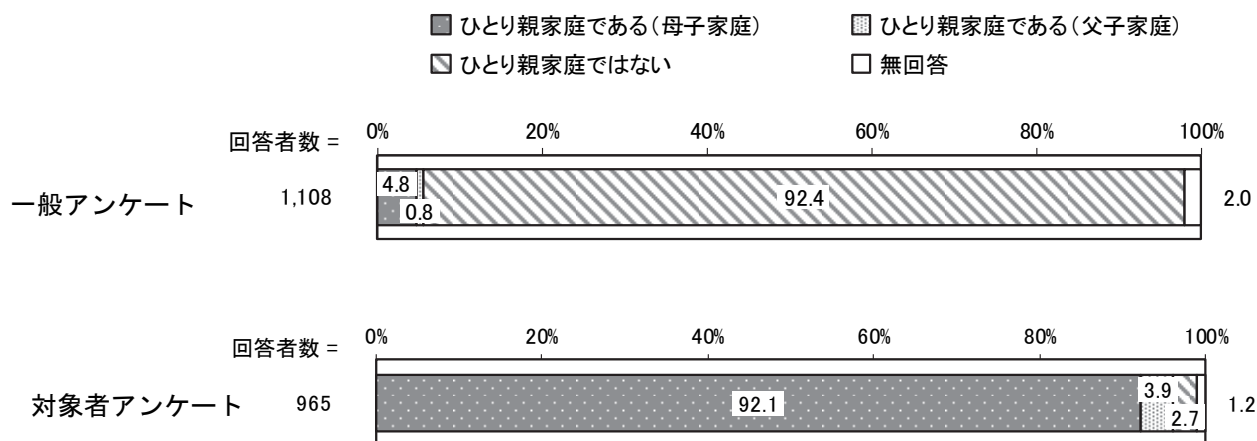
- ① 保護者・子どもの特徴
  - ・生活や就労・子どもの学習の様子
  - ・親子間の関わり方
  - ・支援者・支援制度との関係
- ② 支援上の課題、その他の意見等
  - ・連携機関
  - ・制度・支援のあり方、広報等の課題
  - ・支援制度の有効性や課題等
  - ・希望する支援策
  - ・効果的だと思われる取組

## Ⅱ 調査結果（概要）

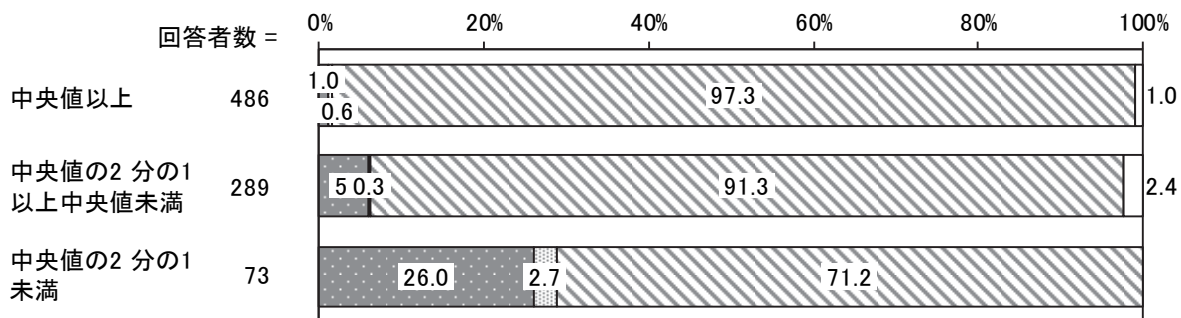
### 1 保護者の生活状況

#### （1）世帯状況

○母子家庭と父子家庭を合わせたひとり親家庭の割合は、対象者アンケートでは 96.0%、一般アンケートでは 5.6%であった。また、一般アンケートの所得区分が「中央値の 2 分の 1 未満」のうち、28.7%がひとり親家庭であった。



#### 【所得区分別】（一般アンケート）





## （２）世帯全体の年間総収入

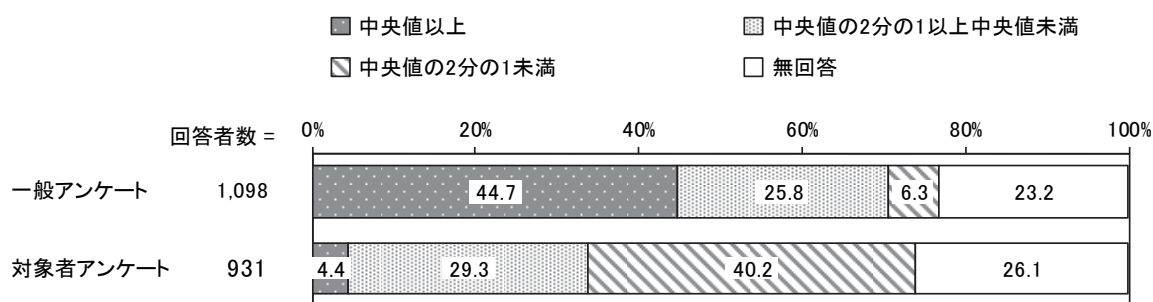
○世帯全体の年間総収入は、一般アンケートでは、「中央値以上」の割合が、対象者アンケートでは、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が最も高くなっており、また、2019 年と 2020 年では大きな違いはない。

○2020 年の世帯全体の年間総収入では、一般アンケートの 6.6%、対象者アンケートの 39.0% が「中央値の 2 分の 1 未満」となっており、30 ポイント以上の差がある。ひとり親世帯の可処分所得が、ふたり親世帯に比べて、低くなっていることがうかがえる。

### 2019 年 世帯全体の年間総収入

一般アンケートでは、「中央値以上」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 25.8%、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 6.3%となっている。

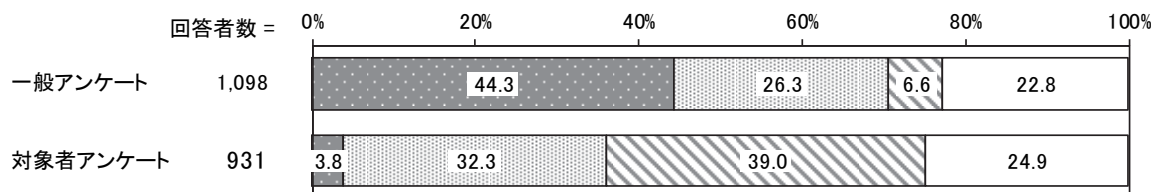
対象者アンケートでは、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 29.3%、「中央値以上」の割合が 4.4%となっている。



### 2020 年 世帯全体の年間総収入

一般アンケートでは、「中央値以上」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 26.3%、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 6.6%となっている。

対象者アンケートでは、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 32.3%、「中央値以上」の割合が 3.8%となっている。



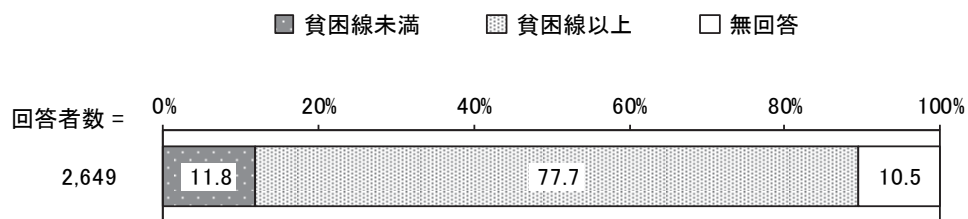
## 貧困線未満の世帯

平成 28 年度に実施した本市独自の「仙台市子どもの生活に関する実態調査」では、設定した貧困線未満の世帯は 11.8%となったのに対し、今回の調査における貧困線未満の世帯の割合は 6.6%となった。なお、無回答を除いた割合で見た場合、貧困線未満の世帯の割合は、平成 28 年度調査では 13.2%となるのに対し、今回調査では 8.5%となる。

貧困線未満の世帯の割合が前回よりも減少した要因として、前回調査時よりも就業率や正規雇用で働く方の割合が高かったことが影響しているものと思料する。

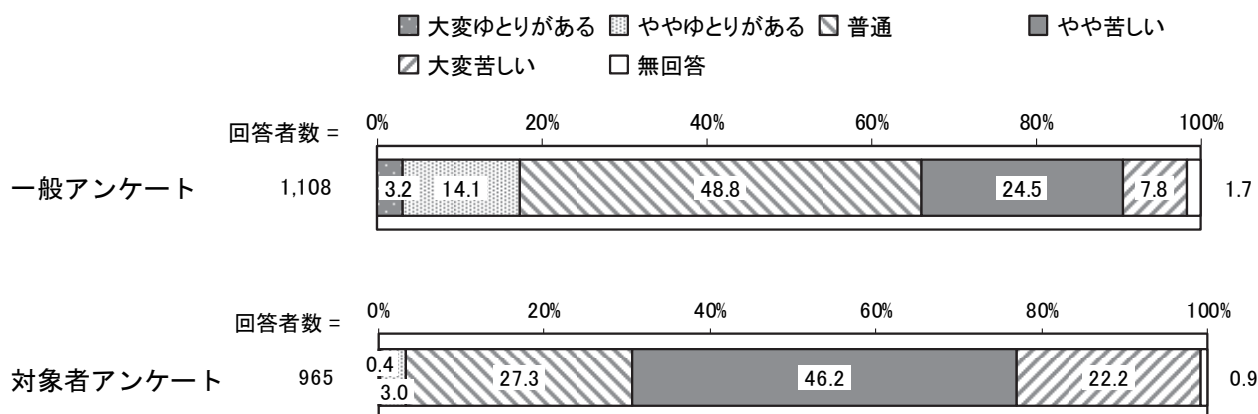
平成 28 年度仙台市子どもの生活に関する実態調査

問 45 あなたの世帯の昨年 1 年間（平成 27 年 1 月 1 日～12 月 31 日の期間）の可処分所得（いわゆる手取り収入）がおおよそどれくらいか教えてください。



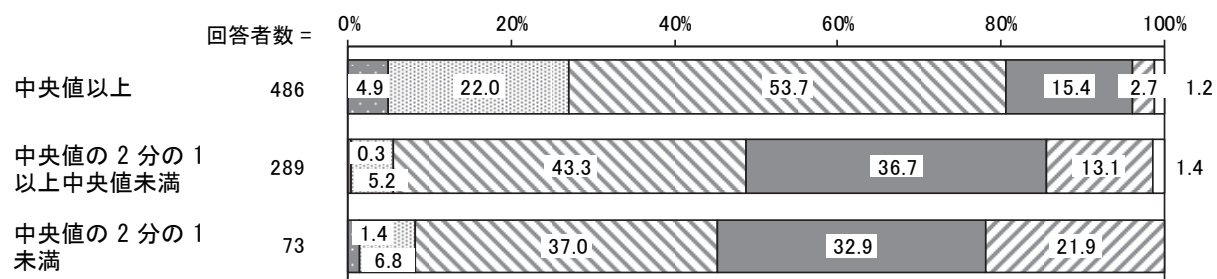
### （３）現在の暮らし状況

○現在の暮らしの状況で「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”と回答した割合は、一般アンケートの 32.3%に対し、対象者アンケートでは 68.4%と高くなっていることから、ひとり親世帯はふたり親世帯より苦しい状況にあることがうかがえる。



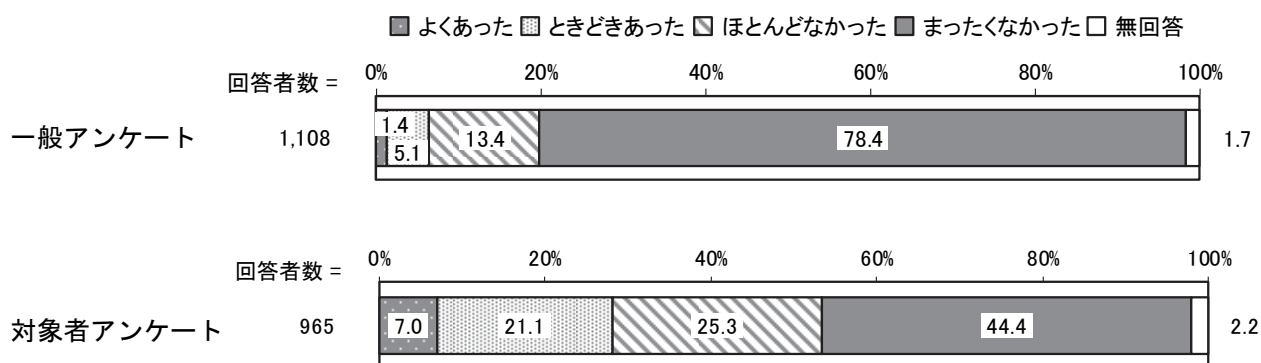
#### 【所得区分別】（一般アンケート）

所得水準が「中央値の 2 分の 1 未満」の世帯では“苦しい”の割合が 54.8%であった。

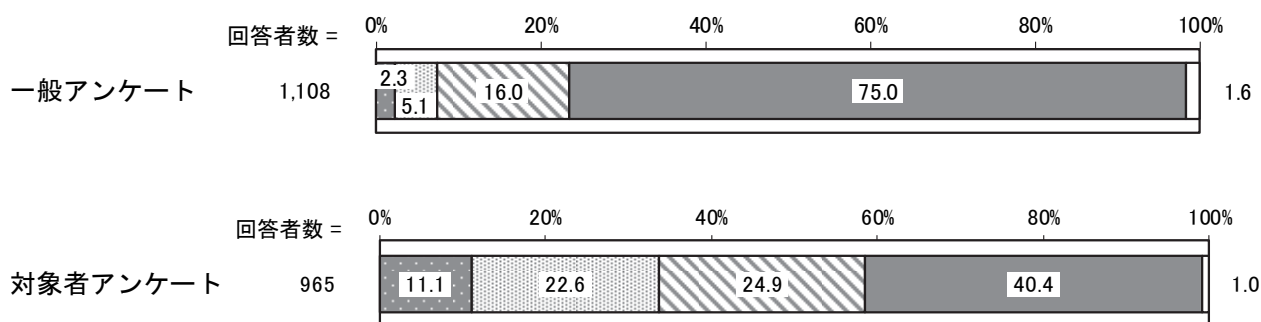


#### (4) 食料／衣服／公共料金

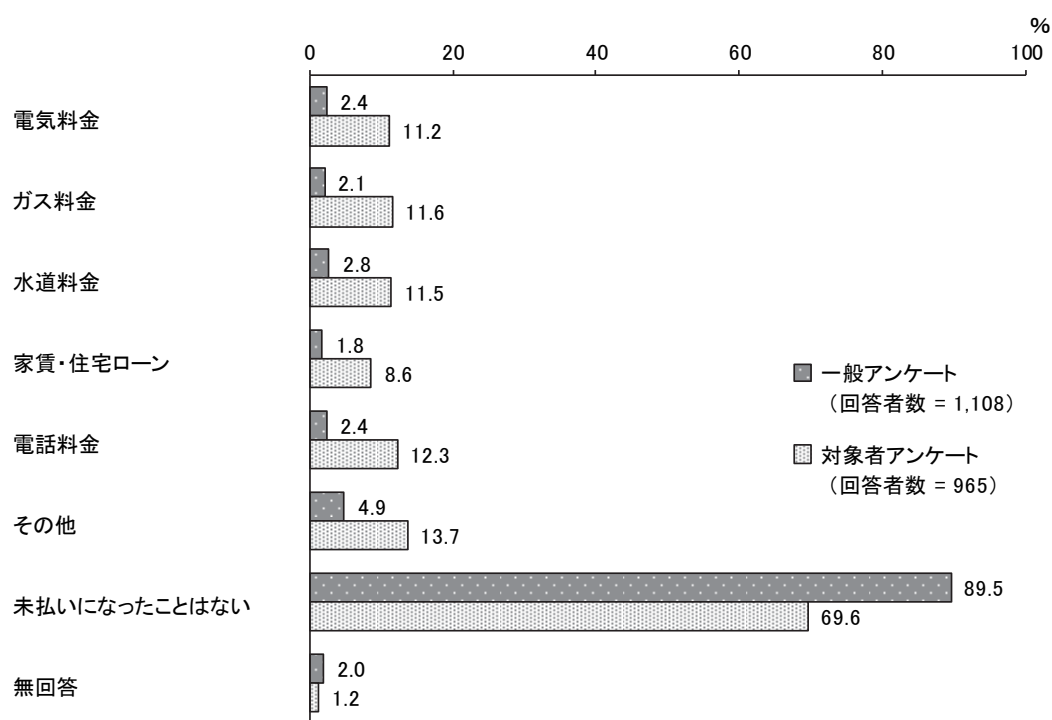
○過去１年間に、お金が足りなくて、必要とする『食料』が買えないことが「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が一般アンケートでは6.5%であったのに対し、対象者アンケートでは28.1%と高くなっている。



○過去１年間に、お金が足りなくて、必要とする『衣料』が買えないことが“あった”の割合が一般アンケートでは7.4%であったのに対し、対象者アンケートでは33.7%と高くなっている。



○過去1年間の公共料金の支払いについて、対象者アンケートでは一般アンケートよりも未払いが生じている割合が高かった。



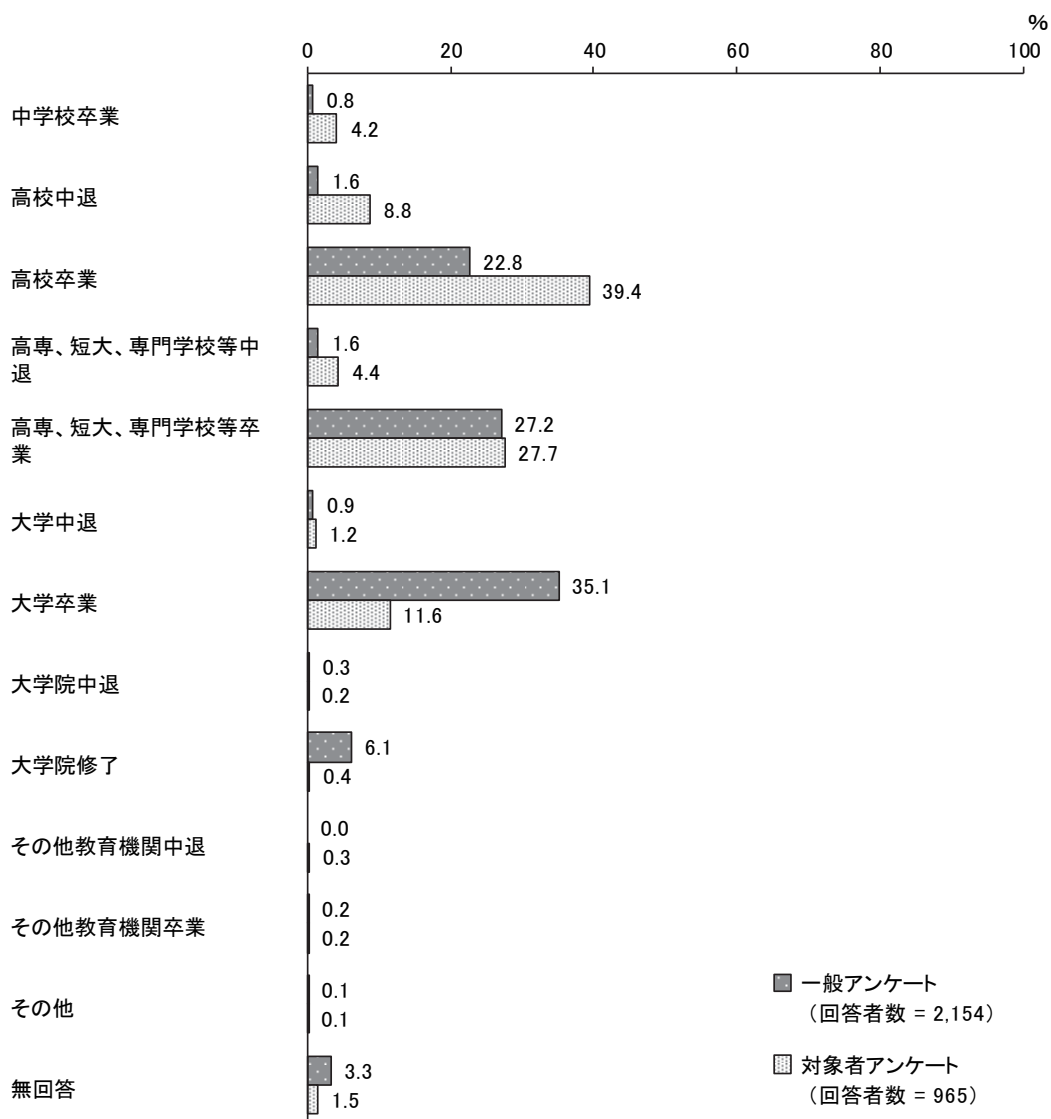
○いずれの回答からも、ふたり親世帯に比べ、ひとり親世帯では経済的な困難を抱えている状況がうかがえる。

## (5) 学歴と収入水準

○親の最終学歴は、所得区分別でみると、中央値以上で「大学卒業」の割合が高くなっている。

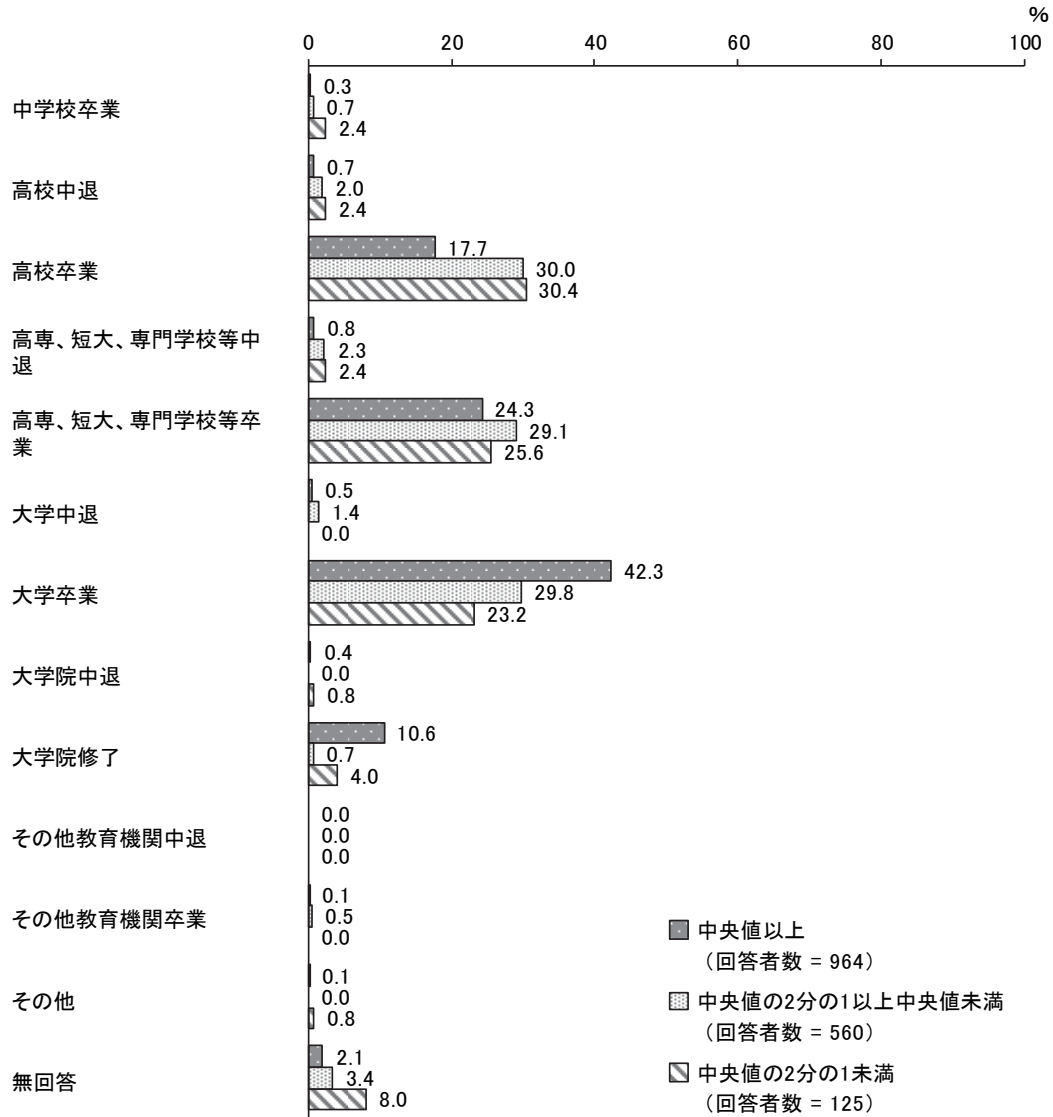
一般アンケートでは、「大学卒業」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」の割合が 27.2%、「高校卒業」の割合が 22.8%となっている。

対象者アンケートでは、「高校卒業」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」の割合が 27.7%、「大学卒業」の割合が 11.6%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「大学卒業」の割合が、中央値の2分の1未満、中央値の2分の1以上中央値未満で「高校卒業」の割合が高くなっており、学歴と収入水準の関連がみられる。

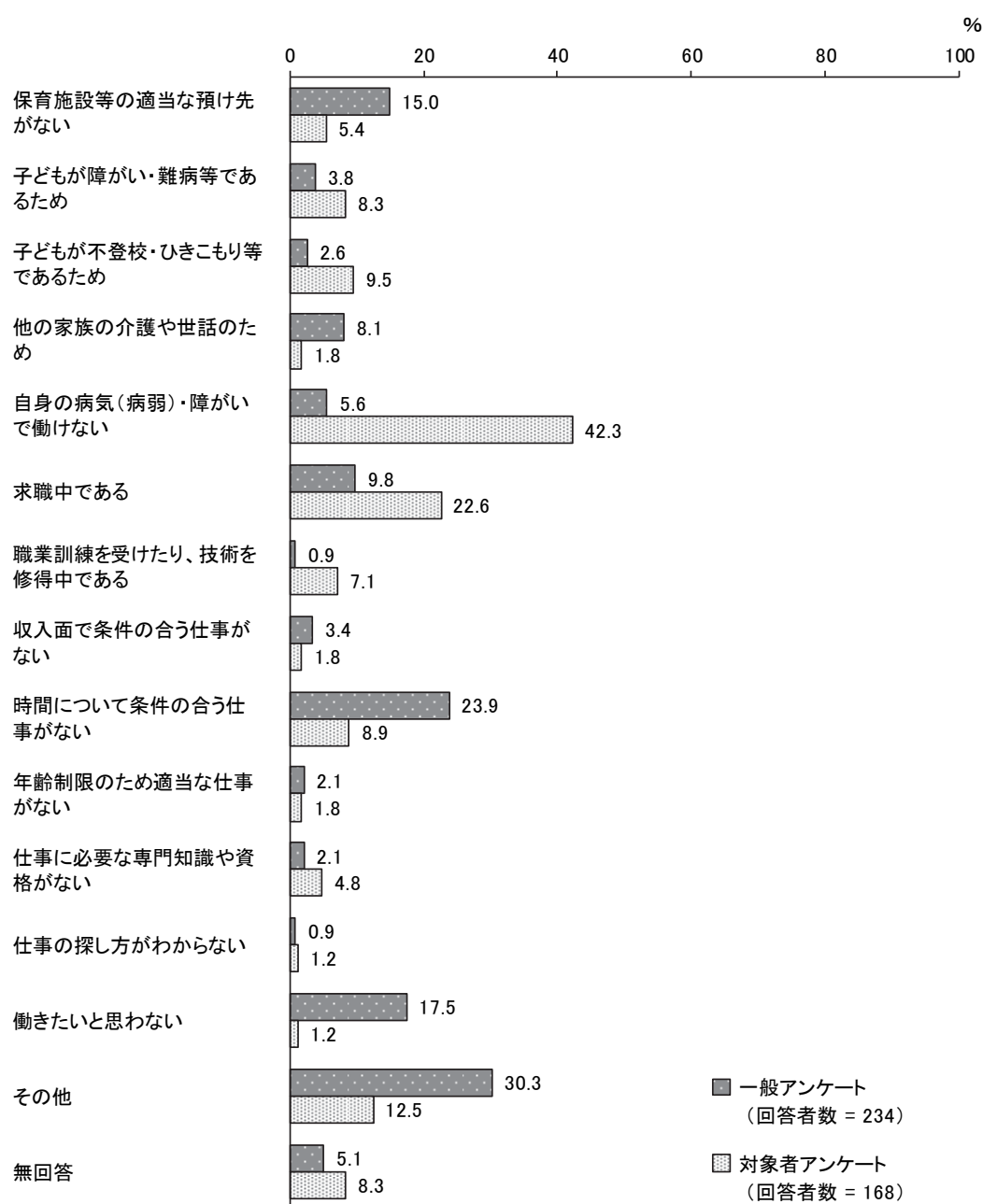


## （６）働いていない理由

○収入をとまなう仕事をしていない理由として、対象者アンケートでは、「自身の病気（病弱）・障がいので働けない」の割合が42.3%と最も高くなっている。

一般アンケートでは、「時間について条件の合う仕事がない」の割合が23.9%と最も高く、次いで「働きたいと思わない」の割合が17.5%、「保育施設等の適当な預け先がない」の割合が15.0%となっている。

対象者アンケートでは、「自身の病気（病弱）・障がいので働けない」の割合が42.3%と最も高く、次いで「求職中である」の割合が22.65%、「子どもが不登校・ひきこもり等であるため」の割合が9.5%となっている。

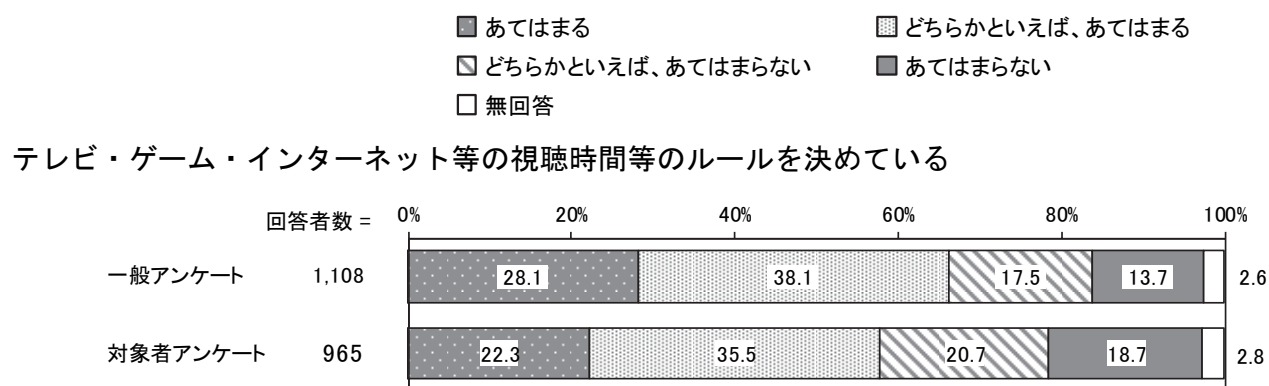




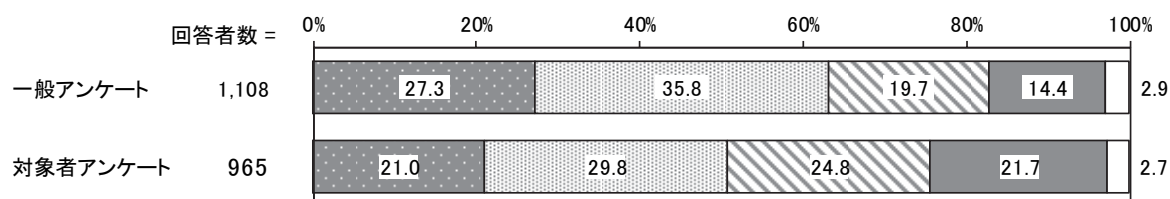
## (7) 子どもとの関わり方／学校との関わり

○収入の水準は子どもや学校行事との関わり方の状況に関連する。

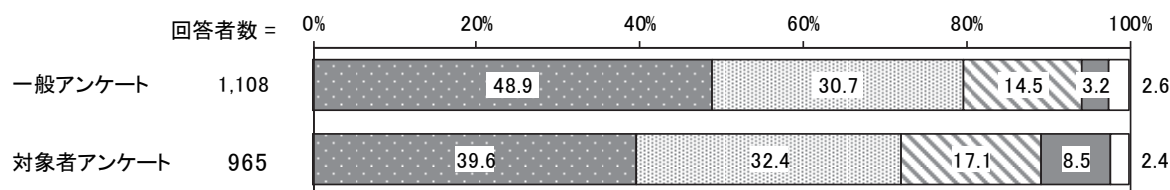
「子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる」の項目を除き、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が、一般アンケートの方が高くなっている。授業参観や運動会など学校行事への参加状況は、「よく参加している（していた）」と回答した割合は、一般アンケートの方が高くなっている。



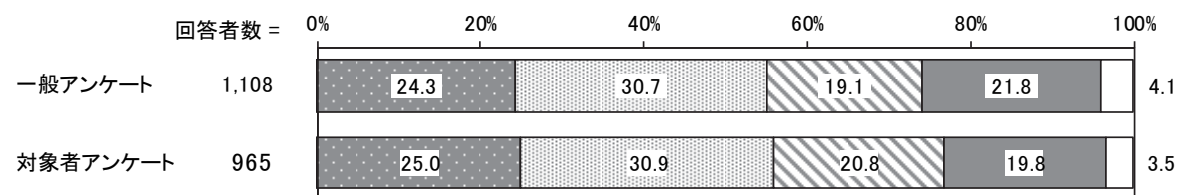
子どもに本や新聞を読むように勧めている



子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

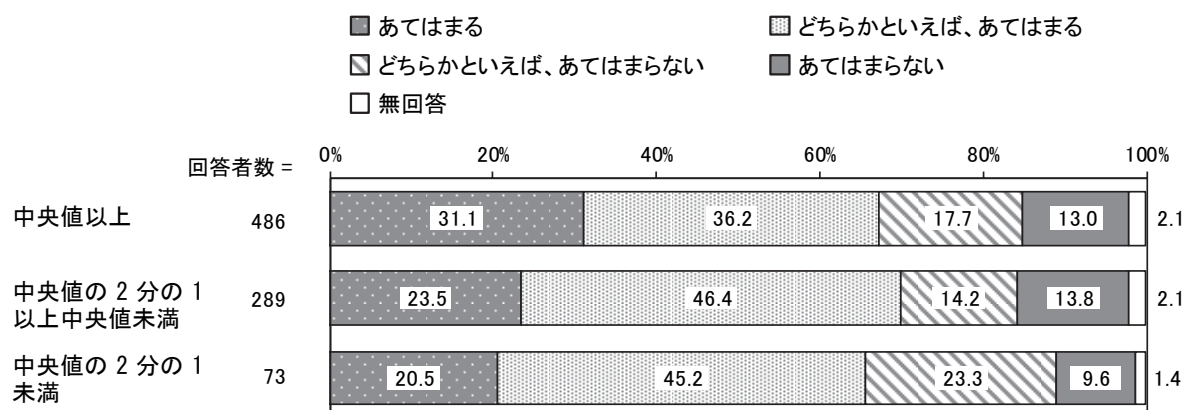


子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる



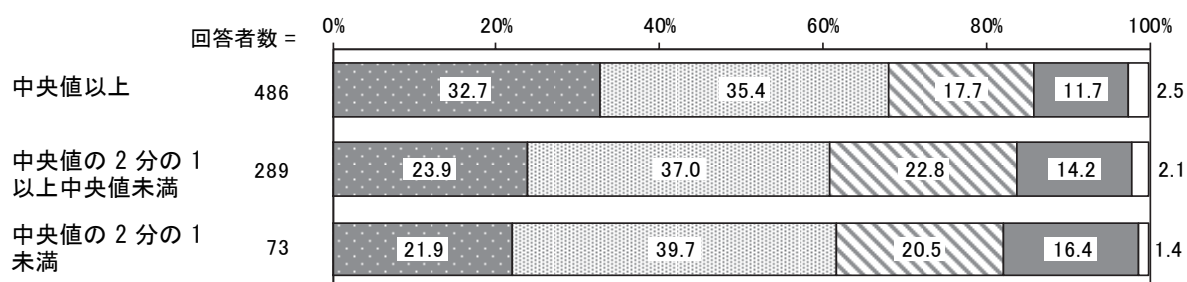
## テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

【所得区分別】（一般アンケート）



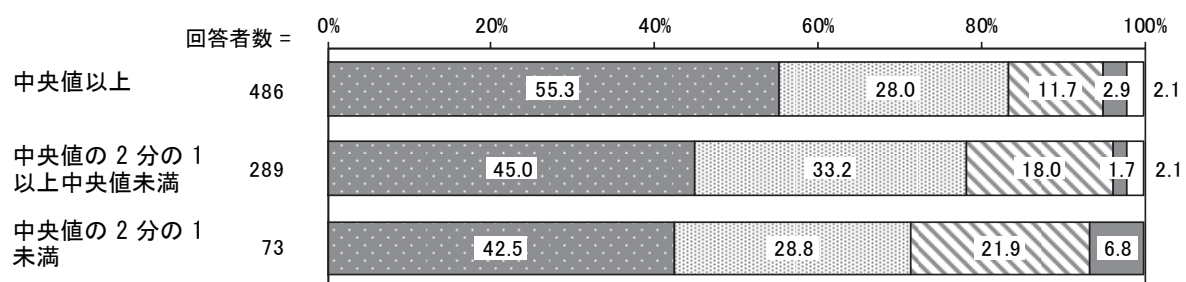
## 子どもに本や新聞を読むように勧めている

【所得区分別】（一般アンケート）

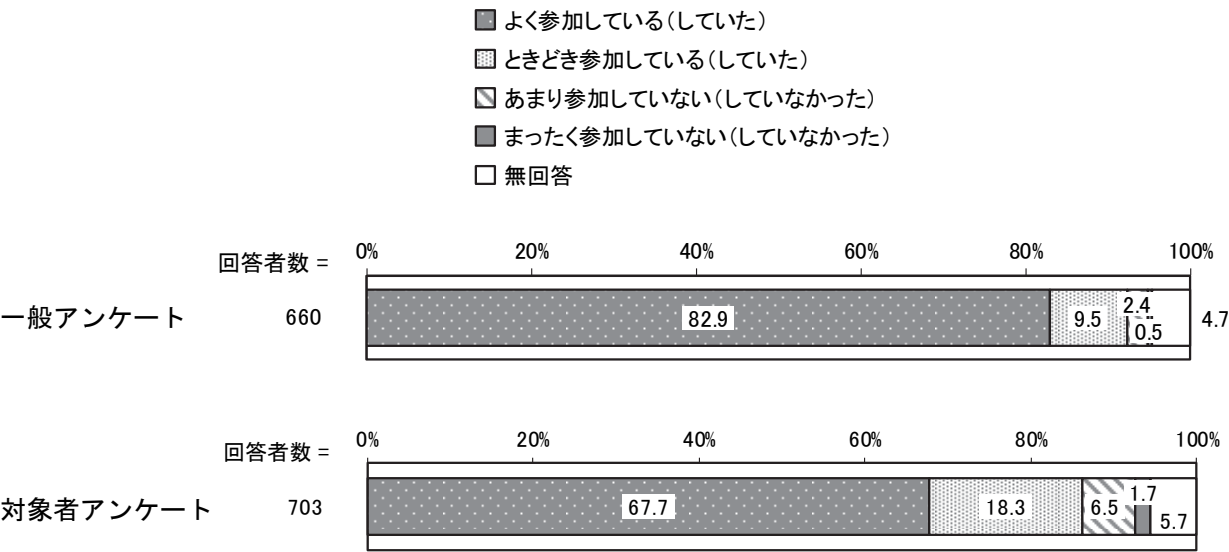


## 子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

【所得区分別】（一般アンケート）



授業参観や運動会など学校行事はどの程度参加していますか



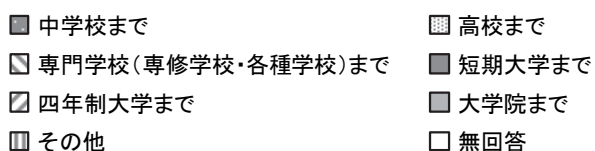
## (8) 子どもの進学希望・展望

○子どもの進学の希望として、一般アンケートの保護者、対象者アンケートの保護者ともに「四年制大学まで」が最も高くなっているものの、現実的な進学の見込み（展望）となると、対象者アンケートでは「高校まで」の割合が最も高くなる。

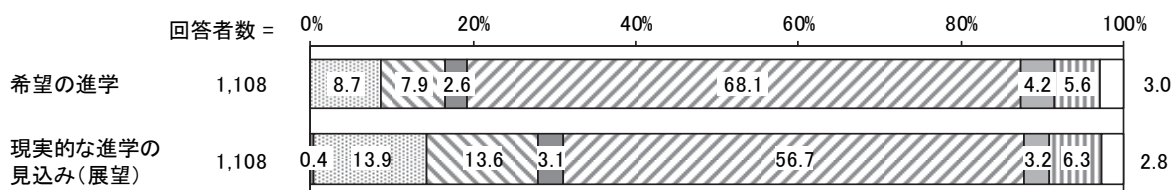
○希望と現実的な進学の見込み（展望）が異なる理由として、一般アンケートと対象者アンケートともに、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が最も高くなった。一般アンケートで28.0%に比べ、対象者アンケートでは59.7%と大きく乖離している。

一般アンケートでは、「四年制大学まで」の割合が希望の進学で68.1%、現実的な進学の見込み（展望）で56.7%と最も高くなっている。

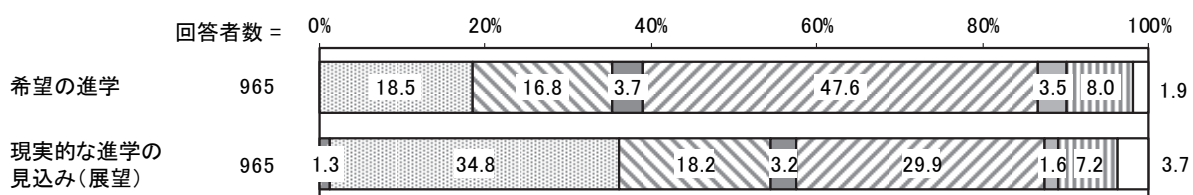
対象者アンケートでは、「四年制大学まで」の割合が希望の進学で47.6%と最も高いが、現実的な進学の見込み（展望）では「高校まで」の割合が34.8%と最も高くなっている。



### 一般アンケート



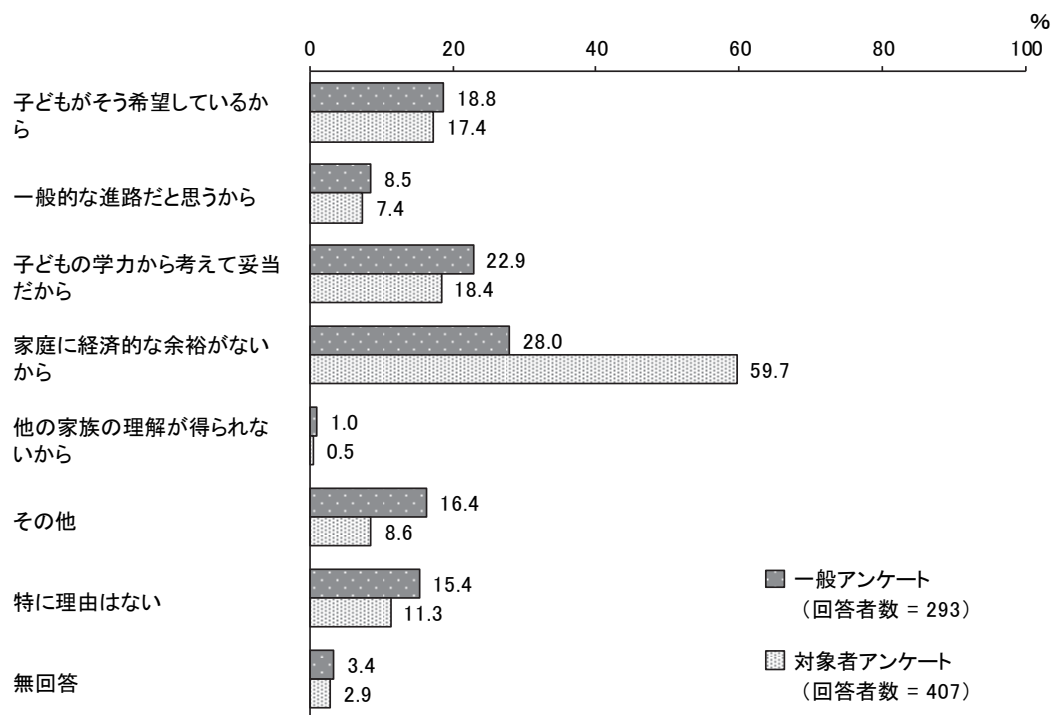
### 対象者アンケート



### 希望と現実が異なると考える理由

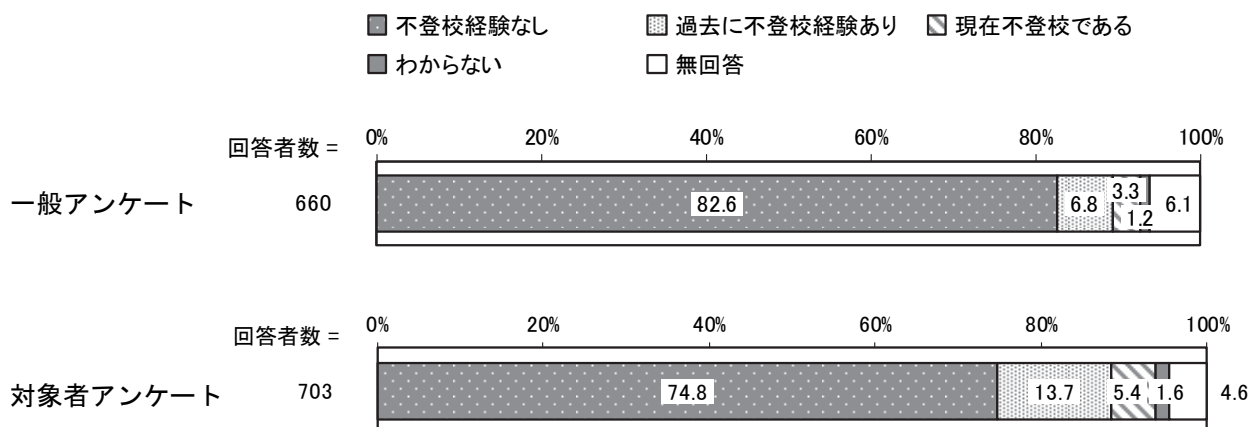
一般アンケートでは、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「子どもの学力から考えて妥当だから」の割合が 22.9%、「子どもがそう希望しているから」の割合が 18.8%となっている。

対象者アンケートでは、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が 59.7%と最も高く、ひとり親世帯では、ふたり親世帯に比べ、経済的な理由により進路を変更せざるを得ない状況がうかがえる。



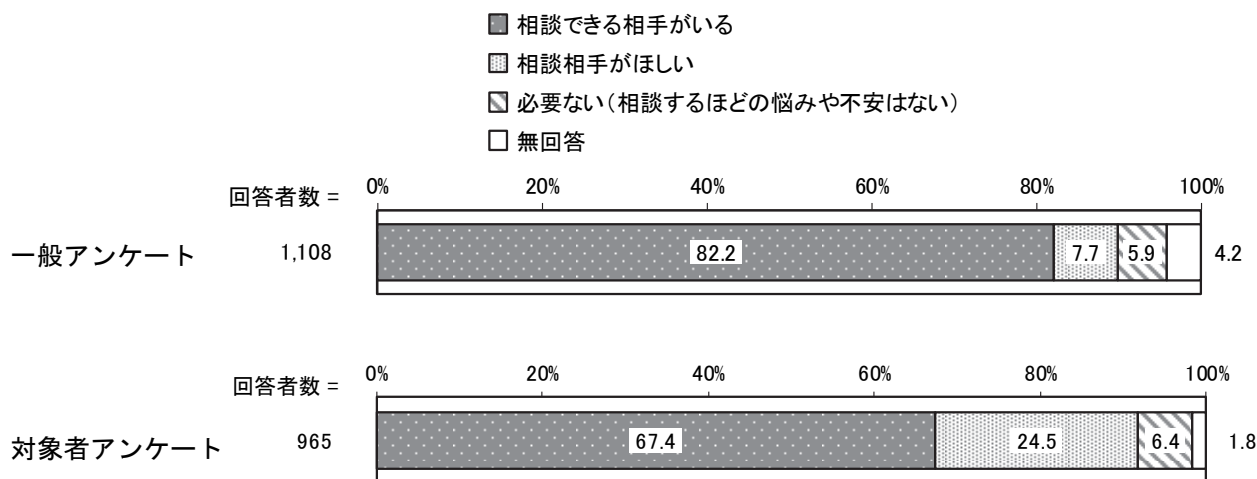
## (9) 子どもの不登校経験

○子どもの不登校経験は、一般アンケートに比べ、対象者アンケートで「過去に不登校経験あり」が高くなっている。

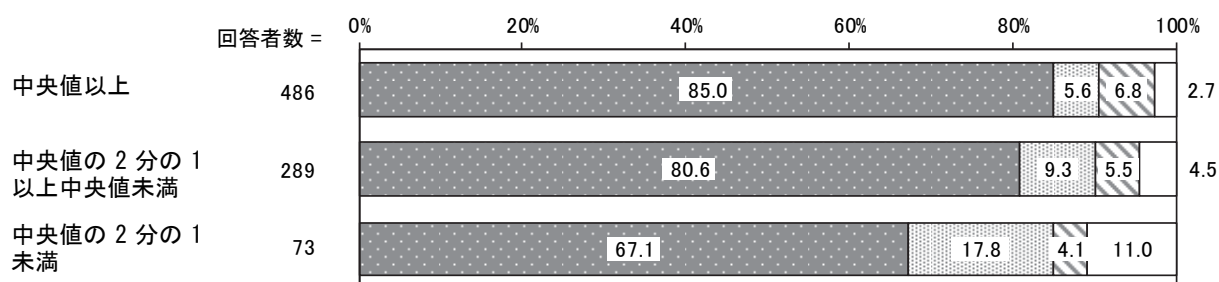


## (10) 頼れる人（相談相手）

○回答者自身が、心おきなく相談できる相手について、一般アンケートに比べて、対象者アンケートで「相談できる相手がいる」が 14.8 ポイント低くなっている。また、所得区分が低いほど「相談相手がほしい」の割合が高くなっている。



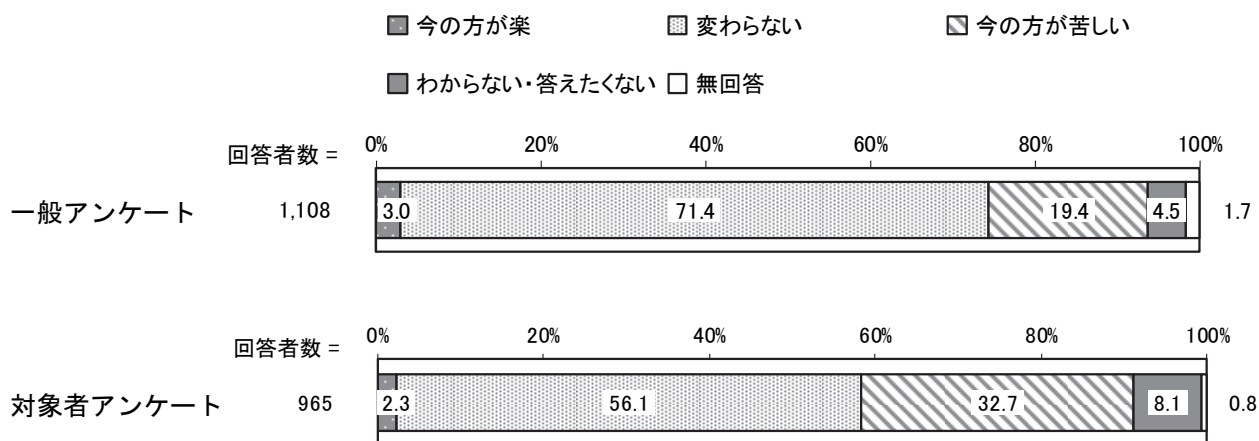
### 【所得区分別】（一般アンケート）



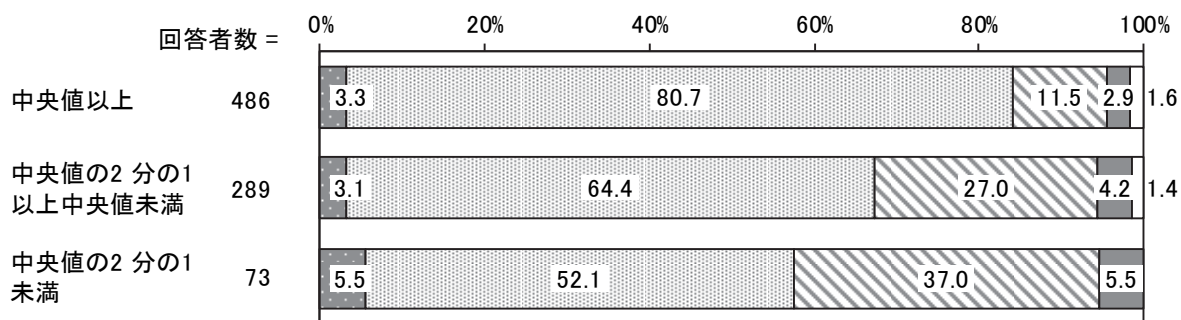
## (11) 新型コロナウイルス感染症の影響（暮らしの変化）

○現在の暮らしの状況は新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、対象者アンケートで「今の方が苦しい」の割合が高く、所得区分別：中央値の2分の1未満、ひとり親世帯で「今の方が苦しい」の割合が高くなっている。

一般アンケートでは、「今の方が苦しい」の割合が19.4%となっているのに対し、対象者アンケートでは、32.7%となっていることから、ひとり親世帯では新型コロナウイルス感染症の影響をより強く受けていることがうかがえる。



一般アンケートでは、所得区分別でみると、中央値の2分の1未満の水準で「今の方が苦しい」の割合が高くなっている。



## (12) 支援の利用状況等

○公的制度等の利用・受給の有無をみると、対象者アンケートにおいても「就学援助」の利用割合は42.9%となっている。

○利用・受給後の感想をみると、対象者アンケートでは、『A 母子・父子家庭医療費助成』で「とても役に立った」と「少し役に立った」をあわせた“役に立った”の割合が高くなっており、制度の重要度がわかる。

○利用・受給しなかった理由をみると、一般アンケートでは、『K 病児・病後児保育』で「制度を知っていたが、必要なかった」の割合が高くなっている。

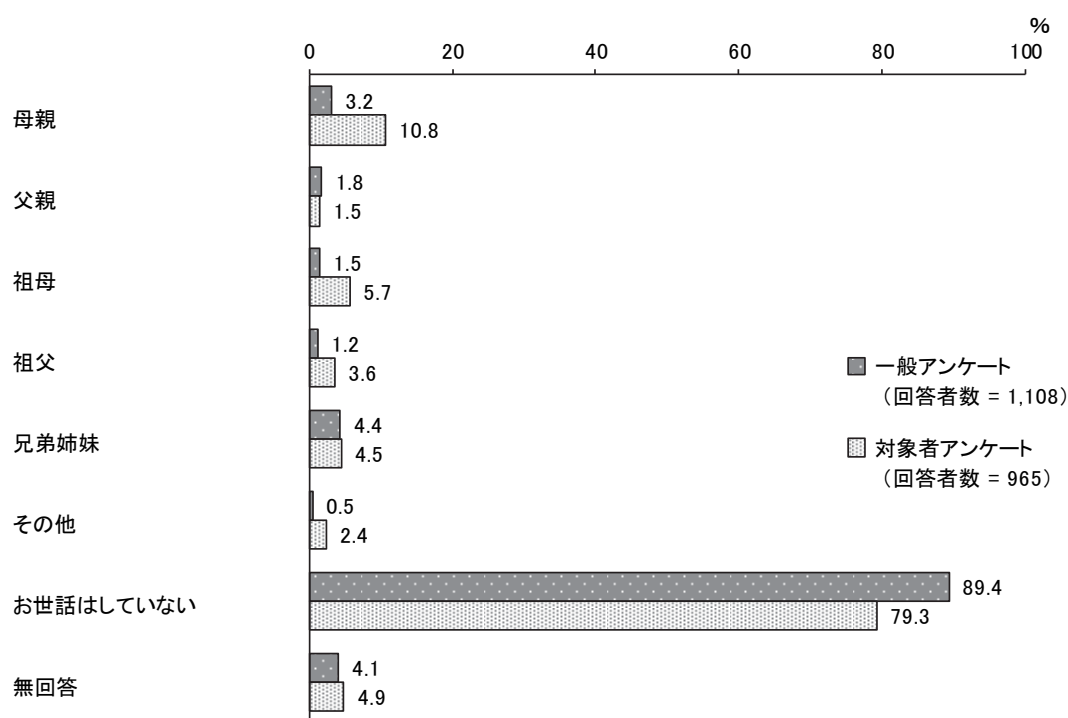
対象者アンケートでは、『G 養育費保証契約保証料補助』『N 児童生徒就学援助費』『O 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）』で「制度を知らなかった（もし知っていたら、利用したかった）」の割合が高くなっている。

また、『A 母子・父子家庭医療費助成』で「申請したが、利用できなかった」の割合が高くなっている。

## (13) 子どもの家族の世話の状況

○子どもの家族の世話の状況をみると、一般アンケートでは6.5%、対象者アンケートでは15.8%が家族のケアをしている。また、所得区分が低いほど家族のケアをしている割合が高くなっている。

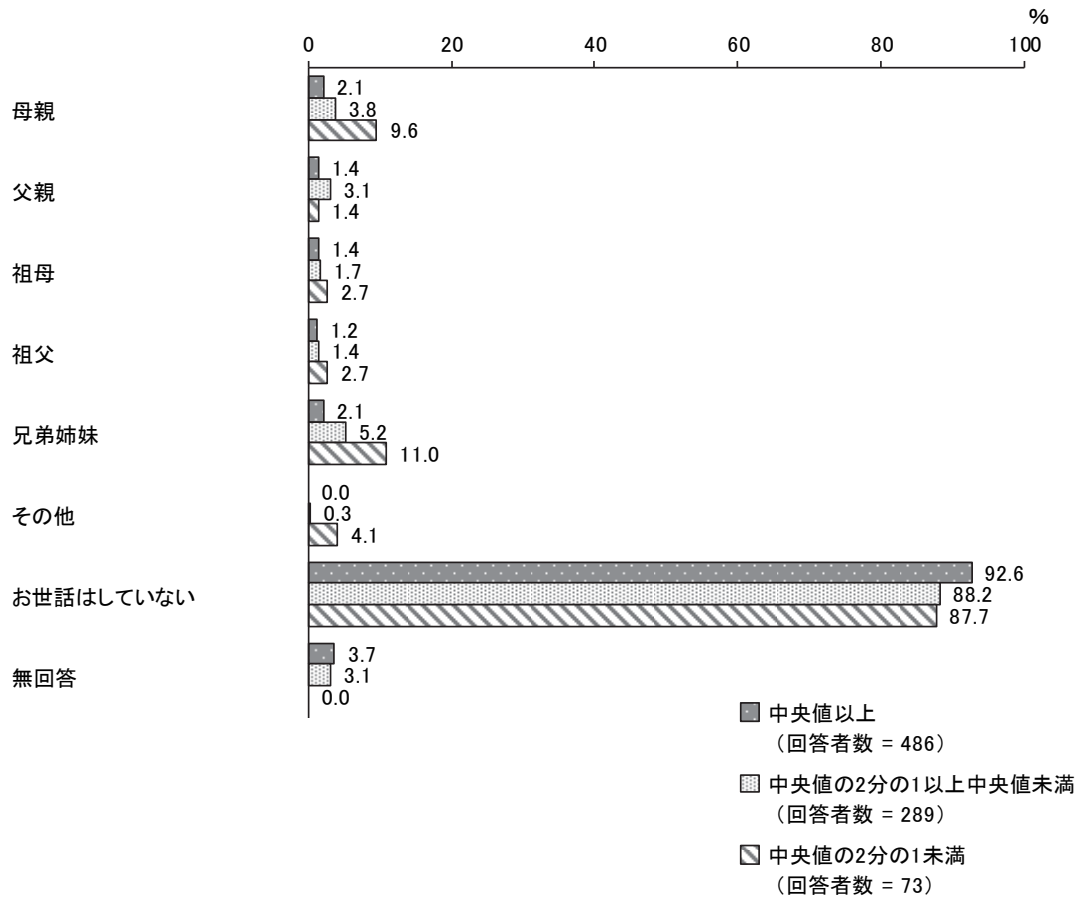
一般アンケートでは、家族のケアをしている割合が6.5%となっているのに対し、対象者アンケートでは、15.8%となっている。





## 【所得区分別】（一般アンケート）

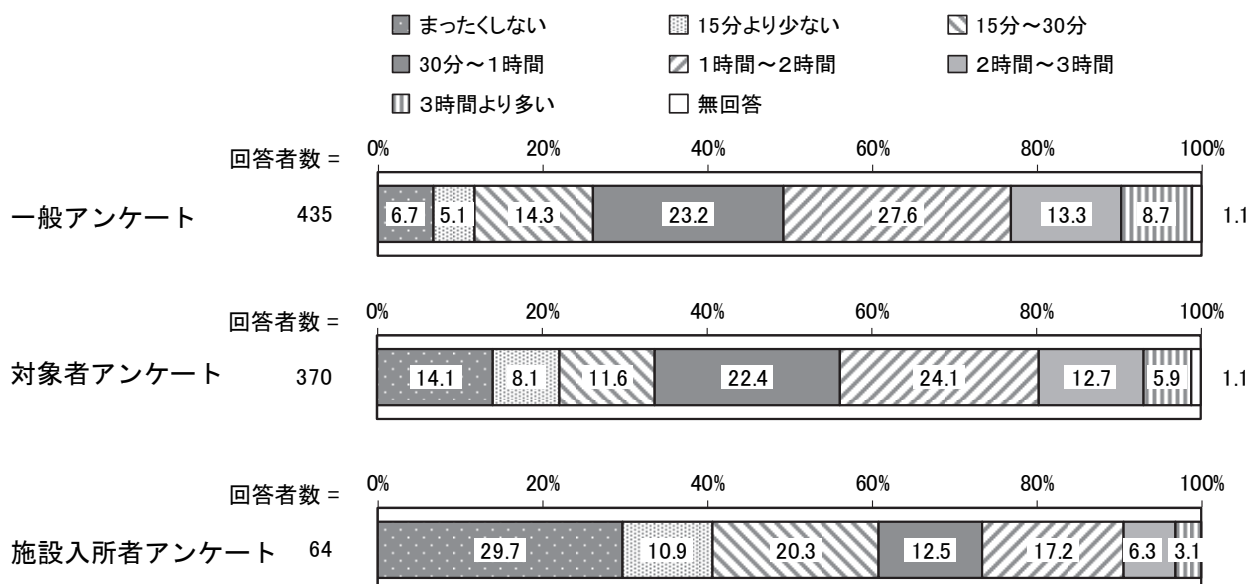
一般アンケートでは、所得区分別でみると、中央値の2分の1未満の水準で家族のケアをしている割合が12.3%と高くなっている。



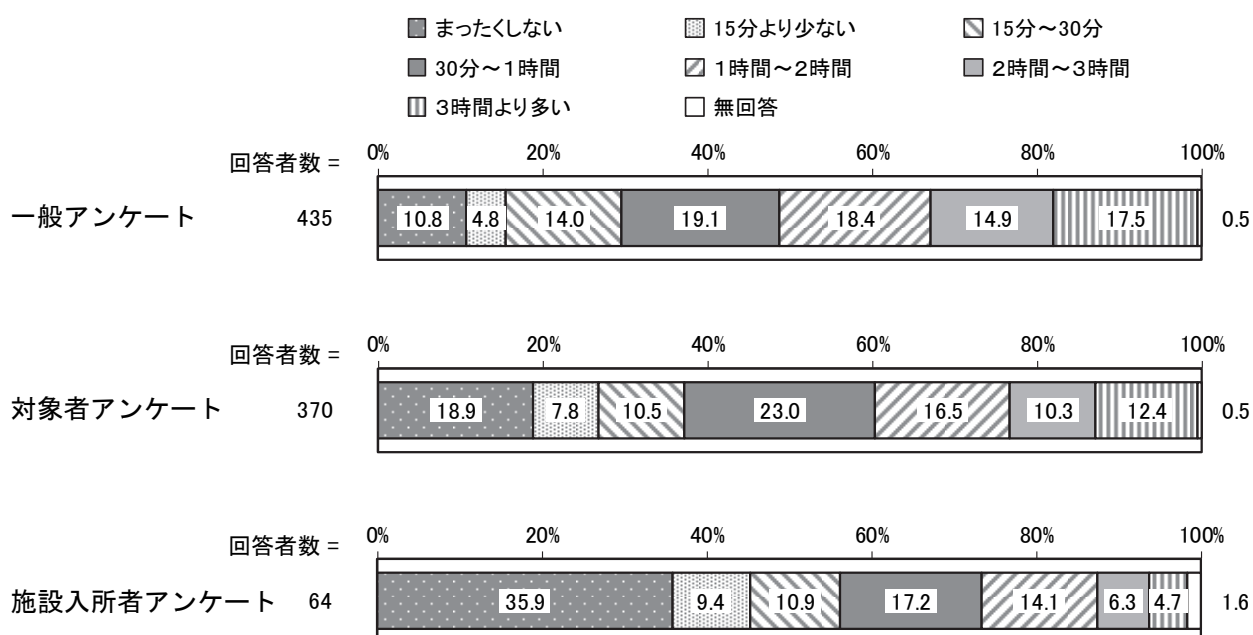
## 2 子ども調査

### (1) 学校の授業以外での勉強状況

○普段学校の授業時間以外の平日（月～金曜日）の1日あたりの勉強時間で「まったくしない」の割合は、一般アンケートで6.7%に比べ、対象者アンケートでは14.1%、施設入所者アンケート29.7%と高い。

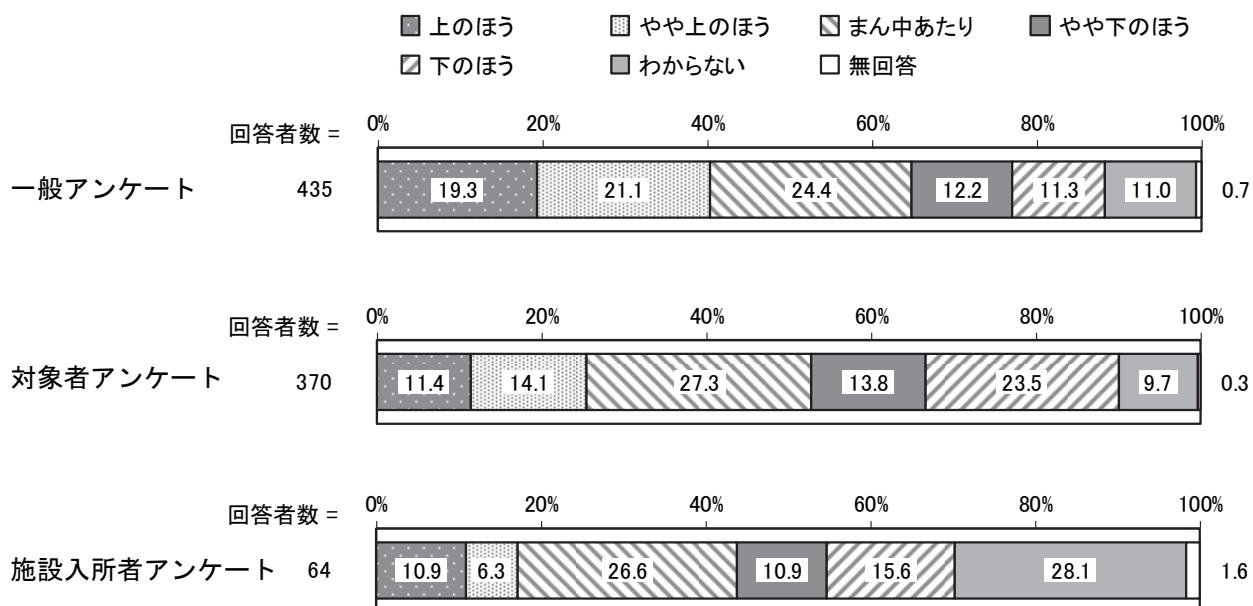


○普段学校の授業時間以外の平日以外（土・日曜日・祝日）の1日あたりの勉強時間で「まったくしない」の割合は、一般アンケートで10.8%に比べ、対象者アンケートでは18.9%、施設入所者アンケート35.9%と高い。



## (2) 成績状況

○成績についてのクラスの中の状況は、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合は、一般アンケートで 40.4%に比べ、対象者アンケートでは 25.5%、施設入所者アンケート 17.2%と低い。対象者アンケートでは「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が高く、ひとり親世帯の子どもは学習に困難を抱えている状況がうかがえる。



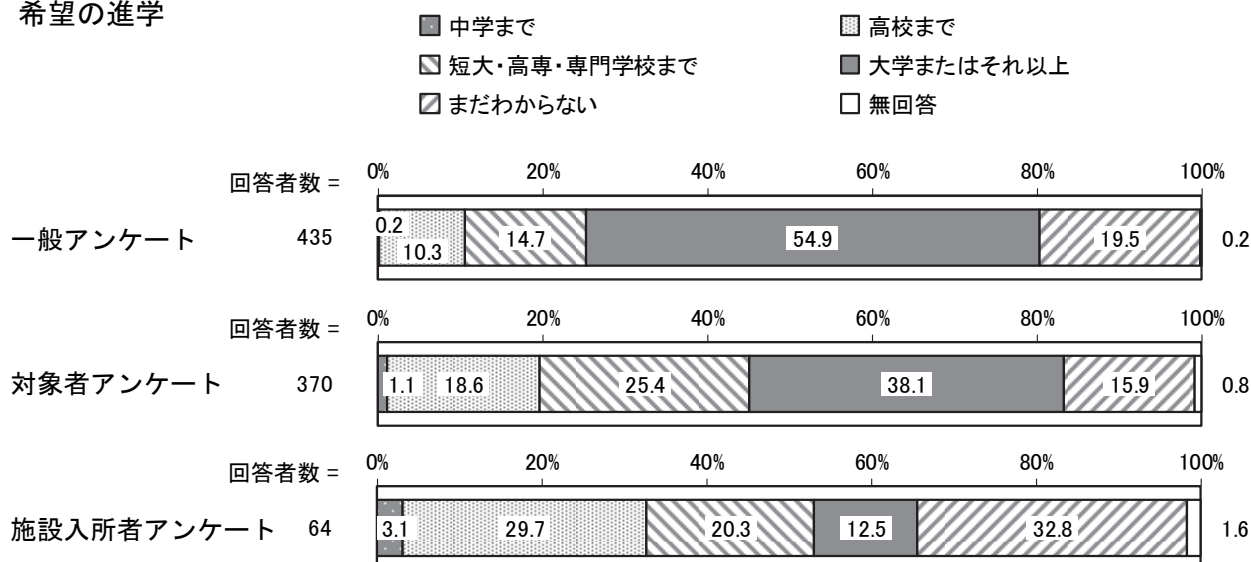
### (3) 進学希望・展望

○子ども本人の進学の希望として、一般アンケート、対象者アンケートともに「大学またはそれ以上」が最も高くなっているものの、現実的な進学の見込み（展望）となると、対象者アンケートでは「高校まで」の割合が最も高くなる。

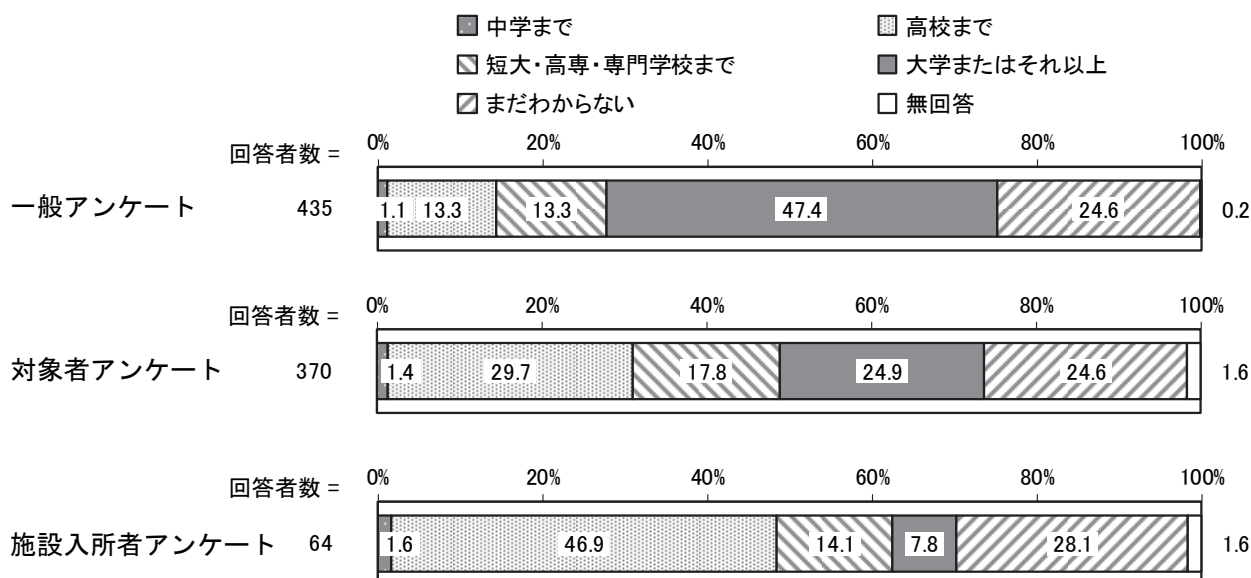
○希望と現実的な進学の見込み（展望）が異なる理由で最も高いのが一般アンケートと対象者アンケートでともに「自分の学力から考えて」の割合であるが、「経済的な余裕がないから」の割合について、一般アンケートで7.0%に比べ、対象者アンケートでは22.1%と大きく乖離している。ひとり親世帯の子どもは、ふたり親世帯に比べ、経済的な理由により進路を変更せざるを得ない状況にあることがうかがえる。

○施設入所者アンケートでは、子ども本人の進学の希望において「まだわからない」の割合が32.8%と最も高く、希望と現実的な進学の見込み（展望）が異なる理由として、「自分の学力から考えて」、「特に理由はない」の割合が31.3%と最も高い。

#### 希望の進学



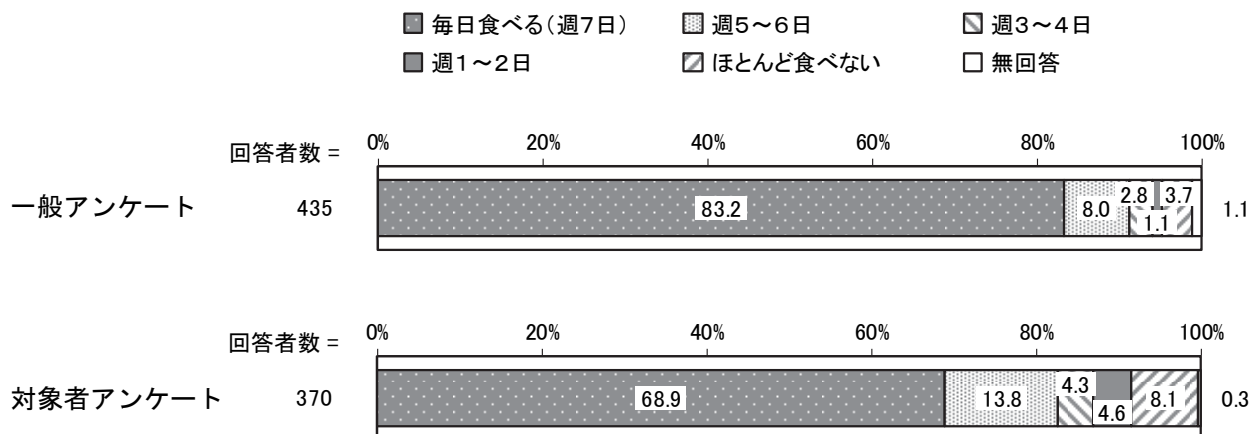
#### 現実的な進学の見込み（展望）



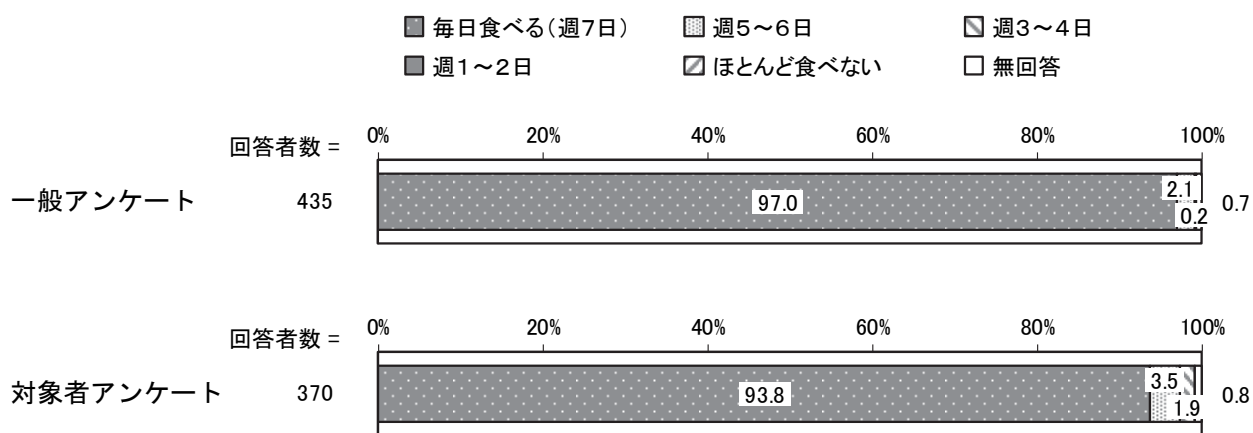
## （４）食事状況

○朝ごはんについて、一般アンケートに比べて、対象者アンケートでは「毎日食べる（週7日）」と回答した割合が低い。

### 朝ごはんの摂取状況

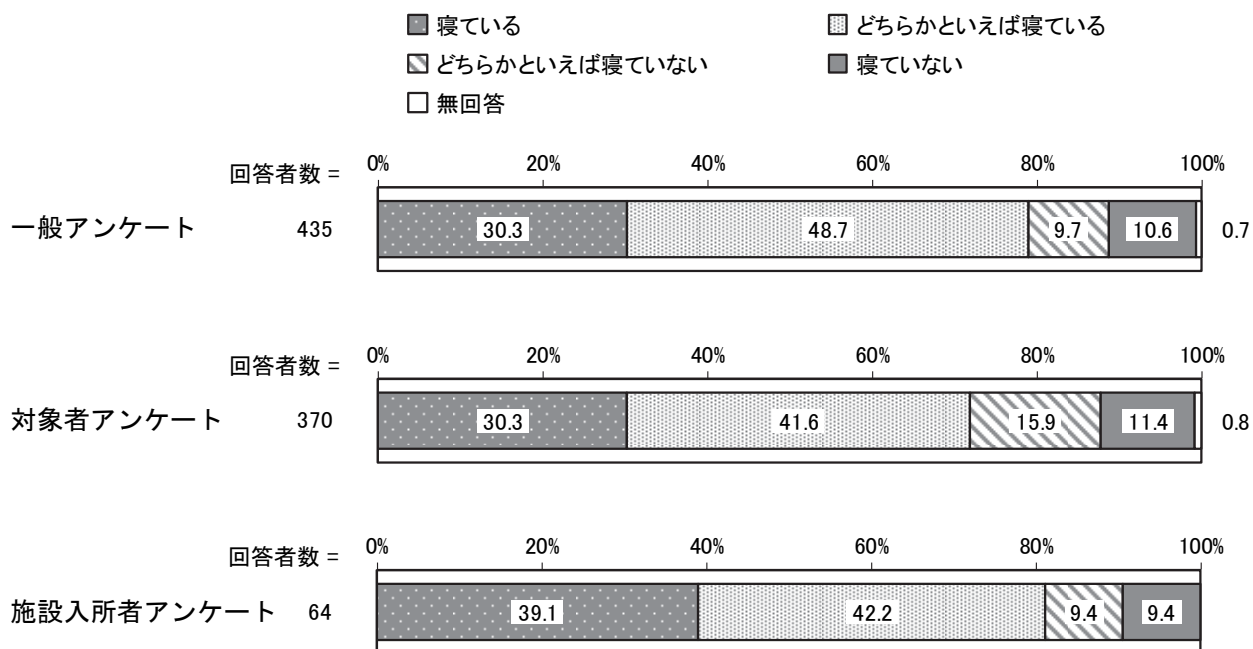


### 夕ごはんの摂取状況



## （５）就寝時間

○普段（月曜日～金曜日）の夜決まった時間に寝ているかについて、「どちらかといえば寝ていない」と「寝ていない」をあわせた“寝ていない”の割合について、一般アンケートで20.3%、対象者アンケートで27.3%、施設入所者アンケートで18.8%となっている。

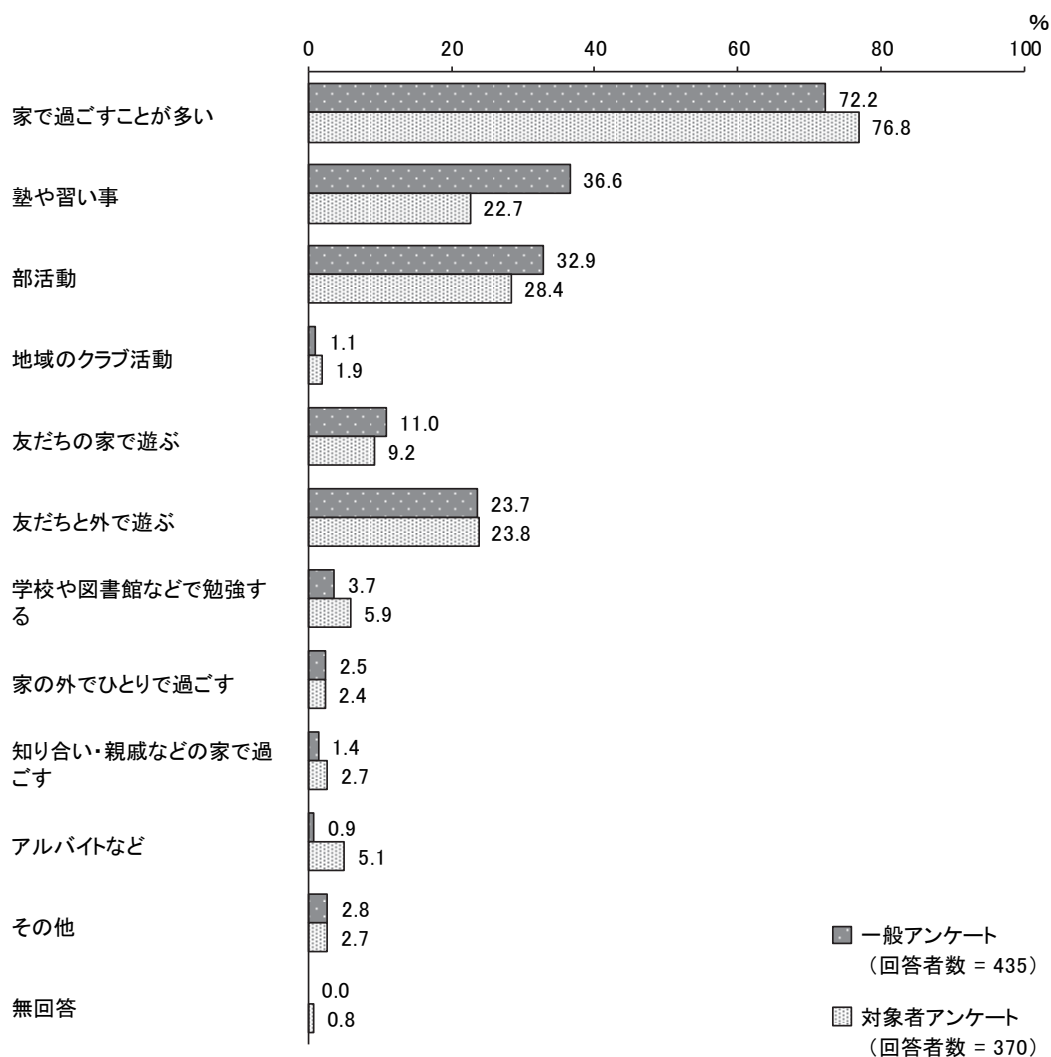


## （６）放課後の過ごし方

○学校が終わったあとの時間について、一般アンケートに比べて、対象者アンケートでは「塾や習い事」「部活動」と回答した割合が低い。

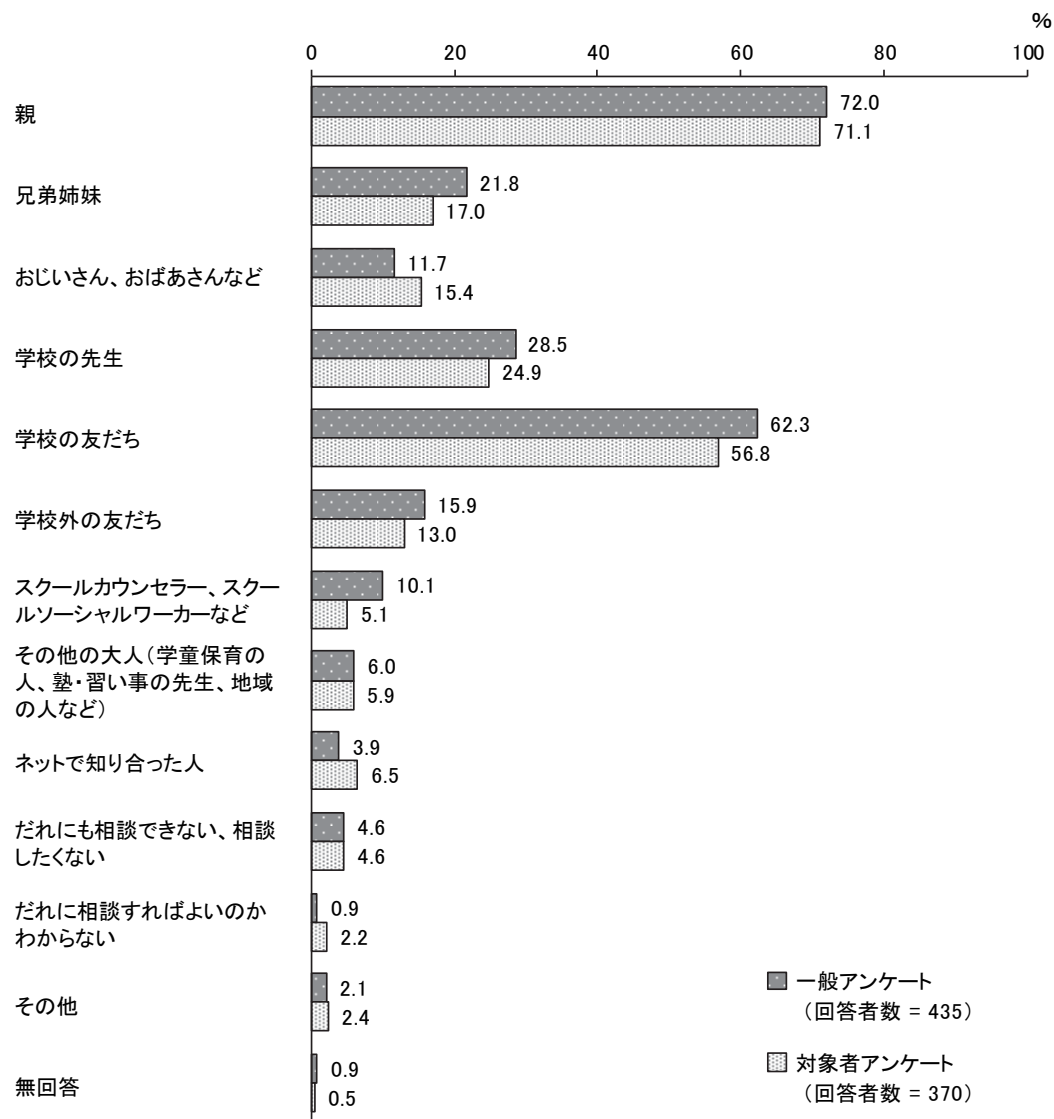
一般アンケートでは、「家で過ごすことが多い」の割合が 72.2%と最も高く、次いで「塾や習い事」の割合が 36.6%、「部活動」の割合が 32.9%となっている。

対象者アンケートでは、「家で過ごすことが多い」の割合が 76.8%と最も高く、次いで「部活動」の割合が 28.4%、「友だちと外で遊ぶ」の割合が 23.8%となっている。



## (7) 相談相手

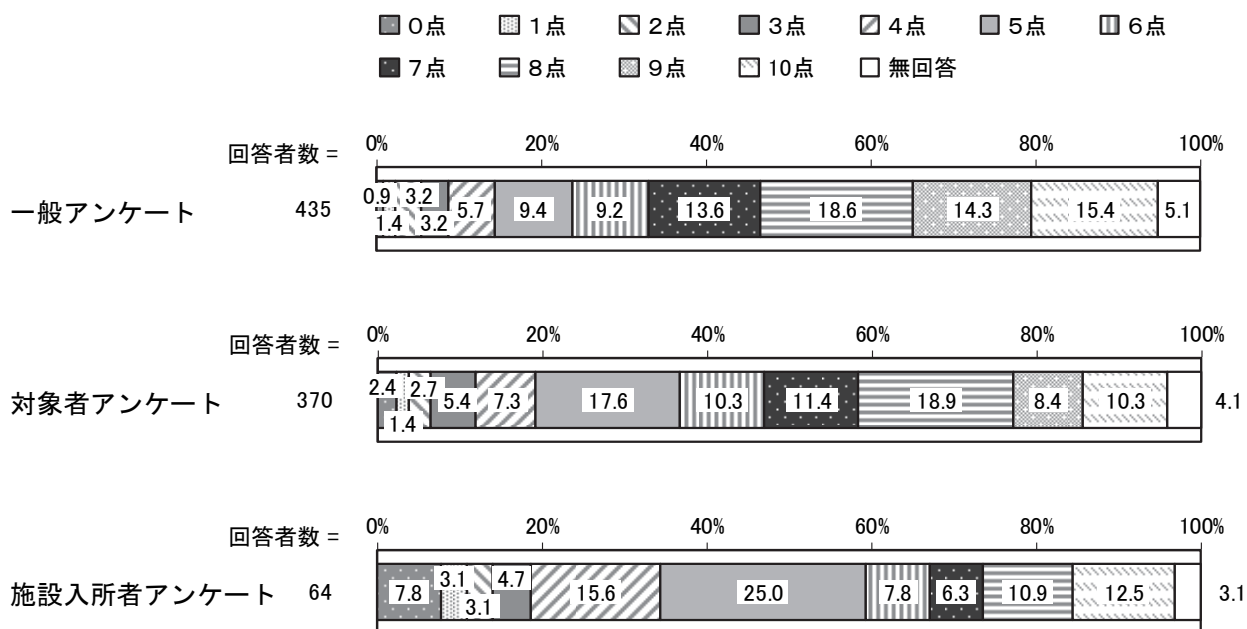
○悩んでいることや悩みごとがあるとき、相談できると思う人について、一般アンケート、対象者アンケートともに「親」の割合が最も高く、次いで「学校の友だち」「学校の先生」となっている。





## (8) 生活満足度

○最近の生活に対する満足度について、「6点～10点」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、一般アンケートで71.1%、対象者アンケートで59.3%、施設入所者アンケートで37.5%となっている。



## （９）新型コロナウイルス感染症の影響

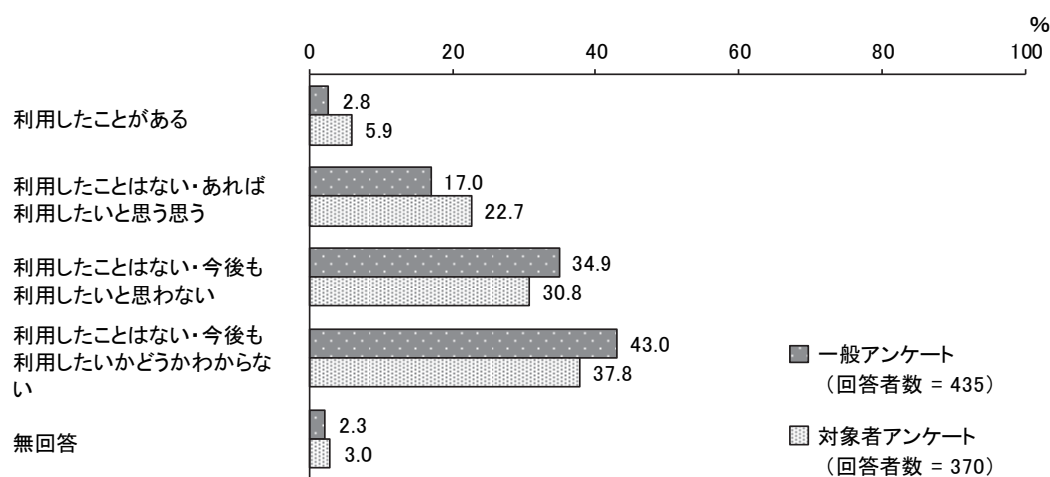
○新型コロナウイルス感染症の影響で、感染拡大前と比べて増えたこととして、一般アンケートでは、『(サ) 夜遅くまで起きている回数』『(ス) ゲームをする時間』『(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりするむこと』、対象者アンケートでは、『(サ) 夜遅くまで起きている回数』『(ス) ゲームをする時間』の割合が高くなっている。

○一方で減ったこととして、一般アンケート、対象者アンケートともに、『(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』『(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと』の割合が高くなっている。

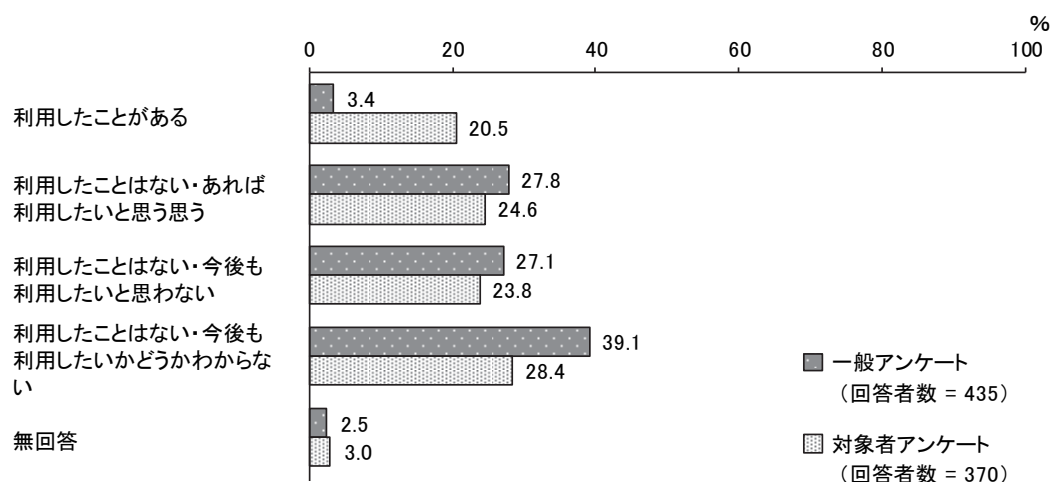
○一般アンケートと対象者アンケートで、大きな違いはない。

## （10）支援の利用状況等

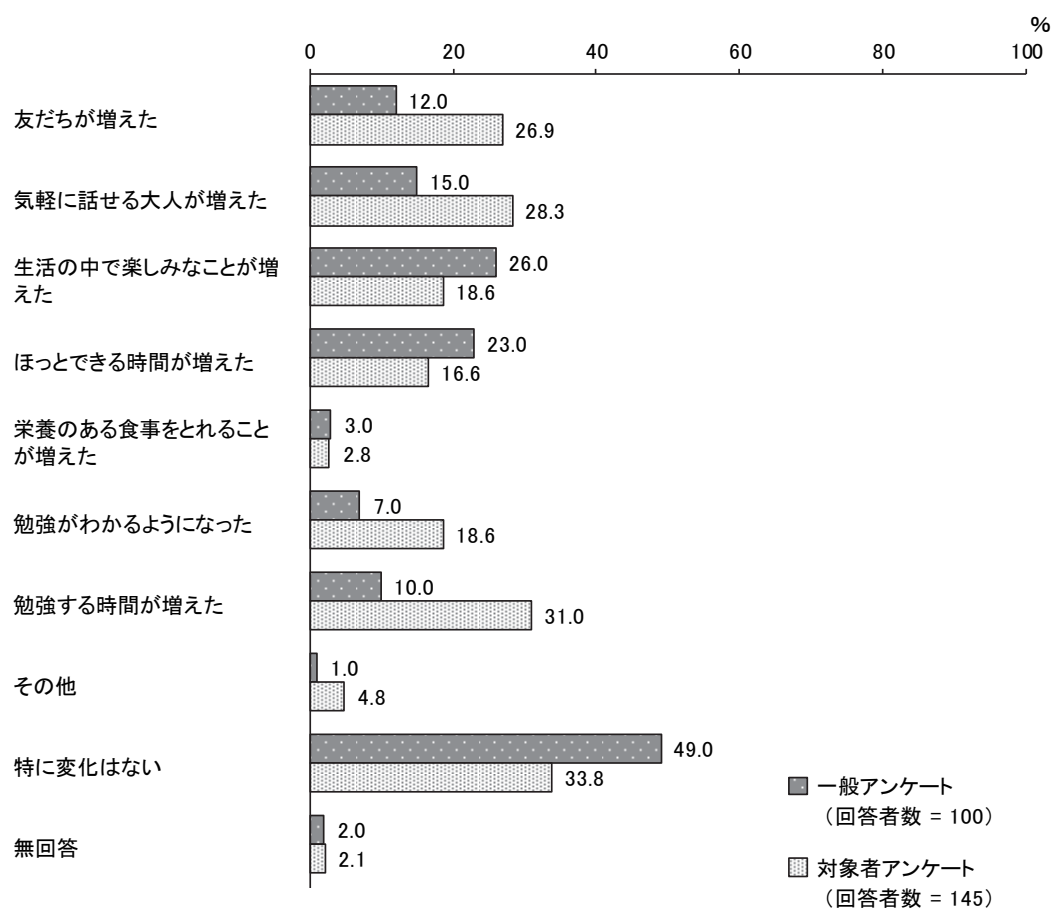
○ごはんを無料か安く食べることができる場所（子ども食堂など）を「利用したことはない・あれば利用したいと思う」は、一般アンケートで 17.0%に比べ、対象者アンケートでは 22.7%と高い。



○勉強を無料でみてくれる場所を「利用したことがある」は、一般アンケートで 3.4%に比べ、対象者アンケートでは 20.5%と高い。



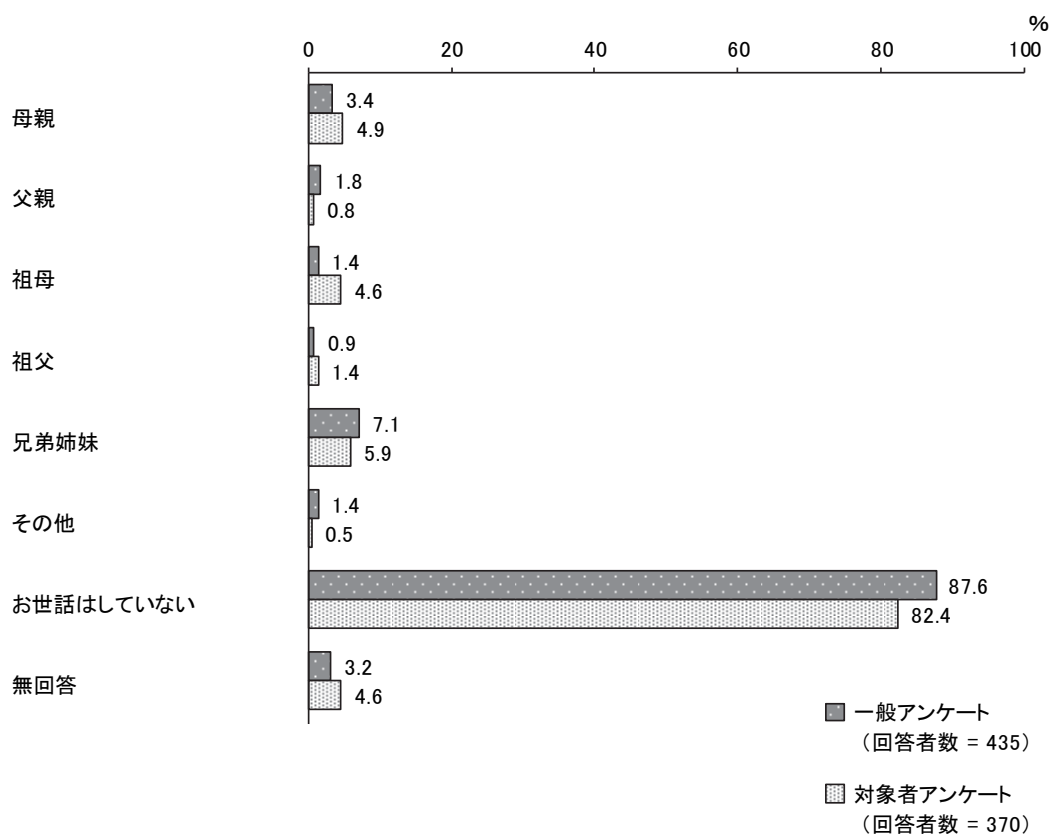
○支援を利用したことでの変化として、一般アンケート、対象者アンケートでは、「特に変化はない」の割合が最も高い。



## (11) 家族の世話の状況

○子どもの家族の世話の状況をみると、一般アンケートでは 9.2%、対象者アンケートでは 13.0%が家族のケアをしている。

一般アンケートでは、家族のケアをしている割合が 9.2%となっているのに対し、対象者アンケートでは、13.0%となっている。



### Ⅲ 支援者ヒアリング調査結果（概要）

困難を抱える家庭における保護者や子どもの状況について
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ネグレクト、学校からのお便りを読まない等、学校との関わりを拒絶している。</li> <li>○ひとり親世帯。実家などからの援助を得ることができない。</li> <li>○母子家庭ではDVにより経済的・心理的な影響が見られる。</li> <li>○パートナーが次々と変わっている。</li> <li>○困ったときに頼れる存在がいない。</li> <li>○親が精神的不調をはじめ、疾病を抱えていることがある。</li> </ul>
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生のころから積み重ねの習慣がなく、自学自習の習慣が身についていない傾向にある。</li> <li>○自己肯定感が低い。</li> <li>○早寝・早起き・朝ごはんなど日常生活習慣が身についていない。</li> <li>○他人とコミュニケーションがうまくとれない。</li> <li>○勉強の遅れから学習意欲が低下し、不登校になるケースもある。</li> </ul>
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者の持つ子どものイメージと、外での子ども状況に食い違いがある。</li> <li>○子どもが母親を気遣って自分らしさを出すことができない。</li> <li>○親の顔を見て行動する。親の前ではよい子どもでも、外では他人に辛く当たる傾向がある。</li> <li>○家が安心していられる場所になっていないため、親子関係の構築が不十分となっている。</li> </ul>
<p>&lt;保護者の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特にひとり親で女性の場合は、非正規雇用が多いイメージがある。</li> <li>○仕事が続かない傾向にあり、職を転々としている場合もある。</li> <li>○保護者は仕事と家事育児等で時間的・精神的かつ経済的余裕もなく、総じて多くのストレス（物理的・心理的）を抱えている。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響により、勤務する飲食店が閉店したり、収入面から継続して勤務することが難しくなったりする場合がある。</li> </ul>
<p>&lt;保護者の子どもとの関わり方の特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多くが過干渉（子どもに依存）、または養育放棄するなど、子どもとの距離感が適切ではない。</li> <li>○時間や精神的な余裕の無さから、目や手をかけられず、子どもに向き合うことができていない。</li> </ul>
<p>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本人の素因（性格、発達の特徴や病気など）から、支援者とうまく関係を結べない。</li> <li>○支援制度を知らない、知っていても活用する時間的・精神的余裕がない</li> <li>○家庭内生活面までの支援が必要であるが、現在の支援制度では難しい面もある。</li> <li>○保護者が情報をキャッチする力が弱い。</li> </ul>
活動上の課題、その他の意見等
<p>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○母親と子どもが虐待とネグレクトを受けていたケースについて、時間をかけて信頼関係を築き、地域のなかに居場所を見つけられるような支援ができた。</li> <li>○母親に寄り添い、関係構築を行い伴走した。必要な時に情報共有し、連携しながら必要な声かけを継続し、見守りをした。</li> <li>○市役所や学校、地域と連携しながら継続的に対応を続けたことで困ったときに頼れる関係性を築くことができた。</li> </ul>

**<支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題>**

- 実際に困難を抱える家庭がどのくらいあるのかという実態はつかめていない。
- 子どもと暮らすことができる生活スタイルを確立してもらうために、親の就労や就労意欲への基本的な支援が必要。
- 家庭の状況、経済状態、虐待、学校での様子などの子どもの情報が一元化されていないため、総合的に見たアセスメントを行うことが難しい。

**<現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について>**

- 支援情報を知らない方が多い。ネットで検索して行政のホームページが出てきても、文字の説明ばかりで、読んでも理解できなかつたり、読む気をなくしている。
- 母親はスマートフォン世代なので、紙媒体で発信しても受け取られない場合もある。
- 多くの支援や制度があるが、実際に届いていないということが課題。
- ひとり親家庭というと母子家庭が専門に支援されており、父子家庭の方が「どこに連絡したらよいかわからない」という話も聞く。

**<子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について>**

- 支援制度の見直しをするとともに、新たな支援のあり方の構築を望む。
- 各課をまたいで伴走型のサポートをする人が必要だと考える。
- 学校は子どもが一日の大半を過ごす場所でもある。支援ニーズがあっても表には見えていない子どもがいるため、学校と福祉の連携ができるような体制があると助かると思う。
- 子育て支援ショートステイについて、空きがなく断らざるを得ないケースもある。さらにコロナの影響もある。

**<希望する支援策>**

- 相談対応を受付カウンター等ではなく、個室など人目につかず話し声が他者に聞かれない場所で実施できると、相談者が安心して話をするができる。
- スクールソーシャルワークが定着していき、先生方がソーシャルワーカーを活用し、行政や地域と連携して支援ができることが望まれているのではないかな。
- 小規模な相談場所が多数分散している印象があり、効果的な支援につなげるため、区役所等に集約し、地域の相談を拾える組織になるとよい。
- 外国人の総合相談窓口の充実を希望したい。

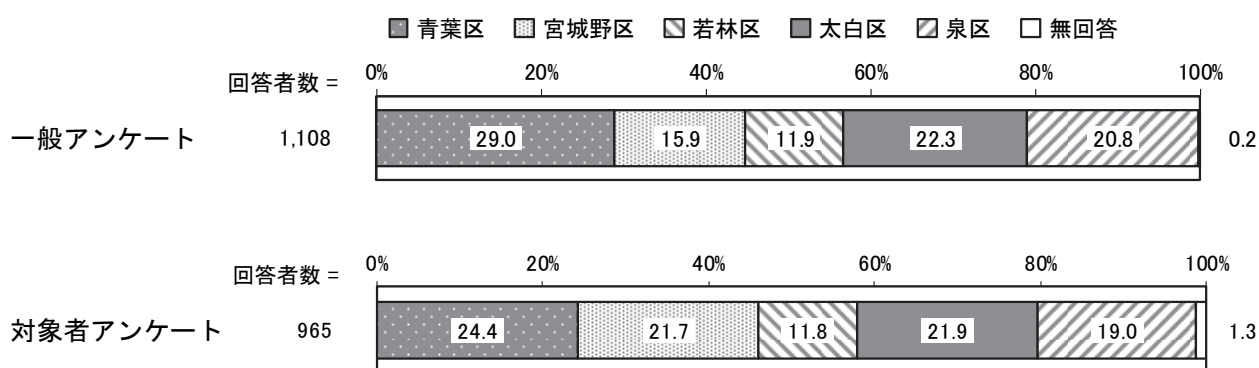
## IV 調査結果

### 1 保護者調査

#### 問1 現在のお住まいの区について教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「青葉区」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「太白区」の割合が 22.3%、「泉区」の割合が 20.8%となっている。

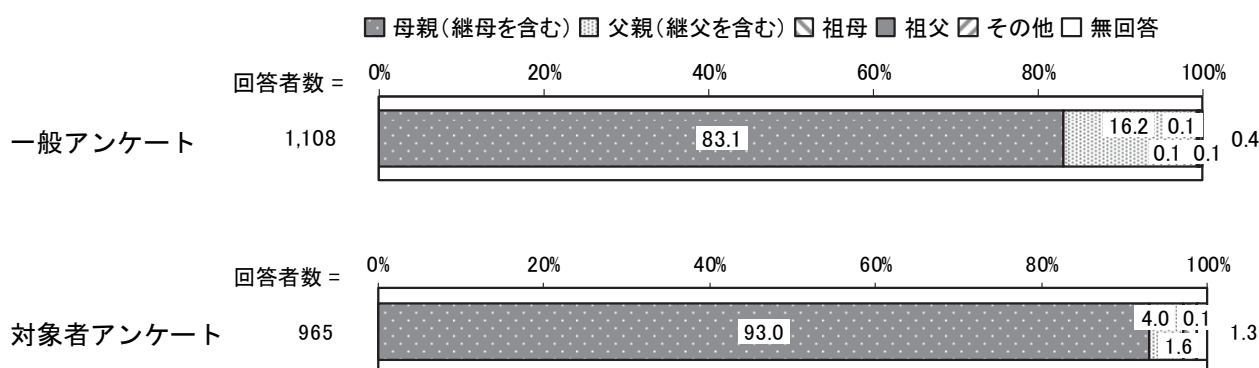
対象者アンケートでは、「青葉区」の割合が 24.4%と最も高く、次いで「太白区」の割合が 21.9%、「宮城野区」の割合が 21.7%となっている。



#### 問2 この調査に回答いただいている方（あなた）の、子どもからみた続柄について教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「母親（継母を含む）」の割合が 83.1%と最も高く、次いで「父親（継父を含む）」の割合が 16.2%となっている。

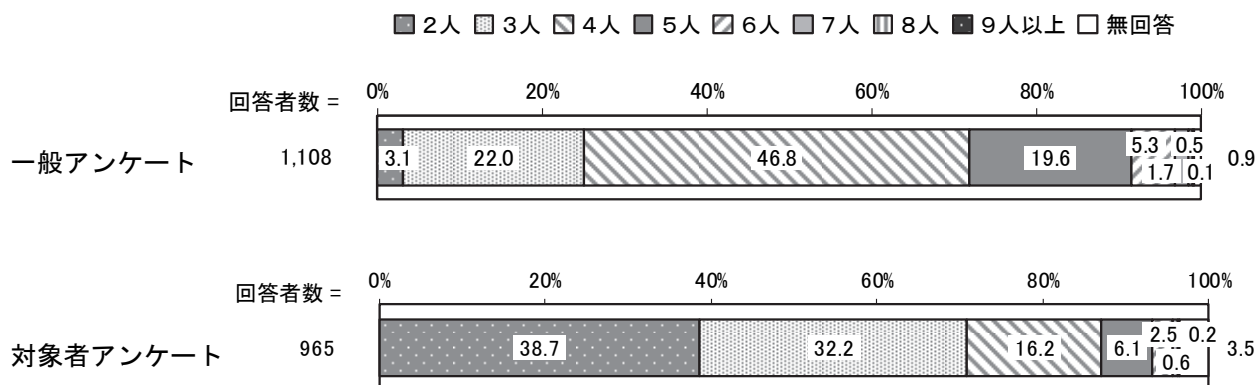
対象者アンケートでは、「母親（継母を含む）」の割合が 93.0%と最も高くなっている。



### 問3 普段一緒にお住まいで、生計を共にしている方（世帯員）は、あなたを含めて何人ですか。

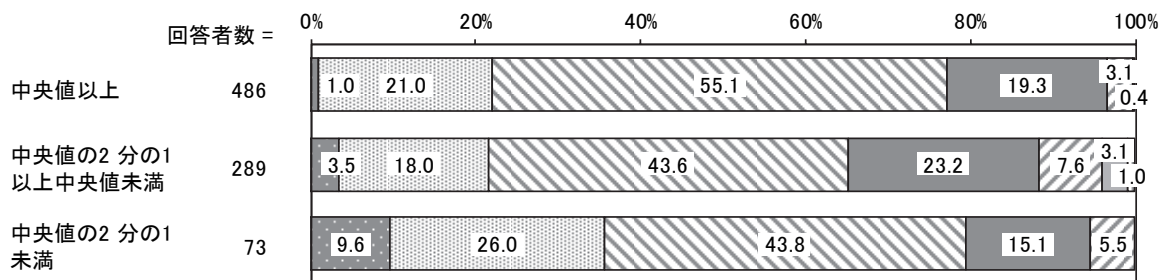
一般アンケートでは、「4人」の割合が46.8%と最も高く、次いで「3人」の割合が22.0%、「5人」の割合が19.6%となっている。

対象者アンケートでは、「2人」の割合が38.7%と最も高く、次いで「3人」の割合が32.2%、「4人」の割合が16.2%となっている。



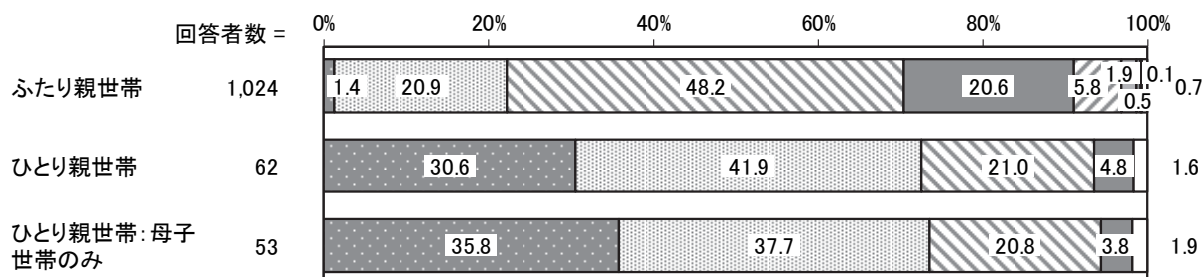
#### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「4人」の割合が、中央値の2分の1未満で「2人」の割合が高くなっている。また、中央値の2分の1以上中央値未満で「5人」の割合が高くなっている。



#### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「2人」の割合が、ふたり親世帯で「4人」の割合が高くなっている。



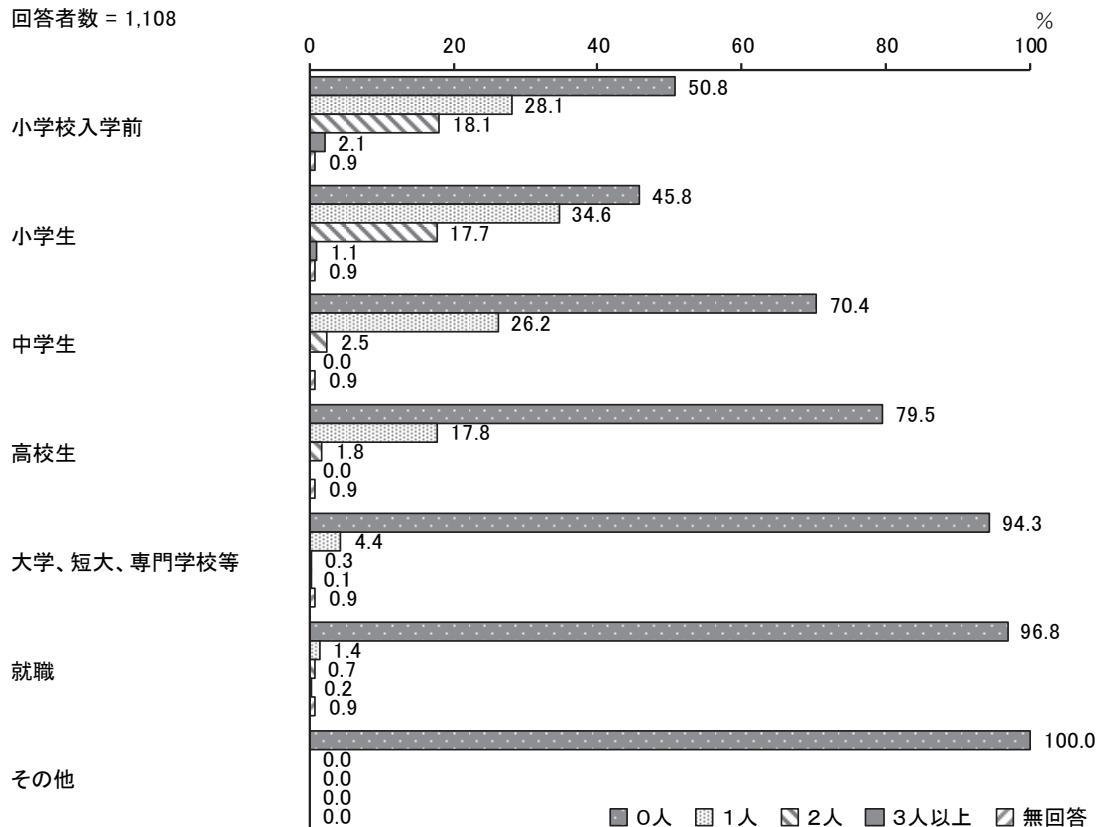


問4 あなたの世帯に含まれる方全員について、該当する区分ごとに人数を教えてください。

子どもの人数（2021年4月1日現在0歳から18歳未満の方）

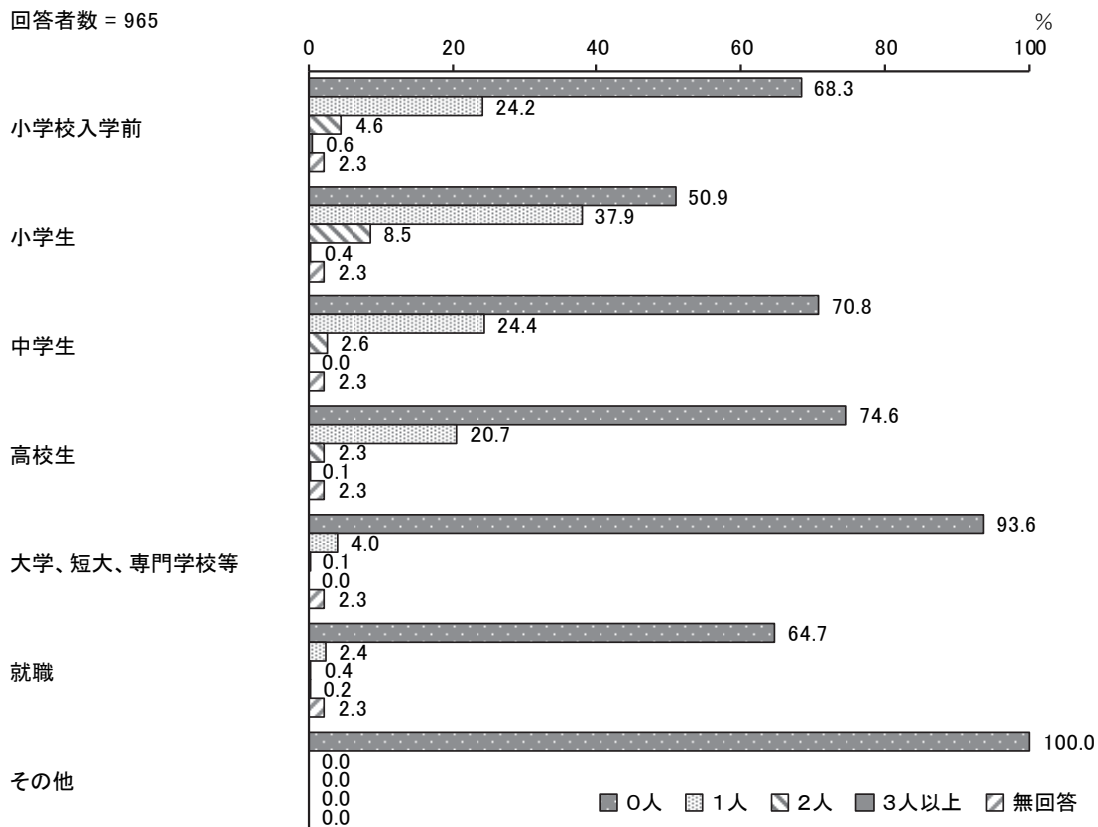
#### 一般アンケート

回答者数 = 1,108



#### 対象者アンケート

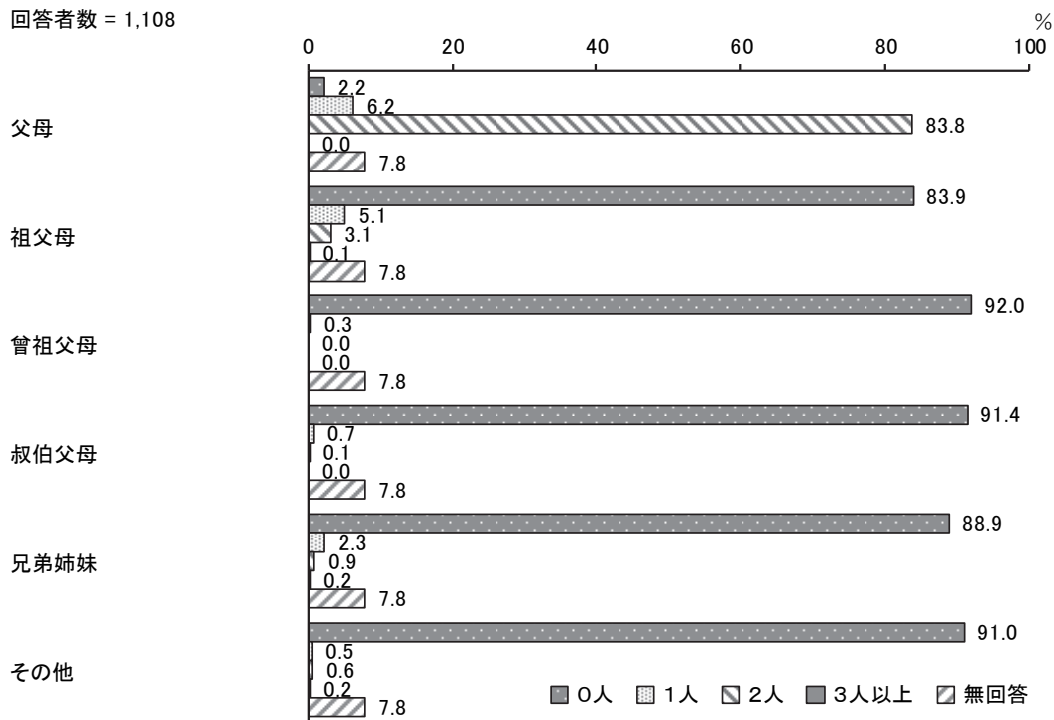
回答者数 = 965



## 子ども以外の世帯員の人数

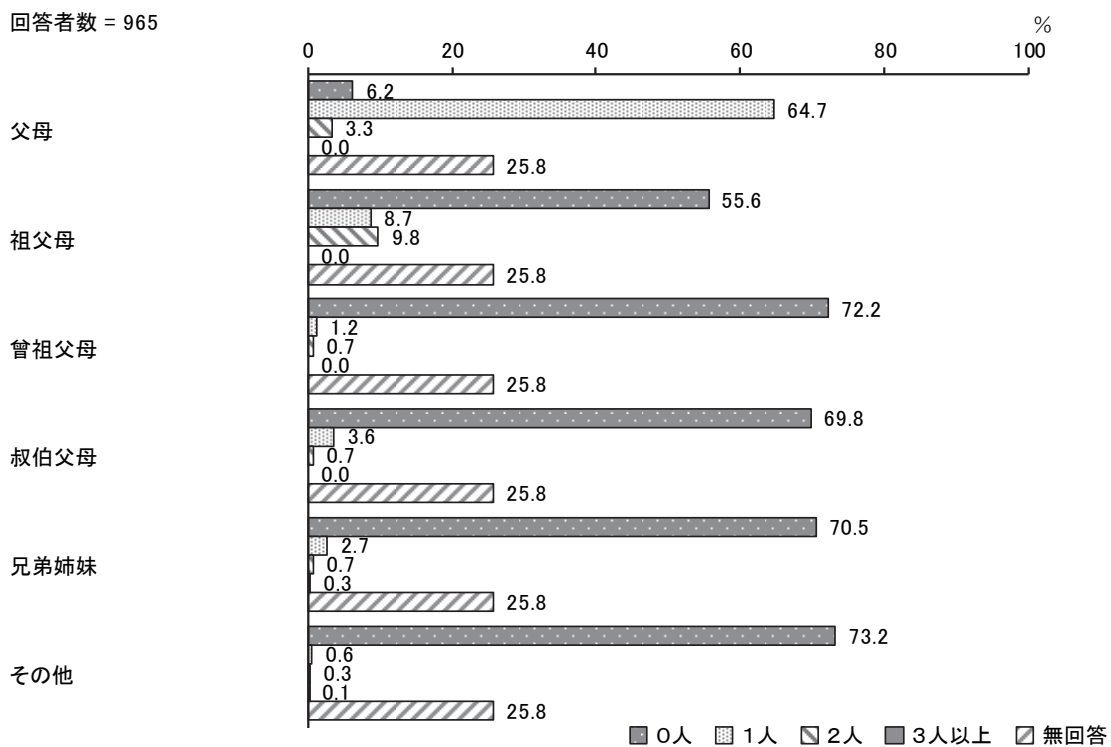
### 一般アンケート

回答者数 = 1,108



### 対象者アンケート

回答者数 = 965

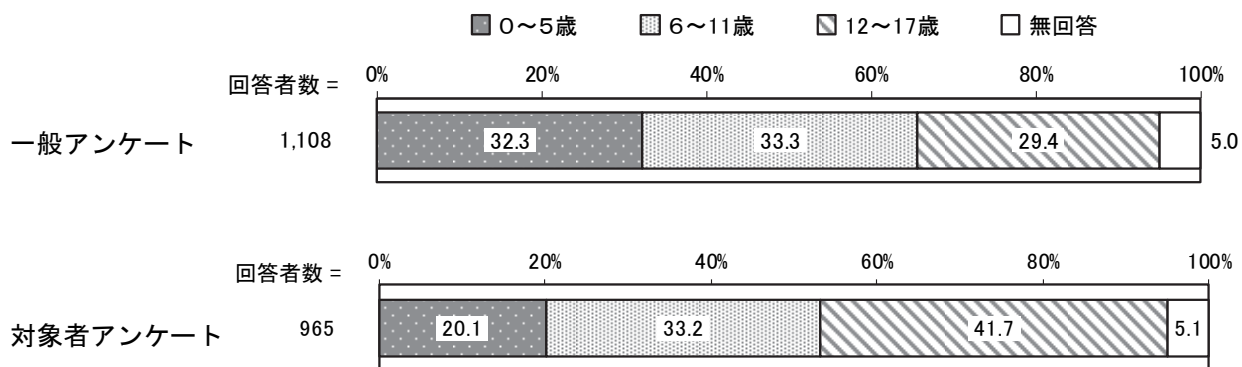


## 問5 宛名のお子さんの生年月（西暦）を教えてください。

年齢（2021年10月1日現在）

一般アンケートでは、「6～11歳」の割合が33.3%と最も高く、次いで「0～5歳」の割合が32.3%、「12～17歳」の割合が29.4%となっている。

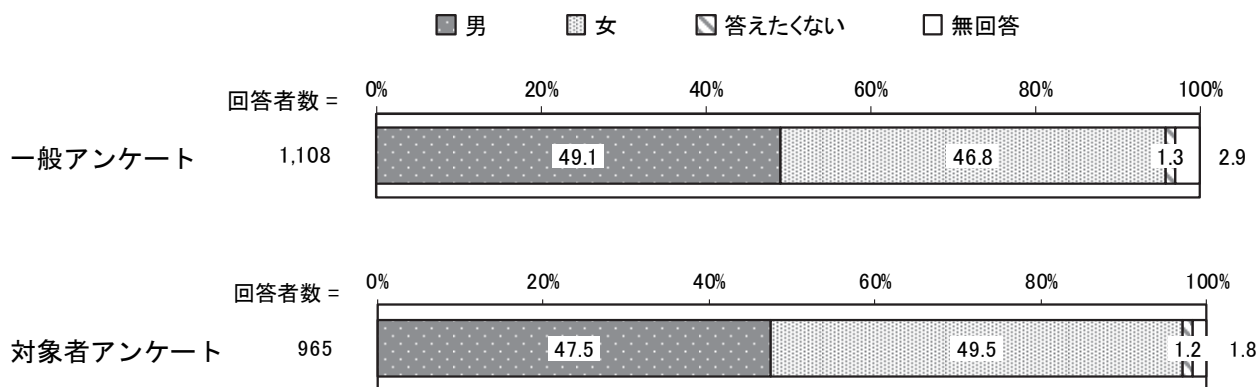
対象者アンケートでは、「12～17歳」の割合が41.7%と最も高く、次いで「6～11歳」の割合が33.2%、「0～5歳」の割合が20.1%となっている。



## 問6 宛名のお子さんの性別を教えてください。（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「男」の割合が49.1%と最も高く、次いで「女」の割合が46.8%となっている。

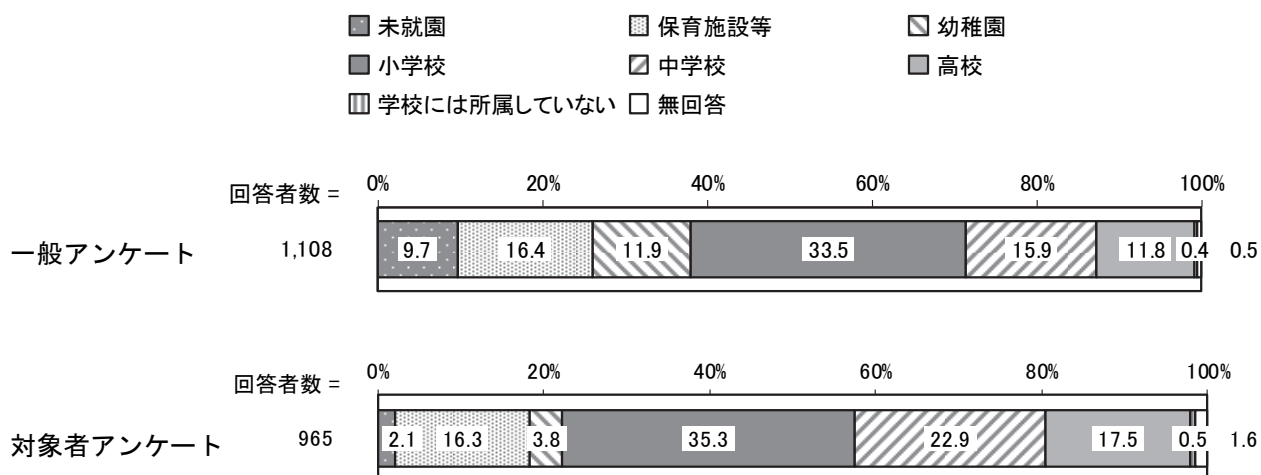
対象者アンケートでは、「女」の割合が49.5%と最も高く、次いで「男」の割合が47.5%となっている。



問7 宛名のお子さんが現在所属している学校教育機関等を教えてください。  
(〇は1つだけ)

一般アンケートでは、「小学校」の割合が33.5%と最も高く、次いで「保育施設等」の割合が16.4%、「中学校」の割合が15.9%となっている。

対象者アンケートでは、「小学校」の割合が35.3%と最も高く、次いで「中学校」の割合が22.9%、「高校」の割合が17.5%となっている。

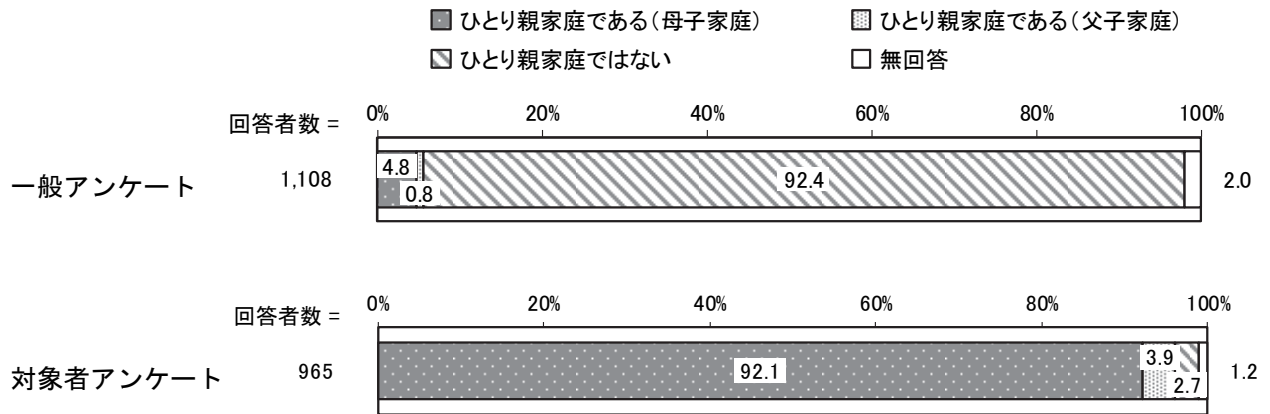


すべての方におたずねします。

問8 あなたの世帯は「ひとり親家庭」に該当しますか。(○は1つだけ)

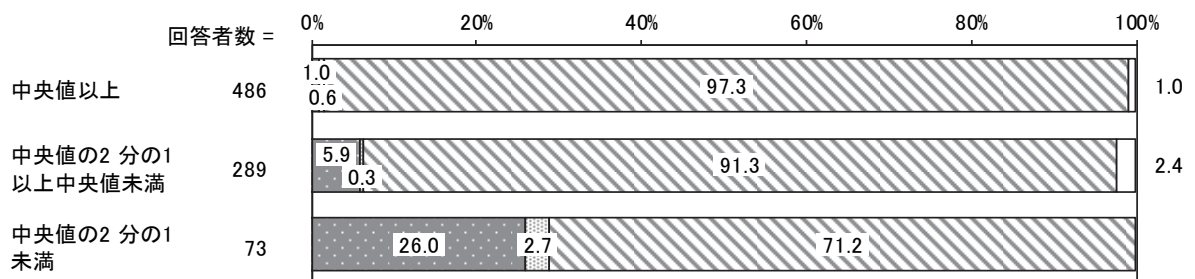
一般アンケートでは、「ひとり親家庭ではない」の割合が92.4%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「ひとり親家庭である(母子家庭)」の割合が92.1%と最も高くなっている。



【所得区分別】(一般アンケート)

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値以上で「ひとり親家庭ではない」の割合が、中央値の2分の1未満で「ひとり親家庭である(母子家庭)」の割合が高くなっている。

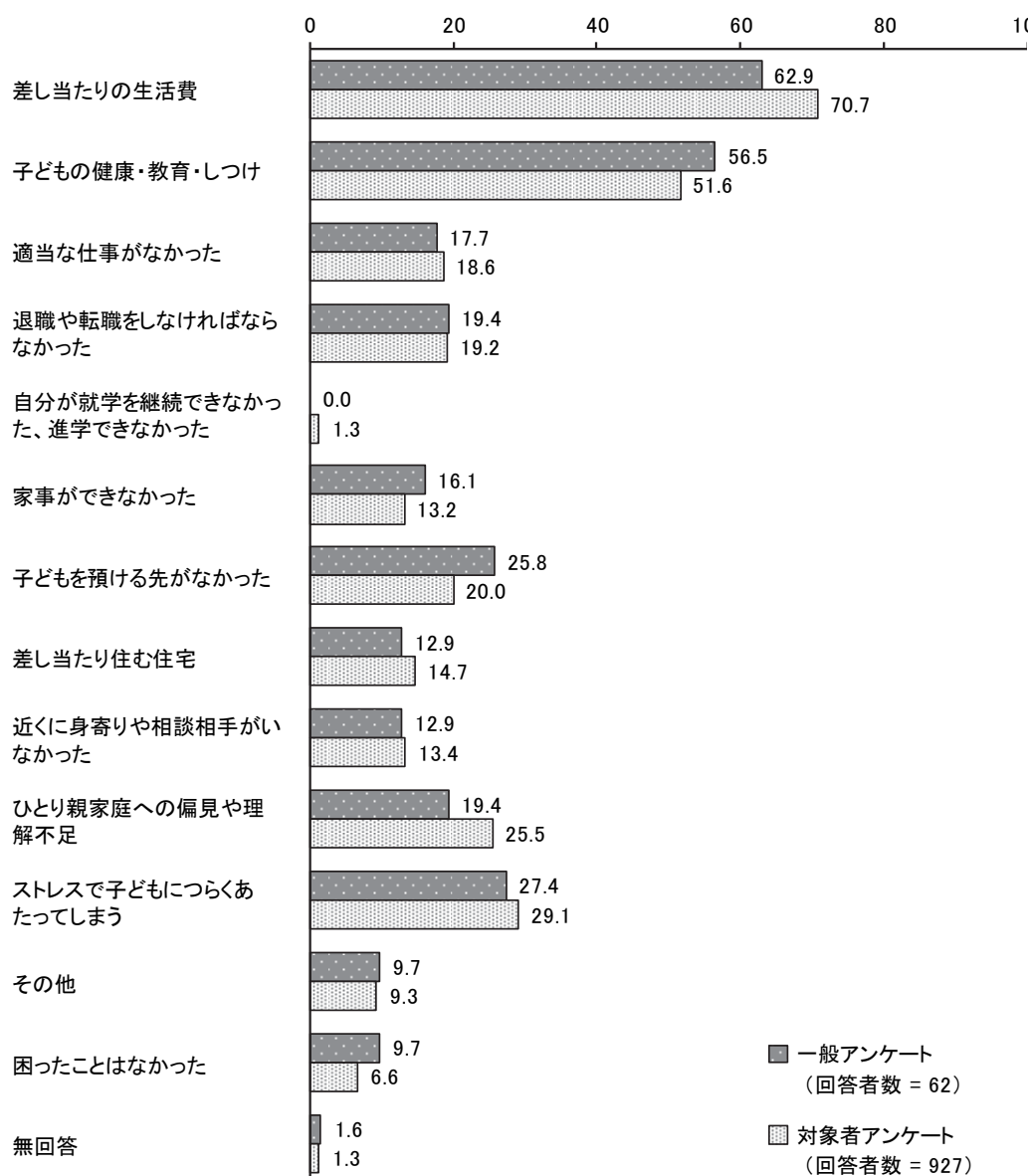


## ひとり親の方のみおたずねします。

### 問9 ひとり親家庭になって困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「差し当たりの生活費」の割合が 62.9%と最も高く、次いで「子どもの健康・教育・しつけ」の割合が 56.5%、「ストレスで子どもにつらくあたってしまう」の割合が 27.4%となっている。

対象者アンケートでは、「差し当たりの生活費」の割合が 70.7%と最も高く、次いで「子どもの健康・教育・しつけ」の割合が 51.6%、「ストレスで子どもにつらくあたってしまう」の割合が 29.1%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「差し当たりの生活費」「ひとり親家庭への偏見や理解不足」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で「差し当たり住む住宅」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	差し当たりの生活費	子どもの健康・教育・しつけ	適当な仕事がなかった	退職や転職をしなければならなかった	自分が就学を継続できなかった、進学できなかった	家事ができなかった	子どもを預ける先がなかった	差し当たり住む住宅	近くに身寄りや相談相手がいなかった	ひとり親家庭への偏見や理解不足	ストレスで子どもにつらくあたってしまう	その他	困ったことはなかった	無回答
中央値以上	8	25.0	50.0	—	—	—	12.5	25.0	—	12.5	12.5	12.5	—	37.5	—
中央値の2分の1以上中央値未満	18	61.1	55.6	16.7	22.2	—	16.7	27.8	27.8	16.7	16.7	33.3	11.1	5.6	5.6
中央値の2分の1未満	21	85.7	66.7	28.6	28.6	—	23.8	33.3	14.3	14.3	33.3	38.1	19.0	—	—

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はない。

単位：％

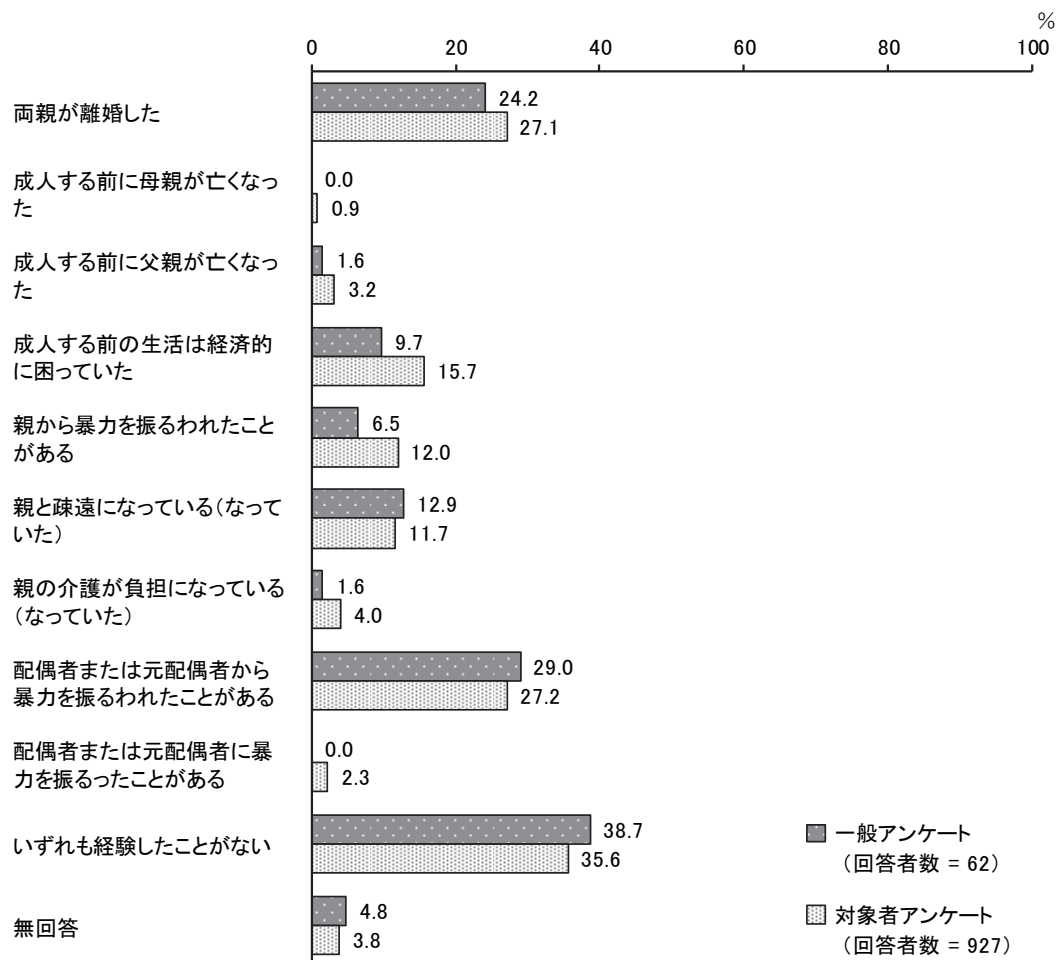
区分	回答者数（件）	差し当たりの生活費	子どもの健康・教育・しつけ	適当な仕事がなかった	退職や転職をしなければならなかった	自分が就学を継続できなかった、進学できなかった	家事ができなかった	子どもを預ける先がなかった
ふたり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯	62	62.9	56.5	17.7	19.4	—	16.1	25.8
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	66.0	52.8	20.8	18.9	—	15.1	24.5

区分	差し当たり住む住宅	近くに身寄りや相談相手がいなかった	ひとり親家庭への偏見や理解不足	ストレスで子どもにつらくあたってしまう	その他	困ったことはなかった	無回答
ふたり親世帯	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯	12.9	12.9	19.4	27.4	9.7	9.7	1.6
ひとり親世帯：母子世帯のみ	15.1	15.1	22.6	28.3	11.3	7.5	1.9

問 10 あなたは、以下のような経験をしたことがありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「いずれも経験したことがない」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある」の割合が 29.0%、「両親が離婚した」の割合が 24.2%となっている。

対象者アンケートでは、「いずれも経験したことがない」の割合が 35.6%と最も高く、次いで「配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある」の割合が 27.2%、「両親が離婚した」の割合が 27.1%となっている。





# 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「いずれも経験したことがない」の割合が、中央値の 2 分の 1 未満で「配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	両親が離婚した	成人する前に母親が亡くなった	成人する前に父親が亡くなった	成人する前の生活は経済的に困っていた	親から暴力を振るわれたことがある	親と疎遠になっている（なっていた）	親の介護が負担になっている（なっていた）	配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある	配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある	いずれも経験したことがない	無回答
中央値以上	8	12.5	—	—	—	—	—	—	25.0	—	50.0	12.5
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	18	5.6	—	—	5.6	5.6	16.7	—	22.2	—	50.0	11.1
中央値の 2 分の 1 未満	21	28.6	—	4.8	19.0	14.3	23.8	4.8	42.9	—	23.8	—

# 【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はない。

単位：％

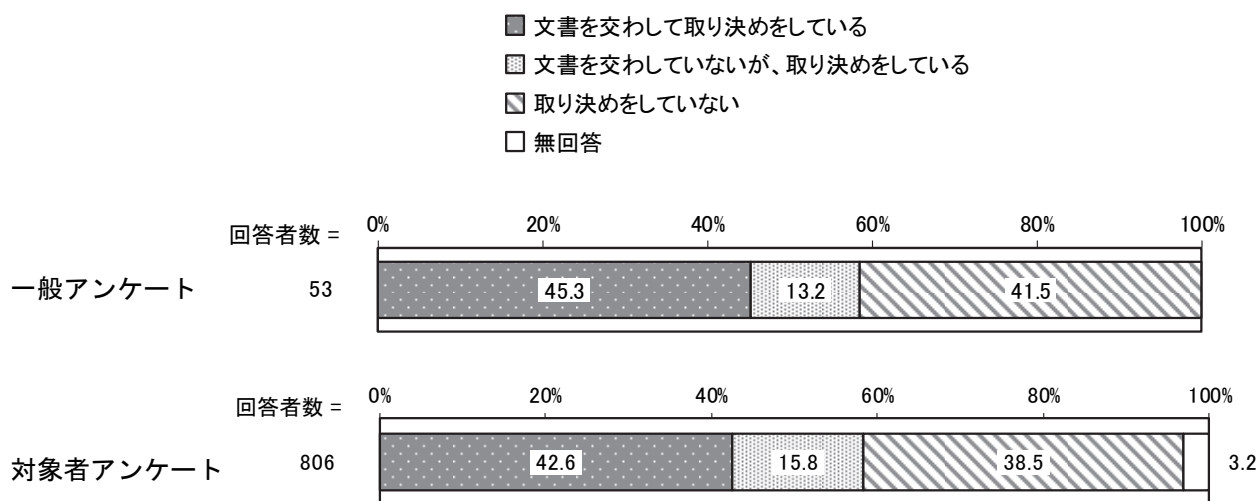
区分	回答者数（件）	両親が離婚した	成人する前に母親が亡くなった	成人する前に父親が亡くなった	成人する前の生活は経済的に困っていた	親から暴力を振るわれたことがある	親と疎遠になっている（なっていた）	親の介護が負担になっている（なっていた）	配偶者または元配偶者から暴力を振るわれたことがある	配偶者または元配偶者に暴力を振るったことがある	いずれも経験したことがない	無回答
ふたり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯	62	24.2	—	1.6	9.7	6.5	12.9	1.6	29.0	—	38.7	4.8
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	28.3	—	—	9.4	7.5	15.1	1.9	30.2	—	35.8	3.8

離婚によってひとり親となった方のみおたずねします。

問 11 離婚した元配偶者とのあいだに、養育費の取り決めをしていますか。  
(○は1つだけ)

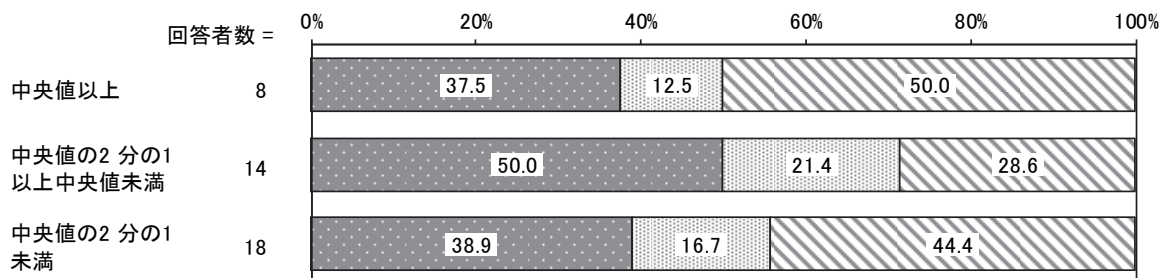
一般アンケートでは、「文書を交わして取り決めをしている」の割合が 45.3%と最も高く、次いで「取り決めをしていない」の割合が 41.5%、「文書を交わしていないが、取り決めをしている」の割合が 13.2%となっている。

対象者アンケートでは、「文書を交わして取り決めをしている」の割合が 42.6%と最も高く、次いで「取り決めをしていない」の割合が 38.5%、「文書を交わしていないが、取り決めをしている」の割合が 15.8%となっている。



#### 【所得区分別】（一般アンケート）

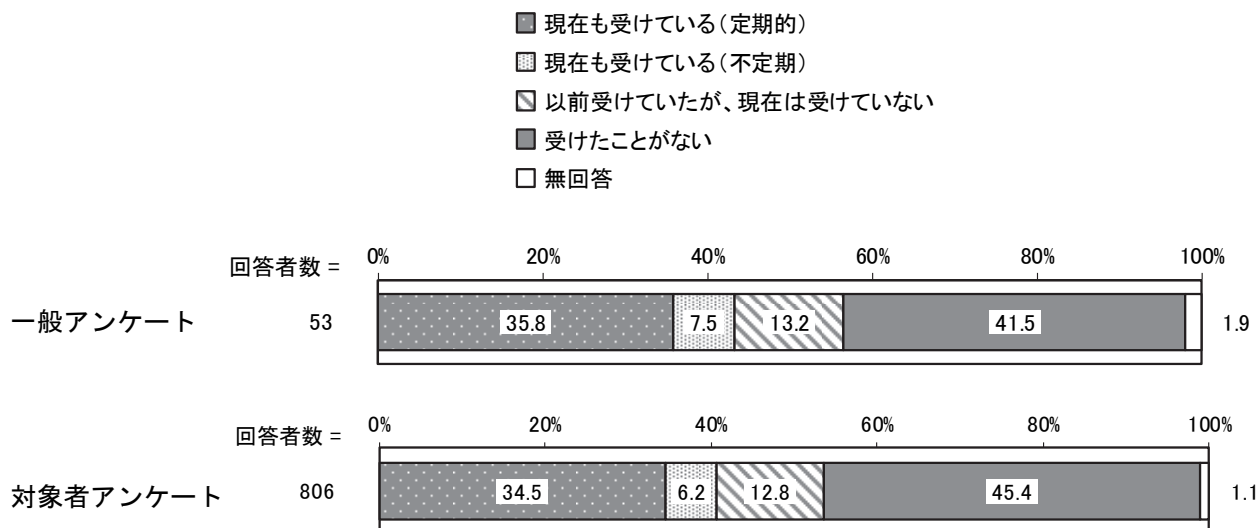
一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「文書を交わして取り決めをしている」の割合が高くなっている。



## 問 12 離婚した元配偶者から、養育費を受けていますか。(〇は1つだけ)

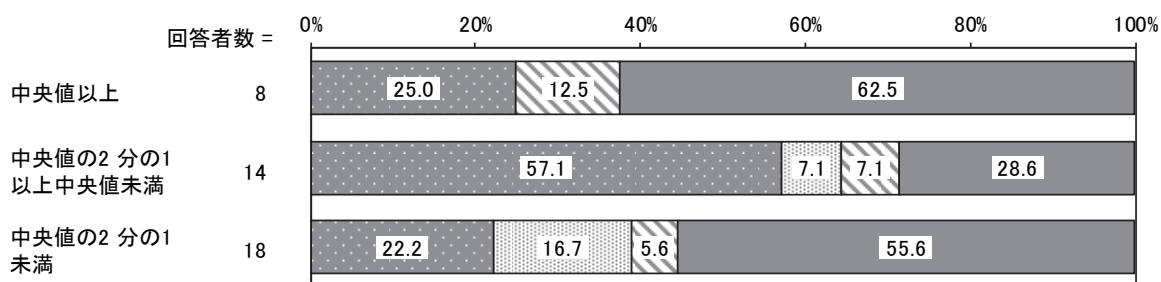
一般アンケートでは、「受けたことがない」の割合が 41.5%と最も高く、次いで「現在も受けている（定期的）」の割合が 35.8%、「以前受けていたが、現在は受けていない」の割合が 13.2%となっている。

対象者アンケートでは、「受けたことがない」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「現在も受けている（定期的）」の割合が 34.5%、「以前受けていたが、現在は受けていない」の割合が 12.8%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「現在も受けている（定期的）」の割合が高くなっている。

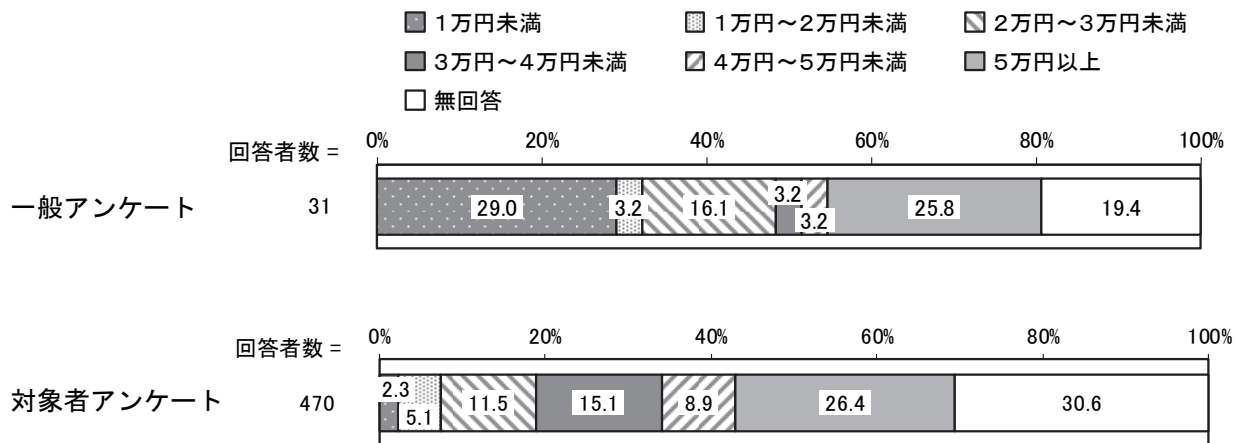


問 11 で「1. 文書を交わして取り決めをしている」「2. 文書を交わしていないが、取り決めをしている」と答えた方におたずねします。

問 13 養育費について、ひと月の取り決め総額はどのくらいですか。

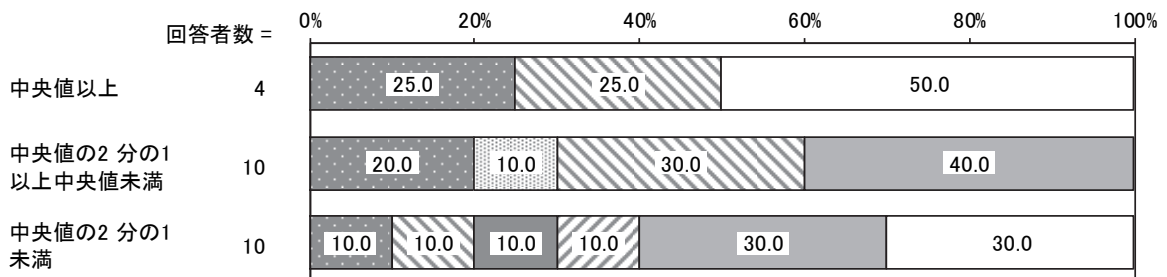
一般アンケートでは、「1 万円未満」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「5 万円以上」の割合が 25.8%、「2 万円～3 万円未満」の割合が 16.1%となっている。

対象者アンケートでは、「5 万円以上」の割合が 26.4%と最も高く、次いで「3 万円～4 万円未満」の割合が 15.1%、「2 万円～3 万円未満」の割合が 11.5%となっている。



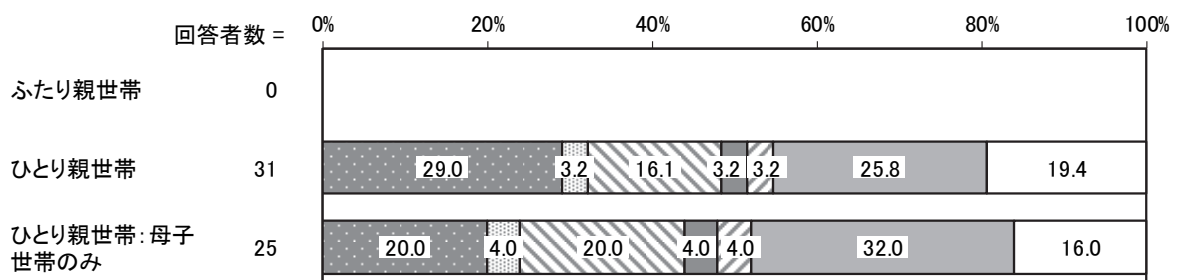
#### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「2 万円～3 万円未満」の割合が高くなっている。



#### 【家族構成別】

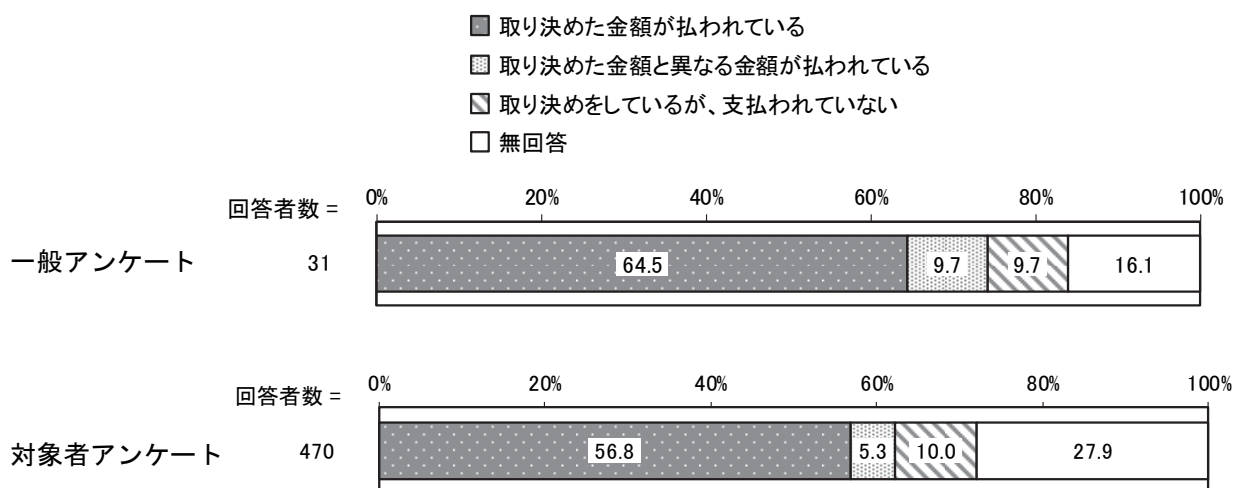
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「1 万円未満」の割合が、ひとり親世帯：母子世帯のみで「5 万円以上」の割合が高くなっている。



# 問 14 養育費の支払い状況は次のうちどれにあたりますか。(○は1つだけ)

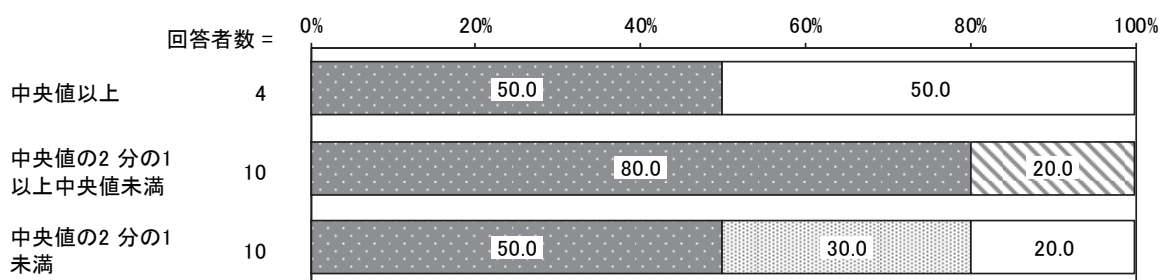
一般アンケートでは、「取り決めた金額が払われている」の割合が 64.5%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「取り決めた金額が払われている」の割合が 56.8%と最も高く、次いで「取り決めをしているが、支払われていない」の割合が 10.0%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「取り決めた金額と異なる金額が払われている」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で「取り決めた金額が払われている」の割合が高くなっている。

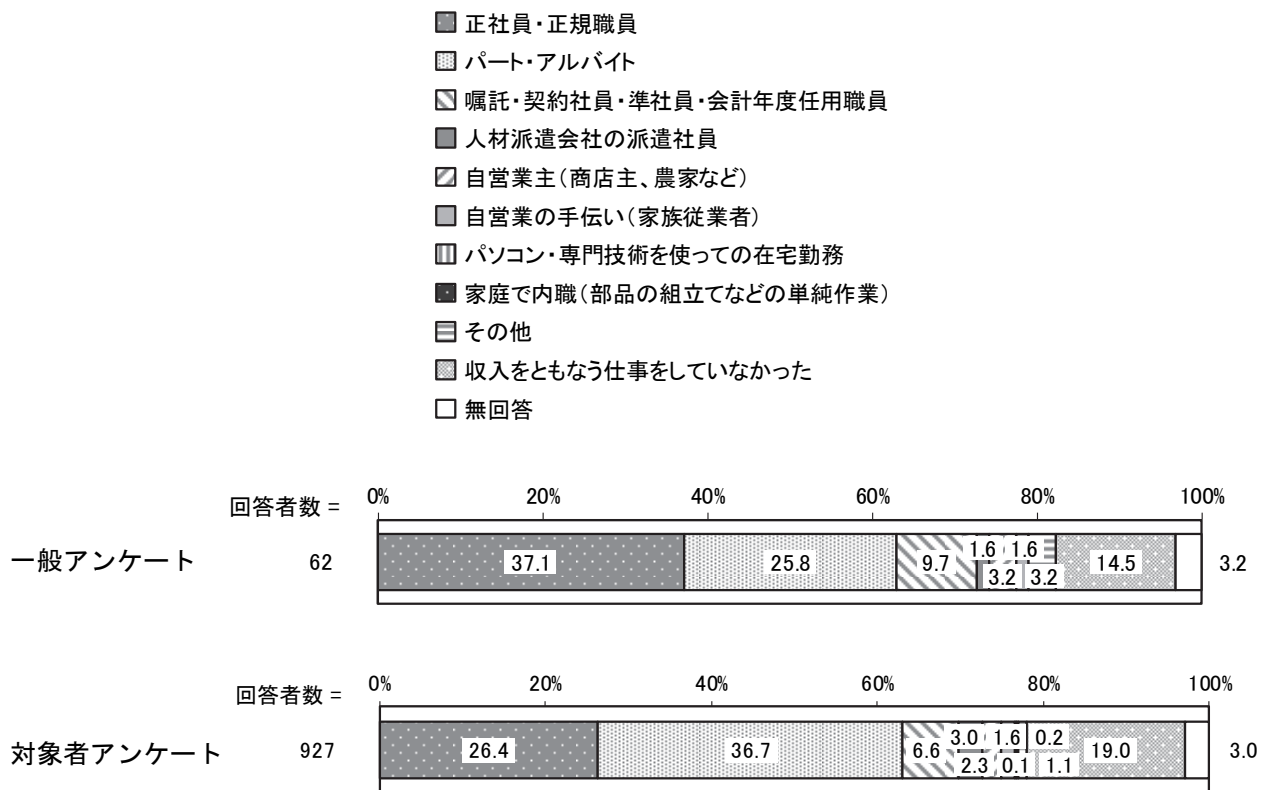


ひとり親の方すべてにおたずねします。

問 15 あなたがひとり親家庭になる前の就業形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

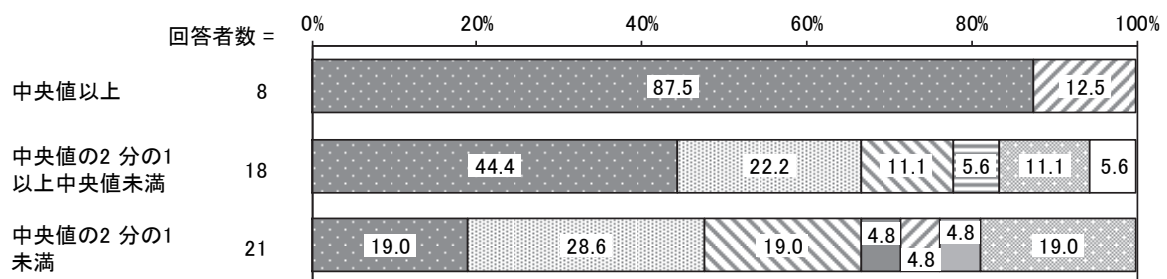
一般アンケートでは、「正社員・正規職員」の割合が37.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が25.8%、「収入をとまなう仕事をしていなかった」の割合が14.5%となっている。

対象者アンケートでは、「パート・アルバイト」の割合が36.7%と最も高く、次いで「正社員・正規職員」の割合が26.4%、「収入をとまなう仕事をしていなかった」の割合が19.0%となっている。



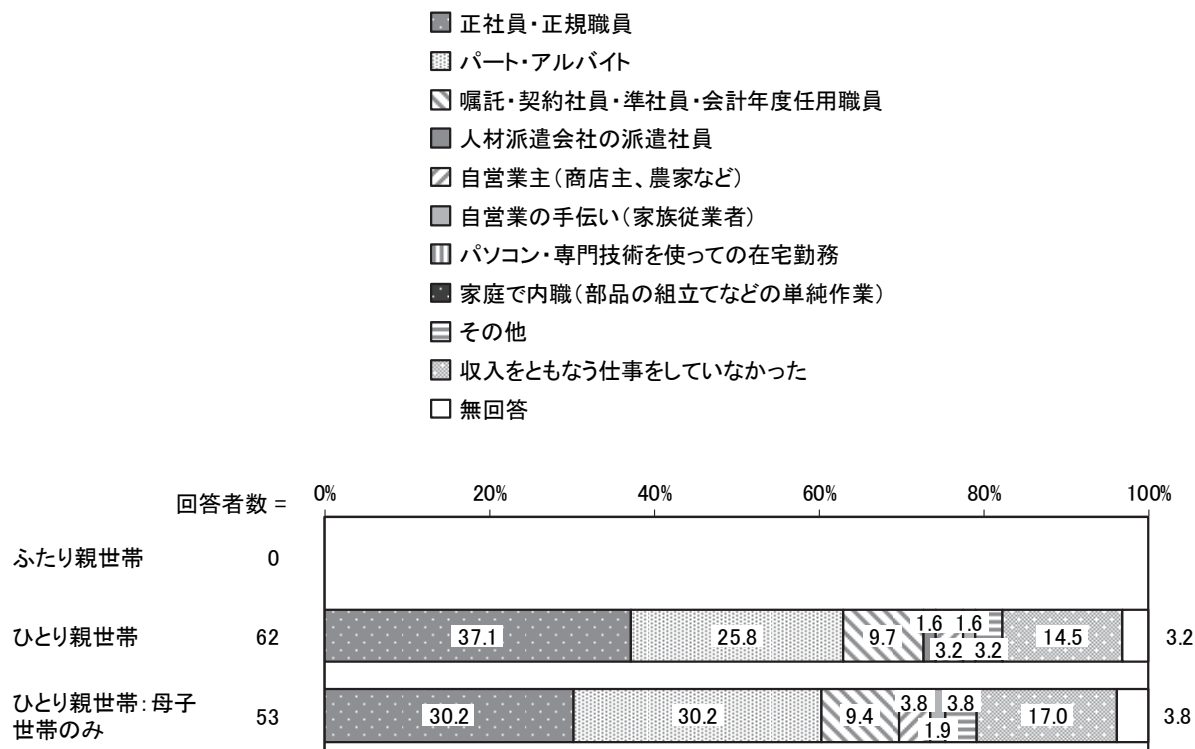
#### 【所得区分別】(一般アンケート)

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「正社員・正規職員」の割合が、中央値の2分の1未満で「パート・アルバイト」「収入をとまなう仕事をしていなかった」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「正社員・正規職員」の割合が高くなっている。

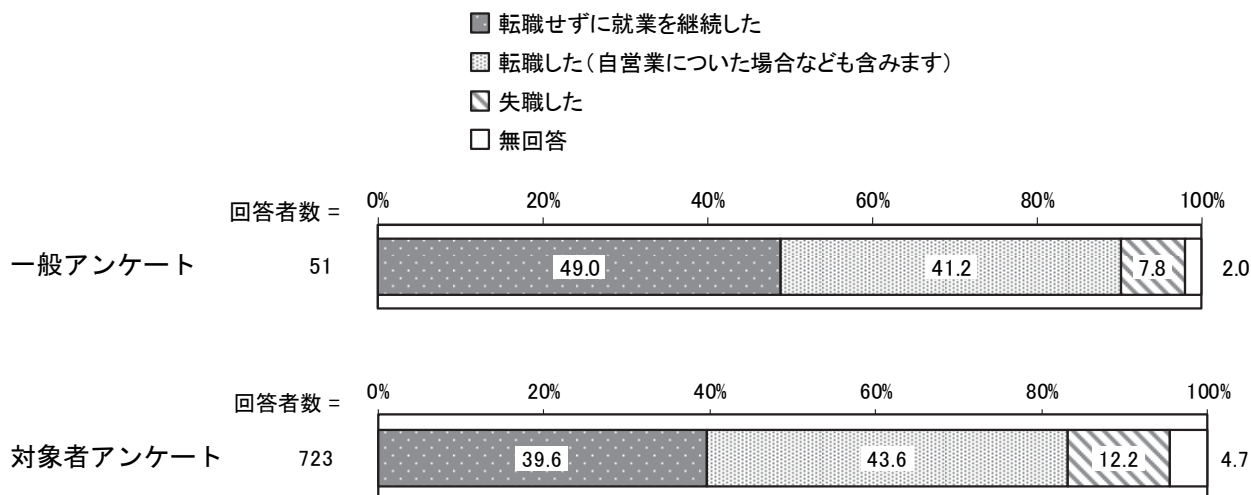


問 15 で 1 ～ 9 と答えた方におたずねします。

問 16 あなたはひとり親家庭になったことをきっかけとして転職や失職をしましたか。  
(○は1つだけ)

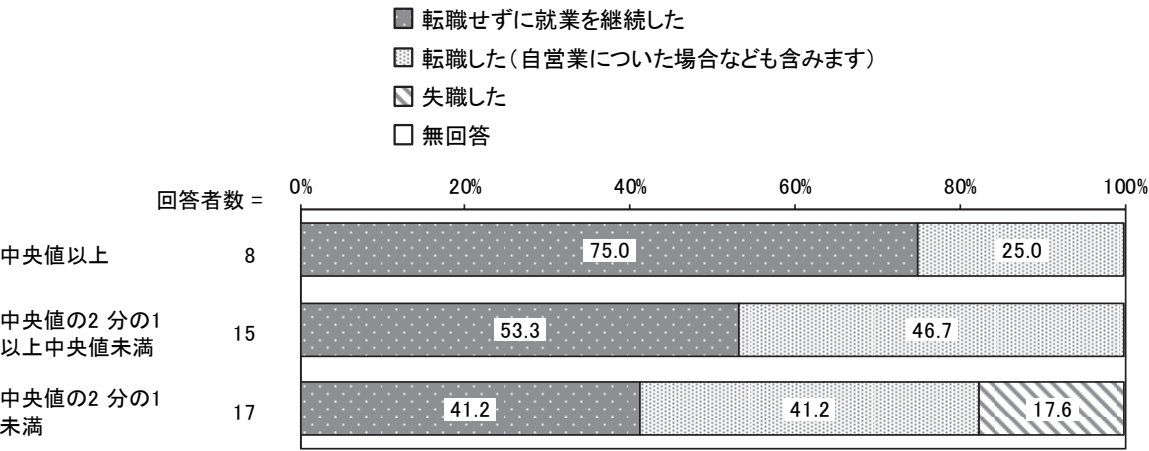
一般アンケートでは、「転職せずに就業を継続した」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「転職した(自営業についてした場合なども含みます)」の割合が 41.2%となっている。

対象者アンケートでは、「転職した(自営業についてした場合なども含みます)」の割合が 43.6%と最も高く、次いで「転職せずに就業を継続した」の割合が 39.6%、「失職した」の割合が 12.2%となっている。



【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「失職した」の割合が高くなっている。



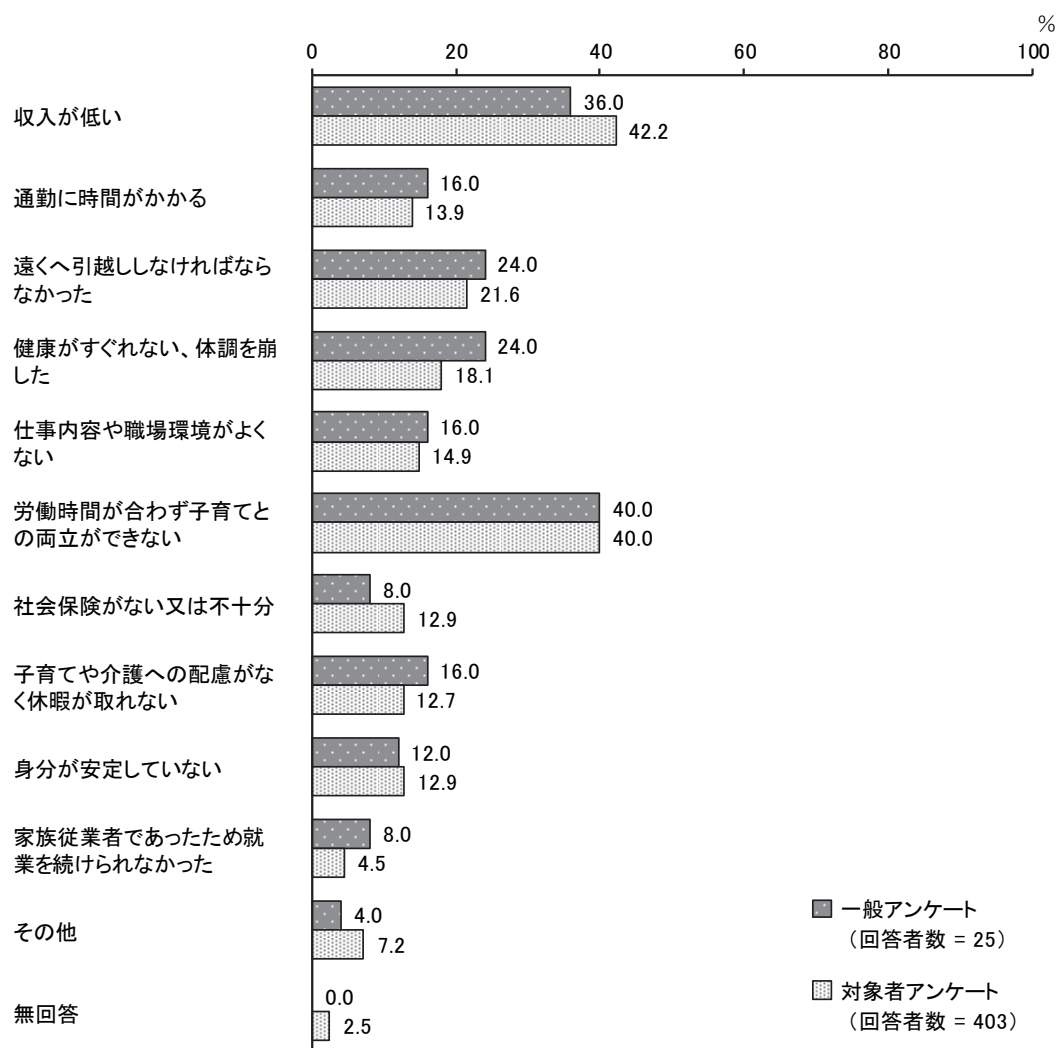


問 16 で「2. 転職した」「3. 失職した」と答えた方におたずねします。

問 17 ひとり親家庭となったことでそれまでの就業を続けられなかった理由は、次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「労働時間が合わず子育てとの両立ができない」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「収入が低い」の割合が 36.0%、「遠くへ引越ししなければならなかった」、「健康がすぐれない、体調を崩した」の割合が 24.0%となっている。

対象者アンケートでは、「収入が低い」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「労働時間が合わず子育てとの両立ができない」の割合が 40.0%、「遠くへ引越ししなければならなかった」の割合が 21.6%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、有効回答数が少ないため、コメントは控える。

単位：％

区分	回答者数（件）	収入が低い	通勤に時間がかかる	遠くへ引越しなければならなかった	健康がすぐれない、体調を崩した	仕事内容や職場環境がよい	労働時間が合わず子育てとの両立ができない	社会保険がない又は不十分	子育てや介護への配慮がなく休暇が取れない	身分が安定していない	家族従業者であったため就業を続けられなかった	その他	無回答
中央値以上	2	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—	50.0	50.0	—	—
中央値の2分の1以上中央値未満	7	57.1	28.6	—	28.6	28.6	28.6	14.3	14.3	—	—	—	—
中央値の2分の1未満	10	30.0	10.0	50.0	40.0	—	60.0	—	20.0	10.0	10.0	—	—

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「労働時間が合わず子育てとの両立ができない」の割合が高くなっている。

単位：％

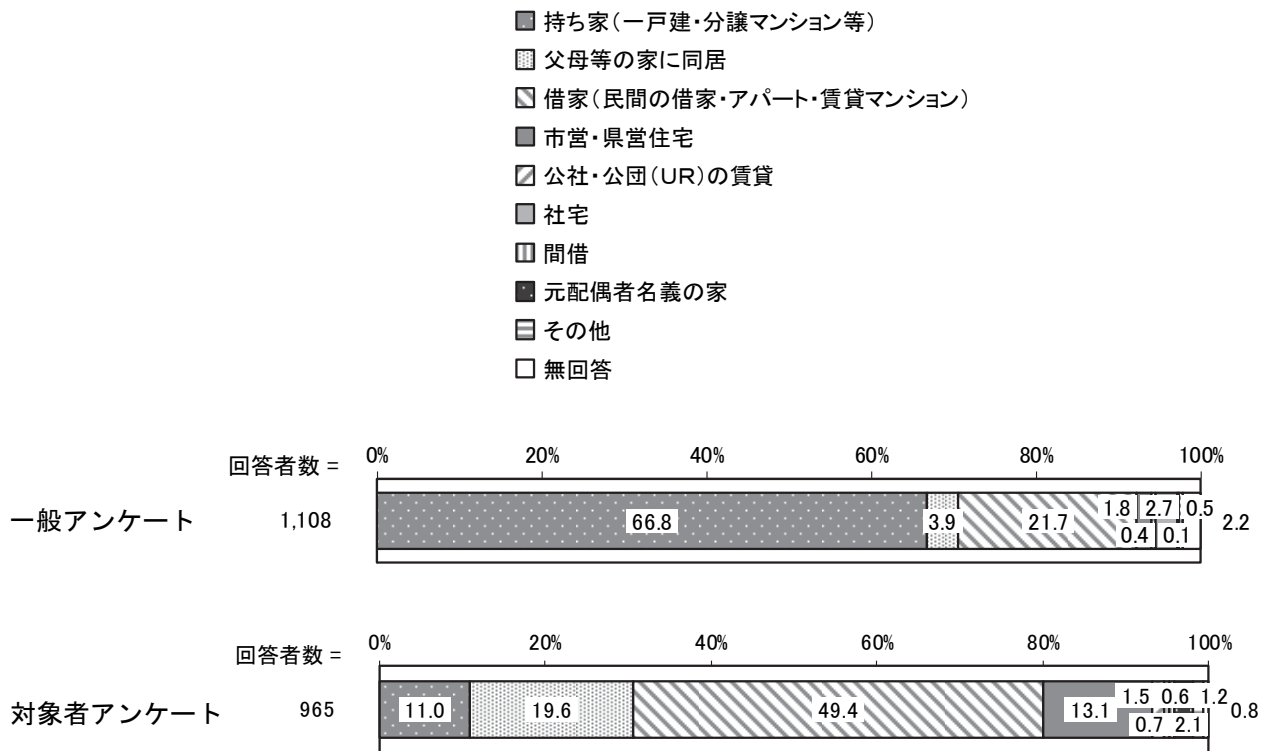
区分	回答者数（件）	収入が低い	通勤に時間がかかる	遠くへ引越しなければならなかった	健康がすぐれない、体調を崩した	仕事内容や職場環境がよい	労働時間が合わず子育てとの両立ができない	社会保険がない又は不十分	子育てや介護への配慮がなく休暇が取れない	身分が安定していない	家族従業者であったため就業を続けられなかった	その他	無回答
ふたり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯	25	36.0	16.0	24.0	24.0	16.0	40.0	8.0	16.0	12.0	8.0	4.0	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	21	33.3	14.3	23.8	28.6	19.0	33.3	9.5	19.0	9.5	9.5	4.8	—

すべての方におたずねします。

問 18 あなたの住居は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

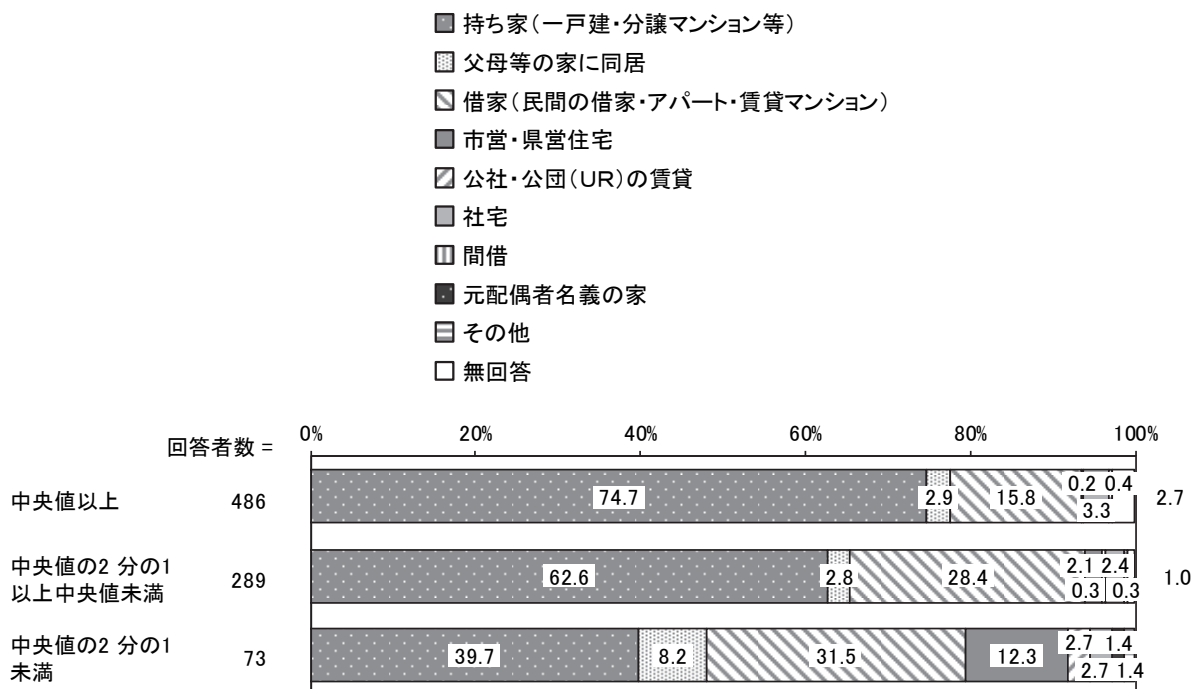
一般アンケートでは、「持ち家（一戸建・分譲マンション等）」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「借家（民間の借家・アパート・賃貸マンション）」の割合が 21.7%となっている。

対象者アンケートでは、「借家（民間の借家・アパート・賃貸マンション）」の割合が 49.4%と最も高く、次いで「父母等の家に同居」の割合が 19.6%、「市営・県営住宅」の割合が 13.1%となっている。



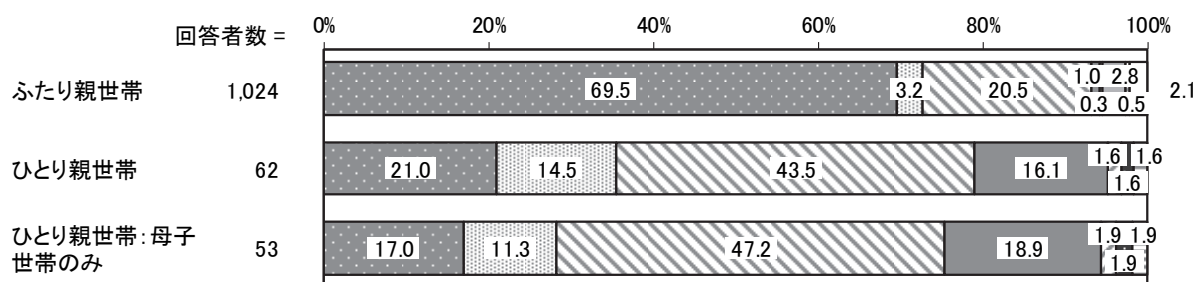
## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「持ち家（一戸建て・分譲マンション等）」の割合が、中央値の2分の1未満で「借家（民間の借家・アパート・賃貸マンション）」の割合及び「市営・県営住宅」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「持ち家（一戸建て・分譲マンション等）」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「借家（民間の借家・アパート・賃貸マンション）」の割合が高くなっている。



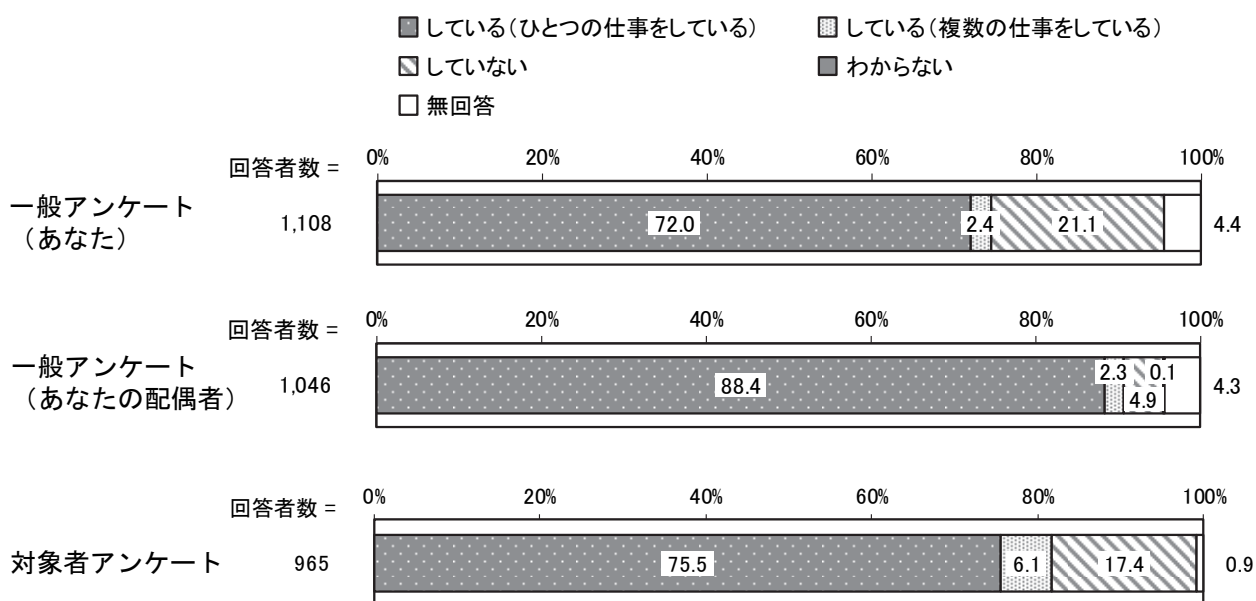
あなたとあなたの配偶者のことについておたずねします。

問 19 あなたとあなたの配偶者は、現在収入をとまなう仕事をしていますか。  
(○は1つだけ)

一般アンケート（あなた）では、「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が 72.0%と最も高く、次いで「していない」の割合が 21.1%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が 88.4%と最も高くなっている。

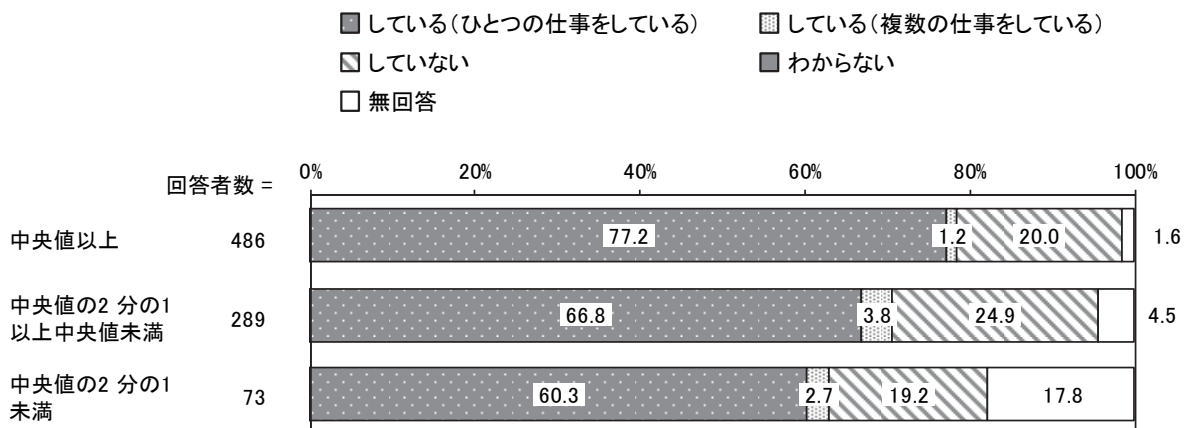
対象者アンケートでは、「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が 75.5%と最も高く、次いで「していない」の割合が 17.4%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

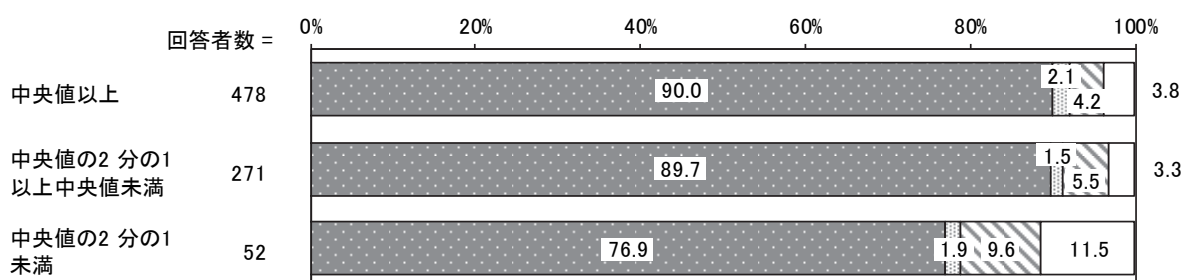
### あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で「していない」の割合が高くなっている。



### あなたの配偶者

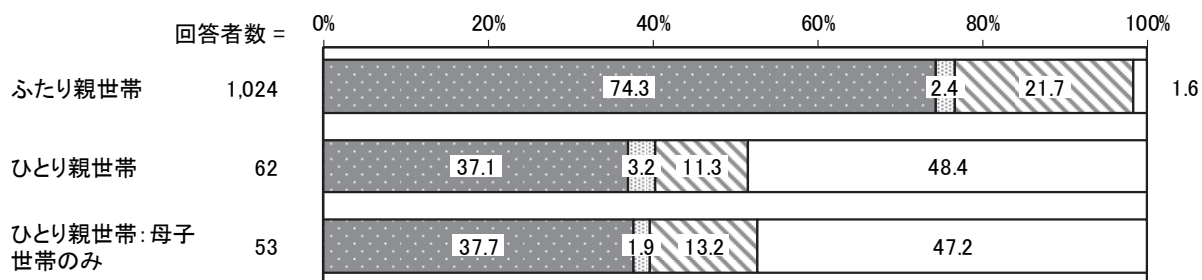
一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

### あなた

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「している（ひとつの仕事をしている）」の割合が高くなっている。



収入をとまなう仕事をしている方におたずねします。

問 20 あなたとあなたの配偶者の現在の就業形態は、次のどれにあたりますか。

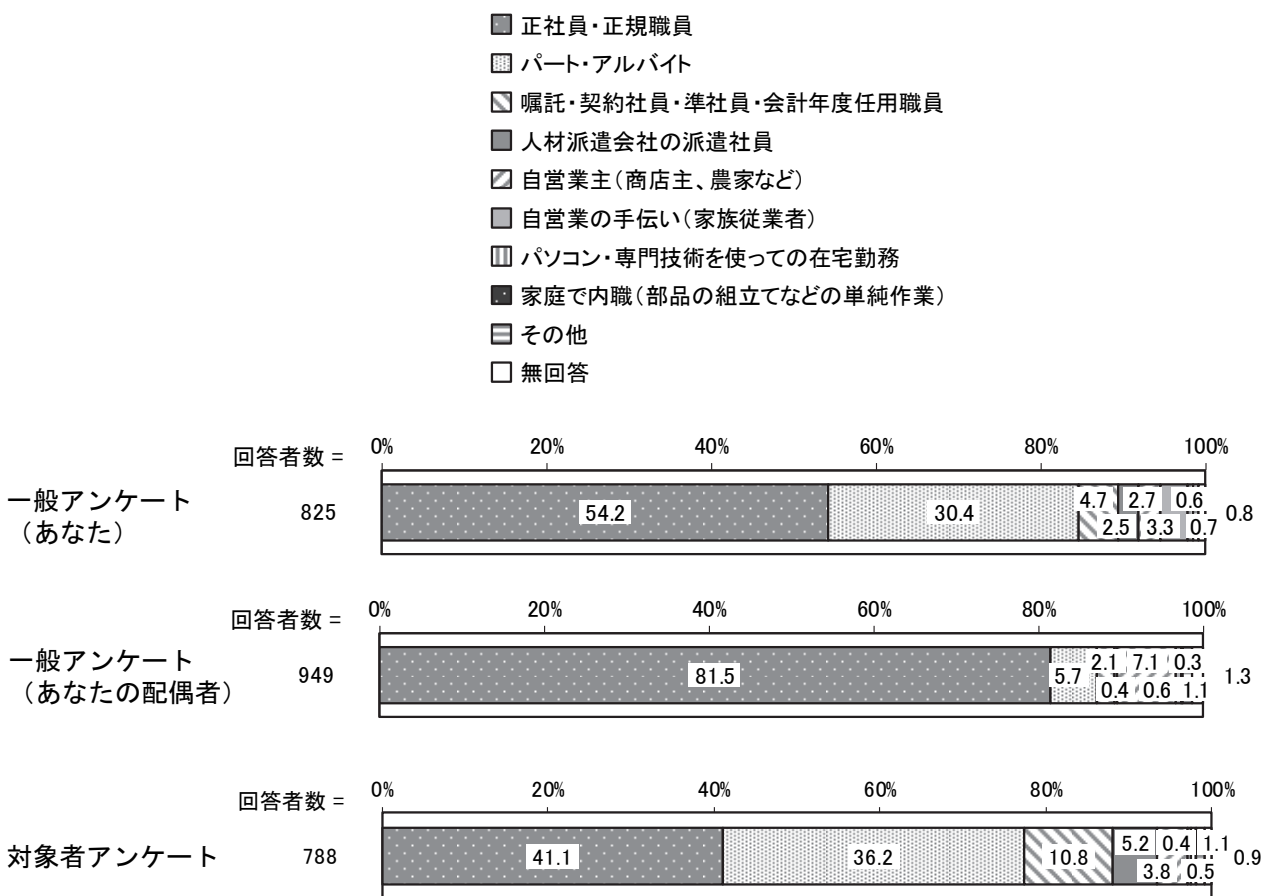
(○は1つだけ)

(複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事1つだけに○をつけてください)

一般アンケート（あなた）では、「正社員・正規職員」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 30.4%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「正社員・正規職員」の割合が 81.5%と最も高くなっている。

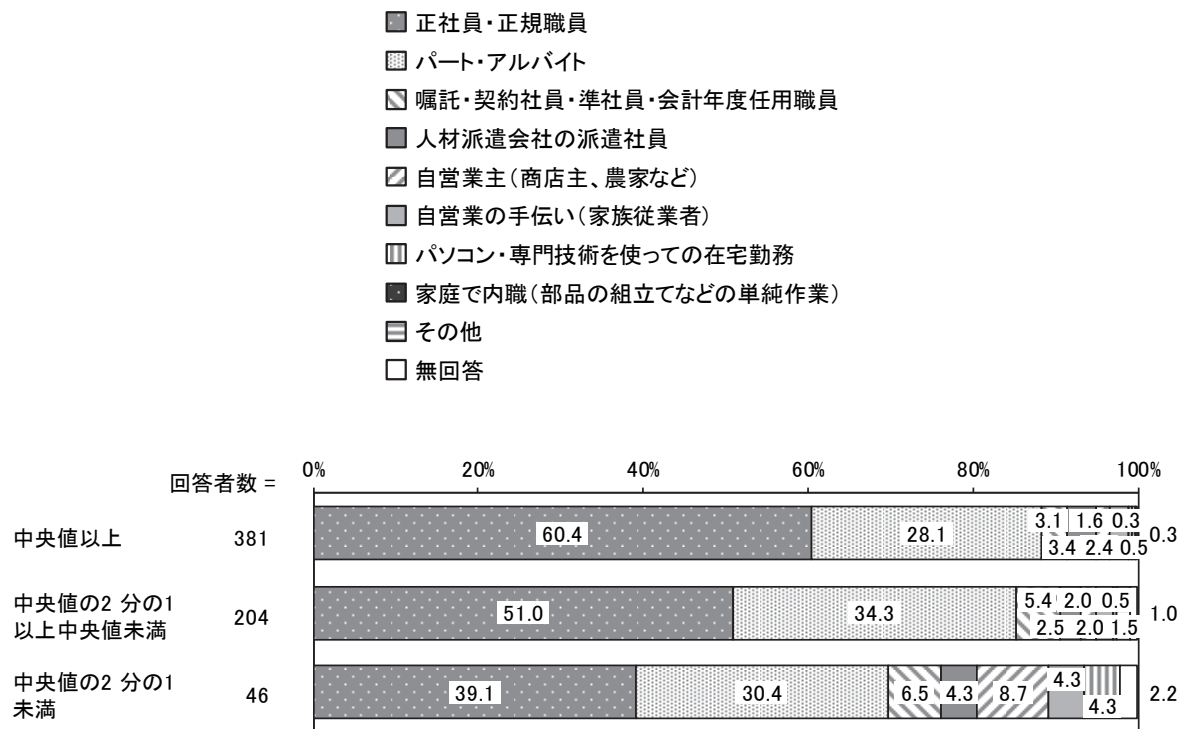
対象者アンケートでは、「正社員・正規職員」の割合が 41.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が 36.2%、「嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員」の割合が 10.8%となっている。



【所得区分別】（一般アンケート）

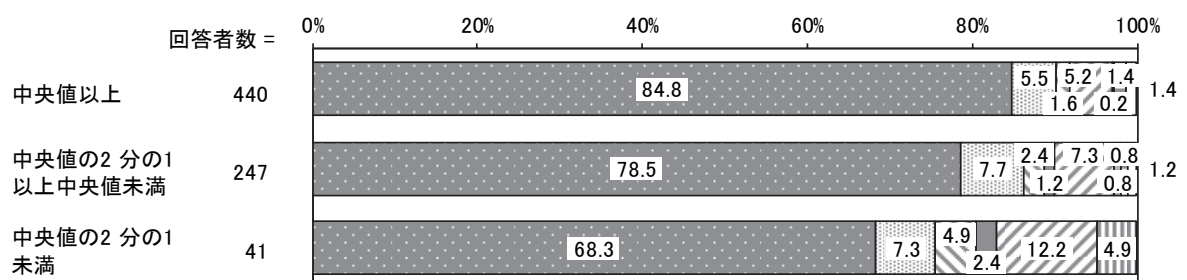
あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「正社員・正規職員」の割合が、中央値の2分の1未満、中央値の2分の1以上中央値未満で「パート・アルバイト」の割合が高くなっている。



あなたの配偶者

一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「正社員・正規職員」の割合が、中央値の2分の1未満で「自営業主（店店主・農家など）」の割合が高くなっている。

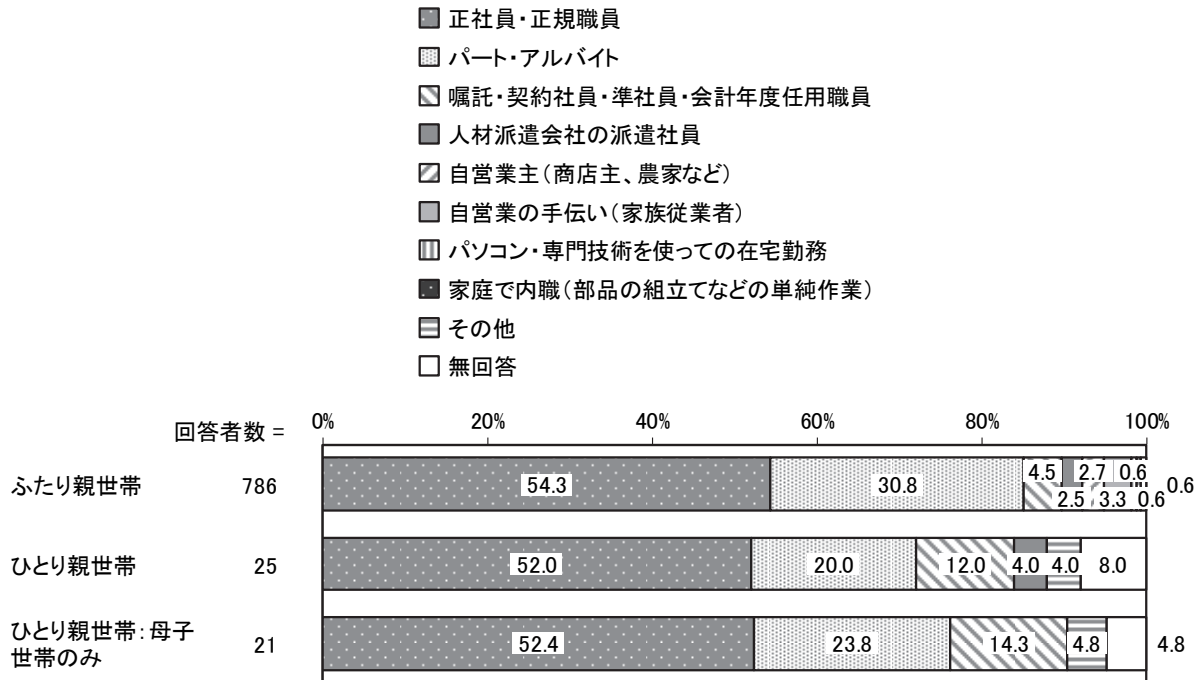




## 【家族構成別】

### あなた

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「パート・アルバイト」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員」の割合が高くなっている。



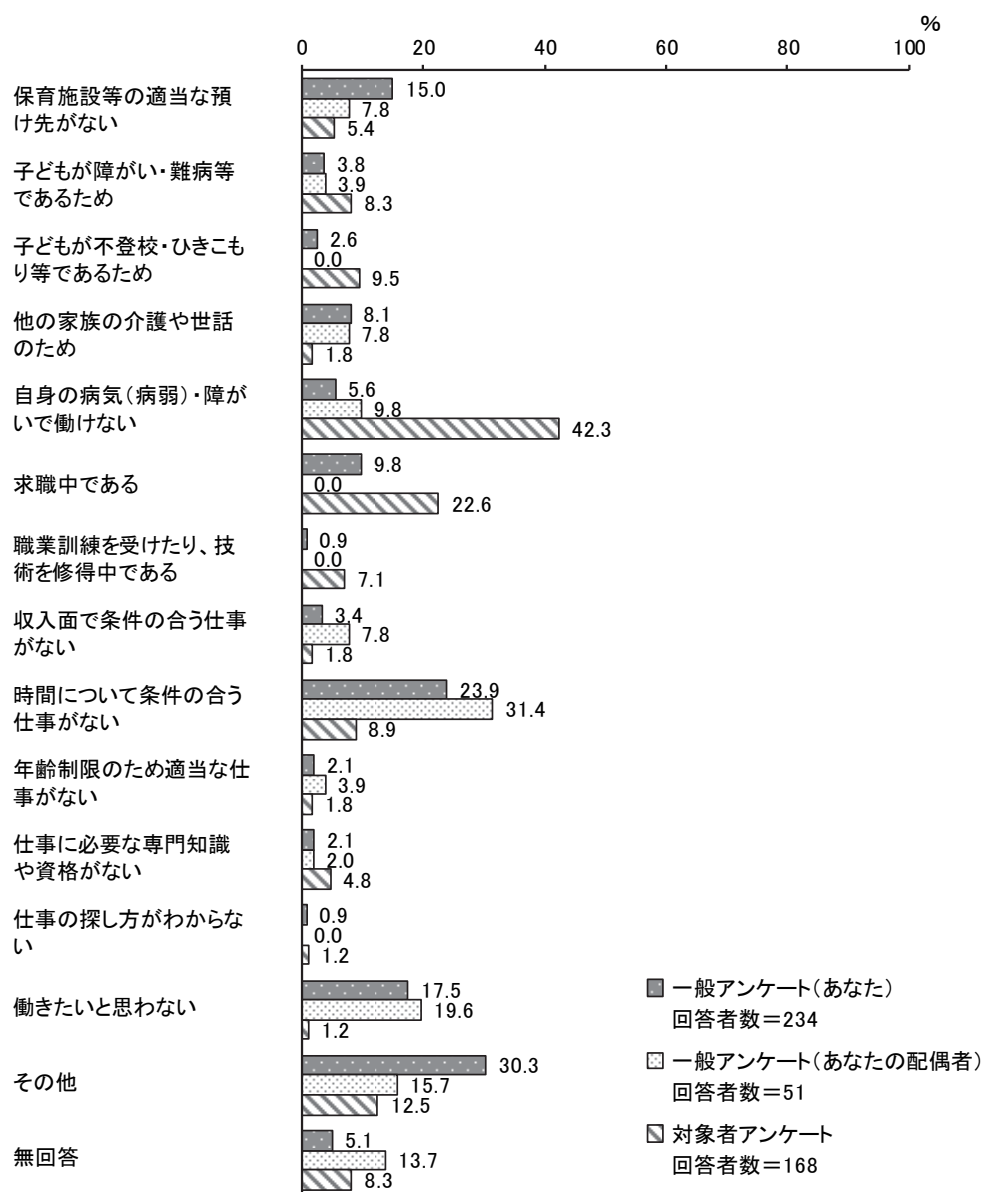
収入をとまなう仕事をしていない方におたずねします。

問 21 あなたとあなたの配偶者の働いていない主な理由を教えてください。  
(〇は2つまで)

一般アンケート（あなた）では、「時間について条件の合う仕事がない」の割合が 23.9%と最も高く、次いで「働きたいと思わない」の割合が 17.5%、「保育施設等の適当な預け先がない」の割合が 15.0%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「時間について条件の合う仕事がない」の割合が 31.4%と最も高く、次いで「働きたいと思わない」の割合が 19.6%となっている。

対象者アンケートでは、「自身の病気（病弱）・障がいので働けない」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「求職中である」の割合が 22.6%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

### あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「時間について条件の合う仕事がない」の割合が、中央値の2分の1未満で「自身の病気（病弱）・障がい働けない」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	働きたいと思わない	仕事を探し方がわからない	仕事に必要な専門知識や資格がない	年齢制限のため適当な仕事がない	時間について条件の合う仕事がない	収入面で条件の合う仕事がない	職業訓練を受けたり、技術を修得中である	求職中である	自身の病気（病弱）・障がい働けない	他の家族の介護や世話のため	子どもが不登校・ひきこもり等であるため	子どもが障がい・難病等であるため	保育施設等の適当な預け先がない	その他	無回答
中央値以上	97	10.3	4.1	2.1	7.2	3.1	4.1	2.1	4.1	23.7	2.1	1.0	1.0	22.7	34.0	2.1
中央値の2分の1以上中央値未満	72	18.1	2.8	4.2	11.1	6.9	13.9	—	4.2	30.6	2.8	5.6	1.4	12.5	20.8	6.9
中央値の2分の1未満	14	7.1	—	—	14.3	21.4	14.3	—	—	7.1	—	—	—	—	57.1	—

### あなたの配偶者

一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「保育施設等の適当な預け先がない」「時間について条件の合う仕事がない」の割合が、中央値以上で「自身の病気（病弱）・障がい働けない」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	働きたいと思わない	仕事を探し方がわからない	仕事に必要な専門知識や資格がない	年齢制限のため適当な仕事がない	時間について条件の合う仕事がない	収入面で条件の合う仕事がない	職業訓練を受けたり、技術を修得中である	求職中である	自身の病気（病弱）・障がい働けない	他の家族の介護や世話のため	子どもが不登校・ひきこもり等であるため	子どもが障がい・難病等であるため	保育施設等の適当な預け先がない		
中央値以上	20	5.0	—	—	10.0	15.0	—	—	10.0	25.0	10.0	—	—	15.0	15.0	15.0
中央値の2分の1以上中央値未満	15	13.3	—	—	6.7	6.7	—	—	13.3	33.3	—	—	—	20.0	13.3	13.3
中央値の2分の1未満	5	—	—	—	20.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	60.0	40.0	—

【家族構成別】（一般アンケート）

あなた

家族構成別でみると、有効回答数が少ないため、コメントは控える。

単位：％

区分	回答者数（件）	保育施設等の適当な預け先がない	子どもが障がい・難病等であるため	子どもが不登校・ひきこもり等であるため	他の家族の介護や世話のため	自身の病気（病弱）・障がい働けない	求職中である	職業訓練を受けたり、技術を修得中である
ふたり親世帯	222	14.4	4.1	2.7	8.1	5.0	9.5	0.9
ひとり親世帯	7	28.6	—	—	14.3	28.6	14.3	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	7	28.6	—	—	14.3	28.6	14.3	—

区分	収入面で条件の合う仕事がない	時間について条件の合う仕事がない	年齢制限のため適当な仕事がない	仕事に必要な専門知識や資格がない	仕事の探し方がわからない	働きたいと思わない	その他	無回答
ふたり親世帯	3.6	25.2	2.3	2.3	0.9	18.0	30.2	5.0
ひとり親世帯	—	—	—	—	—	—	28.6	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	—	—	—	—	—	—	28.6	—

## あなたの配偶者

家族構成別でみると、有効回答数が少ないため、コメントは控える。

単位：％

区分	回答者数(件)	保育施設等の適当な預け先がない	子どもが障がい・難病等であるため	子どもが不登校・ひきこもり等であるため	他の家族の介護や世話のため	自身の病気(病弱)・障がい働けない	求職中である	職業訓練を受けたり、技術を修得中である
ふたり親世帯	50	8.0	4.0	—	8.0	10.0	—	—
ひとり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	—	—	—	—	—	—	—	—

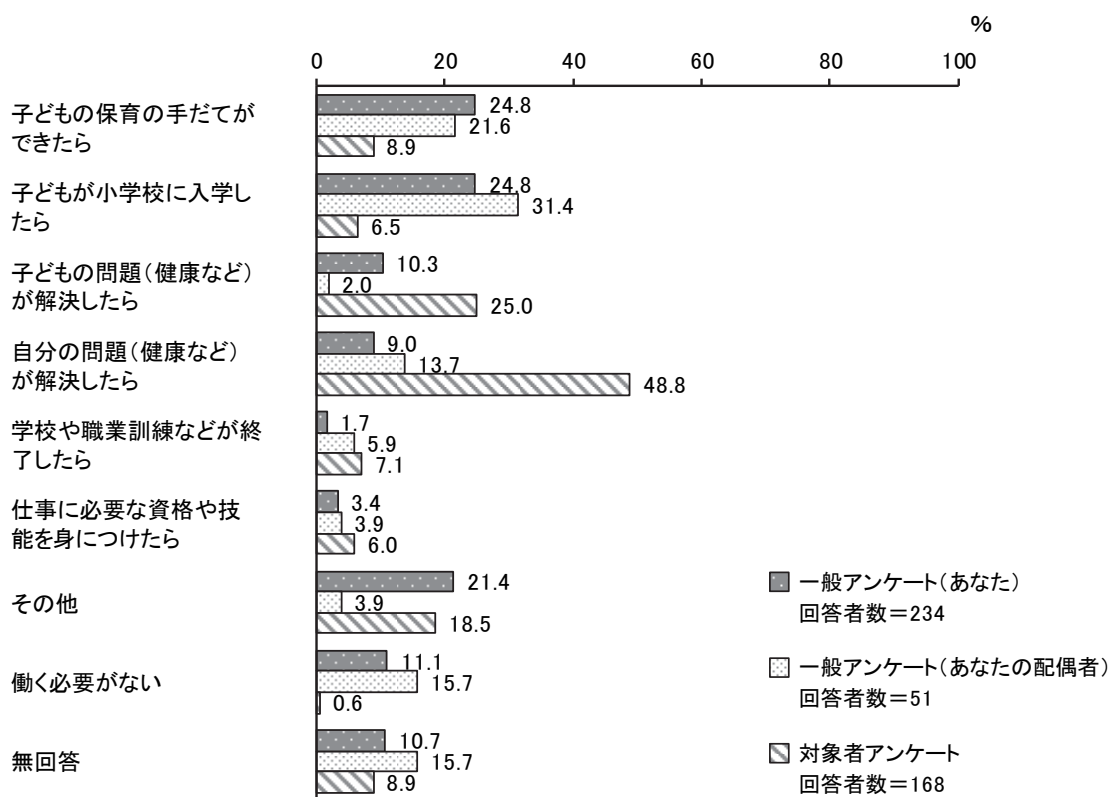
区分	収入面で条件の合う仕事がない	時間について条件の合う仕事がない	年齢制限のため適当な仕事がない	仕事に必要な専門知識や資格がない	仕事の探し方がわからない	働きたいと思わない	その他	無回答
ふたり親世帯	8.0	30.0	4.0	—	—	20.0	16.0	14.0
ひとり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	—	—	—	—	—	—	—	—

## 問 22 どのような状況になれば働きたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケート（あなた）では、「子どもの保育の手だてができれば」、「子どもが小学校に入学したら」の割合が 24.8%と最も高く、次いで「働く必要がない」の割合が 11.1%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「子どもが小学校に入学したら」の割合が 31.4%と最も高く、次いで「子どもの保育の手だてができれば」の割合が 21.6%、「働く必要がない」の割合が 15.7%となっている。

対象者アンケートでは、「自分の問題（健康など）が解決したら」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「子どもの問題（健康など）が解決したら」の割合が 25.0%となっている。



# 【所得区分別】（一般アンケート）

## あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「子どもの保育の手だてができたなら」の割合が、中央値の2分の1未満で「自分の問題（健康など）が解決したら」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもの保育の手だてができたなら	子どもが小学校に入学したら	子どもの問題（健康など）が解決したら	自分の問題（健康など）が解決したら	学校や職業訓練などが終了したら	仕事に必要な資格や技能を身につけたら	その他	働く必要がない	無回答
中央値以上	97	17.5	25.8	8.2	5.2	2.1	3.1	23.7	20.6	9.3
中央値の2分の1以上中央値未満	72	33.3	26.4	9.7	13.9	1.4	2.8	20.8	1.4	8.3
中央値の2分の1未満	14	7.1	7.1	14.3	28.6	—	—	50.0	—	14.3

## あなたの配偶者

一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「子どもの保育の手だてができたなら」の割合が、中央値以上で「自分の問題（健康など）が解決したら」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもの保育の手だてができたなら	子どもが小学校に入学したら	子どもの問題（健康など）が解決したら	自分の問題（健康など）が解決したら	学校や職業訓練などが終了したら	仕事に必要な資格や技能を身につけたら	その他	働く必要がない	無回答
中央値以上	20	20.0	15.0	—	25.0	—	5.0	10.0	15.0	15.0
中央値の2分の1以上中央値未満	15	33.3	46.7	—	6.7	—	—	—	13.3	20.0
中央値の2分の1未満	5	—	40.0	—	20.0	60.0	—	—	20.0	—

## 【家族構成別】（一般アンケート）

### あなた

一般アンケート（あなた）では、家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「自分の問題（健康など）が解決したら」の割合が、ふたり親世帯で「子どもが小学校に入学したら」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもの保育の手だてができた	子どもが小学校に入学したら	子どもの問題（健康など）が解決したら	自分の問題（健康など）が解決したら	学校や職業訓練などが終了したら	仕事に必要な資格や技能を身につけたら	その他	働く必要がない	無回答
ふたり親世帯	222	24.3	25.7	10.4	8.6	1.8	3.2	20.3	11.3	10.8
ひとり親世帯	7	28.6	14.3	14.3	28.6	—	14.3	57.1	—	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	7	28.6	14.3	14.3	28.6	—	14.3	57.1	—	—

#### ＜その他の主な意見＞

- ・働く条件に合う仕事が見つかったら。
- ・介護を必要とする家族がいなければ
- ・仕事が見つかり次第 等

### あなたの配偶者

一般アンケート（あなたの配偶者）では、家族構成別でみると、有効回答数が少ないため、コメントは控える。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもの保育の手だてができた	子どもが小学校に入学したら	子どもの問題（健康など）が解決したら	自分の問題（健康など）が解決したら	学校や職業訓練などが終了したら	仕事に必要な資格や技能を身につけたら	その他	働く必要がない	無回答
ふたり親世帯	50	22.0	32.0	2.0	14.0	6.0	2.0	4.0	16.0	16.0
ひとり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



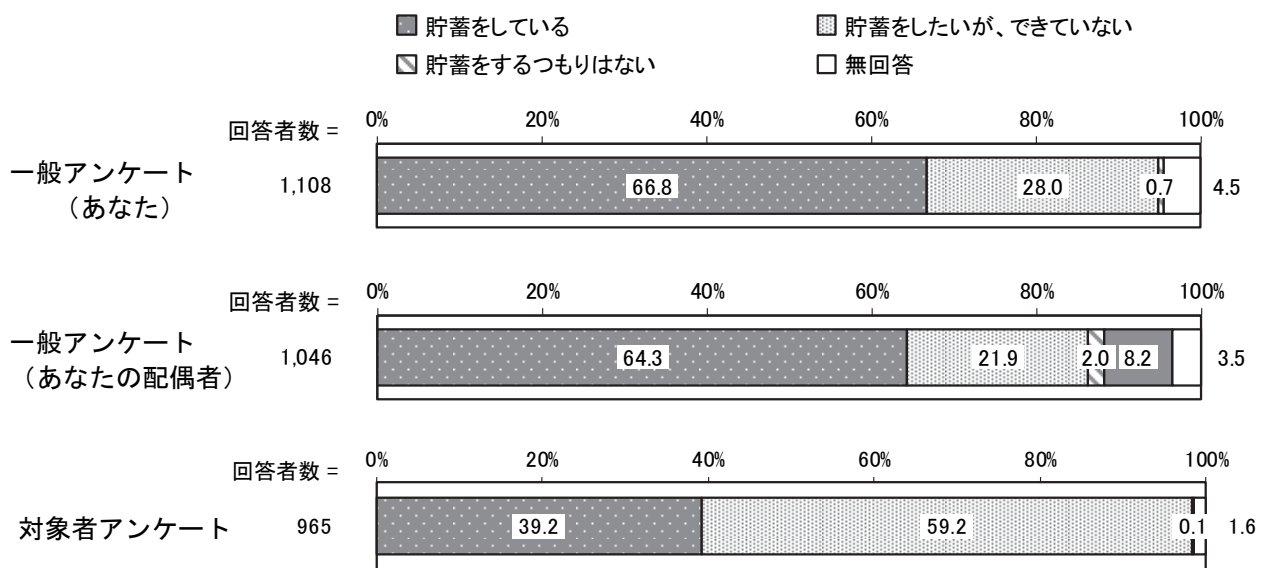
すべての方におたずねします。

問 23 あなたとあなたの配偶者は、お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。  
(○は1つだけ)

一般アンケート（あなた）では、「貯蓄をしている」の割合が 66.8%と最も高く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が 28.0%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「貯蓄をしている」の割合が 64.3%と最も高く、次いで「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が 21.9%となっている。

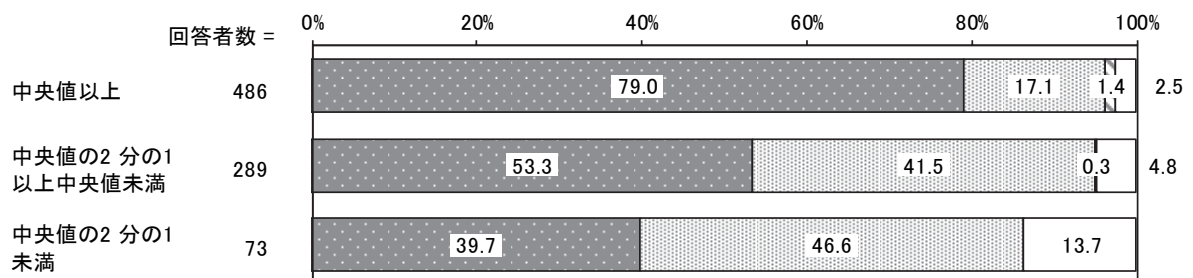
対象者アンケートでは、「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「貯蓄をしている」の割合が 39.2%となっている。



#### 【所得区分別】（一般アンケート）

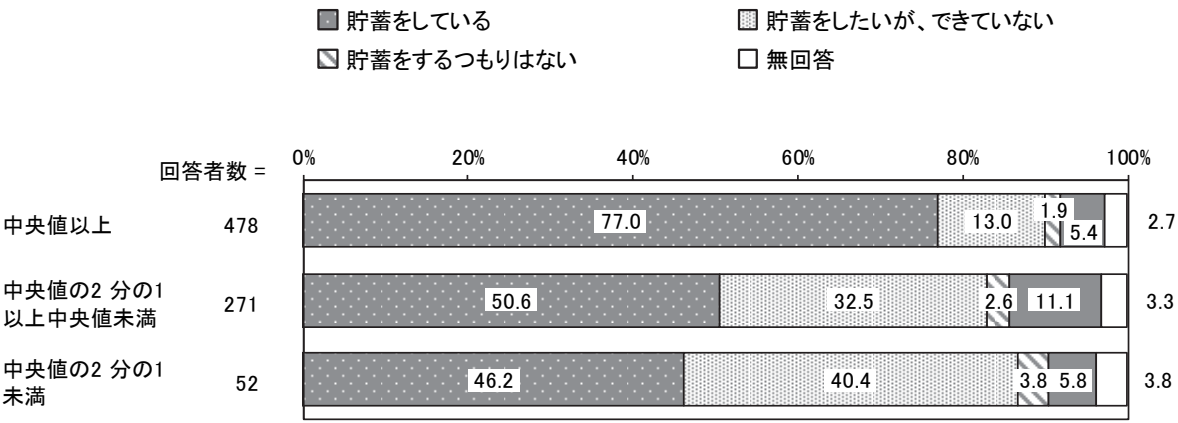
##### あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「貯蓄をしている」の割合が中央値の 2 分の 1 未満、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が高くなっている。



あなたの配偶者

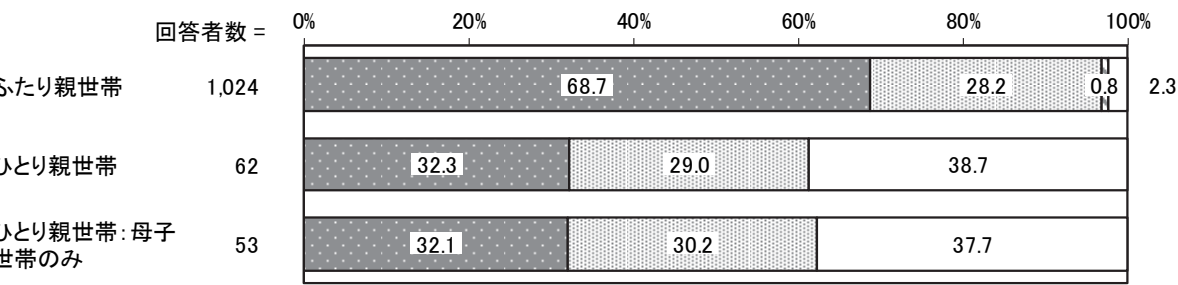
一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「貯蓄をしている」の割合が、中央値の2分の1未満で「貯蓄をしたいが、できていない」の割合が高くなっている。



【家族構成別】（一般アンケート）

あなた

一般アンケート（あなた）では、家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「貯蓄をしている」の割合が高くなっている。

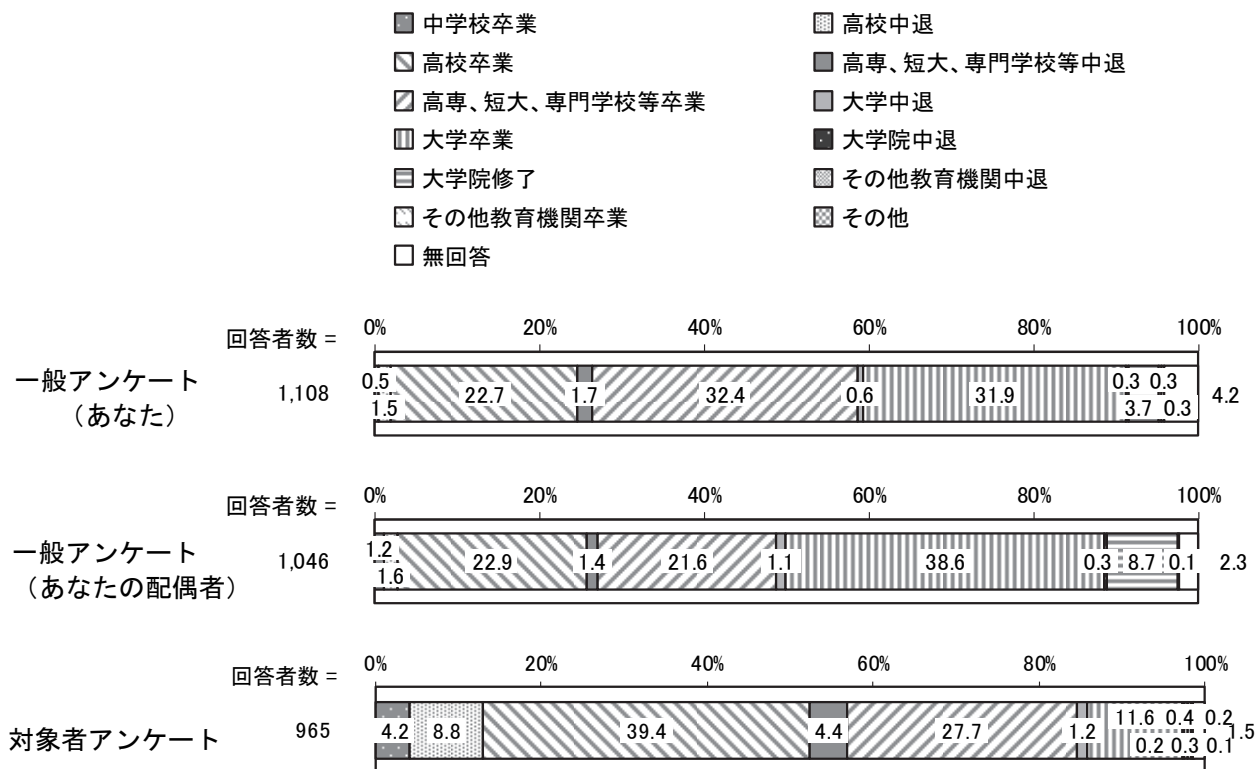


問 24 あなたとあなたの配偶者の最終学歴は以下のうちどれですか。(〇は1つだけ)

一般アンケート（あなた）では、「高専、短大、専門学校等卒業」の割合が 32.4%と最も高く、次いで「大学卒業」の割合が 31.9%、「高校卒業」の割合が 22.7%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「大学卒業」の割合が 38.6%と最も高く、次いで「高校卒業」の割合が 22.9%、「高専、短大、専門学校等卒業」の割合が 21.6%となっている。

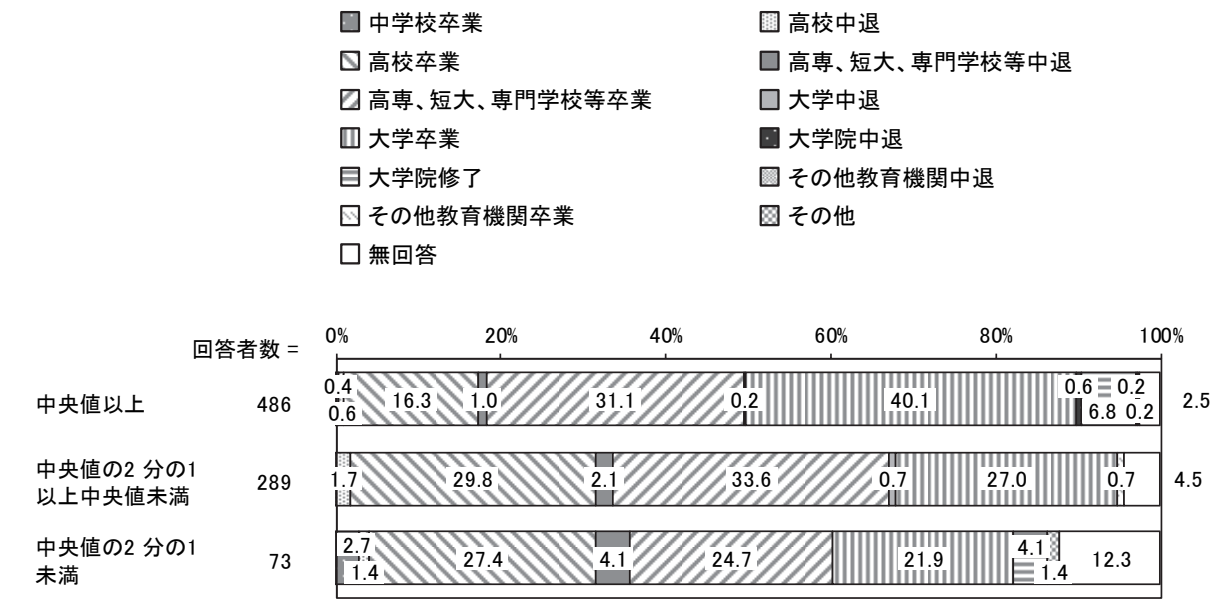
対象者アンケートでは、「高校卒業」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「高専、短大、専門学校等卒業」の割合が 27.7%、「大学卒業」の割合が 11.6%となっている。



【所得区分別】（一般アンケート）

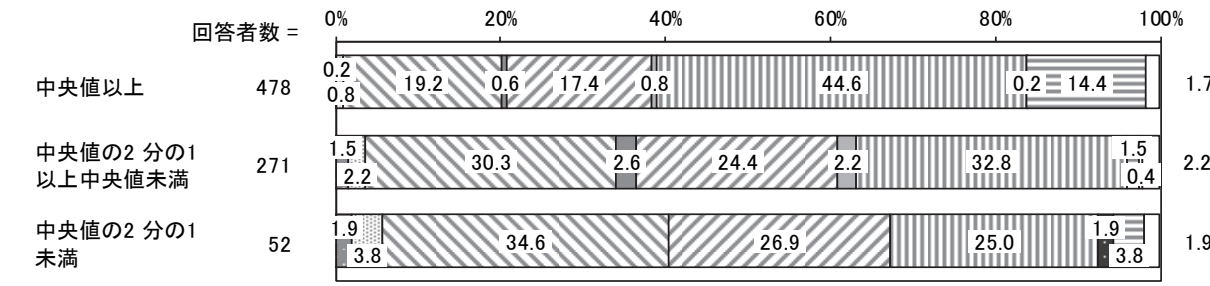
あなた

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「大学卒業」の割合が、中央値の2分の1未満、中央値の2分の1以上中央値未満で「高校卒業」の割合が高くなっている。



あなたの配偶者

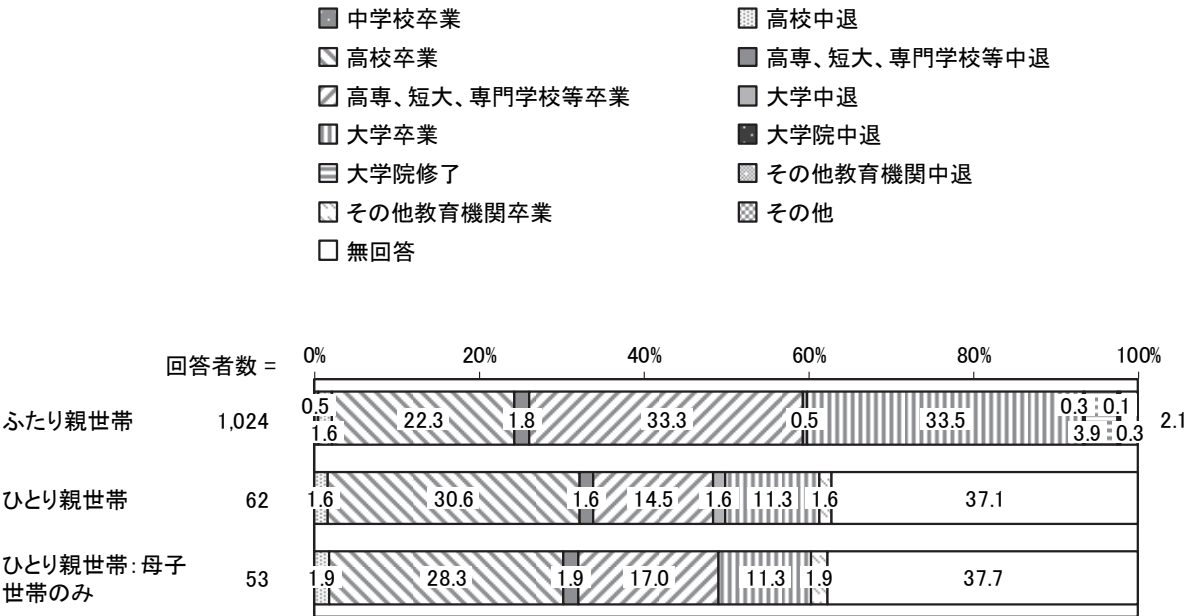
一般アンケート（あなたの配偶者）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「大学卒業」の割合が、中央値の2分の1未満、中央値の2分の1以上中央値未満で「高校卒業」の割合が高くなっている。



【家族構成別】（一般アンケート）

あなた

一般アンケート（あなた）では、家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「大学卒業」の割合が高くなっている。

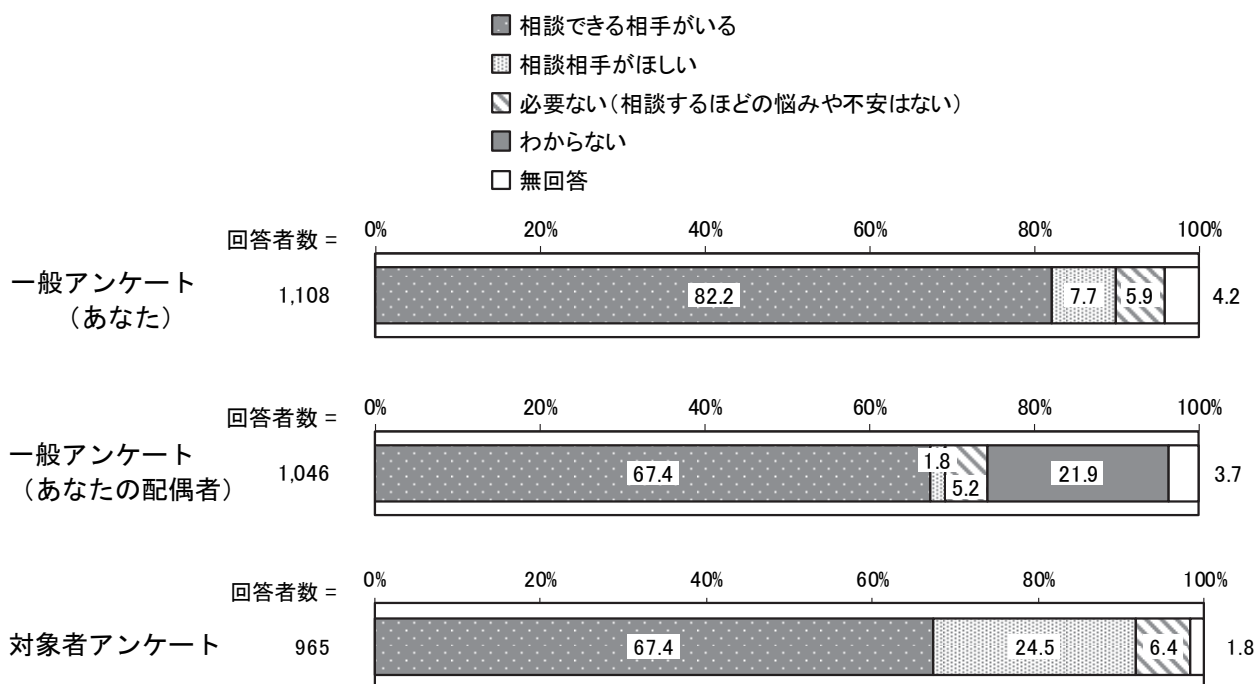


**問 25 あなたとあなたの配偶者には、現在心おきなく相談できる相手がありますか。**  
(○は1つだけ)

一般アンケート（あなた）では、「相談できる相手がいる」の割合が 82.2%と最も高くなっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「相談できる相手がいる」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 21.9%となっている。

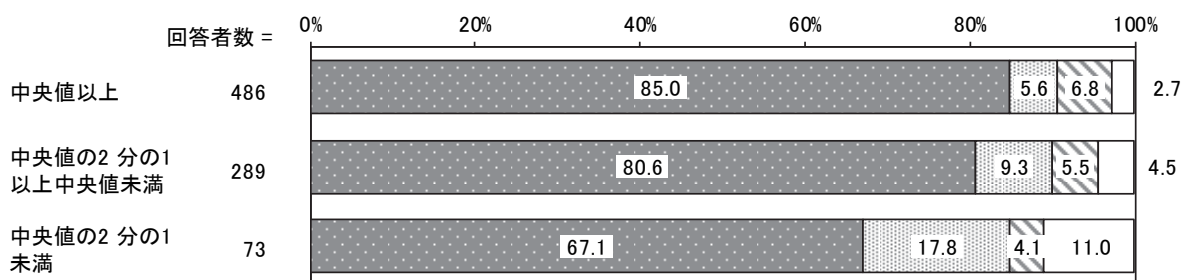
対象者アンケートでは、「相談できる相手がいる」の割合が 67.4%と最も高く、次いで「相談相手がほしい」の割合が 24.5%となっている。



**【所得区分別】（一般アンケート）**

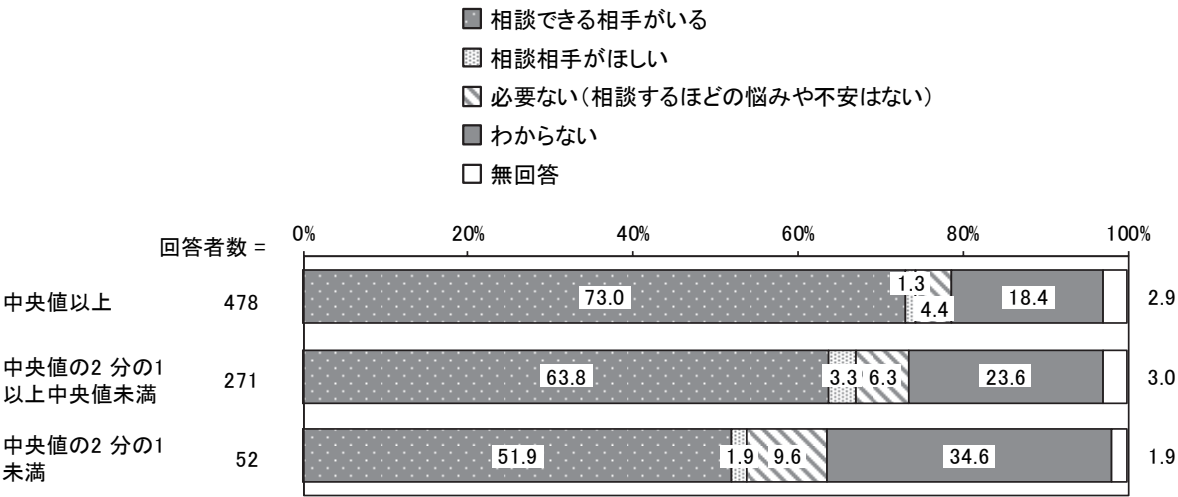
**あなた**

一般アンケート（あなた）では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値以上で「相談できる相手がいる」の割合が、中央値の2分の1未満で「相談相手がほしい」の割合が高くなっている。



あなたの配偶者

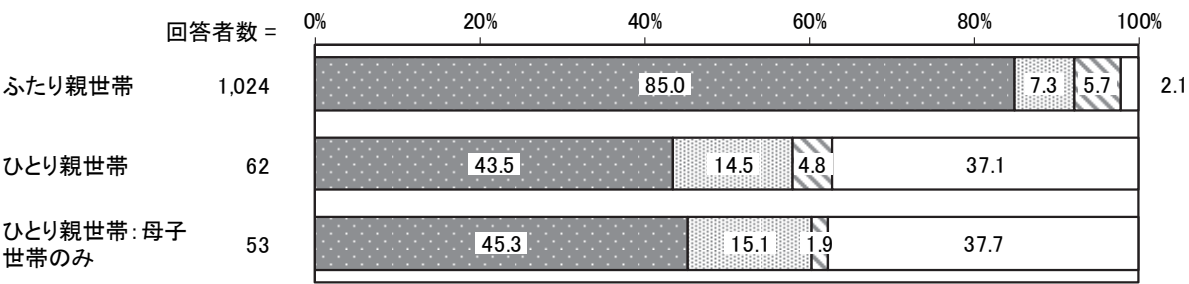
一般アンケートの「あなたの配偶者」では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「相談できる相手がいる」の割合が、中央値の2分の1未満で「わからない」の割合が高くなっている。



【家族構成別】（一般アンケート）

あなた

一般アンケートの「あなた」では、家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「相談できる相手がいる」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「相談相手がほしい」の割合が高くなっている。



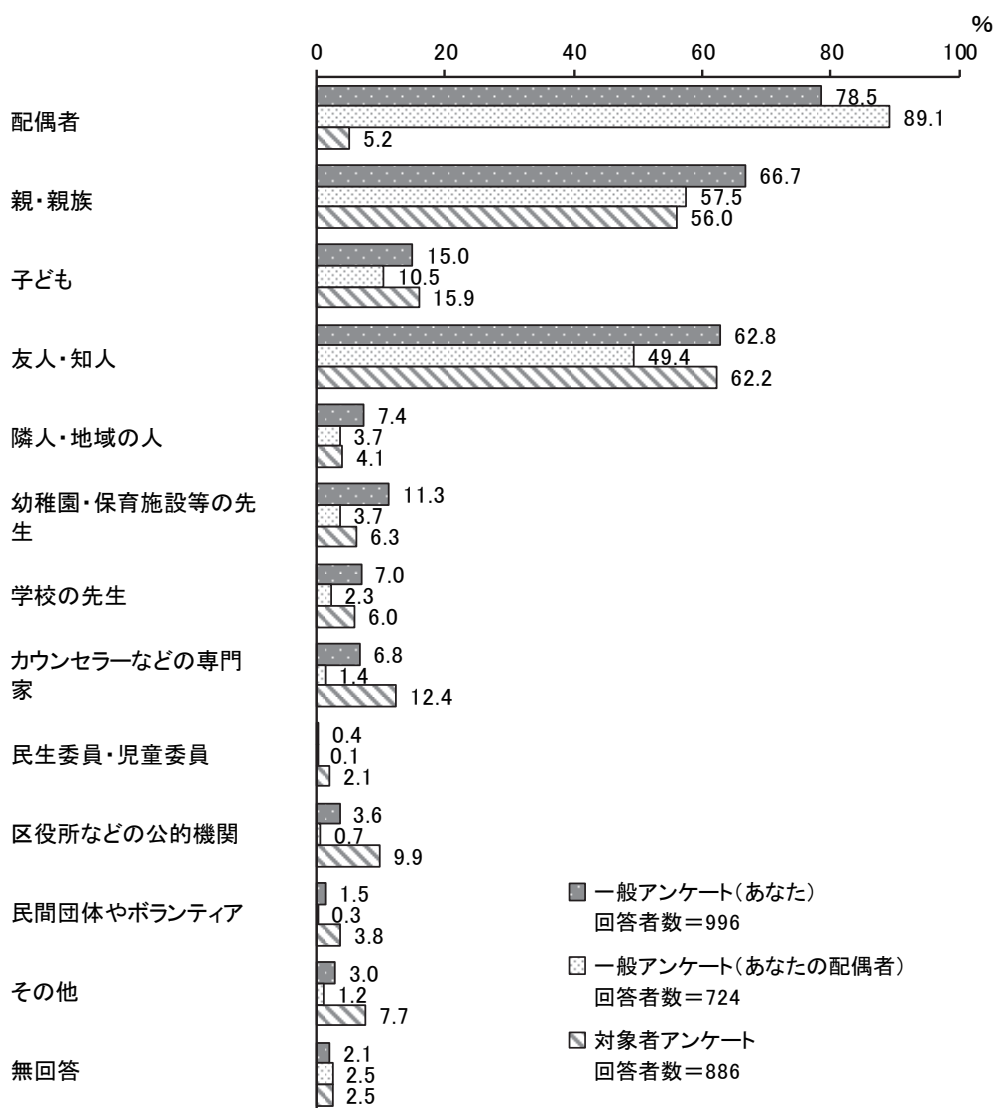
問 25 で「１．相談できる相手がいる」または「２．相談相手がほしい」とお答えの方に  
おたずねします。

問 26 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談した  
いと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

一般アンケート（あなた）では、「配偶者」の割合が 78.5%と最も高く、次いで「親・親族」  
の割合が 66.7%、「友人・知人」の割合が 62.8%となっている。

一般アンケート（あなたの配偶者）では、「配偶者」の割合が 89.1%と最も高く、次いで  
「親・親族」の割合が 57.5%、「友人・知人」の割合が 49.4%となっている。

対象者アンケートでは、「友人・知人」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「親・親族」の割  
合が 56.0%、「子ども」の割合が 15.9%となっている。





## 【所得区分別】（一般アンケート）

### あなた

一般アンケートの「あなた」では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「配偶者」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の人	幼稚園・保育施設 等の先生	学校の先生	カウンセラーなどの 専門家	民生委員・児童委員	区役所などの公的 機関	民間団体やボラン ティア	その他	無回答
中央値以上	440	84.1	68.4	14.3	61.6	6.1	9.8	7.5	6.6	—	4.1	1.1	2.7	1.8
中央値の2分の1以上中央 値未満	260	78.1	66.9	12.7	65.4	8.8	14.6	6.2	5.8	0.8	2.7	1.5	3.1	2.3
中央値の2分の1未満	62	62.9	54.8	14.5	61.3	3.2	9.7	8.1	16.1	1.6	6.5	4.8	4.8	1.6

### あなたの配偶者

一般アンケートの「あなたの配偶者」では、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「親・親族」の割合が、中央値の2分の1未満で「配偶者」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の人	幼稚園・保育施設 等の先生	学校の先生	カウンセラーなどの 専門家	民生委員・児童委員	区役所などの公的 機関	民間団体やボラン ティア	その他	無回答
中央値以上	355	90.4	54.1	8.5	47.9	2.8	2.8	2.0	0.3	0.3	—	—	1.4	2.5
中央値の2分の1以上中央 値未満	182	87.9	62.6	9.3	50.5	1.1	3.3	2.7	2.2	—	1.6	—	1.1	1.6
中央値の2分の1未満	28	92.9	53.6	7.1	42.9	—	7.1	—	3.6	—	3.6	—	—	—

## 【家族構成別】（一般アンケート）

### あなた

一般アンケートの「あなた」では、家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「配偶者」「親・親族」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「カウンセラーなどの専門家」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の 人	幼稚園・保育施設 等の先生	学校の先生	カウンセラーなど の専門家	民生委員・児童委 員	機関 区役所などの公的	民間団体やボラン ティア	その他	無回答
ふたり親世帯	945	81.1	67.3	14.7	62.5	7.5	11.4	6.9	6.5	0.3	3.6	1.5	2.5	2.0
ひとり親世帯	36	11.1	52.8	19.4	66.7	5.6	8.3	11.1	19.4	—	5.6	2.8	16.7	2.8
ひとり親世帯： 母子世帯のみ	32	9.4	50.0	15.6	68.8	6.3	9.4	12.5	21.9	—	6.3	3.1	18.8	—

### あなたの配偶者

一般アンケートの「あなたの配偶者」では、家族構成別でみると、有効回答数が少ないため、コメントは控える。

単位：％

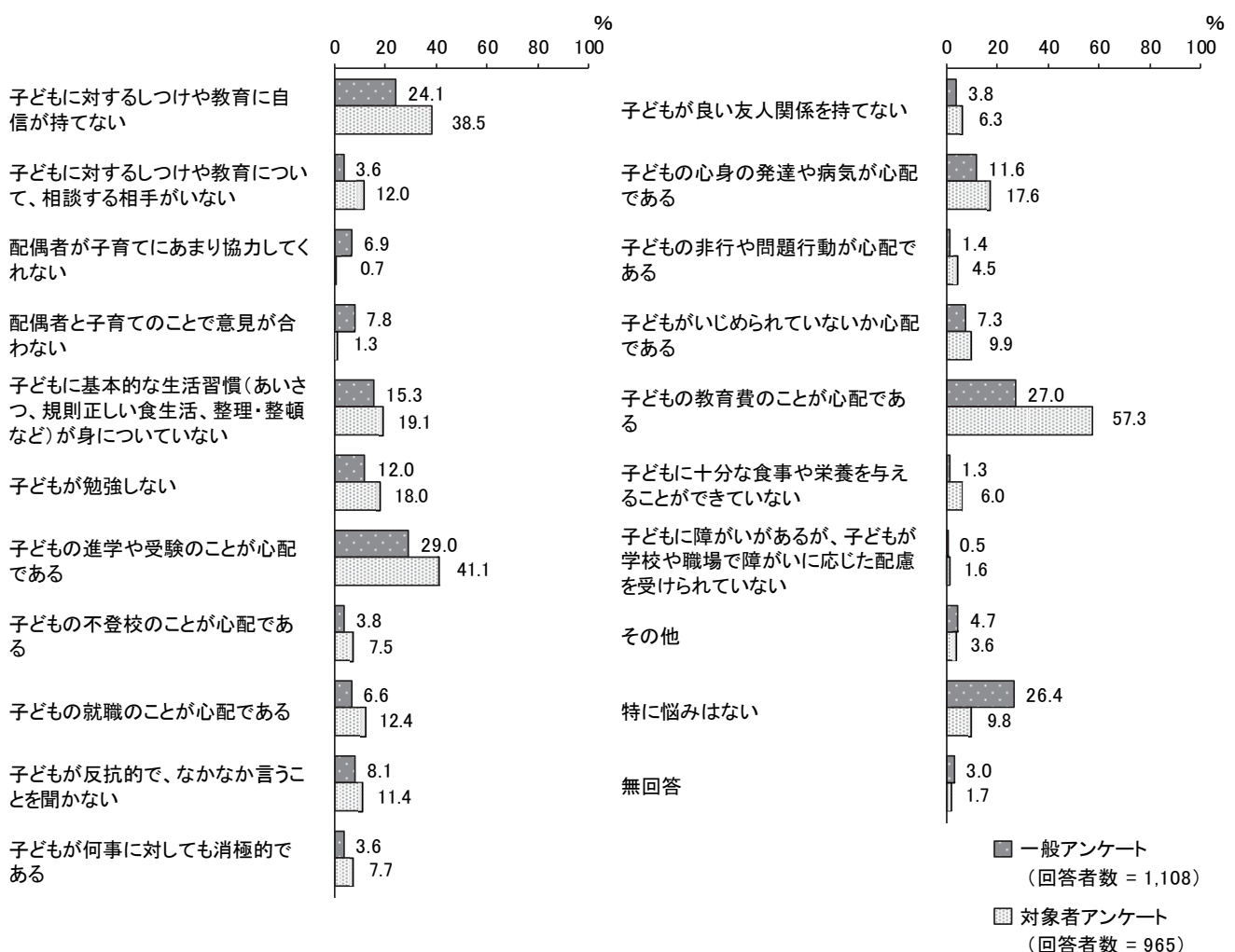
区分	回答者数 (件)	配偶者	親・親族	子ども	友人・知人	隣人・地域の 人	幼稚園・保育施設 等の先生	学校の先生	カウンセラーなど の専門家	民生委員・児童委 員	機関 区役所などの公的	民間団体やボラン ティア	その他	無回答
ふたり親世帯	712	89.0	57.4	10.3	49.4	3.7	3.8	2.2	1.3	0.1	0.7	0.1	1.3	2.5
ひとり親世帯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ひとり親世帯： 母子世帯のみ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

すべての方におたずねします。

問 27 お子さんのことについて、現在悩んでいることはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「子どもの進学や受験のことが心配である」の割合が 29.0%と最も高く、次いで「子どもの教育費のことが心配である」の割合が 27.0%、「特に悩みはない」の割合が 26.4%となっている。

対象者アンケートでは、「子どもの教育費のことが心配である」の割合が 57.3%と最も高く、次いで「子どもの進学や受験のことが心配である」の割合が 41.1%、「子どもに対するしつけや教育に自信が持てない」の割合が 38.5%となっている。



# 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「子どもの教育費のことが心配である」「子どもの進学や受験のことが心配である」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない	子どもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない	配偶者が子育てにあまり協力してくれない	配偶者と子育てのことで意見が合わない	子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない	子どもが勉強しない	子どもの進学や受験のことが心配である	子どもの不登校のことが心配である	子どもの就職のことが心配である	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
中央値以上	486	19.5	1.9	5.8	5.3	16.5	11.1	31.5	3.9	7.8	6.8
中央値の2分の1以上中央値未満	289	30.1	5.2	6.2	9.3	15.6	13.1	25.3	4.8	3.8	8.3
中央値の2分の1未満	73	30.1	8.2	8.2	8.2	21.9	16.4	39.7	5.5	11.0	13.7

区分	子どもが何事に対しても消極的である	子どもが良い友人関係を持てない	子どもの心身の発達や病気が心配である	子どもの非行や問題行動が心配である	子どもがいじめられていないか心配である	子どもの教育費のことが心配である	子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない	子どもに障がいがあるが、子どもが学校や職場で障がいに応じた配慮を受けられていない	その他	特に悩みはない	無回答
中央値以上	2.1	4.1	9.7	1.4	7.0	20.4	0.2	0.6	5.1	28.4	2.3
中央値の2分の1以上中央値未満	5.9	3.5	14.5	1.4	8.3	35.6	1.4	—	3.1	22.5	2.4
中央値の2分の1未満	8.2	6.8	16.4	2.7	8.2	50.7	6.8	—	6.8	16.4	4.1

# 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで「子どもの教育費のことが心配である」の割合が、ふたり親世帯で「特に悩みはない」の割合が高くなっている。

単位：％

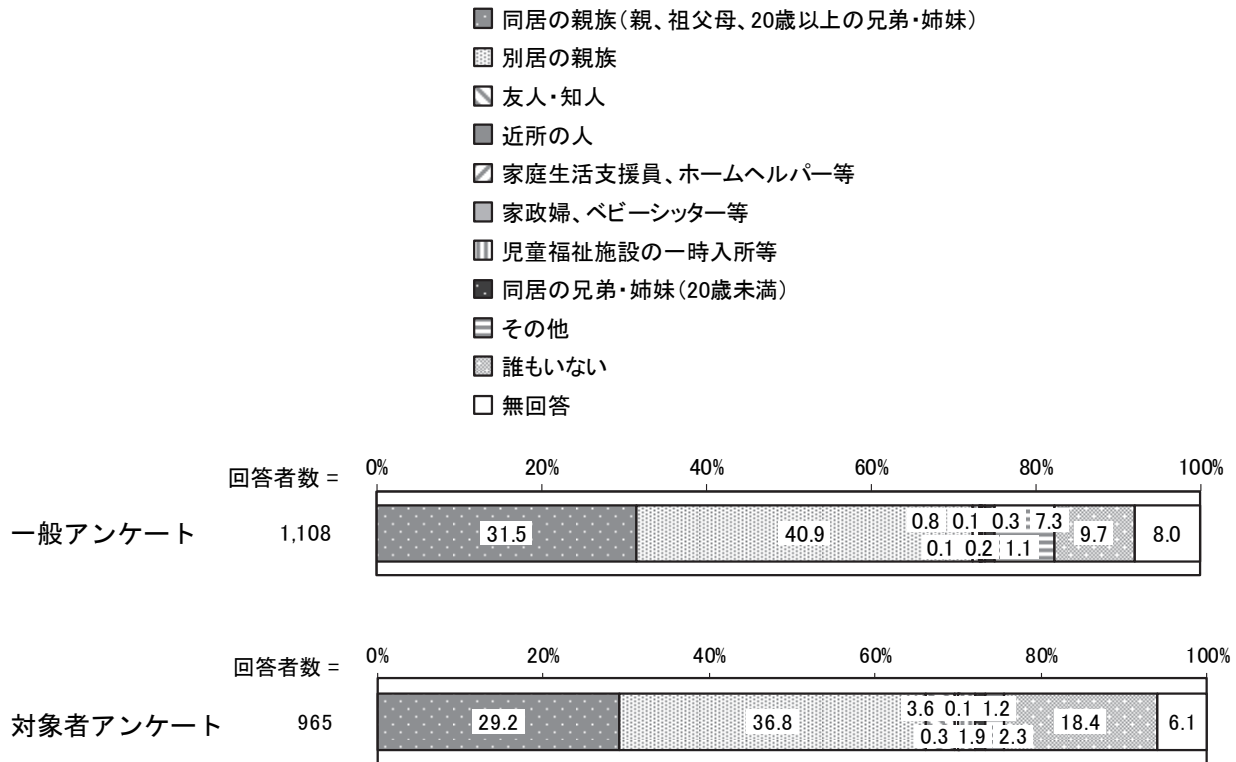
区分	回答者数（件）	子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない	子どもの就職のことが心配である	子どもの不登校のことが心配である	子どもの進学や受験のことが心配である	子どもが勉強しない	子どもに基本的な生活習慣（あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など）が身につけていない	配偶者と子育てのことで意見が合わない	配偶者が子育てにあまり協力してくれない	子どもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない	子どもに対するしつけや教育に自信が持てない
ふたり親世帯	1024	7.7	6.3	3.6	28.0	11.3	15.1	8.2	7.4	3.6	23.5
ひとり親世帯	62	14.5	11.3	8.1	46.8	24.2	21.0	1.6	1.6	3.2	33.9
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	15.1	13.2	9.4	50.9	26.4	22.6	1.9	1.9	3.8	37.7

区分	子どもが何事に対しても消極的である	子どもが良い友人関係を持てない	子どもの心身の発達や病気が心配である	子どもの非行や問題行動が心配である	子どもがいじめられていないか心配である	子どもの教育費のことが心配である	子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない	子どもに障がいがあるが、子どもが学校や職場で障がいに応じた配慮を受けられていない	その他	特に悩みはない	無回答
ふたり親世帯	3.5	3.8	11.4	1.2	7.1	25.9	0.8	0.5	4.8	26.9	2.9
ひとり親世帯	6.5	4.8	16.1	4.8	12.9	53.2	9.7	—	4.8	11.3	1.6
ひとり親世帯：母子世帯のみ	7.5	3.8	18.9	5.7	15.1	62.3	11.3	—	5.7	3.8	—

## 問 28 あなたが病気のとき、お子さんの世話はどなたに頼みますか。(○は1つだけ)

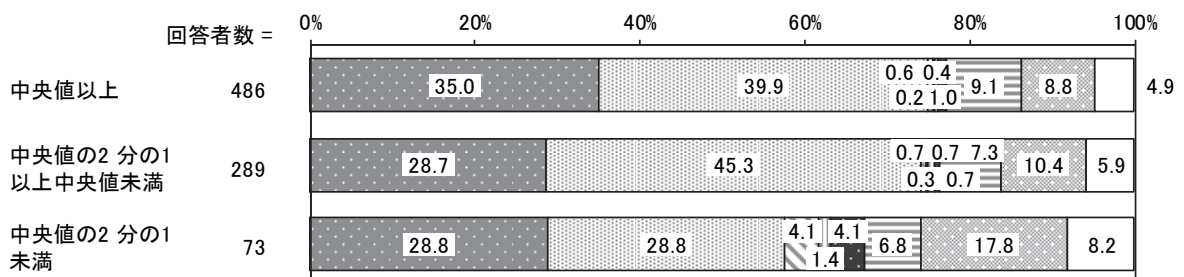
一般アンケートでは、「別居の親族」の割合が 40.9%と最も高く、次いで「同居の親族（親、祖父母、20 歳以上の兄弟・姉妹）」の割合が 31.5%となっている。

対象者アンケートでは、「別居の親族」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「同居の親族（親、祖父母、20 歳以上の兄弟・姉妹）」の割合が 29.2%、「誰もいない」の割合が 18.4%となっている。



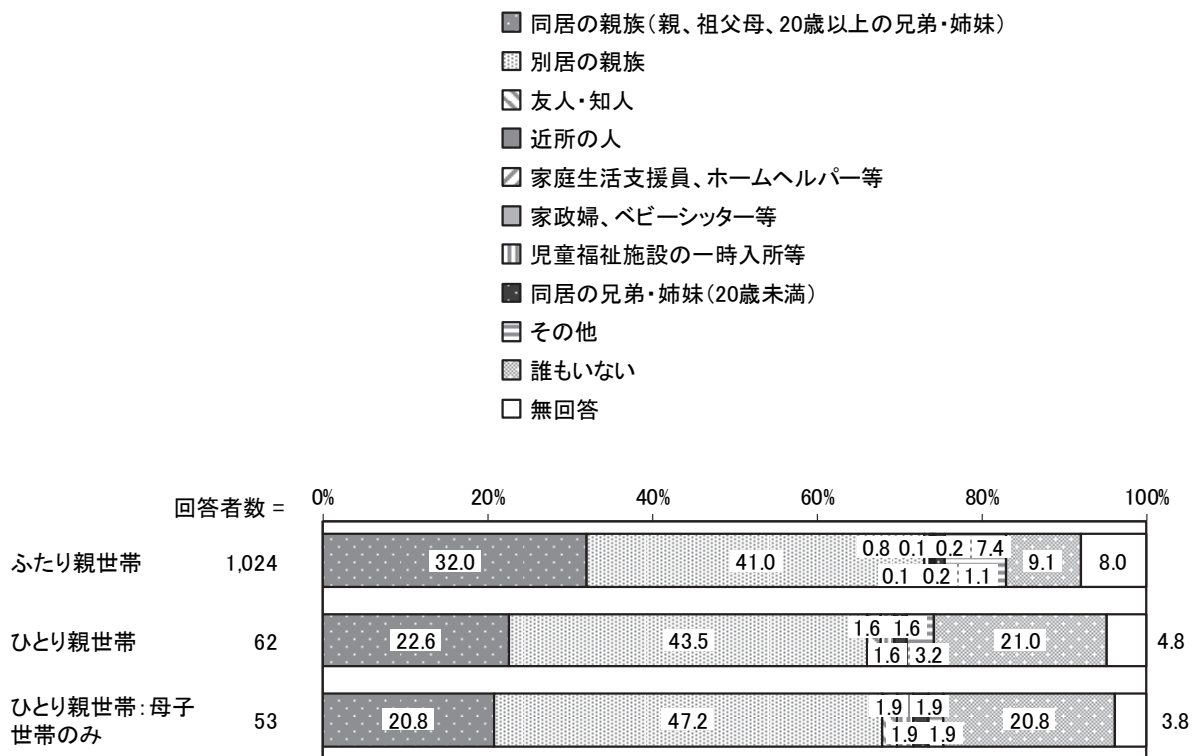
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「同居の親族（親、祖父母、20 歳以上の兄弟・姉妹）」の割合が、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「別居の親族」の割合が、中央値の 2 分の 1 未満で「誰もいない」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「同居の親族（親、祖父母、20 歳以上の兄弟・姉妹）」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「誰もいない」の割合が高くなっている。

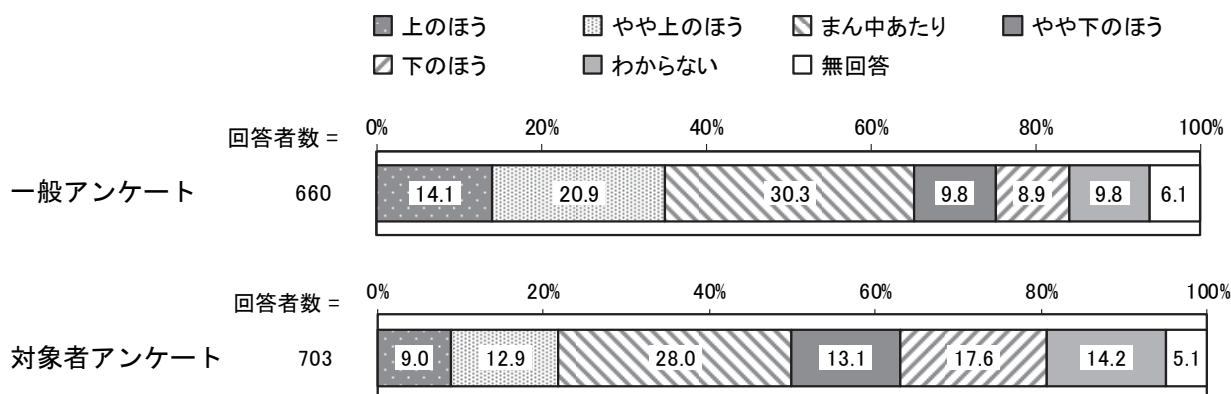


お子さんが、小学生以上の方におたずねします。

## 問 29 お子さんの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

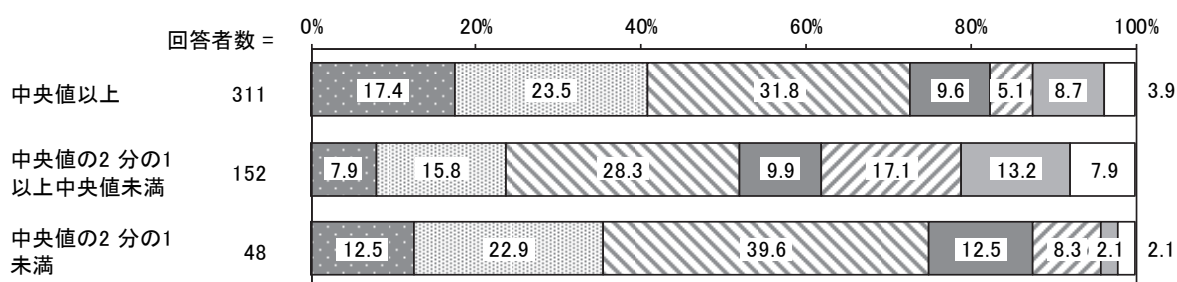
一般アンケートでは、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が35.0%と最も高く、次いで「まん中あたり」の割合が30.3%、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が18.7%となっている。

対象者アンケートでは、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が30.7%と最も高く、次いで「まん中あたり」の割合が28.0%、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が21.9%となっている



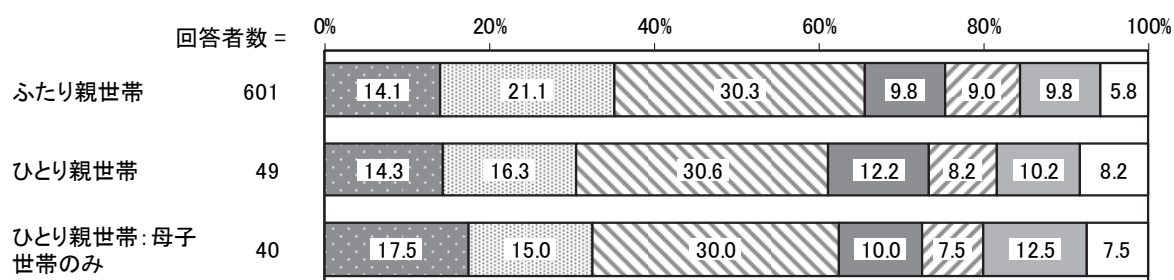
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“上のほう”の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で“下のほう”の割合が高くなっている。また、中央値の2分の1未満で「まん中あたり」の割合が高くなっている。



### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「上のほう」の割合が高くなっている。

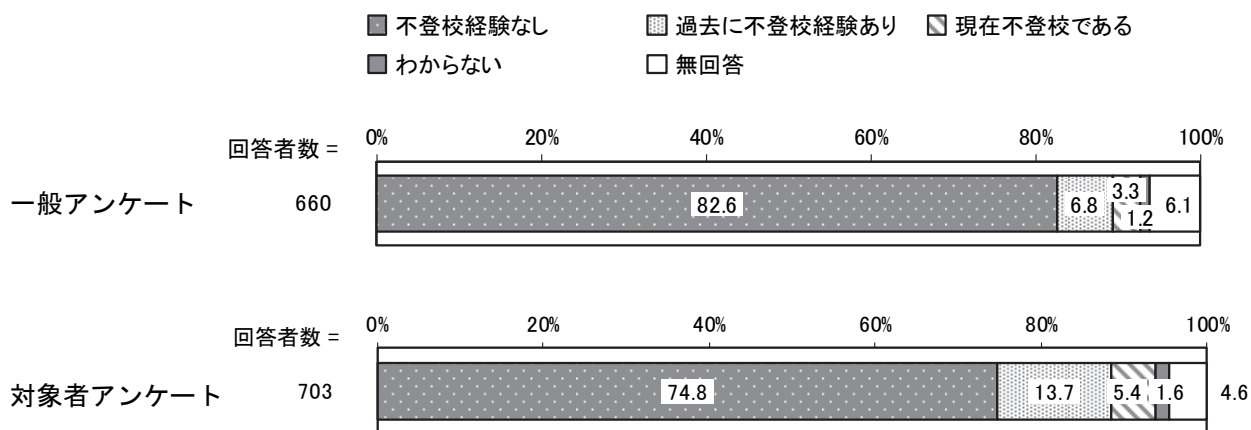




### 問 30 お子さんは、これまでに不登校になったことはありますか。(○は1つだけ)

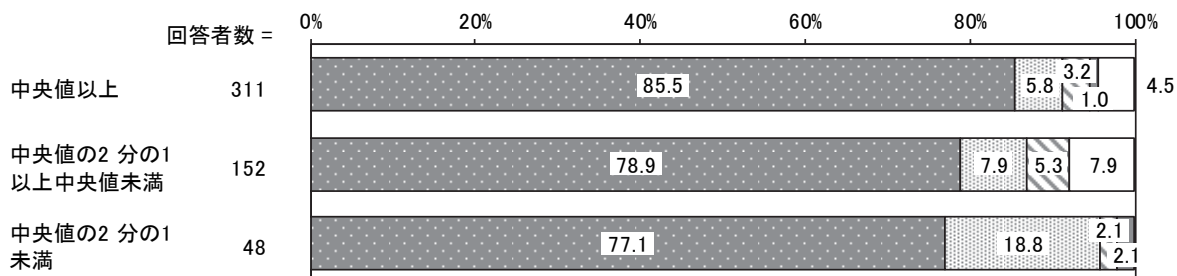
一般アンケートでは、「不登校経験なし」の割合が 82.6%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「不登校経験なし」の割合が 74.8%と最も高く、次いで「過去に不登校経験あり」の割合が 13.7%となっている。



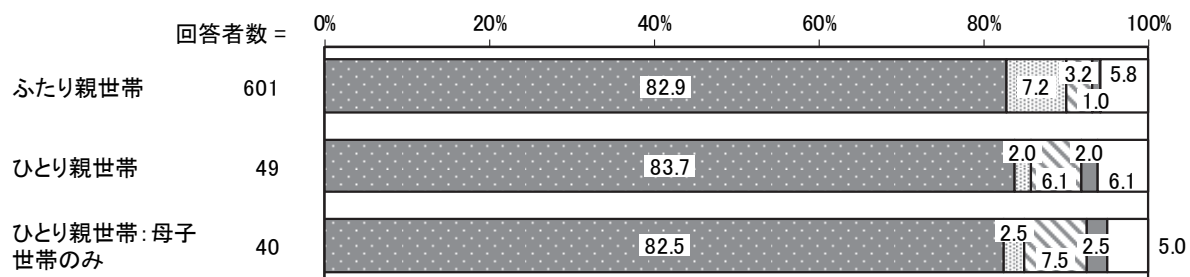
#### 【所得区分別】(一般アンケート)

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「過去に不登校経験あり」の割合が、中央値以上で「不登校経験なし」の割合が高くなっている。



#### 【家族構成別】

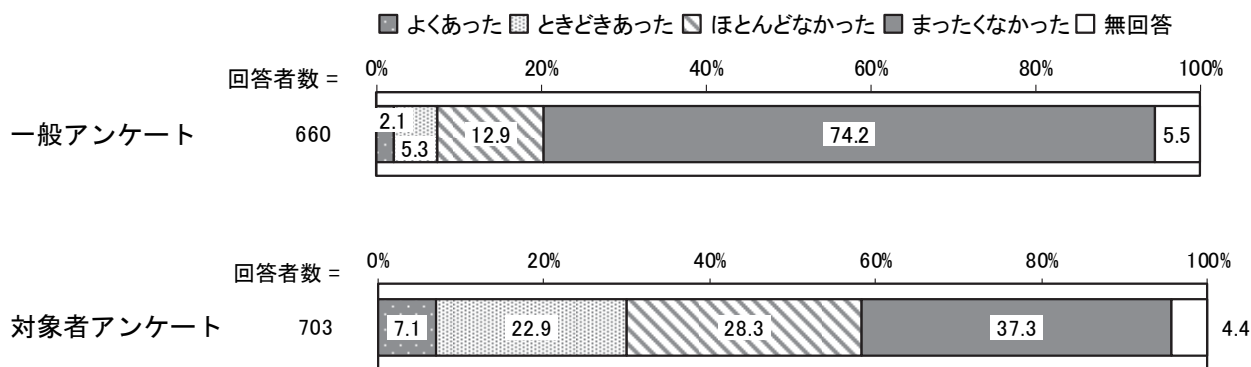
家族構成別でみると、「不登校経験なし」の割合に大きな差異はないものの、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「現在不登校である」の割合が高くなっている。



**問 31 あなたの世帯では、過去 1 年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないことがありましたか。(○は 1 つだけ)**

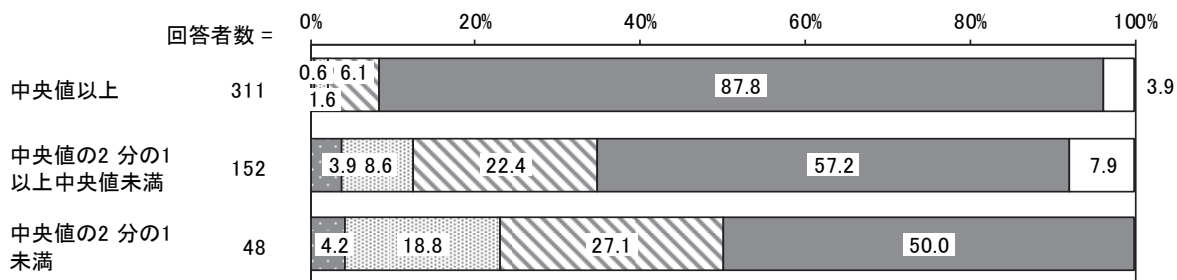
一般アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が 87.1%、「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が 7.4%となっている。

対象者アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が 65.6%、「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が 30.0%となっている。



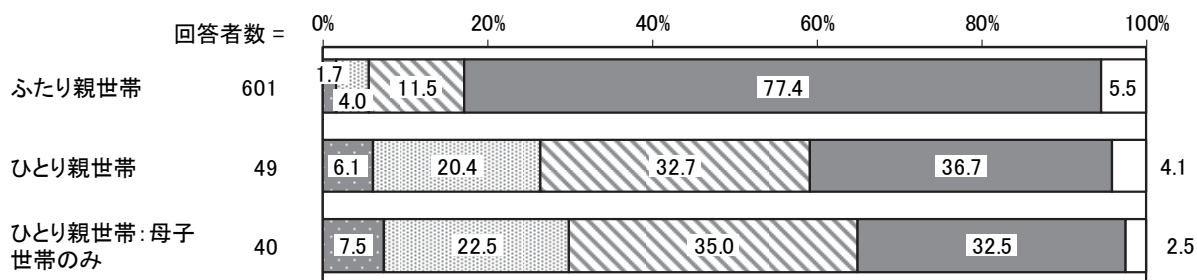
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 未満で“あった”の割合が、中央値以上で“なかった”の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで“あった”の割合が、ふたり親世帯で“なかった”の割合が高くなっている。

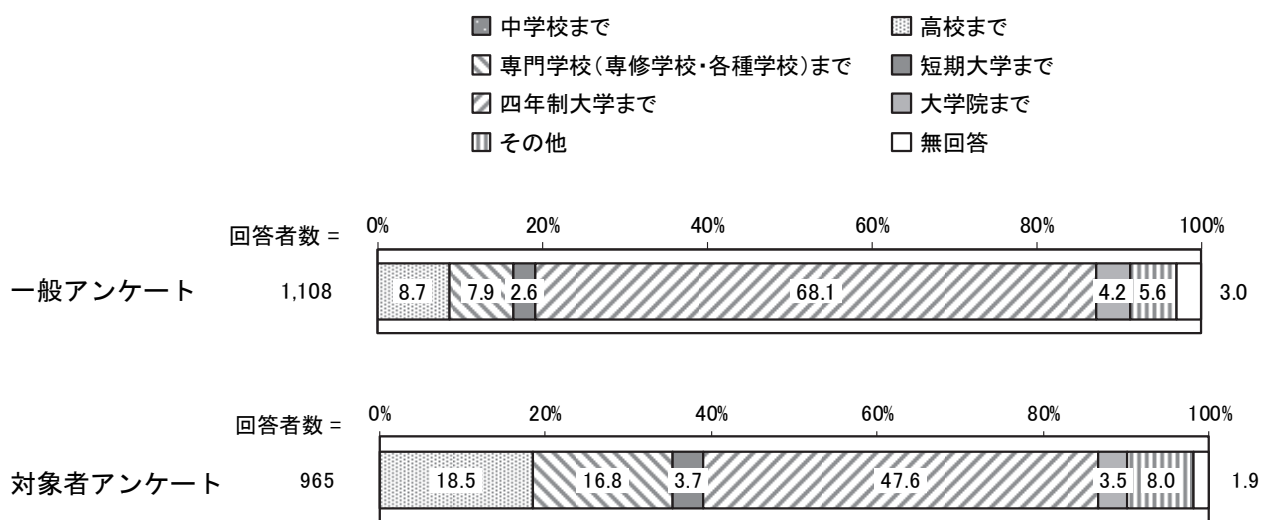


すべての方におたずねします。

問 32 あなたの希望として、お子さんには、将来どの段階まで進学してほしいですか。  
(○は1つだけ)

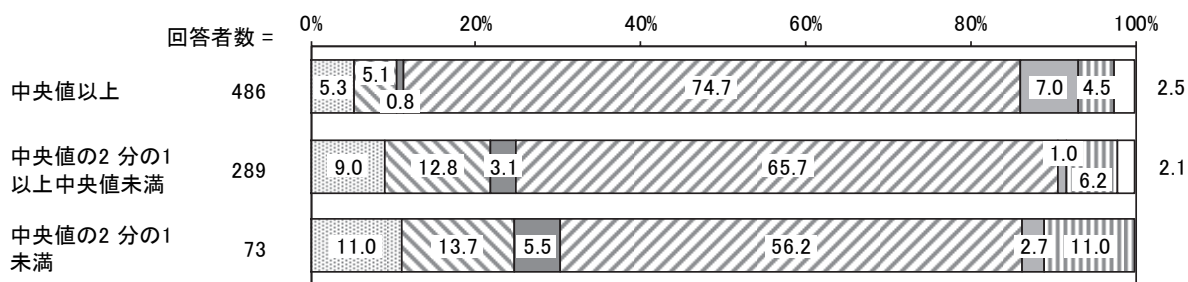
一般アンケートでは、「四年制大学まで」の割合が 68.1%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「四年制大学まで」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「高校まで」の割合が 18.5%、「専門学校（専修学校・各種学校）まで」の割合が 16.8%となっている。



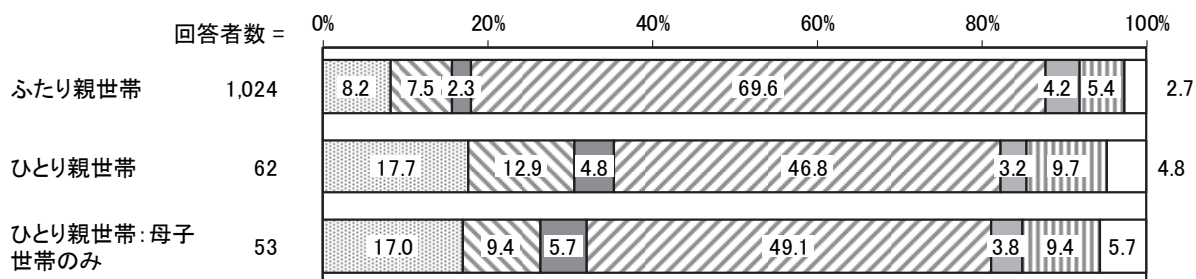
#### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「四年制大学まで」の割合が、中央値の2分の1未満で「高校まで」の割合が高くなっている。



#### 【家族構成別】

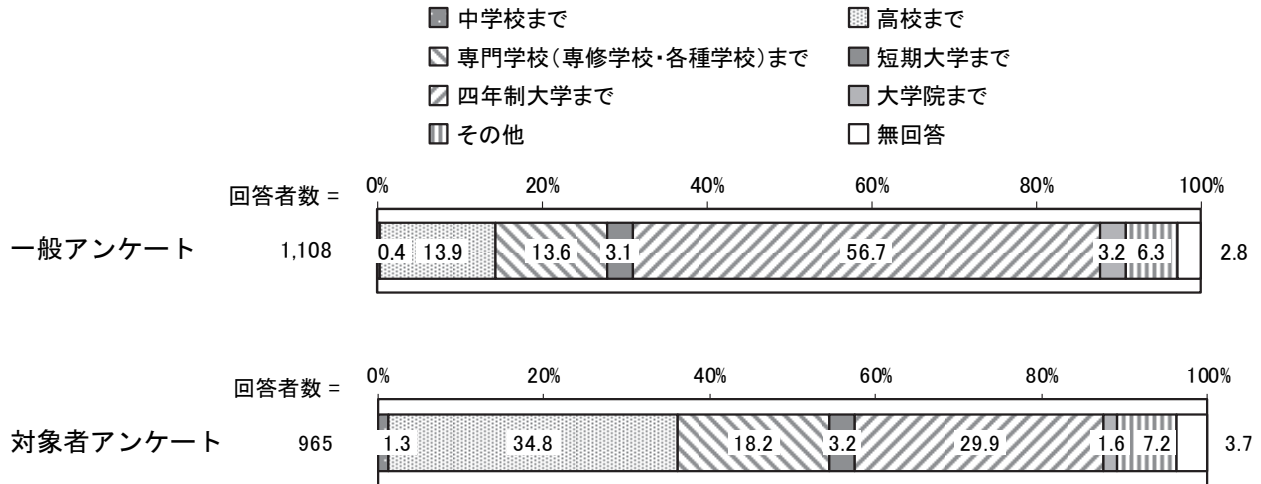
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「四年制大学まで」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「高校まで」の割合が高くなっている。



**問 33 現実的には、お子さんは将来どの段階まで進学すると思いますか。**  
(○は1つだけ)

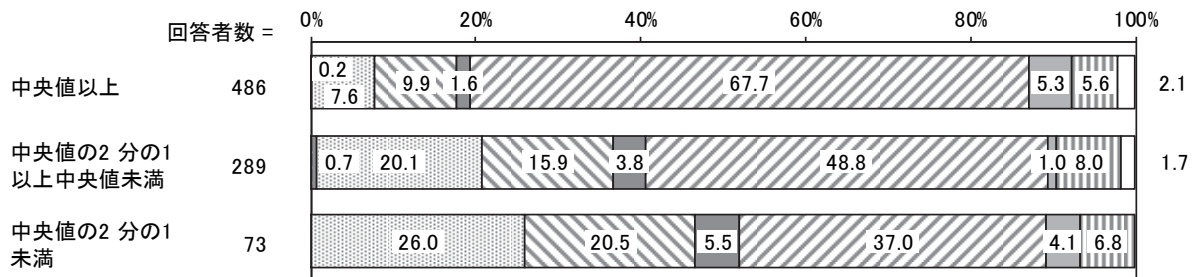
一般アンケートでは、「四年制大学まで」の割合が 56.7%と最も高く、次いで「高校まで」の割合が 13.9%、「専門学校（専修学校・各種学校）まで」の割合が 13.6%となっている。

対象者アンケートでは、「高校まで」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「四年制大学まで」の割合が 29.9%、「専門学校（専修学校・各種学校）まで」の割合が 18.2%となっている。



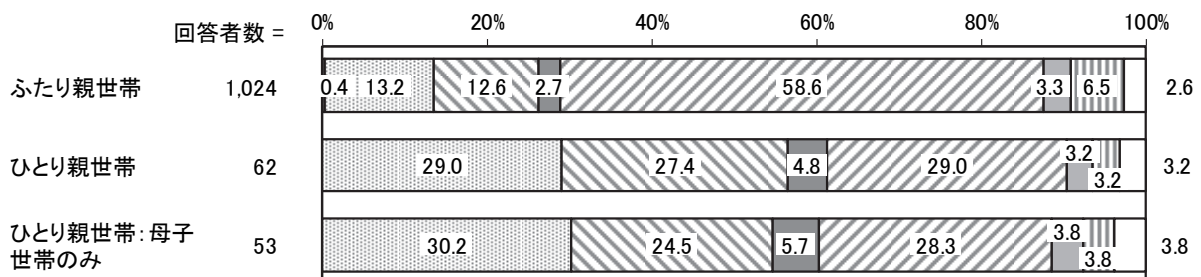
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「四年制大学まで」の割合が、中央値の2分の1未満で「高校まで」の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「四年制大学まで」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「高校まで」の割合が高くなっている。

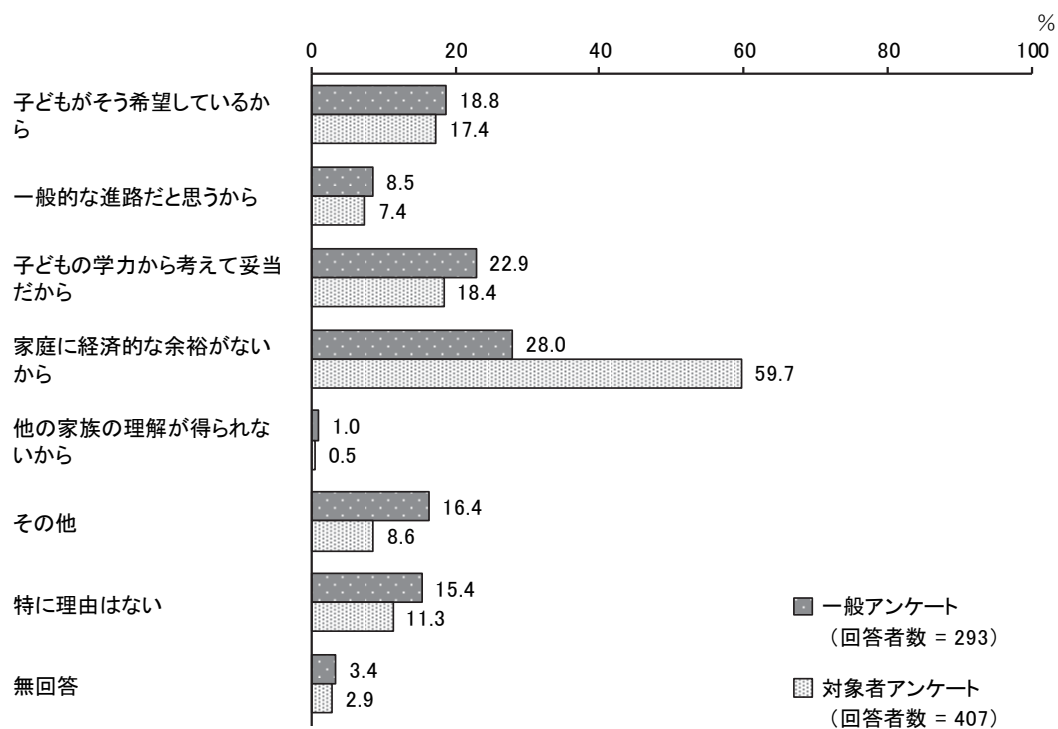


問 32 と問 33 でお答えいただいた、「希望」と「現実」が異なる場合についてお聞きします。

問 34 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が 28.0%と最も高く、次いで「子どもの学力から考えて妥当だから」の割合が 22.9%、「子どもがそう希望しているから」の割合が 18.8%となっている。

対象者アンケートでは、「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「子どもの学力から考えて妥当だから」の割合が 18.4%、「子どもがそう希望しているから」の割合が 17.4%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が、中央値以上で「子どもの学力から考えて妥当だから」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	子どもの学力から考えて妥当だから	家庭に経済的な余裕がないから	他の家族の理解が得られないから	その他	特に理由はない	無回答
中央値以上	99	18.2	12.1	28.3	14.1	2.0	20.2	10.1	3.0
中央値の2分の1以上中央値未満	90	17.8	4.4	20.0	40.0	—	16.7	15.6	2.2
中央値の2分の1未満	28	17.9	10.7	21.4	57.1	3.6	3.6	14.3	—

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで「家庭に経済的な余裕がないから」の割合が、ふたり親世帯で「子どもの学力から考えて妥当だから」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	子どもがそう希望しているから	一般的な進路だと思うから	子どもの学力から考えて妥当だから	家庭に経済的な余裕がないから	他の家族の理解が得られないから	その他	特に理由はない	無回答
ふたり親世帯	259	18.5	9.3	23.6	25.1	0.4	17.4	15.4	3.5
ひとり親世帯	24	20.8	—	12.5	58.3	4.2	8.3	12.5	4.2
ひとり親世帯：母子世帯のみ	18	22.2	—	16.7	72.2	5.6	5.6	5.6	—

すべての方におたずねします。

問 35 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(それぞれ○は1つだけ)

一般アンケートでは、『子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』で「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が 79.6%となっている。

他方で、『子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる』で「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」をあわせた“あてはまらない”の割合が 40.9%となっている。

対象者アンケートでは、『子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた』で「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が 72.0%となっている。他方で、『子どもに本や新聞を読むように勧めている』で「どちらかといえば、あてはまらない」と「あてはまらない」をあわせた“あてはまらない”の割合が 34.1%となっている。

#### 一般アンケート

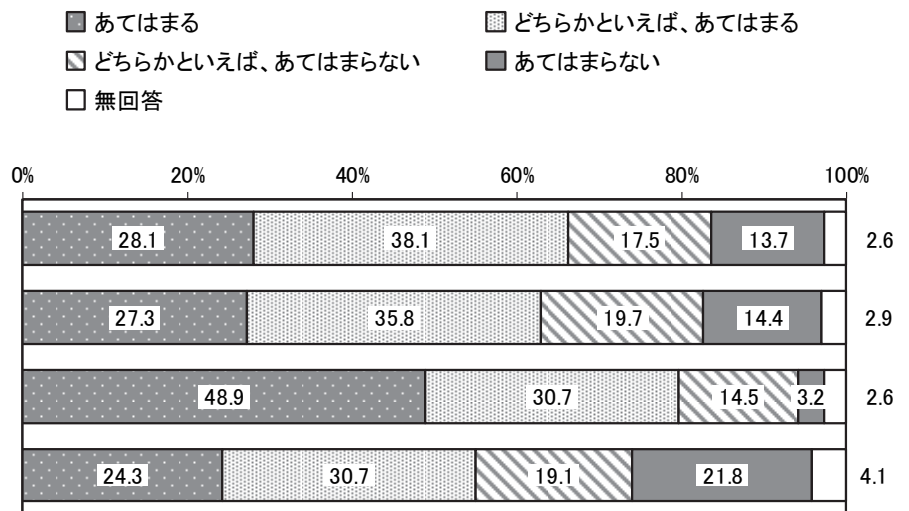
回答者数 = 1,108

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

子どもに本や新聞を読むように勧めている

子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる



#### 対象者アンケート

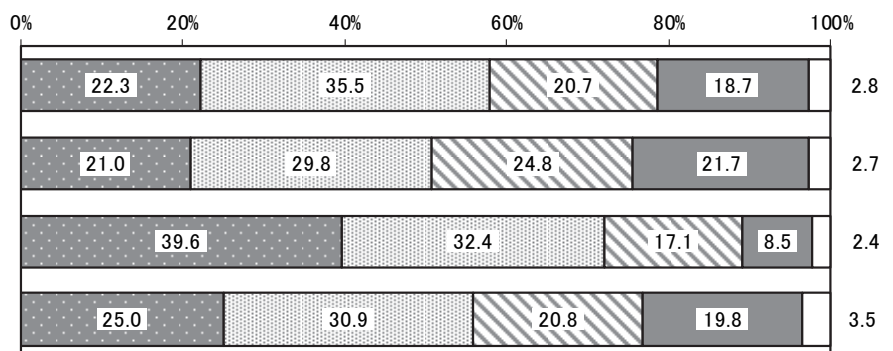
回答者数 = 965

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

子どもに本や新聞を読むように勧めている

子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

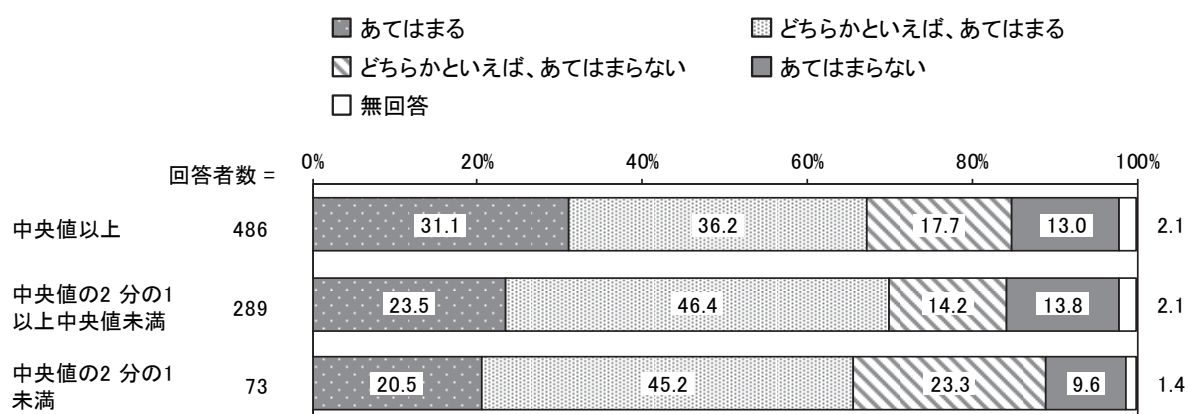
子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる



## テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

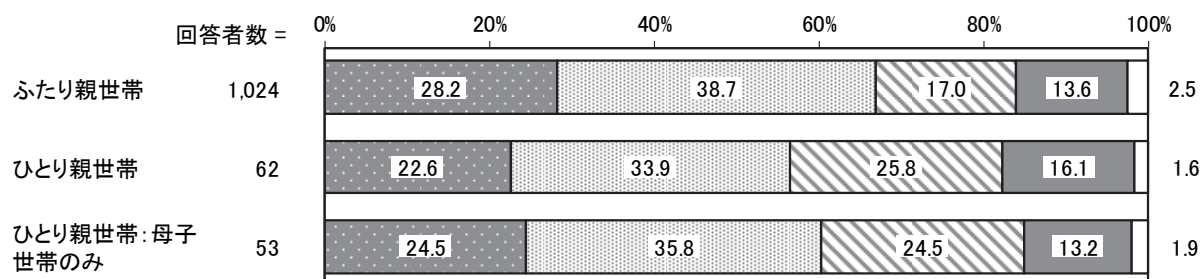
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、大きな差異はない。



### 【家族構成別】

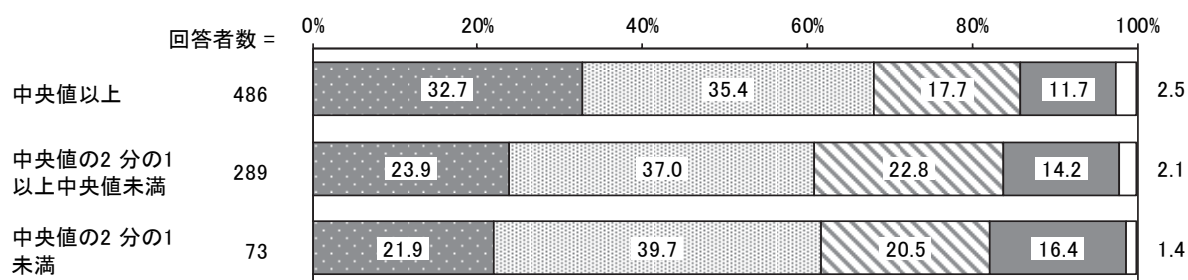
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで“あてはまる”の割合が、ひとり親世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっている。



## 子どもに本や新聞を読むように勧めている

### 【所得区分別】（一般アンケート）

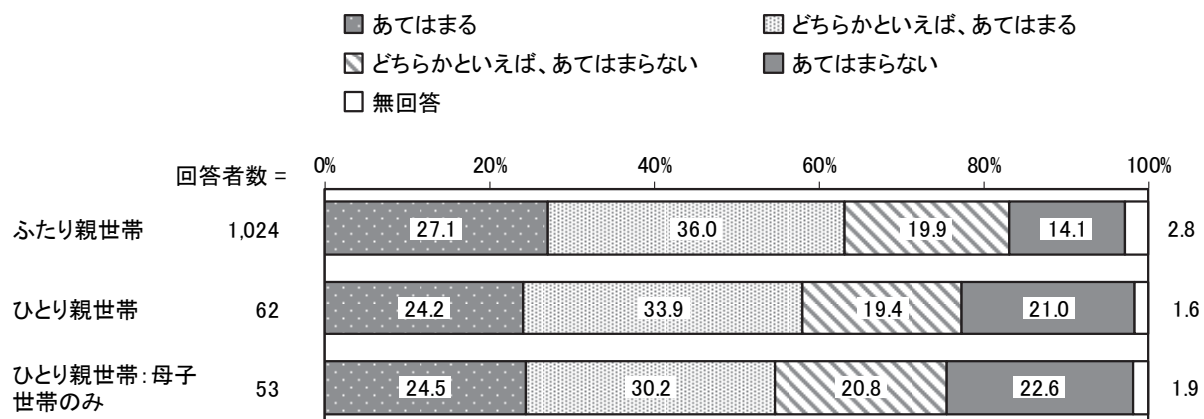
一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“あてはまる”の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値の2分の1未満で“あてはまらない”の割合が高くなっている。





## 【家族構成別】

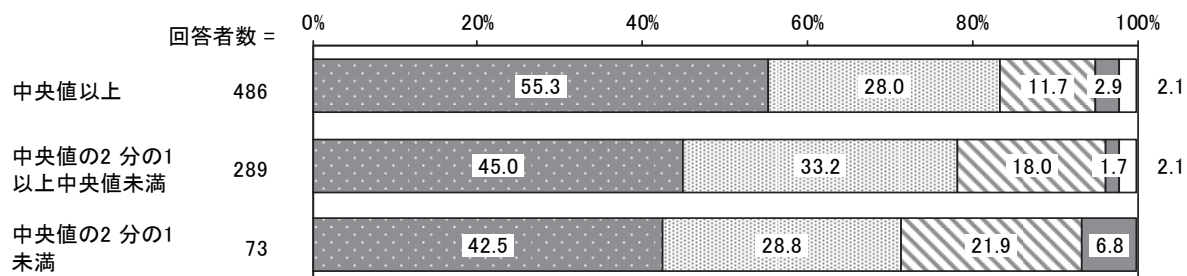
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで“あてはまらない”の割合が高くなっている。



## 子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

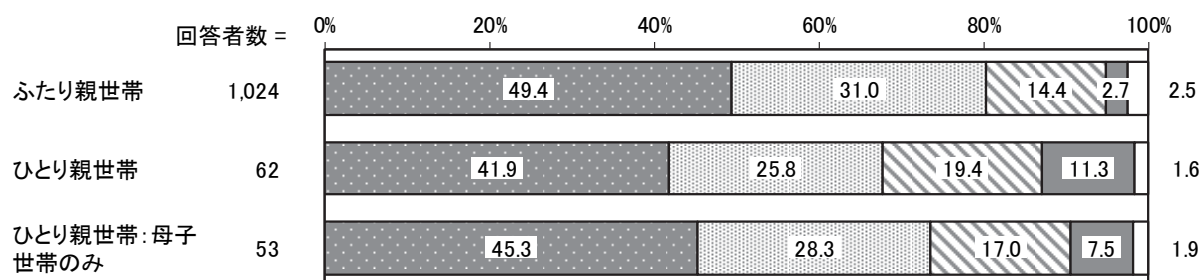
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上、中央値の2分の1以上中央値未満で“あてはまる”の割合が、中央値の2分の1未満で“あてはまらない”の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

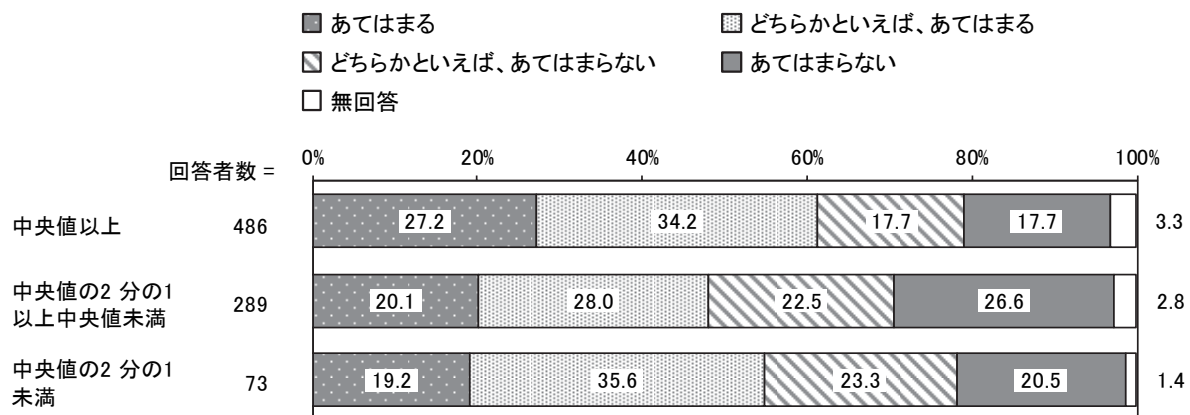
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で“あてはまる”の割合が、ひとり親世帯で“あてはまらない”の割合が高くなっている。



子どもの方から、勉強や成績のことについて話をしてくれる

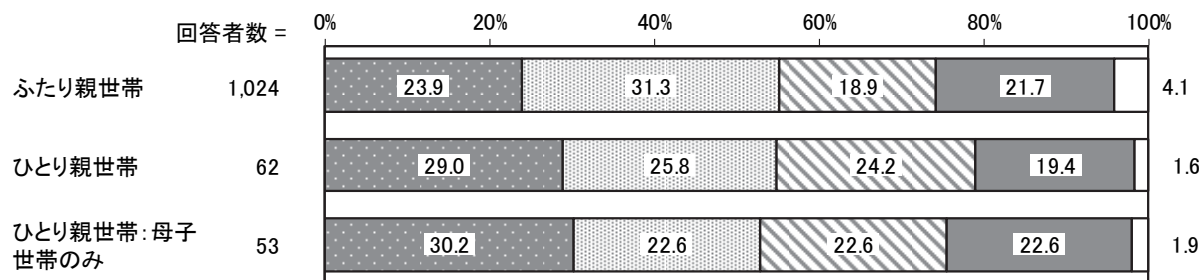
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“あてはまる”の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で“あてはまらない”の割合が高くなっている。



### 【家族構成別】

家族構成別でみると、大きな差異はない。

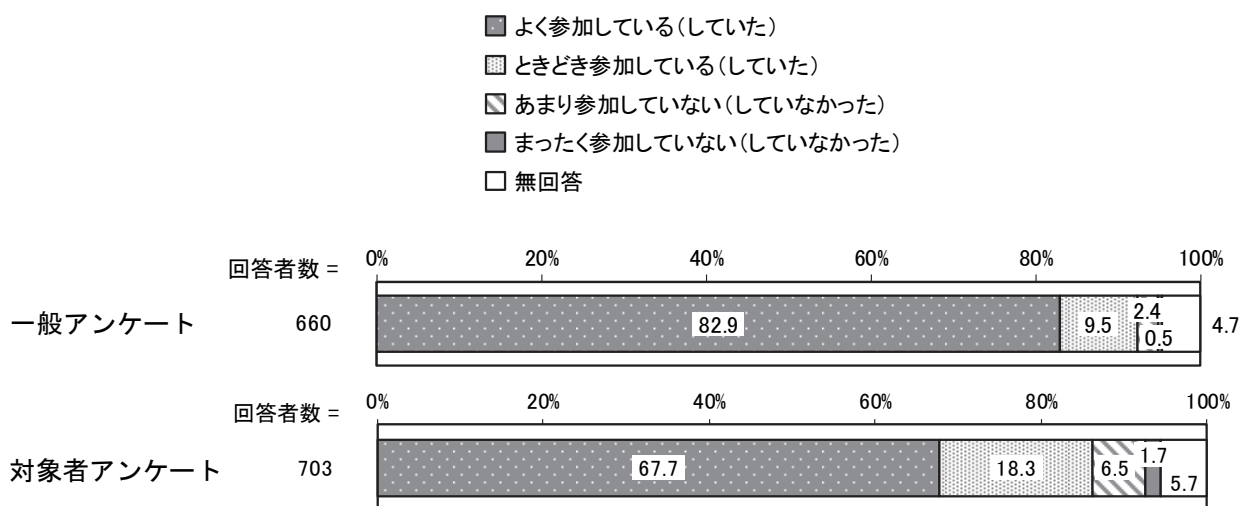


お子さんが、小学生以上の方におたずねします。

問 36 授業参観や運動会など学校行事はどの程度参加していますか。(〇は1つだけ)

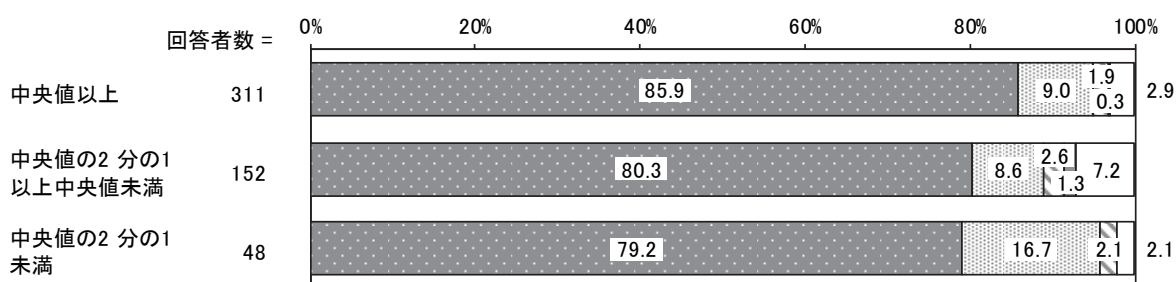
一般アンケートでは、「よく参加している(していた)」「ときどき参加している(していた)」をあわせた“参加している(していた)”の割合が92.4%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「よく参加している(していた)」「ときどき参加している(していた)」をあわせた“参加している(していた)”の割合が86.0%と最も高く、次いで「あまり参加していない(していなかった)」と「まったく参加していない(していなかった)」をあわせた“参加していない(していなかった)”の割合が8.2%となっている。



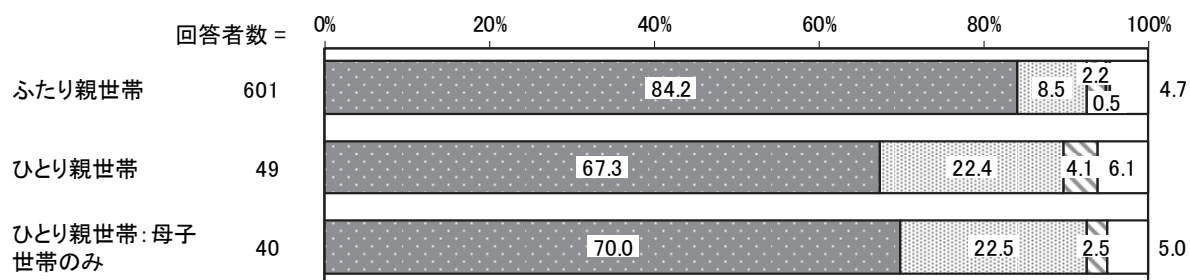
【所得区分別】(一般アンケート)

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で“参加している(していた)”の割合が高くなっている。



【家族構成別】

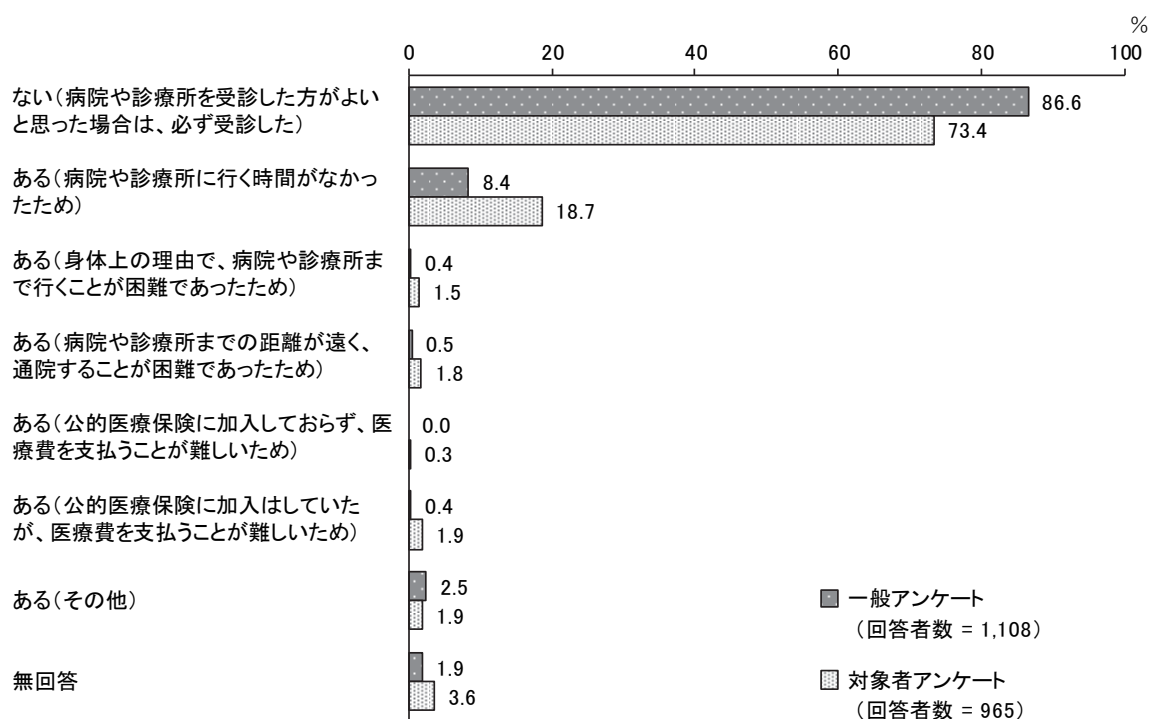
家族構成別でみると、大きな差異はない。



**問 37 あなたの世帯では、過去 1 年間に、お子さんについて病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診(じゅしん)したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。(ある場合はあてはまるものすべてに○)**

一般アンケートでは、「ない(病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した)」の割合が 86.6%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「ない(病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した)」の割合が 73.4%と最も高く、次いで「ある(病院や診療所に行く時間がなかったため)」の割合が 18.7%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上、中央値の2分の1以上中央値未満で「ない（病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した）」の割合が、中央値の2分の1未満で「ある（病院や診療所に行く時間がなかったため）」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	ない（病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した）	ある（病院や診療所に行く時間がなかったため）	ある（身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため）	ある（病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため）	ある（公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しいため）	ある（公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しいため）	ある（その他）	無回答
中央値以上	486	87.9	7.6	0.4	0.2	—	0.2	2.9	1.4
中央値の2分の1以上中央値未満	289	86.9	9.3	0.3	—	—	—	2.8	1.4
中央値の2分の1未満	73	75.3	16.4	1.4	5.5	—	1.4	4.1	—

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「ある（病院や診療所に行く時間がなかったため）」の割合が高くなっている。

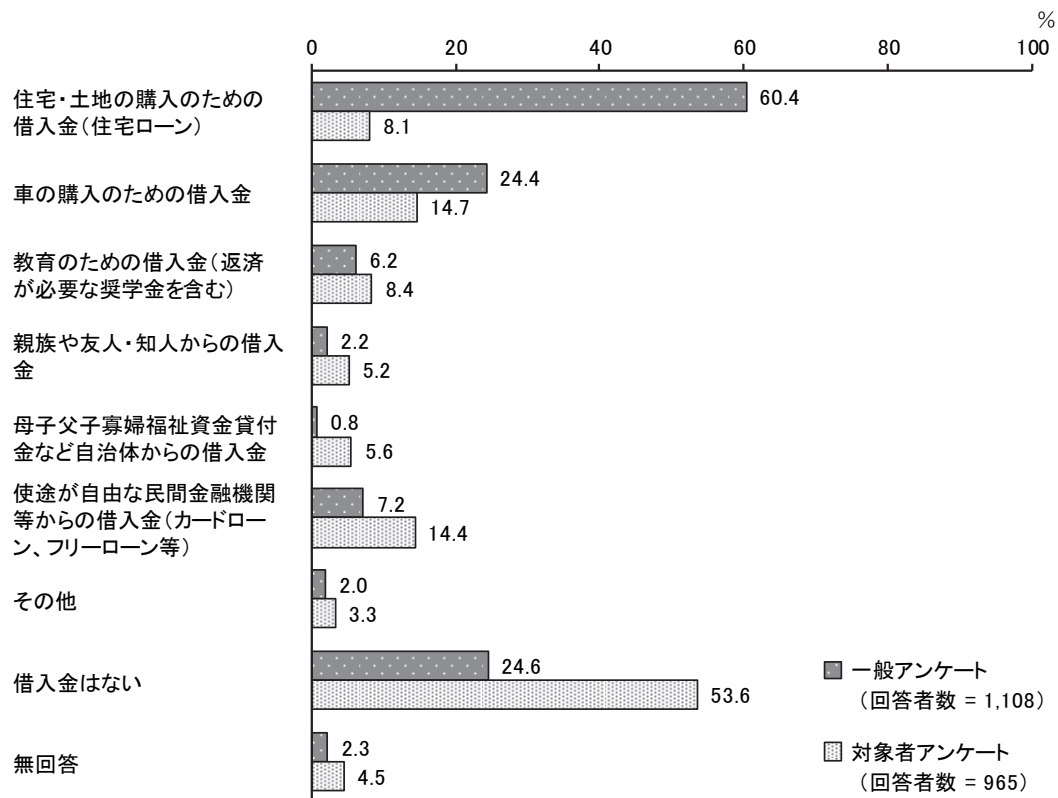
単位：％

区分	回答者数（件）	ない（病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した）	ある（病院や診療所に行く時間がなかったため）	ある（身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため）	ある（病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため）	ある（公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しいため）	ある（公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しいため）	ある（その他）	無回答
ふたり親世帯	1024	87.5	7.9	0.3	0.5	—	0.3	2.4	1.7
ひとり親世帯	62	72.6	17.7	1.6	1.6	—	1.6	4.8	3.2
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	71.7	17.0	1.9	1.9	—	1.9	5.7	3.8

**問 38 あなたの世帯では、次のような借入金がありますか。借入金がある場合、現在のひと月あたりの返済額はいくらですか。（あてはまるものすべてに○）**

一般アンケートでは、「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」の割合が 60.4%と最も高く、次いで「借入金はない」の割合が 24.6%、「車の購入のための借入金」の割合が 24.4%となっている。

対象者アンケートでは、「借入金はない」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「車の購入のための借入金」の割合が 14.7%、「使途が自由な民間金融機関等からの借入金（カードローン、フリーローン等）」の割合が 14.4%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値の2分の1未満、で「使途が自由な民間金融機関等からの借入金（カードローン、フリーローン等）」の割合が高くなっている。

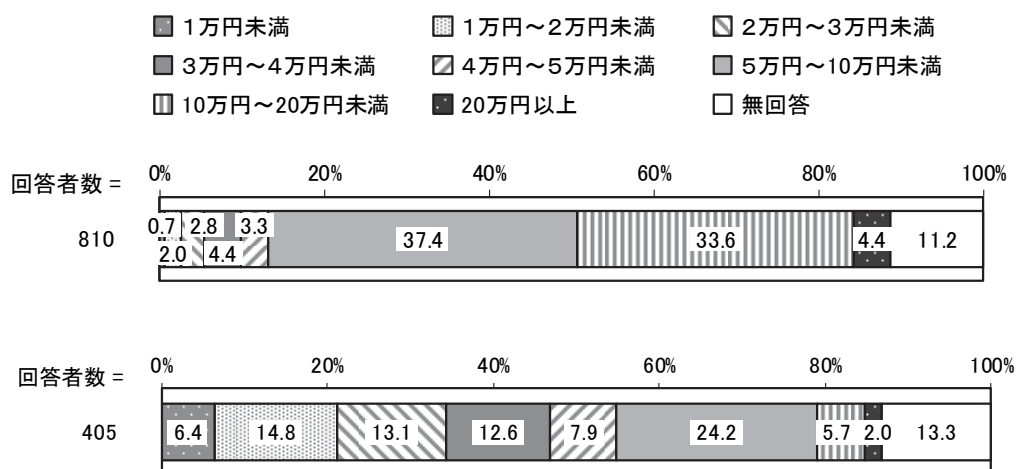
単位：％

区分	回答者数（件）	住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）	車の購入のための借入金	教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）	親族や友人・知人からの借入金	母子父子寡婦福祉資金貸付金など自治体からの借入金	使途が自由な民間金融機関等からの借入金（カードローン、フリーローン等）	その他	借入金はない	無回答
中央値以上	486	68.3	21.2	5.6	1.4	—	4.3	0.6	24.3	1.4
中央値の2分の1以上中央値未満	289	55.0	27.3	5.5	4.5	0.7	12.8	2.8	26.3	1.4
中央値の2分の1未満	73	34.2	24.7	9.6	5.5	8.2	13.7	4.1	37.0	1.4

## ひと月あたりの返済額

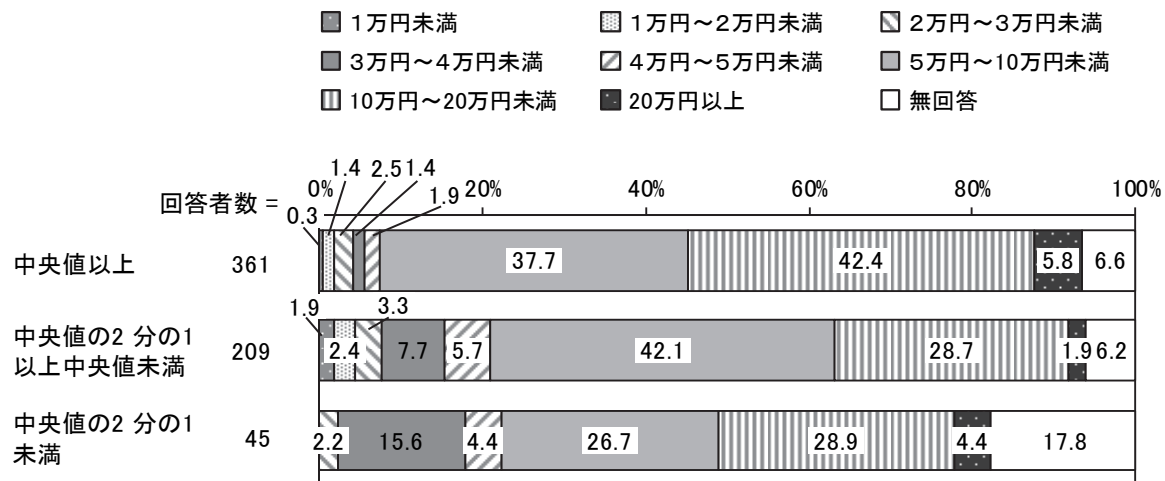
一般アンケートでは、「5万円～10万円未満」の割合が37.4%と最も高く、次いで「10万円～20万円未満」の割合が33.6%となっている。

対象者アンケートでは、「5万円～10万円未満」の割合が24.2%と最も高く、次いで「1万円～2万円未満」の割合が14.8%、「2万円～3万円未満」の割合が13.1%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「10万円～20万円未満」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で「3万円～4万円未満」の割合が、高くなっている。



### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）」の割合が、ひとり親世帯：母子世帯のみで「借入金はない」の割合が高くなっている。

単位：％

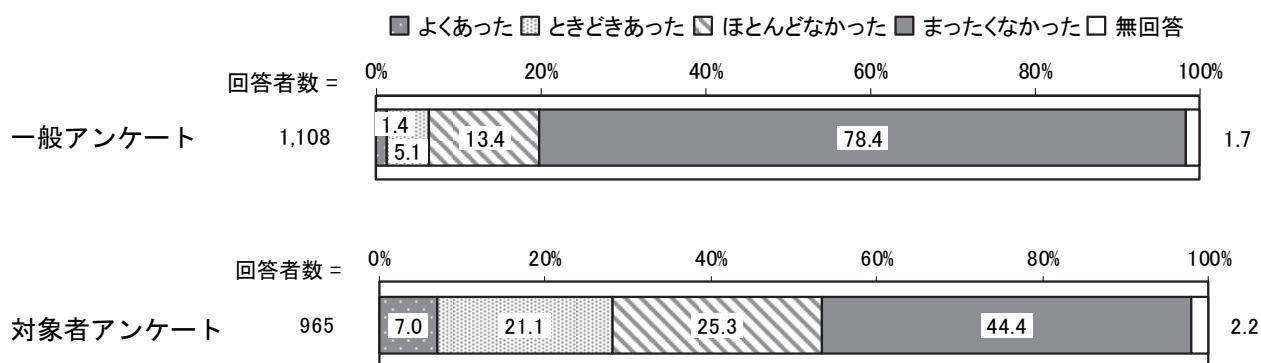
区分	回答者数（件）	住宅・土地の購入のための借入金（住宅ローン）	車の購入のための借入金	教育のための借入金（返済が必要な奨学金を含む）	親族や友人・知人からの借入金	母子父子寡婦福祉資金貸付金など自治体からの借入金	入金（カードローン、フリーローン等）	使途が自由な民間金融機関等からの借入金（カードローン、フリーローン等）	その他	借入金はない	無回答
ふたり親世帯	1024	62.9	25.0	6.0	2.1	0.7	6.9	1.8	23.5	2.1	
ひとり親世帯	62	21.0	14.5	9.7	3.2	3.2	14.5	6.5	46.8	－	
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	17.0	15.1	5.7	3.8	1.9	11.3	5.7	52.8	－	



**問 39 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(○は1つだけ)**

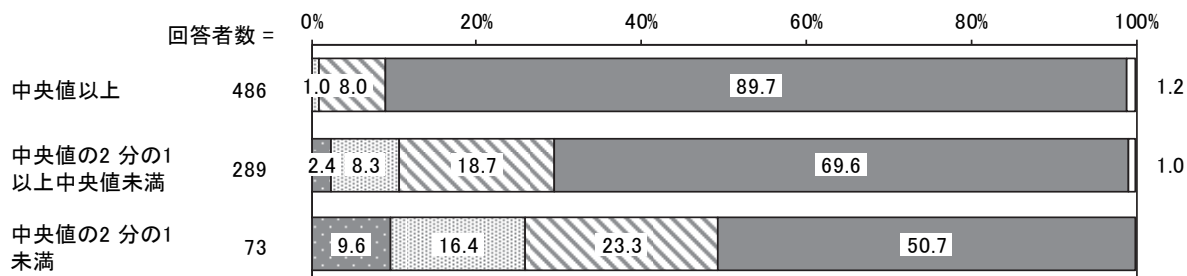
一般アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が91.8%、「よくあった」「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が6.5%となっている。

対象者アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が69.7%、次いで「よくあった」「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が28.1%となっている。



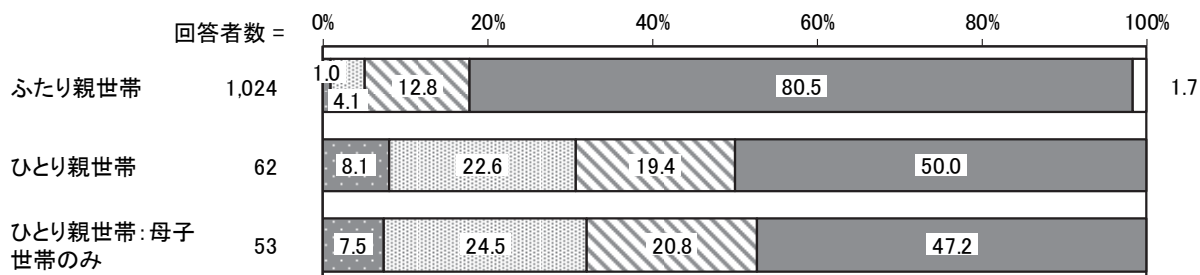
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“なかった”の割合が、中央値の2分の1未満で“あった”の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

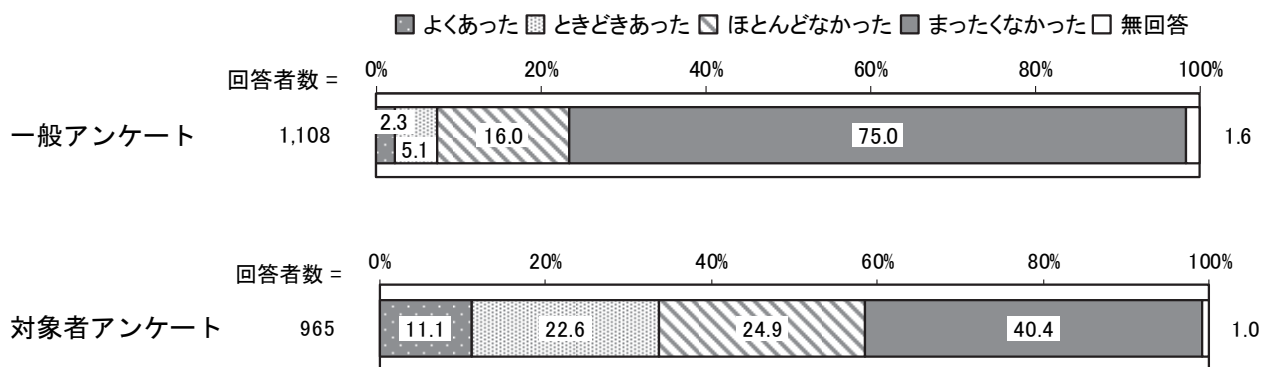
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で“なかった”の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで“あった”の割合が高くなっている。



問 40 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする衣料が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。  
(○は1つだけ)

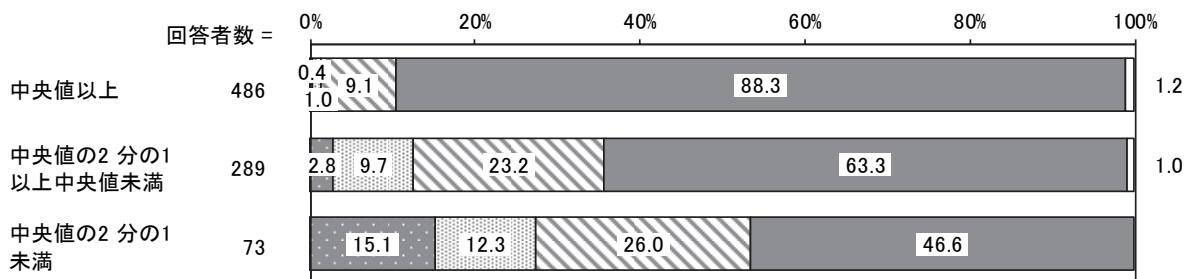
一般アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が91.0%、「よくあった」「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が7.4%となっている。

対象者アンケートでは、「ほとんどなかった」と「まったくなかった」をあわせた“なかった”の割合が65.3%、「よくあった」「ときどきあった」をあわせた“あった”の割合が33.7%となっている。



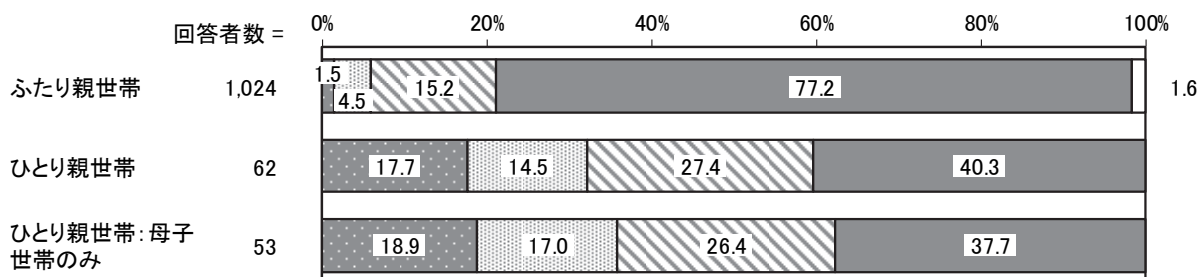
#### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“なかった”の割合が、中央値の2分の1未満で“あった”の割合が高くなっている。



#### 【家族構成別】

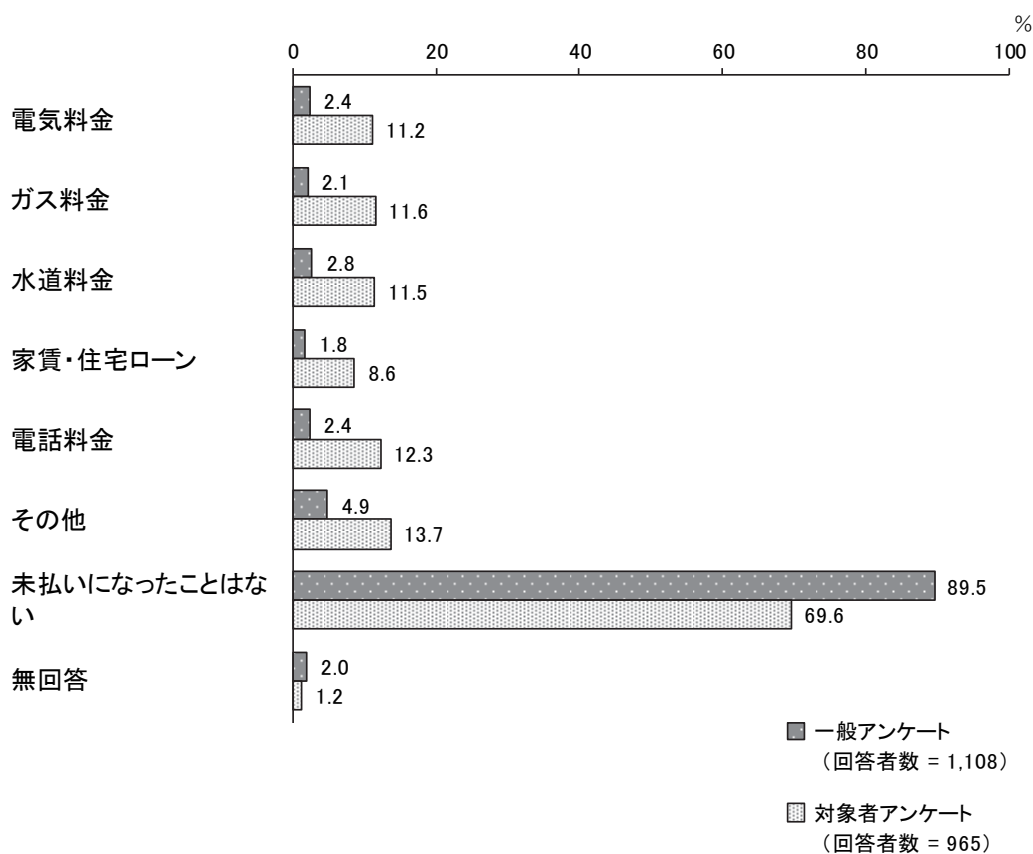
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで“あった”の割合が、ふたり親世帯で“なかった”の割合が高くなっている。



問 41 あなたの世帯では、過去 1 年間に、次の料金について、お金が足りなくて未払いになったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「未払いになったことはない」の割合が 89.5%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「未払いになったことはない」の割合が 69.6%と最も高くなっているものの、「電話料金」は 12.3%、「ガス料金」は 11.6%が「あった」となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「未払いになったことはない」の割合が、中央値の2分の1未満で「電気料金」の未払いがあった割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	電気料金	ガス料金	水道料金	家賃・住宅ローン	電話料金	その他	未払いになったことはない	無回答
中央値以上	486	0.2	—	0.4	0.2	0.2	1.0	96.7	1.4
中央値の2分の1以上中央値未満	289	3.8	3.5	4.5	3.1	3.1	8.3	85.1	1.7
中央値の2分の1未満	73	12.3	9.6	11.0	4.1	11.0	17.8	69.9	—

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「未払いになったことはない」の割合が、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「電気料金」「電話料金」の未払いがあった割合が高くなっている。

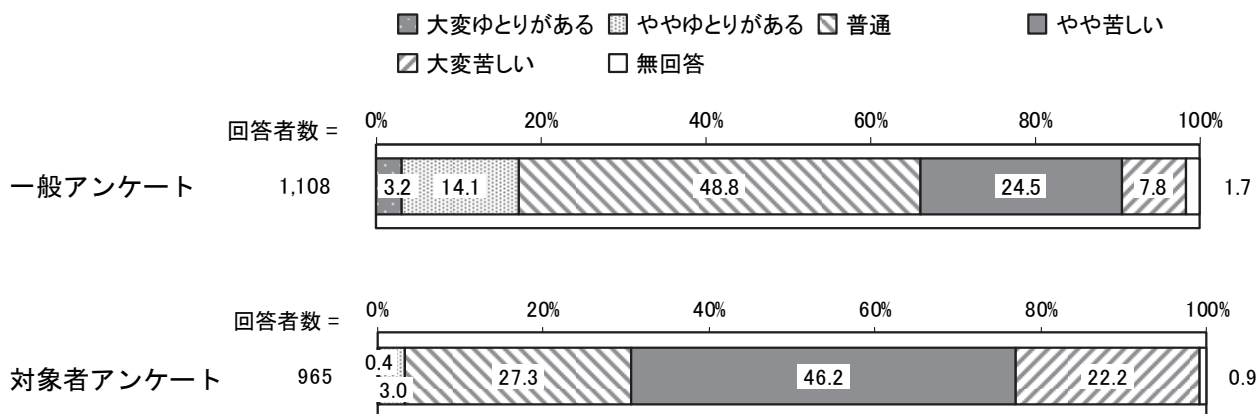
単位：％

区分	回答者数 (件)	電気料金	ガス料金	水道料金	家賃・住宅ローン	電話料金	その他	未払いになったことはない	無回答
ふたり親世帯	1024	2.0	1.7	2.5	1.7	2.0	4.0	91.0	1.9
ひとり親世帯	62	11.3	9.7	8.1	4.8	11.3	19.4	66.1	1.6
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	9.4	9.4	7.5	3.8	11.3	18.9	64.2	1.9

**問 42 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どのように感じていますか。**  
(○は1つだけ)

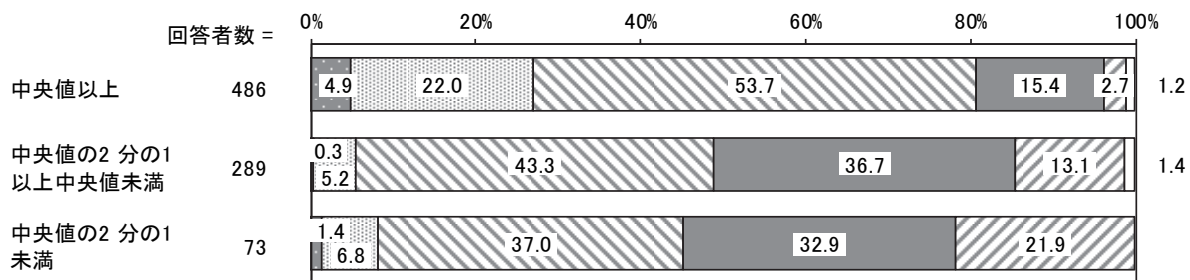
一般アンケートでは、「普通」の割合が 48.8%と最も高く、次いで「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が 32.3%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が 17.3%となっている。

対象者アンケートでは、「やや苦しい」と「大変苦しい」をあわせた“苦しい”の割合が 68.4%と最も高く、次いで「普通」の割合が 27.3%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」をあわせた“ゆとりがある”の割合が 3.4%となっている。



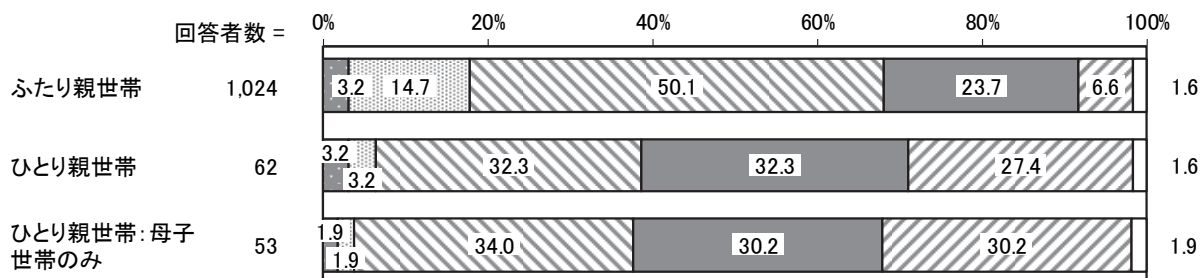
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で“ゆとりがある”の割合が、中央値の2分の1未満で“苦しい”の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

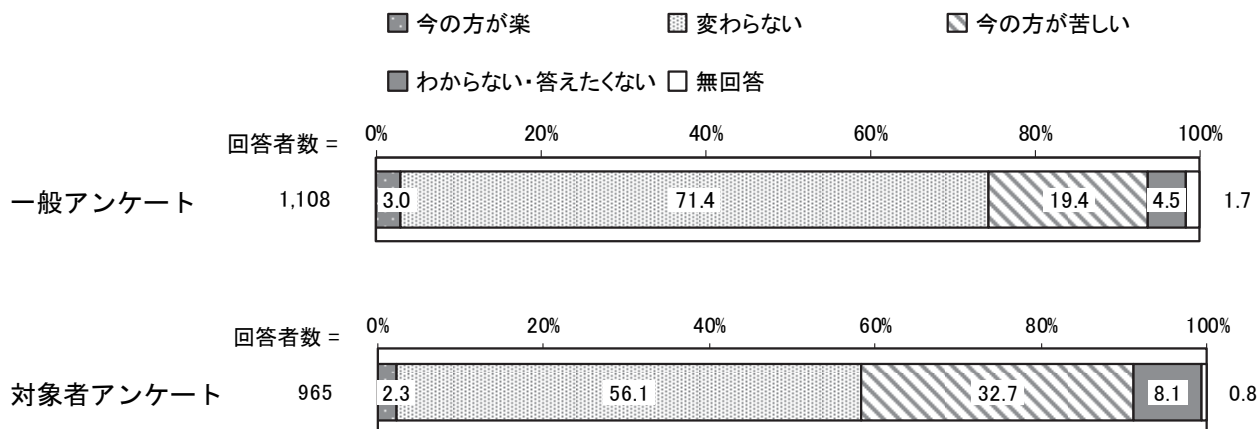
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで“苦しい”の割合が高くなっている。



**問 43 現在の暮らしの状況は新型コロナウイルス感染症拡大前と比べていかがですか。**  
(○は1つだけ)

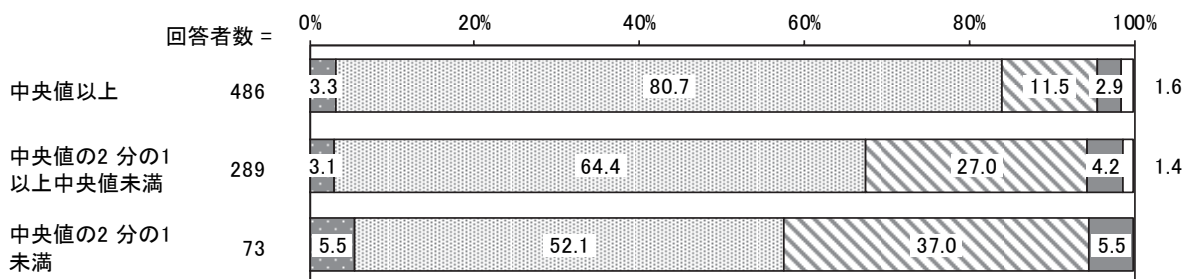
一般アンケートでは、「変わらない」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「今の方が苦しい」の割合が 19.4%となっている。

対象者アンケートでは、「変わらない」の割合が 56.1%と最も高く、次いで「今の方が苦しい」の割合が 32.7%となっている。



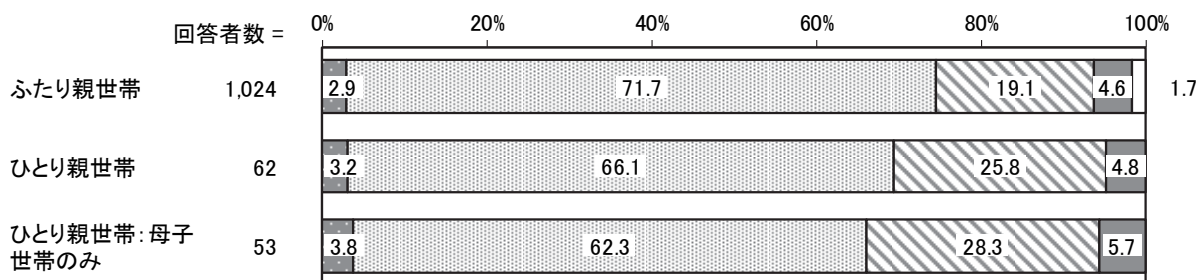
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「変わらない」の割合が、中央値の2分の1未満で「今の方が苦しい」の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

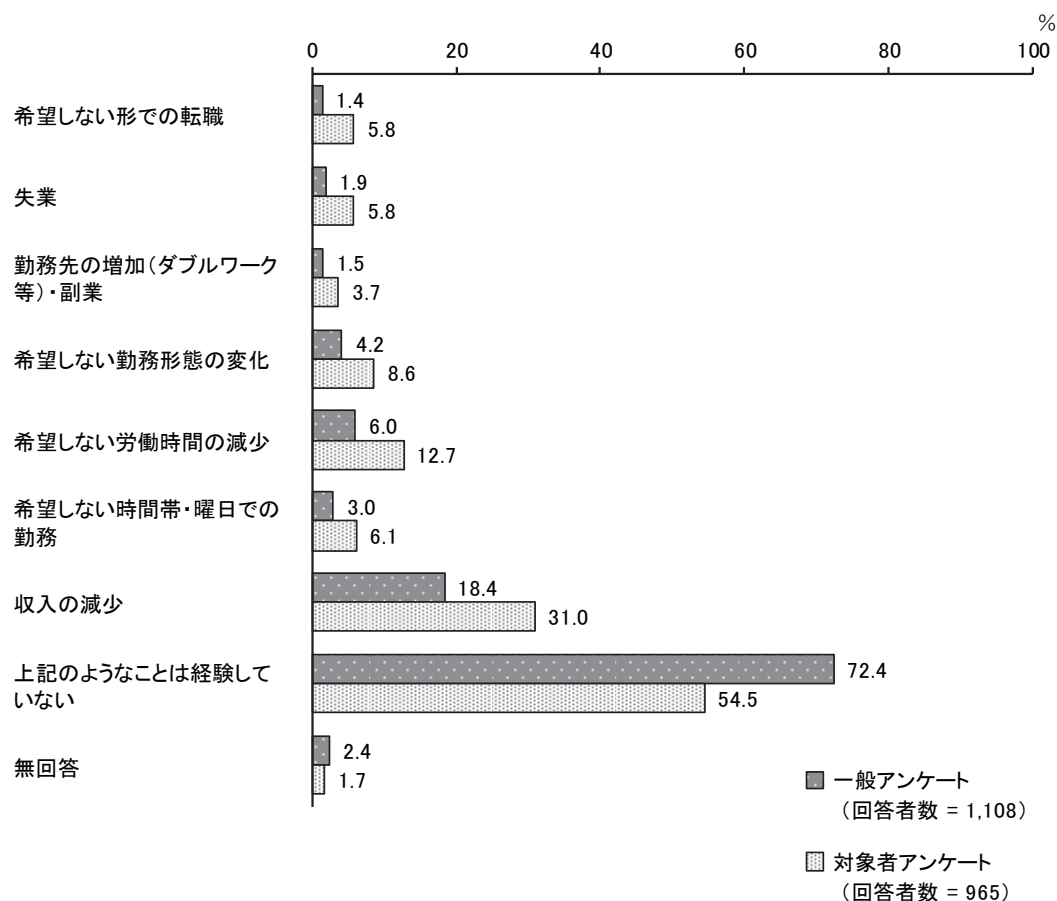
家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで「今の方が苦しい」の割合が高くなっている。



**問 44 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたは次のようなことを経験しましたか。（あてはまるものすべてに○）**

一般アンケートでは、「上記のようなことは経験していない」の割合が 72.4%と最も高く、次いで「収入の減少」の割合が 18.4%となっている。

対象者アンケートでは、「上記のようなことは経験していない」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「収入の減少」の割合が 31.0%、「希望しない労働時間の減少」の割合が 12.7%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 未満で「収入の減少」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	希望しない形で転職	失業	勤務先の増加（ダブルワーク等）・副業	希望しない勤務形態の変化	希望しない労働時間の減少	希望しない時間帯・曜日の勤務	収入の減少	上記のようなことは経験していない	無回答
中央値以上	486	0.8	0.8	0.8	2.9	3.5	2.3	10.1	81.5	2.1
中央値の2分の1以上中央値未満	289	1.0	2.8	2.8	4.2	7.6	3.8	23.9	66.1	2.1
中央値の2分の1未満	73	4.1	5.5	1.4	9.6	15.1	4.1	32.9	56.2	1.4

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで「希望しない労働時間の減少」や「希望しない勤務形態の変化」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	希望しない形で転職	失業	勤務先の増加（ダブルワーク等）・副業	希望しない勤務形態の変化	希望しない労働時間の減少	希望しない時間帯・曜日の勤務	収入の減少	上記のようなことは経験していない	無回答
ふたり親世帯	1024	1.4	1.8	1.5	4.0	5.7	2.7	18.4	72.7	2.4
ひとり親世帯	62	1.6	4.8	1.6	9.7	11.3	8.1	19.4	67.7	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	1.9	3.8	—	11.3	13.2	7.5	20.8	67.9	—



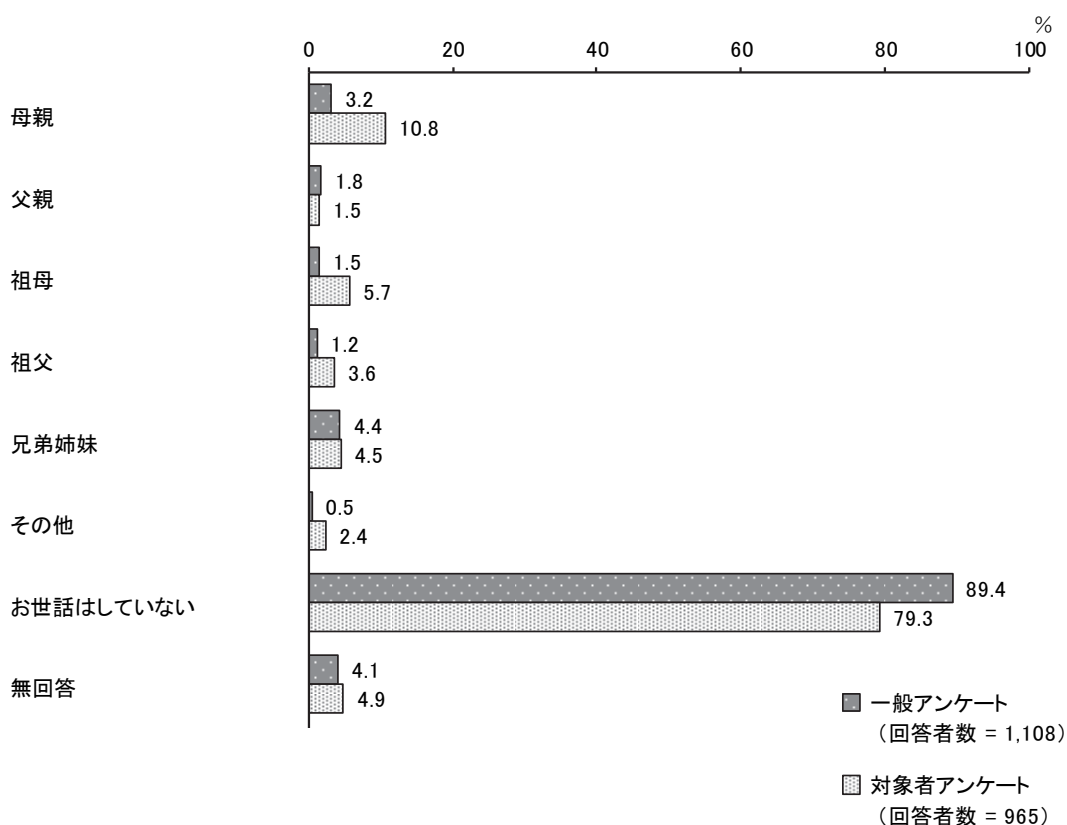
問 45 家族の中にお子さんがケアをしている人はいますか。

(お子さんから見てあてはまる人すべてに○)

(ここでいう「ケア」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話など  
をすることです。)

一般アンケートでは、何らかの家族のケアをしている割合が 6.5%となっている。お世話をしている人は、「兄弟姉妹」の割合が 4.4%と最も高く、次いで「母親」の割合が 3.2%、「父親」の割合が 1.8%となっている。

対象者アンケートでは、何らかの家族のケアをしている割合が 15.8%となっている。お世話をしている人は、「母親」の割合が 10.8%と最も高く、次いで「祖母」の割合が 5.7%、「兄弟姉妹」の割合が 4.5%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「兄弟姉妹」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他	お世話はしていない	無回答
中央値以上	486	2.1	1.4	1.4	1.2	2.1	—	92.6	3.7
中央値の2分の1以上中央値未満	289	3.8	3.1	1.7	1.4	5.2	0.3	88.2	3.1
中央値の2分の1未満	73	9.6	1.4	2.7	2.7	11.0	4.1	87.7	—

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯：母子世帯のみで「母親」や「兄弟姉妹」のお世話をしている割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他	お世話はしていない	無回答
ふたり親世帯	1024	2.6	2.0	1.2	0.8	4.1	0.2	90.2	4.0
ひとり親世帯	62	12.9	—	8.1	8.1	9.7	4.8	80.6	—
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	15.1	—	7.5	7.5	11.3	5.7	79.2	—

問 45 で「母親」から「その他」と答えた方におたずねします。

問 46 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はお子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

お世話を必要としている人の状況について、「母親」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『精神疾患（疑い含む）』、『精神疾患、依存症以外の病気』の割合が高くなっている。「父親」では、一般アンケートで『精神疾患、依存症以外の病気』、対象者アンケートで『身体障がい』、『精神疾患（疑い含む）』の割合が高くなっている。祖母、祖父では、一般アンケート・対象者アンケートともに『高齢（65 歳以上）』の割合が高くなっている。兄弟姉妹では、一般アンケート・対象者アンケートともに『若い』の割合が高くなっている。

単位：％

区分		回答者数(件)	高齢 (65 歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患 (疑い含む)	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	精神疾患、 依存症以外の病気	その他	無回答
母親	一般	35	5.7		-	-	-	2.9	8.6	2.9	8.6	2.9	74.3
	対象者	104	7.7		-	-	1.9	1.9	19.2	1.9	10.6	4.8	59.6
父親	一般	20	-		-	-	5.0	-	5.0	5.0	10.0	-	85.0
	対象者	14	14.3		-	-	28.6	-	28.6	14.3	21.4	-	21.4
祖母	一般	17	64.7		11.8	5.9	11.8	5.9	-	-	-	-	29.4
	対象者	55	65.5		7.3	5.5	10.9	-	3.6	-	14.5	-	29.1
祖父	一般	13	76.9		23.1	7.7	15.4	-	-	-	7.7	-	23.1
	対象者	35	77.1		11.4	8.6	5.7	-	2.9	-	5.7	-	20.0
兄弟姉妹	一般	49		73.5	-	-	4.1	12.2	2.0	-	4.1	-	14.3
	対象者	43		55.8	4.7	-	4.7	16.3	2.3	-	2.3	-	34.9
その他	一般	5	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0
	対象者	23	4.3	8.7	4.3	4.3	4.3	4.3	8.7	8.7	8.7	4.3	73.9

問 47 お子さんが行っているケアの内容を教えてください。ケアを必要としている方が複数いる場合はお子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

お世話を必要としている人の状況について、「母親」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『家事（食事の準備や掃除、洗濯）』の割合が高くなっている。「父親」では、一般アンケートで『感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）』、対象者アンケートで『見守り』の割合が高くなっている。祖母、祖父、兄弟姉妹では、一般アンケート・対象者アンケートともに『見守り』の割合が高くなっている。

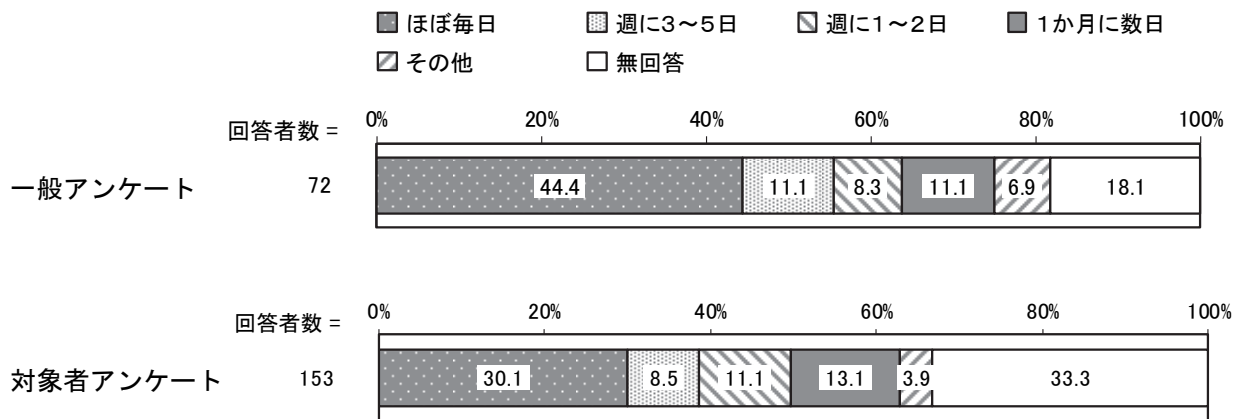
単位：％

区分		回答者数(件)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
母親	一般	35	45.7		17.1	31.4	28.6	34.3	25.7	5.7	17.1	28.6	-	42.9
	対象者	104	51.0		10.6	28.8	28.8	38.5	28.8	5.8	21.2	27.9	3.8	36.5
父親	一般	20	30.0		25.0	25.0	15.0	35.0	30.0	5.0	15.0	25.0	5.0	55.0
	対象者	14	28.6		7.1	35.7	28.6	42.9	50.0	-	7.1	28.6	7.1	21.4
祖母	一般	17	35.3		11.8	17.6	11.8	41.2	47.1	5.9	5.9	5.9	-	29.4
	対象者	55	29.1		5.5	23.6	20.0	25.5	32.7	-	3.6	14.5	-	47.3
祖父	一般	13	23.1		23.1	30.8	15.4	46.2	53.8	-	-	7.7	-	23.1
	対象者	35	8.6		-	22.9	5.7	14.3	28.6	-	2.9	2.9	-	57.1
兄弟姉妹	一般	49	10.2	34.7	12.2	10.2	4.1	22.4	42.9	2.0	-	-	8.2	16.3
	対象者	43	16.3	30.2	9.3	20.9	-	18.6	34.9	-	2.3	2.3	2.3	30.2
その他	一般	5	40.0	20.0	-	-	20.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	60.0
	対象者	23	13.0	13.0	17.4	26.1	8.7	17.4	17.4	17.4	8.7	13.0	8.7	47.8

## 問 48 お子さんがケアをしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

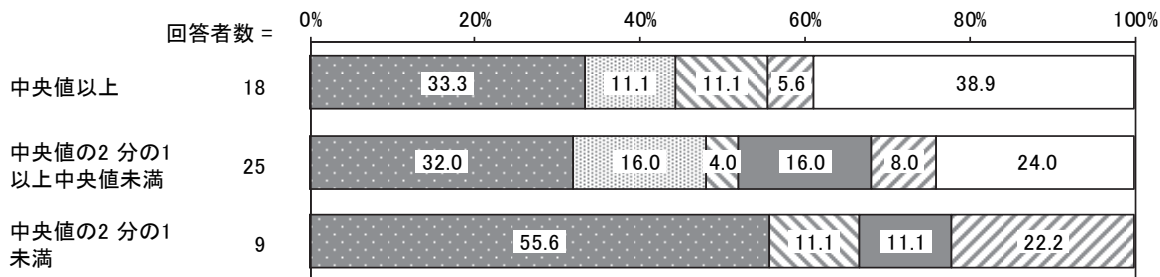
一般アンケートでは、「ほぼ毎日」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「週に3～5日」、「1か月に数日」の割合が 11.1%となっている。

対象者アンケートでは、「ほぼ毎日」の割合が 30.1%と最も高く、次いで「1か月に数日」の割合が 13.1%、「週に1～2日」の割合が 11.1%となっている。



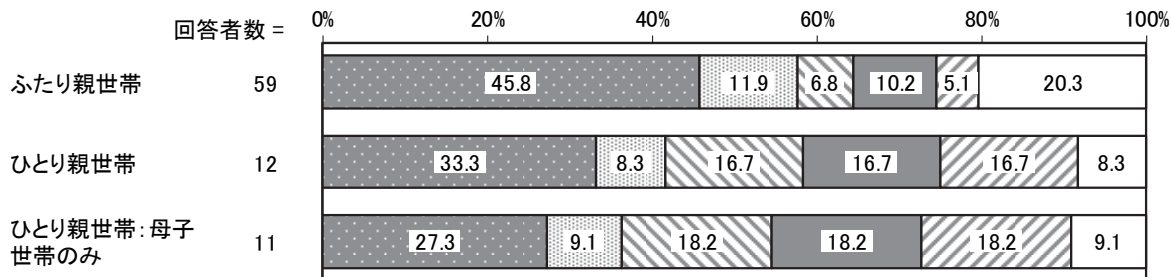
### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。



### 【家族構成別】

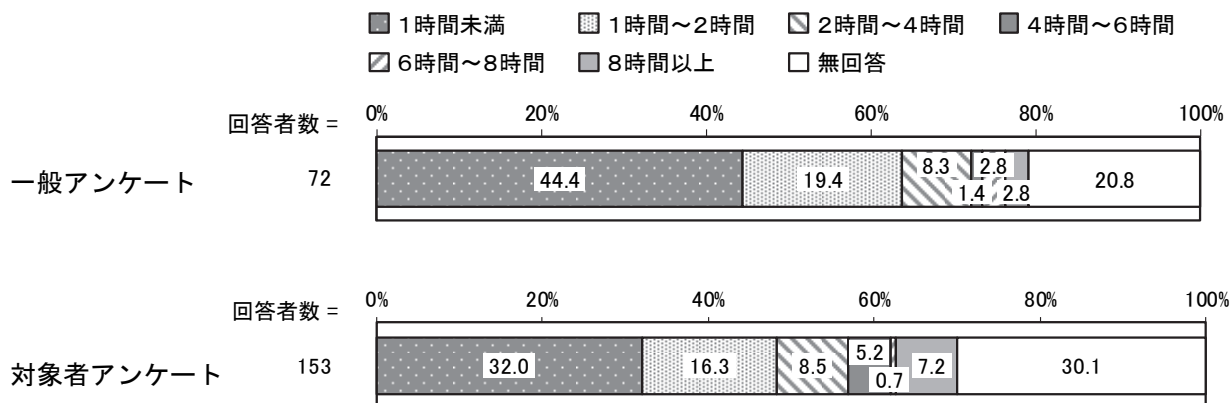
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「ほぼ毎日」の割合が高くなっている。



**問 49 平日にお子さんがケアをしている時間は1日何時間くらいですか。**  
(○は1つだけ)

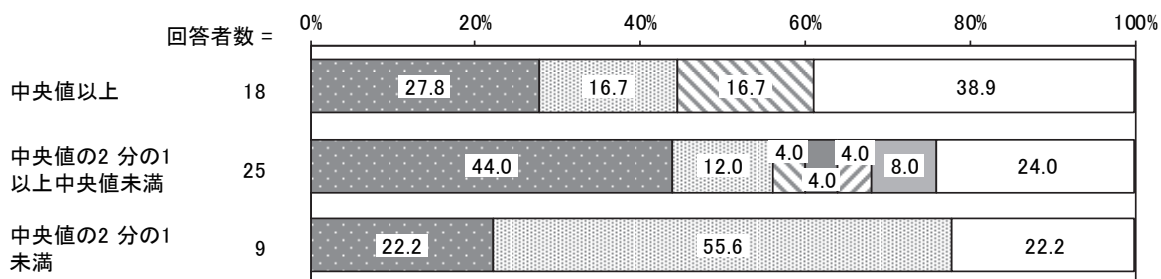
一般アンケートでは、「1時間未満」の割合が44.4%と最も高く、次いで「1時間～2時間」の割合が19.4%となっている。

対象者アンケートでは、「1時間未満」の割合が32.0%と最も高く、次いで「1時間～2時間」の割合が16.3%となっている。



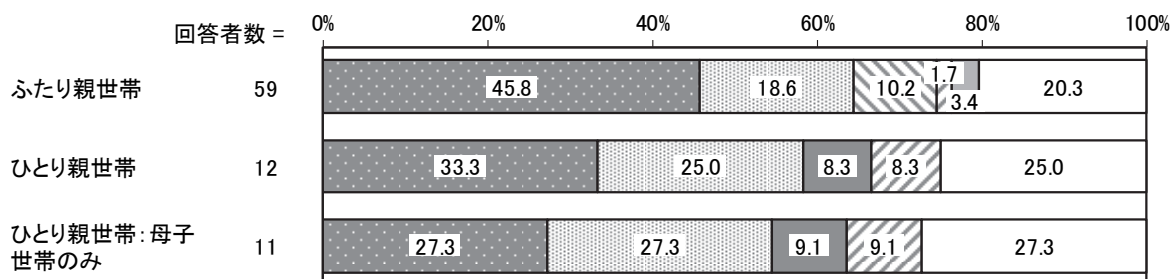
**【所得区分別】（一般アンケート）**

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「1時間～2時間」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満で「1時間未満」の割合が高くなっている。



**【家族構成別】**

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「4～6時間」「6～8時間」の割合が高くなっている。

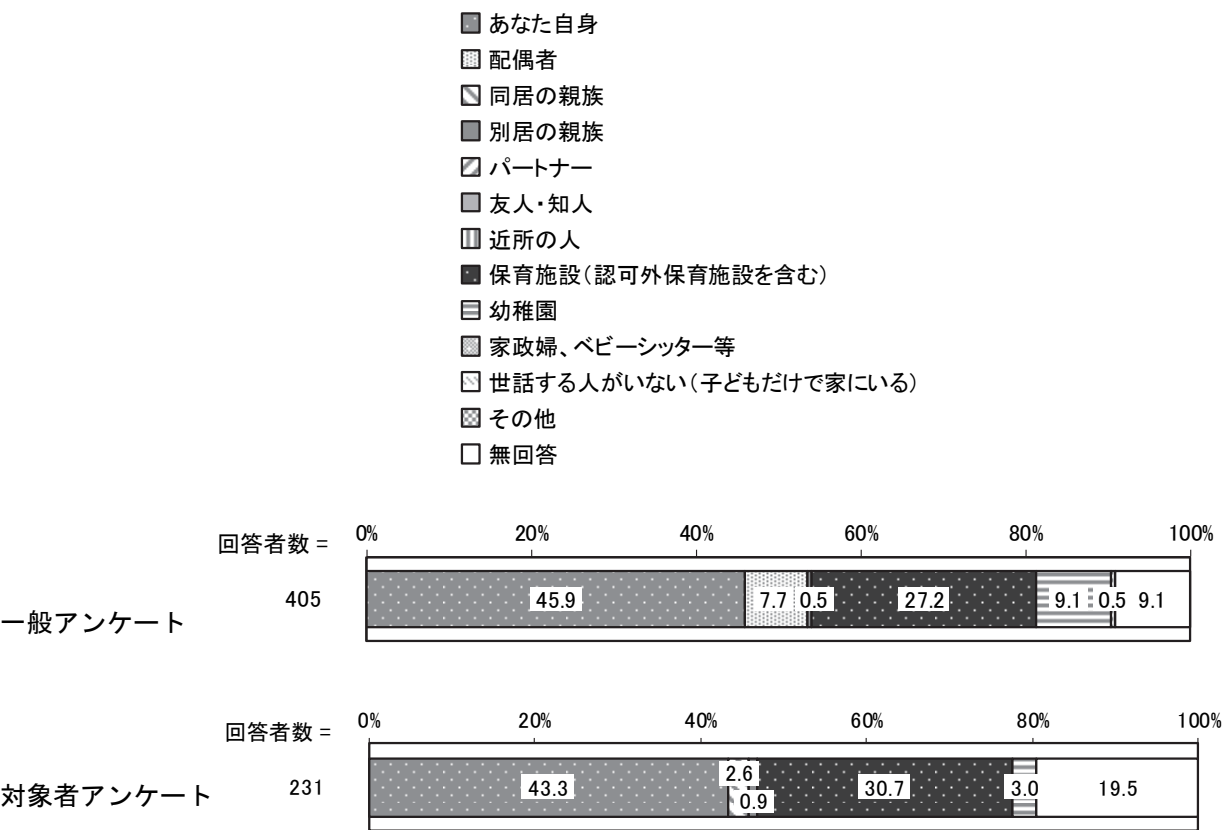


小学校入学前のお子さんを養育している方のみにおたずねします。

問 50 お子さんの保育は主にどなたが行っていますか。(○は1つだけ)

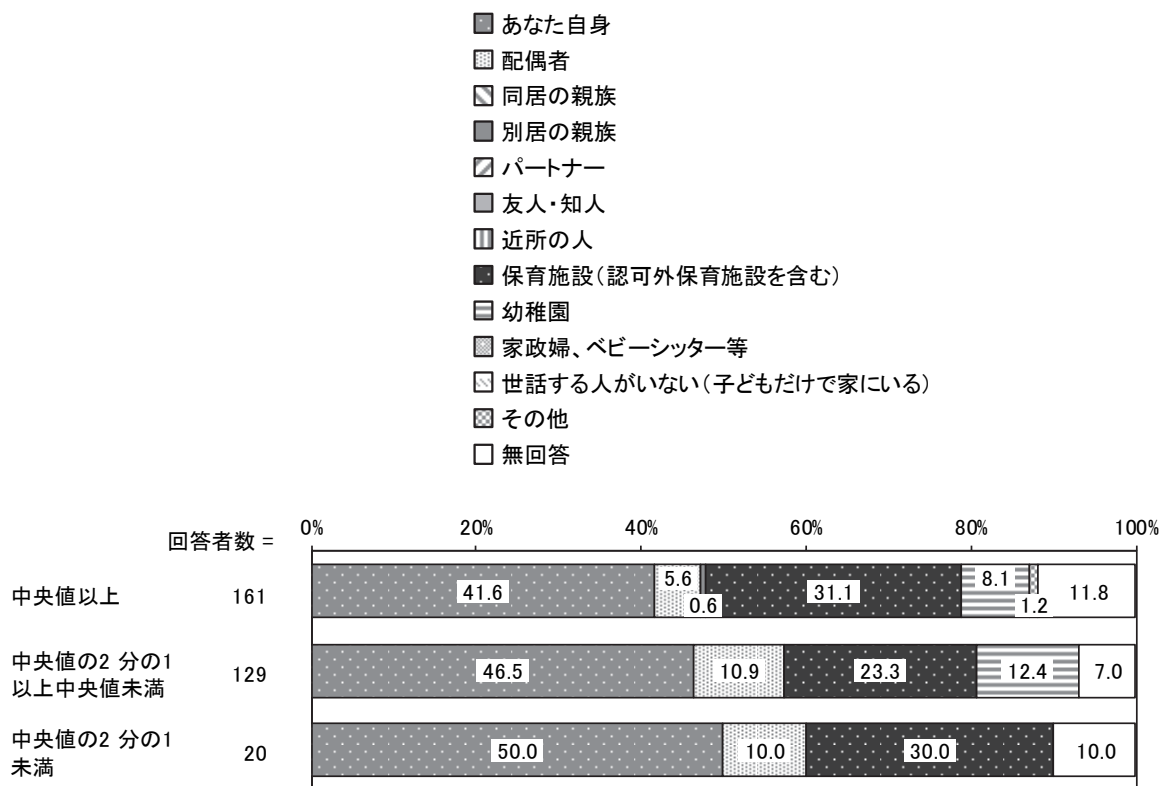
一般アンケートでは、「あなた自身」の割合が 45.9%と最も高く、次いで「保育施設（認可外保育施設を含む）」の割合が 27.2%となっている。

対象者アンケートでは、「あなた自身」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「保育施設（認可外保育施設を含む）」の割合が 30.7%となっている。



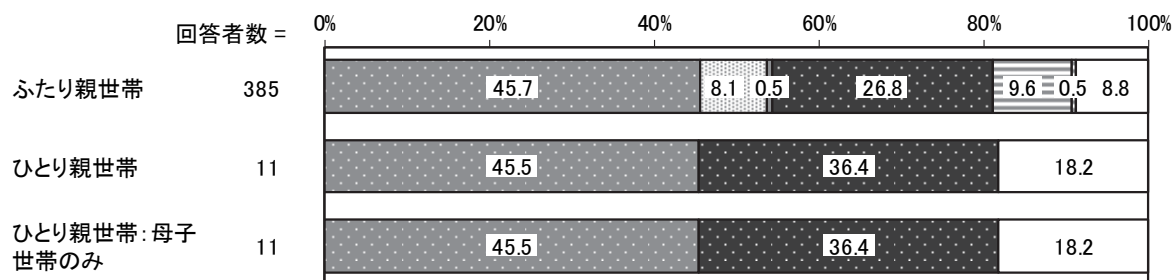
## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「保育施設（認可外保育施設を含む）」の割合が、中央値の2分の1未満で「あなた自身」の割合が、高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「幼稚園」の割合が高くなっている。



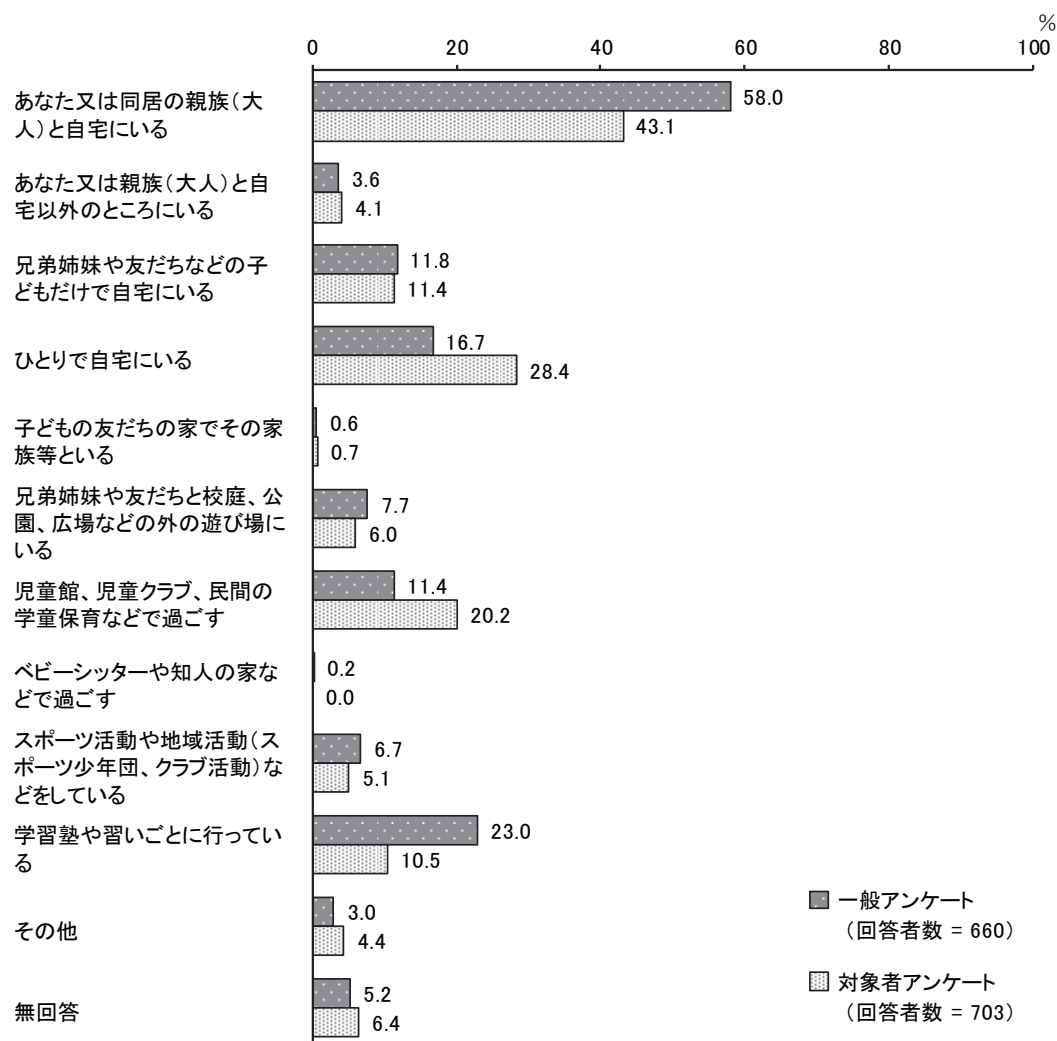


お子さんが、小学生以上の方におたずねします。

問 51 お子さんは、学校が終わってから主にどのように過ごしますか。  
(○は2つまで)

一般アンケートでは、「あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「学習塾や習いごとに行っている」の割合が 23.0%、「ひとりで自宅にいる」の割合が 16.7%となっている。

対象者アンケートでは、「あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる」の割合が 43.1%と最も高く、次いで「ひとりで自宅にいる」の割合が 28.4%、「児童館、児童クラブ、民間の学童保育などで過ごす」の割合が 20.2%となっている。



# 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「学習塾や習いごとに行っている」の割合が、中央値の 2 分の 1 未満で「あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる	あなた又は親族（大人）と自宅以外のところにいる	兄弟姉妹や友だちなどの子どもだけで自宅にいる	ひとりで自宅にいる	子どもの友だちの家でその家族等という	兄弟姉妹や友だちと校庭、公園、広場などの外の遊び場にいる	児童館、児童クラブ、民間の学童保育などで過ごす	ベビーシッターや知人の家などで過ごす	スポーツ活動や地域活動（スポーツ少年団、クラブ活動）などを行っている	学習塾や習いごとに行っている	その他	無回答
中央値以上	311	56.6	2.6	10.0	19.0	0.3	9.0	9.3	—	7.7	29.3	3.5	4.5
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	152	59.2	3.3	15.1	14.5	2.0	8.6	13.8	—	4.6	13.8	2.0	4.6
中央値の 2 分の 1 未満	48	68.8	4.2	14.6	20.8	—	4.2	8.3	—	4.2	14.6	2.1	2.1

# 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる」「学習塾や習いごとに行っている」の割合が、ひとり親世帯で「兄弟姉妹や友達などの子どもだけで自宅にいる」「ひとりで自宅にいる」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	あなた又は同居の親族（大人）と自宅にいる	あなた又は親族（大人）と自宅以外のところにいる	兄弟姉妹や友だちなどの子どもだけで自宅にいる	ひとりで自宅にいる	子どもの友だちの家でその家族等という	兄弟姉妹や友だちと校庭、公園、広場などの外の遊び場にいる	児童館、児童クラブ、民間の学童保育などで過ごす	ベビーシッターや知人の家などで過ごす	スポーツ活動や地域活動（スポーツ少年団、クラブ活動）などを行っている	学習塾や習いごとに行っている	その他	無回答
ふたり親世帯	601	59.6	3.5	11.1	15.5	0.7	8.0	11.6	0.2	6.8	23.8	3.0	4.8
ひとり親世帯	49	34.7	6.1	20.4	32.7	—	6.1	10.2	—	6.1	16.3	4.1	8.2
ひとり親世帯：母子世帯のみ	40	40.0	5.0	17.5	32.5	—	5.0	10.0	—	5.0	17.5	5.0	5.0

公的制度等の利用状況等について、すべての方におたずねします。

問 52 あなたは、次の A～P の公的制度について、①利用・受給したことがありますか。

利用・受給したことがある方は②利用・受給後の感想を、  
利用・受給したことがない方は③利用・受給しなかった理由をお答えください。  
(A～P それぞれについて○は 1 つだけ)

①利用・受給の有無

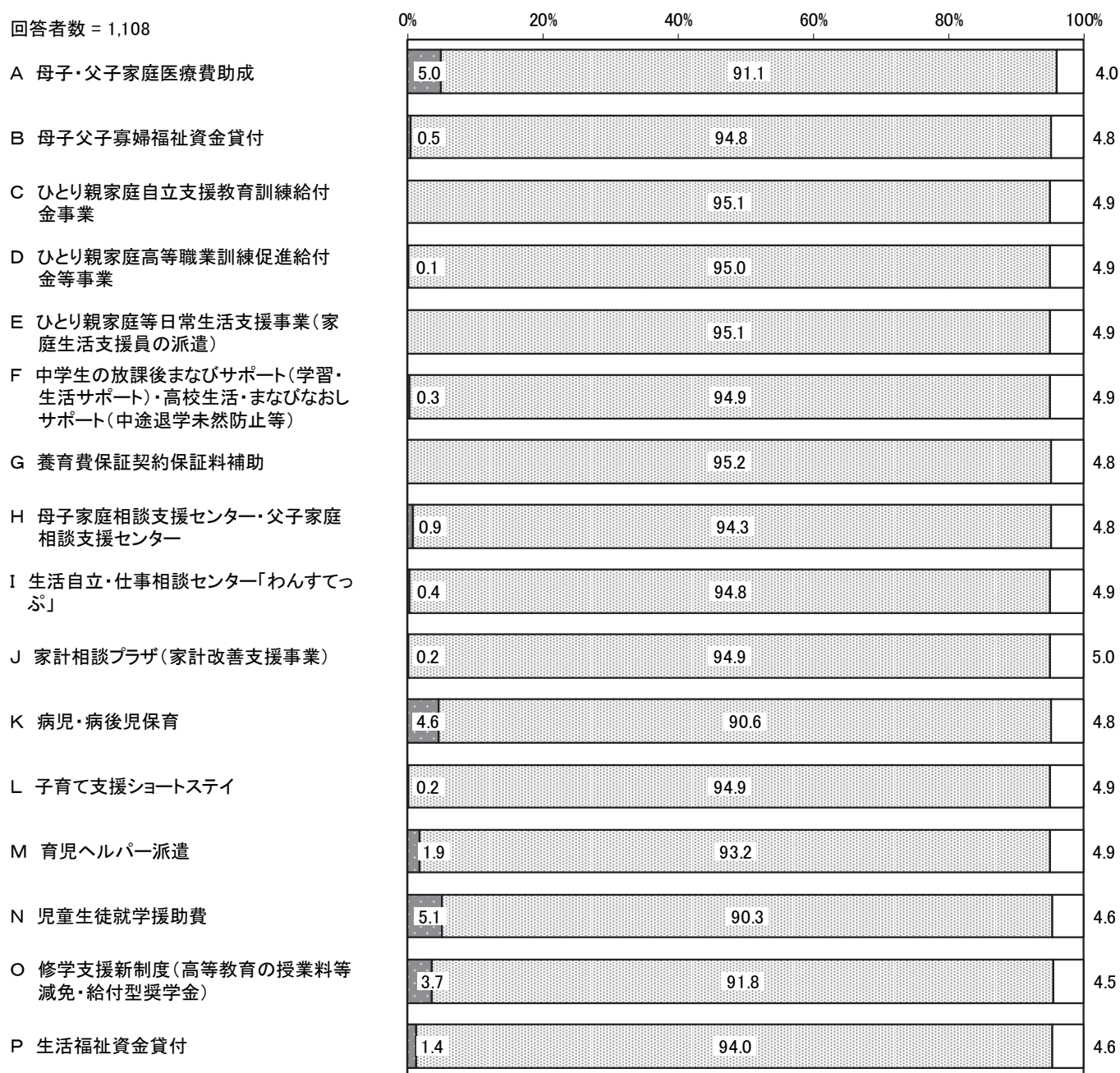
一般アンケートでは、『A 母子・父子家庭医療費助成』『K 病児・病後児保育』『N 児童生徒就学援助費』で「利用・受給したことがある」の割合が高くなっている。

対象者アンケートでは、『A 母子・父子家庭医療費助成』『N 児童生徒就学援助費』で「利用・受給したことがある」の割合が、『B 母子父子寡婦福祉資金貸付』『C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業』『D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業』『E ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）』『G 養育費保証契約保証料補助』『I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」』『J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）』『L 子育て支援ショートステイ』『M 育児ヘルパー派遣』で「利用・受給したことはない」の割合が高くなっている。

## 一般アンケート

■ 利用・受給したことがある ■ 利用・受給したことはない □ 無回答

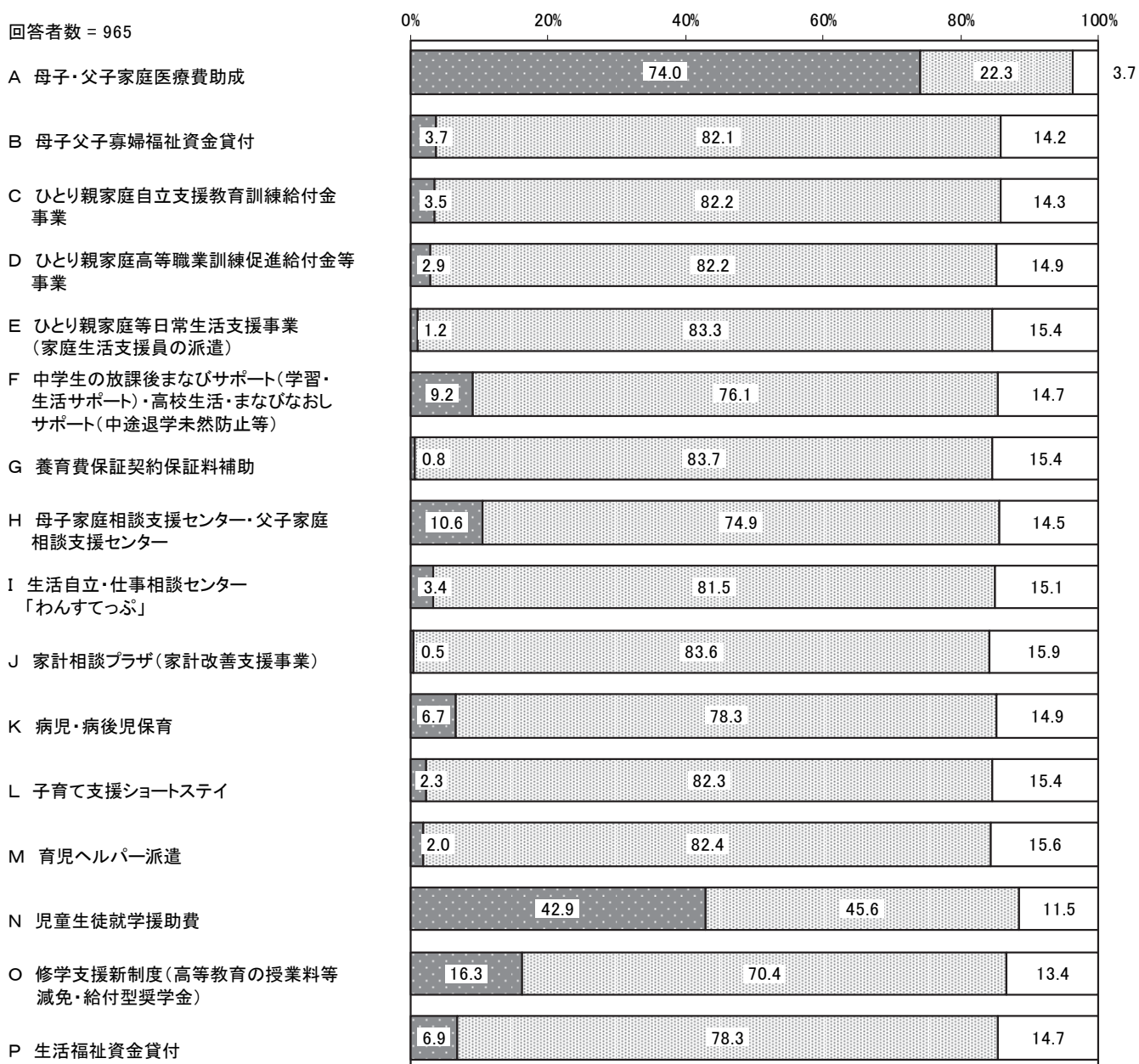
回答者数 = 1,108



## 対象者アンケート

■ 利用・受給したことがある □ 利用・受給したことはない □ 無回答

回答者数 = 965

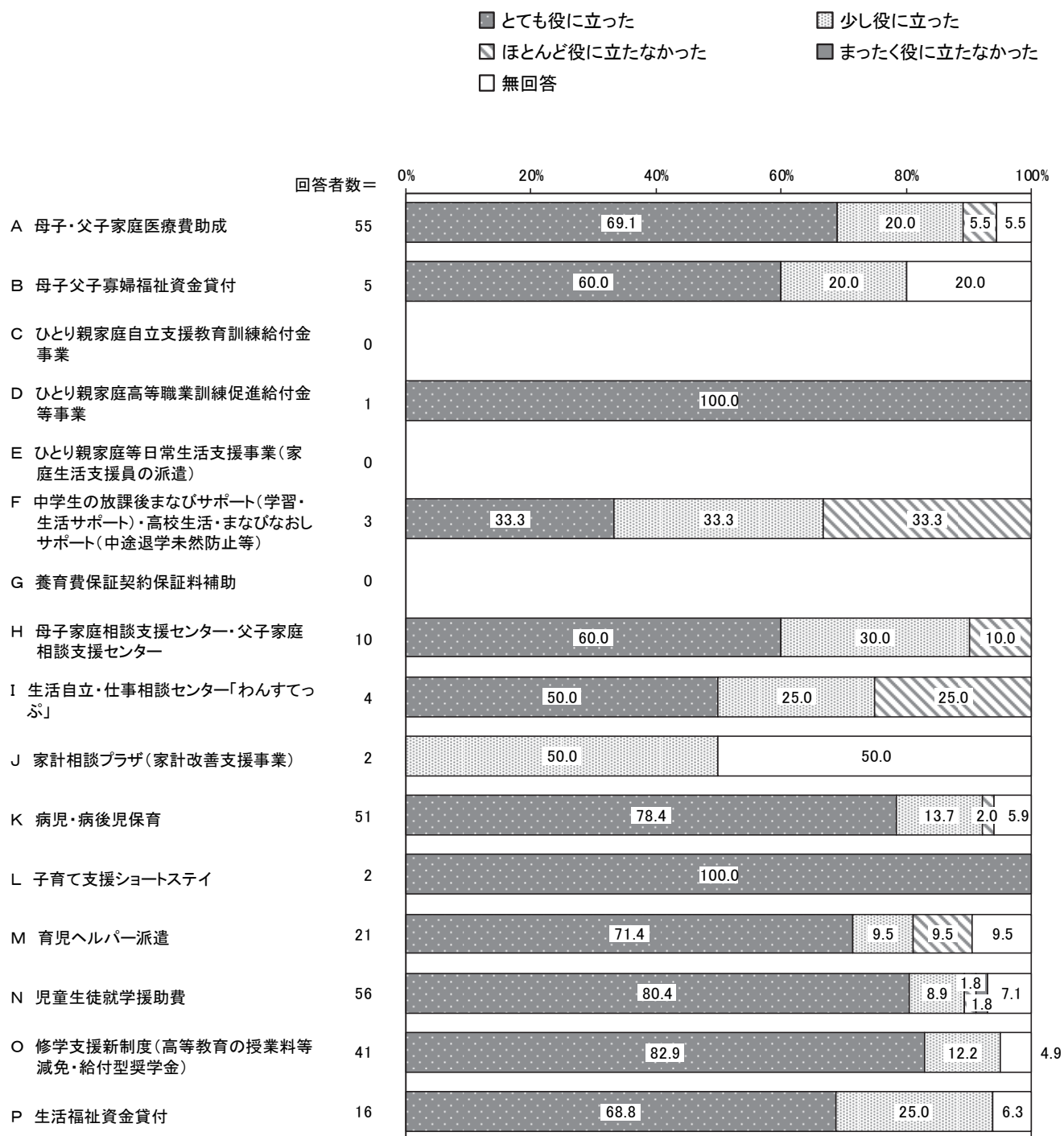


## ②利用・受給後の感想

一般アンケートでは、『N 児童生徒就学援助費』『O 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）』で「とても役に立った」の割合が高くなっている。

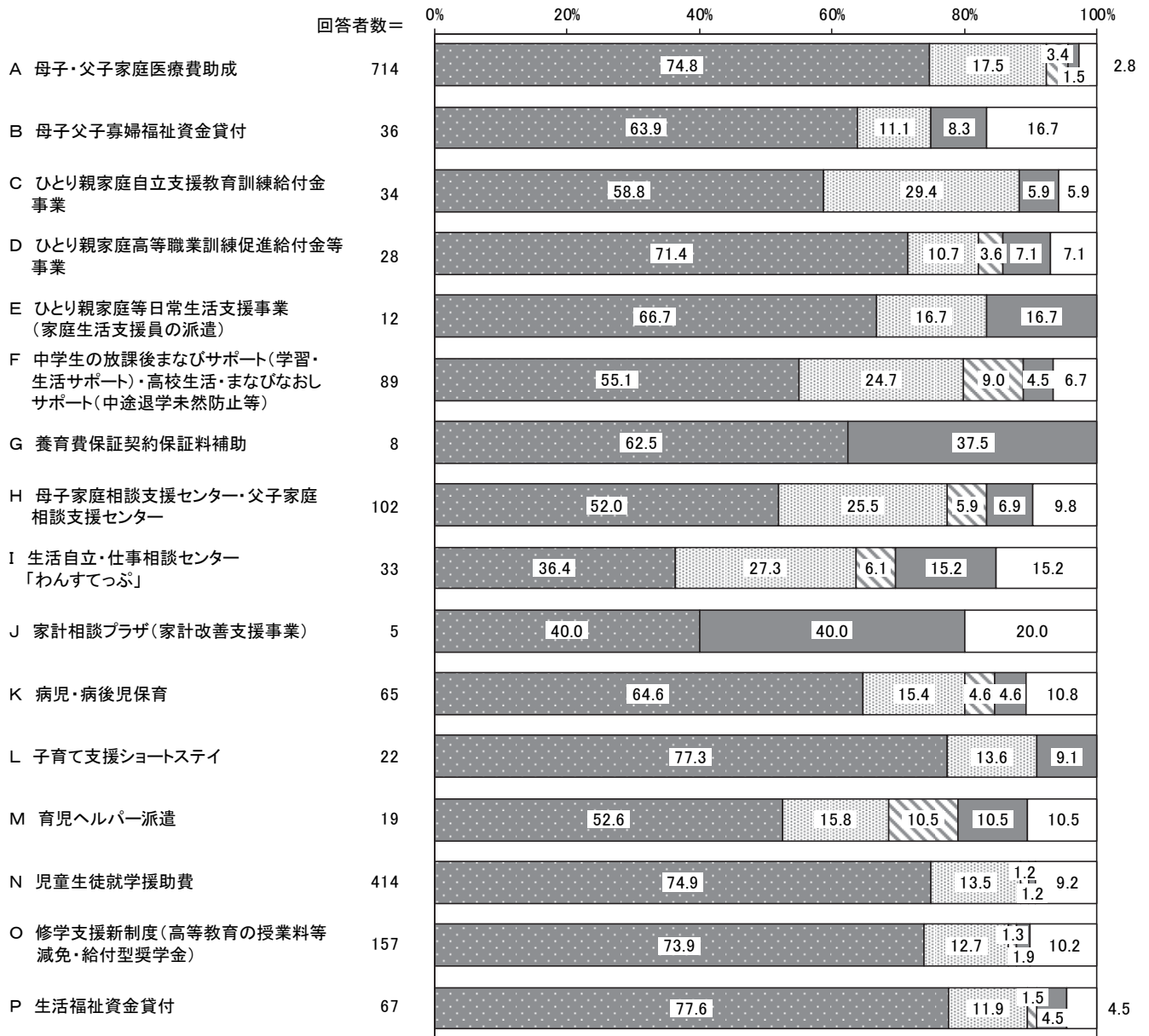
対象者アンケートでは、『A 母子・父子家庭医療費助成』『L 子育て支援ショートステイ』で「とても役に立った」と「少し役に立った」をあわせた“役に立った”の割合が、『G 養育費保証契約保証料補助』『J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）』で「ほとんど役に立たなかった」と「まったく役に立たなかった」をあわせた“役に立たなかった”の割合が高くなっている。

### 一般アンケート



## 対象者アンケート

☒ とても役に立った      ☒ 少し役に立った  
☒ ほとんど役に立たなかった      ☒ まったく役に立たなかった  
☐ 無回答



### ③利用・受給しなかった理由

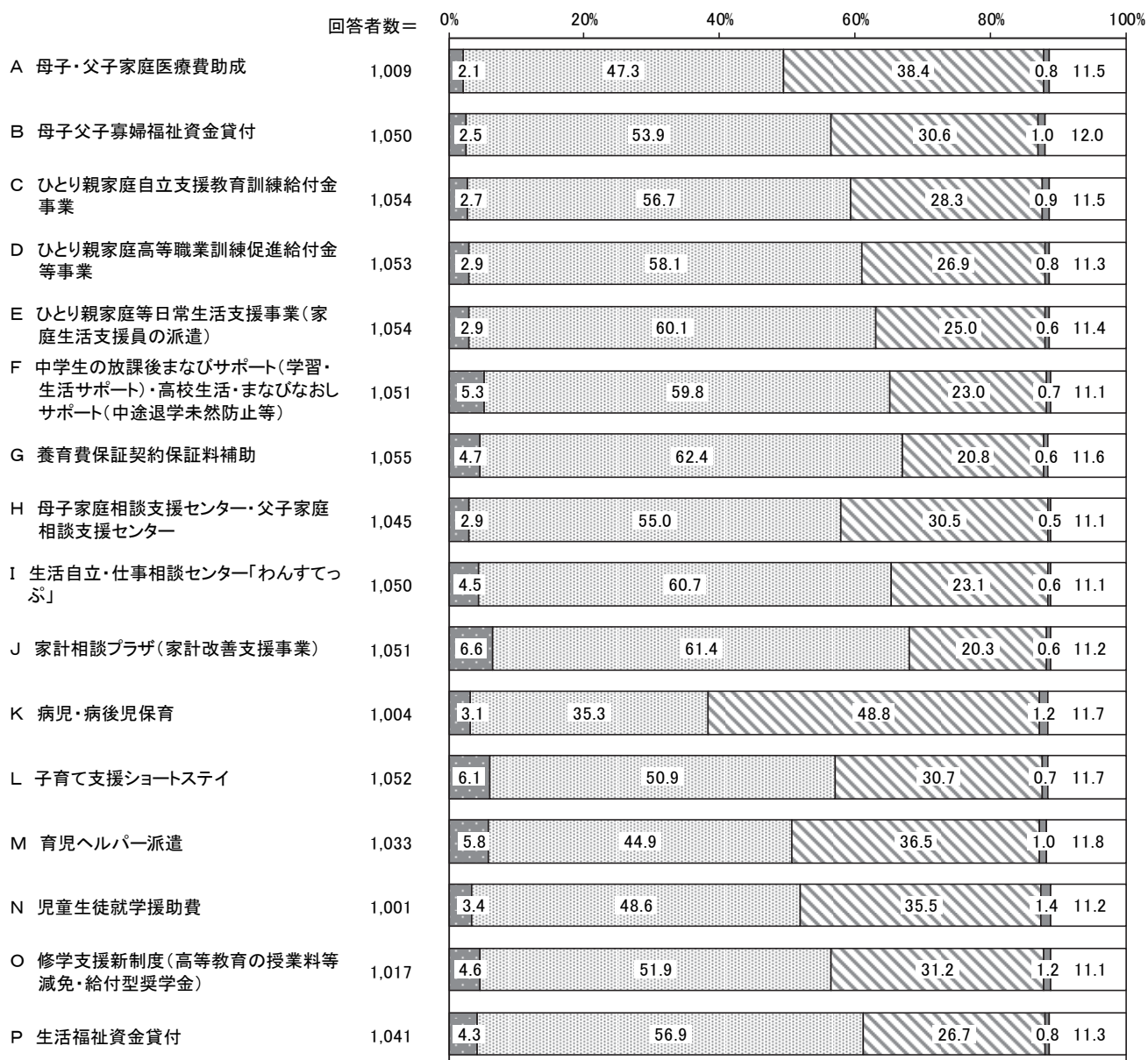
一般アンケートでは、『K 病児・病後児保育』で「制度を知っていたが、必要なかった」の割合が高くなっている。

対象者アンケートでは、『G 養育費保証契約保証料補助』『N 児童生徒就学援助費』『O 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）』で「制度を知らなかった（もし知っていたら、利用したかった）」の割合が、『G 養育費保証契約保証料補助』『I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」』『J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）』『L 子育て支援ショートステイ』『M 育児ヘルパー派遣』で「制度を知らなかった（仮に知っていたとしても、必要ない）」の割合が高くなっている。また、『K 病児・病後児保育』で「制度を知っていたが、必要なかった」の割合が、『A 母子・父子家庭医療費助成』で「申請したが、利用できなかった」の割合が高くなっている。



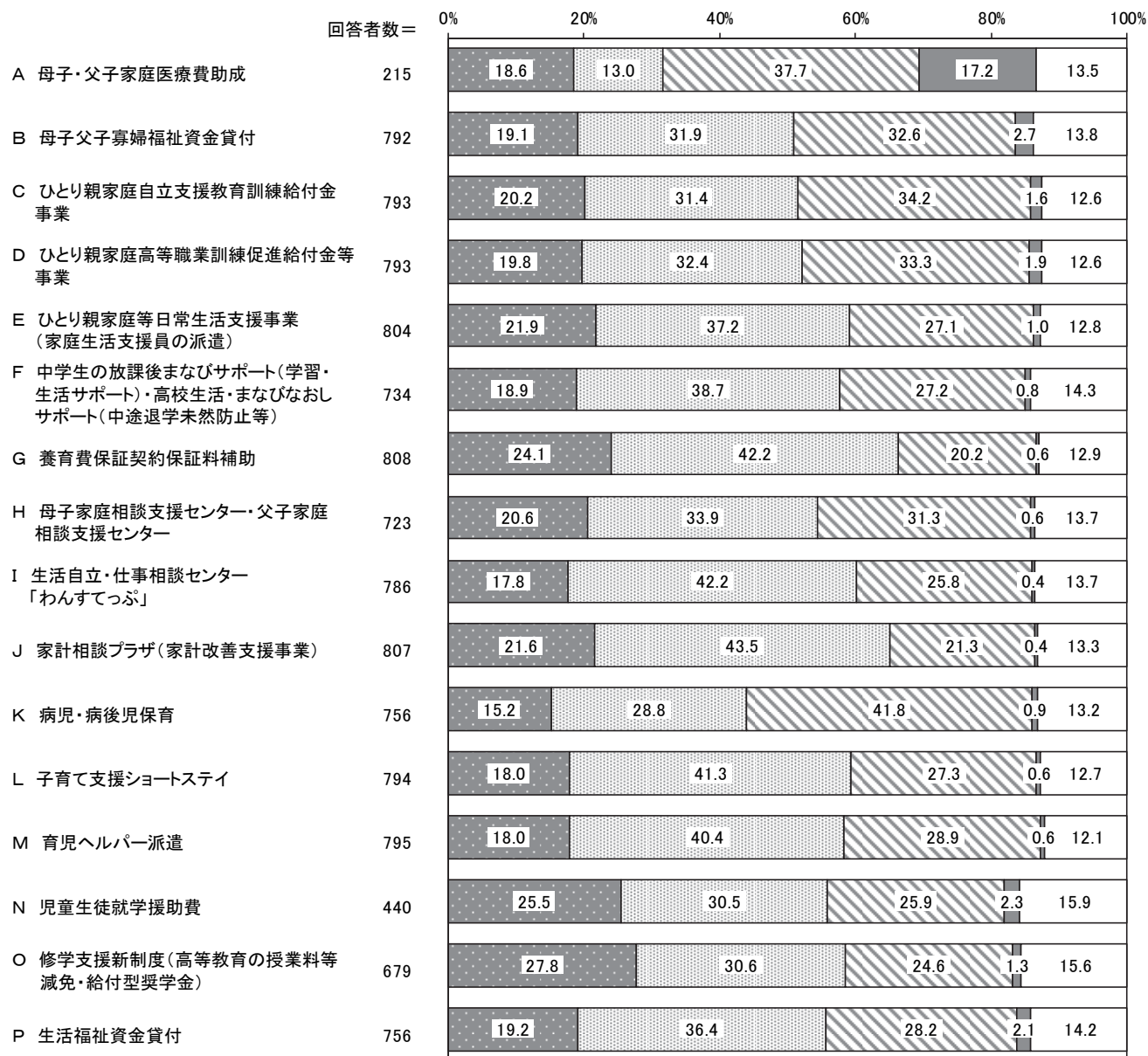
## 一般アンケート

- 制度を知らなかった(もし知っていたら、利用したかった)
- ▨ 制度を知らなかった(仮に知っていたとしても、必要ない)
- ▩ 制度を知っていたが、必要なかった
- 申請したが、利用できなかった
- 無回答



## 対象者アンケート

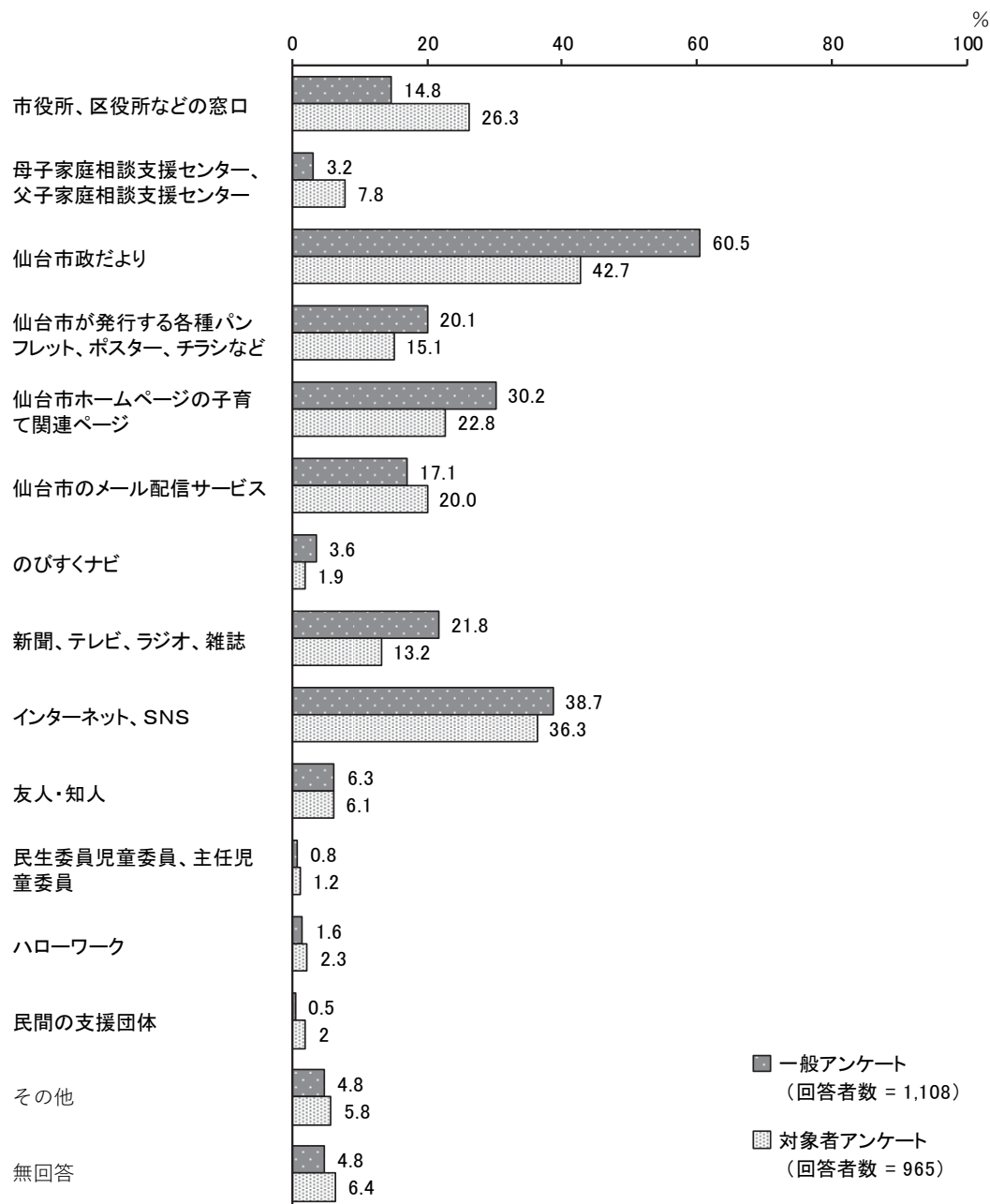
- 制度を知らなかった(もし知っていたら、利用したかった)
- ▨ 制度を知らなかった(仮に知っていたとしても、必要ない)
- ▧ 制度を知っていたが、必要なかった
- 申請したが、利用できなかった
- 無回答



**問 53 支援情報やお知らせは、どのような広報手段であれば受け取りやすいですか。**  
(〇は3つまで)

一般アンケートでは、「仙台市政だより」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「インターネット、SNS」の割合が 38.7%、「仙台市ホームページの子育て関連ページ」の割合が 30.2%となっている。

対象者アンケートでは、「仙台市政だより」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「インターネット、SNS」の割合が 36.3%、「市役所、区役所などの窓口」の割合が 26.3%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値以上で「市役所、区役所などの窓口」の割合が、中央値の2分の1未満、中央値以上で「仙台市政だより」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	市役所、区役所などの窓口	母子家庭相談支援センター、父子家庭相談支援センター	仙台市政だより	仙台市が発行する各種パンフレット、ポスター、チラシなど	仙台市ホームページの子育て関連ページ	仙台市のメール配信サービス	のびすくナビ	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	インターネット、SNS	友人・知人	民生委員児童委員、主任児童委員	ハローワーク	民間の支援団体	その他	無回答
中央値以上	486	13.4	2.7	63.6	20.0	30.7	18.7	4.9	20.6	38.5	5.6	1.0	1.2	0.6	4.9	2.5
中央値の2分の1以上中央値未満	289	14.9	3.1	56.7	20.8	32.2	16.3	2.8	26.6	40.5	8.3	0.7	1.4	—	5.9	4.2
中央値の2分の1未満	73	4.1	1.4	67.1	30.1	28.8	20.5	1.4	26.0	43.8	2.7	1.4	1.4	1.4	4.1	1.4

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「仙台市政だより」「新聞、テレビ、ラジオ、雑誌」の割合が高くなっている。

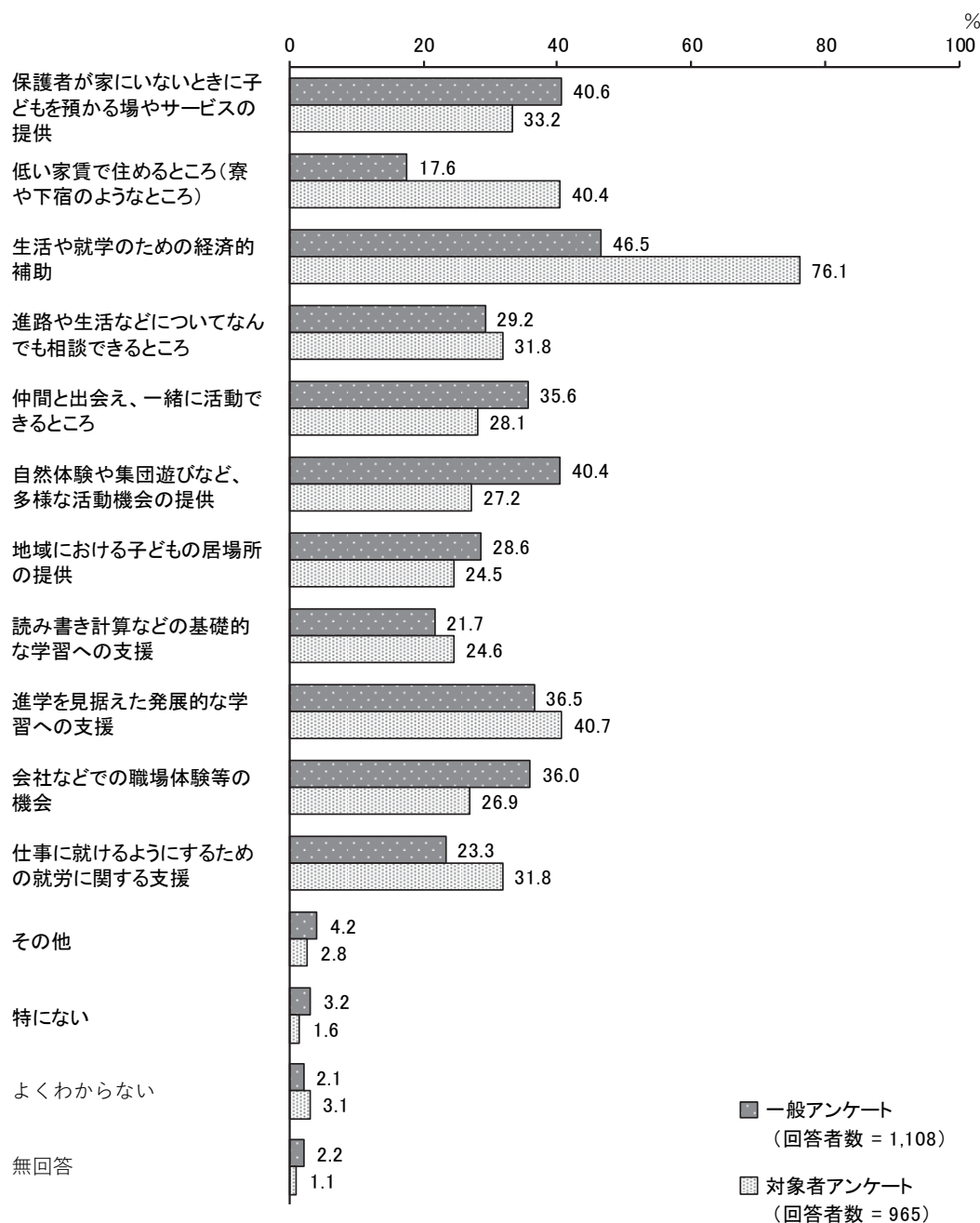
単位：％

区分	回答者数（件）	市役所、区役所などの窓口	母子家庭相談支援センター、父子家庭相談支援センター	仙台市政だより	仙台市が発行する各種パンフレット、ポスター、チラシなど	仙台市ホームページの子育て関連ページ	仙台市のメール配信サービス	のびすくナビ	新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	インターネット、SNS	友人・知人	民生委員児童委員、主任児童委員	ハローワーク	民間の支援団体	その他	無回答
ふたり親世帯	1024	14.6	2.7	61.4	20.1	30.7	16.9	3.8	22.4	38.6	6.6	0.9	1.4	0.6	5.0	4.4
ひとり親世帯	62	16.1	9.7	51.6	22.6	27.4	24.2	—	14.5	37.1	1.6	—	1.6	—	3.2	6.5
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	15.1	9.4	54.7	18.9	30.2	24.5	—	17.0	37.7	1.9	—	1.9	—	3.8	7.5

問 54 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

一般アンケートでは、「生活や就学のための経済的補助」の割合が46.5%と最も高く、次いで「保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供」の割合が40.6%、「自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供」の割合が40.4%となっている。

対象者アンケートでは、「生活や就学のための経済的補助」の割合が76.1%と最も高く、次いで「進学を見据えた発展的な学習への支援」の割合が40.7%、「低い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなところ）」の割合が40.4%となっている。



# 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満、中央値の2分の1以上中央値未満で「生活や就学のための経済的補助」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	低い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなところ）	生活や就学のための経済的補助	進路や生活などについてなんでも相談できるところ	仲間と出会え、一緒に活動できるところ	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	地域における子どもの居場所の提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	進学を見据えた発展的な学習への支援	会社などでの職場体験等の機会	就労に関する支援	仕事に就けるようにするための	その他	特にない	よくわからない	無回答
中央値以上	486	37.9	13.6	31.7	27.6	36.6	42.2	28.8	17.9	37.7	39.1	19.1	5.3	3.9	2.1	1.0	
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	289	43.9	22.8	64.4	32.9	38.1	43.9	32.5	26.3	37.4	36.7	26.6	3.5	1.0	1.7	0.3	
中央値の 2 分の 1 未満	73	34.2	26.0	65.8	30.1	31.5	30.1	27.4	27.4	39.7	31.5	35.6	2.7	1.4	1.4	—	

# 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯で「低い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなところ）」「生活や就学のための経済的補助」「進学を見据えた発展的な学習への支援」の割合が高くなっている。

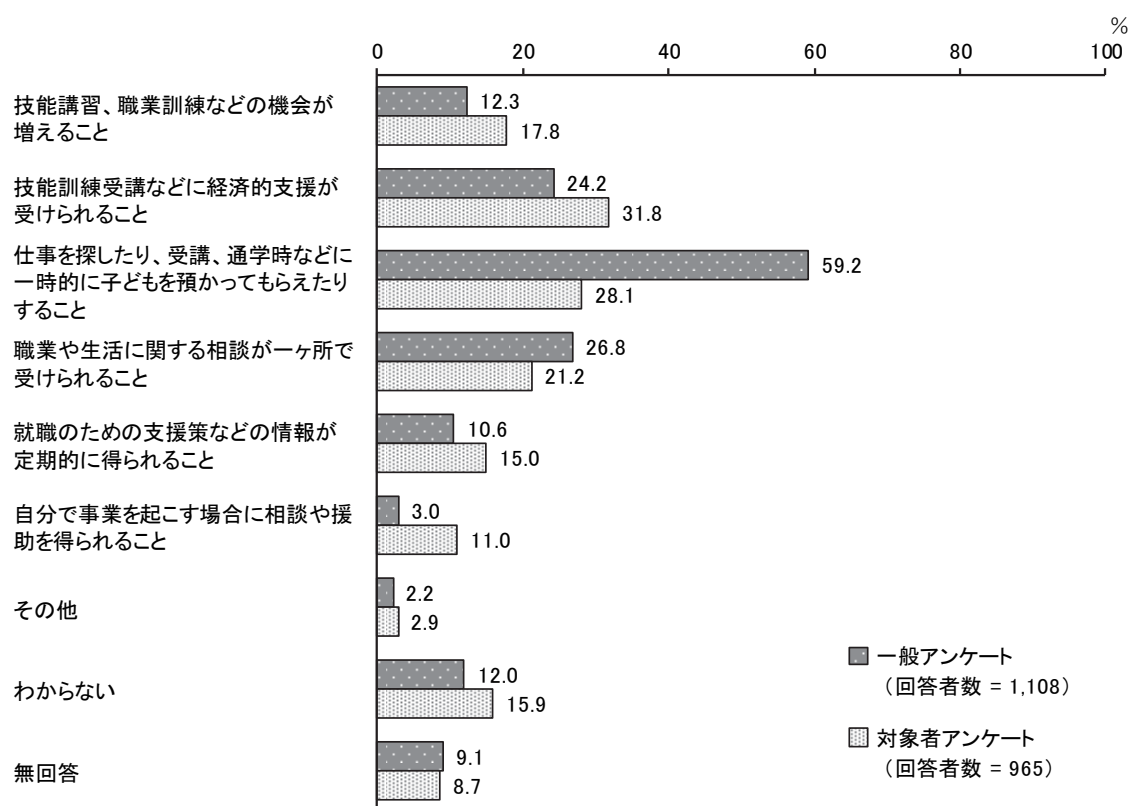
単位：％

区分	回答者数（件）	保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	低い家賃で住めるところ （寮や下宿のようなところ）	生活や就学のための経済的補助	進路や生活などについてなんでも相談できるところ	仲間と出会え、一緒に活動できるところ	自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	地域における子どもの居場所の提供	読み書き計算などの基礎的な学習への支援	進学を見据えた発展的な学習への支援	会社などでの職場体験等の機会	就労に関する支援	仕事に就けるようにするための	その他	特にない	よくわからない	無回答
ふたり親世帯	1024	41.3	16.4	44.8	29.1	36.1	41.3	28.7	21.3	35.5	36.4	22.9	4.3	3.4	2.2	1.9	
ひとり親世帯	62	33.9	37.1	75.8	32.3	33.9	32.3	32.3	27.4	51.6	32.3	29.0	1.6	—	—	1.6	
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	34.0	41.5	77.4	34.0	37.7	35.8	34.0	30.2	56.6	34.0	32.1	1.9	—	—	1.9	

**問 55 ひとり親家庭の方のよりよい就職や仕事の問題解決のために、どのような支援が必要だと思いますか。（〇は2つまで）**

一般アンケートでは、「仕事を探したり、受講、通学时などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「職業や生活に関する相談が一ヶ所で受けられること」の割合が 26.8%、「技能訓練受講などに経済的支援が受けられること」の割合が 24.2%となっている。

対象者アンケートでは、「技能訓練受講などに経済的支援が受けられること」の割合が 31.8%と最も高く、次いで「仕事を探したり、受講、通学时などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること」の割合が 28.1%、「職業や生活に関する相談が一ヶ所で受けられること」の割合が 21.2%となっている。



## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値以上で「仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	技能講習、職業訓練などの機会が増えること	技能訓練受講などに経済的支援が受けられること	仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること	職業や生活に関する相談が一ヶ所で受けられること	就職のための支援策などの情報が定期的に得られること	自分で事業を起こす場合に相談や援助を得られること	その他	わからない	無回答
中央値以上	486	12.8	24.1	64.4	29.6	10.5	1.6	2.3	10.1	7.6
中央値の2分の1以上中央値未満	289	11.8	28.4	60.6	28.0	9.3	2.4	3.1	11.1	7.6
中央値の2分の1未満	73	15.1	23.3	46.6	20.5	13.7	8.2	1.4	13.7	5.5

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること」の割合が高くなっている。

単位：％

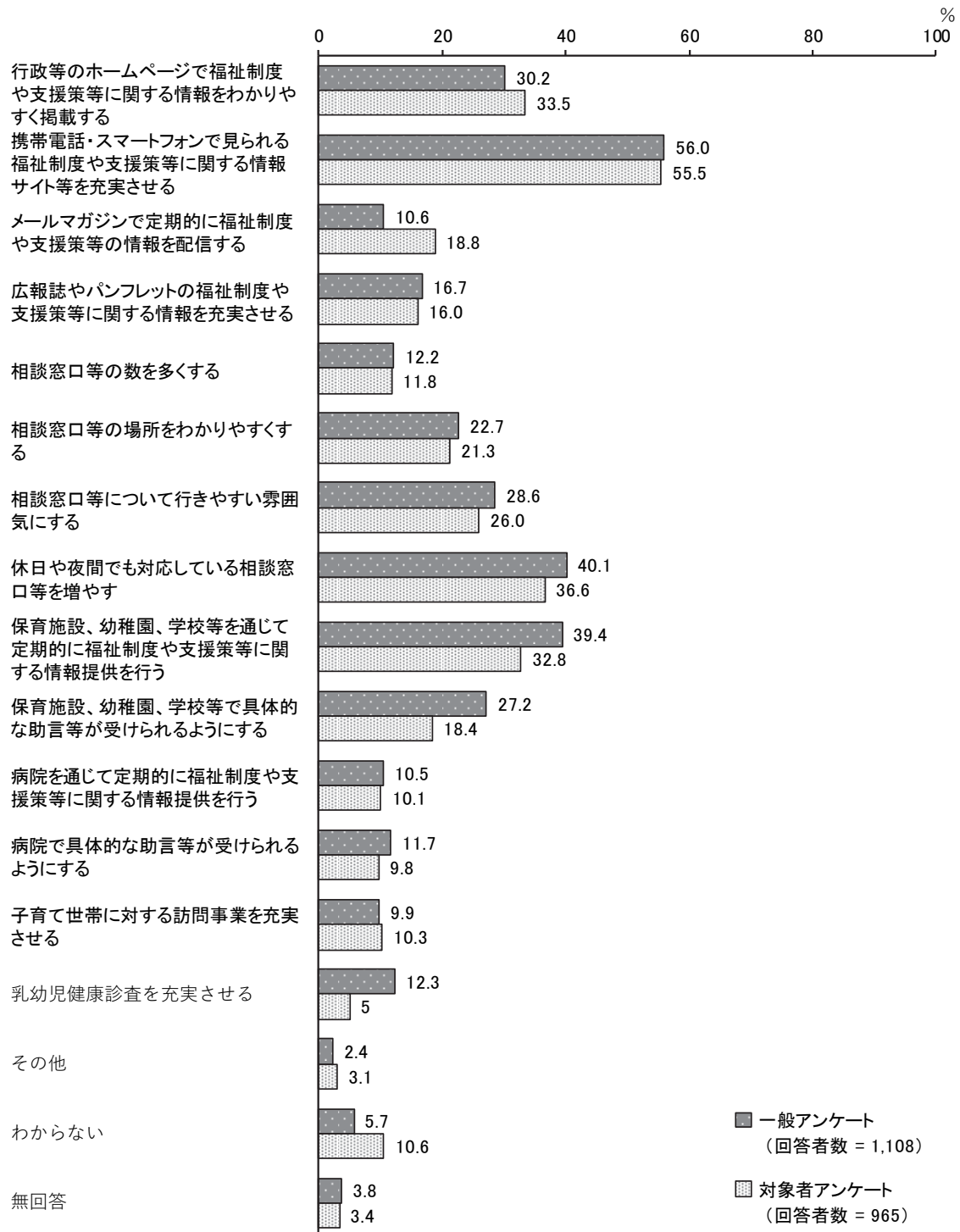
区分	回答者数（件）	技能講習、職業訓練などの機会が増えること	技能訓練受講などに経済的支援が受けられること	仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること	職業や生活に関する相談が一ヶ所で受けられること	就職のための支援策などの情報が定期的に得られること	自分で事業を起こす場合に相談や援助を得られること	その他	わからない	無回答
ふたり親世帯	1024	12.4	24.2	61.6	27.2	10.5	2.3	2.2	11.7	8.4
ひとり親世帯	62	11.3	29.0	27.4	21.0	16.1	12.9	1.6	17.7	9.7
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	11.3	30.2	26.4	22.6	17.0	13.2	1.9	15.1	11.3



問 56 お子さんのことや仕事のことなど、悩み事や困っていることがあるときに必要な支援を受けられるようにするために、重要だと思うことはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす」の割合が 40.1%、「保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う」の割合が 39.4%となっている。

対象者アンケートでは、「携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる」の割合が 55.5%と最も高く、次いで「休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす」の割合が 36.6%、「行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する」の割合が 33.5%となっている。



# 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う」「保育施設、幼稚園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する	携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる	メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する	広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる	相談窓口等の数を多くする	相談窓口等の場所をわかりやすくする	相談窓口等について行きやすい雰囲気にする	休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす
中央値以上	486	32.9	53.7	7.8	15.2	11.7	22.4	30.0	41.4
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	289	31.5	63.0	11.4	19.4	14.2	24.2	27.3	41.5
中央値の 2 分の 1 未満	73	26.0	61.6	15.1	20.5	12.3	26.0	28.8	38.4

区分	保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	保育施設、幼稚園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする	病院を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	病院で具体的な助言等が受けられるようにする	子育て世帯に対する訪問事業を充実させる	乳幼児健康診査を充実させる	その他	わからない	無回答
中央値以上	37.9	26.7	9.9	10.7	8.8	13.0	2.5	4.5	2.1
中央値の 2 分の 1 以上中央値未満	48.1	32.5	11.1	13.5	14.2	13.8	3.8	4.5	1.4
中央値の 2 分の 1 未満	35.6	19.2	12.3	6.8	11.0	6.8	2.7	6.8	1.4

## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数（件）	行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する	携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイトを充実させる	メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する	広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる	相談窓口等の数を多くする	相談窓口等の場所をわかりやすくする	相談窓口等について行きやすい雰囲気にする	休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす
ふたり親世帯	1024	29.8	56.4	10.0	16.5	11.8	23.2	29.0	40.4
ひとり親世帯	62	37.1	59.7	22.6	21.0	17.7	16.1	24.2	40.3
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	35.8	62.3	26.4	24.5	18.9	15.1	26.4	39.6

区分	保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	保育施設、幼稚園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする	病院を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	病院で具体的な助言等が受けられるようにする	子育て世帯に対する訪問事業を充実させる	乳幼児健康診査を充実させる	その他	わからない	無回答
ふたり親世帯	39.1	27.2	10.0	12.1	10.0	12.3	2.6	5.4	3.4
ひとり親世帯	43.5	27.4	19.4	6.5	8.1	8.1	—	9.7	4.8
ひとり親世帯：母子世帯のみ	47.2	26.4	22.6	7.5	7.5	9.4	—	9.4	5.7

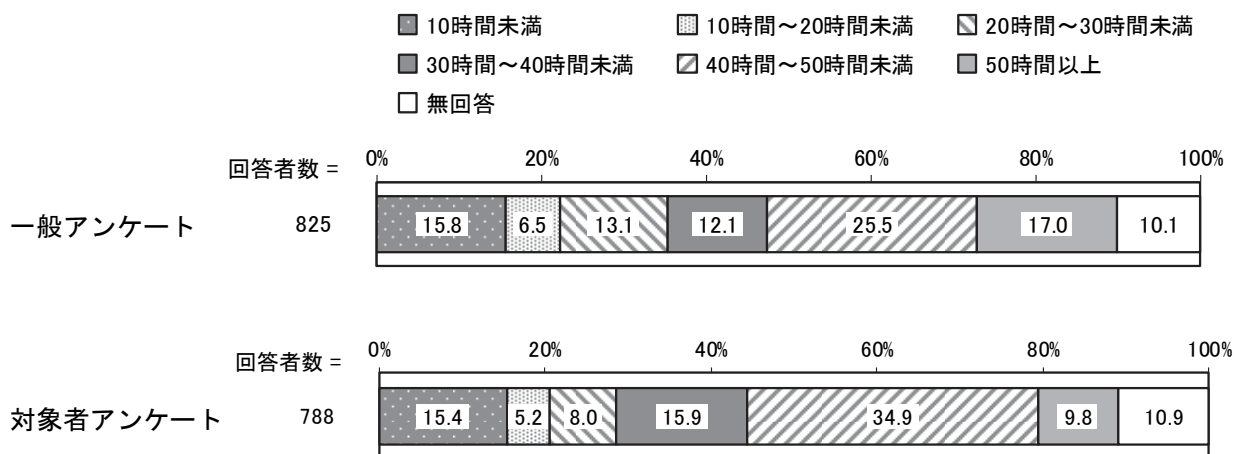
現在、収入をとまなう仕事を「している」方におたずねします。

問 57 残業時間等を含めた1週間あたりの平均就業時間は何時間ぐらいですか。

#### 2019 年 1 週間あたりの平均就業時間

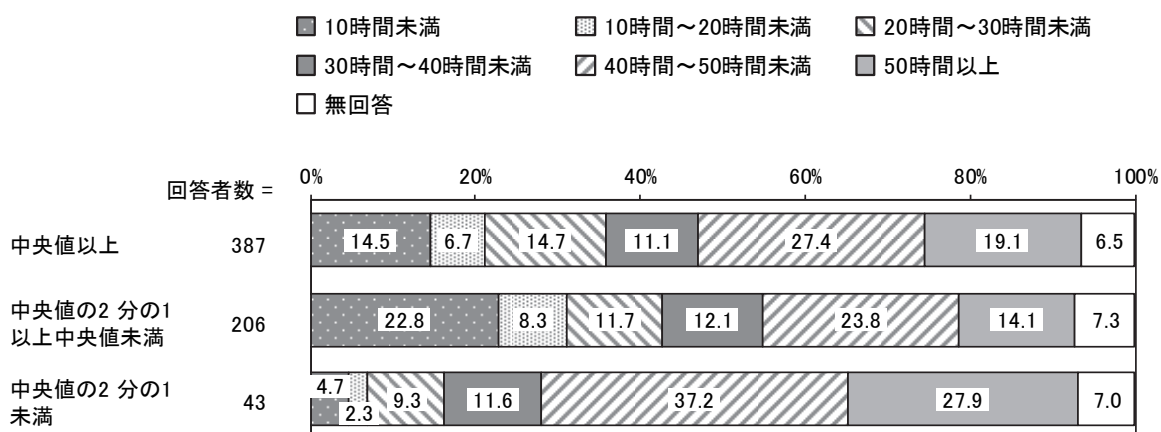
一般アンケートでは、「40 時間～50 時間未満」の割合が 25.5%と最も高く、次いで「50 時間以上」の割合が 17.0%、「10 時間未満」の割合が 15.8%となっている。

対象者アンケートでは、「40 時間～50 時間未満」の割合が 34.9%と最も高く、次いで「30 時間～40 時間未満」の割合が 15.9%、「10 時間未満」の割合が 15.4%となっている。



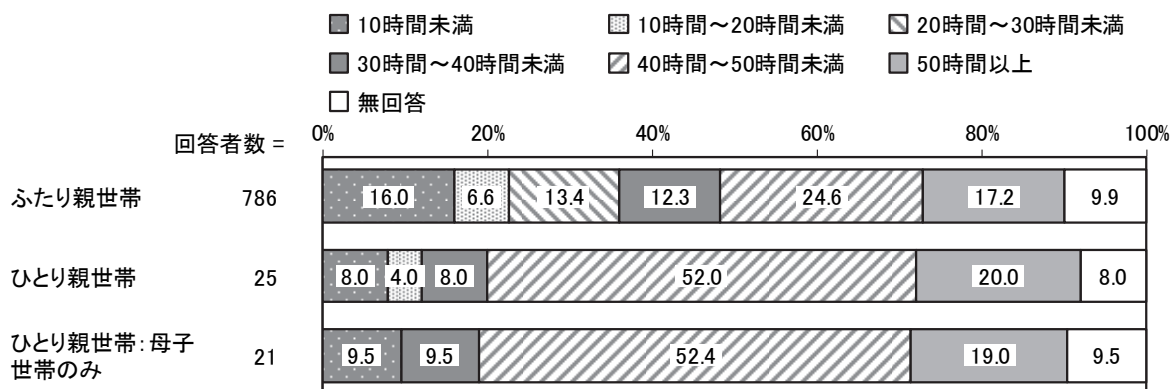
#### 【所得区分別（2019）】

所得区分別（2019）でみると、他に比べ、中央値の2分の1以上中央値未満で「10 時間未満」の割合が、中央値の2分の1未満で「40 時間～50 時間未満」「50 時間以上」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

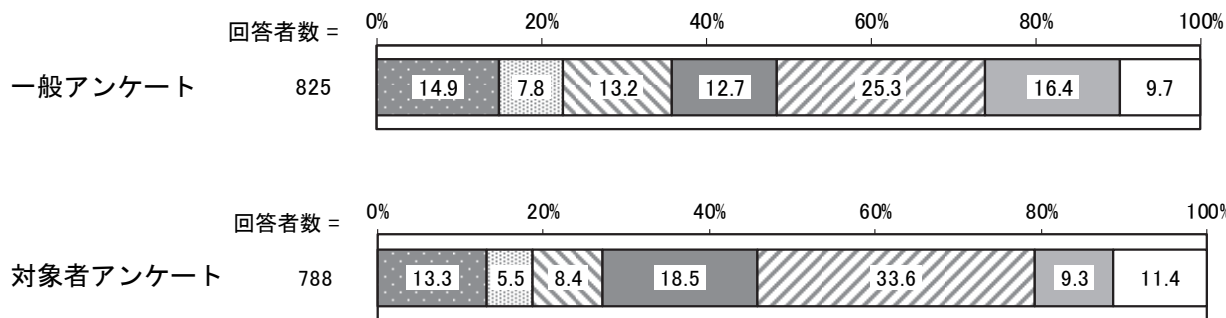
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「10 時間未満」「20 時間～30 時間」の割合が、ひとり親世帯で「40～50 時間」の割合が高くなっている。



## 2020 年 1 週間あたりの平均就業時間

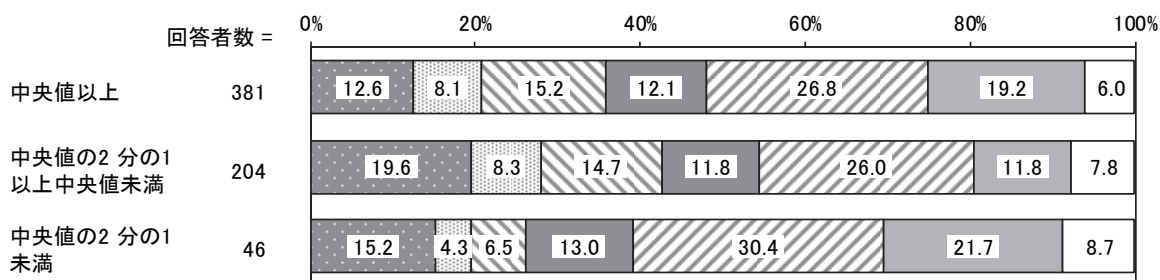
一般アンケートでは、「40 時間～50 時間未満」の割合が 25.3%と最も高く、次いで「50 時間以上」の割合が 16.4%、「10 時間未満」の割合が 14.9%となっている。

対象者アンケートでは、「40 時間～50 時間未満」の割合が 33.6%と最も高く、次いで「30 時間～40 時間未満」の割合が 18.5%、「10 時間未満」の割合が 13.3%となっている。



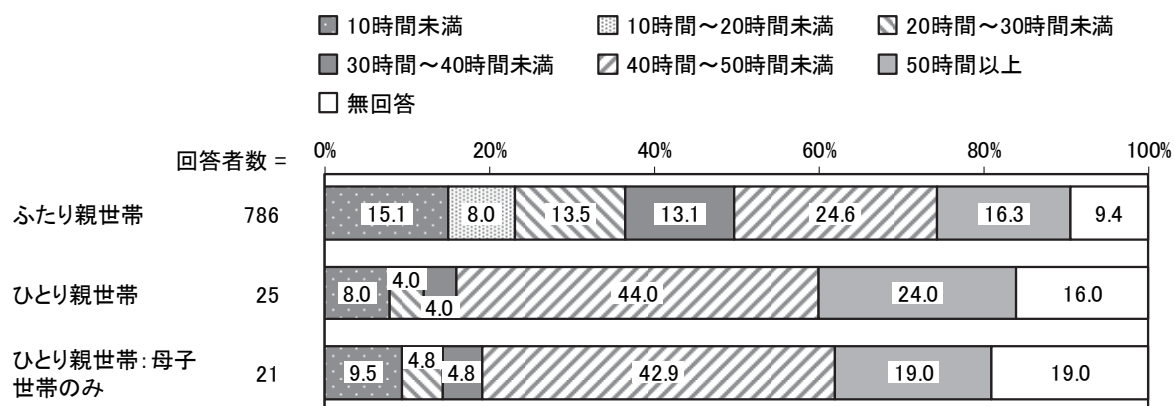
## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満、中央値以上で「50 時間以上」の割合が、中央値の2分の1以上中央値未満、中央値以上で「20 時間～30 時間未満」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「10 時間未満」「10 時間～20 時間未満」「20 時間～30 時間」「30 時間～40 時間未満」の割合が、ひとり親世帯で「40～50 時間」の割合が高くなっている。



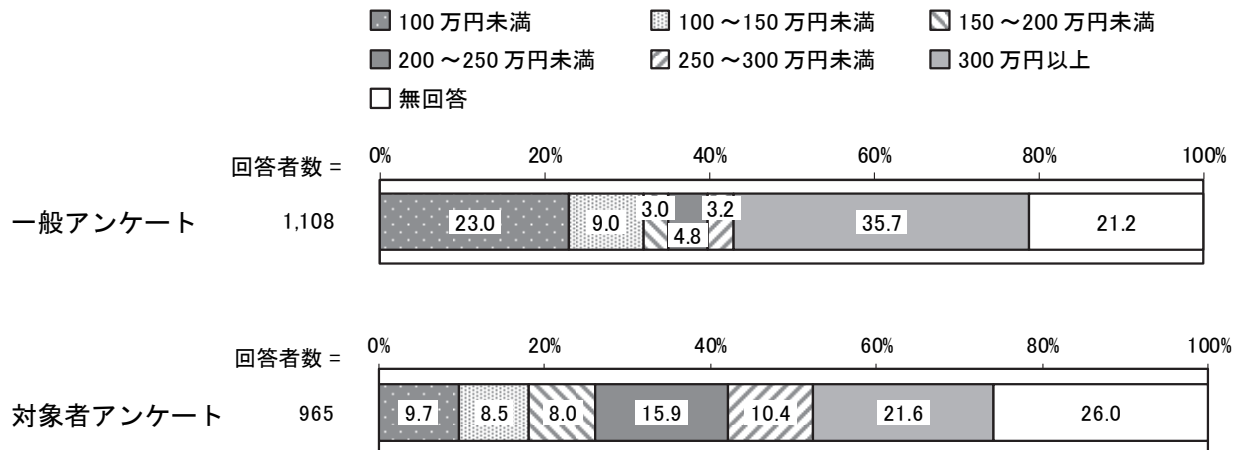
すべての方におたずねします。

問 58 あなたのとおよその年間総収入及び年間就労収入はいくらですか。

## 2019 年 あなたの年間総収入

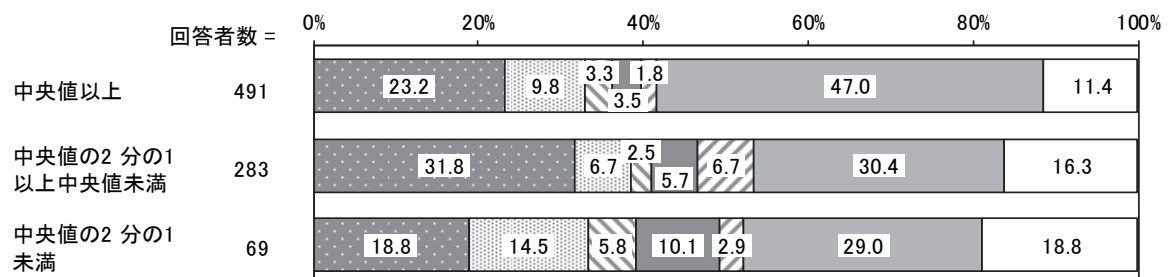
一般アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 35.7%と最も高く、次いで「100 万円未満」の割合が 23.0%となっている。

対象者アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 21.6%と最も高く、次いで「200 ～250 万円未満」の割合が 15.9%、「250 ～300 万円未満」の割合が 10.4%となっている。



## 【所得区分別（2019）】

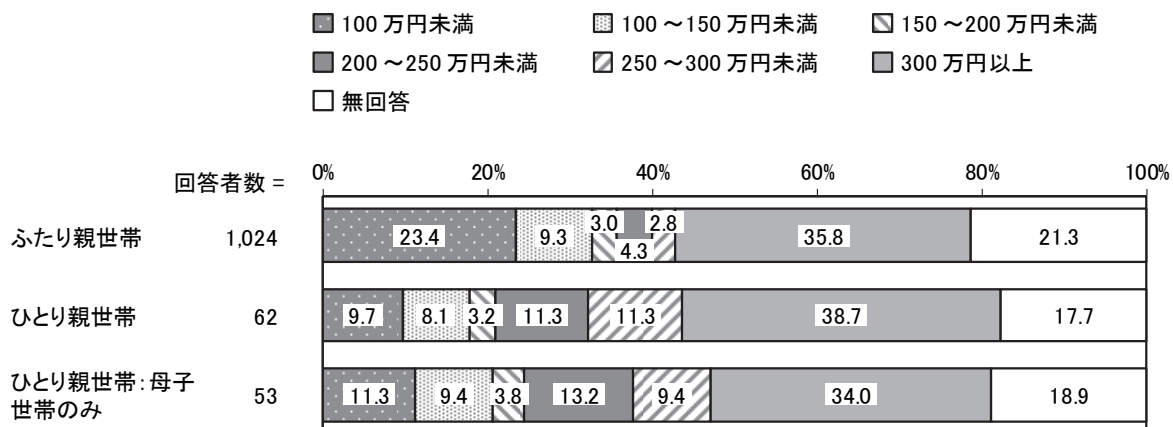
一般アンケートでは、所得区分別（2019）でみると、他に比べ、中央値以上で「300 万円以上」の割合が、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「100 万円未満」の割合が高くなっている。また、中央値の 2 分の 1 未満で「100～150 万円未満」の割合が高くなっている。





## 【家族構成別】

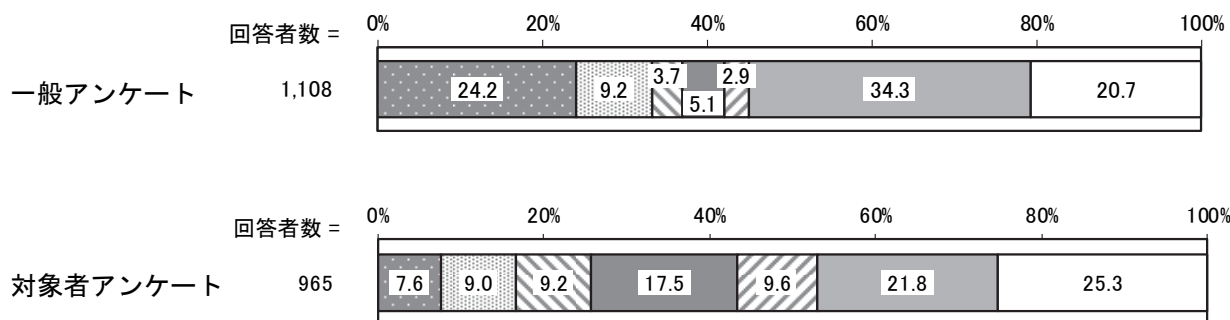
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 2020 年 あなたの年間総収入

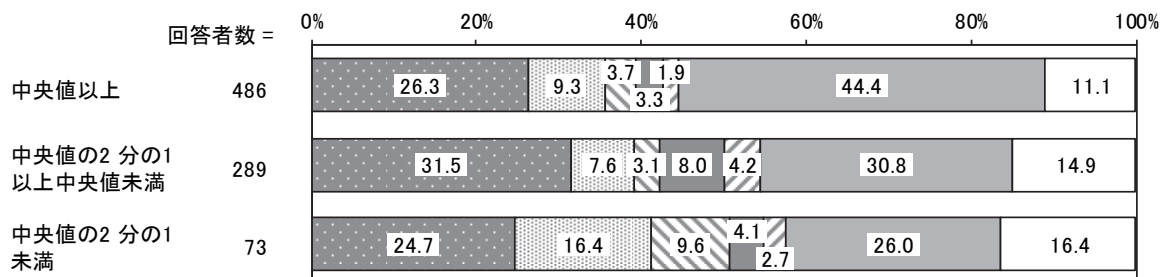
一般アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「100 万円未満」の割合が 24.2%となっている。

対象者アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 21.8%と最も高く、次いで「200 ～250 万円未満」の割合が 17.5%となっている。



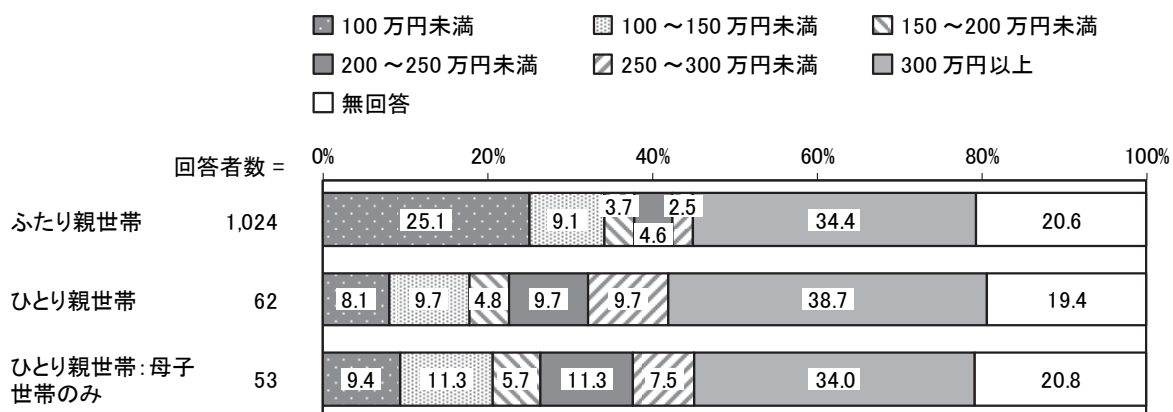
## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「300 万円以上」の割合が、中央値の 2 分の 1 未満で「100～150 万円」の割合が高くなっている。また、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

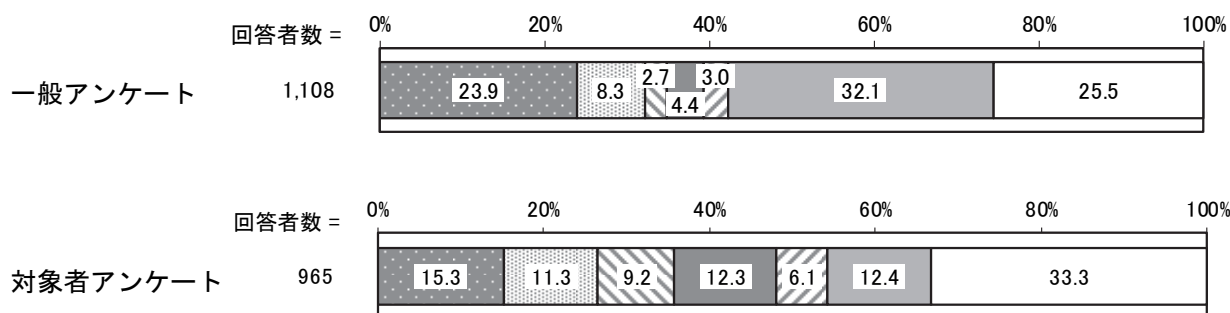
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 2019 年 あなたの年間就労収入

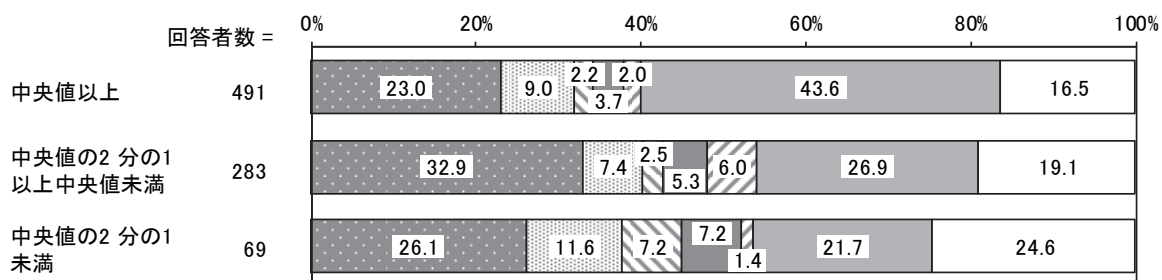
一般アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 32.1%と最も高く、次いで「100 万円未満」の割合が 23.9%となっている。

対象者アンケートでは、「100 万円未満」の割合が 15.3%と最も高く、次いで「300 万円以上」の割合が 12.4%、「200 ～250 万円未満」の割合が 12.3%となっている。



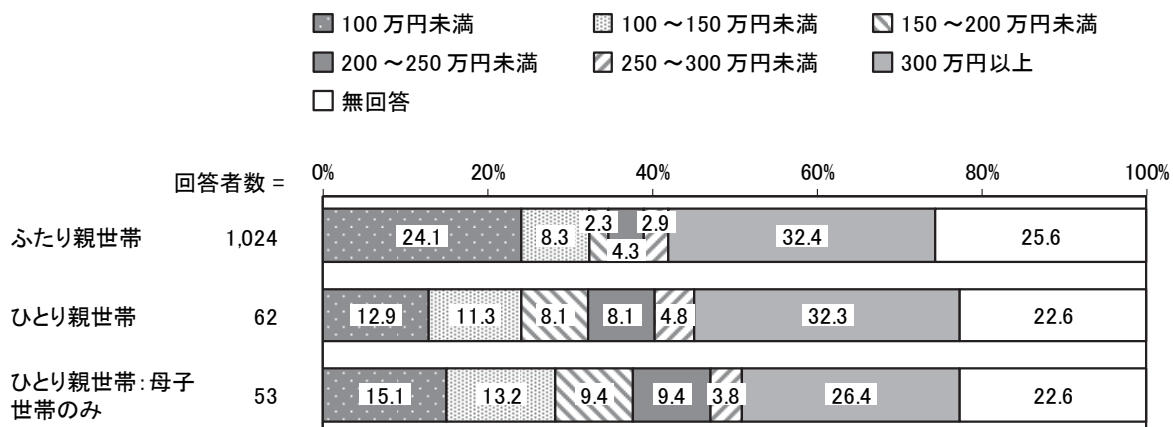
## 【所得区分別（2019）】

一般アンケートでは、所得区分別（2019）でみると、他に比べ、中央値以上で「300 万円以上」の割合が、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

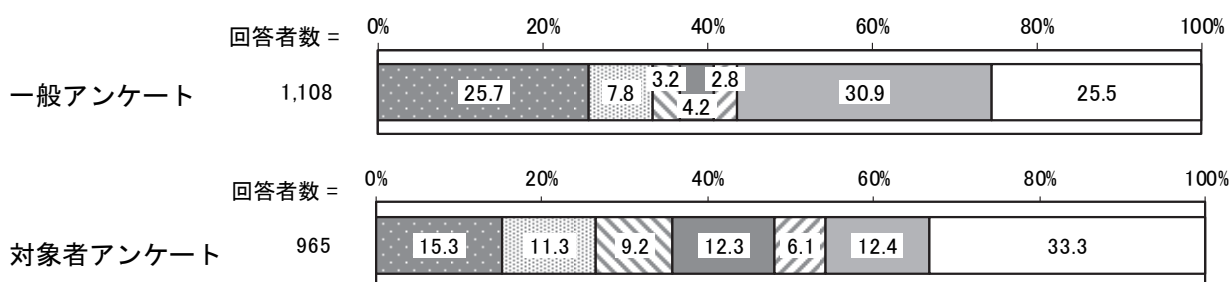
家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 2020 年 あなたの年間就労収入

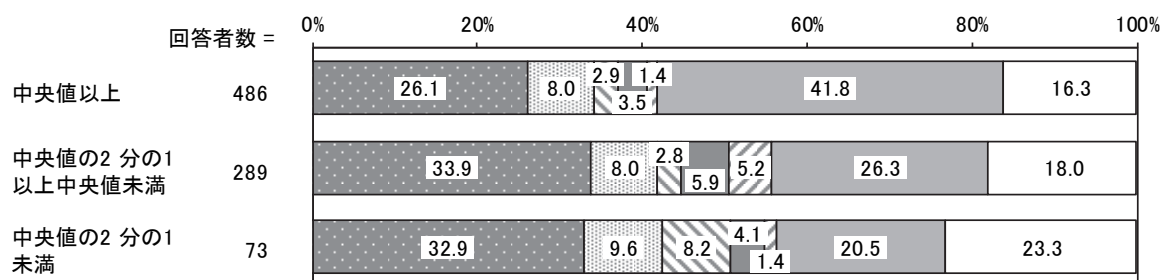
一般アンケートでは、「300 万円以上」の割合が 30.9%と最も高く、次いで「100 万円未満」の割合が 25.7%となっている。

対象者アンケートでは、「100 万円未満」の割合が 15.3%と最も高く、次いで「300 万円以上」の割合が 12.4%、「200～250 万円未満」の割合が 12.3%となっている。



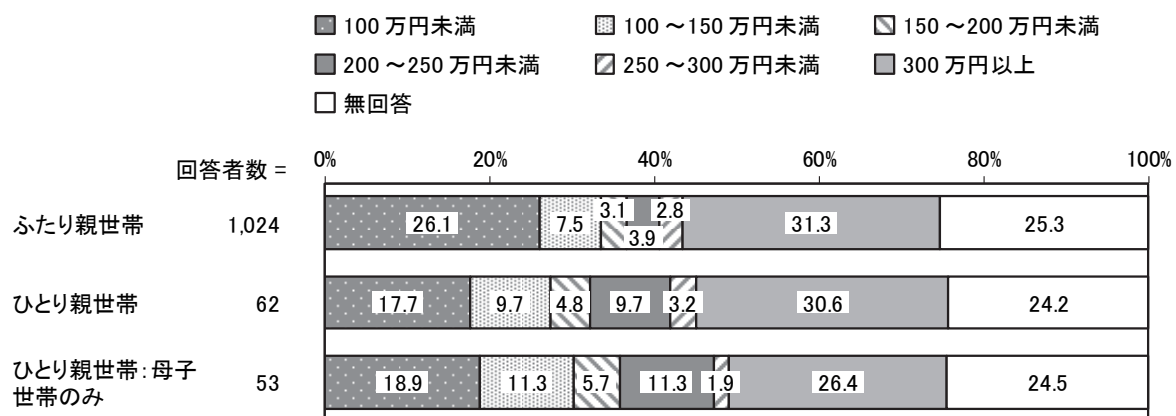
## 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値以上で「300 万円以上」の割合が、中央値の 2 分の 1 未満、中央値の 2 分の 1 以上中央値未満で「100 万円未満」の割合が高くなっている。



## 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ふたり親世帯で「100 万円未満」の割合が高くなっている。

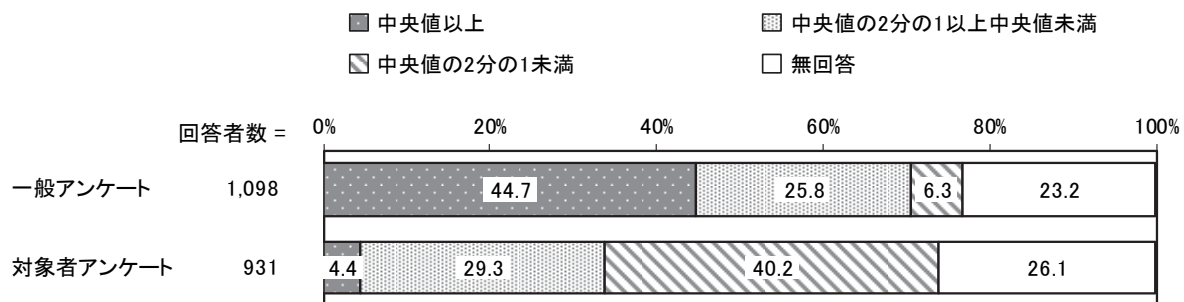


問 59 あなたの世帯生計をともにしている人々のおおよその可処分所得（いわゆる手取り収入）の合計はいくらですか。

2019 年 世帯全体の年間総収入

一般アンケートでは、「中央値以上」の割合が 44.7%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 25.8%、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 6.3%となっている。

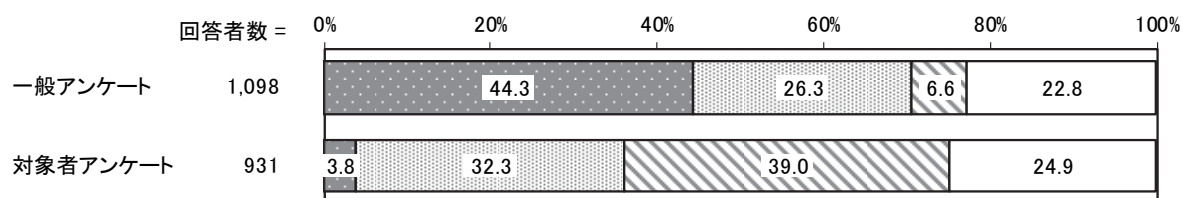
対象者アンケートでは、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 40.2%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 29.3%、「中央値以上」の割合が 4.4%となっている。



2020 年 世帯全体の年間総収入

一般アンケートでは、「中央値以上」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 26.3%、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 6.6%となっている。

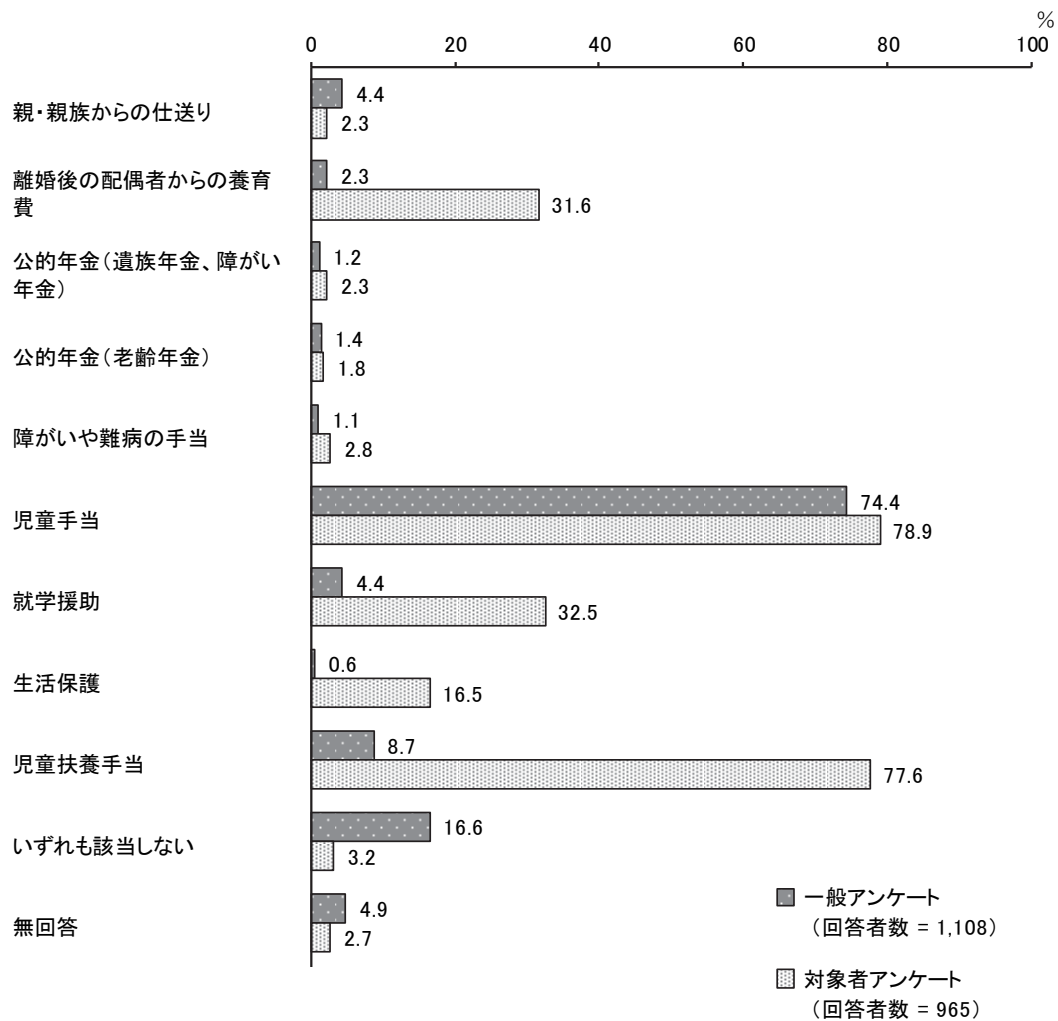
対象者アンケートでは、「中央値の 2 分の 1 未満」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「中央値の 2 分の 1 以上中央値未満」の割合が 32.3%、「中央値以上」の割合が 3.8%となっている。



問 60 あなたの世帯では、過去 1 年間に次のような形での収入はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「児童手当」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「いずれも該当しない」の割合が 16.6%、「児童扶養手当」の割合が 8.7%となっている。

対象者アンケートでは、「児童手当」の割合が 78.9%と最も高く、次いで「児童扶養手当」の割合が 77.6%、「就学援助」の割合が 32.5%となっている。



### 【所得区分別】（一般アンケート）

一般アンケートでは、所得区分別でみると、他に比べ、中央値の2分の1未満で「就学援助」「児童扶養手当」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	親・親族からの仕送り	離婚後の配偶者からの 養育費	公的年金（遺族年金、 障がい年金）	公的年金（老齢年金）	障がいや難病の手当	児童手当	就学援助	生活保護	児童扶養手当	いずれも該当しない	無回答
中央値以上	486	2.5	0.6	0.6	1.0	0.8	72.4	0.4	—	6.4	20.8	2.5
中央値の2分の1以上中央値未満	289	6.2	3.1	2.1	1.0	2.4	83.4	7.6	0.3	6.9	10.4	2.8
中央値の2分の1未満	73	8.2	11.0	4.1	6.8	—	75.3	21.9	5.5	27.4	13.7	2.7

### 【家族構成別】

家族構成別でみると、他に比べ、ひとり親世帯、ひとり親世帯：母子世帯のみで「離婚後の配偶者からの養育費」「就学援助」「児童扶養手当」の割合が高くなっている。

単位：％

区分	回答者数 (件)	親・親族からの仕送り	離婚後の配偶者からの養育費	公的年金（遺族年金、障がい年金）	公的年金（老齢年金）	障がいや難病の手当	児童手当	就学援助	生活保護	児童扶養手当	いずれも該当しない	無回答
ふたり親世帯	1024	4.5	0.4	0.9	1.5	1.2	74.7	2.5	0.2	6.3	17.0	4.6
ひとり親世帯	62	4.8	33.9	6.5	—	—	77.4	37.1	8.1	51.6	9.7	1.6
ひとり親世帯：母子世帯のみ	53	5.7	32.1	7.5	—	—	79.2	37.7	9.4	54.7	9.4	1.9

問 61 あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。

### （１）一般アンケート

悩みや心配、相談したいことについては、寄せられた具体的な内容を分類すると、「子育てに関する事」が 79 件で最も多く、次いで「金銭面に関する事」が 73 件、「制度に関する事」が 45 件となっている。

分類回答	件数
子育てに関する事	79
金銭面に関する事	73
制度に関する事	45
就労に関する事	27
精神・健康面に関する事	23
感染症に関する事	23
家族に関する事	22
窓口に関する事	8
アンケートに関する事	5
住宅に関する事	3
その他	19

### （２）対象者アンケート

悩みや心配、相談したいことについては、寄せられた具体的な内容を分類すると、「金銭面に関する事」が 148 件で最も多く、次いで「制度に関する事」が 96 件、「子育てに関する事」が 66 件となっている。

分類回答	件数
金銭面に関する事	148
制度に関する事	96
子育てに関する事	66
精神・健康面に関する事	38
就労に関する事	38
家族に関する事	38
窓口に関する事	31
住宅に関する事	24
感染症に関する事	19
アンケートに関する事	6
その他	34



## 【主な意見】

### ① 子育てに関すること

- 発達障害者グレーゾーンの息子の時は、周りからの働きかけで情報を得たり、環境を整えることができました。当時は2才児という年齢も関係していると思われます。現在、小6長女、いじめが原因で不登校です。義務教育になると周りからの働きかけ度合いが激減します。保護者や本人が必死になるのはなぜでしょう。未就学児なみの支援がほしいと思います。
- 子どもが保育園に入園できるかとても不安。
- 中学生の娘が小6から学校へ行っていません。いじめ等はなく、学校の雰囲気、教室で過ごすことが苦手になってしまったようです。「不登校」とひとくくりにされがちですが、集団が苦手、指示通り動くことが苦手、におい、音等々な理由で学校が「合わないだけ」の子がいることをもっと知っていただきたい。コロナ禍をきっかけにオンライン化が進んでいますが、家庭にいても学習の機会が得られるようにしてほしい。学校へ行くことがすべてではない。さまざまな形で学ぶことも体験でき社会に出られるということを、発信してほしいです。
- 小学5年生から不登校の息子が、通信制高校に入学したが、コロナで入学式からリモートになり、実登校が可能になった時期には、また出遅れた感じで、現在2年生だが、いまだに不登校である。単位制、通信制なので、無理に登校する必要はないが、(必須のみクリアすれば)卒業できたとして、世の中に出て働いていけるのか、お金の管理、生活、すべて自分でできるようになるのか、常に不安に思っている。
- 中3になり、子どもの学習障がいがあり、今後の学校生活について心配。いろいろな障がいがあるので難しいと思いますが、何か対策があれば、もっとできることが増え自信につながると思います。
- 小さい子どもがもっと遊べる場所がほしい。いろいろな行事があるとありがたい。
- 友人のひとり親の人が保育所へ見学に電話をした時に「ひとり親はちょっと…」と断られていたのがとても腹立たしい。

### ② 金銭面に関すること

- 自分の健康や収入面について不安。
- 子どもには自由に生きてほしいと願っているのに、学習や就職で経済を理由に選択の幅がせまくなれないといい。
- 生活費に余裕がない。子どもが大きくなるにつれ出費が増え、自分は歳を重ね小さな体調不良が出てきて病院代もかかったり、常にお金の心配をしているようで嫌な気持ちになる。
- 私の収入だけでは学習塾にも通わせられず、この先の高校・大学進学(受験も含め)等経済的な不安が大きく、辛いです。子どもには自分の希望する道へ進んでいって欲しいですから。
- 子が小学校に上がるとフルタイムで働くことが難しくなる(おむかえ時間に間に合わない)。
- ひとり親で万が一の時の収入元が心配。養育費がいつまで支払われるかも不安。
- 貯金をしたくてもできない。不登校なので本人の将来が心配。

### ③ 制度に関すること

- 児童手当や医療費控除は上の子供が大きくなると子どもの人数から外れてしまう制度は以前から不満がある。子どもが多いのに手当が減り上の子たちの進学でお金を出せなくなり進学をあきらめざるをえない上の子たちがいる。
- 近くに子育てをサポートしてくれる人がいないため、基本的な育児は母（私）がしている（夫も仕事で協力できる時間が限られる）。そのため、就労時間が限られ（保育園の送り迎え等）働きたいのに働けず家計が苦しい。時給のアップや、助成金制度が充実すると将来の不安が少し減る。
- 今年は、収入が減ったことにより、子ども医療費助成の対象になり、少しの風邪でも気軽に病院に行けるようになりました。今後、地域によってではなく（収入に関係なく）、全国一律で対象範囲を決めてもらえると嬉しく思います。
- 子どもの医療費助成は中3までですが、高3までの自治体が増えているので、仙台市も早くそうなってほしいです。
- 児童手当は年収制限を設けることなく同一の受給にするべき。

### ④ 就労に関すること

- 安定して働ける所がない。日々家賃光熱費払えず、電気が止まることがある。引っ越しの予定があるが出ていく時の住んでいたアパートの費用を払えない。自分の生命保険など払っている余裕なし。お金を借りても返せる状況ではないので借りることができない。
- 2021年10月末で退職し、求職活動をしているが、求職活動中だと、児童館の申し込みができない。退職後、国保に加入したが、払っていけるか心配。
- 小さい子を抱えての正社員は肩身が狭い。コロナの影響で家族に発熱者がいた場合、仕事は休み。さらに解熱後24h経過しないと出勤できない。解熱して子供を保育園へ預けられても、自分は出勤できないのがつらい。そして、その休みは全て有給をけずられる。なんだか会社に都合よく有給が使われているようで嫌だ。
- お金がないのに副業禁止の企業が多すぎる。
- 離婚後子どものために働かなければならないが、預かってくれる場所が少なすぎると感じる。

### ⑤ 精神・健康面に関すること

- 育児ストレスで子供を預けたい。夏休みなどで子供が3人とも家にいると、ストレスでとてもつらい。仕事以外でも預けられる場所がほしい。
- 自分の体調を崩すことが増え、共働きを続けられるか不安。
- 発達障害・知的障害の方が、土曜日でも日曜日でも祝日も遊べる場所、心おきなく行ける場所、預かってくれる場所などをもっともっと広げてほしい。親同士も交流が持て、ストレスのない不安のない毎日を送れるところをつくってほしい。障害のある子どもを、もっと手厚くみてほしいです。

## ⑥ 感染症に関すること

- 最近、虐待やいじめ等の事件をよくニュースで耳にします。毎日思い出しては悲しく涙がでてきます。コロナもあり地域交流もないし、私が産んだ時もイベント等は全て中止で行ったことがありません。きっと1人で悩んでいるお母さんはたくさんいると思います。
- コロナ禍に第二子が生まれたが、(コロナの関係もあり) 祖母から子育てへの支援が得られにくく、非常につらかった(今もつらい)。のびすくの職員さんには、いろいろ助けていただいた。地域のお祭りなどもなくなり、本当にさみしい。保育所には通っているが「地域で子育てしている」「地域の人がうちの子を知っている」というのがなく、孤独である。親のメンタルの影響がダイレクトに子どもにいつてしまうのが心配。親も人間だから、コントロールできない時もある。親のアンガーマネジメントとか、そういうことでなく、もう少しいろいろな手段があってもよいと思う。
- コロナのため、産前に予定されていた母親学級や産後の3～4か月教室が中止されたため、同じような年齢の子どもを育てている方と知り合う機会が少なく、今でも同じように考えている母親が多いと感じる。
- コロナによる収入の減少とその損失に対する経済支援

## ⑦ 家族に関すること

- 夫との考え方等があわず、イライラすることも多い。子どもの手本になるような言動を心がけてほしいのに、全く反省することもない為、正直、一緒に暮らすのも悩んでいる。家のことや子どものこともある為、簡単にこたえを出すこともできないが、自分に経済力さえあれば・・・と思うことが常です。
- 再婚した夫と連れ子との関係、夫との関係、義父母との関係。
- 主人が単身赴任中のため、ほぼ一人で子育て中です。産後ヘルパー等、頼みたかった時はなかなか余裕がなく、そこまで考えがおよばなかったため、もっと大々的にアピールしてもらいたかったと思いました。

## ⑧ 窓口に関すること

- 行政はマニュアルどおりの対応でしかなく本当に困っている家庭に目が行き届いていない。
- いろいろなところに相談したが、部署をまわされ、まわされ…。すべての制度を使えず。また何かあったら、と言われても解決できないのに必要ない。これからは県も市も頼りません。

## ⑨ アンケートに関すること

- このようなアンケートをされる場合は、困った方がすぐに救済を求められるように、チラシなどをはさまれた方がよいと思います。本当に困っている家庭や問題のある家庭は、こちらのアンケートに回答してこないと思いますので、真因調査にはつながりにくいと思います。
- アンケートの内容が回答しづらい。小学生もいることや、2020年中は育休だったこともあり、合致する選択肢がない設問もあり、内容をきちんと回答しやすいように精査する必要性をとて感じるアンケート設問でした。

⑩ 住宅に関すること

- 住宅ローンが払い続けられるか不安。
- 将来子どもたちに負担をかけたくないので、定年近くあたりに老後過ごせる場所を仙台市の方で紹介してほしい（空き家、古民家、集団見守りなど）。

⑪ その他

- 父子家庭ですが、いろいろな制度、知らないことが多く、情報がほしい。
- 保育園に入れようと思った時にホームページのサイトでPDFなどをダウンロードしたり、制度の内容を調べたが、文章の羅列が多く、とても分かりにくかった。早急に改善が必要だと思う。
- 通学路の安全が確保されていない。
- 家からバス停など公的交通機関が遠いので、車が運転できないことが起きた時が心配。バスの本数やバス停数など、地域のニーズに合わせて利用しやすくしてほしい（バス停付近に自転車置き場があると、子どもの通学にも助かる）。

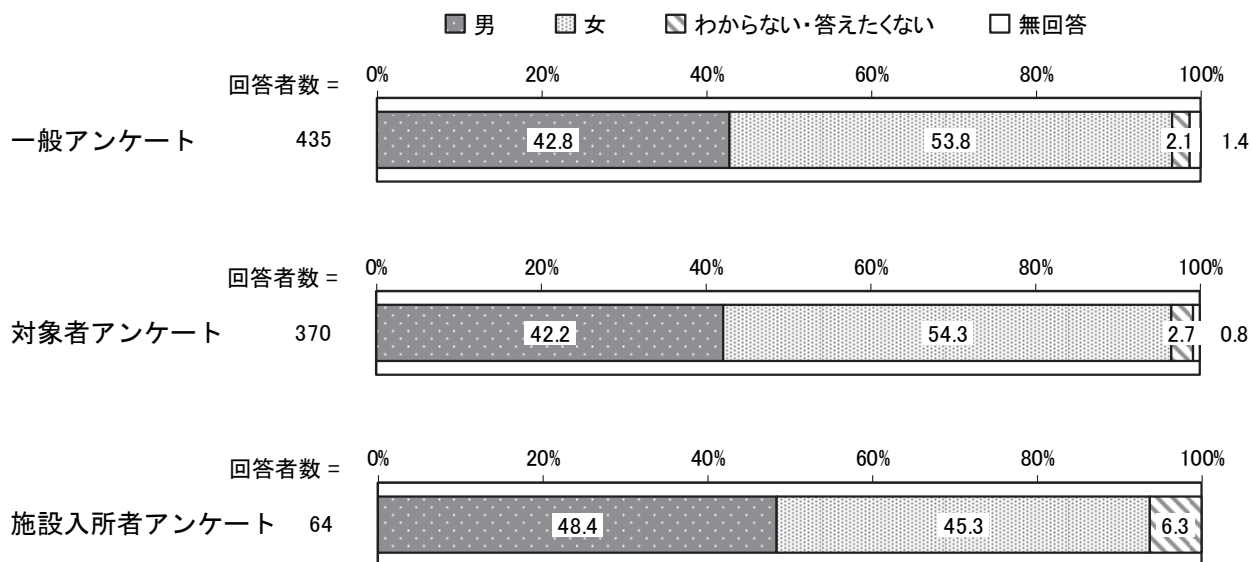
## 2 子ども調査

### 問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「男」の割合が42.8%、「女」の割合が53.8%となっている。

対象者アンケートでは、「男」の割合が42.2%、「女」の割合が54.3%となっている。

施設入所者アンケートでは、「男」の割合が48.4%、「女」の割合が45.3%となっている。

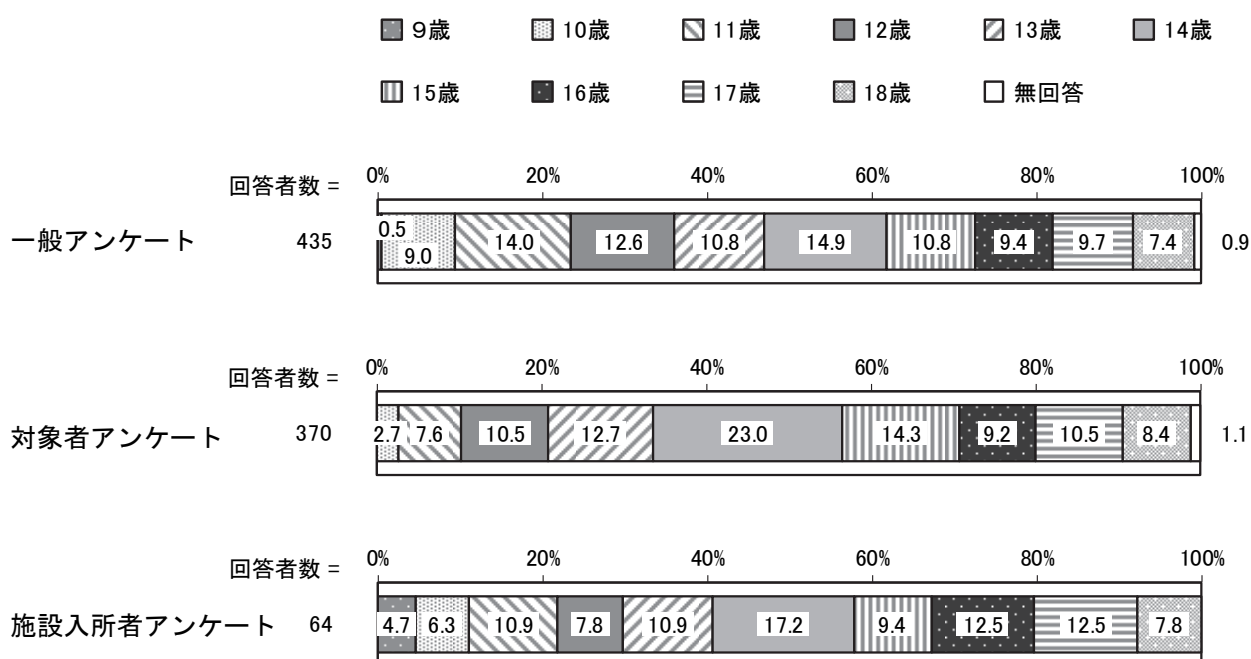


## 問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「14 歳」の割合が 14.9%と最も高く、次いで「11 歳」の割合が 14.0%、「12 歳」の割合が 12.6%となっている。

対象者アンケートでは、「14 歳」の割合が 23.0%と最も高く、次いで「15 歳」の割合が 14.3%、「13 歳」の割合が 12.7%となっている。

施設入所者アンケートでは、「14 歳」の割合が 17.2%と最も高く、次いで「16 歳」、「17 歳」の割合が 12.5%となっている。

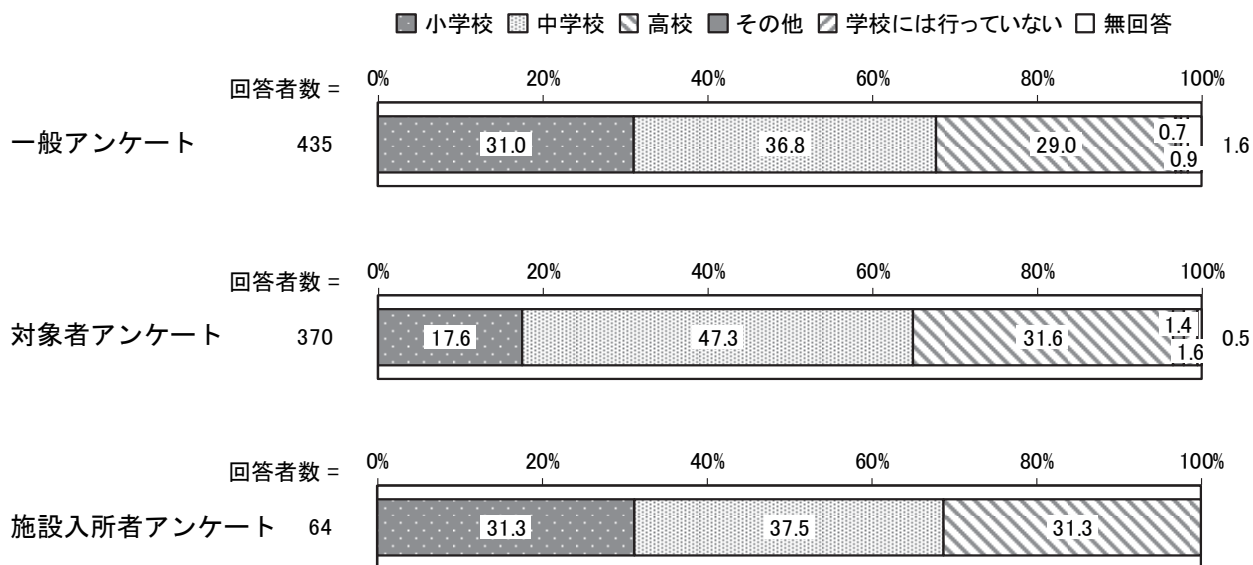


### 問3 あなたが現在通っている学校を教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「中学校」の割合が 36.8%と最も高く、次いで「小学校」の割合が 31.0%、「高校」の割合が 29.0%となっている。

対象者アンケートでは、「中学校」の割合が 47.3%と最も高く、次いで「高校」の割合が 31.6%、「小学校」の割合が 17.6%となっている。

施設入所者アンケートでは、「中学校」の割合が 37.5%と最も高く、次いで「小学校」、「高校」の割合が 31.3%となっている。

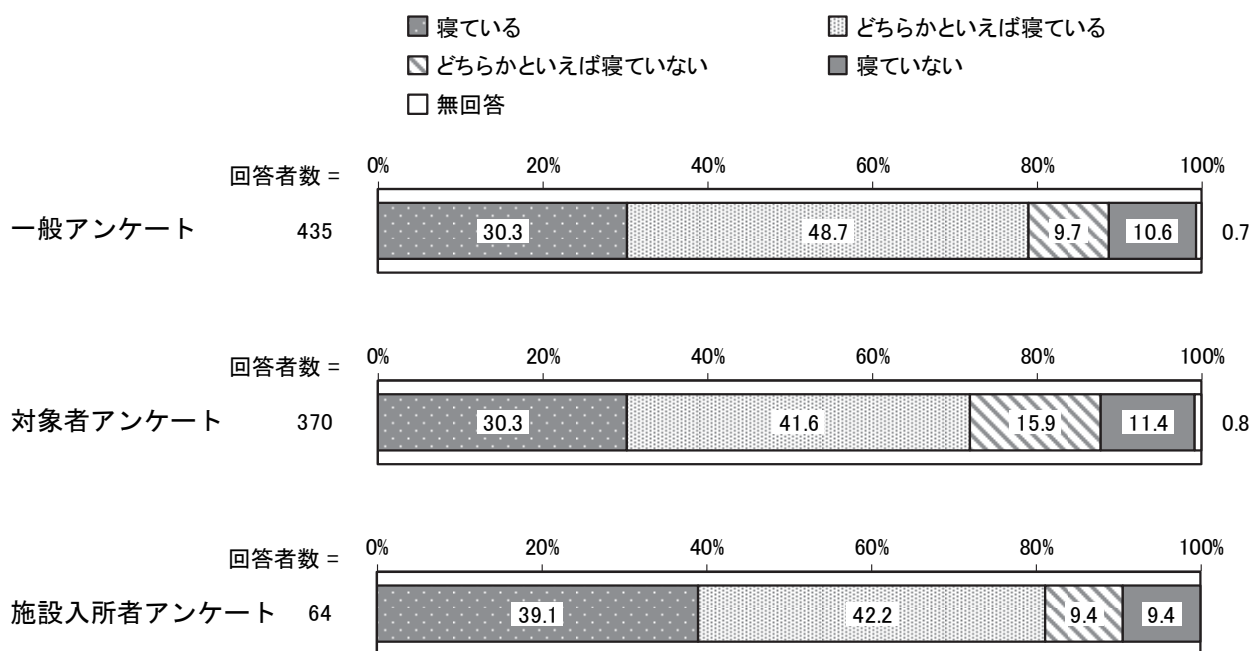


**問4 あなたは、普段（月曜日～金曜日）、夜決まった時間に寝ていますか。**  
（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「寝ている」と「どちらかといえば寝ている」をあわせた“寝ている”の割合が79.0%と最も高く、「どちらかといえば寝ていない」と「寝ていない」をあわせた“寝ていない”の割合が20.3%となっている。

対象者アンケートでは、「寝ている」と「どちらかといえば寝ている」をあわせた“寝ている”の割合が71.9%、「どちらかといえば寝ていない」と「寝ていない」をあわせた“寝ていない”の割合が27.3%となっている。

施設入所者アンケートでは、「寝ている」と「どちらかといえば寝ている」をあわせた“寝ている”の割合が81.3%、「どちらかといえば寝ていない」と「寝ていない」をあわせた“寝ていない”の割合が18.8%となっている。

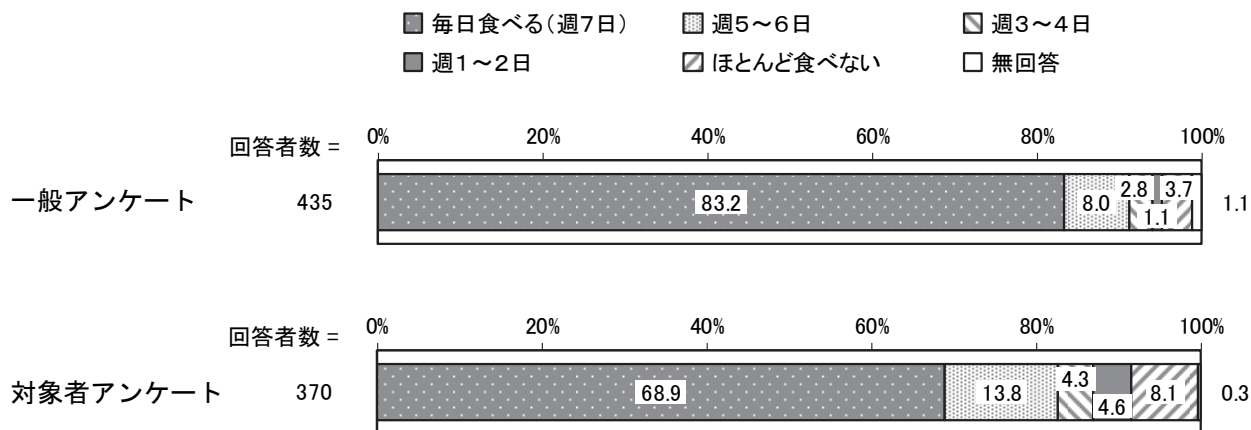




## 問5 あなたは、週にどのくらい朝ごはんを食べていますか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「毎日食べる(週7日)」の割合が83.2%と最も高くなっている。

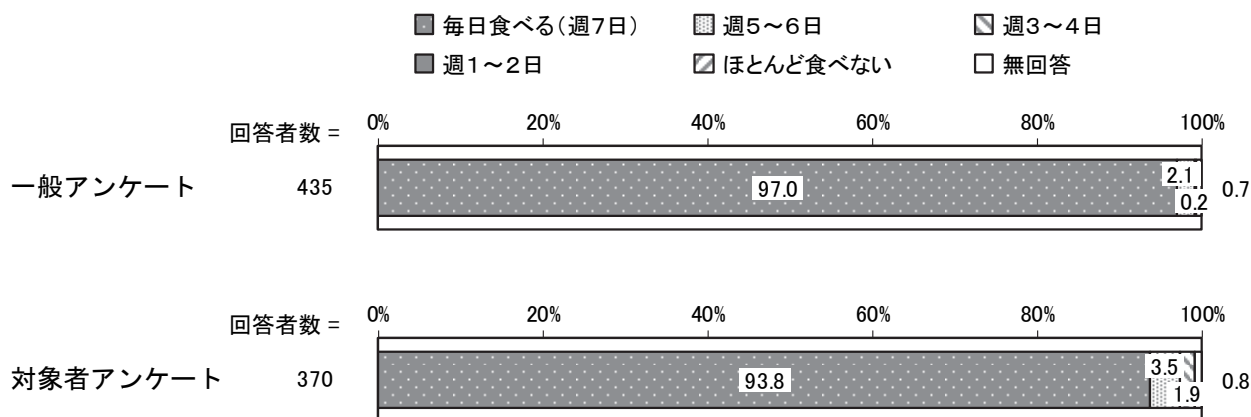
対象者アンケートでは、「毎日食べる(週7日)」の割合が68.9%と最も高く、次いで「週5～6日」の割合が13.8%となっている。



## 問6 あなたは、週にどのくらい晩ごはんを食べていますか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「毎日食べる(週7日)」の割合が97.0%と最も高くなっている。

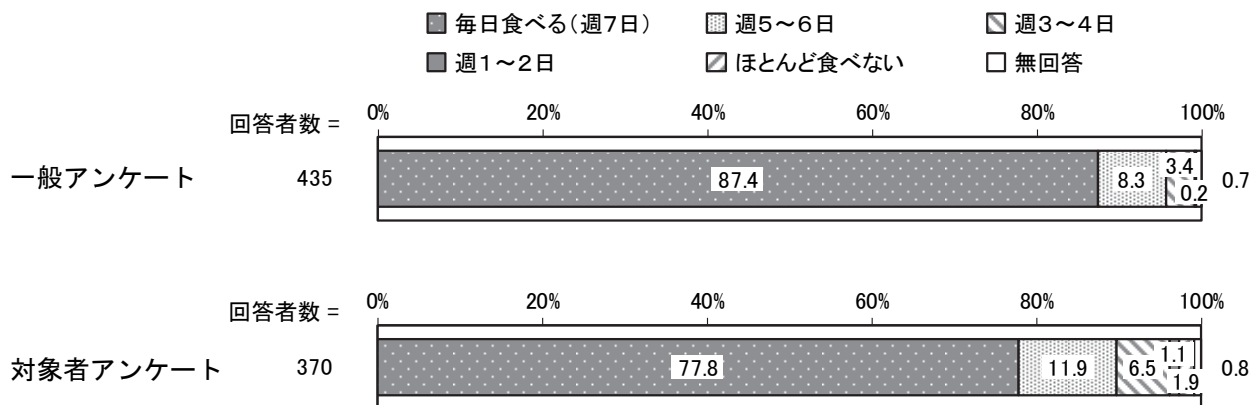
対象者アンケートでは、「毎日食べる(週7日)」の割合が93.8%と最も高くなっている。



**問7 あなたは、夏休みや冬休みなどの期間、週にどのくらい昼ごはんを食べていますか。（○は1つだけ）**

一般アンケートでは、「毎日食べる（週7日）」の割合が87.4%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「毎日食べる（週7日）」の割合が77.8%と最も高く、次いで「週5～6日」の割合が11.9%となっている。

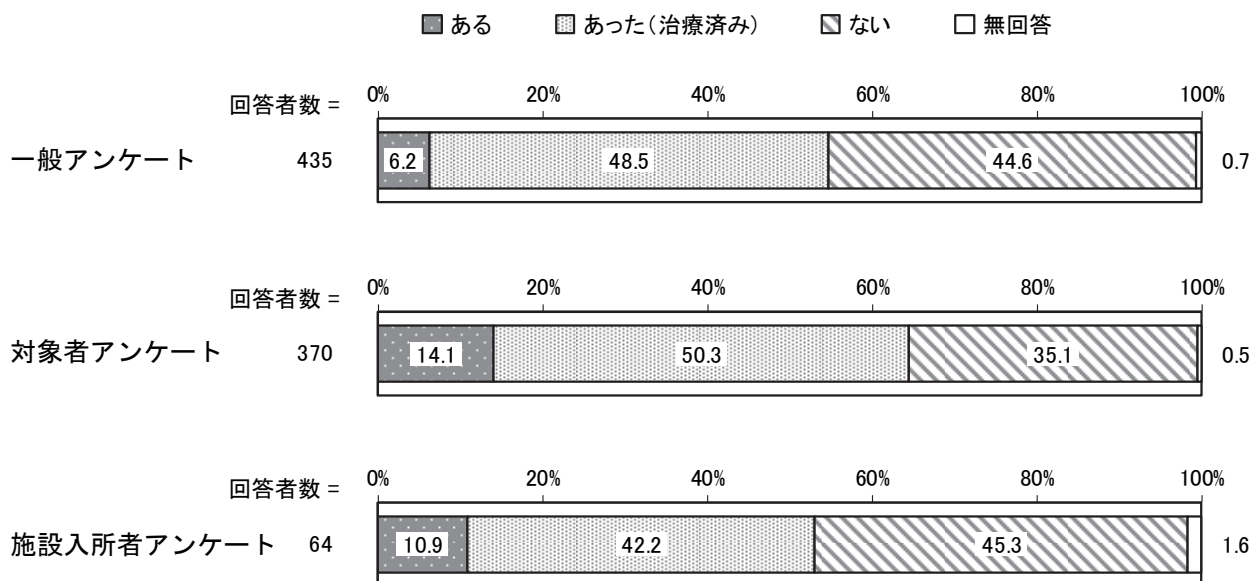


**問8 あなたは、現在むし歯がありますか。または過去にむし歯がありましたか。（○は1つだけ）**

一般アンケートでは、「あった（治療済み）」の割合が48.5%と最も高く、次いで「ない」の割合が44.6%となっている。

対象者アンケートでは、「あった（治療済み）」の割合が50.3%と最も高く、次いで「ない」の割合が35.1%、「ある」の割合が14.1%となっている。

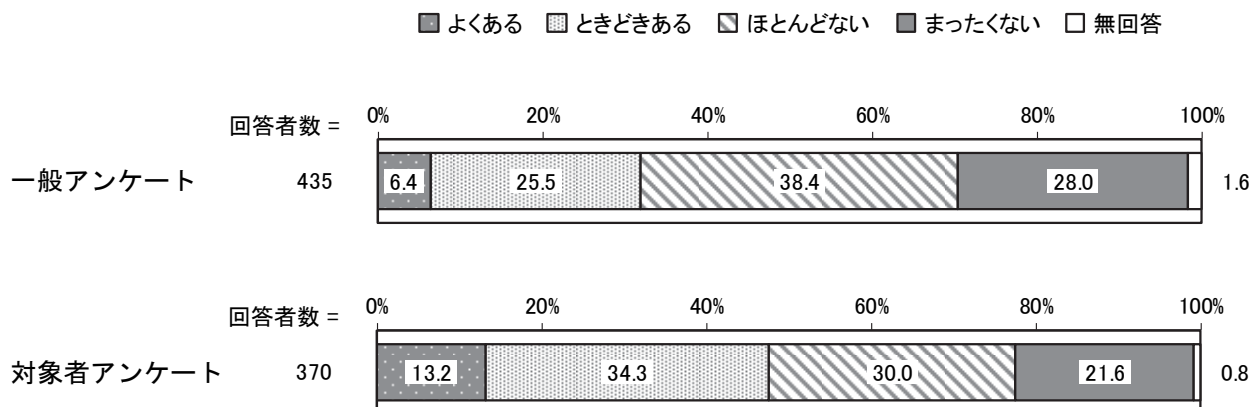
施設入所者アンケートでは、「ない」の割合が45.3%と最も高く、次いで「あった（治療済み）」の割合が42.2%、「ある」の割合が10.9%となっている。



## 問9 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「よくある」と「ときどきある」をあわせた“ある”の割合が31.9%、「ほとんどない」と「まったくない」をあわせた“ない”の割合が66.4%となっている。

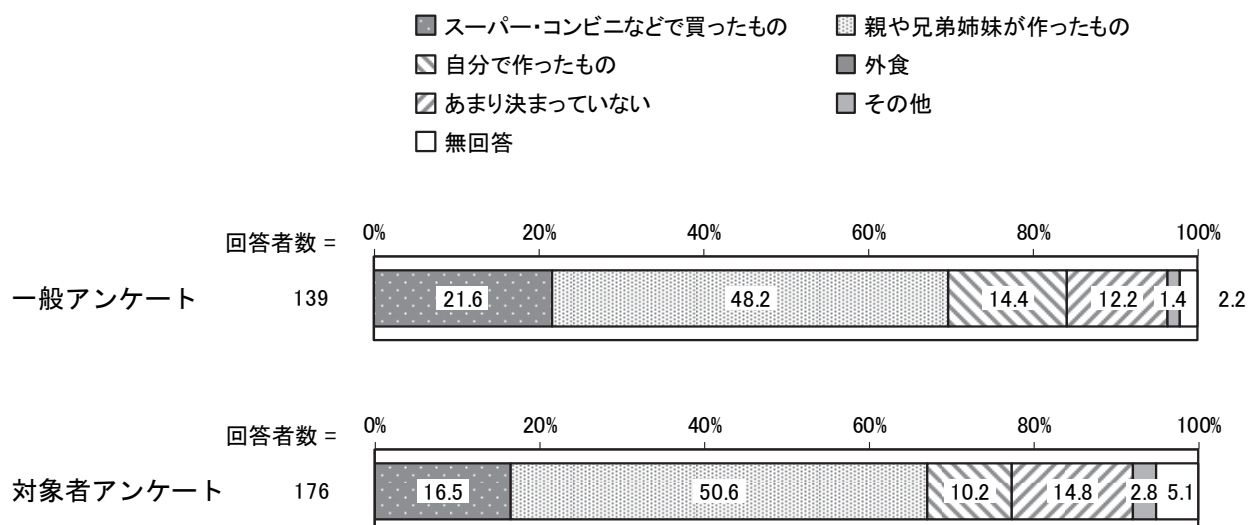
対象者アンケートでは、「よくある」と「ときどきある」をあわせた“ある”の割合が47.5%、「ほとんどない」と「まったくない」をあわせた“ない”の割合が51.6%となっている。



## 問9-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。(○は1つだけ)

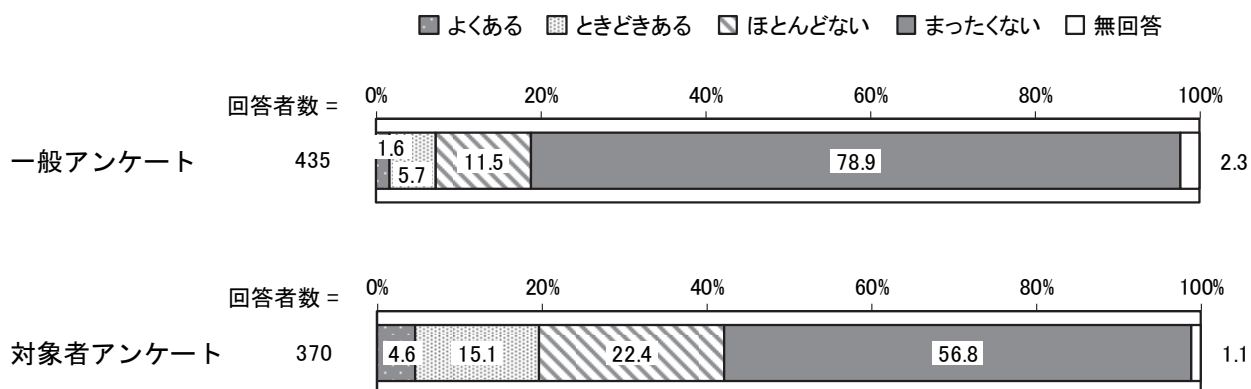
一般アンケートでは、「親や兄弟姉妹が作ったもの」の割合が48.2%と最も高く、次いで「スーパー・コンビニなどで買ったもの」の割合が21.6%、「自分で作ったもの」の割合が14.4%となっている。

対象者アンケートでは、「親や兄弟姉妹が作ったもの」の割合が50.6%と最も高く、次いで「スーパー・コンビニなどで買ったもの」の割合が16.5%、「あまり決まっていない」の割合が14.8%となっている。



**問 10 普段の生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか。(〇は1つだけ)**

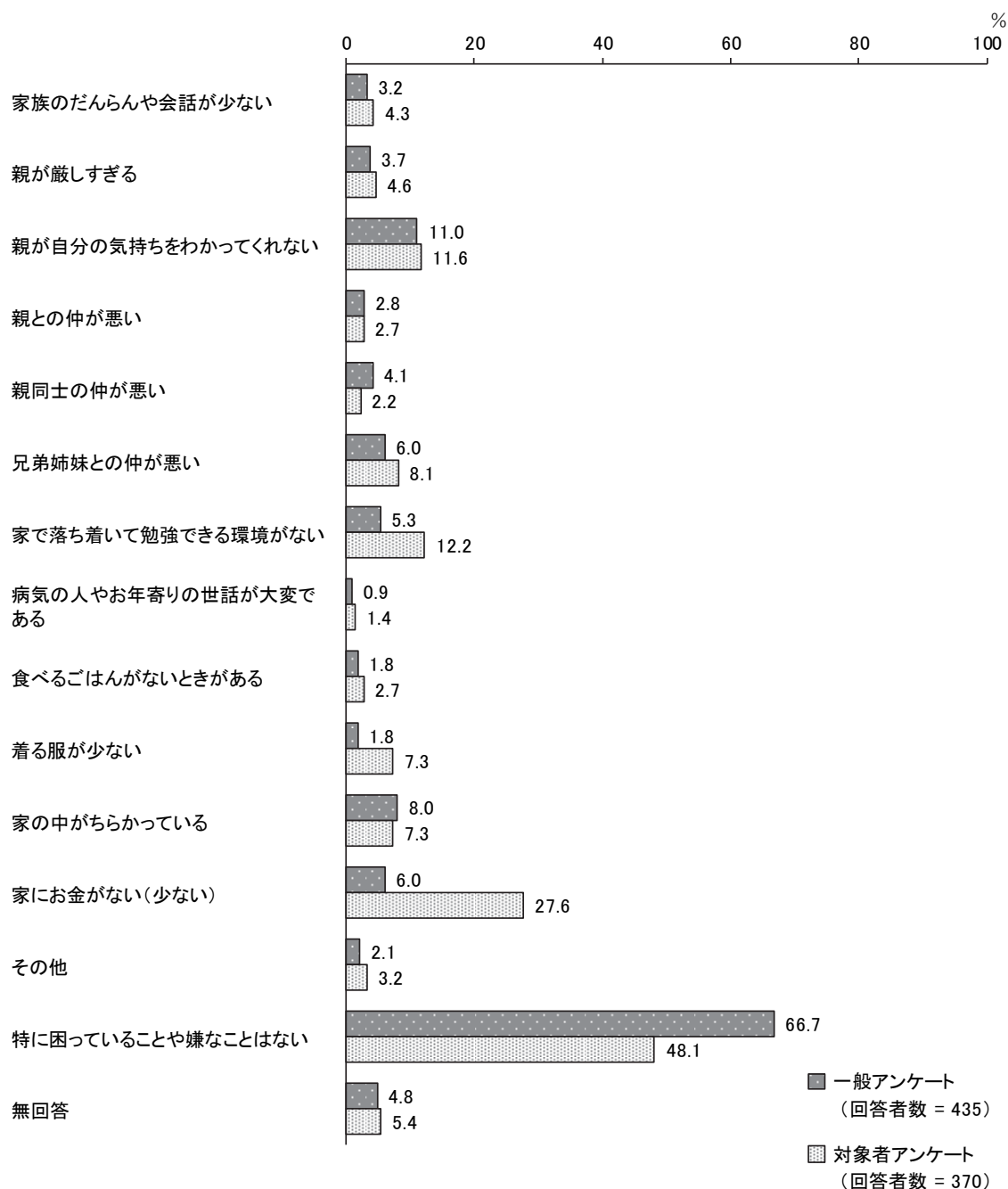
一般アンケートでは、「よくある」と「ときどきある」をあわせた“ある”の割合が 7.3%、「ほとんどない」と「まったくない」をあわせた“ない”の割合が 90.4%となっている。  
対象者アンケートでは、「よくある」と「ときどきある」をあわせた“ある”の割合が 19.7%、「ほとんどない」と「まったくない」をあわせた“ない”の割合が 79.2%となっている。



問 11 あなたは、家族のことなどで、何か困っていることや嫌なことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「特に困っていることや嫌なことはない」の割合が 66.7%と最も高く、次いで「親が自分の気持ちをわかってくれない」の割合が 11.0%となっている。

対象者アンケートでは、「特に困っていることや嫌なことはない」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「家にお金がない(少ない)」の割合が 27.6%、「家で落ち着いて勉強できる環境がない」の割合が 12.2%となっている。

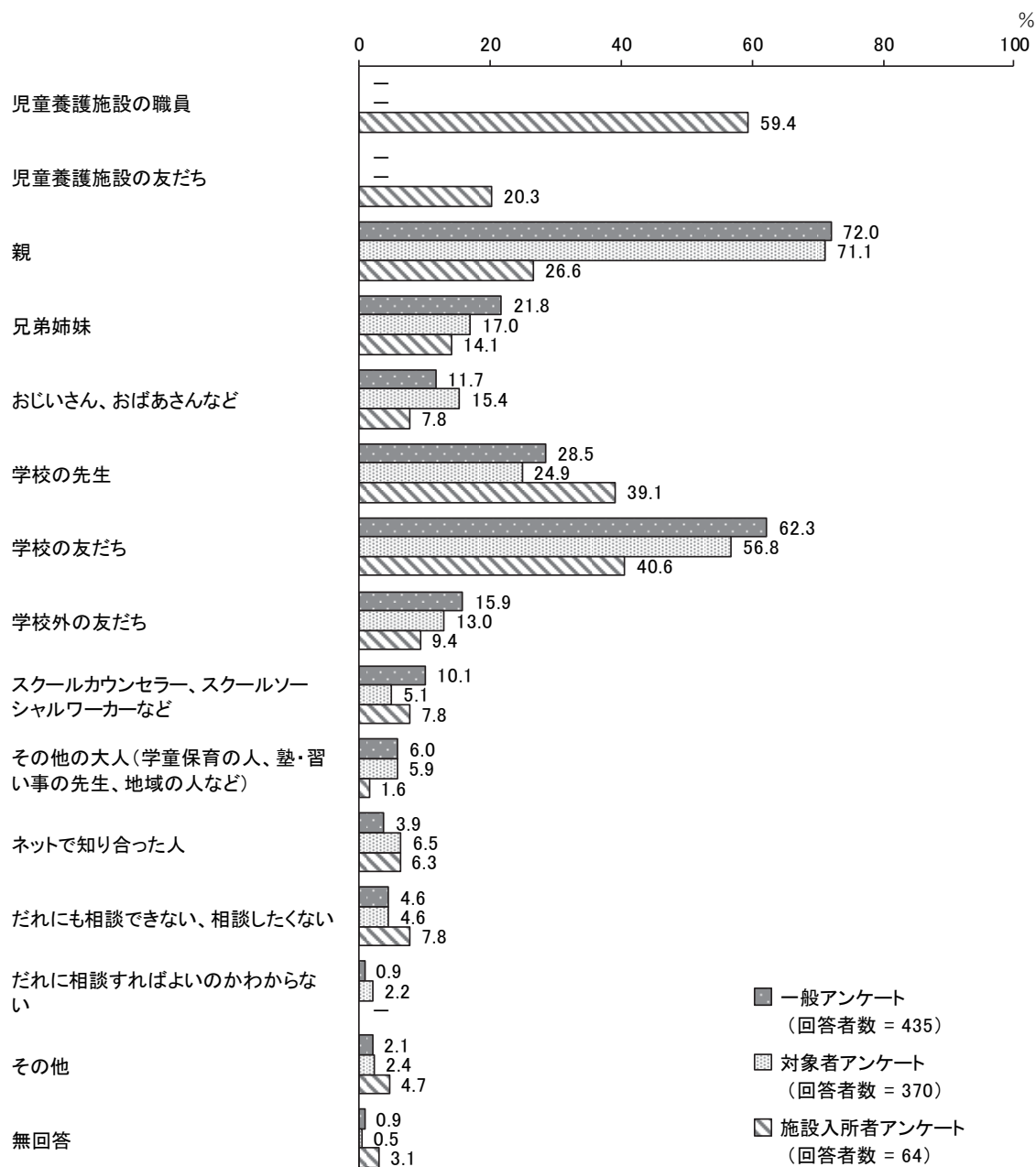


問 12 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「親」の割合が 72.0%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 62.3%、「学校の先生」の割合が 28.5%となっている。

対象者アンケートでは、「親」の割合が 71.1%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 56.8%、「学校の先生」の割合が 24.9%となっている。

施設入所者アンケートでは、「児童養護施設の職員」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 40.6%、「学校の先生」の割合が 39.1%となっている。



※「だれに相談すればよいのかわからない」は、一般アンケート、対象者アンケートのみ。

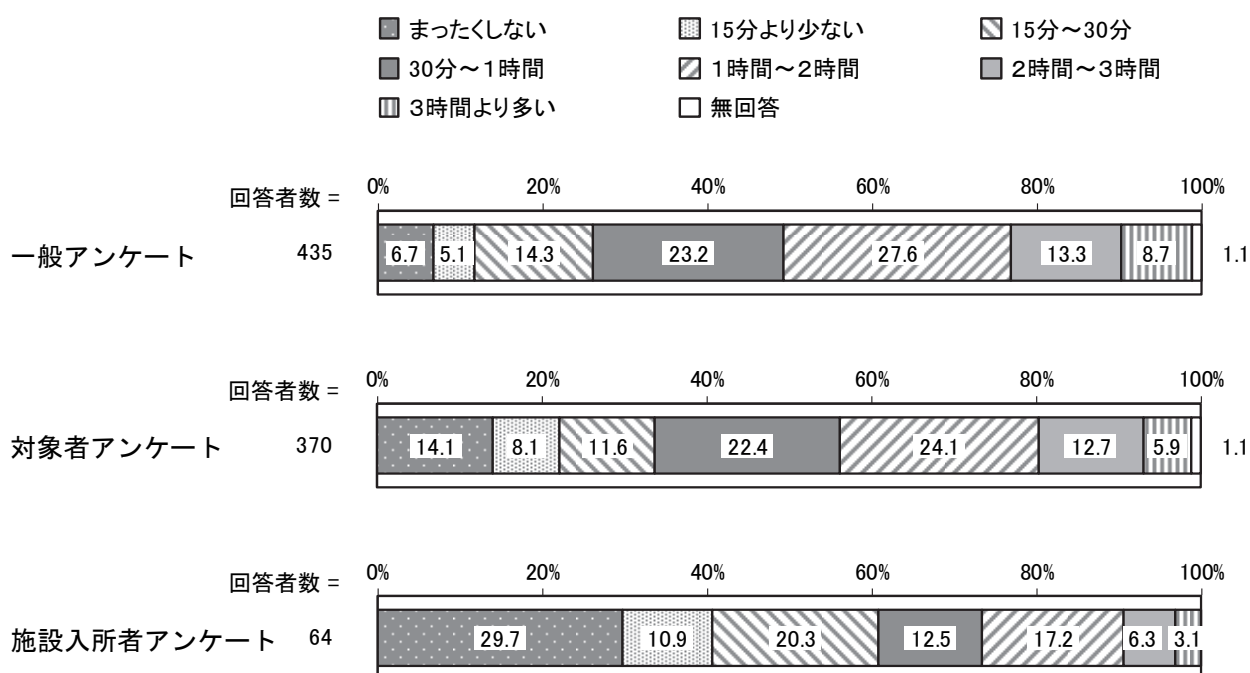
「児童養護施設の職員」「児童養護施設の友だち」は、施設入所者アンケートのみ。

問 13 あなたは、普段学校の授業時間以外に、(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(〇は1つだけ)

一般アンケートでは、「1時間～2時間」の割合が27.6%と最も高く、次いで「30分～1時間」の割合が23.2%、「15分～30分」の割合が14.3%となっている。

対象者アンケートでは、「1時間～2時間」の割合が24.1%と最も高く、次いで「30分～1時間」の割合が22.4%、「まったくしない」の割合が14.1%となっている。

施設入所者アンケートでは、「まったくしない」の割合が29.7%と最も高く、次いで「15分～30分」の割合が20.3%、「1時間～2時間」の割合が17.2%となっている。

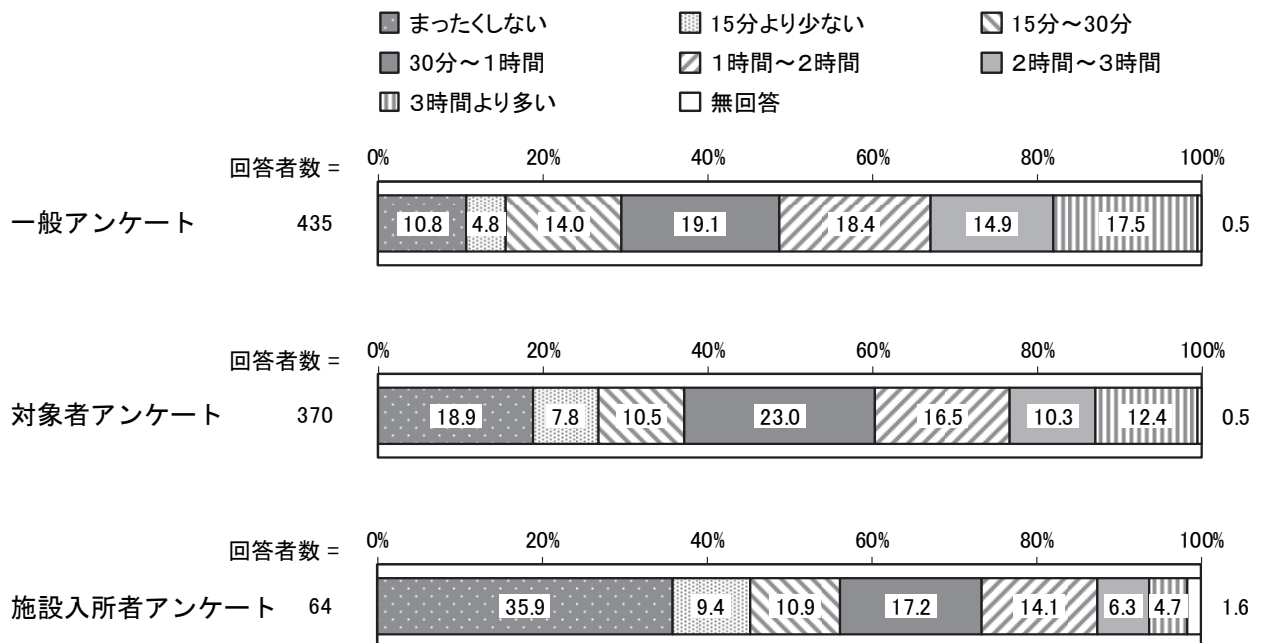


問 14 あなたは、普段学校の授業時間以外に、(土・日曜日・祝日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。(〇は1つだけ)

一般アンケートでは、「30分～1時間」の割合が19.1%と最も高く、次いで「1時間～2時間」の割合が18.4%、「3時間より多い」の割合が17.5%となっている。

対象者アンケートでは、「30分～1時間」の割合が23.0%と最も高く、次いで「まったくしない」の割合が18.9%、「1時間～2時間」の割合が16.5%となっている。

施設入所者アンケートでは、「まったくしない」の割合が35.9%と最も高く、次いで「30分～1時間」の割合が17.2%、「1時間～2時間」の割合が14.1%となっている。



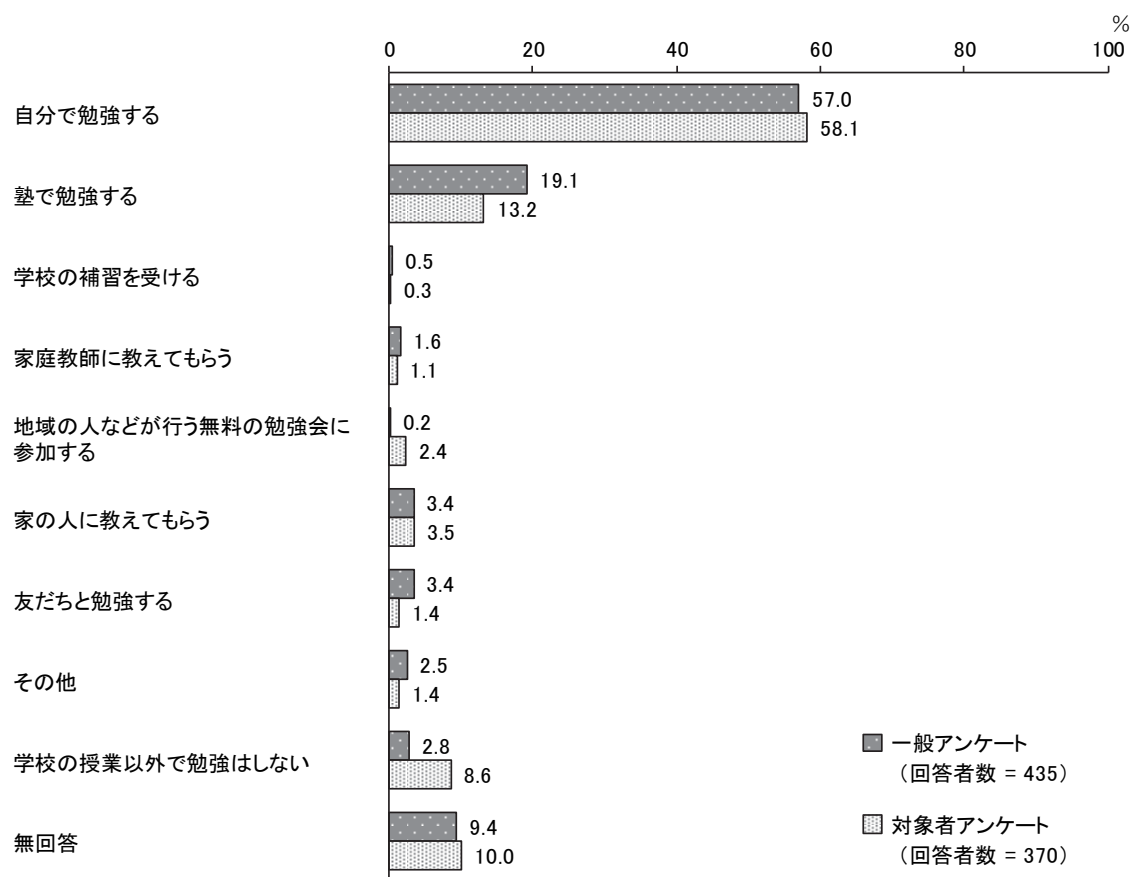


問 15 あなたは、普段学校の授業以外で、どのように勉強していますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。(〇は1つだけ)

一般アンケートでは、「自分で勉強する」の割合が 57.0%と最も高く、次いで「塾で勉強する」の割合が 19.1%となっている。

対象者アンケートでは、「自分で勉強する」の割合が 58.1%と最も高く、次いで「塾で勉強する」の割合が 13.2%となっている。

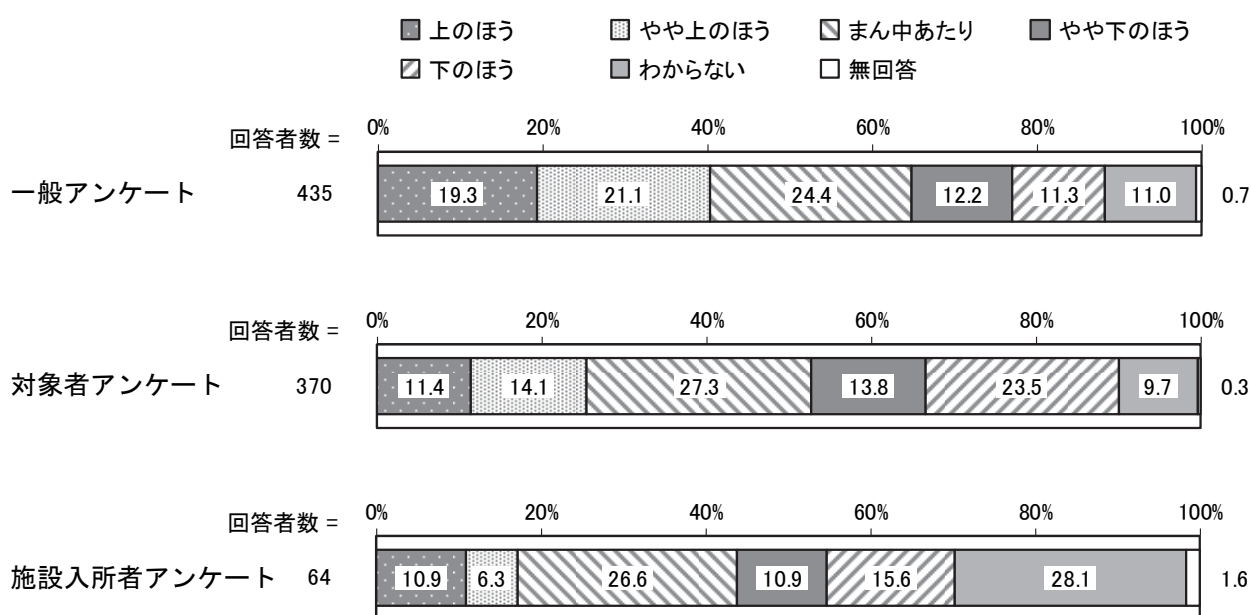


## 問 16 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が40.4%、「まん中あたり」の割合が24.4%、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が23.5%となっている。

対象者アンケートでは、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が25.5%、「まん中あたり」の割合が27.3%、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が37.3%となっている。

施設入所者アンケートでは、「上のほう」と「やや上のほう」をあわせた“上のほう”の割合が17.2%、「まん中あたり」の割合が26.6%、「やや下のほう」と「下のほう」をあわせた“下のほう”の割合が26.5%となっている。

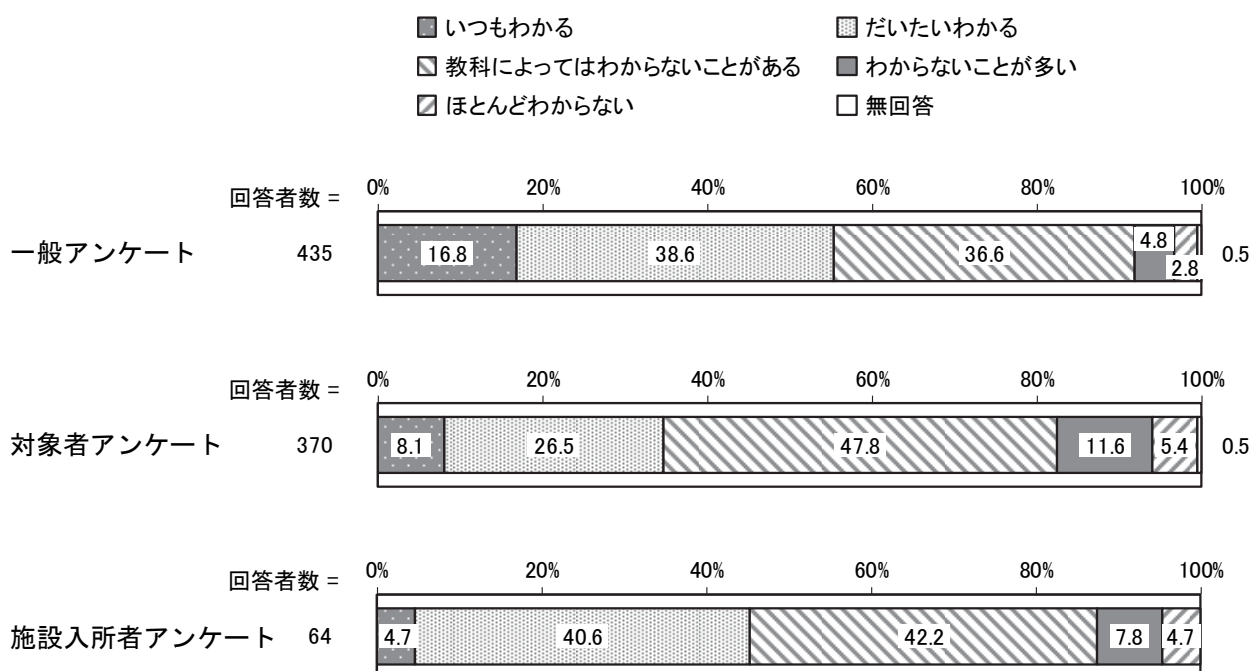


# 問 17 あなたは、学校の授業でわからないことがありますか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「だいたいわかる」の割合が 38.6%と最も高く、次いで「教科によってはわからないことがある」の割合が 36.6%、「いつもわかる」の割合が 16.8%となっている。

対象者アンケートでは、「教科によってはわからないことがある」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「だいたいわかる」の割合が 26.5%、「わからないことが多い」の割合が 11.6%となっている。

施設入所者アンケートでは、「教科によってはわからないことがある」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「だいたいわかる」の割合が 40.6%となっている。

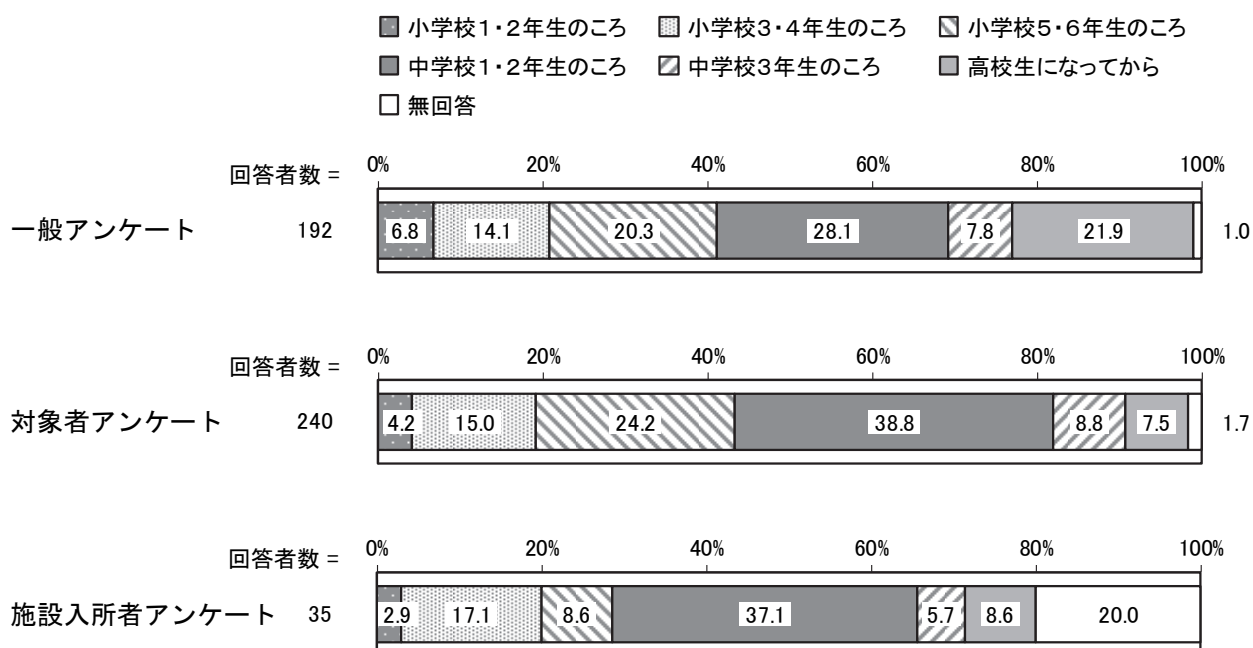


問 17-1 いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。  
(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「中学校1・2年生のころ」の割合が28.1%と最も高く、次いで「高校生になってから」の割合が21.9%、「小学校5・6年生のころ」の割合が20.3%となっている。

対象者アンケートでは、「中学校1・2年生のころ」の割合が38.8%と最も高く、次いで「小学校5・6年生のころ」の割合が24.2%、「小学校3・4年生のころ」の割合が15.0%となっている。

施設入所者アンケートでは、「中学校1・2年生のころ」の割合が37.1%と最も高く、次いで「小学校3・4年生のころ」の割合が17.1%となっている。

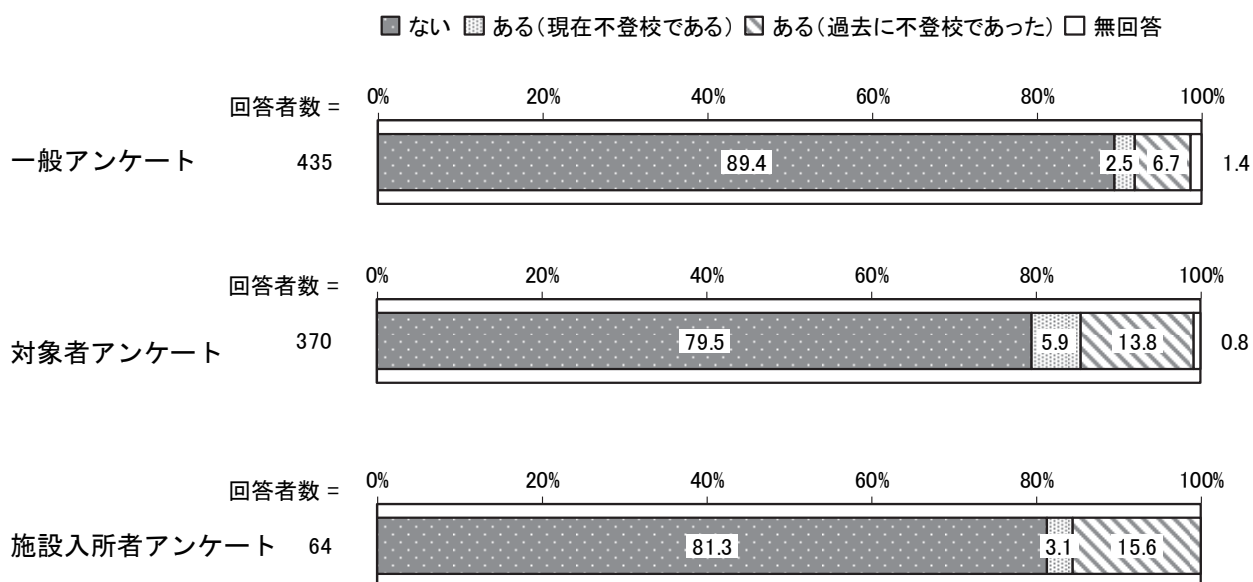


問 18 あなたは、これまでに、不登校になったことはありますか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「ない」の割合が 89.4%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「ない」の割合が 79.5%と最も高く、次いで「ある（過去に不登校であった）」の割合が 13.8%となっている。

施設入所者アンケートでは、「ない」の割合が 81.3%と最も高く、次いで「ある（過去に不登校であった）」の割合が 15.6%となっている。

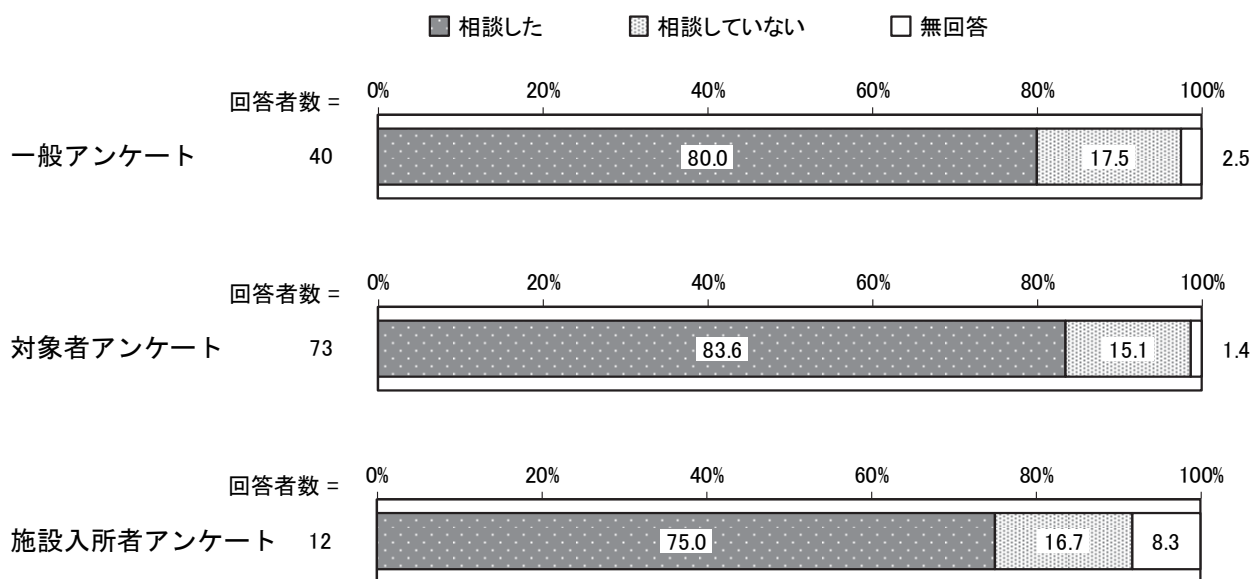


# 問 18－ 1 誰かに相談しましたか。(○は 1 つだけ)

一般アンケートでは、「相談した」の割合が 80.0%、「相談していない」の割合が 17.5%となっている。

対象者アンケートでは、「相談した」の割合が 83.6%、「相談していない」の割合が 15.1%となっている。

施設入所者アンケートでは、「相談した」の割合が 75.0%、「相談していない」の割合が 16.7%となっている。

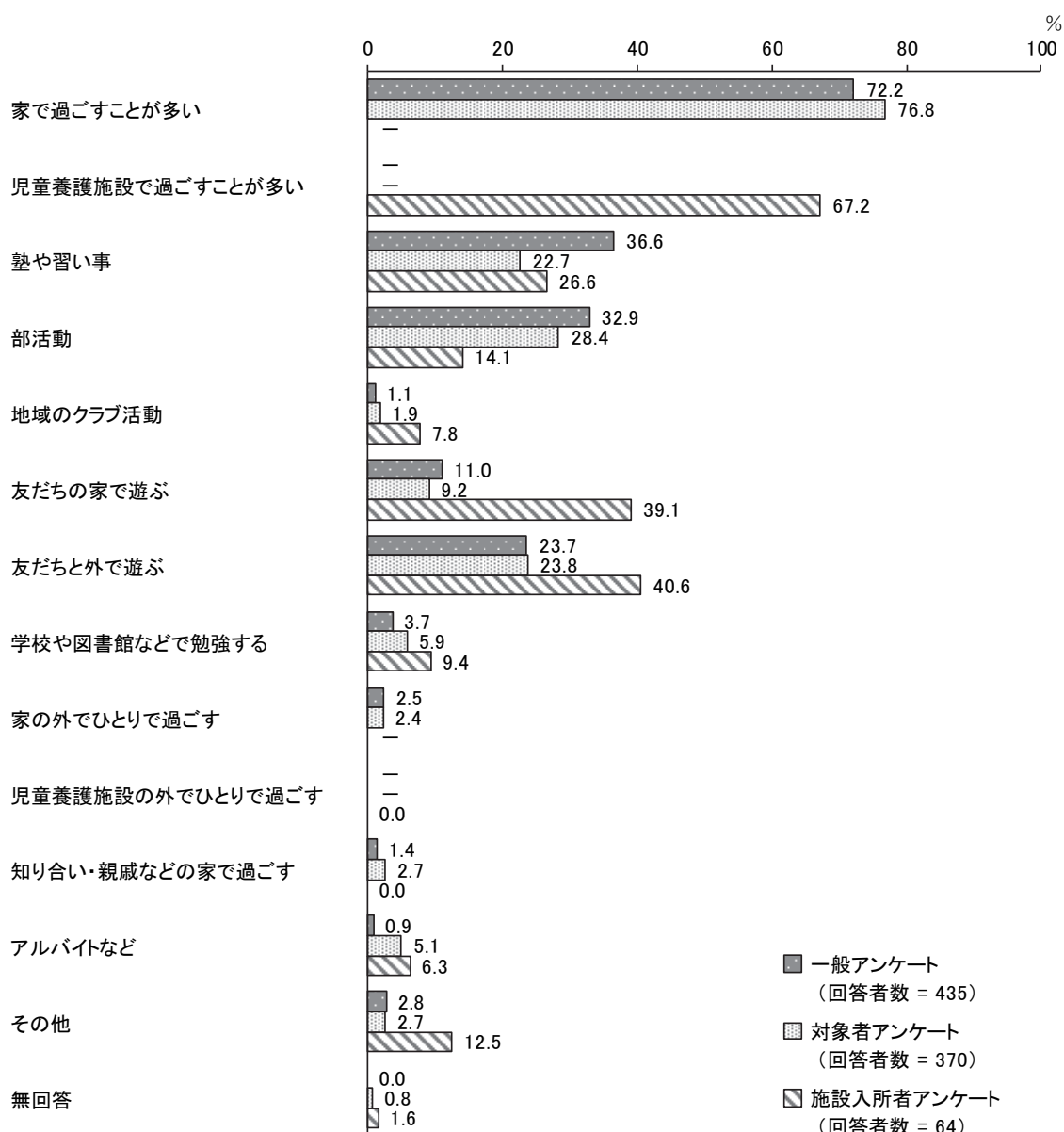


**問 19 あなたは、学校が終わったあとの時間を、どのように過ごすことが多いですか。  
(あてはまるものすべてに○)**

一般アンケートでは、「家で過ごすことが多い」の割合が72.2%と最も高く、次いで「塾や習い事」の割合が36.6%、「部活動」の割合が32.9%となっている。

対象者アンケートでは、「家で過ごすことが多い」の割合が76.8%と最も高く、次いで「部活動」の割合が28.4%、「友だちと外で遊ぶ」の割合が23.8%となっている。

施設入所者アンケートでは、「児童養護施設で過ごすことが多い」の割合が67.2%と最も高く、次いで「友だちと外で遊ぶ」の割合が40.6%、「友だちの家で遊ぶ」の割合が39.1%となっている。



※「家で過ごすことが多い」「家の外でひとりで過ごす」は、一般アンケート、対象者アンケートのみ。

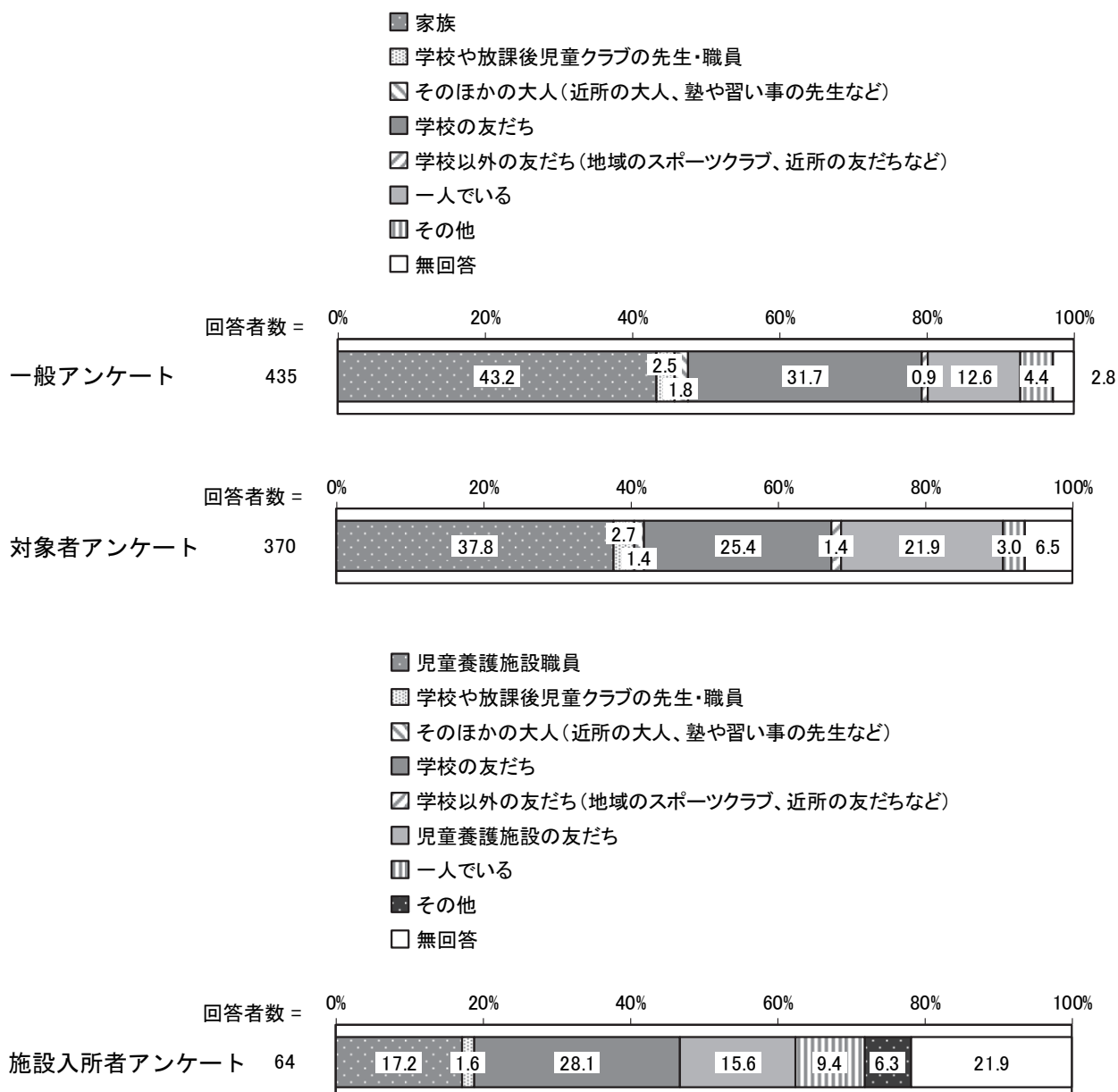
「児童養護施設で過ごすことが多い」「児童養護施設の外でひとりで過ごす」は、施設入所者アンケートのみ。

問 20 平日（月～金曜日）の放課後（夕方6時くらいまで）はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「家族」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 31.7%、「一人でのいる」の割合が 12.6%となっている。

対象者アンケートでは、「家族」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「学校の友だち」の割合が 25.4%、「一人でのいる」の割合が 21.9%となっている。

施設入所者アンケートでは、「学校の友だち」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「児童養護施設職員」の割合が 17.2%、「児童養護施設の友だち」の割合が 15.6%となっている。



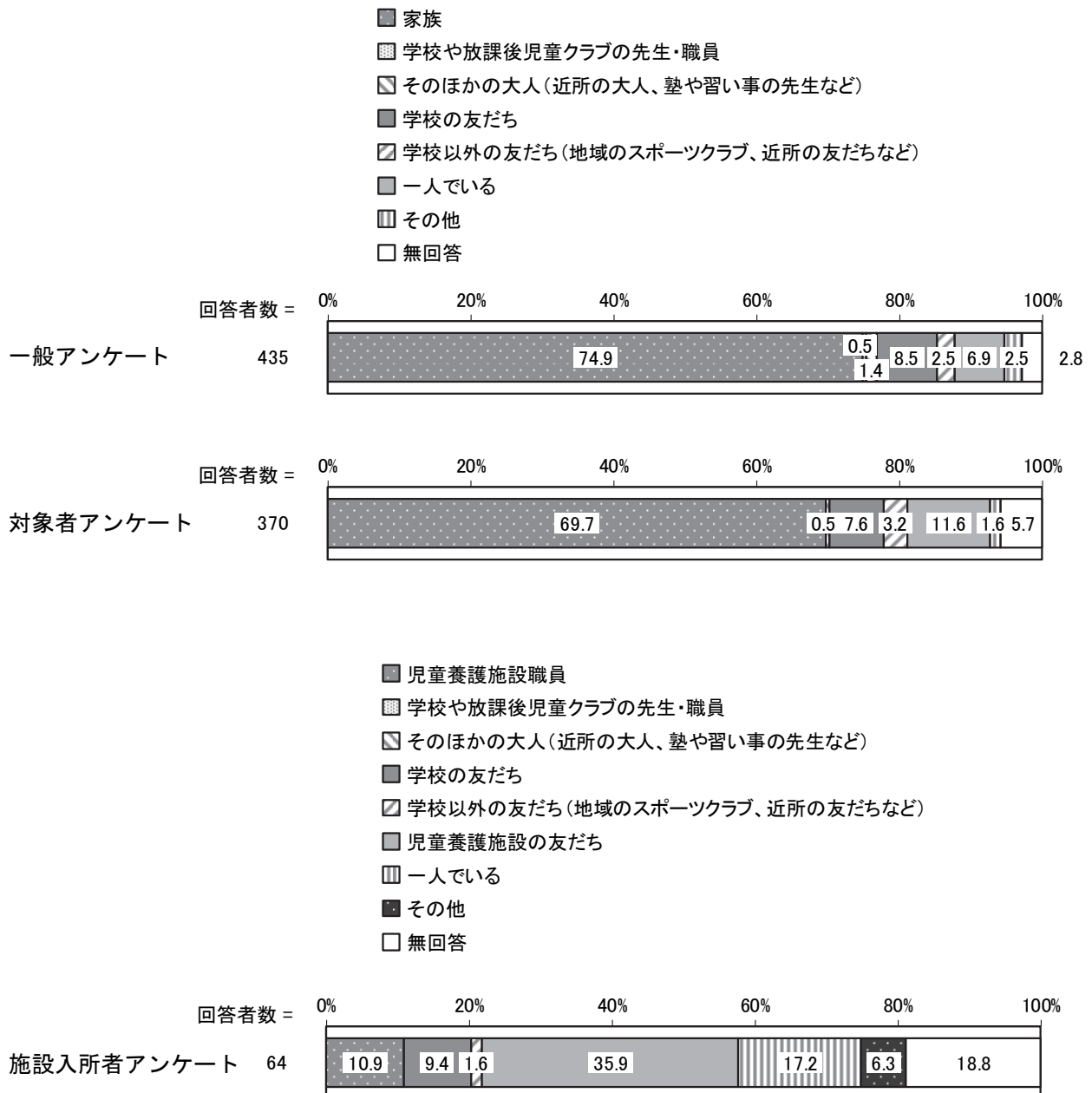


問 21 休日（土・日曜日・祝日）の午後は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「家族」の割合が 74.9%と最も高くなっている。

対象者アンケートでは、「家族」の割合が 69.7%と最も高く、次いで「一人での割合が 11.6%となっている。

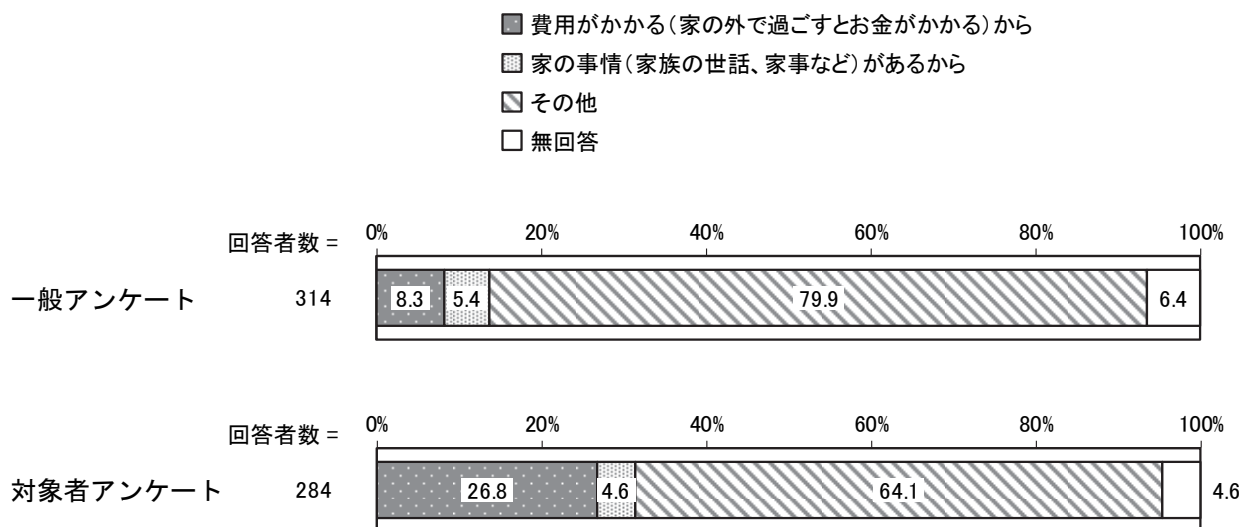
施設入所者アンケートでは、「児童養護施設の友だち」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「一人での割合が 17.2%、「児童養護施設職員」の割合が 10.9%となっている。



## 問 22 家で過ごすことが多い理由は何ですか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「費用がかかる（家の外で過ごすとお金がかかる）から」の割合が8.3%、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」の割合が5.4%となっている。

対象者アンケートでは、「費用がかかる（家の外で過ごすとお金がかかる）から」の割合が26.8%、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」の割合が4.6%となっている。

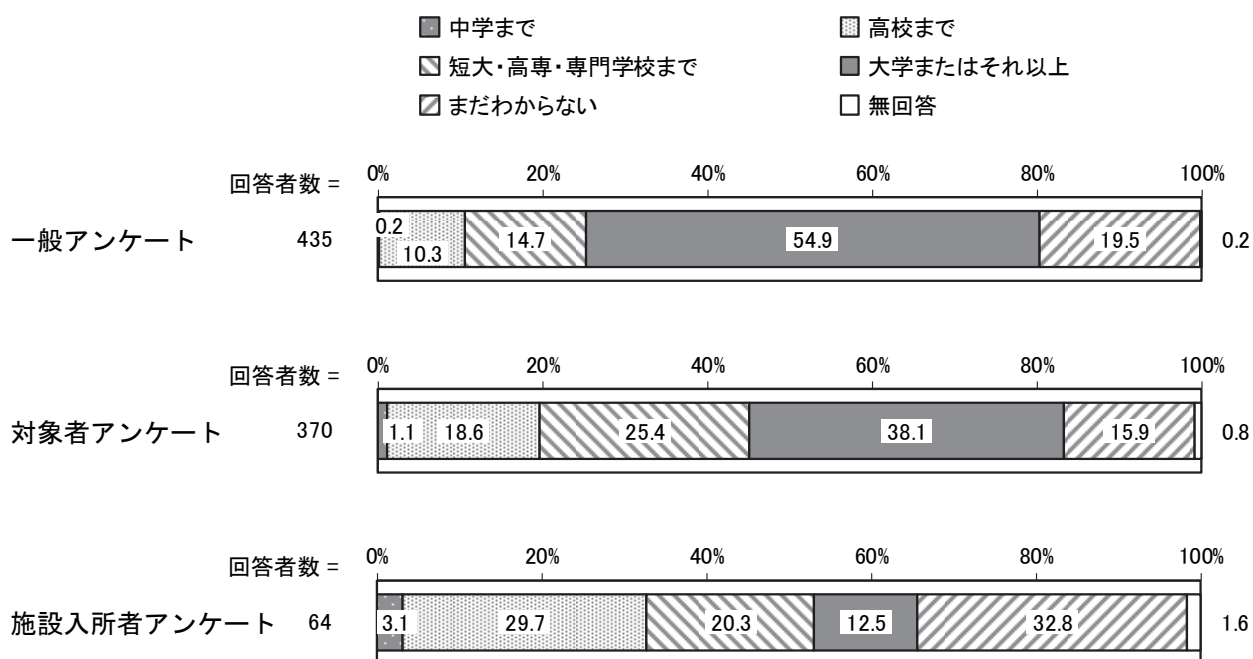


問 23 あなたは、希望としては、将来どの学校まで進学したいと思いますか。  
(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「大学またはそれ以上」の割合が 54.9%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が 19.5%、「短大・高専・専門学校まで」の割合が 14.7%となっている。

対象者アンケートでは、「大学またはそれ以上」の割合が 38.1%と最も高く、次いで「短大・高専・専門学校まで」の割合が 25.4%、「高校まで」の割合が 18.6%となっている。

施設入所者アンケートでは、「まだわからない」の割合が 32.8%と最も高く、次いで「高校まで」の割合が 29.7%、「短大・高専・専門学校まで」の割合が 20.3%となっている。

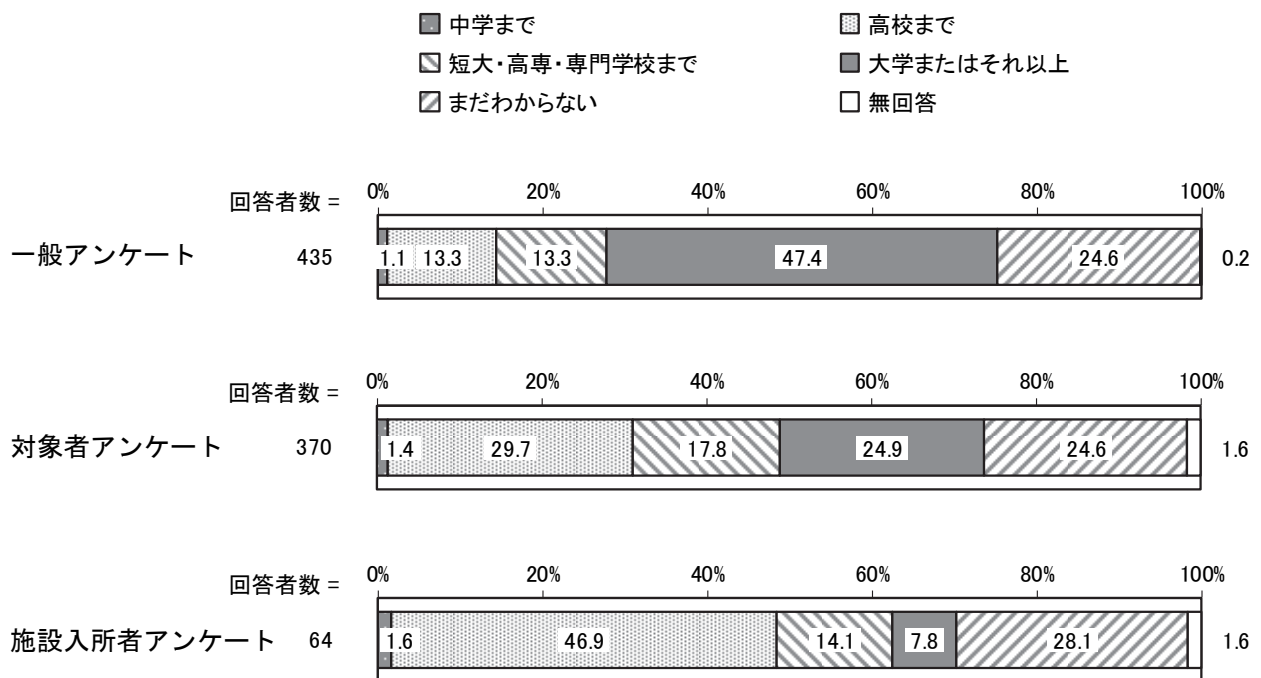


**問 24 あなたは、現実としては、将来どの学校まで進学することになると思いますか。**  
(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「大学またはそれ以上」の割合が 47.4%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が24.6%、「高校まで」、「短大・高専・専門学校まで」の割合が13.3%となっている。

対象者アンケートでは、「高校まで」の割合が 29.7%と最も高く、次いで「大学またはそれ以上」の割合が 24.9%、「まだわからない」の割合が 24.6%となっている。

施設入所者アンケートでは、「高校まで」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「まだわからない」の割合が 28.1%、「短大・高専・専門学校まで」の割合が 14.1%となっている。

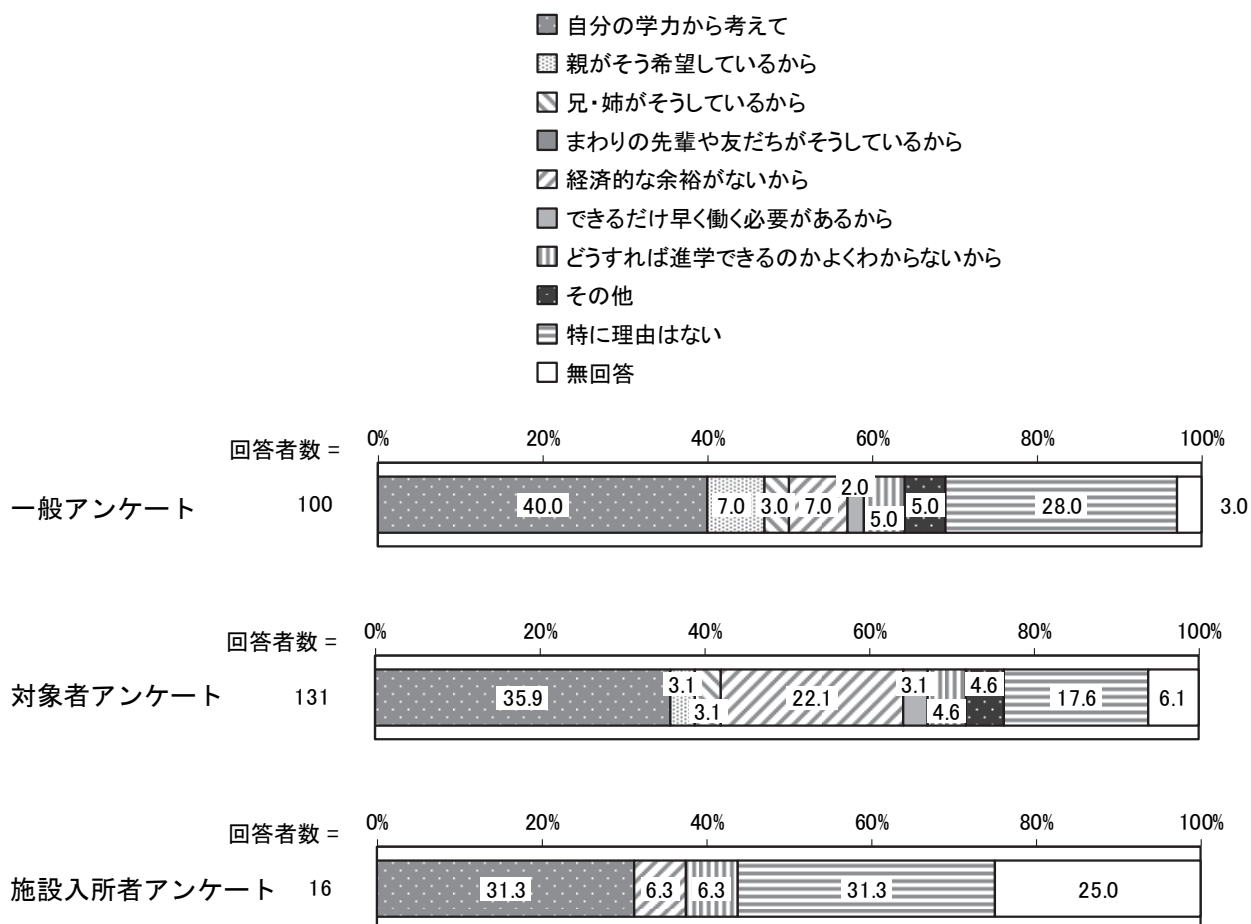


## 問 25 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「自分の学力から考えて」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「特に理由はない」の割合が 28.0%となっている。

対象者アンケートでは、「自分の学力から考えて」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「経済的な余裕がないから」の割合が 22.1%、「特に理由はない」の割合が 17.6%となっている。

施設入所者アンケートでは、「自分の学力から考えて」、「特に理由はない」の割合が 31.3%と最も高くなっている。



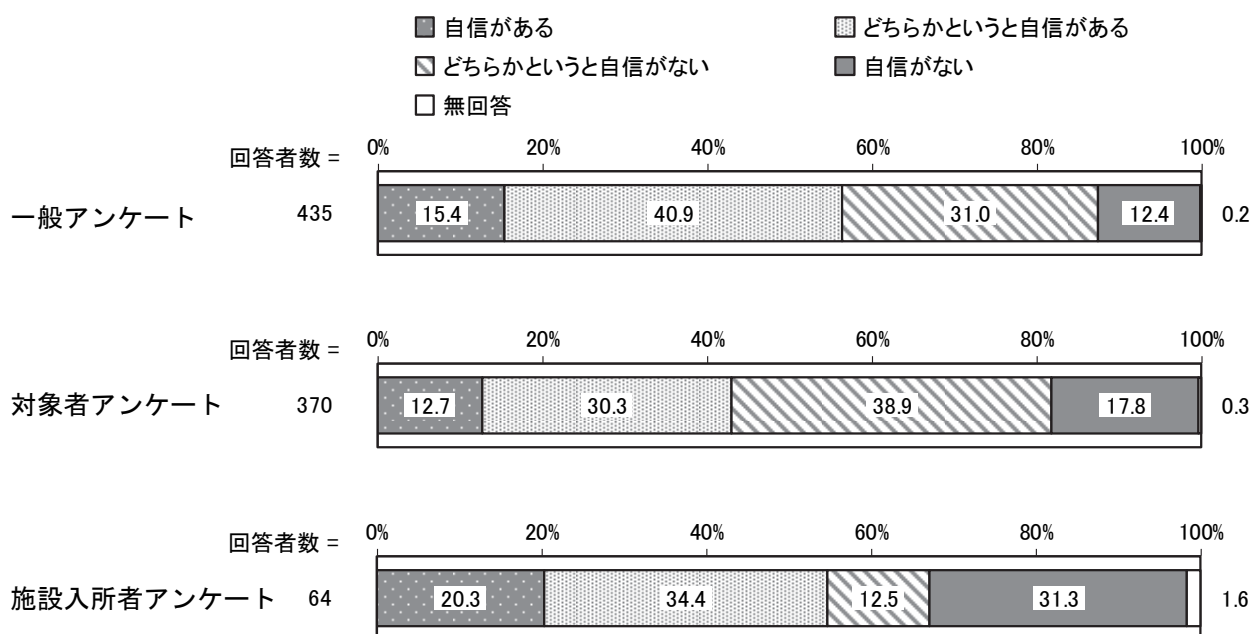
問 26 あなたが普段考えていることについて、次の（ア）～（カ）について教えてください。（それぞれ○は1つだけ）

（ア）自分に自信がある（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「自信がある」と「どちらかという自信がある」をあわせた“自信がある”の割合が 56.3%、「どちらかという自信がない」と「自信がない」をあわせた“自信がない”の割合が 43.4%となっている。

対象者アンケートでは、「自信がある」と「どちらかという自信がある」をあわせた“自信がある”の割合が 43.0%、「どちらかという自信がない」と「自信がない」をあわせた“自信がない”の割合が 56.7%となっている。

施設入所者アンケートでは、「自信がある」と「どちらかという自信がある」をあわせた“自信がある”の割合が 54.7%、「どちらかという自信がない」と「自信がない」をあわせた“自信がない”の割合が 43.8%となっている。

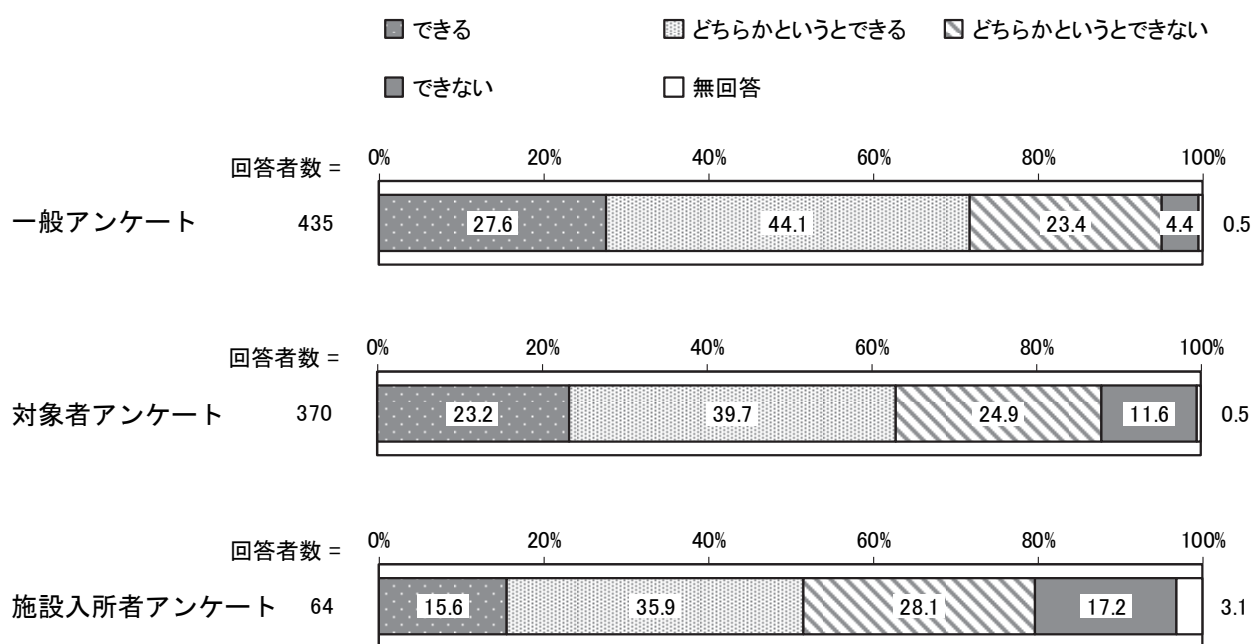


(イ) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「できる」と「どちらかというとき」をあわせた“できる”の割合が 71.7%、「どちらかというときできない」と「できない」をあわせた“できない”の割合が 27.8%となっている。

対象者アンケートでは、「できる」と「どちらかというとき」をあわせた“できる”の割合が 62.9%、「どちらかというときできない」と「できない」をあわせた“できない”の割合が 36.5%となっている。

施設入所者アンケートでは、「できる」と「どちらかというとき」をあわせた“できる”の割合が 51.5%、「どちらかというときできない」と「できない」をあわせた“できない”の割合が 45.3%となっている。

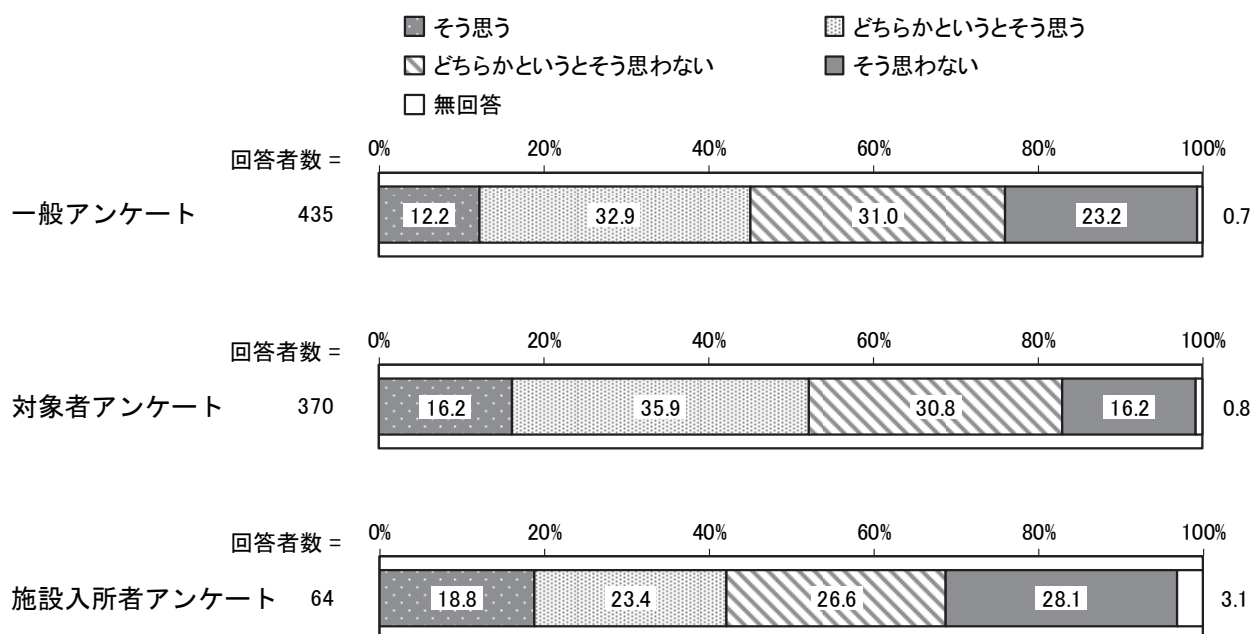


(ウ) 人は信用できないと思う (○は1つだけ)

対象者アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 45.1%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 54.2%となっている。

対象者アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 52.1%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 47.0%となっている。

施設入所者アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 42.2%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 54.7%となっている。



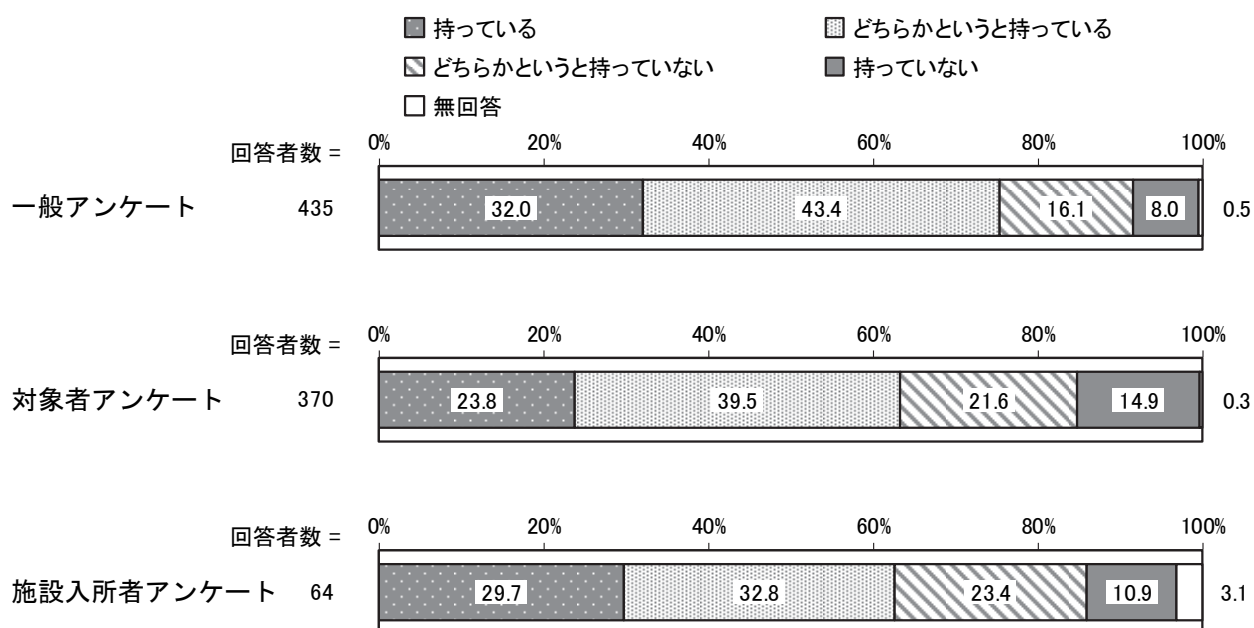


(エ) 自分の将来について明るい希望を持っている（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「持っている」と「どちらかというを持っている」をあわせた“持っている”の割合が 75.4%、「どちらかというと持っていない」と「持っていない」をあわせた“持っていない”の割合が 24.1%となっている。

対象者アンケートでは、「持っている」と「どちらかというを持っている」をあわせた“持っている”の割合が 63.3%、「どちらかというと持っていない」と「持っていない」をあわせた“持っていない”の割合が 36.5%となっている。

施設入所者アンケートでは、「持っている」と「どちらかというを持っている」をあわせた“持っている”の割合が 62.5%、「どちらかというと持っていない」と「持っていない」をあわせた“持っていない”の割合が 34.3%となっている。

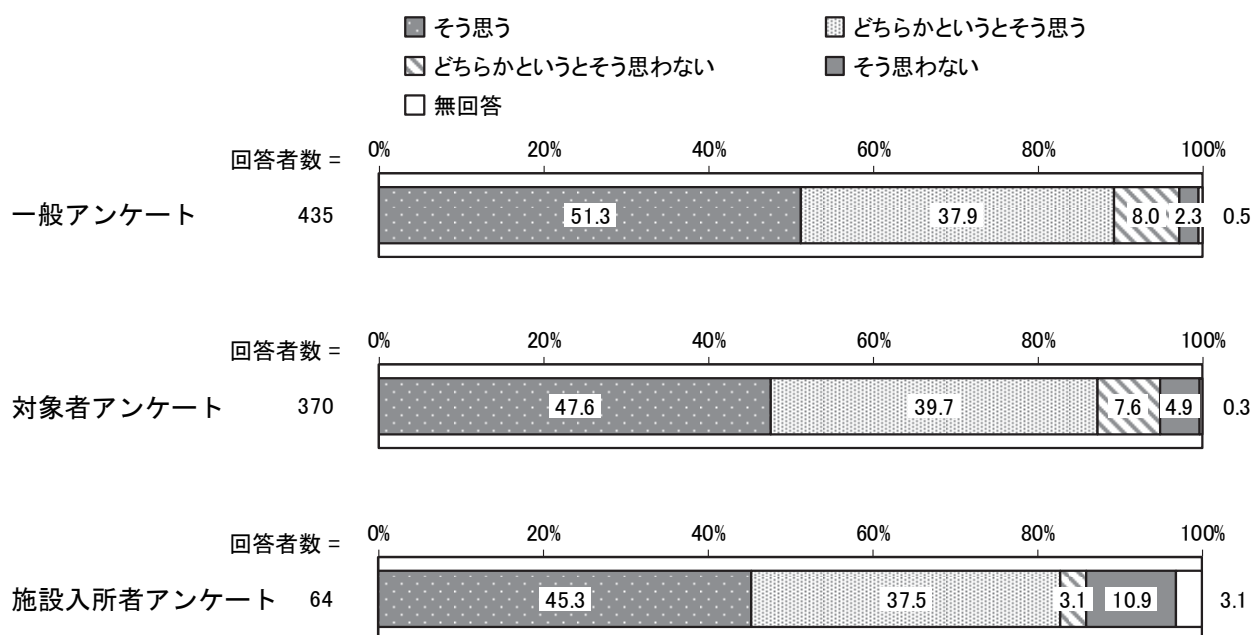


(オ) 将来のためにも、今がんばりたいと思う（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 89.2%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 10.3%となっている。

対象者アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 87.3%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 12.5%となっている。

施設入所者アンケートでは、「そう思う」と「どちらかというと思う」をあわせた“そう思う”の割合が 82.8%、「どちらかというと思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 14.0%となっている。

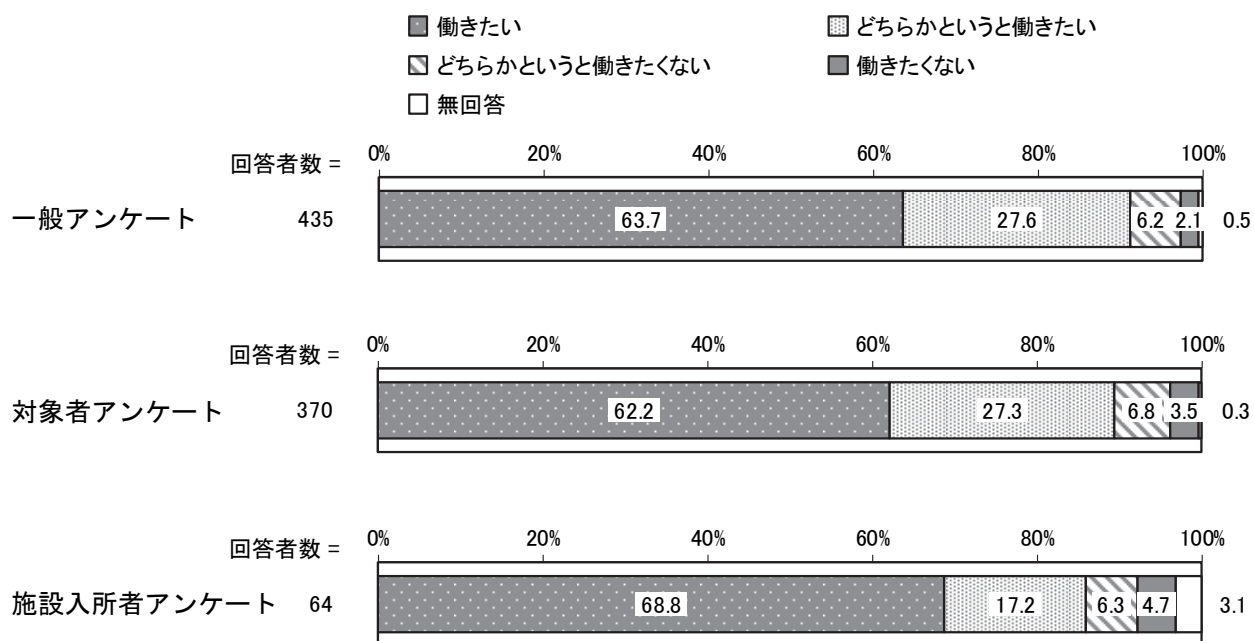


(カ) 将来、一生懸命働きたい（○は1つだけ）

一般アンケートでは、「働きたい」と「どちらかという働きたい」をあわせた“働きたい”の割合が 91.3%、「どちらかという働きたくない」と「働きたくない」をあわせた“働きたくない”の割合が 8.3%となっている。

対象者アンケートでは、「働きたい」と「どちらかという働きたい」をあわせた“働きたい”の割合が 89.5%、「どちらかという働きたくない」と「働きたくない」をあわせた“働きたくない”の割合が 10.3%となっている。

施設入所者アンケートでは、「働きたい」と「どちらかという働きたい」をあわせた“働きたい”の割合が 86.0%、「どちらかという働きたくない」と「働きたくない」をあわせた“働きたくない”の割合が 11.0%となっている。



**問 27 新型コロナウイルス感染症の影響で、感染拡大前と比べて次のようなことは増えましたか、減りましたか。(それぞれ○は1つだけ)**

一般アンケートでは、『(サ) 夜遅くまで起きている回数』『(ス) ゲームをする時間』『(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること』で「増えた」の割合が高くなっている。また、『(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』『(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと』で「減った」の割合が高くなっている。

対象者アンケートでは、『(サ) 夜遅くまで起きている回数』『(ス) ゲームをする時間』で「増えた」の割合が、『(カ) 親と話すこと』『(キ) 親にほめられること』で「変わらない」の割合が高くなっている。また、『(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数』『(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと』で「減った」の割合が高くなっている。

施設入所者アンケートでは、『(ケ) 児童養護施設職員以外の大人や友だちと話をすること』『(サ) 夜遅くまで起きている回数』『(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること』で「増えた」の割合が、『(ア) 学校の授業以外で勉強する時間』『(キ) 児童養護施設職員にほめられること』で「変わらない」の割合が高くなっている。また、『(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと』で「減った」の割合が高くなっている。

## 一般アンケート

回答者数 = 435

(ア) 学校の授業以外で勉強する時間

(イ) 学校の授業がわからないと感じること

(ウ) 学校に遅刻すること

(エ) 学校に行きたくないと思うこと

(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

(カ) 親と話すこと

(キ) 親にほめられること

(ク) 親にしかられること

(ケ) 親以外の大人や友だちと話すこと

(コ) 食事を抜く回数

(サ) 夜遅くまで起きている回数

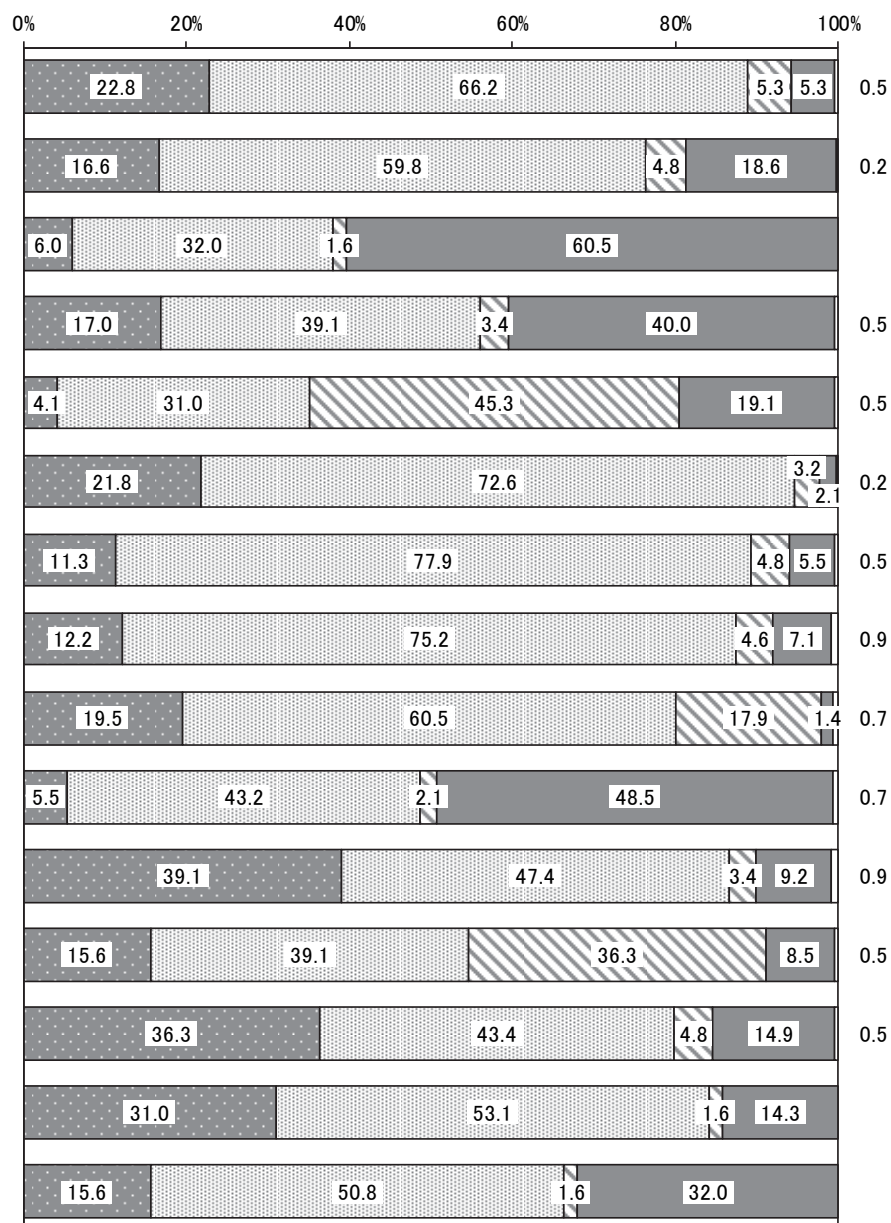
(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと

(ス) ゲームをする時間

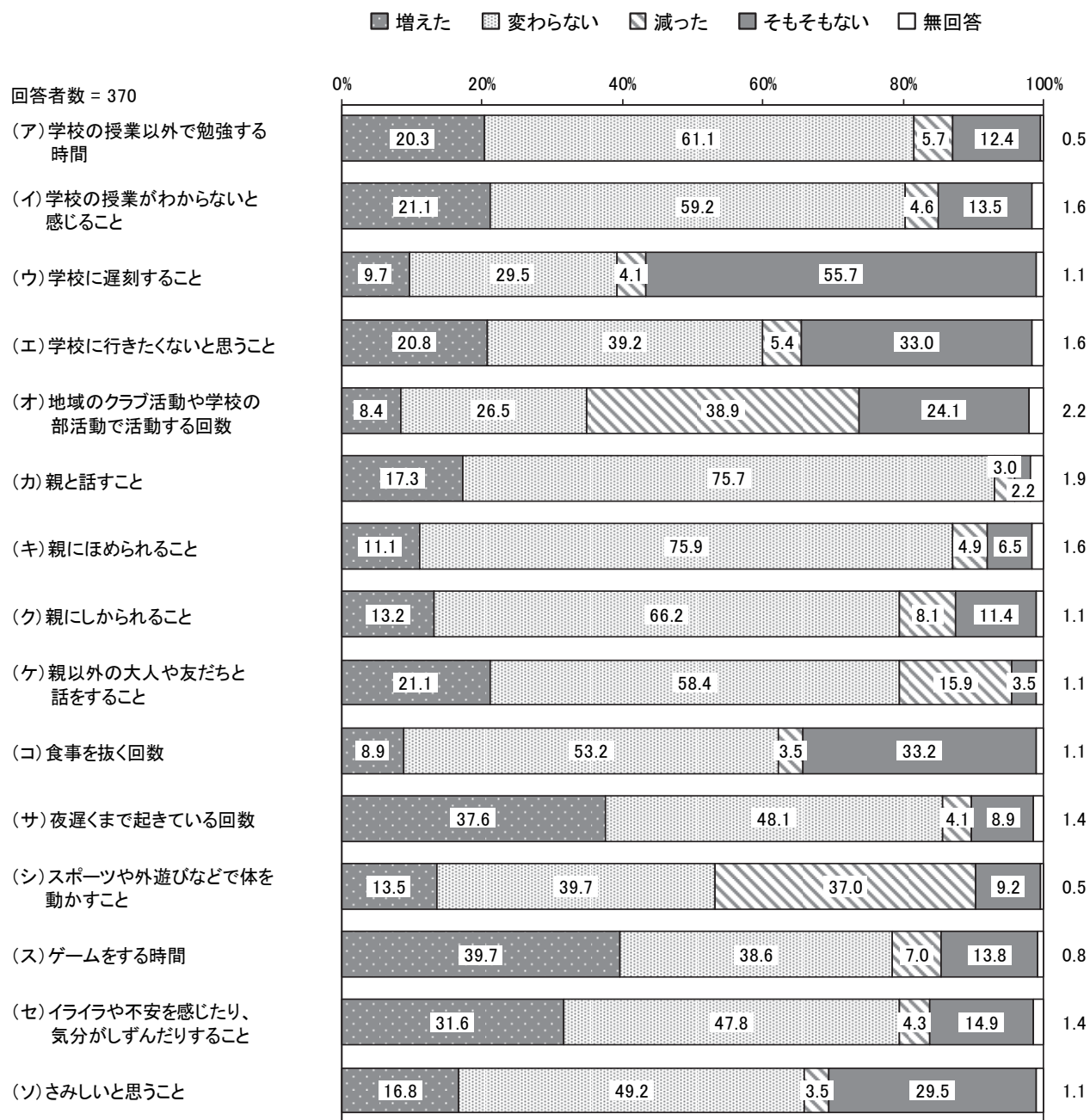
(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること

(ソ) さみしいと思うこと

■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った ■ そもそもない □ 無回答



## 対象者アンケート



## 施設入所者アンケート

回答者数 = 64

(ア) 学校の授業以外で勉強する時間

(イ) 学校の授業がわからないと感じること

(ウ) 学校に遅刻すること

(エ) 学校に行きたくないと思うこと

(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数

(カ) 児童養護施設職員と話すこと

(キ) 児童養護施設職員にほめられること

(ク) 児童養護施設職員にしかられること

(ケ) 児童養護施設職員以外の大人や友達と話をすること

(コ) 食事を抜く回数

(サ) 夜遅くまで起きている回数

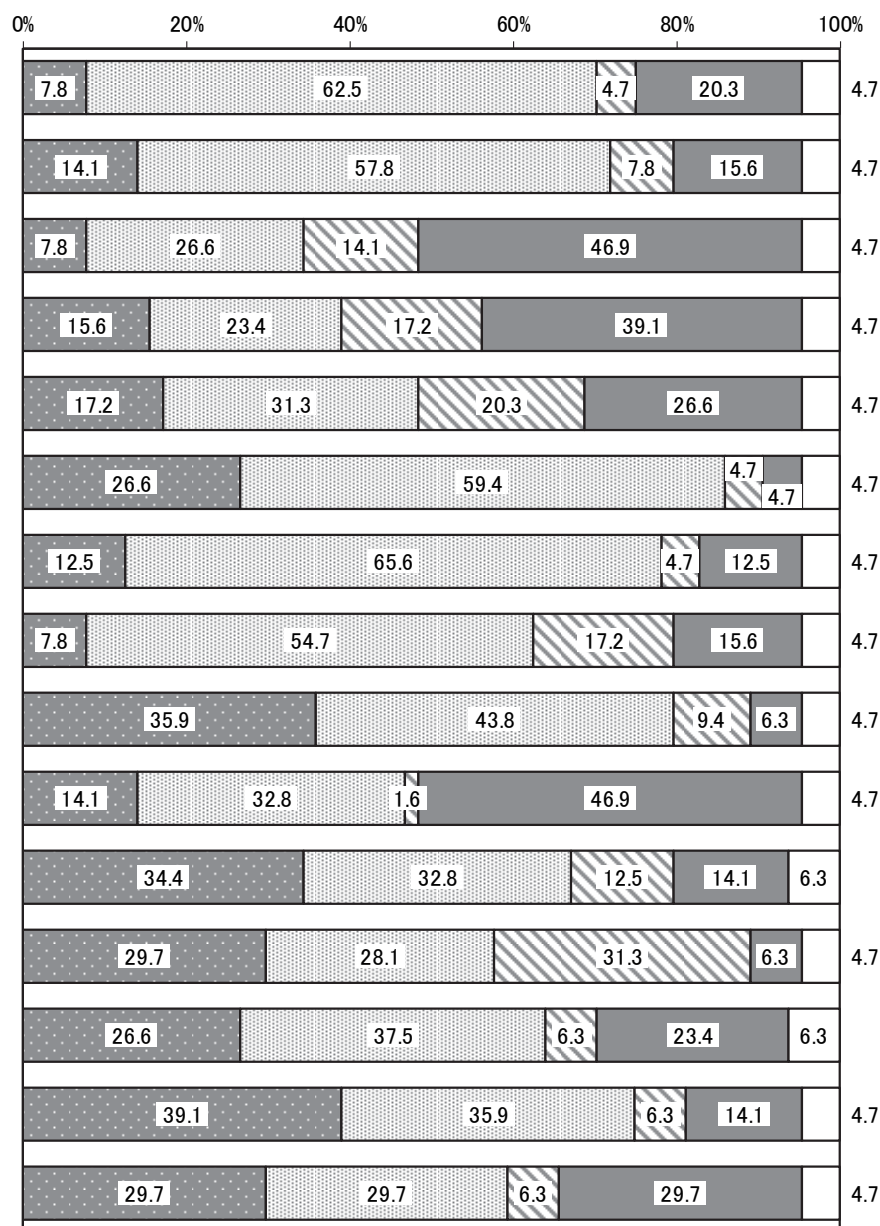
(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと

(ス) ゲームをする時間

(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること

(ソ) さみしいと思うこと

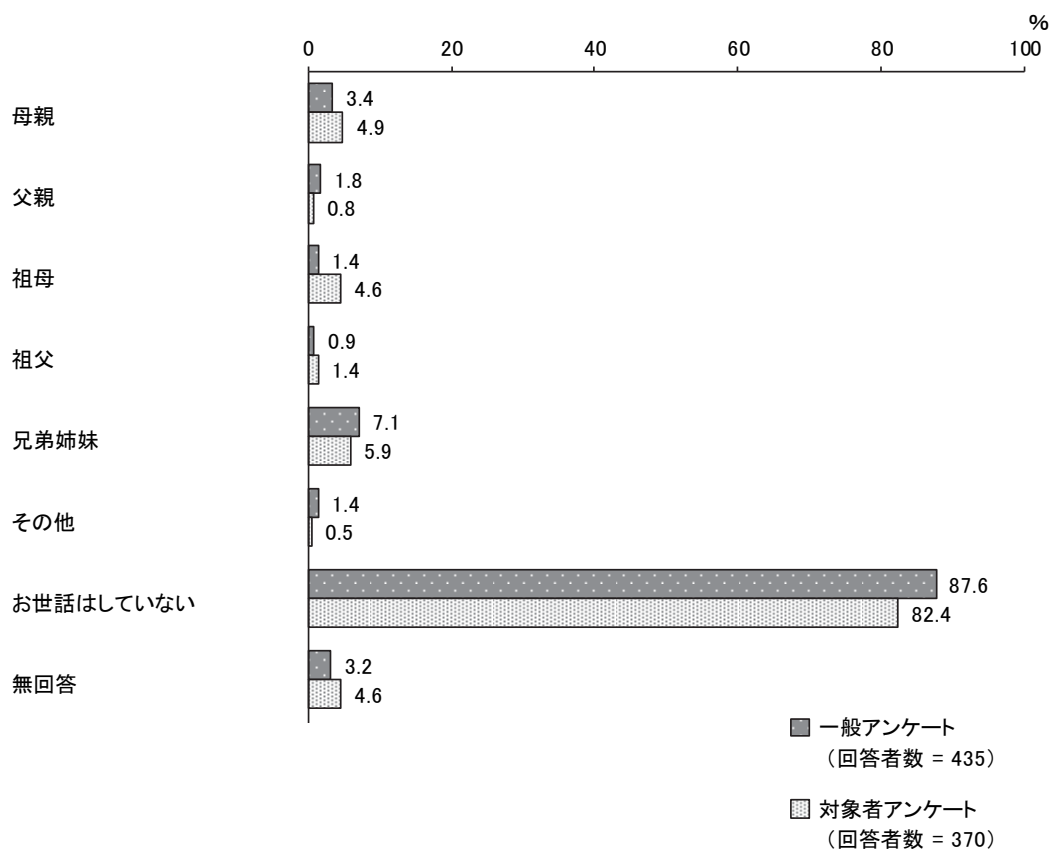
■ 増えた ■ 変わらない ■ 減った ■ そもそもない □ 無回答



**問 28 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。（ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。）**  
**（あてはまる人すべてに○）**

一般アンケートでは、家族の誰かのお世話をしている割合が 9.2%となっている。お世話をしている人は、「兄弟姉妹」の割合が 7.1%と最も高く、次いで「母親」の割合が 3.4%、「父親」の割合が 1.8%となっている。

対象者アンケートでは、家族の誰かのお世話をしている割合が 13.0%となっている。お世話をしている人は、「兄弟姉妹」の割合が 5.9%と最も高く、次いで「母親」の割合が 4.9%、「祖母」の割合が 4.6%となっている。





問 29 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

お世話を必要としている人の状況について、「母親」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『精神疾患（疑い含む）』の割合が高くなっている。「父親」では、一般アンケートで『身体障がい』、対象者アンケートで『依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）』の割合が高くなっている。「祖母」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『高齢（65 歳以上）』の割合が高くなっている。「祖父」では、対象者アンケートで『高齢（65 歳以上）』の割合が高くなっている。「兄弟姉妹」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『若い』の割合が高くなっている。

単位：％

区分		回答者数(件)	高齢(65 歳以上)	若い	要介護(介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患(疑い含む)	依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	精神疾患、依存症以外の病気	その他	無回答
母親	一般	15	6.7		6.7	6.7	6.7	6.7	13.3	-	13.3	13.3	60.0
	対象者	18	-		-	-	11.1	-	22.2	5.6	11.1	-	61.1
父親	一般	8	-		12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	37.5	37.5
	対象者	3	-		-	-	33.3	-	33.3	66.7	33.3	-	-
祖母	一般	6	50.0		33.3	16.7	16.7	16.7	-	16.7	16.7	-	16.7
	対象者	17	76.5		11.8	23.5	11.8	-	-	11.8	29.4	-	11.8
祖父	一般	4	25.0		25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	50.0
	対象者	5	100.0		20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-
兄弟姉妹	一般	31		67.7	-	3.2	-	3.2	3.2	-	-	3.2	22.6
	対象者	22		68.2	9.1	-	4.5	27.3	-	-	4.5	-	4.5
その他	一般	6	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	66.7
	対象者	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

問 30 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

お世話を必要としている人の状況について、「母親」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『家事（食事の準備や掃除、洗濯）』の割合が高くなっている。「父親」では、一般アンケートで『家事（食事の準備や掃除、洗濯）』、対象者アンケートで『家事（食事の準備や掃除、洗濯）』、『外出の付き添い（買い物、散歩など）』の割合が高くなっている。「祖母」では、一般アンケート・対象者アンケートともに『家事（食事の準備や掃除、洗濯）』の割合が高くなっている。「祖父」では、対象者アンケートで『感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）』、『見守り』の割合が高くなっている。「兄弟姉妹」では、一般アンケートで『兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など』、対象者アンケートで『見守り』の割合が高くなっている。

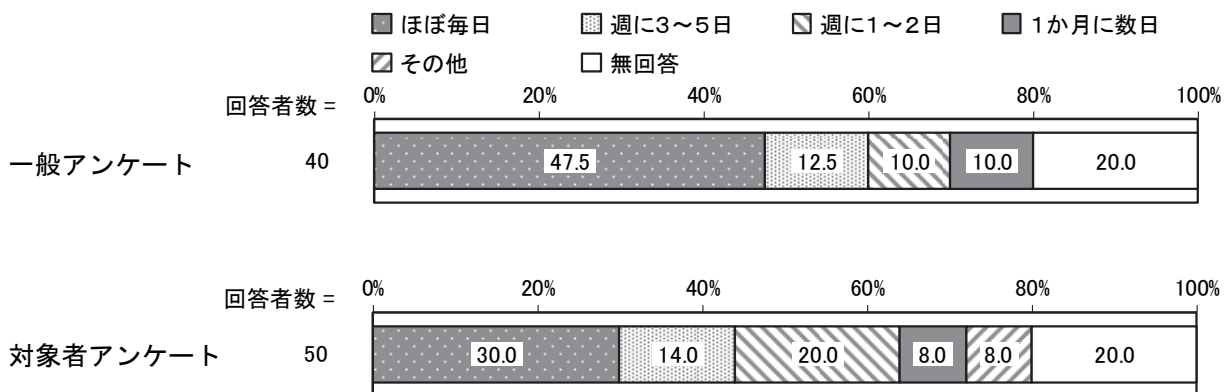
単位：％

区分		回答者数(件)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	金銭管理	薬の管理	その他	無回答
母親	一般	15	60.0		13.3	26.7	6.7	33.3	13.3	6.7	20.0	13.3	6.7	33.3
	対象者	18	38.9		-	27.8	11.1	27.8	16.7	-	5.6	5.6	-	38.9
父親	一般	8	50.0		-	25.0	12.5	12.5	12.5	-	12.5	-	12.5	37.5
	対象者	3	33.3		-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3
祖母	一般	6	33.3		-	-	-	-	16.7	-	-	-	-	66.7
	対象者	17	41.2		11.8	29.4	11.8	23.5	35.3	-	5.9	17.6	-	23.5
祖父	一般	4	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	対象者	5	20.0		20.0	-	-	40.0	40.0	-	-	-	-	40.0
兄弟姉妹	一般	31	29.0	38.7	6.5	12.9	-	16.1	29.0	3.2	-	-	6.5	22.6
	対象者	22	22.7	22.7	9.1	18.2	4.5	13.6	54.5	9.1	4.5	4.5	9.1	13.6
その他	一般	6	50.0	33.3	-	-	16.7	-	16.7	16.7	-	-	-	-
	対象者	2	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0

### 問 31 お世話をしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「ほぼ毎日」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「週に3～5日」の割合が 12.5%、「週に1～2日」、「1か月に数日」の割合が 10.0%となっている。

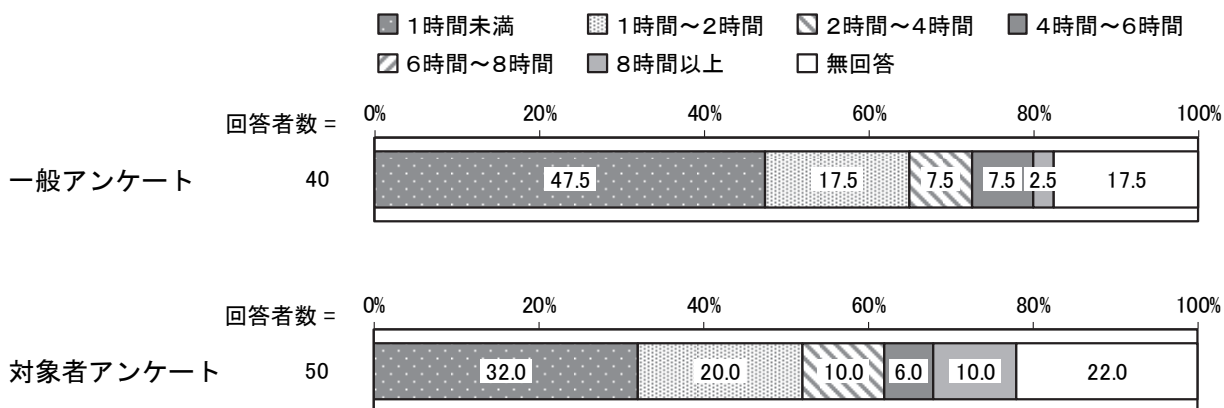
対象者アンケートでは、「ほぼ毎日」の割合が 30.0%と最も高く、次いで「週に1～2日」の割合が 20.0%、「週に3～5日」の割合が 14.0%となっている。



### 問 32 平日にお世話をしている時間は1日何時間くらいですか。(○は1つだけ)

一般アンケートでは、「1時間未満」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「1時間～2時間」の割合が 17.5%となっている。

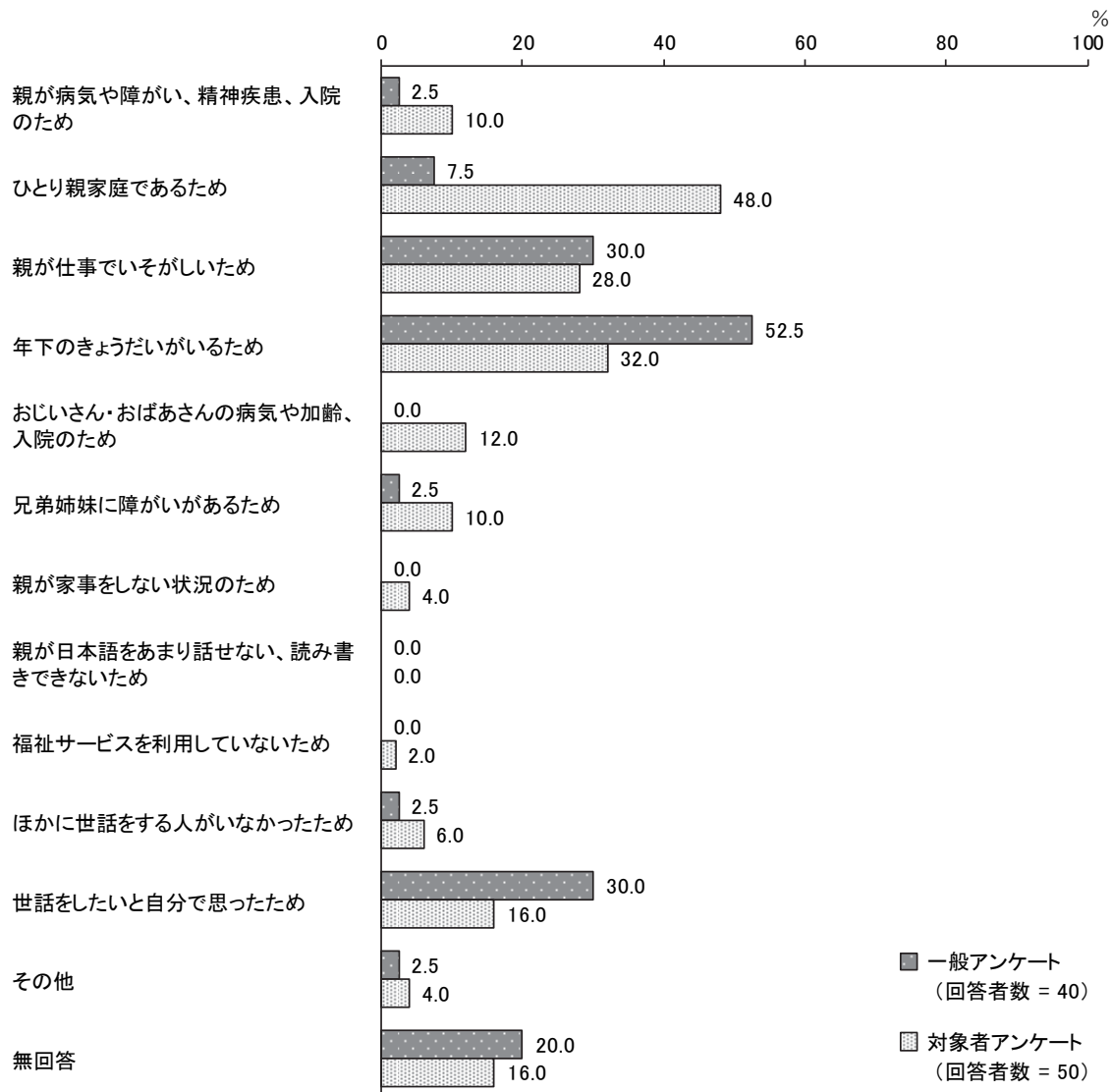
対象者アンケートでは、「1時間未満」の割合が 32.0%と最も高く、次いで「1時間～2時間」の割合が 20.0%、「2時間～4時間」、「8時間以上」の割合が 10.0%となっている。



### 問 33 あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「年下のきょうだいがいるため」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「親が仕事でいそがしいため」、「世話をしたいと自分で思ったため」の割合が 30.0%となっている。

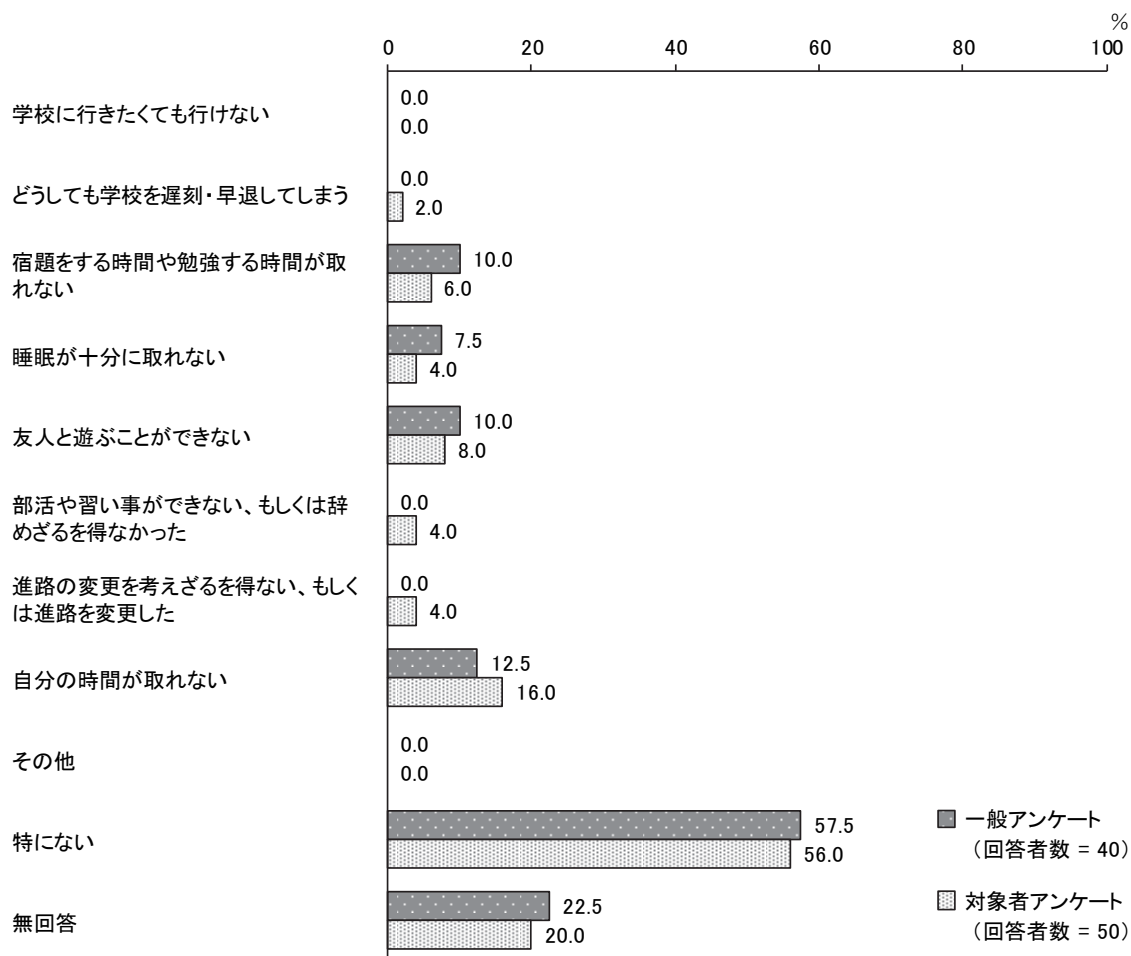
対象者アンケートでは、「ひとり親家庭であるため」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「年下のきょうだいがいるため」の割合が 32.0%、「親が仕事でいそがしいため」の割合が 28.0%となっている。



**問 34 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)**

一般アンケートでは、「特にない」の割合が 57.5%と最も高く、次いで「自分の時間が取れない」の割合が 12.5%、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「友人と遊ぶことができない」の割合が 10.0%となっている。

対象者アンケートでは、「特にない」の割合が 56.0%と最も高く、次いで「自分の時間が取れない」の割合が 16.0%となっている。

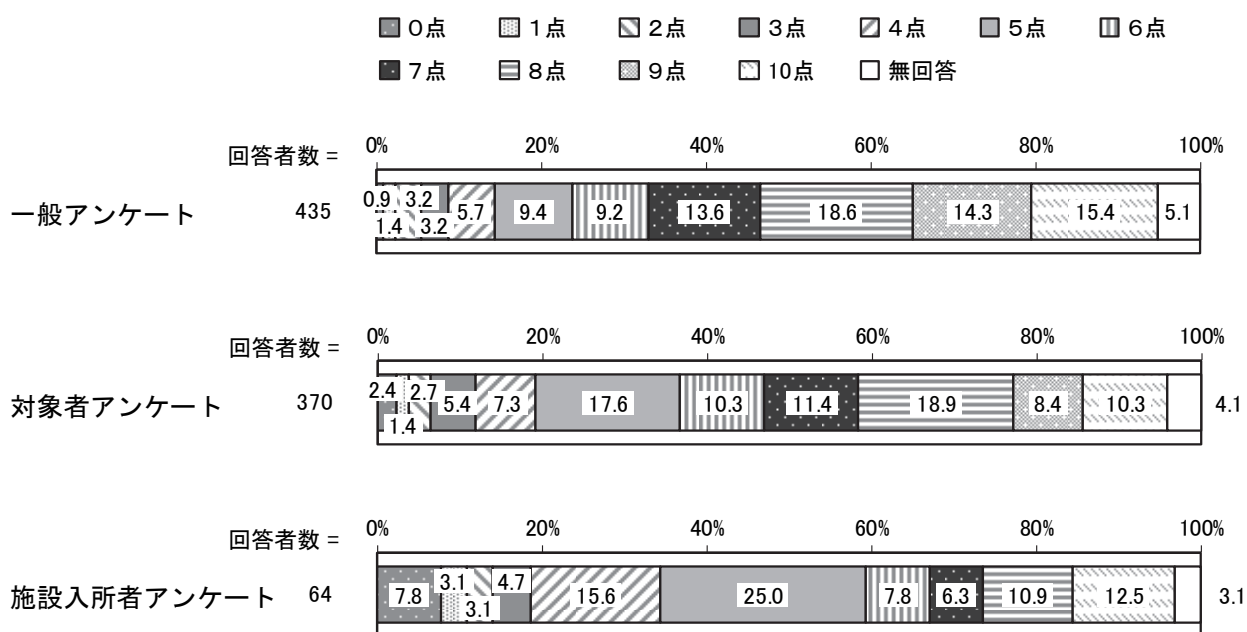


**問 35 あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。0（まったく満足していない）～10（十分に満足している）の数字で教えてください。**

一般アンケートでは、「8点」の割合が 18.6%と最も高く、次いで「10点」の割合が 15.4%、「9点」の割合が 14.3%となっている。

対象者アンケートでは、「8点」の割合が 18.9%と最も高く、次いで「5点」の割合が 17.6%、「7点」の割合が 11.4%となっている。

施設入所者アンケートでは、「5点」の割合が 25.0%と最も高く、次いで「4点」の割合が 15.6%、「10点」の割合が 12.5%となっている。

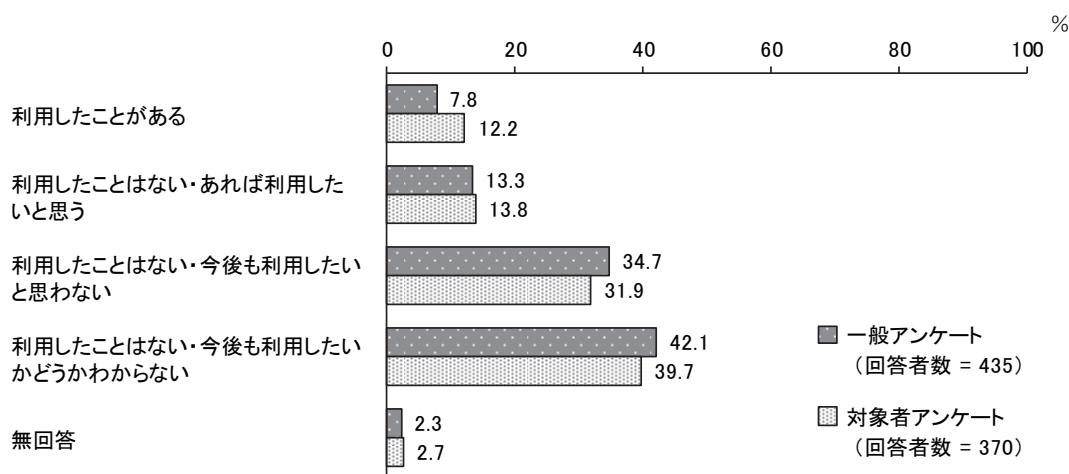


問 36 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思うものがありますか。（あてはまるものすべてに○）

（ア）（自分や友だちの家以外で）平日の夜を過ごすことができる場所

一般アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうかわからない」の割合が 42.1%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 34.7%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 13.3%となっている。

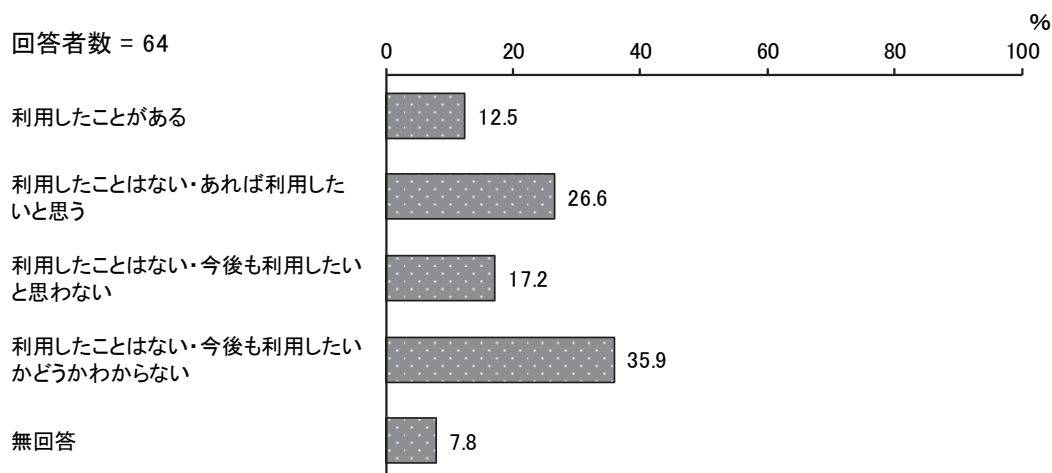
対象者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうかわからない」の割合が 39.7%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 31.9%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 13.8%となっている。



（ア）（児童養護施設や友だちの家以外で）平日の夜を過ごすことができる場所

施設入所者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうかわからない」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 26.6%、「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 17.2%となっている。

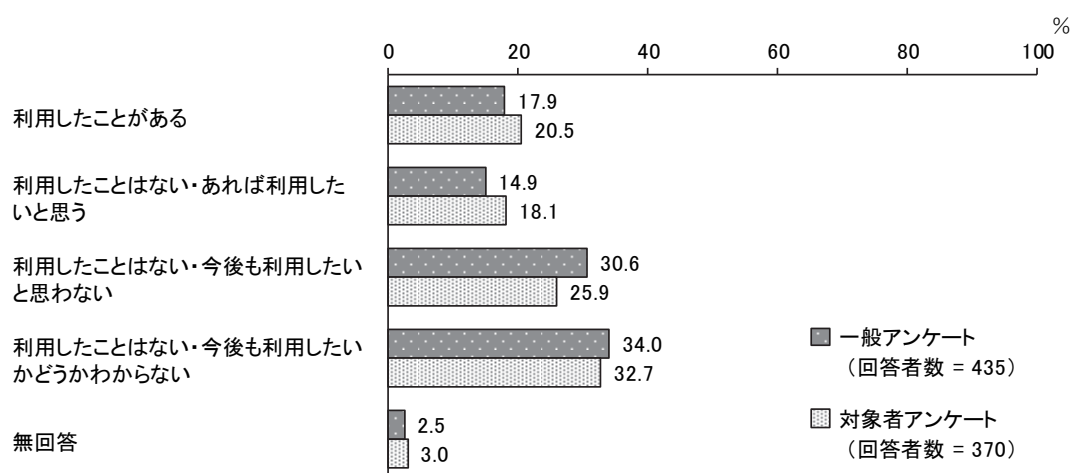
施設入所者アンケート



### (イ) (自分や友だちの家以外で) 休日を過ごすことができる場所

一般アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 30.6%、「利用したことがある」の割合が 17.9%となっている。

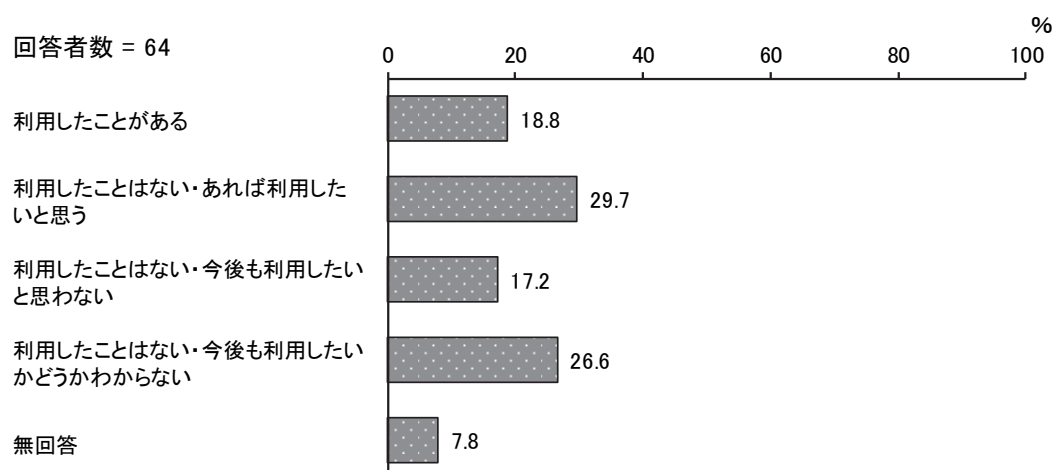
対象者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 32.7%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 25.9%、「利用したことがある」の割合が 20.5%となっている。



### (イ) (児童養護施設や友だちの家以外で) 休日を過ごすことができる場所

施設入所者アンケートでは、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 29.7%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 26.6%、「利用したことがある」の割合が 18.8%となっている。

#### 施設入所者アンケート

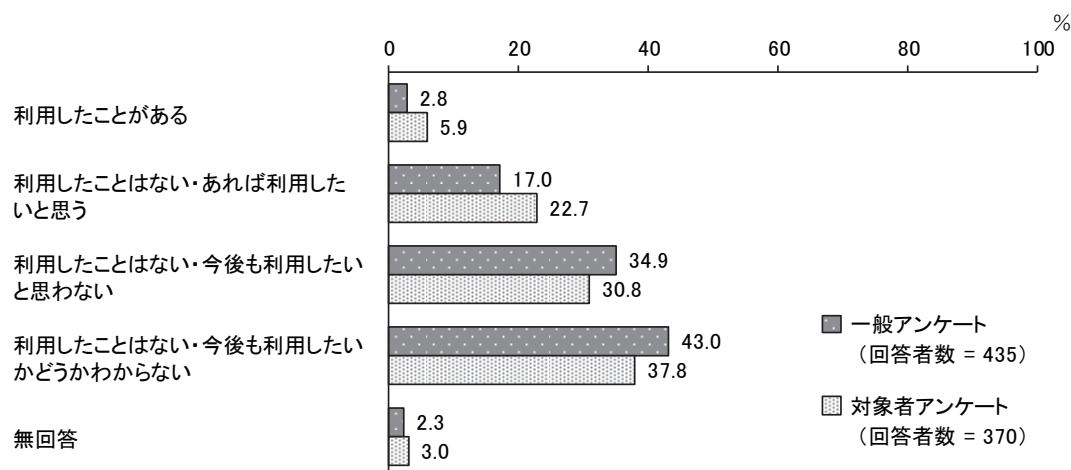




(ウ) (自分や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

一般アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうか分からない」の割合が 43.0%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 34.9%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 17.0%となっている。

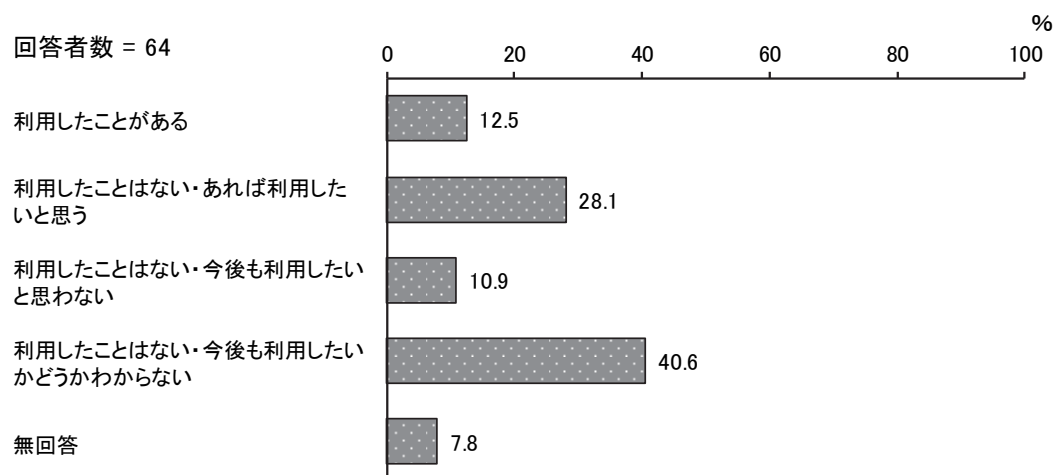
対象者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうか分からない」の割合が 37.8%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 30.8%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 22.7%となっている。



(ウ) (児童養護施設や友だちの家以外で) タごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)

施設入所者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかどうか分からない」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 28.1%、「利用したことがある」の割合が 12.5%となっている。

施設入所者アンケート

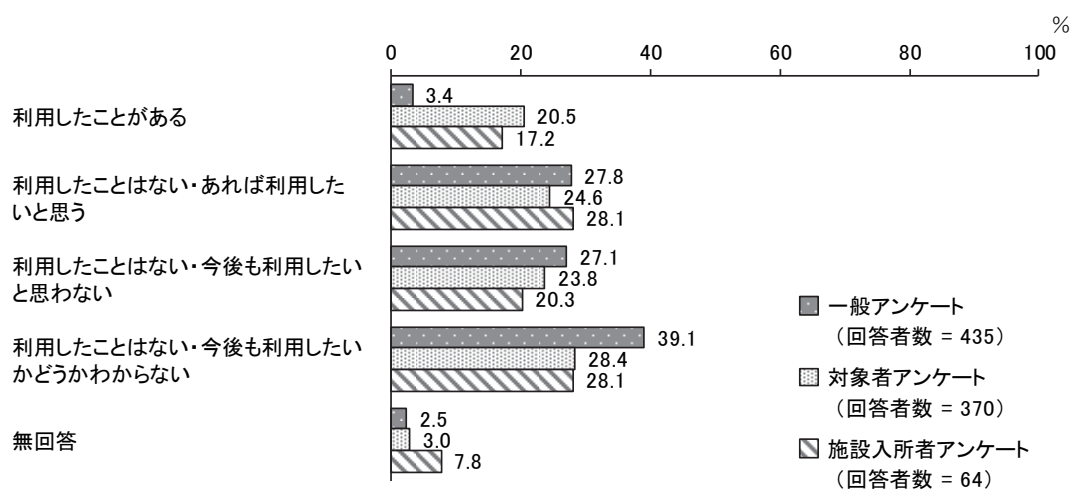


## (エ) 勉強を無料でみてる場所

一般アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 39.1%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 27.8%、「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 27.1%となっている。

対象者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 24.6%、「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 23.8%となっている。

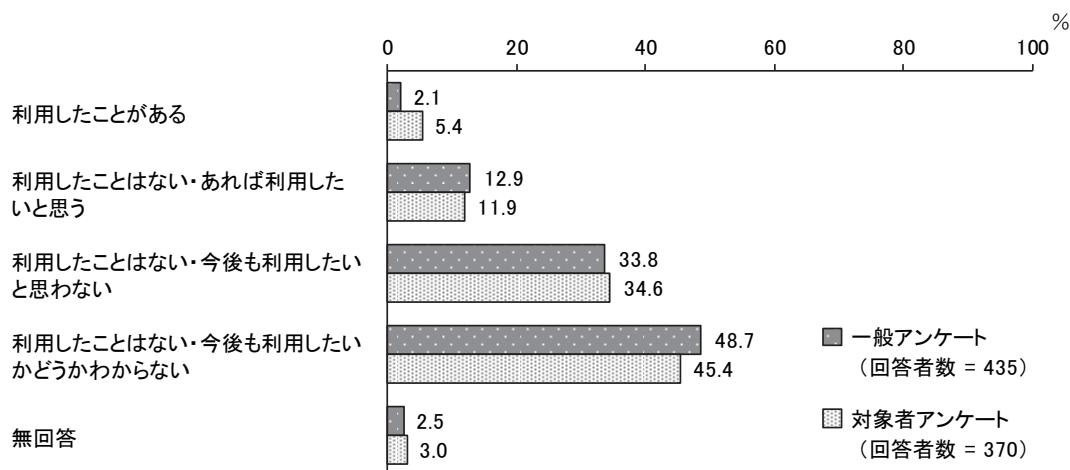
施設入所者アンケートでは、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 28.1%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 20.3%となっている。



(オ) 家や学校以外で何でも相談できる場所（電話やネットの相談含む。）

一般アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 33.8%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 12.9%となっている。

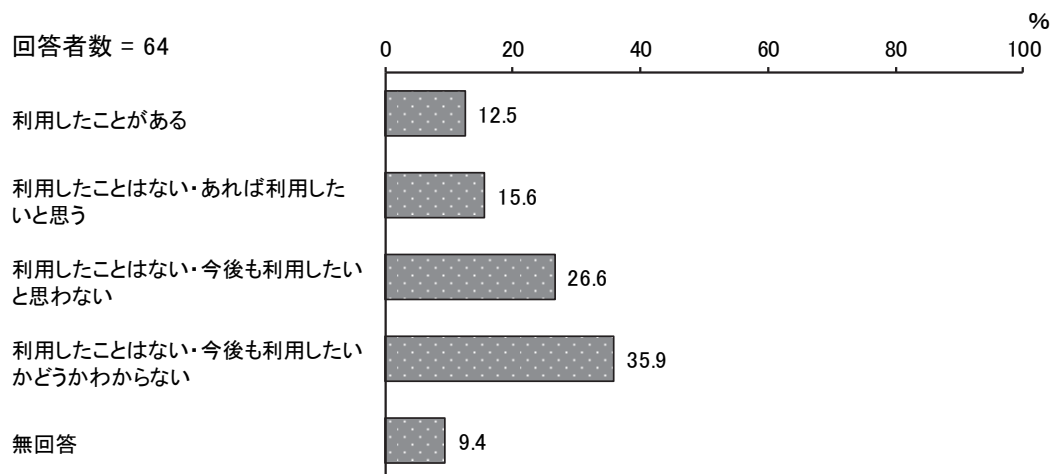
対象者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 34.6%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 11.9%となっている。



(オ) 児童養護施設や学校以外で何でも相談できる場所（電話やネットの相談含む。）

施設入所者アンケートでは、「利用したことはない・今後も利用したいかわからない」の割合が 35.9%と最も高く、次いで「利用したことはない・今後も利用したいと思わない」の割合が 26.6%、「利用したことはない・あれば利用したいと思う」の割合が 15.6%となっている。

施設入所者アンケート

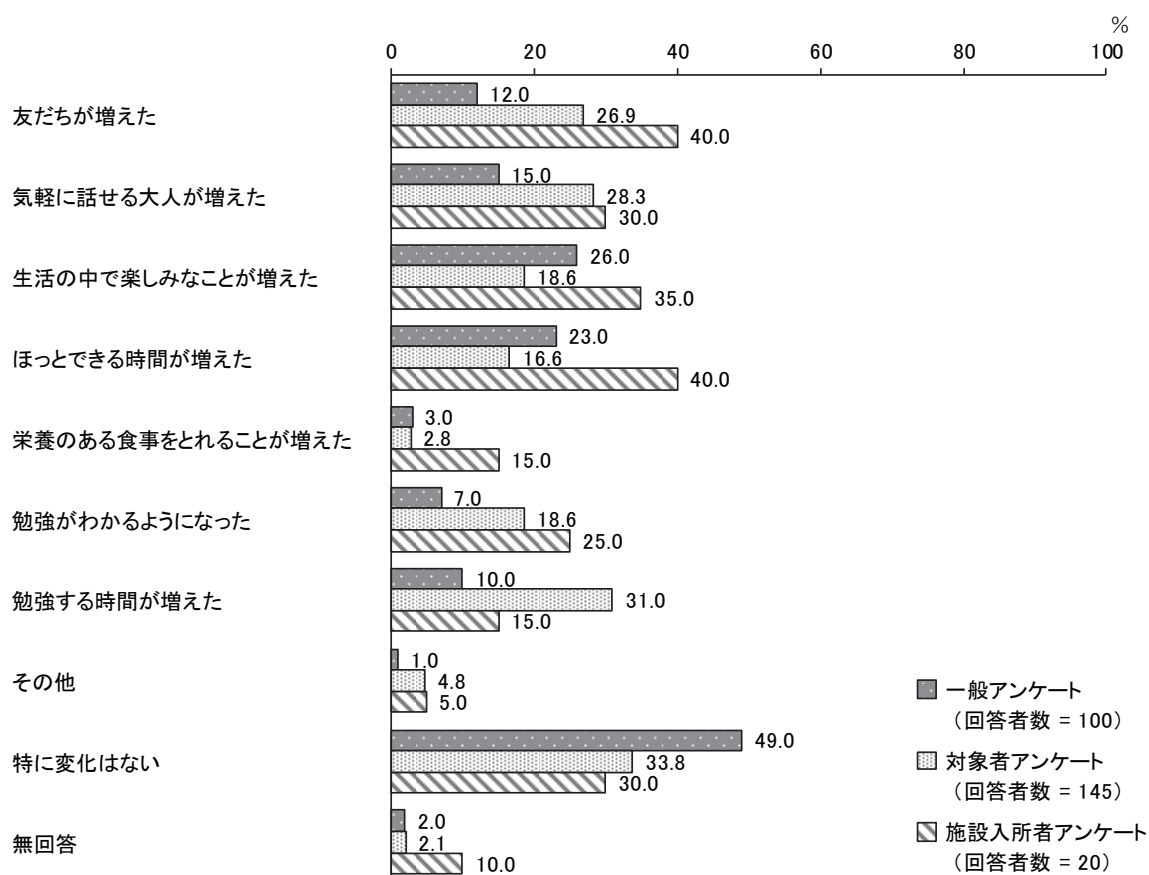


問 37 そこを利用したことで、以下のような変化はありましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

一般アンケートでは、「特に変化はない」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が 26.0%、「ほっとできる時間が増えた」の割合が 23.0%となっている。

対象者アンケートでは、「特に変化はない」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「勉強する時間が増えた」の割合が 31.0%、「気軽に話せる大人が増えた」の割合が 28.3%となっている。

施設入所者アンケートでは、「友だちが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」の割合が 35.0%となっている。



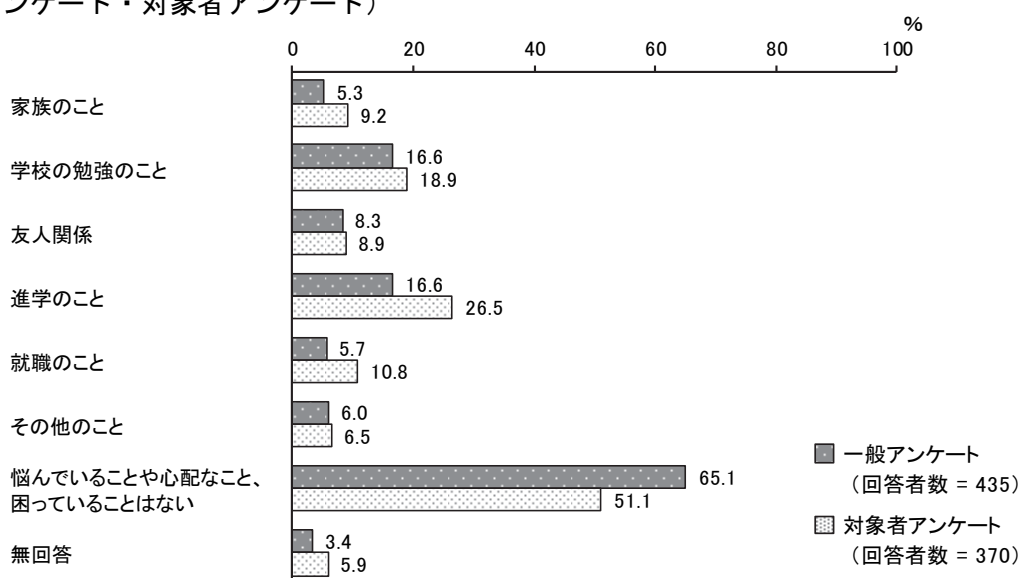
**問 38 あなたが悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。（あてはまるものすべてに○）**

一般アンケートでは、「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」の割合が 65.1%と最も高く、次いで「学校の勉強のこと」、「進学のこと」の割合が 16.6%となっている。

対象者アンケートでは、「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「進学のこと」の割合が 26.5%、「学校の勉強のこと」の割合が 18.9%となっている。

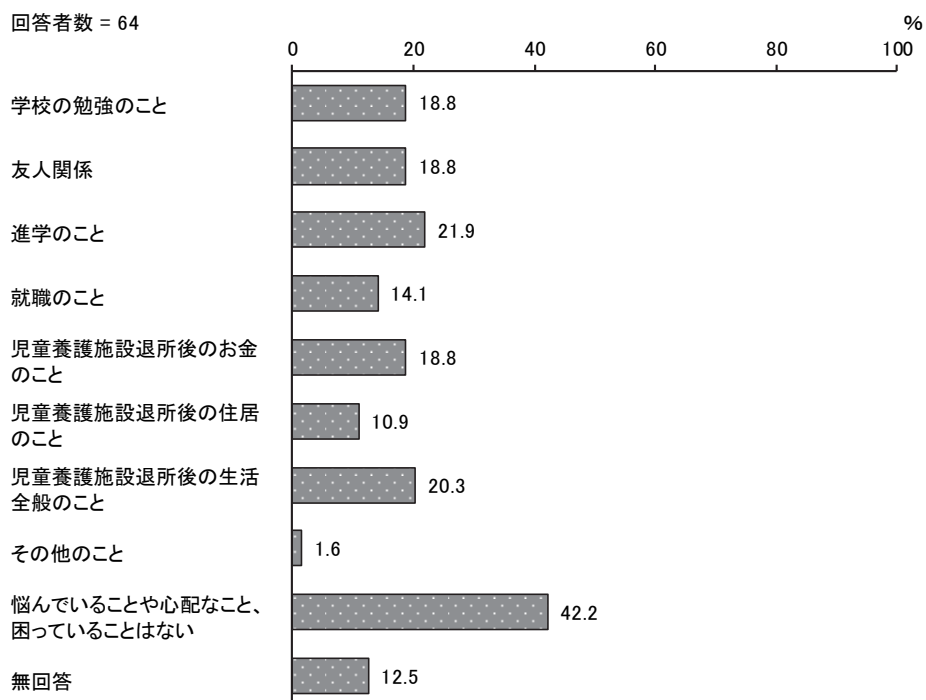
施設入所者アンケートでは、「悩んでいることや心配なこと、困っていることはない」の割合が 42.2%と最も高く、次いで「進学のこと」の割合が 21.9%、「児童養護施設退所後の生活全般のこと」の割合が 20.3%となっている。

**（一般アンケート・対象者アンケート）**



**（施設入所者アンケート）**

回答者数 = 64



問 39 差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることを具体的に教えてください。

【一般アンケート】

悩みや心配、相談したいことについては、寄せられた具体的な内容を分類すると、「進学に関すること」が25件で最も多く、次いで「学校の勉強に関すること」が22件、「友だちに関すること」が17件となっている。

分類回答	件数
進学に関すること	25
学校の勉強に関すること	22
友だちに関すること	17
家族に関すること	11
就職に関すること	8
感染症に関すること	3
アンケートに関すること	1
その他	21

【対象者アンケート】

悩みや心配、相談したいことについては、寄せられた具体的な内容を分類すると、「進学に関すること」が34件で最も多く、次いで「学校の勉強に関すること」が23件、「家族に関すること」が15件となっている。

分類回答	件数
進学に関すること	34
学校の勉強に関すること	23
家族に関すること	15
友だちに関すること	11
就職に関すること	8
アンケートに関すること	3
その他	32

### 【施設入所者アンケート】

悩みや心配、相談したいことについては、寄せられた具体的な内容を分類すると、「友だちに関すること」が4件で最も多く、次いで「進学に関すること」「就職に関すること」「児童養護施設退所後の生活全般に関すること」が3件となっている。

分類回答	件数
友だちに関すること	4
進学に関すること	3
就職に関すること	3
児童養護施設退所後の生活全般に関すること	3
児童養護施設退所後のお金に関すること	2
家族に関すること	2
学校の勉強に関すること	1
その他	12

### 【主な意見】

#### ① 進学に関すること

- お金がないのに費用が高い学校に進学できるのか。(小学生)
- 自分の学力で高校に進学できるかどうか不安。(中学生)
- 学校に行けてないので、勉強が遅れて分からない事が増えてしまって、このままでは進学とかできないのではないかと考えています。(中学生)
- お母さんに「せめて公立の学校に行かないと」と言っていて、私の頭が悪すぎて、どうすればいいか迷っています。(中学生)
- 奨学金の制度の対象者がごくわずかなので自分のお金（自分で稼いだお金）で進学しなければならない。(高校生)
- 親が母しかいなく稼ぎが少ない。兄もいるが稼ぎがほとんどない。そのため進学し、卒業まで勉強できるか分からない。(高校生)
- 進学先での金銭的な余裕があるのかどうか。奨学金がおりるかどう。(高校生)
- 大学に進学できるのか不安。「専門学校だと給料が少ない」とか「なりたい職業」とかよく分からない。高2だからもう決めておかないといけなのに何も決めてなくて不安。どうしたらいいかわかりません。(高校生)
- 大学に行こうとは思っているが何を学びたいかわからない。(高校生)

## ② 学校の勉強に関すること

- 学習面では、コロナ禍に入ってから、オンラインが増えて、wifi 環境によっては学習に差がでたりすること。(小学生)
- 学校の勉強でわからないことがあり、これからついていけるかが心配。(小学生)
- 中学校で勉強をついていけるか分からない。(小学生)
- 学校の勉強で分からないところが多いこと。(中学生)
- 数学や英語がどんどん分からなくなってきた。休んだりして、追いつくのができなくなってきた。(中学生)
- 自分なりにがんばっているが、学力がのびなくて高校にもいけるか心配。(中学生)
- 分からない所(勉強)を先生に聞きに行っても、先生がいそがしく教えてもらえない事が多い。そして、教えてもらえる時間があってもやはりいそがしく理解するまでいかない(教えてもらえる時間が少ないため)。(中学生)
- 1回で理解することができないことが多々ある。(高校生)

## ③ 友だちに関すること

- コミュニケーションが苦手で、どうしたら友達ができるのか。(小学生)
- クラスの友だちにさけられたり、うわさ話を流されたりする。(小学生)
- 友だちのことでなやんでいるけど、学校の先生やスクールカウンセラーなどに行っているのです。(小学生)
- これからも友人と仲良くできるか。(中学生)
- 友達が自分だけでなく、周りの友達にも、何かあれば「死ね」か「デブ」「チビ」などの言葉を簡単に言うので気分が悪くなる。(中学生)
- 中学校～高校まで友人関係で死にたいと思うことが増えた。(高校生)
- 高校に入学して、半年以上が経ち、友人の嫌な部分がわかるようになってきたため、部活動内の友人関係がギクシャクしてきている。いつになったら嫌な部分も気にならなくなるのかわからないため、毎日なやみながら生活しています。(高校生)
- 人と話すことが苦手だからペアが作れない(申し訳なくなる)。(高校生)



#### ④ 家族に関すること

- 今自分が将来なりたいやつと、親がなってほしいものがどっちがいいのかわからない。(小学生)
- 私の父と母は離婚してしまいました。今は母と2人ぐらしです。それで、父との関係に悩んでいます。できれば会いたくないけれど、母に相談もできないです。(中学生)
- 両親が不仲で会話もなくなり、自室しか居場所がなくさみしい。(中学生)
- 勉強のことについてうるさい、話をきいてくれない。(中学生)
- コロナがはやり始めてから、親が互いストレスをかかえていて、それに、私の高校についての話もあったから、けんかというほどでもないが、お母さんとお父さんが、いいあうようになった。いつか、家族がバラバラになってしまうのではないかと不安。(中学生)
- 母が統合失調症のような症状で、人前に出したり誰かに会わせたりすることに抵抗がある。(中学生)
- 母は生活費を祖母(母の母親)や親せきからお金を借りて、払っているらしくそのお金は誰が返すのか心配です。(中学生)
- 自分や家族の老後。(高校生)
- お母さんが夜遅くまでいくつも仕事をしているので、大変そうなのでいつも家にいてくれる様に私がアルバイトをして力になりたいです。早くお母さんに楽させてあげたいです。(高校生)

#### ⑤ 就職に関すること

- 勉強が苦手なので、就職できるか心配。(中学生)
- 学校の勉強のことについて将来につながっていくので不安があります。(中学生)
- 自分の将来が全く想像できない、高卒で働けるのか。(高校生)
- 美容師になりたいが、なり方が上手く分からない。(高校生)
- 通信制の高校に通っています。私的には今の環境になってからストレスも減り、体調も良くなったのでとても満足しているのですが、これから社会に出たときに「通信制高校出身」ということで就職などにおいて不利になってしまうのでは？と思うことがあります。ネットの情報を信じすぎるのは良くないとは思いますが、そういった意見をよく目にすることが多いので心配、不安に思っています。(高校生)
- 就職・・・何をやりたいかわからない。(その他)

#### ⑥ 感染症に関すること

- コロナ禍で教室の換気を必要としていることは十分に理解できるが、ストーブが寒さにおいていない(室温11~15℃)。(小学生)
- 大学に行って看護の実習についていけるかどうか。大学の勉強とプライベートを両立させたいけどうまくできるか分からない。新しい環境になるから慣れるまでが不安。コロナの影響でオンラインになったり、対面になったり臨機応変に対応できるか不安。(高校生)

⑦ アンケートに関すること

- このアンケートを回答していて感じたことなのですが、私は高校生なのでこのアンケートに自分の意見を反映することができます。しかし、小学生で家庭環境が良くない家にこのような形でアンケートを郵送しても必ず本人の正直な回答が得られるとは限らないと考えます。他にも別の形で子どもたちの悩みなどを市に届けられるようなしくみがあれば良いと思います。(高校生)
- アンケートは性別の選択欄にどちらでもないの項目を追加してほしい。(その他)

⑧ 児童養護施設退所後の生活全般に関すること

- 大人になったとき心配。(中学生)
- 進学は、自分の学力でどこに行けるか分からないから、相談したいです。(中学生)
- 進学後の1人暮らし。(高校生)

⑨ 児童養護施設退所後のお金に関すること

- 自立した時にでる、お金が少ないと思うから、借金しなくてすむかが心配。(高校生)
- 奨学金。(高校生)

⑩ その他

- 習い事をやめたいと言いたいが勇気がない。(小学生)
- カウンセラーの先生が今は週1だが週2にしてほしい。(小学生)
- 自分の身体の性別と自認している性別がちがいます。制服は今年度からスラックスになり大丈夫ですが、アンケートなどをするときなどにモヤっとしてしまいます。(中学生)
- 学校の課題が多かったり、定期テスト前の小テストや宿題が多すぎたりして、寝不足の日々が続いているのもっと睡眠時間を確保したい。(高校生)
- 多目的トイレが少ない。(その他)
- 日本の性教育がおくれている。(その他)

## V 支援者ヒアリング調査結果

### 1 民生委員児童委員

訪問日	令和3年11月16日	実施時間	11:00～12:00
対象者	主任児童委員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>民生委員児童委員は、生活や家庭のことで悩み、困っている方々の相談を受けるほか、見守り活動など子どもに関わる支援活動を行っている。中でも主任児童委員は児童福祉に関する事項を専門的に担当している。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における保護者や子どもの特徴、支援者との関係や子ども食堂の現場から見える状況などについて話を伺った。保護者の特徴として、親自身の親や親戚に頼らずに生活している傾向があり、学校からの連絡文書を読まない等、学校との関わりを拒絶している親もいるとのことだった。子どもの特徴としては、学校に行かないため、字が書けない、足し算引き算ができないなど、学習の遅れがみられるとの話も聞かれた。支援を受けること、社会と関わることを避ける家庭の存在についても聞かれ、子どもの貧困対策において、子ども食堂の取組が最も効果的だとの意見も聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○子ども食堂の関係では、ひとり親家庭が多い中で、親自身が自分の親や親戚に頼っておらず、自分だけで生活している傾向がある。親も生活が大変だったり、遠くに住んでいたり、老後の世話をしたくない等の思いがあり、頼ることができないのだと思う。</p> <p>○ネグレクト、学校からのお便りを読まない等、学校との関わりを拒絶している親もいる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響で、父親がリモートワークをすることで、大人もストレスを抱える傾向にある。子どもは、夕方まで外で遊んでいるように言われている場合もある。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○学校に行かないため、字が書けない、足し算引き算ができないなど学習の遅れが見られることが特徴的である。学校にお願いして、何とか放課後に呼び、指導していただいたこともある。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○困難を抱えていない家庭の子どもより、保護者との関わりは強いように思う。子どもは親を頼り、親のことを大切に思っていて、どちらかといえば仲がよいように感じる。</p> <p>○親の表情をうかがって話している。</p> <p>○「子どもの貧困」を考えると、生活には困窮していない家庭でも、金銭面以外の貧困として、深刻な課題を抱えている家庭は多い。裕福な家庭でも子どもの生活に関しては困窮していると感じることがある。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○一生懸命に努力されていても暮らし向きがよくなる家庭もあるが、体調不良が原因で暮らしが大変だという場合が一番多いと思う。</p> <p>○仕事をする努力をされている、生活保護受給家庭で、昨年末、電気代が払えなくなったので、地区担当の民生委員に相談に行ったことがある。そのような方も、携帯電話は普通に使用されている。</p>			
<p>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</p> <p>○子どもは親のことを大切に思っているが、親は自分自身が一番大事で、子どものことは二番目、三番目に考える傾向がある。自分の体調次第では、食事の用意や買い物等も後回しになることもあると思う。</p>			

<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活保護家庭には、制度を利用したほうがよいと思われるものは多く、保護課につなぐことはある。</li> <li>○支援について自分で調べる方は、結構な数いると思う。結果として「支援を受けられなかった」という話も聞く。</li> <li>○支援制度を知らないという方もいるが、一切援助も受けたくないし、生活保護には関わらずに過ごしたいという方もいる。社会と関わりたくない考える人は多い。</li> </ul>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○顔を覚えてもらいたいという思いもあり、子ども食堂を始めた。保護者の顔が見えるようになったため、連絡がとれる状況になった。</li> <li>○子ども食堂の行き帰りには必ず迎えに来ていただくようにしている。その際の申し込みのときに、「この頃、どう？」と声がけすることによって、顔見知りになることができた。すると、学校での困りごとや修学旅行についての悩み事やその他にも質問を受けるようになった。信頼関係がとても必要だったのだと感じた。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実際に困難を抱える家庭がどのぐらいあるのかという実態はつかめていない。把握できないことが現状の課題だと思う。</li> <li>○学校等に声がけして「困っている子どもさんはいませんか」と聞いても、なかなか情報が伝わらない。</li> <li>○支援がどこまで届くのか、自分ができることはどこまでなのかが課題で、悩みである。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童館、学校、警察</li> </ul> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校の養護教員、PTA</li> </ul>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○困難を抱えるご家庭のポストがチラシ等でいっぱいになっている事がよくあるため、ポスティングが出来ず、サロンや行事を企画し、手渡しなどを行っている。</li> <li>○生活保護は、子育て中の親子にはとても有効だと感じる。生活の不安、金銭面の不安が無ければ、落ち着いて子どもに目を向けられる生活が出来るように思う。</li> </ul>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども食堂の取組は最も効果的だと思う。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症が収束して、もう少し長く一緒にいられる時間があれば、子どもの学習や親との関わり方、親の困窮の原因をつかみたいと考えている。</li> <li>○「アスイク」では、子ども食堂の他に、学習支援も行っていて、大変よいと思う。</li> <li>○不登校の子どもが、字が書けないと聞いたときに、何とか支援できないか、社会福祉協議会等とも話し合い、「アスイク」に相談した。小学1年生の学芸会後から高学年になるまで登校拒否だったが、現在は中学校に不都合なく通学している。子どもの習得力は素晴らしいと思う。</li> </ul>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○困難を抱えるご家庭は、生活の困窮、子どもの発育・発達、非行、保護者の体調不良など、悩みの内容は様々である。</li> <li>○子どもの発達の事でお困りの家庭もある。高齢者なら地域包括支援センターがあるように、子どもについても連絡がとれる地域の拠点があったらよい。</li> <li>○子ども食堂は、地域にあると相談等しやすい居場所になると思い、活動している。</li> <li>○コロナ禍、生活困窮家庭には、いつでも利用可能なフードバンクも必要だと考える。</li> </ul>

## 2 弁護士

訪問日	令和3年12月1日	実施時間	10:00～11:00
対象者	弁護士（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>離婚事件の相談を受ける弁護士から話を伺った。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における保護者や子どもの特徴、支援者との関係、現在の支援制度の課題等について話が聞かれた。経済問題から離婚に至った場合、非監護親となった方は養育費や財産分与について取り決めをせずに離婚する傾向にあるとのことだった。また、子どもが、日常生活を送るのに精一杯の保護者に気を遣い、日常的なコミュニケーションがとられておらず、保護者が持つ子どものイメージと、家庭の外での子どもの状況にギャップがあり、それがトラブルの一因になることなどについて聞かれた。支援情報は十分な周知を行うことと合わせて、対面の相談を充実させることの重要性と、伴走的な支援の必要性について話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>＜貧困であること以外にみられる背景や特徴＞</p> <p>○ひとり親世帯。実家などからの援助を得ることができない。親に精神疾患や障害がある。仕事や家事、育児のために忙しく、養育費の取り決めなどをする時間もない、弁護士に相談する時間をとるのも大変、その他の機関につながっても連絡を取ることが難しいなど、連絡が途絶えてしまう。誰かに金銭を請求できる権利があってもそれを実行する余裕がないため、伴走者が必要である。</p> <p>○経済問題から離婚に至った場合、非監護親となった方は養育費や財産分与について取り決めをしないで離婚する傾向にある。この場合、書面で取り決めをする確率も大幅に減少する。非監護親との交流がほぼない。</p>			
<p>＜子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況＞</p> <p>○早寝早起きなどの基本的な生活習慣が崩れやすい。オンラインゲームにのめりこみやすい。</p> <p>○家庭で子どもの学習を見ることができておらず、学校のフォローがあっても理解が遅れがち。</p> <p>○食事は高カロリー・高脂質のものを好む。</p>			
<p>＜子どもの保護者との関わり方での特徴＞</p> <p>○子どもは日常生活を送るので精一杯の保護者に気を遣っていると思われる。自分の要求などを家庭では述べないことも多い。他方、他者との関係でその不満を発散する場合もある。</p> <p>○保護者の持つ子どものイメージと、外での子どもの状況というのは食い違いがあって、子どもに非行があったときに、保護者が怒ってトラブルが大きくなるということもあるかもしれない。</p>			
<p>＜保護者の方の生活面、就労面での特徴＞</p> <p>○特にひとり親で女性の場合は、非正規雇用が多いイメージがある。就業先を転々としていたり、仕事を複数掛け持ちするケースがみられる。就業先を替えてしまう理由として、人間関係の問題はよく聞く。また、労働条件が一方的に変えられてしまい、子育ての都合で難しくなるケースや、病気が原因となる場合もある。</p>			
<p>＜保護者の方の子どもとの関わり方の特徴＞</p> <p>○教師や他の子どもから意に沿わないことをされたときに、冷静に対処できず、過敏かつ過剰に反応してしまい、問題が深刻化する場合もある。子どもが否定されると、自分（親自身）が否定されたと感じてしまい、支援の提案に対しても満足されず、解決に至らないケースはある。</p>			
<p>＜支援制度や支援者との関係での特徴＞</p> <p>○性格、発達の特徴や病気など本人の素因から、支援者とうまく関係を結べない等の場合がある。</p> <p>○支援制度を知らない、知っていても活用する時間的・精神的余裕がない、優先順位を間違っている。正確に理解していないためと思われる。</p>			

活動上の課題、その他の意見等
<p>＜困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○養育費について相手方が支払わない可能性が高い事案について、養育費保証制度に関する仙台市の事業を紹介した。</li> <li>○面会交流のサポートをした。</li> </ul>
<p>＜支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○面会交流を仲介する（準）公的な機関（面会交流についての正確な知識の裏付けがあるもの）があるとよいと思われる。</li> <li>○養育費のみならず、離婚前の別居中の婚姻費用についてもきちんと周知・請求できる仕組みを整える。公的機関の相談窓口が有効に活用されていない。公的機関の相談窓口を利用した人は平均1.4%とのこと（『家庭の法と裁判』34号33頁）（協議離婚した者の中でも、婚姻費用が支払われることを知らなかった人が41%もいた（同7頁））。</li> <li>○養育費保証制度の上限額を上げる。現状5万円、ないよりましだが忙しいひとり親家庭があえて申請するための動機づけが若干弱い。養育費の支払いは、書面を取り交わしさえすれば最初は支払われるが、時間とともに滞る事例が多いことから、1年目だけ保証してもあまり意味がないのでは、と思った。</li> <li>○養育費の強制執行をもっと簡易な手続きで利用しやすくなるとよい。</li> <li>○親へ支援をすることが子どもへの支援につながる側面もある。担当部署によってその都度ばらばらではなく、決まった担当者が困難を抱える家庭（親）と継続的につながり、申請や相談に同行することも含め必要な支援をしていくがあればよいと思われる。</li> <li>○子育て支援ショートステイをもっと利用しやすいように周知してほしい。児童養護施設から学校へ通学できるのか、部屋はどのようになっているのか、利用料金以外も含めた費用は概算でどのくらい見積もればよいのかなど、必要な情報が得ることができない。保育園の利用等よりもハードルが高いイメージ。</li> <li>○離婚で悩んだのは今後の子育てや生活費が多いが、その7割が弁護士への相談すらしていないという現状から、親向けのガイダンスなどの相談支援体制の在り方、養育計画の策定などについても第三者が関与する形で支援していけるとよいと思われる。</li> <li>○弁護士相談の需要は多いようなので、チャンネルをもっと多くする。</li> </ul>
<p>＜支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について＞</p> <p>【連携している関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○わんすてっぷ、ワンファミリー、ロージーベル、キャブネットみやぎ、ハーティ仙台、青葉の会等：協議会開催、虐待問題に関する研究会開催、実際の事件が発生した時に支援を依頼するなど</li> </ul> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校支援に関する機関：不登校の実情や弁護士として援助可能なことがあれば対応したい。</li> <li>○面会交流を仲介する機関：宮城県内にはないと聞いているが、もし設立できれば連携・協力したい。</li> </ul>
<p>＜現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ウェブサイトは以前よりずいぶん見やすくなった。子育てアプリまでは登録していないが、仙台市のLINEは登録しており色々な情報がすぐ届くのでとても便利に感じている。</li> <li>○効果的だと思う情報提供については、対面での相談が48%という結果もあり、情報を得るだけでなく話し相手を欲しているという側面もあるのだと思う。対面相談についても引き続き充実させていきたい。</li> <li>○養育費保証契約保証料補助について、弁護士間でも認知度が低いため、周知が必要。</li> </ul>
<p>＜子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども食堂において、弁護士も参加して法律相談等をやる動きも若干あるが、実現できればよい。弁護士に限らず、支援者が、子どもたちが食事をして遊んでいる間に、親が話す場があればよいと思う。</li> <li>○各課をまたいで伴走型のサポートをする人が必要だと考える。</li> <li>○親が請求できる権利をきちんと実現してあげる、親の生活をきちんと保障することが子どもの貧困の対策にダイレクトに繋がると思う。</li> </ul>

### 3 仙台市 母子家庭相談支援センター

訪問日	令和3年12月1日	実施時間	16：00～17：00
対象者	仙台市母子家庭相談支援センター職員（2名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>仙台市母子家庭相談支援センターは、母子家庭からの仕事・生活・住居・子育て等の相談に対して、専門的な支援を行いながら自立をサポートしている。仙台市は、母子家庭相談支援センターと父子家庭相談支援センターが別々に設置されている。</p> <p>ヒアリングは、2名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴、支援制度や支援者との関係について話を伺った。保護者は子どもの不登校や学習に対して積極的に関わることができないこともあり、その背景には、DVを受けた家庭環境による経済的・心理的な影響が考えられるとの話が聞かれた。母子家庭の母親は、自分の状況に合った様々な支援を必要としている。しかし、自分の抱える問題点を整理した上で支援者に分かりやすく説明できるとは限らず、支援情報を否定的に解釈したり、自分にとって都合よく捉えたりすることもある。支援者と認識のずれが生じる場合があるため、丁寧な聞き取り等の対応が必要であることについて聞かれた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、養育費の減額請求があるとの話も聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○母子家庭ではDVにより経済的・心理的な影響が見られる。例えば、夫が家計を管理し、妻に必要な生活費を渡していなかったために貯蓄が無いまま母子家庭になる。罵倒されつづけていたことにより自己肯定感・自己決定力が低く、就職活動や就業継続が困難になる。離婚後に元夫と連絡を取り合うことに恐怖を感じる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により元夫の収入が減ったため、養育費の支払いについて減額請求されるケースがある。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○母親が子どもの不登校など学校や学習に対して積極的に関わることができない背景には、DVを受けた家庭環境であった影響も考えられる。</p> <p>○父親が子どもに手を上げたり、罵倒したりするという例のほかに、母親に対するDVを子どもが日常的に見聞きすることも子どもへの心理的影響が大きい。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○子どもが母親にまわりついて離れない。</p> <p>○母親が日常的に「お金がない」と言っているため、靴が壊れていても新しいものが欲しいと言えないなど、母親に遠慮している。</p> <p>○子どもが母親を気遣って自分らしさを出すことができず、母親のケア役割を担っている。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○離婚により母子家庭となった母親は、気持ちの整理、元夫との離婚時の取り決めの履行状況や現状の分析、ワンオペ育児、今後のライフプランの設計等が必要となる。</p> <p>○多くの母親は退職してからブランクがあったり、夫の扶養範囲内での就業経験しかなかったり、十分な就業経験がない。生活の立て直しが必要となる状況において、元夫からの心理的・経済的コントロールの影響による心身の疲れもあり、子どもの生活を支えるだけの収入が見込めない。</p> <p>○離婚にはエネルギーが必要。別れてしまった後でも、後悔や、養育費確保及び面会交流の課題、自立して生活していけるかなどの不安がある。</p> <p>○自立に向けて何をすべきかを自分一人で順序立てて計画し行動することが難しい状況であるため、支援者と一緒に課題を解決していくことが必要となる。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <p>○子どものことを考える余裕を持ってないことがある。</p> <p>○母親は自分の離婚のために子どもに不自由をさせたくないとの思いがある。</p>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○母子家庭の母親は、自分の状況に合った様々な支援を必要としている。しかし、自分の抱える問題点を整理した上で支援者に分かりやすく説明できるとは限らない。また、自分にとって有益な支援を受けるために部分的な情報のみを話す場合がある。一方で、自分の問題は相談するほどではないと考えて悩みをひとりで抱え込むことがある。</p> <p>○支援情報を得ても内容をよく理解できず利用につながらないこともある。また、自分が望むような支援が得られない、支援者と気が合わないと判断して自ら支援機関との関係を断つ場合がある。また、支援情報を自分にとって都合よく捉えることもあり、支援者と認識のずれが生じることがある。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○当センターでは託児付きで就業・自立相談（面接）を実施している。両親以外に子ども預けるのは初めてと言う母親も多い。利用者は安心して預けられる経験をすることで、就業のために子どもを保育所に預けることを肯定的に考えられるようになっていく。子どもとのコミュニケーションの取り方に悩んでいた母親に、子連れで参加できて気軽に相談もできるイベント（女子のためのほっとスペース）を紹介した。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p><b>【連携している関係機関】</b></p> <p>○のびすく仙台：女子のためのほっとスペース</p> <p>○特定非営利活動法人STORIA：当センター事業（母子家庭の母等への就業・自立支援）情報の提供</p> <p>○認定NPO法人キッズドア：メールマガジンによる支援情報の受信</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○『うえるびい』は必要な情報がまとめられており非常に有益である。母子家庭の母親の中には内容が分かりにくく、自分に合った支援をみつけることが難しいと感じる方が多いが、簡易版は支援情報にアクセスする入り口として分かりやすいので、こちらも活用しながら情報を提供している。</p> <p>○母子・父子家庭医療費助成：受診時に支払った自己負担の一部が助成されるが、一時的に支払う費用を支出する余裕がなく受診をためらう方がいる。</p> <p>○ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）：支援時間帯外に支援を希望する方がいる。応相談ではあるものの依頼しにくい。「支援員」という名称について敷居が高く、利用を遠慮したり、自宅の掃除をしてからでなければ利用できないと感じている方がいる。</p> <p>○養育費保証契約保証料補助：養育費の2年目以降の支払いが滞ることへの保証を求める声がある。また、制度そのものを理解できない方もいる。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について&gt;</b></p> <p>○養育費を確実に受け取ることができるように、地方自治体が支払義務者から徴収し、受取権利者に渡す仕組みをつくること。</p> <p>○学校等で自由に使用できる生理用品を配布（トイレに設置など）すること。</p>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <p>○行政の相談窓口でも、受付カウンター等ではなく、個室など人目につかず話し声が他者に聞かれない場所で相談対応ができると、相談者が安心して話をするができる。また、託児があると相談に集中でき、子どもが相談内容を聞いたら心配するのではないか、誰かに話してしまうのではないかと不安を解消できる。</p>



## 4 認定特定非営利活動法人キッズドア

訪問日	令和3年12月2日	実施時間	10:00～11:00
対象者	キッズドア職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>認定特定非営利活動法人キッズドアは、平成19年の設立以来、経済的に苦しい家庭やひとり親家庭などの子ども達への支援に特化して活動している。仙台市の東北事業部では、中学生向け高校受験対策講座「タダゼミ」や英語学習教室「English-Drive」、高校生向け大学受験対策講座「ガチゼミ」を無料で行っている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもの生活や学習の様子、保護者の子どもとの関わり方の特徴、子どもの貧困対策に効果的と思われる取組などについて話を伺った。利用者は母子世帯の割合が多く、両親が揃っている場合でも、どちらも非正規雇用であるケースや、家族に事情や障害があり介護や支援が必要で、母親が働けない状況の方もいるとのことだった。子どもは学習習慣が身についておらず、学習の遅れが見られ、保護者とのコミュニケーションも不足している傾向があるとのことだった。子どもの貧困対策に効果的な取組として、子どもに正しい情報を提供し、保護者以外の大人や社会を見せることで意欲を引き出す支援の重要性について聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>＜貧困であること以外にみられる背景や特徴＞</p> <p>○母子世帯の割合が一番多く、8割程度である。両親が揃っていても、どちらも非正規雇用であったり、家族に障害があったりするため、母親が働けない状況の方もいる。</p> <p>○ひとり親の場合は、時間的、経済的な余裕がなく、子どもと適切なコミュニケーションが取れておらず、「あたたかい目で見守る」「先回りして調べ、情報提供してあげる」というようなことができないため、子どもに強く当たったり、決めつけたりするケースもある。</p>			
<p>＜子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況＞</p> <p>○学習に関して、小学生のころから積み重ねの習慣がなく、自学自習の習慣が身についていないため、学力が低い傾向にある。</p> <p>○「期日を意識して守る」「忘れ物をしない」「事前に準備をする」という習慣がある子どもは少ない。注意しても、必ず忘れ物をしてくる子どももいる。</p> <p>○学校と家の往復が生活のほとんどで、家族で旅行したり、親戚の家に遊びに行ったりする経験がない子どももいる。暮らす世界が狭く経験が少ないので、外の世界に出ることを怖がり、「一生、仙台から出たくない」という子どもも多い。</p>			
<p>＜子どもの保護者との関わり方での特徴＞</p> <p>○親が精神疾患を抱えていたり、持病があったり、仕事のストレスで精神的に不調だったりする場合もある。親が夜勤やアルバイトの掛け持ちや副業をしているために、親との関わりが希薄になり、言いたいことがあってもタイミングがつかめなかったり、親の疲れている顔を見ると言い出せないこともあるようだ。</p> <p>○親の機嫌を見たり、顔色をうかがって、気を遣いながら生活している子どもがいる。</p> <p>○親の希望する進路と子どもの希望する進路が大きく乖離している場合もある。</p>			
<p>＜保護者の方の生活面、就労面での特徴＞</p> <p>○仕事が続かない傾向にあり、職を転々としている場合もある。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どものことすべてに関わりたい親と、本人任せで傍観している親に二分される。</li> <li>○子ども任せで日常的なコミュニケーションがとれていないため、子どもが高校3年生になったときに初めて、子どもが進学を望むことを知り、それから資金の問題に気づき、相談に来る親もいる。</li> <li>○心配性で、親離れ子離れができておらず、依存関係になっている場合もある。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもは、気の合うボランティアに本音を漏らすこともある。職員が面談としてゆっくり話をするときもあるが、職員よりも年の近い大学生ボランティアの方たちのほうが、子どもと心理的な距離が近く、話しやすいこともあると思う。また、職員に話したことは親に伝わるかもしれないと心配するのかもしれない。</li> </ul>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高校受験対策講座利用者の高校進学率はこれまで100%。一部の子どもは、合格しても当該高校を気に入らずに一浪して違う高校に進学した子どももいるし、入学後にやめてしまったり、不登校になってしまった子どももいるため、そのような子どもに対しては、その後の進路を一緒に考えるなど、できるだけ個別に、重点的にサポートしている。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響で一斉休校や飲食店が休業になったときには、生活福祉基金の貸し付けについて、速報がでたらすぐに配信して、リアルタイムの情報提供をして、相談に行くように呼びかけた。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎年、途中から家の事情で来られなくなり、途絶えてしまう子どもがおり、その後の状況が不明である。親が許可しない場合や、交通費がもったいないと考える家庭もある。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仙台市教育委員会学びの連携推進室とは10年ほど連携している。高校受験対策講座の会場確保や、管内の中学校に広報をしてもらっている。</li> <li>○そのほか不登校の部分では仙台市適応指導センターや不登校支援団体のみやぎネットワークと連携している。</li> </ul>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援情報を知らない方が多い。調べることが面倒なのだと思う。ネットで検索して行政のホームページが出てきても、文字の説明ばかりで、読んでも理解できなかったり、読む気をなくしている。</li> </ul>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食べ物をあげればお腹は満たされるが、自分で餌をとれるようにならなければ解決にはならない。「魚の釣り方を教える」ように学習支援が必要だと思う。</li> <li>○正しい情報を提供し、それを使えるように後押しして、適切にプレッシャーをかけていかなければいけないと考えている。大学は高校と同じだと思っている子どももおり、研究機関だということも知らない。先を見せることが必要である。焚き付け、意欲を出させて、上をめざして自分で稼げる人になってほしいと考えていて、それが使命だと思っている。</li> <li>○様々な子ども向けのイベントがあっても、参加費用や交通費がかかるので、余裕がある意識の高い人しか行かない。様々な体験や文化の知識・経験は、子どもの意欲、学力を底上げするが、初めから文化資本や経済資本を持ち合わせていない家庭の子どもは格差が生まれやすいので、そこをどう補充していくかが大事。</li> <li>○支援情報やイベントの告知などの情報提供については、小中学校でプリント配布やポスター掲示だけではなく、小さなコアな団体等に強く依頼して働きかけをしていただくほうが効果的だと思う。実際に信頼しているスタッフから興味のある子ども（または親）に声がけをすると、多くが参加する。知らずに機会を逃してしまっただけで、ご検討いただきたい。</li> </ul>

## 5 特定非営利活動法人 F O R Y O U にこにこの家

訪問日	令和3年12月3日	実施時間	15:00～16:00
対象者	にこにこの家職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>特定非営利活動法人F O R Y O U にこにこの家は、東中田地区を中心として平成7年からN P O 活動を開始し、地域福祉に取り組んでいる団体である。平成16年には地域の社会福祉法人や民生委員等19団体と連携する地域福祉ネットワーク「ほっとネット in 東中田」の事務局となり地域交流に取り組むほか、東四郎丸児童館の運営や子ども食堂等の活動を行っている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴、支援者との関係や子どもの貧困対策に効果的と思われる取組などについて話を伺った。子どもの特徴として、自己肯定感が低く、日常的な生活習慣が身につけていない傾向がみられるとのことだった。保護者の特徴として、ひとり親が多く、親族とのつながりがなく周囲から孤立している家庭も多い。新型コロナウイルス感染症の影響から、親の就労が不安定になり、児童クラブを辞める子どもが多いとの話も聞かれた。支援施策として、子どもの貧困対策として地域包括支援センターのような子育て相談窓口ができれば、生活環境や学習習慣などに課題がある家庭の課題整理と支援を総合的に行うことができるといった考えが聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>＜貧困であること以外にみられる背景や特徴＞</p> <p>○家庭支援の必要がある家庭が多い。ひとり親が多く、親族とつながりのない家庭も多い。</p> <p>○祖父母や親戚とのつながりが少なくなっており、同じ地域に住んでいても関係性が薄い。何かあったときに手助けや相談できるような方がいないため、ひとりで抱え込む傾向にある。</p> <p>○保護者自身も虐待を受けた経験がある場合や、精神的に不安定な状態にある。</p> <p>○子どもとの接し方がわからず、子どもの存在を負担に感じているケースもみられる。</p>			
<p>＜子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況＞</p> <p>○自己肯定感が低い。</p> <p>○早寝・早起き・朝ごはんなど日常的生活習慣が身につけていないため登校するのが10時や11時になる小学生もいる。それに伴って学習の遅れもみられる。</p> <p>○発育不良があるほか、ネグレクトによる孤立感や自己喪失感を抱え、他人とコミュニケーションがうまくとれない。</p>			
<p>＜子どもの保護者との関わり方での特徴＞</p> <p>○同調圧迫感を抱き、自己喪失感が強く、愛着障害がある。</p> <p>○親の顔を見て行動する。親の前ではよい子どもでも、外では他人に辛く当たる傾向がある。また、親との関わりが少ないため、親への抵抗感を強めてしまい、非行に走る傾向がある。</p>			
<p>＜保護者の方の子どもとの関わり方の特徴＞</p> <p>○子どもの幸せを願う親力が不足している。</p> <p>○ネグレクトの家庭がある。（食事を与えない。すぐ怒鳴る。家での暴力が心配な家庭もある。）</p> <p>○自分の価値観を押し付ける、抑圧する。</p> <p>○自己顕示欲が強い。（自分だけ着飾り、子どもはいつも同じ服を着ている。）</p> <p>○子どもの状況を把握していない。</p>			
<p>＜支援制度や支援者との関係での特徴＞</p> <p>○家庭内生活面までの支援が必要であるが、現在の支援制度では難しい面もある。</p> <p>○学校に呼ばれても出向かない親もいる。</p> <p>○学校や児童館、民生委員でも対応できないことが多くなっていると感じる。</p> <p>○支援者には、自分の私生活を隠す傾向にある。</p> <p>○支援制度の認識不足がある一方で、支援制度の本来の意図とは違った利用をする人もいる。</p>			

活動上の課題、その他の意見等
<p>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</p> <p>○父親から母親と子どもが虐待とネグレクトを受けていたケースについて、時間をかけて信頼関係を築き、地域のなかに居場所を見つけられるような支援を行うことができた。</p>
<p>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</p> <p>○生活環境、生活習慣、学習環境などに課題を抱えている家庭は、同時に親も就職や病気、人間関係、生活などに課題を抱えているが、申告できなかつたり、面倒と思ったり、個人的な感情や意思で申告しない家庭もある。</p> <p>○時間がない、理解できない、支援策を知らない、一人では行動に移せない家庭もある。</p> <p>○様々な支援制度があっても、支援が必要な人ほどつながらない。</p> <p>○学校や児童館、各区家庭健康課、児童相談所、発達相談支援センターなど単独での支援、および、ケア会議などによる支援の限界があると考ええる。</p> <p>○家庭の課題を総合的に踏まえ、支援計画を策定して全体調整をする機能がない。</p> <p>○家庭支援の必要な親子が住む地域に、学校や行政とネットワークでつながっている「身近な相談窓口」があると、支援につながらない家庭へのアウトリーチが可能になる。</p>
<p>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</p> <p>【連携している関係機関】</p> <p>○地域の小中学校・保育所・幼稚園、太白区家庭健康課・障害高齢課、仙台市社会福祉協議会太白区事務所、仙台市児童相談所、仙台市発達相談支援センター、みやぎ発達障害サポートネット・児童発達支援センター袋原たんぽぽホーム、地域福祉ネットほっとネット in 東中田、にこにこ児童館応援隊、子どもの放課後支援を進める会、宮城県児童館連絡協議会、仙台市児童館連絡協議会</p> <p>【連携内容】</p> <p>○児童や家庭に関する情報共有と支援相談、地域や家庭の課題の共有・連携など</p> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <p>○太白区家庭健康課、仙台市子供家庭支援課、仙台市子供相談支援センター、仙台市教育局教育相談課</p> <p>【連携したい理由】</p> <p>○総合的な家庭支援が必要なので、行政との連携が必須である。</p> <p>○各機関で課題を抱えている家庭に気づくことはできるが、人手が足りず、全てに対応できていないという課題がある。</p> <p>○子育て支援相談の窓口としてつながりある支援者との共有、協力が必要である。</p>
<p>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</p> <p>○母子・父子家庭医療費助成：医療費の削減、免除は子育て支援になる。</p> <p>○母子父子寡婦福祉資金貸付：貸与でなく、(保証人がいれば) 無利子貸付となるためよい。</p> <p>○修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）：調査をしっかりともらえれば有効。</p> <p>○子ども食堂：支援の必要な家庭につながる工夫が必要。</p>
<p>&lt;子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について&gt;</p> <p>○支援制度の見直しをするとともに、新たな支援のあり方の構築を望む。</p> <p>○助成金や現金支給は子どもの貧困対策の一部にはなるが、本当の支援にはならない。</p> <p>○間違った子育ての連鎖を断ち切ることが子どもの可能性を大きくする。知らないことや気づかないことのために、親子関係や家庭の破壊を招くことになり、子どもの未来をゆがめてしまう傾向があると思う。</p> <p>○高齢者のための「地域包括支援センター」のような「子育て家庭相談窓口」ができれば、ネットワークを組みながら、地域に密着した家庭支援や子育て支援ができると考える。</p> <p>○「貧乏」ではなく、「貧困」となっている原因を鑑みた総合的な継続支援が必要である。</p>

**<希望する支援策>**

○10 年後の未来を考えると、子どもの貧困対策として、地域包括支援センターのような子ども家庭支援バージョンが必要である。生活環境、生活習慣、学習習慣などに課題がある家庭の課題整理及び生活、就労、子育てなどの支援を総合的に踏まえ、支援計画を策定し、全体調整を行う地域の子育て応援窓口の設置を希望する。中学校区毎に区の家庭健康課と学校、地域の子育て支援団体などが連携し、家庭支援・子育て支援体制の構築を図り、子育て・子育て応援窓口として活動をする。地域による課題の把握を行い、共有し、活動を進める。

## 6 社会福祉法人仙台市社会事業協会 仙台つばさ荘

訪問日	令和3年12月7日	実施時間	10:00～11:00
対象者	仙台つばさ荘職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>仙台つばさ荘は、社会福祉法人仙台市社会事業協会が設置している母子生活支援施設である。母子の抱える様々な課題を前向きに解決し、自信や自尊心を育むことを目標としながら、母子が社会においてたくましく生活していけるよう、利用者に寄り添う支援に努めている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、施設に入所している母子世帯の状況についての特徴や広報等の課題などについて話を伺った。施設の入所は2年から3年で終了するため、その間に、離婚や母親の就労という課題の解決に向けて取り組んでいる。保護者の8割程がDV被害者であり、その子どもも暴力を受けている場合も多いため、支援を行うにあたって、信頼関係を築くのに時間を要するとの話が聞かれた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、在宅勤務や失業につながり、そのストレスからDV被害が増加している状況について聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○離婚や親権、養育費など法的な問題の整理が進んでいない。調定等の手続きに際して、母親がフラッシュバックによって精神的なダメージを受け、疲弊してしまう場合が多い。</p> <p>○母親に就労経験が少ない場合もあり、ハローワーク等の公的機関における事務手続きに困難を抱えている。</p> <p>○7割、8割がDV被害を受けている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響を受けた2年間は、さらにDV被害が増えたと感じる。</p> <p>○入所している世帯の3分の1程度の子どものに障害があるが、必要な手当がされていないことが多い。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○金銭的な都合で、習い事ができない子どももいる。</p> <p>○共通して学習面の遅れがある。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○生活面は苦しい中でも工夫している。</p> <p>○母親の就労の選択肢に正規採用が入っていないように感じる。非正規雇用を選ばざるを得ない構造だということである。</p> <p>○収入に加え、児童扶養手当と児童手当の収入があるので、何とか生活ができている状況である。それで生活できない場合は生活保護を一部受給することになる。生活保護の受給家庭について、以前は入所者の3～4割だったが、現在は7割程度となっている。</p> <p>○雇用状況に新型コロナウイルス感染症の影響は出ている。特に、飲食店に勤務していた母親は失業したケースが多い。</p>			
<p>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</p> <p>○支援制度は大変多いので、ひとり親家庭用の支援情報冊子を入所時の面接の際にも渡して説明し、その方にふさわしい情報提供をするようにしている。</p> <p>○居場所づくりということで、無料学習塾を並行して実施している子ども食堂もある。そのような活動が市民に広がっていることは、子どもの貧困対策にとってありがたいことだと思う。</p>			

活動上の課題、その他の意見等
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○障害（知的障害・発達障害）を持つ子どもへの対応として、アーチルに相談する際、親自身も障害をもったまま大人になっているケースがあるため、親も一緒に診ていただくと共に、職員も障害についての対応方法やアドバイスを聞く。施設職員は素人なので、すぐに診ていただき、判断を仰ぎたいという思いがあるが、診てもらうまで時間がかかるのが課題である。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○DV被害を受けた子どもと信頼関係を築くためには集団対応ではなく、1対1の個別対応が必要であり、時間を要する。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <p>○福祉事務所、児童相談所、北部アーチル、小・中学校、精神科病院、産婦人科、弁護士事務所、フードバンク・生協、NPO法人</p> <p>【連携内容】</p> <p>○入退所・入所者への指導・相談、虐待関連、障害関連、学習・生活、依存症・精神障害・心理療法、出産後の受け入れ・女性特有の疾患、法的な対応、食料支援</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○母子生活支援施設自体がマイナーな施設である。全国的に、役所の福祉担当者でもセンターの存在を知らない方もいる。</p> <p>○母親はスマートフォン世代なので、紙媒体で発信しても受け取られない場合もあると思う。SNS等による情報発信や、スマートフォンでも見やすいホームページだとよい。</p> <p>○「母子・父子家庭医療費助成」や「ひとり親家庭等日常生活支援事業」、「子育て支援ショートステイ」、「育児ヘルパー派遣」などの支援制度を活用している。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について&gt;</b></p> <p>○奨学金返済の支援</p>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <p>○返済不要な奨学金制度を実現してほしい。</p>

## 7 仙台市 スクールソーシャルワーカー

訪問日	令和3年12月7日	実施時間	14:00～15:00
対象者	仙台市スクールソーシャルワーカー（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>スクールソーシャルワーカーは、子どもの、学校だけでは対応が難しい課題の解決を図るため、その背景にある様々な環境面に働きかけ、社会福祉的な視点に立った専門的な助言や教職員などとチームを作り関係機関との連携調整などを行っている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもの特徴や、保護者の特徴、生活面や就労面での特徴、子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組などについて話を伺うことができた。保護者の特徴として、心身の不調や親自身の生育歴の課題、仕事が忙しく、子どもに向き合えないなど、様々な困難を重複的に抱えている状況について聞いた。生活に余裕がない家庭では、周囲の協力や支援を受けて生活の改善を図ることや子どもの教育について考えることを断念してしまう傾向があるとのことだった。子どもの貧困対策に効果的な取組として、直接子どもと保護者を支援するほか、包括的に地域で支える体制が必要になるとの意見が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○貧困以外にも夫婦の不仲、DV、心身の不調、障害、発達特性、介護、家族構成や居所が頻繁に変わる、保護者自身の生育歴の課題、仕事が忙しく子どもに向き合えないなど様々な困難がある。その困難は、一つだけではなく重複し、悪循環や世代間連鎖を起こしていることが多い。</p> <p>○保護者は、近隣付き合いの希薄化、核家族化、ひとり親、病気、共働きなどの家庭環境により、保護者の孤立や育児の方法が分からない、周囲からの批判を避ける、夫婦間や保護者が子どもと向き合う時間が作れないなど様々な不安を抱え、養育が困難となることがある。</p> <p>○困難な家庭状況ではなくても、子どもの課題で、保護者が悩みを抱えることで困難を抱える家庭になるリスクもあるといえる。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○学校生活において、衣類の乱れや身体の不衛生さ、文房具や体育着などが揃わない、校納費や活動費の支払いが滞るなど必要なものが揃えられていない子どもの背景には、親の家計管理が十分ではない状況や生活維持が優先になり、子どもに関わることが難しくなりやすい状況も見られる。</p> <p>○生活リズムや食事などの不規則さ、親が子どもにゲームなど買い与える物の選択や制限ができないなどの生活環境は、子どもの学力や意欲に影響を与える。子ども自身の能力や家庭状況などの心理的、物理的な不足は、学習や集団生活、友達との関係の中で、劣等感や葛藤を起こしやすく、他者から差別されているという気持ちや学校に行けなくなることもあると感じる。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○親子関係の構築が不十分で、親離れが出来ない、注目行動として保護者を困らせる、過剰な適応行動をとるなど、親子関係において様々なコミュニケーションの難しさが生じる。そして、保護者の子どもの養育しにくさや子ども自身の経験不足、無気力、他人への不信感などにつながり適切な自己決定が難しくなることで、生活のしづらさとなる。</p>			



<p><b>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</b></p> <p>○ひとり親家庭では、非正規雇用やパートが多く、中には仕事を複数回変えているという状況もみられる。共働きやダブルワークで生活を維持している家庭もあり、経済的・時間的に保護者の余裕がなく、子どもの経験不足、夫婦間のコミュニケーション不足がみられる。親が新型コロナウイルス感染症の影響で働けなくなることを心配し、家庭内でも神経質になることで、子どもが感染不安になるということもあった。</p> <p>○保護者が心身の不調や障害を持っている場合は、生活保護につながる世帯も多い。保護者の体調に合わせた子どもの生活リズムとなったり、簡単な食事になったり、体調が悪くても受診を控えるなど、子どもに十分な日常生活の世話をすることが出来ないことがある。子が親に代わって兄弟の世話をしている家庭もみられる。</p>
<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <p>○保護者が子どものことで悩むことがあっても誰にも相談できず、子どもへの関わりにくさになる。</p> <p>○保護者が子どもの反抗的な態度に困ったり、子どもの自発性のみに任せたり、家庭の問題を外に出さないことで悪循環が生まれてくると思う。</p>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○保護者が家庭の問題を外に出さないようにしている状況では、周囲と協力しながら、家庭生活の改善や子どもの将来を見据えた教育について考えることを断念してしまう。また、支援機関と対立関係になってしまうこともある。</p> <p>○一方では、周囲が保護者の相談内容を受け止め切れなかったり保護者が情報をうまく利用出来なかったりすることもある。</p> <p>○制度やサービスだけで解決するのは難しく、人による支援が大切であると思う。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○スクールソーシャルワーカーは、学校と保護者が協力できるように仲介し、学校が子どもにとって学び、成長できる場所となるように考え、子ども、保護者、教員、地域の関係機関と共に家庭生活の安定と子どもの進路等将来の自立を目指したキャリア教育を考えた。</p> <p>○保護者には伴走し、必要な情報提供を行い、制度の利用や必要な時には相談して子どもや家庭の生活に起きる困難を自ら解決していく力を引き出した。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○学校からスクールソーシャルワーカーに相談が来る時には、課題となっている状況が長期に渡って解消できていない状態が多く、相談してもらうまでに時間がかかっている。</p> <p>○難しい対応が多いので、スクールソーシャルワーカーの資質の向上と相談にすぐに対応できる体制が課題と思う。</p> <p>○乳幼児期→小→中→高校→社会とステージが変わると関わる人も体制も変わるので、支援継続ができるような引継ぎをしていきたい。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>○行政および民間の経済的支援、各制度手続き、手帳発行、学習支援、就労支援、教育相談、家計相談、食糧支援などを行っている機関と連絡や会議及び同行支援などを行い連携している。</p> <p>○今後は地域の支援機関とも連携していきたいと思う。</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○子どもに対する居場所や教育的な制度や支援は、まだまだ不足していると思うので、これから増えていくことを期待したい。それを適切に利用できるようにしていくことが大切だと思う。</p> <p>○困った時に相談しやすい窓口や使える制度や支援が一目でわかるパンフレットなどがあると利用につながりやすいのではないだろうか。</p> <p>○学校で把握した家庭を地域につないでいくためにも、包括的に地域で支える体制を整えていければと思う。</p>

**<子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について>**

- 福祉ニーズがある子どもやニーズがあっても表には見えにくい子どもがいるため、学校と福祉の連携ができるような体制作りを担いたい。
- 家計管理の問題は解決までに時間がかかるため、子どもの生活を維持するために、直接子どもを支援する方法があると子どもの支えになるのではないだろうか。
- 子どもが一人で登校できなくなった時に保護者以外で登校を一緒にしてくれる人がいると登校できる場面も増えて、学習の保障ができると子どもの自立につながるのではないだろうか。個別対応が必要な時には対応できる場所と人材があると、もっと効果的な支援が出来ると思う。

**<希望する支援策>**

- 子どもだけへの支援ではなく、家庭全体を把握して家庭の課題に必要な支援につないでいくことが必要になることから、スクールソーシャルワークが定着していき、市行政や地域と連携して支援ができることが望まれているのではないかと思う。
- 子どもと保護者の問題となる行動や生活課題の背景を見立てて理解をしていくことがワンストップでできるようにしていくことと、予防や早期発見から課題解決までのプロセスと連携の流れやマネジメントを行う機関の明確化など、包括的に支援ができる仕組みができるとよいと思う。

## 8 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家乳幼児ホーム

訪問日	令和3年12月9日	実施時間	14:00～15:00
対象者	丘の家乳幼児ホーム職員（3名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>丘の家乳幼児ホームは、社会福祉法人仙台キリスト教育児院が設置している乳児院である。児童相談所を通じて受け入れた乳幼児について、「丈夫でたくましく、情緒豊かな子どもに」「自立心と社会性のある子どもに」という養育目標を掲げ、入所時に担当保育士を割り当てる個別担当養育制のもと、乳幼児達が安全・安心に暮らせるように養育を行っている。</p> <p>ヒアリングは、3名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもの特徴や、保護者の子どもとの関わり方の特徴などについて話を伺った。施設を利用している家庭には、ひとり親や生活保護受給世帯が多いとのことだった。夜間の仕事に就く保護者の生活リズムに影響を受けて、子どもが学校や保育所に行けないこともあるとの話が聞かれた。保護者は、コミュニケーションをとることが苦手なため、支援者と適切な距離感をとるのが難しく、支援にもつながりづらいといった状況についても聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>＜貧困であること以外にみられる背景や特徴＞</p> <p>○社会とのつながりが少なく、支援される側であることが多い。生活保護受給家庭が多く、ひとり親、若年出産、未婚出産、兄弟が多いなどの傾向が見られる。そのほか、家の中が不衛生であったり、子どもの虫歯率が高い、計画性がなくお金の管理ができないといった特徴も見られる。</p> <p>○パートナーが次々と変わり妊娠しやすい。親の実家庭との関係が悪く、支援が難しい。</p>			
<p>＜子どもの生活や学習の様子、退所後の生活で特徴的な状況＞</p> <p>○親の生活リズムに影響され、学校・保育所に行けなかったりする。</p> <p>○割合として多くはないが、生活が安定せず、再入所や他の児童福祉施設に入ることがある。</p> <p>○食事メニューが食べられず進まないか、極端に食欲旺盛。</p> <p>○体調をくずしやすく、肌が乾燥ぎみ。</p> <p>○オムツがよごれても不快に感じない。虫歯が多い。</p>			
<p>＜子どもの保護者との関わり方での特徴＞</p> <p>○子どもは親の顔色を見て生活していることが多く、自分のやりたいことができていない。</p> <p>○主体的に動けなかったり、十分に甘えを表出できない。</p>			
<p>＜保護者の方の生活面、就労面での特徴＞</p> <p>○他者とコミュニケーションをとることが苦手なことから、夜間の仕事や一人で行う仕事に就く傾向がある。また、就労が続かず、トラブルで辞めることや転職が多い。</p> <p>○能動的に支援を受けにくい。</p> <p>○指導が入らず、課題意識が薄い。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大の影響により、飲食店に勤めていた保護者は失業している方が多い。</p>			
<p>＜保護者の方の子どもとの関わり方の特徴＞</p> <p>○親が自分のことに精一杯で、子どもは二の次になることがある。</p> <p>○養育スキルは低いが、ほとんどの方は愛情があって、子どもと一緒に暮らしたいと思っている。</p> <p>○子どもに依存する、または子どもとの関係が希薄であるなど、極端である。背景にはメンタルの波もある。</p>			

<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○相手が自分にとって敵か味方か、極端に考える。一度関係がこじれてしまうと再建が難しい。</p> <p>○人への信頼感が薄く、関係づくりや、支援者と適切な距離感をとるのが難しい。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○親自身、家計管理ができないため、その子どもも教わっていない。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <p>○児童相談所（県、市）、市町村・区役所の家庭健康課、保育所と家庭状況・課題の共有、予防接種や健診について連携</p> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <p>○親が通う精神科医師と情報交換を行い、親の症状も把握したうえで関わりたい。</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○生活保護の制度を正しく理解していないことが多く、受給に抵抗感がある。</p> <p>○乳児院、ショートステイを知らない人が多い。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について&gt;</b></p> <p>○子育て支援ショートステイについて、空きがなく断らざるを得ないケースもある。さらにコロナの影響もある。</p> <p>○育児ヘルパー派遣の対象期間を延ばし、見守り支援として普及されたい。</p> <p>○放課後支援を充実させることで、子どもを安心して預けられるようになり、それが親の就労のサポートにつながる。費用面や予約手続き、定員の事情で放課後支援を利用していないかと思う。</p> <p>○一人ひとりに目が届く少人数教育や教育の無償化、妊娠期からの継続した支援、ひとり親家庭の支援が必要である。</p>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <p>○児童相談所、区役所との関係を密にされたい。区役所を窓口に対施設のショートステイを受けているが、ショートステイのケースなのか、あるいは児童相談所が受けるべきケースなのか、その問題の所在が、もっと区役所と児相が連携を密にして連絡を取り合っていればわかっているようなケースも突然出てきたりする。</p> <p>○施設から家庭復帰するにあたり、子どもが通う保育所の枠を確保してほしい。</p> <p>○仙台市で児童相談所の数が1か所だけというのは少ないと思う。区ごとがベストであるが、せめて複数か所設置してほしい。</p> <p>○仙台市と宮城県で施策のすり合わせをしてほしい。</p>

## 9 社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家子どもホーム

訪問日	令和3年12月9日	実施時間	15:00～16:00
対象者	丘の家子どもホーム職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>丘の家子どもホームは、社会福祉法人仙台キリスト教育児院が設置している児童養護施設である。児童相談所を通じて受け入れた子どもについて、より家庭に近い生活機能を持った建物で過ごしながら適切な養護を行うことで、家族の再統合につなげていく活動を行っている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴や支援上の課題などについて話を伺った。生活保護世帯が多く、かつては経済的な貧困を理由とする入所が中心だったが、現在は、若くして親になった方を中心に精神的な貧困から子育てができないために入所するケースが見受けられるとのことだった。保護者の子育てについての関心の低さから、子どもたちの自己肯定感が非常に低くなっているとのことだった。多くの支援や制度があっても、保護者に届いていない場合や、支援を拒絶する保護者について話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○生活保護世帯が多い。</p> <p>○電話がつながらず、日常的に連絡が取りにくい。</p> <p>○貧困は経済的なものだけでなく、精神的な貧困が伴うと考えている。「子どもをきちんと育てよう」「預けてもしかたがないが、立ち直り、子どもを引き取れる生活に戻ろう」と考える力が非常に弱くなった状態である。子育てをきちんと捉えることができず、子どもを預けて、自分の自由な生活をしたいという傾向があるように感じる。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子、退所後の生活で特徴的な状況&gt;</p> <p>○学習習慣が身につけていないため、勉強に対して意欲的でなく、成績が悪い傾向にある。背景として、親が子どもの学習に対して関心が低いことがあると考えられる。その結果、子どもの自己肯定感が非常に低くなっており、「どうせ勉強してもだめだ」というような考えをもち、高校受験に対する意欲も欠けてしまう。</p> <p>○特別支援を利用する子どもも増えている。親も精神疾患を抱えている場合が多く、それが虐待につながる等、すべての項目が連鎖する傾向にある。</p> <p>○自立（就職）後に転職したり、無職になったりする傾向にあり、家族もその事態を支え切れないという状況である。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○子どもを連れて家庭訪問した際に、在宅のはずであっても親が出てこないケースもあり、子どもの親に対する気持ちが、ますます落ちてしまう。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○施設ときちんと連絡を取り合える親が多いが、なかには不明な点が多い親もいる。例えば、何の仕事をしているのかわからない、夜の仕事だとしても、どのような場所で、どのような仕事なのか、また詳しい就労時間帯も不明である。</p>			
<p>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</p> <p>○約束が守れない。</p>			
<p>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</p> <p>○生活保護は受けていても、他の支援の説明に関心を示さない親もいる。拒否的になったり、関わりを面倒だという感情を持つ親も1、2割いる。</p> <p>○困難を抱える家庭には、就労等の普通の生活を展開できない場合と、精神疾患を抱え、なかなか施設との関係をうまく結べない場合の2通りがある。</p>			

活動上の課題、その他の意見等
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○家族にとっては、子どもを手放すということ自体が一大事だと思う。「手放している」という認識が継続できず、子どものいない生活が当たり前になってしまう方がおり、子どもを預かったことで悪い方向に進んでしまうことになる。家庭訪問等により、施設にいる子どもへの関心を継続してもらえるように、工夫をする必要がある。</p> <p>○施設の子どもは、まちがいなく全員が「家に帰りたい」と考えている。入所する子ども自身が言っていることであり、入所自体が子どもにとって不本意なことである。どのようなことがあっても「親と暮らしたい」と考えている。それを親が受け止められない状況になると、施設の支援が頻繁になり、高度になるため、児童相談所や保護課と連携をとりながらのアプローチを考える。</p> <p>○親子の関係を結ぶチャンスとなる学校の授業参観や運動会、学習発表会があることは必ず伝えるようにしているが、参加してくれる親と応じない親がいる。</p> <p>○子どもを預かる側として高圧的に親に意見するのではなく、施設は子どもを中心にどのようにしたらよいかを考え、親に接している。子どもに不具合が生じるような対応をする親には、関係機関とも連携して、何とか子どもに目を向けるようになっていただけるように努めている。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○子どもと暮らすことができる生活スタイルを確立してもらうために、親の就労や就労意欲への基本的な支援が必要。預けていることに引け目を感じてしまわないよう、子どもを中心に考えて、一緒に育てていると思ってもらえるよう接している。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <p>○福祉事務所（保護課・保健師）、児童相談所、各学校と連携している。</p> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <p>○民生委員児童委員と連携したい。機動力のある支援、細かな支援が必要だと考えている。</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○多くの支援や制度があるが、実際に届いていないということが課題だと思う。</p> <p>○生活保護は基本的に生活自体を支える制度であるが、その他の細かい制度でその人に合ったものが提供できればよいが、支援される側と支援する側のミスマッチが起きているように思う。</p> <p>○保護者に制度等を紹介するが、「必要ない」という返事が返ってくることが多い。そのような情報を伝えてくる人たちを「煩わしい」と感じる傾向が強い。</p> <p>○高校生等には修学支援新制度を紹介している。</p> <p>○退所後のアフターケアは必要だと考えている。迷ったり困ったりすることは、だれにとってもあることで、相談してよかったとふり返って思うことがある。そのときにどのように対処するかという知恵を、施設で身に付けるということが必要である。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について&gt;</b></p> <p>○貧困に対する認識の統一が必要である。</p>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <p>○特に社会的養護ケースについては地域支援が欠かせない。施設出身の子どもに対して、「かわいそう」という偏見が、まだまだ残っている。「よくがんばっているね」という言葉の後ろには「かわいそう」という感情があると思う。</p> <p>○民生委員等だけでなく、地域に居る一般の市民に関心をもっていただき、実態に即した地域支援が必要。</p>

## 10 仙台市 児童相談所

訪問日	令和3年12月10日	実施時間	13:30～14:30
対象者	仙台市児童相談所職員（2名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>児童相談所は、児童福祉法に基づき、子どもの福祉を守るために設置されている機関であり、子どもに関する様々な問題について、児童福祉司・児童心理司などの専門スタッフによる面接や家庭訪問等による必要な援助、一時保護や施設措置等を行っている。</p> <p>ヒアリングは、2名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもと保護者の関わり方での特徴や、対応に関しての課題などについて話を伺った。特徴として、保護者自身の疾病やDV被害歴、保護者自身が恵まれない養育環境で成育してきたことなどの背景がある場合や、親子に知的もしくは発達障害等を抱えている場合もみられるとの話が聞かれた。また、子どもと保護者の関わり方において、過干渉（子どもに依存）または養育放棄するなど、距離感が適切ではなく、子どもにとって保護者が頼れる存在にないとの話が聞かれ、子どもが抑うつ的、反抗的または暴力的になりやすい傾向にあるとのことだった。保護者から子どもへの関わりの改善には時間を要するため、子どもの自立支援の必要性についても話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○保護者自身の疾病やDV被害歴、保護者自身が恵まれない養育環境で成育してきたことなどの背景がある。</p> <p>○親、子どもそれぞれ知的もしくは発達障害等を抱えている場合がある。</p> <p>○一時保護を要する家庭については、ひとり親家庭等が多い。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○家庭での問題だけでなく学校等での適応が難しく、さらに、自己肯定感が低く抑うつ的になる、行動が激しくなるなど、解決が難しくなっているケースもある。早い段階から支援が必要な子どもが目立つ。</p> <p>○保護者自身が適切な生活リズムを作る、適切な関わりをすること等への意識が乏しく、子どもが適切に登校できない。また、登校しても学校で落ち着かず学習に取り組むまでに至らない、集団の中で適切に振る舞えず適応できない等の様子がある。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○愛着関係が希薄で、子どもにとって保護者が困ったときに相談できる相手、頼ってよい相手になっていない。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○保護者自身の生活そのものが整っていない。</p> <p>○コロナ禍によって飲食業の保護者が追い込まれたことで困窮するような家庭はあるが、コロナ禍による生活苦から職業替えをしたという例は少ないように思う。</p> <p>○就労意欲が乏しいことや逆に子どもとの生活に合わせた就労時間や就労形態になっていないなどの課題があり、夜の職業に就いているために、子どもが夜間に外出して保護されている事例も見られる。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○過干渉（子どもに依存）、または子どもへの関わりが希薄・養育放棄するなど、子どもとの距離感が適切ではない。子どもに依存する保護者は精神的に不安定な場合が多く、子どもとトラブルになりやすい。</li> <li>○子どもに問題があると捉えていて保護者自身の関わり方を振り返ることが少ない。十分に話を聞く、一緒に何かをする等、大人側が子どもを育て成長のために適切な関わりをする必要があるとの意識が乏しい。</li> <li>○若年の保護者は育児にも余裕がない場合が多い。</li> <li>○祖父母や親戚などに頼れない状況がある。祖父母も仕事で精一杯であったり、生活保護を受けていたりしていて支援者自体の力も落ちている。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援者、特に支援機関とつながりづらく、また仮につながったとしても、感情的な軋轢を生みやすく、長続きしない傾向がある。人と長期的な信頼関係が築けないために、シャットアウトされる場合も少なくない。</li> <li>○支援者が考える家庭の課題を当事者と共有できない状況がある。本人は課題として捉えていないため、支援を提案したとしても拒否されてしまう。</li> </ul>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭の状況や保護者から子どもへの関わりの改善には時間を要するため、支援者が子どもの自立を支えていくことが必要。学校や保育所・幼稚園等の地域において子どもの生活に近い機関の支援が重要。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や保育所・幼稚園等の所属先は、子どもにとって一番身近な支援機関なので、子どものＳＯＳをキャッチする感性や子どもが自立していくまでの長期的な視点を持つ等の意識の共有や、これまでの役割から一歩踏み込むことを共通認識とすることが必要。</li> <li>○保護者からのＳＯＳが入りやすくする工夫やサポート体制を強化する必要がある。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p><b>【連携している関係機関】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○区役所、児童養護施設、発達相談支援センター（アーチル）、学校、保育所・幼稚園、警察等</li> </ul> <p><b>【連携内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有、役割分担、サービス利用等</li> </ul> <p><b>【今後連携したい関係機関】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専門相談機関として、はあとぼーとや障害者の相談支援事業所と相談・サービス利用等で連携したい。</li> </ul>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート）、高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）等、学習支援事業の重要性を感じる。学校に行けない子どもの対応もしているため、今後も力を入れてほしい。</li> <li>○ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）について、家庭に他人が入るのを嫌う保護者も少なくないので受け入れやすさへの工夫も必要ではないか。</li> </ul>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小規模な相談場所が多数分散している印象があり、効果的な支援につなげるため、地域での相談を区役所等に集約できるとよい。</li> <li>○子育て支援ショートステイの受け皿を増やすための施策に力を入れてほしい。</li> <li>○多くのモデルとなる大人との出会いができるような大人と接する機会を作る必要がある。子ども食堂をはじめ、地域生活の中で様々な支援を増やし助成等をしていく必要があるのではないかと考える。</li> </ul>



## 11 認定特定非営利活動法人 STORIA

訪問日	令和3年12月13日	実施時間	11:00～12:00
対象者	S T O R I A職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>認定特定非営利活動法人S T O R I Aは、子どもの居場所開設による食育や学習支援、非認知能力を伸ばす体験学習など、困難を抱える家庭の子どもやひとり親（シングルマザー）等の支援活動を行い、子どもの貧困対策に取り組んでいる。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもの特徴や保護者の特徴、現在の制度・支援の課題や貧困対策に効果的と思われる取組等について話を伺った。保護者の特徴として、仕事と家事育児等で時間的・精神的かつ経済的余裕もなく、総じて多くのストレスを抱え、相談できる人や場がなく一人で悩む傾向があるとのことだった。子どもと保護者とのコミュニケーション不足から、子どももコミュニケーションが苦手になり、友人関係等で困難を抱えることが多いとの話が聞かれた。保護者が困ったときに頼れる存在として、伴走型の支援を行うことの重要性や、支援の過程で相談員が受ける精神的負担のケアについても話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○保護者ご自身が実家との関係や夫婦関係のつまずきから人間不信が大きく、孤立傾向が強い。そのため、困ったときに頼れる存在がいない。また、自己肯定感や援助希求力も低いことから、課題を抱えていてもその解決に困難を要する。</p> <p>○そのため、複数の課題を抱えつつも、とにかく「今、目の前のこと」に取り組むことで精一杯で、長期的展望を描く精神的余裕がないことから、ますます課題解決が困難になり、それが子ども世代にも連鎖している。</p> <p>○ひとり親世帯が多いが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ふたり親世帯においても経済的困窮度が増している世帯が多いことから、経済面のみならず養育環境の悪化への懸念がある。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○保護者が仕事で多忙、もしくは体調不良ゆえに、愛着形成や養育（手がけ）が不十分なことが多いため、基本的な生活習慣（挨拶・身だしなみ等）や生活リズムの構築が難しい。また、時間的制約等で保護者とのコミュニケーションが不十分なため、子ども自身もコミュニケーションが苦手で、感情を言葉で適切に伝えられずに学校での友人関係等で困難を抱え、不登校になることもある。</p> <p>○学習習慣も身に付きづらく、勉強の遅れから学習意欲が低下し、不登校になるケースもある。ただし、その分、子ども自身が安心できる居場所があれば、そこで自分の好きなことに挑戦するなどして自主性を育み、また、居場所で必要とされることで自己肯定感や自己効力感を伸ばしていく子どもも多い。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○保護者自身が精神的に安定していない場合が多いことから、自分の安全を確保するために自分の感情を抑え、保護者の顔色をうかがう子どもがいる一方、保護者からの愛情を欲するがゆえに注意をひこうと、無意識に問題行動を起こす子どももいる。</p> <p>○また、体調不良（時にネグレクト）の保護者の場合は、子どもがいわゆる「ヤングケアラー」として家事や保護者・きょうだいの世話（精神的なものも含む）等を担い、保護者もそれを頼りにしているケースもある。そのような子どもは、それが当たり前だと考え、自分がヤングケアラーとは気づいていないことが多い。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</b></p> <p>○保護者は仕事と家事育児等で時間的・精神的かつ経済的余裕もなく、保護者は総じて多くのストレス（物理的・心理的）を抱えている。就労に関しては非正規雇用が多く、正社員であっても月給が低く、生活していくことに困難な状況である。</p> <p>○特に、飲食店勤務の人が多く、新型コロナウイルス感染症の影響により就労時間が減っている。休業手当がもらえなかった人もいる。</p> <p>○生活保護の申請手続きを助けてくれる人がおらず、申請をあきらめる人も多くいる。</p>
<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <p>○保護者に時間的・精神的余裕がないため、子どもとのコミュニケーション不足となることが多い。関わり方も各家庭で多様であるが、特徴的なのは、放任、または逆に「きちんと育てないといけない」と思うがゆえに厳しく叱ってしまうなど、感情的な関わりになりがちな点である。保護者自身もこれではいけないと自己嫌悪感に苦しむものの、相談できる人・場もなく一人で悩む傾向がある。</p> <p>○保護者は、子どもが進学を希望すれば、私立高校や自宅外の大学等に進学させてあげたいと考えるが、今の経済状況では難しいので、「お金を借りたい」という相談を受けることがある。子どもの希望を叶えるために、何とか自分で工面しようと苦心する様子も見受けられる。</p>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○保護者が求めているのは、児童扶養手当等の給付型の支援制度である。保護者が自身の親との愛着形成が不十分だったことから、支援者に次第に甘えるようになる場合や、愛情を試すようにきつい言葉で支援者を挑発する場合もある。これは、保護者がこれまで得られなかった人間関係構築スキルを取り戻すプロセスであるため、支援者は一定の距離感を保ちながら、そのプロセスを支えていく役割を果たしている。</p> <p>○DV等の相談では、相談を受けた側も追体験をすることがわかっており、相談員も痛みを感じている。精神的に厳しい仕事のため、重い案件には、必ずチームで臨んでいる。相談員は全員、月1回、カウンセラーによるこころの健康診断を実施している。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○ひとり親家庭の母親と子どもに対して、相談員によるカウンセリングのほか、区役所や学校、地域と連携しながら継続的に対応を続けたことで、困った時に頼れる関係性を築くことができた。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○困っている子どもは多くいるが、その子どもに直接出会うことが難しい。また、同情されたくないという思い等から保護者が支援を拒絶すると、それ以上は踏み込むことが難しいことが課題である。子どもに重い障害や病気などがある場合は専門家の力が必要だが、子どもの対応に関しては、当法人はこれまでの経験からのノウハウがあるため、大きな課題はあまりない。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p><b>【連携している関係機関】</b></p> <p>○仙台市区役所等、仙台市母子家庭相談支援センター、NPO法人アスイク、NPO法人ハーティ仙台、フードバンク仙台、福室小学校・中野中学校・福室児童館、幸町小学校・幸町南小学校・幸町児童館、高砂市営住宅西区町内会、幸町連合町内会、民生委員児童委員、母子生活支援施設、医療・臨床心理士</p> <p><b>【連携内容】</b></p> <p>○関係機関からの情報提供（DV相談・子育て相談等の支援内容、支援制度等）や、各専門分野のアドバイス、および支援している家庭の紹介や支援に関する情報共有</p>

### <現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について>

- 仙台市のホームページや情報発信では、媒体や情報量の制約から、該当者に必要な内容が伝わりづらく、なかなか支援につながらないケースある。仙台市の課題というよりも広報の打ち出し方としては行政の立場からすると仕方がない。民間と協働を行いながら創意工夫をしたアウトリーチができるかというのではないかと。
- ひとり親家庭というと母子家庭に特化した支援が大半で、父子家庭の父から「どこに連絡したらよいかわからない」という話も聞く。間口を広くするほうがよいと思う。
- 母子・父子家庭医療費助成：立替ではなく初めから相殺される形だと、より有効性・利便性が高まる。
- 母子・父子寡婦福祉資金貸付：（保証人がいれば）無利子のため、学費の借入手段として非常に有効。ただし、手続き上区役所へ数回足を運ぶ必要があること、申請から入金まで時間を要するのが難点。
- ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業：制度が煩雑、わかりにくい。
- ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業：職業的自立の促進としては、非常に有効と考える。制度利用者のその後の経済的自立について検証できると、さらに制度の有効性につながると思われる。
- ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）：認知度が低いように感じる。できるだけ緊急対応も可能な体制であるとありがたい。
- 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート）、高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）：中学生の学習支援を望む声は非常に多く、児童扶養手当一部支給の世帯も対象としてもらえるありがたい。状況に応じて家庭支援もしていただけるため、難しい養育環境にある世帯が多い現状において、非常に有効性が高い。
- 養育費保証契約保証料補助：認知度がかなり低いように感じる。養育費に関し公正証書を交わすことの重要性の周知も合わせて行うことが肝要かと思われる。
- 母子・父子家庭相談支援センター：母子家庭相談支援センターは、セミナーやイベントを通し広く啓蒙を行っている点が有効と感じる。しかし参加者が少なく広報や実施時間がやはり課題と思われる。参加者の声を集約・共有等できる機会があると、より連携が深まると考える。
- 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」：ワンストップで支援していただけるので、とてもありがたいが、担当部署が変わると相談者本人がまた最初から同じ話をしなければならず精神的負担が大きいケースもあり、内部での連携体制を強化していただけると、さらにありがたい。
- 家計相談プラザ（家計改善支援事業）：家計に関し幅広く対応していただける点でとても心強いですが、平日は仕事のため利用できない相談者も多いため、土日も開設していただけると大変ありがたい。
- 病児・病後児保育：実施施設は各区に複数あると、より利便性が高まり望ましい。
- 子育て支援ショートステイ：利用希望の多くは「出産時にきょうだいを預かってほしい」ケースだが、帝王切開等でない限り出産日が未確定のため利用予約が困難になってしまう。利用の柔軟性を改善していただきたい。
- 育児ヘルパー派遣：「○日前までに要予約」ではなく、母親の急な体調不良等の緊急時にも対応可能な体制だとありがたい。
- 児童生徒就学援助制度：「いったん立替→後日支給」ではなく初めから支払い不要の仕組みを構築できると、負担軽減につながる。また、窓口が学校のため、先入観や偏見を感じる人にとっては、気軽に相談しにくいとの声も聞かれる。
- 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）：学費軽減には非常に有効だが、制度がかなり複雑。しかもweb申請はITに不慣れな人には心理的負担が大きい。さらに、いったん立替ではなく、最初から支給額等と相殺の形にすべき。
- 生活福祉資金貸付：緊急小口資金は、まさに緊急時には有効である。
- 子ども食堂：それぞれの子ども食堂が独自のスタンスで活動することで、多様な方々のニーズにフィットしている点が好ましいと考える。その一方で、子ども食堂全体として、地域共生社会に必要な不可欠なインフラとして果たすべき意義を共有できるとよいと考える。

### <希望する支援策>

- 養育費や離婚前の相談窓口について予防的な周知があるとよい。

## 12 仙台市 高校教育課

訪問日	令和3年12月13日	実施時間	15:30～16:30
対象者	高校教育課職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>高校教育課は市立高等学校等5校を所管している。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴、対応における現状の課題、子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組などについて話を伺った。保護者の特徴として、子どもの学業や進路等に関心が薄く、視野が狭いため、支援に関する情報を持っていないことが聞かれた。子どもの貧困対策の取組として、子どもが経済的理由で進学をあきらめることを避けるため、各種支援制度について確実に伝え、保護者と子どもにやる気を持たせる指導が大切になるとのことだった。また、学校の担任等は家庭の状況まで把握することが難しいため、支援にあたっては支援機関と学校とが連携し、支援状況などの情報共有を行うことが重要であるとの話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○幼い兄弟の世話をを行うヤングケアラー的なケースがいる。</p> <p>○定時制では、しっかりした食事がとれず、給食で命をつないでいるという例もあった。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○お金がないということを理由に進学を諦めたり、大学に行けそうであっても諦めてしまったりする。一回働いてある程度お金を貯めてから進学したいという子も中にはいるが、やはり時期があるので、その時期を逸してしまい、目標を達成した姿は未だ見受けられない。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○アルバイト等に従事し、親からの自立を試みるが、それすらできない子もいる。やはりお金がないことが一つのきっかけになっている子もいるような気がする。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○保護者が自分の子どもに対する関心、進路の関心が薄いため、家計状況によって国立大であれば授業料が無料になることや、奨学金などの制度も知らないと思う。</p> <p>○全日制であればひとり親の割合はクラスに2、3人程。</p>			
<p>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</p> <p>○過干渉か放任のどちらか極端な傾向がある。家計の担い手として早く卒業してもらいたいと思うか、あるいは早く家を出てもらって家計の負担を減らしてほしいと思っているかのどちらかだと思う。</p>			
<p>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</p> <p>○支援制度には学校側は助けられているが、保護者が支援者との関係が良好になると、学校に同じような支援やサービスを求めてくる親もごく稀にいと聞く。</p> <p>○支援制度が行き渡れば困難を抱えた子ども達も少しずつ減っていくのではないかと思う。</p>			
活動上の課題、その他の意見等			
<p>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</p> <p>○支援機関が学校にどのようなことをしてもらいたいのかということも含めて、支援状況と情報の共有をしながら進めていくことが大事だと思う。</p>			
<p>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</p> <p>○経済状況を把握しているのは就学支援に関わる事務室であり、特に全日制高校では、担任等は卒業まで支援が必要な家庭であることが判明しないケースが多い。</p> <p>○問題が起きて初めて家計状況が判明するケースが多く、そのときには重篤な状況に陥っている。</p>			

**<支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について>**

**【連携している関係機関】**

○定時制高校：NPO法人アスイクと学習支援、生活相談について連携している。

**<現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について>**

- 多様な支援制度が充実していると感じるが、セクションが異なるため必要な支援まで行き着くことが難しい方が多いのではないかな。
- 児童生徒就学援助制度：高校では1人1台情報端末は個人購入となる。支援いただける制度があるとありがたい。
- 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）：一定の役割を果たしていると思うが貧困家庭では情報入手が難しいのかもしれない。

**<子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について>**

- 何より保護者の支援と生徒の進路選択の視野を広げる情報提供が重要。
- 学校は保護者に助言はできても支援はできない。支援いただくセクションで各家庭の現状を認識いただき、子どもの将来や可能性と一緒に考えられる環境を醸成し、必要な支援を行う必要があると考える。
- 保護者に対する子どもの進路支援等に係る情報提供の充実。
- 子どもに夢とやる気を持たせられる支援制度の周知。

**<希望する支援策>**

- どこに相談すればよいのか、どのような支援が受けられるのか、そもそも自分がどのような支援を要するか判断できないなどといった方が多いと感じる。
- 中古参考書、情報端末等の支給・貸与など、制服のようにリユース品を集め、支給、貸与する取り組みはどうか。

## 13 仙台市 スクールカウンセラー

訪問日	令和3年12月14日	実施時間	10：00～11：00
対象者	仙台市スクールカウンセラー（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>スクールカウンセラーは、いじめや不登校等の問題について、児童生徒やその保護者を対象とした教育相談、教職員への助言を行っており、市内の全ての学校に配置されている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴、対応に関しての課題などの話を伺った。保護者の特徴として、時間的、精神的、経済的な余裕の無さや養育力の低さから虐待につながる傾向について話が聞かれた。保護者が子どもと程よく向き合うことが難しいため、愛着形成が不全となりやすく、それが不登校の要因の一つにもなっているとのことだった。保護者や家庭を支援してくことは大事だが、保育所や学校、フリースクール、地域等の子どもにとっての身近な居場所や手をさしのべる大人による支援によって、子ども自身の力を育てることも効果的ではないかといった意見も聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>【背景】</p> <p>○保護者（特に子どもとの関わりが多い母親）の心身状態として、病気、精神疾患、発達特性（知的や認知の歪み）、ストレス（育てにくさ、夫婦関係・DV、祖父母との関係、看護・介護、仕事）等がある。</p> <p>○学歴偏重、発達特性や障害への理解の低さ等の保護者の考え方がある。</p> <p>○虐待、兄弟の病気や障害、ステップファミリー等の家族の状態や関係性がある。</p> <p>○周囲（人・地域）との関係の希薄さからの孤立。</p> <p>【特徴】</p> <p>○不信感、無力感（自己肯定感や自己効力感の低さ）、不適切な発信（コミュニケーション）。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○不十分な衣食住が栄養面や精神面から脳に与える影響も大きい。</p> <p>○学習の様子としては、集中できない、落ち着きがない、無気力（あきらめ）、理解力や学力の低下等が見られる。</p> <p>○規則正しい生活習慣の形成が難しいことが多く、身なりも整わないことがある。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○母子分離不安は就学前や低学年（小学校1、2年）に見られることが多い。</p> <p>○過剰適応（いい子でいようとする。保護者の目や意向を非常に気にする）も幼い頃から見られることがある。</p> <p>○過剰適応の子どもは、内面の攻撃性が自分自身に向くことで自傷行為に及ぶこともある。</p> <p>○自傷行為に関しては中学年（小学校3、4年）頃から見られる。</p> <p>○無気力（あきらめ）、怠惰、ひきこもりは高学年（小学校5、6年）以上に見られることが多い。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○無計画な金銭管理、アルバイトで給与を得る子どもからの経済搾取、子ども向け手当の浪費等が見られることがある。</p> <p>○規則的な生活習慣が難しい場合がある。</p> <p>○DVや虐待になることがある。</p> <p>○就労にたどりつくまでの気力や体力が低い場合がある。</p> <p>○仕事や職場での人間関係がうまくいかず、継続した就労が困難である傾向がある。</p> <p>○非正規やパート勤務による低賃金労働、ダブルワークが見られることがある。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <p>○時間や精神的な余裕の無さから、子どもに目や手をかけられず、向き合うことが難しい場合がある。また、子どもの気持ちや特性に合わせた関わり方ができなかったり、分からなかったり等から虐待になりやすい傾向も見られる。</p> <p>○保護者自身の子育てについての好ましいモデルのなさから、どう対応してよいか分からない場合もある（世代間連鎖）。</p>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○保護者に余裕が無かったり、無力感を持っていたり、問題意識も持てなかったりすることが多いため、自分からの発信や行動が難しいことがある。</p> <p>○また、様々な支援制度があるものの、保護者が把握したり、理解したりすることが難しく、なかなか活用ができない場合もある。</p> <p>○不信感が強かったり、適切なコミュニケーションをとることが不得手だったりするため、有意義で継続的な関係が築きにくい傾向もある。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○子どもとの面談の中で希死念慮が語られ、その原因として家庭の経済状態が明らかになった。こちらのケアだけではなく、具体的な行政の支援も必要であると判断し、子どもに面談内容を学校に伝えることの了承を取り、学校からスクールソーシャルワーカー要請をして必要な支援につなげた。</p> <p>○面談では困っている問題を一緒に考えたいことを伝え、親身になった助言を心がけ、納得してもらったうえでスクールソーシャルワーカーや児童相談所につなぎ、支援を継続した。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○家庭の状況（経済状態やDV・虐待も）、生育歴、学校での様子等の子どもの情報が一元化されていないため、総合的な視点からのアセスメントを行うことが難しいと感じる。</p> <p>○就学以前は保健師や児童相談所等の職員が関わると思うが、保健師も児童相談所等の職員も人員が足りておらず、十分な支援が難しいと感じる。</p> <p>○問題行動を起こしたり、発信ができたりする子どもには対応しやすいが、大人しくしている子どもにはなかなか目が向けられず、置き去りにされやすいと感じる。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <p>○福祉的な支援としては、まずはスクールソーシャルワーカーと連携したい。そして、スクールソーシャルワーカーを拠点にして、必要な関係機関と連携していくとよいと思う。</p>
<p><b>&lt;現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について&gt;</b></p> <p>○学校においては、スクールソーシャルワーカーや『さわやか相談員』等と共に、困難を抱える家庭の早期発見や早期対応ができるとよいと思う。</p> <p>○スクールカウンセラーの配置日数を学校の相談状況に合わせて増やす等、配置の対応を柔軟にできるとよいと感じる。</p> <p>○教室で過ごすことが難しい場合、各学校の別室や『杜のひろば』での学習支援も充実させ、子ども自身の力もつけられるとよいと感じる。</p> <p>○児童相談所等に人的余裕を持たせ、虐待被害児のケア（できれば加害のケアも）を継続的に行えることが大切であると思う。</p> <p>○広報については相談機関を何か所もアナウンスしても相談者には利用しにくいので一本化（例：『杜の都おしえてコール』）し、それを分かりやすく伝えるとよいと思う。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について&gt;</b></p> <p>○特に幼少期は、保護者や家庭を支援してくことは大事だが、限界も感じる。地域や保育所、学校、フリースクール等、家庭の外にある場所に支援を行い、温かく見守り、手をさしのべる大人や身近な居場所を充実させ、子ども自身の力を育てることも効果的ではないかを感じる。</p>

**<希望する支援策>**

- 子どもは“社会の財産”であり、“社会で育てる”ことを再認識し、子どもに対してお金をかけてほしい。
- 新規の事業を立ち上げることも大切だが、今ある相談機関の充実（必要な人員の配置、親身で適切な相談対応や情報の提供ができるための研修等）を図ることにも目を向けてほしい。

**<その他>**

- 自戒を込めて、大人の側に余裕がないと子どもに気持ちを向けるのは難しいし、大人自身が感性を磨かなければ子どもからのSOSを受け取ることはできないと思う。



## 14 市立保育所

訪問日	令和3年12月16日	実施時間	10:00～11:00
対象者	市立保育所職員（2名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>ヒアリングは、2名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭の特徴や、保護者の子どもとの関わり方、広報の課題などについて話を伺った。困難を抱える家庭の特徴として、ひとり親が多いとのことだった。また、非正規雇用の方が多く、ダブルワークをしても余裕がないなかで、新型コロナウイルス感染症により仕事が減ったり、失業したりするなどさらに影響を受けている状況について聞かれた。子どもの生活よりも自分を優先させている保護者についても話が聞かれた。また、支援情報の広報について、確実に届けるためにはチラシ等の配架だけでなく、一人ひとりに配布することが確実だとの意見も聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>＜貧困であること以外にみられる背景や特徴＞</p> <p>○困難を抱える家庭には、ひとり親家庭が多いように思う。ひとり親にパートナーがいても、籍が入っていないので、そのまま生活保護の受給を続けている家庭もある。</p> <p>○困難を抱える家庭の親は20代後半から30代が多いように思う。10歳代で初めての子どもを産み、その後、何人も子どもをもうけている家庭もある。</p>			
<p>＜保護者の方の生活面、就労面での特徴＞</p> <p>○集金について、支払えないので月をまたいで滞納を続けているような人はいないが、何度か声をかけないと持参しない親がいる。また、提出書類も遅れがちである。</p> <p>○非正規雇用の方が多い。新型コロナウイルス感染症の影響で仕事が減った、失業したという方もいる。派遣会社に登録している人から「仕事がない」という声を複数聞く。ダブルワークをしても収入的にはそれほど増えず、働けど働けど余裕は生まれないという印象。</p> <p>○基本的には、ひとり親家庭の親は夜間に働かない。</p>			
<p>＜保護者の方の子どもとの関わり方の特徴＞</p> <p>○困難を抱える家庭に限らず、自分の生活に精一杯な親は一定数いる。</p> <p>○朝食を食べていない子どももいる。</p> <p>○育児能力の問題なのか、金銭管理が苦手なのか、子どもはサイズ感の合わない服や季節感のない服を着ている一方で、ペットを買う、たばこを吸う、自分はおしゃれをするなどの様子が見受けられる。20代から30代の若年層の親にそのような傾向がある。</p>			
<p>＜支援制度や支援者との関係での特徴＞</p> <p>○どこか支援機関につながることができている方は、支援情報を持っている。また、自分で探して支援を受ける人もいる。</p>			
活動上の課題、その他の意見等			
<p>＜困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法＞</p> <p>○区の保健師と連携。生活保護費の使い方を保健師と一緒に考えていた。</p> <p>○小学校・保育所・区の保健師・児相・民生委員等でケース会議を行い情報共有。家庭環境が複雑すぎて、有効な対策には結び付きにくかった。保護者に意識を持ってもらい、行動に移してもらう事が課題で、難しい。保育所を卒園した後の継続的な支援の難しさを感じる。</p>			
<p>＜支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題＞</p> <p>○保育所に入所している子どもに関しては、日中の見守り。気になることが有れば、各機関との連携もしやすい。ただし、家庭の様子までは、見えにくい。</p> <p>○義務教育の先の教育を貧困の理由で諦めることのないような、支援の充実。</p>			

**<支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について>**

**【連携している関係機関】**

○区役所家庭健康課と連携している。

**【今後連携したい関係機関】**

○地域の老人会の高齢者も保育所のことに関心を寄せていただけると、地域の見守りになると思う。

**<現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について>**

○複数の機関が連携して支援をしても、保護者が拒否する場合もある。保健師が生活保護の申請を勧めても応じない場合もある。

○必要な支援がタイミングよく受けられる、途切れない支援体制が必要である。

○保育所の子どもの親は、仕事をしているということが大前提である。いろいろなチラシをいただくが、中には保育所の子どもの親にはニーズが低いと思われるものもある。

○チラシ等を掲示しても代わり映えがしないので、親の目に留まらないことも多いと思う。一人ひとりに配布すれば確実だと思う。園からの配布に際して負担は少ない。

○公立保育所ではメール配信等はしていない。市から発信されることはあるが、保育所から発信することはない。

○病児・病後児保育に関しては、入所のときにリーフレットをお渡ししているが、実際に利用したという話は聞かない。親が仕事を休むか、祖父母に預ける場合が多いと思う。

○家計相談プラザ（家計改善支援事業）について、本人に家計がうまくやり繰りできていないという自覚がないので、相談する気がないので支援につながらないと思う。

**<子どもの貧困対策に効果的だと思われる取組について>**

○子どもの貧困対策に効果的な対策は雇用と教育だと思う。日本全体で考えていかなければいけない課題である。

## 15 仙台市 区役所保護課

訪問日	令和3年12月17日	実施時間	10：00～11：00
対象者	保護課職員（1名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>区役所保護課では、生活保護の適用や生活困窮者の自立支援、生活保護申請に関する相談等の業務を行っている。</p> <p>ヒアリングは、1名の方に対応いただいた。内容としては、困難を抱える家庭における子どもや保護者の特徴、子どもと保護者の関わり方や効果的だと思われる取組などについて話を伺った。保護者の特徴として、精神的不調や疾病を抱えていることが多く、保護者自身が複雑な環境で育っている場合も多い印象があるとのことだった。子どもと保護者の関係として、母子父子世帯の場合は親子間に適切な距離感が取れず、密着しているか全く不干渉になっているか、極端な親子関係も見受けられるとの話が聞かれた。効果的な取組として、「子ども食堂」に代表されるような、地域の方々が困難を抱える世帯と関わり、支援できるような仕組みづくりの一層の構築が望まれるとの話が聞かれた。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○親が精神的不調をはじめ、疾病を抱えていることや、親自身も幼少期から貧困で苦労したり、虐待を受けるなど複雑な環境で育っている方も多い印象がある。</p> <p>○子どものやりたいことや学力水準などを深く考えずに受験先を決定するなど、教育をあまり重視していない世帯が多い印象がある。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○親が高校を卒業していない場合もあり、親自身の勉学に対する意欲が低い印象がある。そのような場合、親の了解が得られず、学習支援の利用につながらない。</p> <p>○子どもがいじめを受けたり、ひきこもりがちになる可能性が高い印象がある。</p> <p>○発達の遅れを抱える子どもが多い印象がある。</p> <p>○親が夜外出して、子ども一人で過ごしている世帯もある。</p>			
<p>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</p> <p>○母子父子世帯で親が就労している場合、家事を助け合っている世帯もある。</p> <p>○母子父子世帯の場合は親子間に適切な距離感が取れず、密着しているか全く不干渉になっているか極端な親子関係も見受けられる。親子の相互依存が強すぎると進路や自立での選択肢が狭まり、子どもの将来にあまりよい影響を与えないのではないかと思う。ただ、なかには、とても仲のよい親子関係もある。</p>			
<p>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</p> <p>○飲食店や清掃業など、夜の仕事をしている保護者が一定数存在する。</p> <p>○スキルや就労経験が少ない中で、就労を頑張った場合、結果的に子育てや家事が二の次になっている方もいる。そうした中で生活保護から自立するためには、長時間労働しないと収入を得られないため、子どもと接する時間が少なくなる。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、勤務する飲食店が閉店したり、収入面から継続して勤務することが難しくなったりする場合があった。</p> <p>○生活保護受給世帯の保護者の就労が、単純作業やコンビニエンスストア勤務の場合は、子どもが巣立つまでに生活保護を脱却することは難しい。</p> <p>○福祉事務所に対し、提出物が遅れがちな世帯も多い印象がある。</p>			

<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <p>○保護者の子どもへの関心が強すぎたり弱すぎたり、適切な距離感がつかめていない印象がある。</p> <p>○子どもに関わらない、あるいは過保護で子どもを外部との関わりから遮断する方がたまにいる。</p>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <p>○関わっている支援機関の数が多い世帯もある。</p> <p>○保護者自身が支援を受けるために協力関係になることが多いが、子どもの支援には興味を示さない方もいる。</p>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <p>○（課題）母子父子世帯で病気がちななど、問題が複数あると、親が子どもと関わる時間が少なくなったり、育児放棄に繋がっていく事例がある。</p> <p>○（対策）各支援者が集まり、方向性を統一・確認したうえで支援すること。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <p>○生活保護世帯では、生活保護の受給について子どもに隠そうとする保護者が一定数存在する。保護受給中は、収入申告など子どもにも理解して守ってもらわねばならない義務が生じるため、保護者には十分な説明を行い、子どもにも生活保護制度を周知する必要があるが、親子の関係性から難しい事例も生じている。</p>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について&gt;</b></p> <p>【連携している関係機関】</p> <p>○家庭の状況把握と専門的見地からの判断を求めるため、区役所家庭健康課、児童相談所、アーチル等と連携している。</p> <p>【今後連携したい関係機関】</p> <p>○アスイクと連携したい。</p>
<p><b>&lt;子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について&gt;</b></p> <p>○親の学びの場（就労スキルや家計管理、子どもとの関わり）の提供や相談支援の充実</p> <p>○「子ども食堂」に代表されるような、地域の方々が困難を抱える世帯と関わり、支援できるような仕組みづくり</p> <p>○保護者を通さなくても利用できる支援制度の在り方の検討</p>
<p><b>&lt;希望する支援策&gt;</b></p> <p>○支援のメニューについては、子供未来局を中心に多様になってきているが、現在実施している施策の内容をさらに充実させていただければよいと思う。</p>

## 16 仙台市 区役所家庭健康課

訪問日	令和3年12月17日	実施時間	13：00～14：00
対象者	家庭健康課職員（2名）		
実施者	子供家庭支援課職員（2名）		
ヒアリング概要			
<p>区役所家庭健康課では、児童・家庭等に関する総合相談、乳幼児の健診および予防接種、市民健診等の業務を行っている。</p> <p>ヒアリングは、2名の方に対応いただいた。内容としては、特に要保護児童として関わっている子どもや保護者の特徴、生活面、就労面での特徴や活動上の課題などについて話を伺った。保護者自身も幼少期に貧困であり、貧困に対する困り感を出さないことや、生活能力が低く、子どもにも基本的な生活習慣が身についていない状況について聞かれた。活動上の課題として、親の相談ニーズがないところで支援者が介入することが難しく、子どもの生活改善になかなか行きつかないのが現状であり、効果ある方法はまだ手探り状態とのことだった。</p>			
保護者や子どもの状況について			
<p>&lt;貧困であること以外にみられる背景や特徴&gt;</p> <p>○多子家族や若年層の妊娠が目立つ。</p> <p>○長引く親のメンタル不調で、就労自立の準備がなかなか整わない。精神障害者保健福祉手帳を取得する親もいる。</p> <p>○実家が貧困で困難を抱えていることから、実家等のつながりが薄く、支援が得られない。</p> <p>○DV、アルコール問題など親の夫婦間トラブル、それに伴う児への心理的虐待、親のメンタル面の問題から児への虐待に発展するケースも多い。このようなケースは近隣住民、児からの110番通報により、警察から当課に世帯照会を受けていることも多い。</p> <p>○親の幼少期が同様な貧困状況であった場合も多く、あきらめもあり、貧困に関する困り感・SOSを出さない。</p> <p>○親の生活能力・金銭管理能力が低く、コロナ給付金などの臨時給付金も、計画的に子どもたちのために使われないこともある。</p> <p>○外国籍、私費留学生で、日常会話レベルの日本語が通じない、生活の見通しが立たない中での出産・育児を考えている。</p> <p>○多子世帯であることが貧困につながっている世帯もあるが、それ以外に金銭管理に問題があることが多い。</p>			
<p>&lt;子どもの生活や学習の様子で特徴的な状況&gt;</p> <p>○親自身の生活が不規則である場合も多く、子らの基本的な生活習慣が身についていない。学齢期では、昼夜逆転による遅刻、朝食欠食、入浴させず、洋服の洗濯がされず、子どもの体臭が目立つようになる。そのことが原因でいじめにあい、不登校を悪化させることもある。</p> <p>○子どものための必要な学習用品を準備できない、野外活動費や校納金未納がある。</p> <p>○子どもが落ち着いて学習する時間及び部屋が少ないなど学習環境を整えることが難しい。</p> <p>○親自身が教育への関心が低い環境で育っていたり、親の学校への不適応感が強かったりすることで、子どもが不登校であったとしても親が登校刺激をしない、子どものための学習の環境整備や声がけをしない。</p>			

<p><b>&lt;子どもの保護者との関わり方での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもは乳幼児期から十分なケア（身体的・精神的）が受けられず、親（特に母親）との安全・安定的な二者間関係が成り立たず、信頼関係を結ぶ経験を積めずに成長して行く。その結果、子どもが自信や自己肯定感を持てず、情緒不安定になり、年齢相応の発達に支障が出てくる場合がある。</li> <li>○学齢期になった子どもは親に相反する行動をとる場合がある。一つ目は子どもらしい意思表示をせず、親の顔色を見て行動するようになる。親に見捨てられないような大人びた行動をする。親に代わって、幼い兄弟の世話や見守り・声がけを日常的に行うヤングケアラーが常態化したケースがいる。二つ目は親から子どもに対して、しつけ（社会的ルールの遵守）をされてないため、衝動性が高く落ち着きがない、自己コントロールが効かないような問題行動をするケースもある。</li> </ul>
<p><b>&lt;保護者の方の生活面、就労面での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生活保護受給家庭で経済的自立がなかなかできないことが多い。</li> <li>○保護者は正規雇用が少なく、不規則勤務で収入が少ない。</li> <li>○ひとり親で夜間に就労する保護者の家庭では、夜間帯に子どものみが在宅していることがある。</li> <li>○新型コロナウイルス感染症の影響により、勤務する飲食店等を辞めざるを得ない場合やシフトが大きく減らされたということも聞く。</li> <li>○計画的な家計管理が不得意でガス・水道・電気等ライフラインが止まることもある。</li> </ul>
<p><b>&lt;保護者の方の子どもとの関わり方の特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○親のメンタル不調により子どもに対するネグレクトが生じやすい。</li> <li>○多子家庭では長子が弟妹の世話をする等ヤングケアラーとなりやすい。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援制度や支援者との関係での特徴&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○親は金銭面への支援には関心が高い反面、即効性が期待できないためか、子どもへの養育問題等（不登校、校納金未納等）に関しての改善意欲を持ちにくい。</li> <li>○家庭訪問は拒否的で、生活実態を把握しにくい。</li> <li>○親は支援者に拒否的な反面、支援者との信頼関係が作れると、依存的傾向になることもあり、自力で対応する力が身につかない。親自身が支援者との適度な関係性を維持することが難しい。</li> </ul>
<p><b>活動上の課題、その他の意見等</b></p>
<p><b>&lt;困難を抱える家庭の子どもについて、対応した中で、もっとも効果があった対策方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○親の相談ニーズがないところで支援者が介入することが難しい。</li> <li>○親の困り感に寄り添う事も必要だが、子どもの生活改善になかなか行きつかないのが現状である。効果のある方法はまだ手探り状態。</li> <li>○NPOの学習支援により、不登校傾向の児童に変化があった事例がある。当初、対象児童は親からの勧めもあり、中卒後の就労を希望していた。しかし、NPO職員からの児童・親双方への継続的な働きかけにより、児童が進学希望するようになり、受験に合格し、高校進学に至った。</li> </ul>
<p><b>&lt;支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関する現状の課題&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○不登校問題を抱えている子どもが、学校外でフリースクールを利用するにあたり、教育部門でたくさんの手順を踏まないと利用できないシステムになっている。適応指導センターや学校とのやりとりが難しい。もっと簡単な手続きにして欲しい。</li> <li>○不登校や引きこもりになりかかっている子ども向けの支援として、訪問支援のメニューが少ない（訪問支援を手厚くしてほしい）。</li> <li>○何回も家庭訪問しても、目視できない子どもがいる。</li> </ul>

**<支援を行うにあたり、困難を抱える家庭の子どもへの対応に関し、現在連携している関係機関と今後連携したい関係機関について>**

**【連携している関係機関】**

- 教育相談課、保育給付課、保護課、障害高齢課、児童相談所、アーチル、学校（小・中・高校）、保育所・幼稚園、母子自立支援施設、病院、児童養護施設、乳児院、NPO団体、相談支援事業所、民生委員・主任児童委員、住宅公社・市営住宅管理課、社会福祉協議会

**【連携内容】**

- 情報共有、ケース会議での役割分担の確認、虐待事実の発見時の情報提供と対応、安否確認、ショートステイ等のサービス利用調整、虐待児童への介入（養育指導・一時保護等）、家賃・税金の減免申請の手続きの補助（申請用紙の書き方等）、貸付、フートバンクの紹介、住宅確保給付金、助産制度

**【今後連携したい関係機関】**

- 今後は子どもの社会体験・経験を広めるため、学校の枠組み外での活動場所として、上記以外の民間NPO団体と連携したい。

**<現在の制度・支援のあり方、有効性、広報等の課題について>**

- 学習支援事業利用者の20%が、制度の内容を知らなかったと言っている。周知が必要かと思う。
- ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）：事業者とのミスマッチがある。
- 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート）、高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）：中高生の居場所づくり、相談相手となっていることから効果がある。
- 家計相談プラザ（家計改善支援事業）：金銭管理に問題を抱えている世帯に紹介するが、そこまで行動できない人も多く、支援に結びつかない。
- 子育て支援ショートステイ：精神的に不安定な親が送迎できず、利用できない場合がある。
- 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）：学校ごと、支給方法、時期が違うため貸付を必要とするのか判断しづらい。

**<子どもの貧困対策に効果的と思われる取組について>**

- 不登校の子ども向けの支援として、訪問支援のメニューを増やして欲しい。

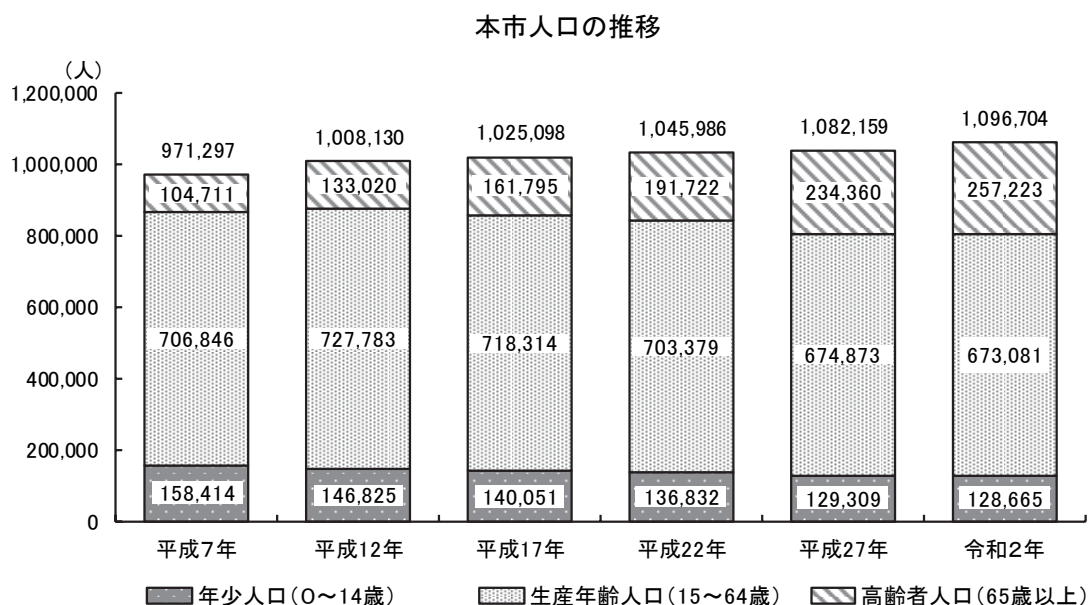
**<希望する支援策>**

- 外国人の総合相談窓口の充実を希望したい。生活困窮に悩む外国人の相談を初回受理した際に、相談支援機関は主訴のみで相談機関につないだり、制度適用されやすいような支援につなげることばかりに注力せず、その世帯の生活全般の情報収集・アセスメントをして、総合的な判断により支援を検討・実施して欲しい。
- 学習サポート事業等の利用要件を緩和して欲しい。

## Ⅵ 統計データの整理・比較分析結果

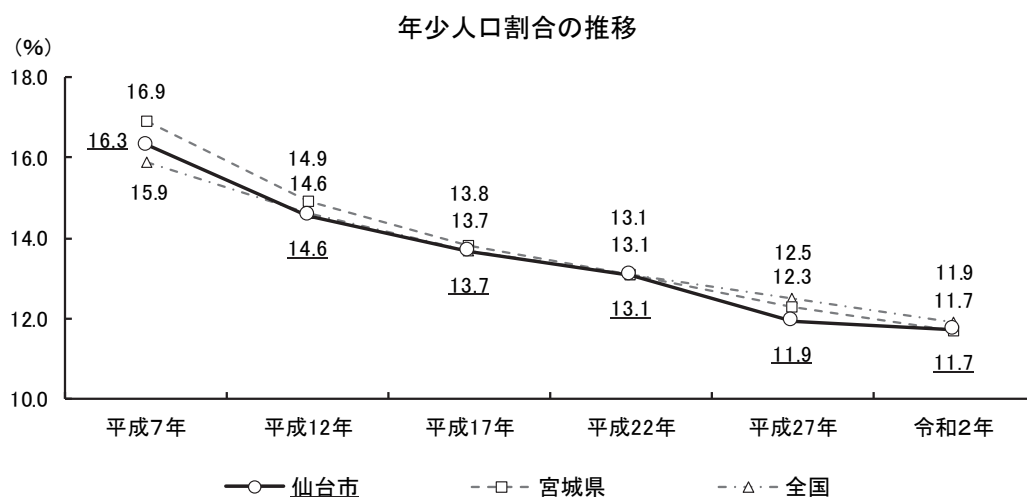
### 1 年少人口等の推移

本市の総人口は増加傾向にあり、令和2年には1,096,704人となっている。一方、年少人口（0～14歳）は減少の一途をたどっており、令和2年の年少人口割合は11.7%と全国や宮城県の割合を下回る結果となっている。



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

※グラフ上部の数字は総人口（年齢不詳を含む）を表している



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

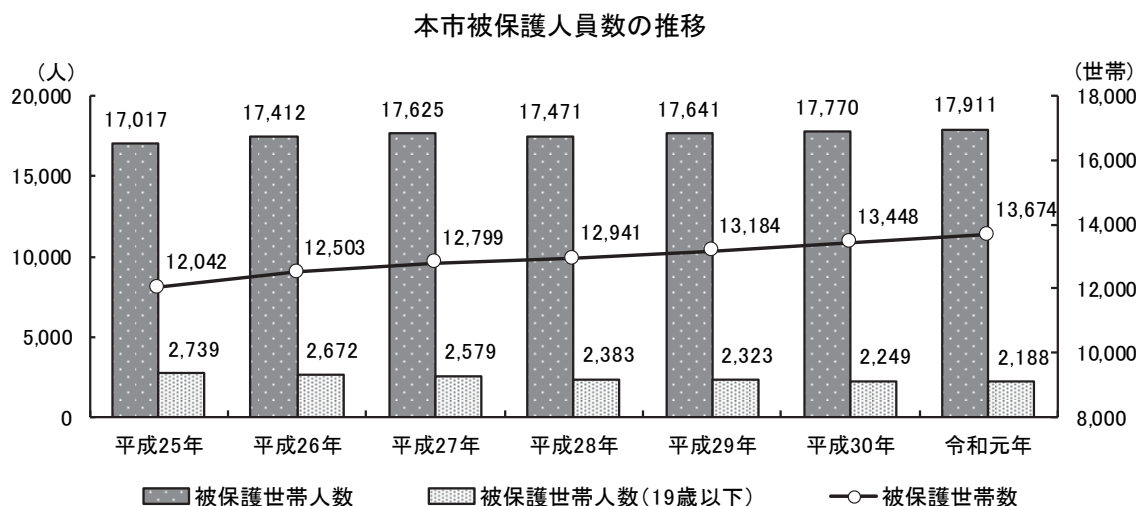


## 2 生活保護世帯数の推移

### (1) 生活保護被保護人員

本市の生活保護被保護人員数については、増加傾向にあり、令和2年には18,194人となっている。

19歳以下の被保護人員数については、減少傾向にあり、令和2年には2,100人となっている。



出典：被保護者調査（各年7月31日現在）

**被保護人員数の推移**

		平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
本市	(人)	17,017	17,412	17,625	17,471	17,641	17,770	17,911
	平均年齢 (歳)	51.3	52.1	52.8	53.8	54.2	54.8	55.3
宮城県 (人)		26,782	27,343	27,705	27,817	28,138	28,428	28,867

出典：被保護者調査（各年7月31日現在）

**被保護人員数の推移（19歳以下）**

		平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
本市	(人)	2,739	2,672	2,579	2,383	2,323	2,249	2,188
	対前年比 (倍)	0.98	0.98	0.97	0.92	0.97	0.97	0.97
宮城県 (人)		4,027	3,895	3,789	3,592	3,490	3,368	3,297

出典：被保護者調査（各年7月31日現在）

## （２）生活保護世帯における子どもの進学状況

本市の生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率は、95.0%と宮城県や全国を上回っている。高等学校等卒業後の進学率についても 40.0%と、宮城県や全国を上回るものの、高等学校等中退率については 8.0%と全国に比べやや高い割合となっている。

生活保護世帯に属する子どもの進学状況

		本市	宮城県	全国	本市全卒業者
中学校卒業後	進学率	95.0%	93.9%	93.7%	99.3%
	就職率	2.5%	—	1.0%	0.0%
高等学校等卒業後	進学率	40.0%	22.5%	37.3%	82.4%
	就職率	43.8%	—	43.6%	13.2%
	高等学校等中退率	8.0%	—	4.1%	—
	高等学校等中退率（一般世帯）	—	—	1.3%	—

出典：仙台市保護自立支援課（令和３年３月３１日現在）

本市（全卒業者）令和２年度学校基本調査

宮城県 厚生労働省社会・援護局保護課

※宮城県・全国の中学校卒業後の進学率、就職率は各年３月に中学校（中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中等部を含む）を卒業した者のうち、その翌年度に高等学校等（中等教育学校の後期日程、特別支援学校の高等部を含む）および専修学校の高等課程に進学、または就職した者の割合

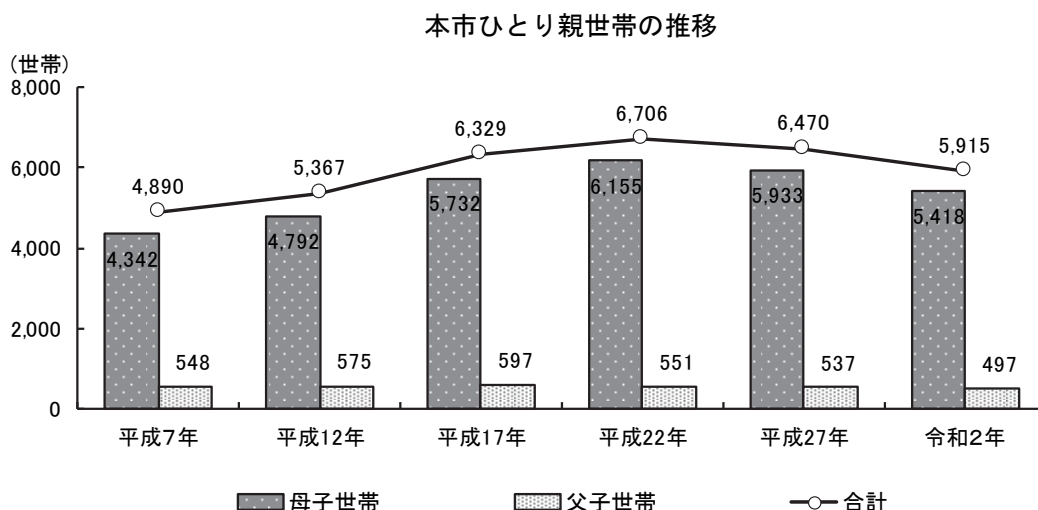
※宮城県・全国の高等学校等卒業後の進学率、就職率は各年３月に高等学校（中等教育学校の後期日程、特別支援学校の高等部を含む）および専修学校を卒業した者のうち、進学・就職した者の割合

### 3 ひとり親世帯

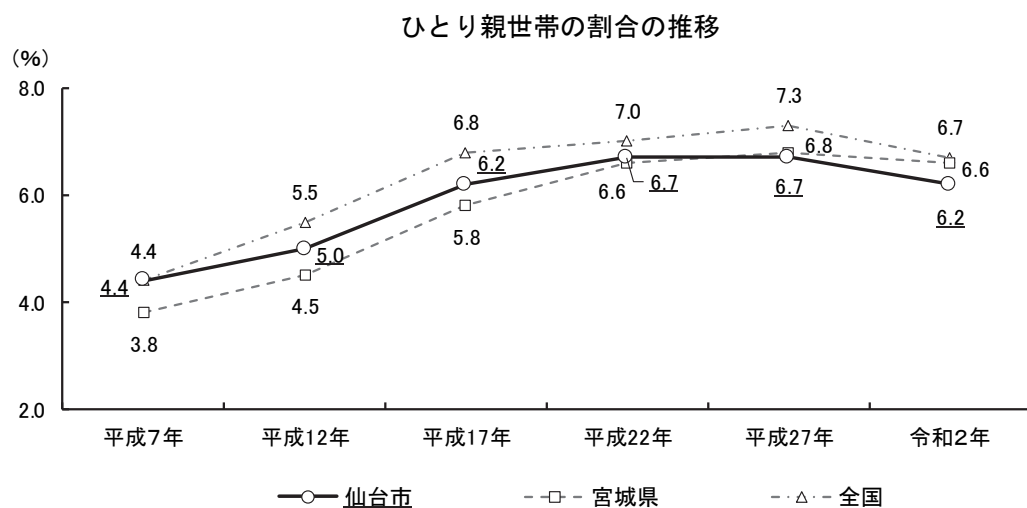
#### (1) ひとり親世帯数

本市における母子世帯と父子世帯を合わせたひとり親世帯は、令和2年に5,915世帯となっており、うち約9割を母子世帯が占める。

令和2年の18歳未満世帯員のいる一般世帯数に対するひとり親世帯の割合は、平成27年と比べ、低下しているものの、平成7年の約1.2倍となっている。



出典：国勢調査（各年10月1日現在）



出典：国勢調査（各年10月1日現在）

**\*用語の解説\***

母子世帯：核家族世帯のうち未婚、死別または離別の女親と、その未婚の20歳未満の子どものみから成る一般世帯

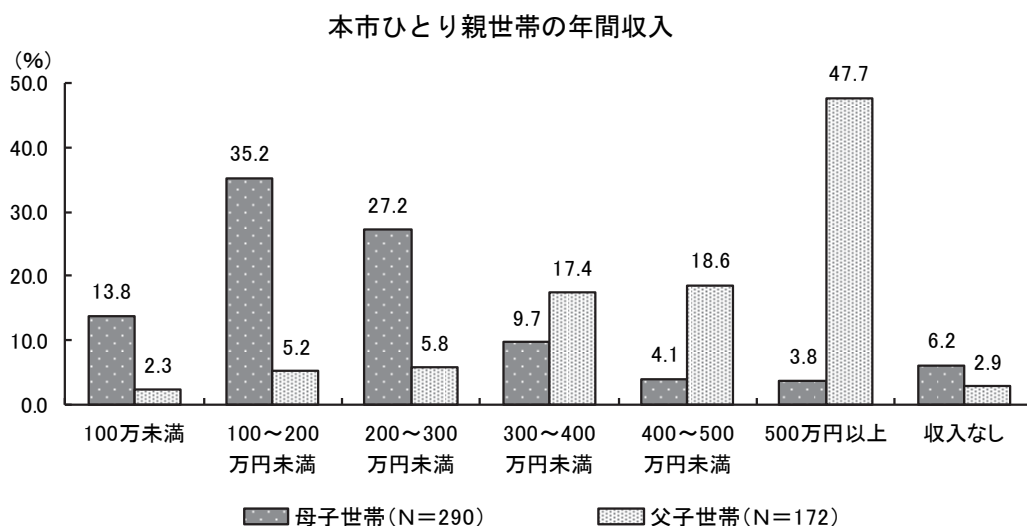
父子世帯：核家族世帯のうち未婚、死別または離別の男親と、その未婚の20歳未満の子どものみから成る一般世帯

ひとり親世帯：母子世帯と父子世帯を合算した世帯

## (2) ひとり親世帯年収

本市の母子世帯等については、世帯の年間収入が「100～200 万円未満」(35.2%) が最も多く、「100 万円未満」(13.8%) を合わせると、年収 200 万円未満の世帯が約半数を占める。

本市の父子世帯等については、世帯の年間収入が「500 万円以上」(47.7%) が最も多く、次いで「400～500 万円未満」(18.6%) となっている。



出典：平成 30 年度仙台市ひとり親家庭生活実態調査（平成 30 年 9 月 1 日現在）

単位：％

		100 万円未満	100～200 万円未満	200～300 万円未満	300～400 万円未満	400～500 万円未満	500 万円以上	収入なし	無回答
母子世帯等	仙台市	13.8	35.2	27.2	9.7	4.1	3.8	6.2	－
	宮城県	3.6	15.1	25.4	14.0	9.4	13.5	0.7	18.3
父子世帯等	仙台市	2.3	5.2	5.8	17.4	18.6	47.7	2.9	－
	宮城県	3.3	3.3	13.7	20.8	16.0	28.3	0.9	13.7

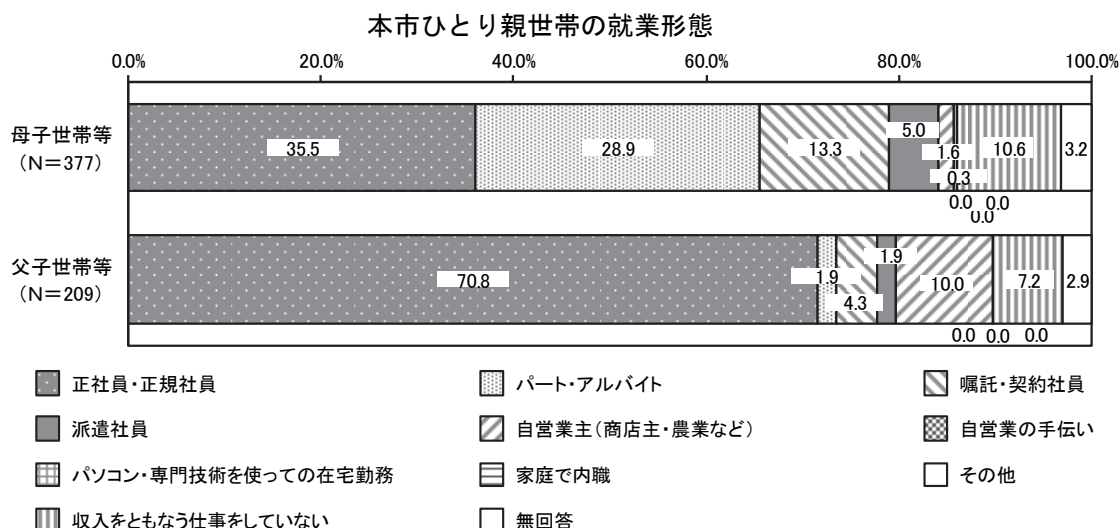
出典：平成 30 年度仙台市ひとり親家庭生活実態調査（平成 30 年 9 月 1 日現在）

平成 30 年度宮城県ひとり親家庭生活実態調査（平成 30 年 11 月 1 日現在）

※年間収入とは年間のボーナス、児童扶養手当、年金、養育費、仕送り等の臨時取入を含む、世帯全員の合計額  
 ※母子（父子）世帯等：母（父）と子のみの世帯だけでなく、母子（父子）以外に他の同居者がいる世帯を含めて集計

### (3) ひとり親世帯就業形態

本市のひとり親世帯の就業形態については、父子世帯等では「正社員・正規職員」が70.8%と最も多くなっている。母子世帯等でも「正社員・正規職員」が最も多くなっているが、35.5%と父子世帯等の半分の割合となっており、一方「パート・アルバイト」が28.9%と多くなっている。



出典：平成30年度仙台市ひとり親家庭生活実態調査（平成30年9月1日現在）

※母子（父子）世帯等：母（父）と子のみの世帯だけでなく、母子（父子）以外に他の同居者がいる世帯を含めて集計

### (4) ひとり親世帯に対する各種支援（本市事業実績）

本市が実施するひとり親家庭への支援事業のうち、経済支援に関する事業の実績は近年減少傾向にある。一方、生活支援（ひとり親家庭等日常生活支援事業）や就業支援については増減を繰り返している。

#### 就業支援

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
仙台市ひとり親家庭相談支援センター事業（就業相談）（件）	507	481	667	637	672	560
ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業（人）	8	3	10	25	17	17
ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練促進給付金）（人）	33	33	41	49	43	41
ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練修了支援給付金）（人）	13	10	8	16	19	15

#### 経済支援

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
児童扶養手当支給（件）	8,063	7,901	7,660	7,447	7,231	7,103
母子・父子家庭医療助成（人）	15,324	14,724	14,119	13,919	13,366	13,756
母子・父子・寡婦福祉資金貸付（千円）	47,584	49,770	56,797	52,941	48,051	24,140

## 生活支援

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年
ひとり親家庭等日常生活支援事業 (件)	37	27	30	32	19	21

出典：仙台市子供保健福祉課 仙台市子供家庭支援課

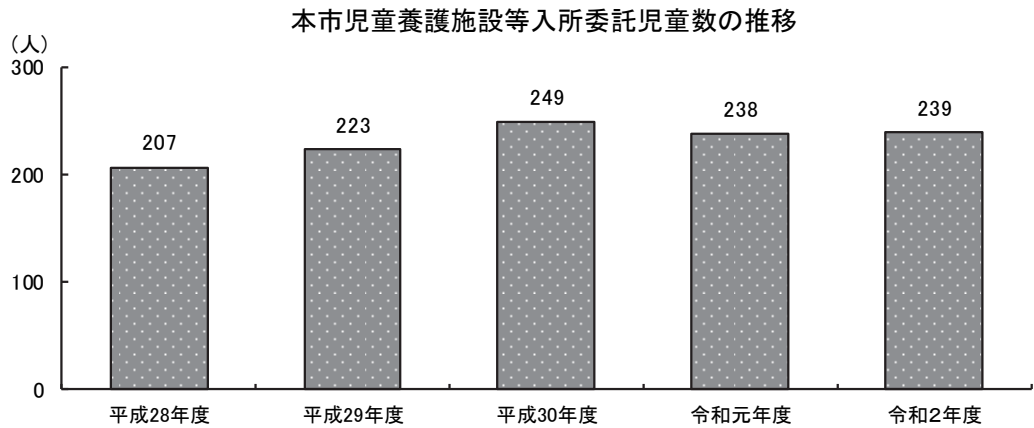
### (事業内容)

事業名	事業内容
仙台市ひとり親家庭等相談支援センター事業（就業相談）	母子家庭相談支援センター及び父子家庭相談支援センターにおいて、ひとり親家庭等の自立に向けた就労、生活等に係る相談及び情報提供を行う。相談者の必要に応じて、離婚等による精神的な立ち直りに寄り添う傾聴から、具体的な就労に向けた支援まで、きめ細かな自立支援を行う。
ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	ひとり親家庭の母または父が、パソコン、介護職員初任者研修等の教育訓練講座を受講し、修了した場合に、その経費の一部を支給する。
ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練促進給付金）	ひとり親家庭の母または父を対象に、看護師、保育士等、経済的自立に効果的な国家資格等の取得のため養成機関に修業する間の生活費を補助する。
ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業（高等職業訓練修了支援給付金）	養成機関への入学時における負担を考慮し高等職業訓練修了支援給付金を修了後に支給する。
児童扶養手当支給	ひとり親家庭において育成される児童の心身の健やかな成長と当該家庭の生活の安定と自立の促進に寄与することを目的として、ひとり親家庭の母または父もしくは父母のない児童の養育者に対し、児童扶養手当を支給する。
母子・父子家庭医療費助成	母子家庭の母とその児童、父子家庭の父とその児童及び父母のいない児童にかかる医療費のうち、保険診療による自己負担分の一部を助成する。
母子・父子・寡婦福祉資金貸付	母子家庭及び父子家庭並びに寡婦に対し、母子・父子・寡婦福祉資金貸付制度に関する情報提供と家計に関する相談を行ったうえで、就業するために必要な資格取得費用や子どもの学費、就学支度資金など経済的自立の援助に要する資金や住宅の改築や転居等に係る資金等の貸付を行う。
ひとり親家庭等日常生活支援事業	ひとり親等の生活環境の激変、就職活動や疾病、公的行事への参加等の事由により、一時的に日常生活に支障が生じている家庭に対して、家庭生活支援員（ヘルパー）を派遣し、家事援助や子どもの世話を行う。

## 4 児童養護施設入所児童等

### (1) 児童養護施設等入所委託児童数の推移

本市の児童養護施設等入所委託児童数は、増減を繰り返しており、平成 29 年度以降は 220～240 人台で推移している。



出典：仙台市子供家庭支援課

### (2) 児童養護施設の子どもの進路の状況

本市の児童養護施設に入所している児童の高等学校等進学率は、平成 29 年度以降 100%で推移している。一方、高等学校等卒業後の進路については、就職が 54.5%と過去の実績より低くなっており、専修学校等を含めた進学率は1～2割程度にとどまっている。

本市児童養護施設の子どもの進路の状況（中学校卒業後）

		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
中学校卒業児童		19 人		18 人		21 人		26 人		21 人	
進学	高等学校等	18 人	94.7%	18 人	100.0%	21 人	100.0%	26 人	100.0%	21 人	100.0%
	専修学校等	1 人	5.3%	—	—	—	—	—	—	—	—
就職		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

本市児童養護施設の子どもの進路の状況（高等学校卒業後）

		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
高等学校卒業児童		9 人		12 人		19 人		14 人		11 人	
進学	大学等	—	—	1 人	8.3%	1 人	5.3%	2 人	14.3%	2 人	18.2%
	専修学校等	1 人	11.1%	1 人	8.3%	2 人	10.5%	—	—	—	—
就職		8 人	88.9%	9 人	75.0%	15 人	78.9%	12 人	85.7%	6 人	54.5%
その他		—	—	1 人	8.3%	1 人	5.3%	—	—	3 人	27.3%

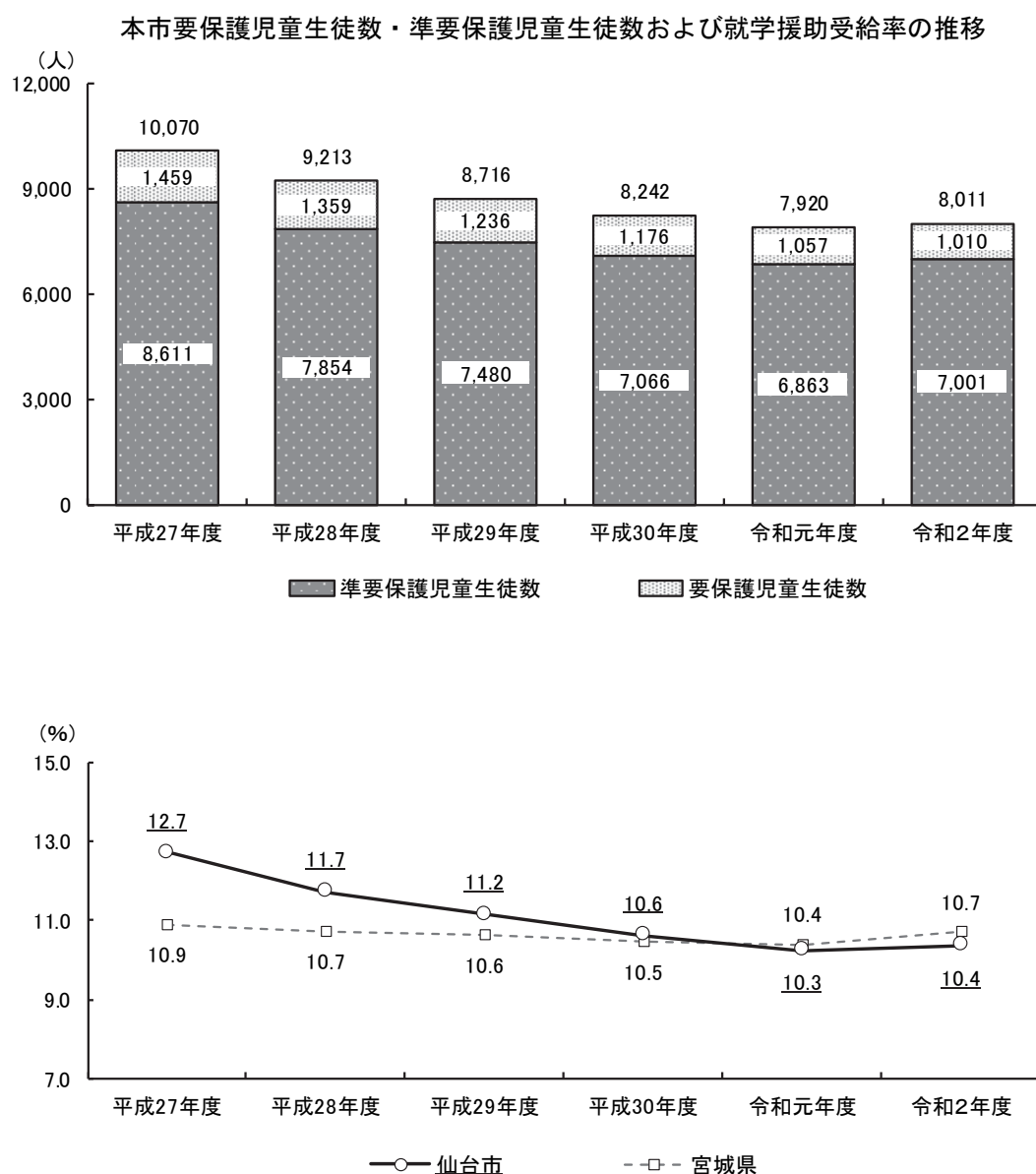
出典：仙台市子供家庭支援課

## 5 就学支援等

### (1) 要保護児童生徒数・準要保護児童生徒数

学校教育法に基づき実施する就学援助の受給対象となっている本市の要保護児童生徒数および準要保護児童生徒（いずれも経済的理由によって就学困難な児童生徒）数の合計は、減少傾向にあり、令和2年度で8,011人となっている。

令和2年度の本市の全児童生徒数に対する就学援助受給率は、宮城県の10.7%を0.3ポイント下回っている。



出典：仙台市教育委員会／

文部科学省 就学援助制度について（就学援助ポータルサイト）



本市就学援助受給率の推移

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
全児童生徒数 (①)	(人)	79,215	78,516	78,131	77,554	77,241	77,277
準要保護児童生徒数 (②)	(人)	8,611	7,854	7,480	7,066	6,863	7,001
要保護児童生徒数 (③)	(人)	1,459	1,359	1,236	1,176	1,057	1,010
合計 (④ : ②+③)	(人)	10,070	9,213	8,716	8,242	7,920	8,011
就学援助受給率 (④/①*100)	(%)	12.7	11.7	11.2	10.6	10.3	10.4

出典：仙台市教育委員会

## (2) 児童生徒の就学・学習支援状況（本市事業実績）

本市が実施する児童生徒への就学支援の事業について、経済的な支援である「児童生徒就学援助費」「高等学校等修学資金借入支援」は減少傾向にある。

学習支援である「学習・生活サポート事業」においては、令和2年度で参加者数は278人となっている。

本市児童生徒の就学・学習支援状況

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
児童生徒就学援助費	(件)	10,070	9,213	8,716	8,242	7,920	8,011
高等学校等就学資金借入支援	(件)	72	77	77	79	80	73

出典：仙台市教育委員会

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
学習・生活サポート事業	(件)	286	331	321	295	298	278

出典：仙台市子供家庭支援課

### < 事業内容 >

事業名	事業名
児童生徒就学援助費	教育の機会均等を図るため、経済的理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に学用品費等の教育費の一部を援助することにより、児童生徒が義務教育を円滑に受けることができるようにする。
高等学校等修学資金借入支援	高等学校等修学のため、日本政策金融公庫教育一般貸付（国の教育ローン）を借り入れた方で一定の要件を満たす場合に、在学期間中に支払った利子を補助する。
学習・生活サポート事業	貧困の連鎖を防ぐため、ひとり親家庭等の中学生を対象に学習支援や心の安定を図る居場所の提供を行い、学校での悩みや進路等についての相談に応じるなど、学習・生活の両面のサポートを行う。また保護者からの子どもの養育に関する相談に対応し、所属校や各種専門機関との連携により総合的な支援を行う。

### （３）スクールソーシャルワーカーの配置状況等

本市教育委員会内に配置したスクールソーシャルワーカーは、平成 30 年度から 7 人に増員している。支援件数は平成 29 年度以降減少傾向となっている。

スクールソーシャルワーカーの配置状況等

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
仙台市 (人)	3	5	5	7	7	7

スクールソーシャルワーカーによる対応実績のある学校の割合

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
小学校（市立） (件)	26.0	42.1	46.7	43.3	47.5	47.1
中学校（市立） (件)	34.9	52.4	54.0	42.9	45.3	32.8

スクールソーシャルワーカーによる支援件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
仙台市 (件)	78	138	185	158	157	138

出典：仙台市教育委員会

### （４）スクールカウンセラーの配置状況等

本市ではすべての市立小学校・中学校・中等教育学校・特別支援学校・高等学校にスクールカウンセラーを設置し、相談体制の整備・諸課題への対応を行っている。

スクールカウンセラーへの過去 5 年の相談状況については、平成 29 年度以降、相談人数は 7 万から 8 万人台、相談件数は 5 万件台で推移している。

本市スクールカウンセラーの配置状況等（市立校）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
配置人数 (人)		65	76	75	81	83
配置学校数	小学校 (市立) (校)	86	86	86	120	119
	中学校 (市立) (校)	63	63	63	64	64
	高等学校 (市立) (校)	4	4	4	4	4

本市スクールカウンセラーに対する相談状況（市立校）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
相談人数 (人)	64,593 (427)	84,585 (367)	75,356 (517)	70,366 (386)	73,264 (332)
相談件数 (件)	46,103 (284)	53,572 (288)	54,448 (315)	51,123 (265)	53,528 (158)

出典：仙台市教育委員会

※（ ）内は特別支援学校の件数

## 6 子どもの貧困

### (1) 子どもの貧困率

国における子どもの貧困率は平成 24 年から減少傾向にあり、平成 30 年で 13.5%となっている。

貧困率の状況（全国）

	平成 12 年	平成 15 年	平成 18 年	平成 21 年	平成 24 年	平成 27 年	平成 30 年	(新基準) 平成 30 年
相対的貧困率	15.3%	14.9%	15.7%	16.0%	16.1%	15.7%	15.4%	15.8%
子どもの貧困率	14.5%	13.7%	14.2%	15.7%	16.3%	13.9%	13.5%	14.0%
子どもがいる現役世帯	13.1%	12.5%	12.2%	14.6%	15.1%	12.9%	12.6%	13.2%
大人が一人	58.2%	58.7%	54.3%	50.8%	54.6%	50.8%	48.1%	48.2%
大人が二人以上	11.5%	10.5%	10.2%	12.7%	12.4%	10.7%	10.7%	11.3%

※大人とは 18 歳以上の者、子どもとは 17 歳以下の者をいい、現役世帯とは世帯主が 18 歳以上 65 歳未満の世帯をいう。

※平成 30 年の「新基準」は、平成 27 年に改定された OECD の所得定義の新たな基準で、従来の可処分所得から更に「自動車税・軽自動車税・自動車重量税」、「企業年金・個人年金等の掛金」及び「仕送り額」を差し引いたものである。

#### \* 用語の解説 \*

##### ○相対的貧困率

一定基準（貧困線）未満の等価可処分所得しか得ていない者の割合。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金や社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額。算出方法は OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づいている。

##### ○子どもの貧困率

子ども（17 歳以下の者）全体に占める、等価可処分所得が貧困線未満の世帯に属する子どもの割合。

##### ○子どもがいる現役世帯の貧困率

現役世帯（世帯主が 18 歳以上 65 歳未満の世帯）に含まれる世帯員全員全体に占める、等価可処分所得が貧困線未満の世帯に属する世帯員の割合。

## (2) 子どもの貧困に関する指標

国の「子供の貧困対策に関する大綱」では、子どもの貧困対策を総合的に推進するにあたり、関係施策の実施状況や対策の効果等を検証・評価するため、子どもの貧困に関する 39 の指標を設定している。本市として把握できる指標値は以下のとおり。

子どもの貧困に関する指標

目標指標	仙台市		宮城県		全国	
	数値	出典	数値	出典	数値	出典
①生活保護世帯に属する子どもの高等学校等進学率	95.0%	※ 1	93.9%	※ 1	94.0%	※ 1
②生活保護世帯に属する子どもの高等学校等中退率	8.0%	※ 1	6.3%	※ 1	4.3%	※ 1
③生活保護世帯に属する子どもの大学等進学率	40.0%	※ 1	22.5%	※ 1	36.4%	※ 1
④児童養護施設の子どもの進学率（中学校卒業後）	100.0%	※ 2	100.0%	※ 2	96.2%	※ 2
⑤児童養護施設の子どもの進学率（高等学校等卒業後）	18.2%	※ 2	25.9%	※ 2	28.3%	※ 2
⑥スクールカウンセラーの配置率（小学校）	100.0%	※ 3	100.0%	※ 3	67.6%	※ 3
⑦スクールカウンセラーの配置率（中学校）	100.0%	※ 3	100.0%	※ 3	89.0%	※ 3
⑧就学援助制度に関する周知状況 （毎年度進級時に学校で就学援助制度の書類を配付している割合）	100.0%	※ 3	48.6%	※ 4	69.4%	※ 4
⑨就学援助制度に関する周知状況 （入学時に学校で就学援助制度の書類を配付している割合）	100.0%	※ 3				
⑩ひとり親家庭の親の就業率（母子家庭）	86.2%	※ 4	89.0%	※ 5	80.8%	※ 5
⑪ひとり親家庭の親の就業率（父子家庭）	89.9%	※ 4	93.9%	※ 5	88.1%	※ 5
⑫ひとり親家庭の親の正規の職員・従業員の割合（母子家庭）	35.5%	※ 4	45.3%	※ 5	44.4%	※ 5
⑬ひとり親家庭の親の正規の職員・従業員の割合（父子家庭）	70.8%	※ 4	69.3%	※ 5	69.4%	※ 5
⑭ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合（母子家庭）	50.5%	※ 4	57.1%	※ 5	42.9%	※ 6
⑮ひとり親家庭のうち養育費についての取り決めをしている割合（父子家庭）	35.0%	※ 4	21.9%	※ 5	20.8%	※ 6
⑯ひとり親家庭で養育費を受け取っていない世帯の割合（母子家庭）	56.4%	※ 4	72.0%	※ 5	69.8%	※ 6
⑰ひとり親家庭で養育費を受け取っていない世帯の割合（父子家庭）	89.3%	※ 4	95.6%	※ 5	90.2%	※ 6

出典

<全国>

- ※1 厚生労働省社会・援護局保護課（平成 31 年 4 月 1 日現在）
- ※2 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課（令和元年 5 月 1 日現在）
- ※3 文部科学省初等中等教育局児童生徒課（平成 30 年度実績）
- ※4 文部科学省初等中等教育局修学支援プロジェクトチーム（平成 30 年度実績）
- ※5 全国ひとり親世帯等調査（平成 27 年 11 月 1 日現在）
- ※6 全国ひとり親世帯等調査（平成 28 年 11 月 1 日現在）

<宮城県>

- ※1 厚生労働省社会・援護局保護課（平成 31 年 4 月 1 日現在）
- ※2 宮城県子育て支援課（令和元年 5 月 1 日現在）
- ※3 宮城県教育委員会（平成 30 年度実績）
- ※4 宮城県子どもの貧困対策計画（令和元年度実績）
- ※5 宮城県ひとり親世帯等実態調査（平成 30 年 11 月 1 日現在）

<本市>

- ※1 仙台市保護自立支援課（令和 3 年 3 月 31 日現在）
- ※2 仙台市子供家庭支援課（令和 2 年度実績）
- ※3 仙台市教育委員会（令和 2 年度実績）
- ※4 平成 30 年度仙台市ひとり親家庭生活実態調査

参考資料      使用した調査票

仙台市 子どもの生活に関する実態調査

アンケート調査ご協力のお願い

ひごころから仙台市政にご協力をいただきありがとうございます。

このアンケート調査は、2023年度から実施する「仙台市子どもの貧困対策計画」を策定するにあたり、ご家庭の状況とニーズを把握し、より効果的な取り組みの推進や支援制度検討のため実施するものです。

今回の調査は、本市の支援制度や事業を利用されている世帯の方、2021年4月1日現在の年齢が18歳未満のお子さんがいる世帯の方を対象として無作為で抽出し、アンケート調査のご協力を願っているものです。

回答いただいた内容は、今後の支援策や計画の策定にのみ利用させていただきます。回答者個人が特定されることは一切ございません。

つきましては、ご多忙のことと存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力ください。またようお願い申し上げます。

2021年10月

仙台市

【回答にあたってのお願い】

- 2021年10月1日現在の状況について、封筒の宛名の保護者の方がお答えください。
- 郵送またはインターネットのどちらからでもお答えください。

◇郵送で回答する方

- 黒もしくは青のボールペンまたは鉛筆で記入ください。
- このアンケートは無記名です。住所や名前を書く必要はありません。
- ご回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、数字などを記入いただく場合がございます。
- 選択肢の場合、選ぶ数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。
- 「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある( )内に具体的な内容をご記入ください。
- お答えになりたくない設問は、とばして次の設問にお進みください。
- ご記入が済みましたら、同封の黄緑色の返信用封筒に入れ、11月26日(金)まで郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

◇インターネットで回答する方

- 右のQRコードを読み込むか、下記のURLにアクセスしてください。  
<https://questant.jp/q/TQIIT01N>
- 回答時間の目安は20分です。
- 途中保存はできませんので、ひと通り回答できる時間があるときに入力してください。

ご不明な点、調査についての問合せは、下記までお願いいたします。

連絡先：仙台市子供未来局 子供育成部子育て家庭支援課 家庭支援係

住所：〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 上杉分庁舎8階

電話：022-214-8606

問1 現在のお住まいの区について教えてください。(○は1つだけ)

1. 青葉区

2. 宮城野区

3. 若林区

4. 太白区

5. 泉区

問2 この調査に回答いただいている方（あなた）の、子どもからみた続柄について教えてください。(○は1つだけ)

1. 母親（継母を含む）

2. 父親（継父を含む）

3. 祖母

4. 祖父

5. その他（ ）

問3 普段一緒にお住まいで、生計を共にしている方（世帯員）は、あなたを含めて何人ですか。

世帯員人数（あなたも含めて）[ ] 人

問4 あなたが世帯に含まれる方全員について、該当する区分ごとに人数を教えてください。

子どもの人数 (2021年4月1日現在0歳から18歳未満の方)	小学校入学前 小学生 中学生 高校生 大学、短大、専門学校等 就職 その他	[ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人
子ども以外の世帯員の人数	子どもからみて 父母 祖父母 曾祖父母 叔伯父母 兄弟姉妹 その他	[ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人

問5 宛名のお子さんの生年月（西暦）を教えてください。

[ ] 年 [ ] 月

問6 宛名のお子さんの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1. 男

2. 女

3. 答えたくない

問7 宛名のお子さんが現在所属している学校教育機関等を教えてください。(○は1つだけ)

1. 未就園
2. 保育園等
3. 幼稚園
4. 小学校
5. 中学校
6. 高校

7. 学校には所属していない

問7で「7. 学校には所属していない」と選んだ方におたずねします。

問7-1 宛名のお子さんの最終学歴は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

1. 中学校卒業
2. 高校中退
3. その他 ( )

問7-2 宛名のお子さんの就業等の状況は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

1. 求職中
2. 正社員・正規職員
3. パート・アルバイト
4. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員
5. 人材派遣会社の派遣社員
6. 自営業主 (商店主・農業など)
7. 自家営業の手伝い (家族従業員)
8. 主夫・主婦
9. その他 ( )

すべての方におたずねします。

問8 あなたの世帯は「ひとり親家庭」に該当しますか。(○は1つだけ)

1. ひとり親家庭である (母子家庭)
2. ひとり親家庭である (父子家庭)
3. ひとり親家庭ではない ⇒問18へ

ひとり親の方のおたずねします。

問9 ひとり親家庭になって困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 差し当たりの生活費
2. 子どもの健康・教育・しつけ
3. 適当な仕事が無かった
4. 退職や転職をしなければならなかった
5. 自分が就学を継続できなかった、進学できなかった
6. 家事ができなかった
7. 子どもを預ける先が無かった
8. 差し当たり住む住宅
9. 近くに身寄りや相談相手がいなかった
10. ひとり親家庭への偏見や理解不足
11. ストレスで子どもにつらくあたってしまった
12. その他 ( )
13. 困ったことはなかった

問10 あなたは、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 両親が離婚した
2. 成人する前に母親が亡くなった
3. 成人する前に父親が亡くなった
4. 成人する前の生活は経済的に困っていた
5. 親から暴力を振られたことがある
6. 親と疎遠になっている (なっていた)
7. 親の介護が負担になっている (なっていた)
8. 配偶者または元配偶者から暴力を振られたことがある
9. 配偶者または元配偶者に暴力を振られたことがある
10. いずれも経験したことがない

離婚によってひとり親となった方のみおたずねします。  
(離婚以外の理由でひとり親となった方⇒問15へ)

問11 離婚した元配偶者とのあいだに、養育費の取り決めをしていますか。(○は1つだけ)

1. 文書交わして取り決めをしている
2. 文書交わしていないが、取り決めをしている
3. 取り決めをしていない



問12 離婚した元配偶者から、養育費を受けていますか。(○は1つだけ)

1. 現在も受けている (定期的)
2. 現在も受けている (不定期)
3. 以前受けていたが、現在は受けていない ⇒問15へ
4. 受けたことがない ⇒問15へ

問11で「1.文書を交わして取り決めている」「2.文書を交わしていないが、取り決めている」と答えた方におたずねします。

問13 養育費について、ひと月の取り決め総額はどのくらいですか。

ひと月あたり [                      ] 円

問14 養育費の支払い状況は次のうちどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 取り決めた金額が払われている
2. 取り決めた金額と異なる金額が払われている    ひと月あたり [                      円]
3. 取り決めているが、支払われていない

ひとり親の方すべてにおたずねします。

問15 あなたがひとり親家庭になる前の就業形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 正社員・正規職員
2. パート・アルバイト
3. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員
4. 人材派遣会社の派遣社員
5. 自営業主 (商店主・農家など)
6. 自営業の手伝い (家族従業者)
7. パソコン・専門技術を使っての在宅勤務
8. 家庭で内職 (部品の組立てなどの単純作業)
9. その他 (                      )
10. 収入をとまなう仕事をしていなかった ⇒問18へ

問15で1～9と答えた方におたずねします。

問16 あなたはひとり親家庭になったことをきっかけとして転職や失職をしましたか。

(○は1つだけ)

1. 転職せずに就業を継続した ⇒問18へ
2. 転職した (自営業についた場合なども含みます) ⇒問17へ
3. 失職した ⇒問17へ

問16で「2.転職した」「3.失職した」と答えた方におたずねします。

問17 ひとり親家庭となったことでそれまでの就業を続けられなかった理由は、次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 収入が低い
2. 通勤に時間がかかる
3. 遠くへ引越ししなければならなかった
4. 健康がすぐれない、体調を崩した
5. 仕事内容や職場環境がよいくない
6. 労働時間が合わず子育てとの両立ができない
7. 社会保険がない又は不十分
8. 子育てや介護への配慮がなく休暇が取れない
9. 身分が安定していない
10. 家族従業者であったため就業を続けられなかった
11. その他 (                      )

すべての方におたずねします。

問18 あなたの住居は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 持ち家 (一戸建・分譲マンション等)
2. 父母等の家に同居
3. 借家 (民間の借家・アパート・賃貸マンション)
4. 市営・県営住宅
5. 公社・公団 (UR) の賃貸
6. 社宅
7. 間借
8. 元配偶者名義の家
9. その他 (                      )

**あなたとあなたの配偶者のことについておたずねします。**

※ 「配偶者」には、法律上婚姻はしていないが、事実上の婚姻関係にある人も含みます。配偶者がいらいしやらない場合には、問19～26の配偶者についての質問にはご回答いただくことなく結構です。

**問19 あなたとあなたの配偶者は、現在 収入 をともなう仕事をしていますか。(○は1つだけ)**

あなた	あなたの配偶者
1. している (ひとつの仕事をしている) ⇒問20へ	1. している (ひとつの仕事をしている) ⇒問20へ
2. している (複数の仕事をしている) ⇒問20へ	2. している (複数の仕事をしている) ⇒問20へ
3. していない ⇒問21へ	3. していない ⇒問21へ
4. わからない ⇒問23へ	4. わからない ⇒問23へ

**収入 をともなう仕事をしている方におたずねします。**

**問20 あなたとあなたの配偶者の現在の就業形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)**  
(複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事1つだけに○をつけてください)

あなた	あなたの配偶者
1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員 4. 人材派遣会社の派遣社員 5. 自営業主 (商店主、農家など) 6. 自営業の手伝い (家族従業員) 7. パソコン・専門技術を使っている在宅勤務 8. 家庭で内職 (部品の組立てなどの単純作業) 9. その他 ( )	1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員 4. 人材派遣会社の派遣社員 5. 自営業主 (商店主、農家など) 6. 自営業の手伝い (家族従業員) 7. パソコン・専門技術を使っている在宅勤務 8. 家庭で内職 (部品の組立てなどの単純作業) 9. その他 ( )

⇒問23へお進みください

**収入 をともなう仕事をしていない方におたずねします。**

**問21 あなたとあなたの配偶者の働いていない主な理由を教えてください。**

(○は2つまで)

あなた	あなたの配偶者
1. 保育施設等の適当な預け先がない 2. 子どもが障がい・難病等であるため 3. 子どもが不登校・ひきこもり等であるため 4. 他の家族の介護や世話のため 5. 自身の病氣 (病弱)・障がい働けない 6. 求職中である 7. 職業訓練を受けたたり、技術を修得中である 8. 収入面で条件の合う仕事がない 9. 時間について条件の合う仕事がない 10. 年齢制限のため適当な仕事がない 11. 仕事に必要な専門知識や資格がない 12. 仕事の探し方がわからない 13. 働きたいと思わない 14. その他 ( )	1. 保育施設等の適当な預け先がない 2. 子どもが障がい・難病等であるため 3. 子どもが不登校・ひきこもり等であるため 4. 他の家族の介護や世話のため 5. 自身の病氣 (病弱)・障がい働けない 6. 求職中である 7. 職業訓練を受けたたり、技術を修得中である 8. 収入面で条件の合う仕事がない 9. 時間について条件の合う仕事がない 10. 年齢制限のため適当な仕事がない 11. 仕事に必要な専門知識や資格がない 12. 仕事の探し方がわからない 13. 働きたいと思わない 14. その他 ( )

**問22 どのような状況になれば働きたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)**

あなた	あなたの配偶者
1. 子どもの保育の手だてができた 2. 子どもが小学校に入學したら 3. 子どもの問題 (健康など) が解決したら 4. 自分自身の問題 (健康など) が解決したら 5. 学校や職業訓練などが終了したら 6. 仕事に必要な資格や技能を身につけたら 7. その他 ( ) 8. 働く必要がない	1. 子どもの保育の手だてができた 2. 子どもが小学校に入學したら 3. 子どもの問題 (健康など) が解決したら 4. 自分自身の問題 (健康など) が解決したら 5. 学校や職業訓練などが終了したら 6. 仕事に必要な資格や技能を身につけたら 7. その他 ( ) 8. 働く必要がない

すべての方におたずねします。

問23

あなたとあなたの配偶者は、お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(○は1つだけ)

あなた	あなたの配偶者
1. 貯蓄をしている 2. 貯蓄をしたいが、できていない 3. 貯蓄をするつもりはない 4. わからない	1. 貯蓄をしている 2. 貯蓄をしたいが、できていない 3. 貯蓄をするつもりはない 4. わからない

あなたとあなたの配偶者の最終学歴は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

あなた	あなたの配偶者
1. 中学校卒業 2. 高校中退 3. 高校卒業 4. 高専、短大、専門学校等中退 5. 高専、短大、専門学校等卒業 6. 大学中退 7. 大学卒業 8. 大学院中退 9. 大学院修了 10. その他教育機関中退 11. その他教育機関卒業 12. その他( ) 13. わからない	1. 中学校卒業 2. 高校中退 3. 高校卒業 4. 高専、短大、専門学校等中退 5. 高専、短大、専門学校等卒業 6. 大学中退 7. 大学卒業 8. 大学院中退 9. 大学院修了 10. その他教育機関中退 11. その他教育機関卒業 12. その他( ) 13. わからない

あなたとあなたの配偶者には、現在心おきなく相談できる相手がありますか。(○は1つだけ)

あなた	あなたの配偶者
1. 相談できる相手がいる 2. 相談相手がほしい 3. 必要ない(相談するほどの悩みや不安はない) ⇒問27へ 4. わからない ⇒問27へ	1. 相談できる相手がいる 2. 相談相手がほしい 3. 必要ない(相談するほどの悩みや不安はない) ⇒問27へ 4. わからない ⇒問27へ

問25で「1. 相談できる相手がいる」または「2. 相談相手がほしい」とお答えの方におたずねします。

問26 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

あなた	あなたの配偶者
1. 配偶者 2. 親・親族 3. 子ども 4. 友人・知人 5. 隣人・地域の人 6. 幼稚園・保育施設等の先生 7. 学校の先生 8. カウンセラーなどの専門家 9. 民生委員・児童委員 10. 区役所などの公的機関 11. 民間団体やボランティア 12. その他( )	1. 配偶者 2. 親・親族 3. 子ども 4. 友人・知人 5. 隣人・地域の人 6. 幼稚園・保育施設等の先生 7. 学校の先生 8. カウンセラーなどの専門家 9. 民生委員・児童委員 10. 区役所などの公的機関 11. 民間団体やボランティア 12. その他( )

すべての方におたずねします。

問27 お子さんのことについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもに対するしつけや教育に自信が持てない
2. 子どもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない
3. 配偶者が子育てにあまり協力してくれない
4. 配偶者と子育てのことで意見が合わない
5. 子どもに基本的な生活習慣(あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など)が身につけていない
6. 子どもが勉強しない
7. 子どもの進学や受験のことが心配である
8. 子どもの不登校のことが心配である
9. 子どもの就職のことが心配である
10. 子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない
11. 子どもが何事に対しても消極的である
12. 子どもが良い友人関係を持てない
13. 子どもの心身の発達や病気が心配である
14. 子どもの非行や問題行動が心配である
15. 子どもがいじめられていないか心配である
16. 子どもの教育費のことが心配である
17. 子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない
18. 子どもに障がいがあるが、子どもが学校や職場で障がいに応じた配慮を受けられていない
19. その他( )
20. 特に悩みはない

問28 あなたが病気のとき、お子さんの世話はどうなっていますか。(○は1つだけ)

1. 同居の親族(親、祖父母、20歳以上の兄弟・姉妹)
2. 別居の親族
3. 友人・知人
4. 近所の人
5. 家庭生活支援員、ホームヘルパー等
6. 家政婦、ベビーシッター等
7. 児童福祉施設の一時的所等
8. 同居の兄弟・姉妹(20歳未満)
9. その他( )
10. 誰もいない

お子さんが、小学生以上の方におたずねします。(お子さんが、小学生未満の場合は問32へ)

問29 お子さんの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

1. 上のほう
2. やや上のほう
3. まん中あたり
4. やや下のほう
5. 下のほう
6. わからない

問30 お子さんは、これまでに不登校になったことはありますか。(○は1つだけ)

1. 不登校経験なし
2. 過去に不登校経験あり
3. 現在不登校である
4. わからない

問31 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないことがありますか。(○は1つだけ)

1. よくあった
2. ととききあった
3. ほとんどなかった
4. まったくなかった

すべての方におたずねします。

問32 あなたの希望として、お子さんには、将来どの段階まで進学してほしいですか。(○は1つだけ)

1. 中学校まで
2. 高校まで
3. 専門学校(専修学校・各種学校)まで
4. 短期大学まで
5. 四年制大学まで
6. 大学院まで
7. その他( )

問33

現実的には、お子さんは将来どの段階まで進歩すると思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学校まで

2. 高校まで

3. 専門学校(専修学校・各種学校)まで

4. 短期大学まで

5. 四年制大学まで

6. 大学院まで

7. その他( )

問32

問33でお答えいただいた、「希望」と「現実」が異なる場合についてお聞きします。

問34

希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもがそう希望しているから

2. 一般的な進路だと思うから

3. 子どもの学力から考えて妥当だから

4. 家庭に経済的な余裕がないから

5. 他の家族の理解が得られないから

6. その他( )

7. 特に理由はない

すべての方におたずねします。

問35

保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(それぞれ○は1つだけ)

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	1	2	3	4
子どもに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
子どもの方から、勉強や成績のことについて話される	1	2	3	4

問36

授業参観や運動会など学校行事はどの程度参加していますか。(○は1つだけ)

1. よく参加している(していた)

2. ときどき参加している(していた)

3. あまり参加していない(していなかった)

4. まったく参加していない(していなかった)

すべての方におたずねします。

問37

あなたの世帯では、過去1年間に、お子さんについて病氣や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。(ある場合はあてはまるものすべてに○)

1. ない(病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した)

2. ある(病院や診療所に行く時間がなかったため)

3. ある(身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため)

4. ある(病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため)

5. ある(公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しいため)

6. ある(公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しいため)

7. ある(その他の理由・具体的に: )

問38

あなたの世帯では、次のような借入金はありませんか。借入金がある場合、現在のひと月あたりの返済額はいくらかですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住宅・土地の購入のための借入金(住宅ローン)

2. 車の購入のための借入金

3. 教育のための借入金(返済が必要な奨学金を含む)

4. 親族や友人・知人からの借入金

5. 母子父子寡婦福祉資金貸付金など自身体からの借入金

6. 用途が自由な民間金融機関等からの借入金(カードローン、フリーローン等)

7. その他( )

8. 借入金はなし

ひと月あたりの返済額: 約 [ ] 万円

問39

あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(○は1つだけ)

1. よくあった

2. ときどきあった

3. ほとんどなかった

4. まったくなかった

問40 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする衣料が買えないことがありますか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(○は1つだけ)

1. よくあった

2. ときどきあった

3. ほとんどなかった

4. まったくなかった

問41 あなたの世帯では、過去1年間に、次の料金について、お金が足りなくて未払いになったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 電気料金

2. ガス料金

3. 水道料金

4. 家賃・住宅ローン

5. 電話料金

6. その他(国民健康保険料、市民税等)

7. 未払いになったことはない

問42 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

1. 大変ゆとりがある

2. ややゆとりがある

3. 普通

4. やや苦しい

5. 大変苦しい

問43 現在の暮らしの状況は新型コロナウイルス感染症拡大前と比べていかがですか。(○は1つだけ)

1. 今の方が楽

2. 変わらない

3. 今の方が苦しい

4. わからない・答えたくない

問44 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたは次のようなことを経験しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望しない形での転職

2. 失業

3. 勤務先の増加(ダブルワーク等)・副業

4. 希望しない勤務形態の変化

5. 希望しない労働時間の減少

6. 希望しない時間帯・曜日での勤務

7. 収入の減少

8. 上記のようなことは経験していない

問45 家族の中にお子さんがケアをしている人はいいますか。(お子さんから見てあてはまる人すべてに○)(ここでいう「ケア」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることです。)

1. 母親

2. 父親

3. 祖母

4. 祖父

5. 兄弟姉妹

6. その他( )

7. お世話はしていない ⇒問50へ

問45で1〜6と答えた方におたずねします。

問46 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はお子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他
(ア) 高齢(65歳以上)	1	2	3	4		6
(イ) 若い					5	6
(ウ) 要介護(介護が必要な状態)	1	2	3	4	5	6
(エ) 認知症	1	2	3	4	5	6
(オ) 身体障がい	1	2	3	4	5	6
(カ) 知的障がい	1	2	3	4	5	6
(キ) 精神疾患(疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ク) 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ケ) キ、ク以外の病気	1	2	3	4	5	6
(コ) その他( )	1	2	3	4	5	6

問47 お子さんが行っているケアの内容を教えてください。ケアを必要としている方が複数いる場合は  
お子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母は親	父は親	祖父母	祖父母	兄弟姉妹	その他
(ア) 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	1	2	3	4	5	6
(イ) 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など					5	6
(ウ) 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	1	2	3	4	5	6
(エ) 外出の付き添い (買い物、散歩など)	1	2	3	4	5	6
(オ) 通院の付き添い	1	2	3	4	5	6
(カ) 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	2	3	4	5	6
(キ) 見守り	1	2	3	4	5	6
(ク) 通訳 (日本語や手話など)	1	2	3	4	5	6
(ケ) 金銭管理	1	2	3	4	5	6
(コ) 薬の管理	1	2	3	4	5	6
(サ) その他 ( )	1	2	3	4	5	6

問48 お子さんがケアをしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

1. ほぼ毎日	2. 週に3～5日
3. 週に1～2日	4. 1か月に数日
5. その他 ( )	

問49 平日にお子さんがケアをしている時間は1日何時間くらいですか。(○は1つだけ)

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間
3. 2時間～4時間	4. 4時間～6時間
5. 6時間～8時間	6. 8時間以上

小学校入事前のお子さんを養育している方のみにおたずねします。  
(お子さんが、小学生以上の方⇒問51へ)

問50 お子さんの保育は主にどなたが行っていますか。(○は1つだけ)

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 同居の親族
4. 別居の親族
5. パートナー
6. 友人・知人
7. 近所の人
8. 保育施設 (認可外保育施設を含む)
9. 幼稚園
10. 家政婦、ベビーシッター等
11. 世話する人がいない (子どもだけで家にいる)
12. その他 ( )

お子さんが、小学生以上の方におたずねします。(お子さんが、小学生未満の場合⇒問52へ)

問51 お子さんは、学校が終わってから主にどのようなように過ごしますか。(○は2つまで)

1. あなた又は同居の親族 (大人) と自宅にいる
2. あなた又は親族 (大人) と自宅以外のところにいる
3. 兄弟姉妹や友だちなどの子どもだけで自宅にいる
4. ひとりで自宅にいる
5. 子どもの友だちの家でその家族等という
6. 兄弟姉妹や友だちと校庭、公園、広場などの外の遊び場にいる
7. 児童館、児童クラブ、民間の学童保育などで過ごす
8. ベビーシッターや知人の家などで過ごす
9. スポーツ活動や地域活動 (スポーツ少年団、クラブ活動) などをしている
10. 学習塾や習いごとに行っている
11. その他 ( )

公的制度等の利用状況等について、すべての方におたずねします。

問52 あなたは、次のA～Pの公的制度について、①利用・受給したことがありますか。

- 利用・受給したことがある方は②利用・受給後の感想を、  
利用・受給したことがない方は③利用・受給しなかった理由をお答えください。

(A～Pそれぞれについて○は1つだけ)

①利用・受給の有無

	利用・受給したことがある	利用・受給したことはない	利用・受給した
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2	2
B 母子父子寡婦福祉資金貸付	1	2	2
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2	2
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2	2
E ひとり親家庭等日常生活支援事業(家庭生活支援員の派遣)	1	2	2
F 中学生の放課後まなびサポート(学習・生活サポート) ・高校生活・まなびなおしサポート(中途退学未然防止等)	1	2	2
G 養育費保証契約保証料補助	1	2	2
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2	2
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2	2
J 家計相談プラザ(家計改善支援事業)	1	2	2
K 病児・病後児保育	1	2	2
L 子育て支援ショートステイ	1	2	2
M 育児ヘルパー派遣	1	2	2
N 児童生徒就学援助費	1	2	2
O 修学支援新制度(高等教育の授業料等減免・給付型奨学金)	1	2	2
P 生活福祉資金貸付	1	2	2

※ 各制度の概要は次ページに記載していますので、必要に応じてご参照ください。

- A：ひとり親家庭を対象に、通院の場合1,000円、入院の場合2,000円を超えた場合の費用を助成  
B：ひとり親家庭を対象に、子どもの修学資金や入学時に必要な資金を無利子・低利子貸付  
C：介護初任者研修等の教育訓練講座を受講し、修了した場合に経費の10～60%を支給  
D：就業に役立つ国家資格取得のために一定の期間養成機関で修学する場合に給付金を支給(月7万～14万)  
E：就労上の理由等で家事や育児に困るとき、1時間あたり最大300円で日常生活の世話を保育を実施  
F：児童扶養手当又は生活保護受給世帯の中高生を対象とした無料の学習サポート等を実施  
G：新たに保証会社と養育費保証契約を結んだ際に支払った保証料(上限5万円)を補助  
H：ひとり親家庭を対象に、就業や自立に向けた相談対応など総合的な支援を行う施設  
I：経済的に困りの方の方の様々な悩みに対して、支援プランを考えた課題の解決を図る施設  
J：生活資金の不足など、お金の困りごとを整理し、家計の見直しアドバイス等を行う施設  
K：市内6つの施設において、病児又は回復期の子ども(小6まで)を日中1日2,000円でお預かり  
L：保護者が病気で世話ができない子ども(小6まで)を施設で一定期間お預かり(所得により日額料金変動)  
M：産後1年以内の方を対象に、保護者の体調不良時等に1時間あたり600円で育児ヘルパーを派遣  
N：経済的に困りの市立小中学校の児童生徒に対し、学用品費等の一部を援助  
O：大学等に進学する住民非課税世帯等の学生に対し、授業料の減免や給付型奨学金を支給  
P：経済的に困りの世帯等を対象に、一時的に生計の維持が困難になった場合等の無利子・低利子貸付



②利用・受給後の感想（A～Pそれぞれについて○は1つだけ）

	とても役に立った	少し役に立った	ほとんど役に立たなかった	まったく役に立たなかった
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2	3	4
B 母子父子寡婦福祉資金交付	1	2	3	4
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2	3	4
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2	3	4
E ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）	1	2	3	4
F 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート） ・高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）	1	2	3	4
G 養育費保証契約保証料補助	1	2	3	4
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2	3	4
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2	3	4
J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）	1	2	3	4
K 病児・病後児保育	1	2	3	4
L 子育て支援ショートステイ	1	2	3	4
M 育児ヘルパー派遣	1	2	3	4
N 児童生徒就学援助費	1	2	3	4
O 修学支援新制度（高等学校の授業料等減免・給付型奨学金）	1	2	3	4
P 生活福祉資金交付	1	2	3	4

③利用・受給しなかった理由（A～Pそれぞれについて○は1つだけ）

	制度を知らなかった（もし知っていたら、利用しなかった）	制度を知らなかった（仮に知っていたとしても、必要ない）	制度を知っていたが、必要なかった	申請したが、利用できなかった
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2	3	4
B 母子父子寡婦福祉資金交付	1	2	3	4
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2	3	4
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2	3	4
E ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）	1	2	3	4
F 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート） ・高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）	1	2	3	4
G 養育費保証契約保証料補助	1	2	3	4
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2	3	4
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2	3	4
J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）	1	2	3	4
K 病児・病後児保育	1	2	3	4
L 子育て支援ショートステイ	1	2	3	4
M 育児ヘルパー派遣	1	2	3	4
N 児童生徒就学援助費	1	2	3	4
O 修学支援新制度（高等学校の授業料等減免・給付型奨学金）	1	2	3	4
P 生活福祉資金交付	1	2	3	4

問53 支援情報やお知らせは、どのような広報手段であれば受け取りやすいですか。(○は3つまで)

1. 市役所、区役所などの窓口	
2. 母子家庭相談支援センター、父子家庭相談支援センター	
3. 仙台市政だより	
4. 仙台市が発行する各種パンフレット、ポスター、チラシなど	
5. 仙台市ホームページの子育て関連ページ	
6. 仙台市のメール配信サービス	
7. のびすくナビ	
8. 新聞、テレビ、ラジオ、雑誌	
9. インターネット、SNS	
10. 友人・知人	
11. 民生委員児童委員、主任児童委員	
12. ハローワーク	
13. 民間の支援団体	
14. その他 ( )	

問54 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。(○は3つまで)

1. 保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供	
2. 低い家賃で住めるところ (寮や下宿のようなどころ)	
3. 生活や就学のための経済的補助	
4. 進路や生活などについてなんでも相談できるところ	
5. 仲間と出会え、一緒に活動できるところ	
6. 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供	
7. 地域における子ども居場所の提供	
8. 読み書き計算などの基礎的な学習への支援	
9. 進学を見据えた発展的な学習への支援	
10. 会社などでの職場体験等の機会	
11. 仕事に就けるようにするための就労に関する支援	
12. その他 ( )	
13. 特になし	
14. よくわからない	

問55 ひとり親家庭の方のよりよい就職や仕事の問題解決のために、どのような支援が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 技能講習、職業訓練などの機会が増えること	
2. 技能訓練受講などに経済的支援が受けられること	
3. 仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること	
4. 職業や生活に関する相談が一ヶ所で行われること	
5. 就職のための支援策などの情報が定期的に得られること	
6. 自分で事業を起こす場合に相談や援助を得られること	
7. その他 ( )	
8. わからない	

問56 お子さんのことや仕事のことなど、悩み事や困っていることがあるときに必要な支援を受けられるようにするために、重要だと思うことはどのようなことですか。(○は3つまで)

1. 行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する	
2. 携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる	
3. メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する	
4. 広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる	
5. 相談窓口等の数を多くする	
6. 相談窓口等の場所をわかりやすくする	
7. 相談窓口等について行きやすい雰囲気にする	
8. 休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす	
9. 保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	
10. 保育施設、幼稚園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする	
11. 病院を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う	
12. 病院で具体的な助言等が受けられるようにする	
13. 子育て世帯に対する訪問事業を充実させる	
14. 乳幼児健康診査を充実させる	
15. その他 ( )	
16. わからない	

現在、収入をともなう仕事を「している」方におたずねします。  
(現在、収入をともなう仕事を「していない」方は問58へ)

問57 残業時間等を含めた1週間あたりの平均就業時間は何時間ぐらいいですか。

2019年	1週間あたりの平均就業時間	約 [ ] 時間
2020年	1週間あたりの平均就業時間	約 [ ] 時間

すべての方におたずねします。

問58 あなたのおおよその年間総収入及び年間就労収入はいくらですか。

※ 年間総収入には、すべての収入（生活保護法に基づき給付、児童扶養手当等の社会保障給付金、就労収入、別れた配偶者からの養育費、親からの仕送り、家賃・地代の収入等）を含めてください。年間総収入と年間就労収入どちらも、税金や社会保障料等の公的保険料を差し引く前の支給額（額面金額）になります。なお、家族の収入は除いてください。また、問38で回答いただいた「借入金」は、収入には含めません。

2019年	あなたの年間総収入	約	[      ] 万円
2020年	あなたの年間総収入	約	[      ] 万円

2019年	あなたの年間就労収入	約	[      ] 万円
2020年	あなたの年間就労収入	約	[      ] 万円

問59 あなたの世界（生計をともにしている人々）のおおよその可処分所得（いわゆる手取り収入）の合計はいくらですか。

※ あなたの世帯の年間総収入（家族の収入も含む）から、税・社会保障料等を除いた額がおおよそどれくらいか教えてください。なお、問38で回答いただいた「借入金」は、収入には含めません。

	2019年	2020年
世帯員人数が2人の場合	1. 175万円未満 2. 175万円～351万円未満 3. 351万円以上	1. 175万円未満 2. 175万円～351万円未満 3. 351万円以上
世帯員人数が3人の場合	1. 215万円未満 2. 215万円～430万円未満 3. 430万円以上	1. 215万円未満 2. 215万円～430万円未満 3. 430万円以上
世帯員人数が4人の場合	1. 248万円未満 2. 248万円～496万円未満 3. 496万円以上	1. 248万円未満 2. 248万円～496万円未満 3. 496万円以上
世帯員人数が5人の場合	1. 277万円未満 2. 277万円～555万円未満 3. 555万円以上	1. 277万円未満 2. 277万円～555万円未満 3. 555万円以上
世帯員人数が6人の場合	1. 304万円未満 2. 304万円～607万円未満 3. 607万円以上	1. 304万円未満 2. 304万円～607万円未満 3. 607万円以上

	2019年	2020年
世帯員人数が7人の場合	1. 328万円未満 2. 328万円～656万円未満 3. 656万円以上	1. 328万円未満 2. 328万円～656万円未満 3. 656万円以上
世帯員人数が8人の場合	1. 351万円未満 2. 351万円～701万円未満 3. 701万円以上	1. 351万円未満 2. 351万円～701万円未満 3. 701万円以上
世帯員人数が9人以上の場合	1. 372万円未満 2. 372万円～744万円未満 3. 744万円以上	1. 372万円未満 2. 372万円～744万円未満 3. 744万円以上

問60 あなたの世帯では、過去1年間に次のような形で収入はありますか。  
(あてはまるものをすべてに○)

1. 親・親族からの仕送り	○
2. 離婚後の配偶者からの養育費	○
3. 公的年金（遺族年金、障がい年金）	○
4. 公的年金（老齢年金）	○
5. 障がいや難病の手当	○
6. 児童手当	○
7. 就学援助	○
8. 生活保護	○
9. 児童扶養手当	○
10. いずれも該当しない	○

問61 あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。


以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

調査協力をお願いいたします

2021<sup>ねん</sup>年10<sup>がつ</sup>月

【回答にかとうねがにあってのお願い】

- ◇郵送で回答する方

- よく読んでお答えください。

右のQRコードを読み込むか、下記のURLにアクセスしてください。

- 途中保存はできませんので、ひと通り回答できる時間があるときに入力

調査についてのお返せは、下記までお願いします。

連絡先：仙臺市子供未来センター  
 子育て支援課  
 家庭支援係  
 かていしえんがかり

電話: 022-214-8606

1. 男 おとこ  
2. 女 おんな  
3. わからない・答<sup>こた</sup>えたくない

1. 9歳 さい
2. 10歳 さい
3. 11歳 さい
4. 12歳 さい
5. 13歳 さい
6. 14歳 さい
7. 15歳 さい
8. 16歳 さい
9. 17歳 さい
10. 18歳 さい
11. 19歳 さい
12. 20歳 さい

1. 小学校 しょうがっこう  
2. 中学校 ちゅうがっこう  
3. 大学 だいがく  
4. その他 その他  
5. 学校には行っていない がっこうにはいっていない

1. 寝<sup>ね</sup>ている
2. どちらかといえ<sup>ね</sup>ば寝ている
3. どちらかといえ<sup>ね</sup>ば寝<sup>ね</sup>ていない
4. 寝<sup>ね</sup>ていない

1. 毎日食べる (週7日)  
まいにち たべ する (しゅう 7 じつ)
2. 週5～6日休む  
しゅう 5 ～ 6 じつ やす む
3. 週3～4日休む  
しゅう 3 ～ 4 じつ やす む
4. 週1～2日休む  
しゅう 1 ～ 2 じつ やす む
5. ほとんど食べない  
ほとんど たべ ない

1. 毎日食べる (週7日) しゅう にち 週
2. しゅう 週
3. 週3~4日 しゅう にち 週
4. しゅう 週
5. ほとんど食べない た

1. 毎日食べる (週7日)  
まいにち た しょう にち
2. 週5～6日休む  
しゅう 5～6 にち しょう
3. 週3～4日休む  
しゅう 3～4 にち しょう
4. 週1～2日休む  
しゅう 1～2 にち しょう
5. ほとんど食べない  
ほとんど たべない

1. ある

問9 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(○は1つだけ)

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない ⇒問10へ
4. まったくない ⇒問10へ

問9で「1. よくある」「2. ときどきある」を選んだ方におたずねします。

問9-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。(○は1つだけ)

1. スーパー・コンビニなどで買ったもの
2. 親や兄弟姉妹が作ったもの
3. 自分で作ったもの
4. 外食
5. あまり決まっていない
6. その他 ( )

再び、すべての方におたずねします。

問10 普段の生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか。(○は1つだけ)

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない
4. まったくない

問11 あなたは、家族のことで、何が困っていることや嫌なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族のだんらんや会話が少ない
2. 親が厳しすぎる
3. 親が自分の気持ちをわかってくれない
4. 親との仲が悪い
5. 親同士の仲が悪い
6. 兄弟姉妹との仲が悪い
7. 家で落ち着いて勉強できる環境がない
8. 病気の人やお年寄りの世話が大変である
9. 食べるごはんがないときがある
10. 着る服が少ない
11. 家の中がちらかっている
12. 家にお金がない (少ない)
13. その他 ( )
14. 特に困っていることや嫌なことはない

問12 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. 兄弟姉妹
3. おじいさん、おばあさんなど
4. 学校の先生
5. 学校の友だち
6. 学校外の友だち
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
8. その他の大人 (学童保育の人、塾・習い事の先生、地域の人など)
9. ネットで知り合った人
10. だれにも相談できない、相談したくない
11. だれに相談すればよいのかわからない
12. その他 ( )

問13 あなたは、普段学校の授業時間以外に (月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問14 あなたは、普段学校の授業時間以外に (土・日曜日・祝日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問15 あなたは、普段学校の授業以外で、どのように勉強していますか。※勉強には学校の宿題もふくみます。(○は1つだけ)

1. 自分で勉強する
2. 塾で勉強する
3. 学校の補習を受ける
4. 家庭教師に教えてもらう
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する
6. 家の人に教えてもらう
7. 友だちと勉強する
8. その他 ( )
9. 学校の授業以外で勉強はしない

問16 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

1. 上のほう
2. やや上のほう
3. まん中あたり
4. やや下のほう
5. 下のほう
6. わからない

問17 あなたは、学校の授業でわからないことがありますか。(○は1つだけ)

1. いつもわかる	⇒問18へ
2. だいたいわかる	⇒問18へ
3. 教科によってはわからないことがある	
4. わからないことが多い	
5. ほとんどわからない	

問17で「3. 教科によってわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた方におたずねします。

問17-1 いまごろから、授業がわからないことがありますか。(○は1つだけ)

1. 小学校1・2年生のころ
2. 小学校3・4年生のころ
3. 小学校5・6年生のころ
4. 中学校1・2年生のころ
5. 中学校3年生のころ
6. 高校生になってから

再び、すべての方におたずねします。

問18 あなたは、これまでに、不登校になったことはありませんか。(○は1つだけ)

1. ない	⇒問19へ
2. ある (現在不登校である)	
3. ある (過去に不登校であった)	

問18で「2. ある (現在不登校である)」「3. ある (過去に不登校であった)」と答えた方におたずねします。

問18-1 誰かに相談しましたか。(○は1つだけ)

1. 相談した	2. 相談していない
---------	------------

再び、すべての方におたずねします。

問19 あなたは、学校が終わったあとの時間を、どのように過ごすことが多いですか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 家で過ごすことが多い
2. 塾や習い事
3. 部活動
4. 地域のクラブ活動
5. 友だちの家で遊ぶ
6. 友だちと外で遊ぶ
7. 学校や図書館などで勉強する
8. 家の外でひとりで過ごす
9. 知り合い・親戚などの家で過ごす
10. アルバイトなど
11. その他 ( )

問20 平日 (月～金曜日) の放課後 (夕方6時くらいまで) はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 家族
2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員
3. そのほかの大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)
4. 学校の友だち
5. 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
6. ひとりでいる
7. その他 ( )

問21 休日 (土・日曜日・祝日) の午後は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 家族
2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員
3. そのほかの大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)
4. 学校の友だち
5. 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
6. ひとりでいる
7. その他 ( )

問19で「家で過ごすことが多い」と選んだ方におたずねします。

問22 家で過ごすことが多い理由は何か。(○は1つだけ)

1. 費用がかかる(家の外で過ごすとお金がかかる)から
2. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
3. その他( )

再び、すべての方におたずねします。

問23 あなたは、希望としては、将来どの学校まで進学したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで
2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで
4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない

問24 あなたは、現実としては、将来どの学校まで進学することになると思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで
2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで
4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない

問23と問24でお答えいただいた、「希望」と「現実」が異なる場合についておたずねします。

問25 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(○は1つだけ)

1. 自分の学力から考えて
2. 親がそう希望しているから
3. 兄・姉がそうしているから
4. まわりの先輩や友だちがそうしているから
5. 経済的な余裕がないから
6. できるだけ早く働く必要があるから
7. どうすれば進学できるのかよくわからないから
8. その他( )
9. 特に理由はない

再び、すべての方におたずねします。

問26 あなたが普段考えていることについて、次の(ア)～(カ)について教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

(ア) 自分に自信がある (○は1つだけ)

1. 自信がある	2. どちらかという自信がある
3. どちらかという自信がない	4. 自信がない

(イ) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (○は1つだけ)

1. できる	2. どちらかというとできる
3. どちらかというとできない	4. できない

(ウ) 人は信用できないと思う (○は1つだけ)

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

(エ) 自分の将来について明るい希望を持っている (○は1つだけ)

1. 持っている	2. どちらかというと思っている
3. どちらかというと持っていない	4. 持っていない

(オ) 将来のためにも、今がんばりたいと思う (○は1つだけ)

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

(カ) 将来、一生懸命働きたい (○は1つだけ)

1. 働きたい	2. どちらかという働きたい
3. どちらかという働きたくない	4. 働きたくない

問27 新型コロナウイルス感染症の影響で、感染拡大前と比べて次のようなことは増えましたか、減りましたか。(それぞれ○は1つだけ)

	増えた	変わらない	減った	そもそもない
(ア) 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3	4
(イ) 学校の授業がわかれないと感じること	1	2	3	4
(ウ) 学校に遅刻すること	1	2	3	4
(エ) 学校に行きたくないと思うこと	1	2	3	4
(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数	1	2	3	4
(カ) 親と話すこと	1	2	3	4
(キ) 親にほめられること	1	2	3	4
(ク) 親にしかられること	1	2	3	4
(ケ) 親以外の大人や友達と話をすること	1	2	3	4
(コ) 食事を抜く回数	1	2	3	4
(サ) 夜遅くまで起きている回数	1	2	3	4
(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと	1	2	3	4
(ス) ゲームをする時間	1	2	3	4
(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること	1	2	3	4
(ソ) さみしいと思うこと	1	2	3	4

問28 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを指します。)(あてはまる人すべてに○)

1. 母親

2. 父親

3. 祖母

4. 祖父

5. 兄弟姉妹

6. その他

7. お世話はしていない ⇒問35へ

問28で1～6と答えた方におたずねします。

問29 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他
(ア) 高齢 (65歳以上)	1	2	3	4		6
(イ) 若い					5	6
(ウ) 要介護 (介護が必要な状態)	1	2	3	4	5	6
(エ) 認知症	1	2	3	4	5	6
(オ) 身体障がい	1	2	3	4	5	6
(カ) 知的障がい	1	2	3	4	5	6
(キ) 精神疾患 (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ク) 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ケ) キ、ク以外の病気	1	2	3	4	5	6
(コ) その他	1	2	3	4	5	6



問30 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母 親	父 親	祖 母	祖 父	兄 弟 姉 妹	そ の 他
(ア) 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	1	2	3	4	5	6
(イ) 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など					5	6
(ウ) 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	1	2	3	4	5	6
(エ) 外出の付き添い (買い物、散歩など)	1	2	3	4	5	6
(オ) 通院の付き添い	1	2	3	4	5	6
(カ) 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	2	3	4	5	6
(キ) 見守り	1	2	3	4	5	6
(ク) 通訳 (日本語や手話など)	1	2	3	4	5	6
(ケ) 金銭管理	1	2	3	4	5	6
(コ) 薬の管理	1	2	3	4	5	6
(サ) その他 ( )	1	2	3	4	5	6

問31 お世話をしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

1. ほぼ毎日	2. 週に3～5日
3. 週に1～2日	4. 1か月に数日
5. その他 ( )	

問32 平日にお世話をしている時間は1日何時間くらいですか。(○は1つだけ)

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間
3. 2時間～4時間	4. 4時間～6時間
5. 6時間～8時間	6. 8時間以上

問33 あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 親が病氣や障がい、精神疾患、入院のため
2. ひとり親家庭であるため
3. 親が仕事でいそがしいため
4. 年下のきょうだいがいるため
5. おじいさん・おばあさんの病氣や加齢、入院のため
6. 兄弟姉妹に障がいがあるため
7. 親が家事をしない状況のため
8. 親が日本語をあまり話せない、読み書きできないため
9. 福祉サービスを利用していないため
10. ほかに世話をする人がいなかったため
11. 世話をしたいと自分で思ったため
12. その他 (具体的に: )

問34 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他 ( )
10. 特になし

再び、すべての方におたずねします。

問35 あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

0 (まったく満足していない) ～10 (十分に満足している) の数字で答えてください。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

問36 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後

利用したことがある	利用したことはない	利用したいと思う	利用したことはない	利用したいと思う	利用したことはない	利用したいと思う
(ア) (自分や友だちの家以外で) 平日の夜を過ごすことができる場所	1	2	3	4	・今後利用したいかわからない	・今後利用したいと思う
(イ) (自分や友だちの家以外で) 休日を過ごすことができる場所	1	2	3	4	・今後利用したいかわからない	・今後利用したいと思う
(ウ) (自分や友だちの家以外で) タゴごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4	・今後利用したいかわからない	・今後利用したいと思う
(エ) 勉強を無料でみてくれる場所	1	2	3	4	・今後利用したいかわからない	・今後利用したいと思う
(オ) 家や学校以外で何でも相談できる場所 (電話やネットの相談含む。)	1	2	3	4	・今後利用したいかわからない	・今後利用したいと思う

問36で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。

問37 とい それを利用したことで、以下いのような変化へんかはありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 友だちが<sup>とも</sup>増えた<sup>ふ</sup>
2. 気軽に<sup>気軽</sup>に話<sup>はな</sup>せる大人<sup>おとな</sup>が増えた
3. 生活<sup>いふく</sup>の中で楽<sup>たの</sup>しみなが<sup>なが</sup>が増えた
4. ほっと<sup>ほっと</sup>でき<sup>き</sup>る時間<sup>じかん</sup>が増えた
5. 栄養<sup>えいよう</sup>のある食<sup>しょく</sup>事を<sup>じ</sup>とれる<sup>と</sup>るこ<sup>こ</sup>が増えた
6. 勉強<sup>べんきょう</sup>がわ<sup>わ</sup>かるよ<sup>よう</sup>になっ<sup>な</sup>った
7. 勉強<sup>べんきょう</sup>する時間<sup>じかん</sup>が増えた
8. そ<sup>そ</sup>の他<sup>た</sup>
9. 特<sup>とく</sup>に<sup>に</sup>変<sup>へん</sup>化<sup>か</sup>はな<sup>な</sup>い

8. <sup>た</sup>その他

9. 特<sup>とく</sup>に変化<sup>へんか</sup>はない

12

再び、すべての方におたずねします。

問38 あなたが悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族のこと かぞく のこと
2. 学校の勉強のこと がっこうのべんきょう のこと
3. 友人関係 ゆうじんかんけい
4. 進学のこと しんがく のこと
5. 就職のこと しゅうしょく のこと
6. その他のこと た
7. 悩んでいること なや

7. **悩**んでいることや**心配**なこと、**困**っていること**ではない**こと。  
なや しんぱい こま ではない

問38で1～6のいずれかを回答した方にうかがいます。

39 問 差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることを具体的に教えてください。

いじょう  
お  
せようりよく  
以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

13

仙台市 子どもの生活に関する実態調査

アンケート調査ご協力のお願い

ひごころから仙台市政にご協力をいただきありがとうございます。

このアンケート調査は、2023年度から実施する「仙台市子どもの貧困対策計画」を策定するにあたり、ご家庭の状況とニーズを把握し、より効果的な取り組みの推進や支援制度検討のため実施するものです。

今回の調査は、本市の支援制度や事業を利用されている世帯の方、2021年4月1日現在の年齢が18歳未満のお子さんがいる世帯の方を対象として無作為で抽出し、アンケート調査のご協力を願います。

回答いただいた内容は、今後の支援策や計画の策定にのみ利用させていただきます。回答者個人が特定されることは一切ございません。

つきましては、ご多忙のことと存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力ください。またようお願い申し上げます。

2021年10月

仙台市

【回答にあたってのお願い】

- 2021年10月1日現在の状況について、封筒の宛名の保護者の方がお答えください。
- 郵送またはインターネットのどちらからでもお答えください。

◇郵送で回答する方

- 黒もしくは青のボールペンまたは鉛筆で記入ください。
- このアンケートは無記名です。住所や名前を書く必要はありません。
- ご回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、数字などを記入いただく場合がございます。
- 選択肢の場合、選ぶ数が設問によって異なります。注意書きに従ってください。
- 「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある( )内に具体的な内容をご記入ください。
- お答えになりたくない設問は、とばして次の設問にお進みください。
- ご記入が済みましたら、同封の茶色の返信用封筒に入れ、11月26日(金)まで郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

◇インターネットで回答する方

- 右のQRコードを読み込むか、下記のURLにアクセスしてください。  
<https://questant.jp/q/HKLWNXE3>
- 回答時間の目安は20分です。
- 途中保存はできませんので、ひと通り回答できる時間があるときに入力してください。

ご不明な点、調査についての問合せは、下記までお願いいたします。

連絡先：仙台市子供未来局 子供育成部子供家庭支援課 家庭支援係

住所：〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 上杉分庁舎8階

電話：022-214-8606

問1 現在のお住まいの区について教えてください。(○は1つだけ)

1. 青葉区

2. 宮城野区

3. 若林区

4. 太白区

5. 泉区

問2 この調査に回答いただいている方（あなた）の、子どもからみた続柄について教えてください。(○は1つだけ)

1. 母親（継母を含む）

2. 父親（継父を含む）

3. 祖母

4. 祖父

5. その他（ ）

問3 普段一緒にお住まいで、生計を共にしている方（世帯員）は、あなたを含めて何人ですか。

世帯員人数（あなたも含めて）[ ] 人

問4 あなたの世帯に含まれる方全員について、該当する区分ごとに人数を教えてください。

子どもの人数 (2021年4月1日現在0歳から18歳未満の方)	小学校入学前 小学生 中学生 高校生 大学、短大、専門学校等 就職 その他	[ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人
子ども以外の世帯員の人数	子どもからみて 父母 祖父母 曾祖父母 叔伯父母 兄弟姉妹 その他	[ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人 [ ] 人

問5 宛名のお子さんの生年月（西暦）を教えてください。

[ ] 年 [ ] 月

問6 宛名のお子さんの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1. 男

2. 女

3. 答えたくない

問7 宛名のお子さんが現在所属している学校教育機関等を教えてください。(○は1つだけ)

1. 未就園  
2. 保育園  
3. 幼稚園  
4. 小学校  
5. 中学校  
6. 高校

7. 学校には所属していない

問7で「7. 学校には所属していない」と選んだ方におたずねします。

問7-1 宛名のお子さんの最終学歴は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

1. 中学校卒業  
2. 高校中退  
3. その他 ( )

問7-2 宛名のお子さんの就業等の状況は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

1. 求職中  
2. 正社員・正規職員  
3. パート・アルバイト  
4. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員  
5. 人材派遣会社の派遣社員  
6. 自営業主 (商店主・農業など)  
7. 自営業の手伝い (家族従業員)  
8. 主夫・主婦  
9. その他 ( )

すべての方におたずねします。

問8 あなたの世帯は「ひとり親家庭」に該当しますか。(○は1つだけ)

1. ひとり親家庭である (母子家庭)  
2. ひとり親家庭である (父子家庭)  
3. ひとり親家庭ではない ⇒問18へ

ひとり親の方におたずねします。

問9 ひとり親家庭になって困ったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 差し当たりの生活費  
2. 子どもの健康・教育・しつけ  
3. 適当な仕事が無かった  
4. 退職や転職をしなければならなかった  
5. 自分が就学を継続できなかった、進学できなかった  
6. 家事ができなかった  
7. 子どもを預ける先が無かった  
8. 差し当たり住む住宅  
9. 近くに身寄りや相談相手がいなかった  
10. ひとり親家庭への偏見や理解不足  
11. ストレスで子どもにつらくあたってしまう  
12. その他 ( )  
13. 困ったことはなかった

問10 あなたは、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 両親が離婚した  
2. 成人する前に母親が亡くなった  
3. 成人する前に父親が亡くなった  
4. 成人する前の生活は経済的に困っていた  
5. 親から暴力を振られたことがある  
6. 親と疎遠になっている (なっていた)  
7. 親の介護が負担になっている (なっていた)  
8. 配偶者または元配偶者から暴力を振られたことがある  
9. 配偶者または元配偶者に暴力を振られたことがある  
10. いずれも経験したことがない

離婚によってひとり親となった方のみおたずねします。  
(離婚以外の理由でひとり親となった方⇒問15へ)

問11 離婚した元配偶者とのあいだに、養育費の取り決めをしていますか。(○は1つだけ)

1. 文書交わして取り決めをしている  
2. 文書交わしていないが、取り決めをしている  
3. 取り決めをしていない

問12 離婚した元配偶者から、養育費を受けていますか。(○は1つだけ)

1. 現在も受けている (定期的)
2. 現在も受けている (不定期)
3. 以前受けていたが、現在は受けていない ⇒問15へ
4. 受けたことがない ⇒問15へ

問11で「1.文書を交わして取り決めている」「2.文書を交わしていないが、取り決めている」と答えた方におたずねします。

問13 養育費について、ひと月の取り決め総額はどのくらいですか。

ひと月あたり [                  ] 円

問14 養育費の支払い状況は、次のうちどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 取り決めた金額が払われている
2. 取り決めた金額と異なる金額が払われている    ひと月あたり [                  ] 円
3. 取り決めているが、支払われていない

ひとり親の方すべてにおたずねします。

問15 あなたがひとり親家庭になる前の就業形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 正社員・正規職員
2. パート・アルバイト
3. 嘱託・契約社員・準社員・会計年度任用職員
4. 人材派遣会社の派遣社員
5. 自営業主 (商店主・農家など)
6. 自営業の手伝い (家族従業者)
7. パソコン・専門技術を使っての在宅勤務
8. 家庭で内職 (部品の組立てなどの単純作業)
9. その他 (                  )
10. 収入をともなう仕事をしていた    ⇒問18へ

問15で1～9と答えた方におたずねします。

問16 あなたはひとり親家庭になったことをきっかけとして転職や失職をしましたか。

(○は1つだけ)

1. 転職せずに就業を継続した    ⇒問18へ
2. 転職した (自営業についた場合なども含みます)    ⇒問17へ
3. 失職した    ⇒問17へ

問16で「2.転職した」「3.失職した」と答えた方におたずねします。

問17 ひとり親家庭となったことでそれまでの就業を続けられなかった理由は、次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 収入が低い
2. 通勤に時間がかかる
3. 遠くへ引越ししなければならなかった
4. 健康がすぐれない、体調を崩した
5. 仕事内容や職場環境がよくない
6. 労働時間が合わず子育てとの両立ができない
7. 社会保険がない又は不十分
8. 子育てや介護への配慮がなく休暇が取れない
9. 身分が安定していない
10. 家族従業者であったため就業を続けられなかった
11. その他 (                  )

すべての方におたずねします。

問18 あなたの住居は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

1. 持ち家 (一戸建・分譲マンション等)
2. 父母等の家に同居
3. 借家 (民間の借家・アパート・賃貸マンション)
4. 市営・県営住宅
5. 公社・公団 (UR) の賃貸
6. 社宅
7. 間借
8. 元配偶者名義の家
9. その他 (                  )

問19 あなたは、現在収入をともなう仕事をしていますか。(○は1つだけ)

1. している (ひとつの仕事をしている)    ⇒問20へ
2. している (複数の仕事をしている)    ⇒問20へ
3. していない    ⇒問21へ

記入をともなう仕事をしている方におたずねします。

問20 あなたの現在の就業形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)  
(複数の仕事をされている場合は、主な仕事1つだけに○をつけてください)

- 1. 正社員・正規職員
- 2. パート・アルバイト
- 3. 嘱託・契約社員
- 4. 派遣社員
- 5. 自営業主(商店主・農家など)
- 6. 自営業の手伝い(家族従業員)
- 7. パソコン・専門技術を使っている在宅勤務
- 8. 家庭で内職(部品の組立てなどの単純作業)
- 9. その他( )

⇒問23へお進みください。

記入をともなう仕事をしていない方におたずねします。

問21 働いていない主な理由を教えてください。(○は2つまで)

- 1. 保育施設等の適当な預け先がない
- 2. 子どもが障がい・難病等であるため
- 3. 子どもが不登校・ひきこもり等であるため
- 4. 他の家族の介護や世話のため
- 5. 自身の病気(病弱)・障がいで働けない
- 6. 求職中である
- 7. 職業訓練を受けたり、技術を修得中である
- 8. 収入面で条件の合う仕事がない
- 9. 時間について条件の合う仕事がない
- 10. 年齢制限のため適当な仕事がない
- 11. 仕事に必要な専門知識や資格がない
- 12. 仕事の探し方がわからない
- 13. 働きたいと思わない
- 14. その他( )

問22 どのような状況になれば働きたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 子どもの保育の手だてができた
- 2. 子どもが小学校に入学したら
- 3. 子どもの問題(健康など)が解決したら
- 4. 自分の問題(健康など)が解決したら
- 5. 学校や職業訓練などが終了したら
- 6. 仕事に必要な資格や技能を身につけたら
- 7. その他( )
- 8. 働く必要がない

すべての方におたずねします。

問23 あなたは、お子さんの将来のために貯蓄をしていますか。(○は1つだけ)

- 1. 貯蓄をしている
- 2. 貯蓄をしたいが、できていない
- 3. 貯蓄をするつもりはない

問24 あなたの最終学歴は以下のうちどれですか。(○は1つだけ)

- 1. 中学校卒業
- 2. 高校中退
- 3. 高校卒業
- 4. 高専、短大、専門学校等中退
- 5. 高専、短大、専門学校等卒業
- 6. 大学中退
- 7. 大学卒業
- 8. 大学院中退
- 9. 大学院修了
- 10. その他教育機関中退
- 11. その他教育機関卒業
- 12. その他( )

問25 あなたには、現在心おきなく相談できる相手がありますか。(○は1つだけ)

1. 相談できる相手がいる

2. 相談相手がほしい

3. 必要ない (相談するほどの悩みや不安はない)

⇒問27へ

問25で「1. 相談できる相手がいる」または「2. 相談相手がほしい」とお答えの方におたずねします。

問26 その相談相手は誰ですか、また相談相手がほしい方はどのような相手に相談したいと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者

2. 親・親族

3. 子ども

4. 友人・知人

5. 隣人・地域の人

6. 幼稚園・保育施設等の先生

7. 学校の先生

8. カウンセラーなどの専門家

9. 民生委員・児童委員

10. 区役所などの公的機関

11. 民間団体やボランティア

12. その他 ( )

すべての方におたずねします。

問27 お子さんのことについて、現在悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもに対するしつけや教育に自信が持てない

2. 子どもに対するしつけや教育について、相談する相手がいない

3. 配偶者が子育てにあまり協力してくれない

4. 配偶者と子育てのことで意見が合わない

5. 子どもに基本的な生活習慣 (あいさつ、規則正しい食生活、整理・整頓など) が身につけていない

6. 子どもが勉強しない

7. 子どもの進学や受験のことが心配である

8. 子どもの不登校のことが心配である

9. 子どもの就職のことが心配である

10. 子どもが反抗的で、なかなか言うことを聞かない

11. 子どもが何事に対しても消極的である

12. 子どもが良い友人関係を持てない

13. 子どもの心身の発達や病気が心配である

14. 子どもの非行や問題行動が心配である

15. 子どもがいじめられていないか心配である

16. 子どもの教育費のことが心配である

17. 子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない

18. 子どもに障がいがあるが、子どもが学校や職場で障がいに応じた配慮を受けられていない

19. その他 ( )

20. 特に悩みはない

問28 あなたが病気のとき、お子さんの世話はどうなっていますか。(○は1つだけ)

1. 同居の親族 (親、祖父母、20歳以上の兄弟・姉妹)

2. 別居の親族

3. 友人・知人

4. 近所の人

5. 家庭生活支援員、ホームヘルパー等

6. 家政婦、ベビーシッター等

7. 児童福祉施設の一時的な所等

8. 同居の兄弟・姉妹 (20歳未満)

9. その他 ( )

10. 誰もいない

お子さんが、小学生以上の方にしておたずねします。(お子さんが、小学生未満の場合⇒問32へ)

問29 お子さんの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

1. 上のほう

2. やや上のほう

3. まん中あたり

4. やや下のほう

5. 下のほう

6. わからない

問30 お子さんは、これまで不登校になったことはありませんか。(○は1つだけ)

1. 不登校経験なし

2. 過去に不登校経験あり

3. 現在不登校である

4. わからない

問31 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、お子さんが必要とする文具や教材が買えないことがありますか。(○は1つだけ)

1. よくあった

2. ときどきあった

3. ほとんどなかった

4. まったくなかった

すべての方におたずねします。

問32 あなたの希望として、お子さんには、将来どの段階まで進学してほしいですか。(○は1つだけ)

1. 中学校まで

2. 高校まで

3. 専門学校（専修学校・各種学校）まで

4. 短期大学まで

5. 四年制大学まで

6. 大学院まで

7. その他（ ）

問33 現実的には、お子さんは将来どの段階まで進学すると思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学校まで

2. 高校まで

3. 専門学校（専修学校・各種学校）まで

4. 短期大学まで

5. 四年制大学まで

6. 大学院まで

7. その他（ ）

問32と問33でお答えいただいた、「希望」と「現実」が異なる場合についておたずねします。

問34 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもがそう希望しているから

2. 一般的な進路だと思うから

3. 子どもの学力から考えて妥当だから

4. 家庭に経済的な余裕がないから

5. 他の家族の理解が得られないから

6. その他（ ）

7. 特に理由はない

すべての方におたずねします。

問35 保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(それぞれ○は1つだけ)

あてはまる	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない
テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている	1	2	3	4
子どもに本や新聞を読むように勧めている	1	2	3	4
子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた	1	2	3	4
子どもの方から、勉強や成績のことについて話される	1	2	3	4



お子さんが、小学生以上の方におたずねします。(お子さんが、小学生未満の場合⇒問37へ)

問36 授業参観や運動会など学校行事はどの程度参加していますか。(○は1つだけ)

1. よく参加している (していた)
2. ときどき参加している (していた)
3. あまり参加していない (していなかった)
4. まったく参加していない (していなかった)

すべての方におたずねします。

問37 あなたの世帯では、過去1年間に、お子さんについて病氣や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。  
(ある場合はあてはまるものすべてに○)

1. ない (病院や診療所を受診した方がよいと思った場合は、必ず受診した)
2. ある (病院や診療所に行く時間がなかったため)
3. ある (身体上の理由で、病院や診療所まで行くことが困難であったため)
4. ある (病院や診療所までの距離が遠く、通院することが困難であったため)
5. ある (公的医療保険に加入しておらず、医療費を支払うことが難しかったため)
6. ある (公的医療保険に加入はしていたが、医療費を支払うことが難しかったため)
7. ある (その他の理由・具体的に： )

問38 あなたの世帯では、次のような借入金がありますか。借入金がある場合、現在のひと月あたりの返済額はいくらかですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 住宅・土地の購入のための借入金 (住宅ローン)
2. 車の購入のための借入金
3. 教育のための借入金 (返済が必要な奨学金を含む)
4. 親族や友人・知人からの借入金
5. 母子父子寡婦福祉資金貸付金など自治体からの借入金
6. 用途が自由な民間金融機関等からの借入金 (カードローン、フリーローン等)
7. その他 ( )
8. 借入金はなし

ひと月あたりの返済額：約 [      ] 万円
--------------------------

問39 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(○は1つだけ)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. ほとんどなかった
4. まったくなかった

問40 あなたの世帯では、過去1年間に、お金が足りなくて、必要とする衣料が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(○は1つだけ)

1. よくあった
2. ときどきあった
3. ほとんどなかった
4. まったくなかった

問41 あなたの世帯では、過去1年間に、次の料金について、お金が足りなくて未払いになったことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 電気料金
2. ガス料金
3. 水道料金
4. 家賃・住宅ローン
5. 電話料金
6. その他 (国民健康保険料、市民税等)
7. 未払いになったことはない

問42 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

1. 大変ゆとりがある
2. ややゆとりがある
3. 普通
4. やや苦しい
5. 大変苦しい

問43 現在の暮らしの状況は新型コロナウイルス感染症拡大と比べていかがですか。  
(○は1つだけ)

1. 今の方が楽
2. 変わらない
3. 今の方が苦しい
4. わからない・答えない

問44 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、あなたは次のようなことを経験しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望しない形での転職
2. 失業
3. 勤務先の増加 (ダブルワーク等)・副業
4. 希望しない勤務形態の変化
5. 希望しない労働時間の減少
6. 希望しない時間帯・曜日での勤務
7. 収入の減少
8. 上記のようなことは経験していない

問45 家族の中にお子さんがケアをしている人はいいますか。(お子さんから見てあてはまる人すべてに○) (ここでいう「ケア」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをする事です。)

1. 母親

2. 父親

3. 祖母

4. 祖父

5. 兄弟姉妹

6. その他 ( )

7. お世話はしていない ⇒問50へ

問45で1～6と答えた方におたずねします。

問46 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はお子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他
(ア) 高齢 (65歳以上)	1	2	3	4		6
(イ) 若い					5	6
(ウ) 要介護 (介護が必要な状態)	1	2	3	4	5	6
(エ) 認知症	1	2	3	4	5	6
(オ) 身体障がい	1	2	3	4	5	6
(カ) 知的障がい	1	2	3	4	5	6
(キ) 精神疾患 (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ク) 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ケ) キ、ク以外の病気	1	2	3	4	5	6
(コ) その他 ( )	1	2	3	4	5	6

問47 お子さんが行っているケアの内容を教えてください。ケアを必要としている方が複数いる場合はお子さんから見たそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他
(ア) 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	1	2	3	4	5	6
(イ) 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など					5	6
(ウ) 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	1	2	3	4	5	6
(エ) 外出の付き添い (買い物、散歩など)	1	2	3	4	5	6
(オ) 通院の付き添い	1	2	3	4	5	6
(カ) 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	2	3	4	5	6
(キ) 見守り	1	2	3	4	5	6
(ク) 通訳 (日本語や手話など)	1	2	3	4	5	6
(ケ) 金銭管理	1	2	3	4	5	6
(コ) 薬の管理	1	2	3	4	5	6
(サ) その他 ( )	1	2	3	4	5	6

問48 お子さんがケアをしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

1. ほぼ毎日

2. 週に3～5日

3. 週に1～2日

4. 1か月に数日

5. その他 ( )

問49 平日にお子さんがケアをしている時間は1日何時間くらいですか。(○は1つだけ)

1. 1時間未満

2. 1時間～2時間

3. 2時間～4時間

4. 4時間～6時間

5. 6時間～8時間

6. 8時間以上

小学校入学前のお子さんを養育している方のみにおたずねします。

(お子さんが、小学生以上の方⇒問51へ)

問50 お子さんの保育は主にどなたが行っていますか。(○は1つだけ)

1. あなた自身
2. 配偶者
3. 同居の親族
4. 別居の親族
5. パートナー
6. 友人・知人
7. 近所の人
8. 保育施設 (認可外保育施設を含む)
9. 幼稚園
10. 家政婦、ベビーシッター等
11. 世話する人がいない (子どもだけで家にいる)
12. その他 ( )

お子さんが、小学生以上の方におたずねします。(お子さんが、小学生未満の場合は⇒問52へ)

問51 お子さんは、学校が終わってから主にどのようなように過ごしますか。(○は2つまで)

1. あなた又は同居の親族 (大人) と自宅にいる
2. あなた又は親族 (大人) と自宅以外のところにいる
3. 兄弟姉妹や友だちなどの子どもだけで自宅にいる
4. ひとりで自宅にいる
5. 子どもの友だちの家でその家族等という
6. 兄弟姉妹や友だちと校庭、公園、広場などの外の遊び場にいる
7. 児童館、児童クラブ、民間の学童保育などで過ごす
8. ベビーシッターや知人の家などで過ごす
9. スポーツ活動や地域活動 (スポーツ少年団、クラブ活動) などをしている
10. 学習塾や習いごとに行っている
11. その他 ( )

公的制度等の利用状況等について、すべての方におたずねします。

問52 あなたは、次のA～Pの公的制度について、①利用・受給したことがありますか。  
利用・受給したことがある方は②利用・受給後の感想を、  
利用・受給したことがない方は③利用・受給しなかった理由をお答えください。

(A～Pそれぞれについて○は1つだけ)

①利用・受給の有無

	利用・受給したことがある	利用・受給したことがない
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2
B 母子父子寡婦福祉資金貸付	1	2
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2
E ひとり親家庭等日常生活支援事業(家庭生活支援員の派遣)	1	2
F 中学生の放課後まなびサポート(学習・生活サポート)	1	2
G 養育費保証契約保証料補助	1	2
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2
J 家計相談プラザ(家計改善支援事業)	1	2
K 病児・病後児保育	1	2
L 子育て支援ショートステイ	1	2
M 育児ヘルパー派遣	1	2
N 児童生徒就学援助費	1	2
O 修学支援新制度(高等学校の授業料等減免・給付型奨学金)	1	2
P 生活福祉資金貸付	1	2

※ 各制度の概要は次ページに記載していますので、必要に応じてご参照ください。

- A：ひとり親家庭を対象に、通院の場合1,000円、入院の場合2,000円を超えた場合の費用を助成
- B：ひとり親家庭を対象に、子どもの修学資金や入学時に必要な資金を無利子・低利子貸付
- C：介護初任者研修等の教育訓練講座を受講し、修了した場合に経費の10～60%を支給
- D：就業に役立つ国家資格取得のために一定の期間養成機関で修学する場合に給付金を支給（月7万～14万）
- E：就労上の理由等で家事や育児に困るとき、1時間あたり最大300円で日常生活の世話や保育を実施
- F：児童扶養手当又は生活保護受給世帯の中高生を対象とした無料の学習サポート等を実施
- G：新たに保証会社と養育費保証契約を結んだ際に支払った保証料（上限5万円）を補助
- H：ひとり親家庭を対象に、就業や自立に向けた相談対応など総合的な支援を行う施設
- I：経済的に困りの方の方の様々な悩みに対して、支援プランを考え課題の解決を図る施設
- J：生活資金の不足など、お金の困りごとを整理し、家計の見直しアドバイス等を行う施設
- K：市内6つの施設において、病氣又は回復期の子ども（小6まで）を日中1日2,000円でお預かり
- L：保護者が病氣等で世話ができない子ども（小6まで）を施設で一定期間お預かり（所得により日額料金変動）
- M：産後1年以内の方を対象に、保護者の体調不良時等に1時間あたり600円で育児ヘルパーを派遣
- N：経済的に困りの市立小中学校の児童生徒に対し、学用品費等の一部を援助
- O：大学等に進学する住民税非課税世帯等の学生に対し、授業料の減免や給付型奨学金を支給
- P：経済的に困りの世帯等を対象に、一時的に生計の維持が困難になった場合等の無利子・低利子貸付

②利用・受給後の感想（A～Pそれぞれについて○は1つだけ）

	とても役に立った	少し役に立った	ほとんど役に立たなかった	まったく役に立たなかった
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2	3	4
B 母子父子寡婦福祉資金貸付	1	2	3	4
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2	3	4
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2	3	4
E ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）	1	2	3	4
F 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート） ・高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）	1	2	3	4
G 養育費保証契約保証料補助	1	2	3	4
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2	3	4
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2	3	4
J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）	1	2	3	4
K 病児・病後児保育	1	2	3	4
L 子育て支援ショートステイ	1	2	3	4
M 育児ヘルパー派遣	1	2	3	4
N 児童生徒就学援助費	1	2	3	4
O 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）	1	2	3	4
P 生活福祉資金貸付	1	2	3	4

③利用・受給しなかった理由（A～Pそれぞれについて○は1つだけ）

	制度を知らなかった（もし知っていたら、利用したかった）	制度を知らなかった（仮に知っていたとしても、必要ない）	制度を知っていたが、必要なかった	申請したが、利用できなかった
A 母子・父子家庭医療費助成	1	2	3	4
B 母子・父子寡婦福祉資金貸付	1	2	3	4
C ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金事業	1	2	3	4
D ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等事業	1	2	3	4
E ひとり親家庭等日常生活支援事業（家庭生活支援員の派遣）	1	2	3	4
F 中学生の放課後まなびサポート（学習・生活サポート） ・高校生活・まなびなおしサポート（中途退学未然防止等）	1	2	3	4
G 養育費保証契約保証料補助	1	2	3	4
H 母子家庭相談支援センター・父子家庭相談支援センター	1	2	3	4
I 生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」	1	2	3	4
J 家計相談プラザ（家計改善支援事業）	1	2	3	4
K 病児・病後児保育	1	2	3	4
L 子育て支援ショートステイ	1	2	3	4
M 育児ヘルパー派遣	1	2	3	4
N 児童生徒就学援助費	1	2	3	4
O 修学支援新制度（高等教育の授業料等減免・給付型奨学金）	1	2	3	4
P 生活福祉資金貸付	1	2	3	4

問53 支援情報やお知らせは、どのような広報手段であれば受け取りやすいですか。（○は3つまで）

1. 市役所、区役所などの窓口
2. 母子家庭相談支援センター、父子家庭相談支援センター
3. 仙台市政だより
4. 仙台市が発行する各種パンフレット、ポスター、チラシなど
5. 仙台市ホームページの子育て関連ページ
6. 仙台市のメール配信サービス
7. のびすくナビ
8. 新聞、テレビ、ラジオ、雑誌
9. インターネット、SNS
10. 友人・知人
11. 民生委員児童委員、主任児童委員
12. ハローワーク
13. 民間の支援団体
14. その他（ ）

問54 お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 保護者が家にいないときに子どもを預かる場やサービスの提供
2. 低い家賃で住めるところ（寮や下宿のようなどころ）
3. 生活や就学のための経済的補助
4. 進路や生活などについてなんでも相談できるところ
5. 仲間と出会え、一緒に活動できるところ
6. 自然体験や集団遊びなど、多様な活動機会の提供
7. 地域における子どもの居場所の提供
8. 読み書き計算などの基礎的な学習への支援
9. 進学を見据えた発展的な学習への支援
10. 会社などでの職場体験等の機会
11. 仕事に就けるようにするための就労に関する支援
12. その他（ ）
13. 特にない
14. わからない

問55 ひとり親家庭の方のよりよい就職や仕事の問題解決のために、どのような支援が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

1. 技能講習、職業訓練などの機会が増えること
2. 技能訓練受講などに経済的支援が受けられること
3. 仕事を探したり、受講、通学時などに一時的に子どもを預かってもらえたりすること
4. 職業や生活に関する相談が一ヶ所で行われること
5. 就職のための支援策などの情報が定期的に得られること
6. 自分で事業を起こす場合に相談や援助を得られること
7. その他 ( )
8. わからない

問56 お子さんのことや仕事のことなど、悩み事や困っていることがあるときに必要な支援を受けられるようにするために、重要だと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 行政等のホームページで福祉制度や支援策等に関する情報をわかりやすく掲載する
2. 携帯電話・スマートフォンで見られる福祉制度や支援策等に関する情報サイト等を充実させる
3. メールマガジンで定期的に福祉制度や支援策等の情報を配信する
4. 広報誌やパンフレットの福祉制度や支援策等に関する情報を充実させる
5. 相談窓口等の数を多くする
6. 相談窓口等の場所をわかりやすくする
7. 相談窓口等について行きやすい雰囲気にする
8. 休日や夜間でも対応している相談窓口等を増やす
9. 保育施設、幼稚園、学校等を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う
10. 保育施設、幼稚園、学校等で具体的な助言等が受けられるようにする
11. 病院を通じて定期的に福祉制度や支援策等に関する情報提供を行う
12. 病院で具体的な助言等が受けられるようにする
13. 子育て世帯に対する訪問事業を充実させる
14. 乳幼児健康診査を充実させる
15. その他 ( )
16. わからない

現在、収入をともなう仕事を「している」方におたずねします。  
(現在、収入をともなう仕事を「していない」方は問58へ)

問57 残業時間等を含めた1週間あたりの平均就業時間は何時間ぐらいいですか。

2019年	1週間あたりの平均就業時間	約 [ ] 時間
2020年	1週間あたりの平均就業時間	約 [ ] 時間

すべての方におたずねします。

問58 あなたのおおよその年間総収入及び年間就労収入はいくらですか。

※ 年間総収入には、すべての収入(生活保護法に基づく給付、児童扶養手当等の社会保障給付金、就労収入、別れた配偶者からの養育費、親からの仕送り、家賃・地代の収入等)を含めてください。年間総収入と年間就労収入どちらも、税金や社会保障料等の公的保険料を差し引く前の支給額(額面金額)になります。なお、家族の収入は除いてください。また、問38で回答いただいた「借入金」は、収入には含まれません。

2019年	あなたの年間総収入	約 [ ] 万円
2020年	あなたの年間総収入	約 [ ] 万円

2019年	あなたの年間就労収入	約 [ ] 万円
2020年	あなたの年間就労収入	約 [ ] 万円

問59 あなたの世界(生計をともにしている人々)のおおよその可処分所得(いわゆる手取り収入)の合計はいくらですか。

※ あなたの世帯の年間総収入(家族の収入も含む)から、税・社会保障料等を除いた額がおおよそどれくらいか教えてください。なお、問38で回答いただいた「借入金」は、収入には含まれません。

	2019年	2020年
世帯員人数が2人の場合	1. 175万円未満 2. 175万円～351万円未満 3. 351万円以上	1. 175万円未満 2. 175万円～351万円未満 3. 351万円以上
世帯員人数が3人の場合	1. 215万円未満 2. 215万円～430万円未満 3. 430万円以上	1. 215万円未満 2. 215万円～430万円未満 3. 430万円以上
世帯員人数が4人の場合	1. 248万円未満 2. 248万円～496万円未満 3. 496万円以上	1. 248万円未満 2. 248万円～496万円未満 3. 496万円以上
世帯員人数が5人の場合	1. 277万円未満 2. 277万円～555万円未満 3. 555万円以上	1. 277万円未満 2. 277万円～555万円未満 3. 555万円以上
世帯員人数が6人の場合	1. 304万円未満 2. 304万円～607万円未満 3. 607万円以上	1. 304万円未満 2. 304万円～607万円未満 3. 607万円以上

	2019年	2020年
世帯員数が7人の場合	1. 328万円未満 2. 328万円～656万円未満 3. 656万円以上	1. 328万円未満 2. 328万円～656万円未満 3. 656万円以上
世帯員数が8人の場合	1. 351万円未満 2. 351万円～701万円未満 3. 701万円以上	1. 351万円未満 2. 351万円～701万円未満 3. 701万円以上
世帯員数が9人以上の場合	1. 372万円未満 2. 372万円～744万円未満 3. 744万円以上	1. 372万円未満 2. 372万円～744万円未満 3. 744万円以上

問60 あなたの世帯では、過去1年間に次のような形で収入はありますか。  
 (あてはまるものすべてに○)

1. 親・親族からの仕送り  
 2. 離婚後の配偶者からの養育費  
 3. 公的年金（遺族年金、障がい年金）  
 4. 公的年金（老齢年金）  
 5. 障がいや難病の手当  
 6. 児童手当  
 7. 就学援助  
 8. 生活保護  
 9. 児童扶養手当  
 10. いずれも該当しない

問61 あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

仙台市 子どもの生活に関する実態調査  
調査に協力をお願い

ひ 日ごろから山形市政にご協力（きょうりょく）をいただきありがとうございます。  
このアンケート調査（きんさ）は、2021年4月1日時点で9歳～18歳未満（さいみま）の日常生活（にちじょうせいいかつ）のこ  
とについてお聞きするものです。  
調査（きんさ）の結果（けいこ）などを参考（さんこう）に、今後の様々な施策（しやくさく）について検討（けんこう）してまいりますので、ご協力（きょうりょく）のほど  
よろしくお願いいたします。

2021<sup>ねん</sup>年10<sup>がつ</sup>月

せ だい せん

【回答にあたってのお願い】

- ・ 2021年10月1日現在の状況について、封筒の宛名の方が自分でお答えください。
  - ・ 郵送またはインターネットのどちらからもお答えください。
  - ・ あなたがどのように答えたかはだれにもわかりません。
  - ・ 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
  - ・ 答えたくない質問は、とばして次に進んでください。
  - ・ 答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選んでください。
  - ・ テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。
  - ・ このアンケートは調査の目的以外には使用しません。
- ◇郵送で回答する方法
- ・ このアンケートは住所や名前を書く必要はありません。
  - ・ 黒もしくは青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
  - ・ 質問文を読み、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
  - ・ ○のつけかたは、「あてはまるもの1つに○」や「あてはまるものすべてに○」などと指示が書いてあります。よく読んでお答えください。

## ◇郵送で回答する方<sup>かた</sup>

- ・ このアンケートは住所や名前を書く必要はありません。
  - ・ 黒もしくは青のボールペンまたは鉛筆で記入ください。
  - ・ 質問文を読み、あてはまる選択肢の番号を○で囲んでください。
  - ・ ○のつけかたは、「あてはまるもの1つに○」や「あてはまるものすべてに○」などと指示が書いてあります。
- よく読んでお答えください。
- ・ 「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある( )内に具体的な内容を記入ください。
  - ・ ご記入が済みましたら、自分で同封のピンク色の封筒に入れて、11月28日(金)まで郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

◇インターネットで回答する方かた

- ・ 右のQRコードを読み込むか、下記のURLにアクセスしてください。
- ・ <https://questant.jp/q/A2N0E9V7>
- ・ 回答時間こたへじかんの目安は 15分です。
- ・ 途中係存ちゅうちゅうけぞんはできませんので、ひと通り回答できる時間があるときに入力してください。

ご不明な点、調査についてのお問合せは、下記までお願いいたします。

電話 022-214-8606  
住所 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
上杉分庁舎8階  
家族支援係  
かみせまなちゅうしんかい  
こども子育て支援課  
こどもくわてしえんか  
仙台市供来局  
せんだいしきょうらいきょく  
いんあおのこども子育て支援係  
いんあおのこどもくわてしえんか  
かいてしえんか係

**問1** あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1. 男 おとこ  
2. 女 おんな  
3. わからない・答えない こたへない

問2 あなたねんれいの年齢を教おしえてください。(○は1つだけ)

1. 9歳 さい  
2. 10歳 さい  
3. 11歳 さい  
4. 12歳 さい  
5. 13歳 さい  
6. 14歳 さい  
7. 15歳 さい  
8. 16歳 さい  
9. 17歳 さい  
10. 18歳 さい  
11. 19歳 さい

問3 あなたが現在通っている学校を教えてください。(○は1つだけ)

1. 小学校 しょうがっこう
2. 中学校 ちゅうがっこう
3. 高校 こうこう
4. その他 ( た )
5. 学校には行っていない がっこう

問4 いあなたは、普段 ふだん（月曜日～金曜日）、夜決まった時間 よるきじかんに寝て ねいますか。（○は1つだけ）

1. 寝<sup>ね</sup>ている                      2. どちらかといえ<sup>ね</sup>は寝ている

3. どちらかといえ<sup>ね</sup>は寝ていない                      4. 寝<sup>ね</sup>ていない

問5 あなたは、週にどのくらい朝ごはんを食べていますか。(○は1つだけ)

1. 毎日食べる (週 7日)  
まいにち た しょく じち
2. 週 5 ~ 6日  
しゅう 5 ~ 6 じち
3. 週 3 ~ 4日  
しゅう 3 ~ 4 じち
4. 週 1 ~ 2日  
しゅう 1 ~ 2 じち
5. ほとんど食べない  
ほとんど たべない

問6 あなたは、週にどのくらい晩ごはんを食べていますか。(〇は1つだけ)

1. 毎日食べる (週 7日)  
まいにち た しょう にち
2. 週 5 ~ 6日  
しゅう 5 ~ 6 にち
3. 週 3 ~ 4日  
しゅう 3 ~ 4 にち
4. 週 1 ~ 2日  
しゅう 1 ~ 2 にち
5. ほとんど食べない  
ほとんど たばない

問7 あなたは、夏休みや冬休みなどの期間、週にどのくらい屋ごはんを食べていますか。  
(○は1つだけ)

1. 毎日食べる (週 7日)  
まいにち た しょう にち
2. 週 5 ~ 6日  
しゅう 5 ~ 6 にち
3. 週 3 ~ 4日  
しゅう 3 ~ 4 にち
4. 週 1 ~ 2日  
しゅう 1 ~ 2 にち
5. ほとんど食べない  
ほとんど たばない

問8 とい あなたは、げんざい 現在むし歯がばありますか。または過去にむし歯がこありましたか。(○は1つだけ)

1. ある  
2. あった (治療済み)  
3. ない



問9 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(○は1つだけ)

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない ⇒問10へ
4. まったくない ⇒問10へ

問9で「1. よくある」「2. ときどきある」を選んだ方におたずねします。

問9-1 ひとりでごはんを食べるとき、なにをよく食べていますか。(○は1つだけ)

1. スーパー・コンビニなどで買ったもの
2. 親や兄弟姉妹が作ったもの
3. 自分で作ったもの
4. 外食
5. あまり決まっていない
6. その他 ( )

再び、すべての方におたずねします。

問10 普段の生活の中で、お金が足りなくて、必要とする文具や教材が買えないことはありますか。(○は1つだけ)

1. よくある
2. ときどきある
3. ほとんどない
4. まったくない

問11 あなたは、家族のことで、何が困っていることや嫌なことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族のだんらんや会話が少ない
2. 親が厳しすぎる
3. 親が自分の気持ちをつわってくれない
4. 親との仲が悪い
5. 親同士の仲が悪い
6. 兄弟姉妹との仲が悪い
7. 家で落ち着いて勉強できる環境がない
8. 病気の人やお年寄りの世話が大変である
9. 食べるごはんがないときがある
10. 着る服が少ない
11. 家の中がちらかっている
12. 家にお金がない (少ない)
13. その他 ( )
14. 特に困っていることや嫌なことはない

問12 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. 兄弟姉妹
3. おじいさん、おばあさんなど
4. 学校の先生
5. 学校の友だち
6. 学校外の友だち
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
8. その他の大人 (学童保育の人、塾・習い事の先生、地域の人など)
9. ネットで知り合った人
10. だれにも相談できない、相談したくない
11. だれに相談すればよいのかわからない
12. その他 ( )

問13 あなたは、普段学校の授業時間以外に (月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問14 あなたは、普段学校の授業時間以外に (土・日曜日・祝日)、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問15 あなたは、普段学校の授業以外で、どのように勉強していますか。※勉強には学校の宿題もふくみます。(○は1つだけ)

1. 自分で勉強する
2. 塾で勉強する
3. 学校の補習を受ける
4. 家庭教師に教えてもらう
5. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する
6. 家の人に教えてもらう
7. 友だちと勉強する
8. その他 ( )
9. 学校の授業以外で勉強はしない

問16 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

1. 上のほう

2. やや上のほう

3. まん中あたり

4. やや下のほう

5. 下のほう

6. わからない

問17 あなたは、学校の授業でわからないことがありますか。(○は1つだけ)

1. いつもわかる ⇒問18へ

2. だいたいわかる ⇒問18へ

3. 教科によってはわからないことがある

4. わからないことが多い

5. ほとんどわからない

問17で「3. 教科によってわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた方におたずねします。

問17-1 いづごろから、授業がわからないようになりましたか。(○は1つだけ)

1. 小学校1・2年生のころ

2. 小学校3・4年生のころ

3. 小学校5・6年生のころ

4. 中学校1・2年生のころ

5. 中学校3年生のころ

6. 高校生になってから

再び、すべての方におたずねします。

問18 あなたは、これまでに、不登校になったことはありませんか。(○は1つだけ)

1. ない ⇒問19へ

2. ある (現在不登校である)

3. ある (過去に不登校であった)

問18で「2. ある (現在不登校である)」「3. ある (過去に不登校であった)」と答えた方におたずねします。

問18-1 誰かに相談しましたか。(○は1つだけ)

1. 相談した

2. 相談していない

再び、すべての方におたずねします。

問19 あなたは、学校が終わったあとの時間を、どのように過ごすことが多いですか。(あてはまるものをすべてに○)

1. 家で過ごすことが多い

2. 塾や習い事

3. 部活動

4. 地域のクラブ活動

5. 友だちの家で遊ぶ

6. 友だちと外で遊ぶ

7. 学校や図書館などで勉強する

8. 家の外でひとりで過ごす

9. 知り合い・親戚などの家で過ごす

10. アルバイトなど

11. その他 ( )

問20 平日 (月～金曜日) の放課後 (夕方6時くらいまで) はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 家族

2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員

3. そのほかの大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)

4. 学校の友だち

5. 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)

6. 一人にいる

7. その他 ( )

問21 休日 (土・日曜日・祝日) の午後は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 家族

2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員

3. そのほかの大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)

4. 学校の友だち

5. 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)

6. 一人にいる

7. その他 ( )

問19で「家で過ごすことが多い」と選んだ方におたずねします。

問22 家で過ごすことが多い理由は何かですか。(○は1つだけ)

1. 費用がかかる(家の外で過ごすとお金がかかる)から
2. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
3. その他( )

再び、すべての方におたずねします。

問23 あなたは、希望としては、将来どの学校まで進学したいと思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで
2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで
4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない

問24 あなたは、現実としては、将来どの学校まで進学することになると思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで
2. 高校まで
3. 短大・高専・専門学校まで
4. 大学またはそれ以上
5. まだわからない

問23と問24でお答えいただいた、「希望」と「現実」が異なる場合についておたずねします。

問25 希望と現実が異なると考えるのはなぜですか。(○は1つだけ)

1. 自分の学力から考えて
2. 親がそう希望しているから
3. 兄・姉がそうしているから
4. まわりの先輩や友だちがそうしているから
5. 経済的な余裕がないから
6. できるだけ早く働く必要があるから
7. どうすれば進学できるのかよくわからないから
8. その他( )
9. 特に理由はない

再び、すべての方におたずねします。

問26 あなたが普段考えていることについて、次の(ア)～(カ)について教えてください。

(それぞれ○は1つだけ)

(ア) 自分に自信がある (○は1つだけ)

1. 自信がある	2. どちらかという自信がある
3. どちらかという自信がない	4. 自信がない

(イ) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (○は1つだけ)

1. できる	2. どちらかというとできる
3. どちらかというとできない	4. できない

(ウ) 人は信用できないと思う (○は1つだけ)

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

(エ) 自分の将来について明るい希望を持っている (○は1つだけ)

1. 持っている	2. どちらかというを持っている
3. どちらかというと持っていない	4. 持っていない

(オ) 将来のためにも、今がんばりたいと思う (○は1つだけ)

1. そう思う	2. どちらかというと思う
3. どちらかというと思わない	4. そう思わない

(カ) 将来、一生懸命働きたい (○は1つだけ)

1. 働きたい	2. どちらかという働きたい
3. どちらかという働きたくない	4. 働きたくない

問27 新型コロナウイルス感染症の影響で、感染拡大前と比べて次のようなことは増えましたか、減りましたか。(それぞれ○は1つだけ)

	増えた	変わらない	減った	そもそもない
(ア) 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3	4
(イ) 学校の授業がわかれないと感じること	1	2	3	4
(ウ) 学校に遅刻すること	1	2	3	4
(エ) 学校に行きたくないと思うこと	1	2	3	4
(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数	1	2	3	4
(カ) 親と話すこと	1	2	3	4
(キ) 親にほめられること	1	2	3	4
(ク) 親にしかられること	1	2	3	4
(ケ) 親以外の大人や友達と話をすること	1	2	3	4
(コ) 食事を抜く回数	1	2	3	4
(サ) 夜遅くまで起きている回数	1	2	3	4
(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと	1	2	3	4
(ス) ゲームをする時間	1	2	3	4
(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること	1	2	3	4
(ソ) さみしいと思うこと	1	2	3	4

問28 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などをすることを指します。)(あてはまる人すべてに○)

1. 母親

2. 父親

3. 祖母

4. 祖父

5. 兄弟姉妹

6. その他

7. お世話はしていない ⇒問35へ

問28で1～6と答えた方におたずねします。

問29 お世話を必要としている方の状況を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母親	父親	祖母	祖父	兄弟姉妹	その他
(ア) 高齢 (65歳以上)	1	2	3	4		6
(イ) 若い					5	6
(ウ) 要介護 (介護が必要な状態)	1	2	3	4	5	6
(エ) 認知症	1	2	3	4	5	6
(オ) 身体障がい	1	2	3	4	5	6
(カ) 知的障がい	1	2	3	4	5	6
(キ) 精神疾患 (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ク) 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	1	2	3	4	5	6
(ケ) キ、ク以外の病気	1	2	3	4	5	6
(コ) その他	1	2	3	4	5	6

問30 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。お世話を必要としている方が複数いる場合はそれぞれの方についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

	母 親	父 親	祖 母	祖 父	兄 弟 姉 妹	そ の 他
(ア) 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	1	2	3	4	5	6
(イ) 兄弟姉妹の世話や保育所等への送迎など					5	6
(ウ) 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	1	2	3	4	5	6
(エ) 外出の付き添い (買い物、散歩など)	1	2	3	4	5	6
(オ) 通院の付き添い	1	2	3	4	5	6
(カ) 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	1	2	3	4	5	6
(キ) 見守り	1	2	3	4	5	6
(ク) 通訳 (日本語や手話など)	1	2	3	4	5	6
(ケ) 金銭管理	1	2	3	4	5	6
(コ) 薬の管理	1	2	3	4	5	6
(サ) その他 ( )	1	2	3	4	5	6

問31 お世話をしている頻度を教えてください。(○は1つだけ)

1. ほぼ毎日	2. 週に3～5日
3. 週に1～2日	4. 1か月に数日
5. その他 ( )	

問32 平日にお世話をしている時間は1日何時間くらいですか。(○は1つだけ)

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間
3. 2時間～4時間	4. 4時間～6時間
5. 6時間～8時間	6. 8時間以上

問33 あなたがお世話をする理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 親が病氣や障がい、精神疾患、入院のため
2. ひとり親家庭であるため
3. 親が仕事でいそがしいため
4. 年下のきょうだいがいるため
5. おじいさん・おばあさんの病氣や加齢、入院のため
6. 兄弟姉妹に障がいがあるため
7. 親が家事をしない状況のため
8. 親が日本語をあまり話せない、読み書きできないため
9. 福祉サービスを利用していないため
10. ほかに世話をする人がいなかったため
11. 世話をしたいと自分で思ったため
12. その他 (具体的に： )

問34 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他 ( )
10. 特になし

再び、すべての方におたずねします。

問35 あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。

0 (まったく満足していない) ～10 (十分に満足している) の数字で答えてください。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

問36 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	利用したことがある	・あれば利用したいと思う	利用したことはない	・今後利用したいかわからない	利用したことはない	・今後利用したいかわからない
(ア) (自分や友だちの家以外) 平日の夜を過ごすことができる場所	1	2				4
(イ) (自分や友だちの家以外) 休日を通ずることができる場所	1	2		3		4
(ウ) (自分や友だちの家以外) 夕ごはんを無料で安く食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2		3		4
(エ) 勉強を無料でみでくれる場所	1	2		3		4
(オ) 家や学校以外で何でも相談できる場所 (電話やネットの相談含む。)	1	2		3		4

問36で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。

問37 そこを利用したことで、以下のような変化はありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 友だちが増えた	
2. 気軽に話せる大人が増えた	
3. 生活の中で楽しみが増えた	
4. ほっとできる時間が増えた	
5. 栄養のある食事をとれることが増えた	
6. 勉強がわかるようになった	
7. 勉強する時間が増えた	
8. その他	
9. 特に変化はない	

再び、すべての方におたずねします。

問38 あなたが悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 家族のこと

2. 学校の勉強のこと

3. 友人関係

4. 進学のこと

5. 就職のこと

6. その他のこと ( )

7. 悩んでいることや心配なこと、困っていることではない

問38で1～6のいずれかを回答した方にうかがいます。

問39 差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることを具体的に教えてください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。

こ せい いかつ かん じつ たい ちやう ざ  
**子ども**の**生活**に**関**する**実態調査**

こ ちやう ざ ぎやう りよく ねが  
**調査**ご**協力**の**願**い

ひごころから仙台市政にご協力をお願いいたします。  
 このアンケート調査は、2021年4月1日時点で9歳～18歳未満のみなさまの日常生活のことについてお聞きするものです。  
 アンケートの結果などを参考に、今後の様々な施策について検討していきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

2021年10月

【回答にあたってのお願い】

- ・ 2021年10月1日現在の状況について、封筒の宛名の方が自分で書きます。
- ・ 名前を必ず書きます。あなたがどのように書きたかはだれにもわかりません。
- ・ 黒もしくは青のボールペンまたは鉛筆で記入してください。
- ・ 自分の思う答えを書いてください。まちがった答えや、正しい答えはありません。
- ・ 書えたくない質問は、とばして次に進んでください。
- ・ 答えに迷う場合には、あなたの気持ちや考えにできるだけ近いものを選んでください。
- ・ テストではありませんので、思ったとおりに書いてください。
- ・ このアンケートは調査の目的以外には使用しません。
- ・ 質問文を読み、あてはまる選択枝の番号を○で囲んでください。
- ・ ○のつけかたは、「あてはまるもの1つに○」や「あてはまるものすべてに○」などと指示が書いてあります。よく読んでお答えください。
- ・ 「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある( )内に具体的な内容をご記入ください。
- ・ ご記入が済みましたら、自分で同封の封筒に入れて、11月26日(金)まで施設の職員の方に渡してください。

二不明な点、調査についてのお願いします。

連絡先：仙台市子供未来局 子育て世代部 家庭支援課  
住 所：仙台市青葉区上杉一丁目5番12号  
電 話：022-214-8606

上杉分庁舎8階  
家庭支援係  
かみいしえんかい  
かみいしえんかい

問 1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

1. 男	2. 女
3. わからない・答えたくない	

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つだけ)

1. 9歳  
2. 10歳  
3. 11歳  
4. 12歳  
5. 13歳  
6. 14歳  
7. 15歳  
8. 16歳  
9. 17歳  
10. 18歳

問3 あなたが現在通っている学校を教えてください。(○は1つだけ)

1. 小学校 しょうがっこう
2. 中学校 ちゅうがっこう
3. 高校 こうこう
4. その他 ( ほか )
5. 学校には行っていない がっこう

問4 あなたは、普段（ふだん）げんようび、夜決まった時間（よる じかん）に寝（ね）ていますか。（○は1つだけ）

1. 寝<sup>ね</sup>ている  
2. どちらかといえ<sup>ね</sup>ば寝ている  
3. どちらかといえ<sup>ね</sup>ば寝<sup>ね</sup>ていない  
4. 寝<sup>ね</sup>ていない

問 5 あなたは、現在むし歯むし歯がありますか。または過去こにむし歯むし歯がありましたか。(○は1つだけ)

1. ある  
2. あった (治療済)  
3. ない

問6 あなたに困っていることや悩んでいることがあるとき、あなたが相談できると思う人はどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 児童養護施設の職員  
じどうようごしせつ しよくいん しょくいん
2. 児童養護施設の友だち  
じどうようごしせつ とも
3. 親  
おや
4. 兄弟姉妹  
きょうどうがいしまい
5. おじいさん、おばあさんなど  
おじいさん おばあさん など
6. 学校の先生  
がっこう せんせい
7. 学校の友だち  
がっこう とも
8. 学校外の友だち  
がっこうがいの とも
9. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど  
た ぶと せんせい ちいせい
10. その他の大人（学習指導の人、塾・習い事の先生、地域の人など）  
た ぶと なら じゆく こと せんせい ちいせい ひと
11. ネットで知り合った人  
ネット であ ひと
12. だれにも相談できない、相談したくない  
だれにも かんたん せうだん したくない
13. その他（  
た

問7 あなたは、普段学校の授業時間以外に、(月～金曜日)、1日あたりどれくらい時間の勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問8 あなたは、普段学校の授業時間以外に、(土・日曜日・祝日)、1日あたりどれくらい時間の勉強をしますか。※学校の宿題をする時間や、塾などの勉強時間もふくみます。(○は1つだけ)

1. まったくしない
2. 15分より少ない
3. 15分～30分
4. 30分～1時間
5. 1時間～2時間
6. 2時間～3時間
7. 3時間より多い

問9 あなたの成績は、クラスの中でどのくらいですか。(○は1つだけ)

1. 上のほう
2. やや上のほう
3. まん甲あたり
4. やや下のほう
5. 下のほう
6. わからない

問10 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(○は1つだけ)

1. いつもわかる ⇒問11へ
2. だいたいわかる ⇒問11へ
3. 教科によってはわからないことがある
4. わからないことが多い
5. ほとんどわからない

問10で「3. 教科によってわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」と答えた方におたずねします。

問10-1 いづろから、授業がわからないことがあるようになりますか。(○は1つだけ)

1. 小学校1・2年生のころ
2. 小学校3・4年生のころ
3. 小学校5・6年生のころ
4. 中学校1・2年生のころ
5. 中学校3年生のころ
6. 高校生になってから

再び、すべての方におたずねします。

問11 あなたは、これまでに、不登校になったことはありますか。(○は1つだけ)

1. ない ⇒問12へ
2. ある (現在不登校である)
3. ある (過去に不登校であった)

問11で「2. ある (現在不登校である)」「3. ある (過去に不登校であった)」と答えた方におたずねします。

問11-1 誰かに相談しましたか。(○は1つだけ)

1. 相談した
2. 相談していない

再び、すべての方におたずねします。

問12 あなたは、学校が終わったあとの時間を、どのように過ごすことが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 児童養護施設で過ごすことが多い
2. 塾や習い事
3. 部活動
4. 地域のクラブ活動
5. 友だちの家で遊ぶ
6. 友だちと外で遊ぶ
7. 学校や図書館などで勉強する
8. 児童養護施設の外でひとりで過ごす
9. 知り合い・親戚などの家で過ごす
10. アルバイトなど
11. その他 ( )

問13 平日 (月～金曜日) の放課後 (夕方6時くらいまで) はだれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 児童養護施設職員
2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員
3. そのほかの大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)
4. 学校の友だち
5. 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
6. 児童養護施設の友だち
7. 一人で行
8. その他 ( )



問14 休日(土・日曜日・祝日)の午後は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に

○をつけてください。(○は1つだけ)

1. 児童養護施設職員  
じどうようこうしせつしよくいん  
がくどうしやうほごしせつしよくいん
2. 学校や放課後児童クラブの先生・職員  
がっこうやほうくごじどうくらぶのせんせいしやくいん  
しやくいん
3. そのほかの大人（近所の先生など）  
そのほかのおとな（きんじよのせんせいなど）  
きんじよ
4. 学校の友だち  
がっこうのとも
5. 学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど）  
がっこういぎのとも（ちいきのスポーツくらぶ、きんじよのとも）  
きんじよ
6. 児童養護施設の友だち  
じどうようこうしせつしよくいん  
とも
7. 一人でいる  
ひとり
8. その他（  
その他（

問15 あなたは、希望<sup>きぼう</sup>としては、将来<sup>しょうらい</sup>どの学校<sup>がっこう</sup>まで進学<sup>しんがく</sup>したいと思<sup>おも</sup>いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで  
ちゅうがくまで
2. 高校まで  
こうこうまで
3. 短大・高専・専門学校まで  
たんたい だいがく こうせん せんもんがっこうまで
4. 大学またはそれ以上  
だいがく いじょう
5. まだわからない

問16 とい あなたは、現実げんじつとしては、将来しょうらいどの学校がっこうまで進学しがくすることになると思いますか。(○は1つだけ)

1. 中学まで ちゅうがくまで
2. 高校まで こうこうまで
3. 短大・高専・専門学校まで たんたい・こうせん・せんもんがっこうまで
4. 大学またはそれ以上 だいがくまたはいじょう以上
5. まだわからない

問15で答えいただいた「希望」と現実が異なる場合についておたずねします。

**問17** とい 希望きぼうと現実げんじつが異ことなると考かんがえるのはなぜですか。(○は1つだけ)

1. 自分の学力がくりょくから考えて かんがて
2. 親おやがそう希望きぼうしているから
3. 兄・姉あに・あねがそうしているから
4. まわりの先輩せんぱいや友だちともがそうしているから
5. 経済けいざい的な余裕ゆゆうがないから
6. できるだけ早く働はたらく必要があるから
7. どうすれば進学しんがくできるのかよくわからないから
8. その他た（
9. 特に理由りゆうはない

再び、すべての方におたずねします。

(ア) 自分に自信がある (○は1つだけ)

1. 自信じしんがある
2. どちらかというと自信じしんがある
3. どちらかというと自信じしんがない
4. 自信じしんがない

(イ) 自分じぶんの考かんえをはつきり相あい手てに伝つたえることができる (○は1つだけ)

1. できる
2. どちらかというところ
3. どちらかというできない
4. できない

(ウ) 人は信用できないと思う (〇は1つだけ)

1. そう思う おも
- 
2. どちらかというと思う おも
- 
3. どちらかというと思う おも 思わない
- 
4. そう思わない おも

(工) 自分の将来について明るい希望を持っている(○は1つだけ)

1. 持っている
2. どちらかという<sup>も</sup>と持っている
3. どちらかという<sup>も</sup>と持っていない
4. 持<sup>も</sup>っていない

(オ) 将来しょうらいのためにも、今いまがんばりたいと思う (○は1つだけ) おち

1. そう思う おも
2. どちらかというと思う おも
3. どちらかというと思う おも
4. そう思わない おも

(カ) 将来、  
いっしょうらい 一生懸命働きたい (〇は1つだけ)

1. 働きたい はたらきたい
2. どちらかというと働きたい はたらきたい
3. どちらかというと働きたくない はたらきたくない
4. 働きたくない はたらきたくない

問19 新型コロナウイルス感染症の影響で、感染拡大前と比べて次の(ア)～(ソ)のようなことは増えましたが、減りましたか。(それぞれ○は1つだけ)

	増えた	変わらない	減った	そもそもない
(ア) 学校の授業以外で勉強する時間	1	2	3	4
(イ) 学校の授業がわからなさと感じること	1	2	3	4
(ウ) 学校に遅刻すること	1	2	3	4
(エ) 学校に行きたくないと思うこと	1	2	3	4
(オ) 地域のクラブ活動や学校の部活動で活動する回数	1	2	3	4
(カ) 児童養護施設職員と話すこと	1	2	3	4
(キ) 児童養護施設職員にほめられること	1	2	3	4
(ク) 児童養護施設職員にしかられること	1	2	3	4
(ケ) 児童養護施設職員以外の大人や友だちと話をすること	1	2	3	4
(コ) 食事を抜く回数	1	2	3	4
(サ) 夜遅くまで起きている回数	1	2	3	4
(シ) スポーツや外遊びなどで体を動かすこと	1	2	3	4
(ス) ゲームをする時間	1	2	3	4
(セ) イライラや不安を感じたり、気分がしずんだりすること	1	2	3	4
(ソ) さみしいと思うこと	1	2	3	4

問20 あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。  
0 (まったく満足していない) ～10 (十分に満足している) の数字で答えてください。

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

問21 あなたは、次のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことがない場合、今後利用したいと思うものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

	利用したことがある	利用したことはない ・あれば利用したいと思う	利用したことはない ・今後利用したいと思わない	利用したことはない ・今後利用したいかわからない
(ア) 児童養護施設や友だちの家以外で 平日の夜を過ごすことができる場所	1	2	3	4
(イ) 児童養護施設や友だちの家以外で 休日を通ずることができる場所	1	2	3	4
(ウ) 児童養護施設や友だちの家以外で 夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 (子ども食堂など)	1	2	3	4
(エ) 勉強を無料でみでくれる場所	1	2	3	4
(オ) 児童養護施設や学校以外で何でも相談できる場所 (電話やネットの相談含む。)	1	2	3	4

問21で、1つでも「利用したことがある」と答えた方におたずねします。

問22 そそを利用したことで、以下のような変化はありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 友だちが増えた

2. 気軽に話せる大人が増えた

3. 生活の中で楽しむことが増えた

4. ほっとできる時間が増えた

5. 栄養のある食事をとれることが増えた

6. 勉強がわかるようになった

7. 勉強する時間が増えた

8. その他

9. 特に変化はない

再び、すべての方におたずねします。

問23 あなたが悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることがあれば、教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校の勉強のこと

2. 友人関係

3. 進学のこと

4. 就職のこと

5. 児童養護施設退所後のお金のこと

6. 児童養護施設退所後の住居のこと

7. 児童養護施設退所後の生活全般のこと

8. その他( )

9. 悩んでいることや心配なこと、困っていることはない

問23で1～8のいずれかを回答した方にうかがいます。

問24 差し支えない範囲で、あなたがいま悩んでいることや心配なこと、困っていることや、誰かに相談したいと思っていることを具体的に教えてください。



仙台市

子どもの生活に関する実態調査

調査結果報告書

---

調査主体：仙台市 子供未来局 子供育成部

子供家庭支援課 家庭支援係

〒980-0011

仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 上杉分庁舎8階

TEL 022-214-8606 FAX 022-214-8610

集計・分析：株式会社 名豊

〒980-0811

名古屋市中区松原二丁目2番33号